財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第377集

江木下大日遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その１）報告書

縄文時代以後の調査

2006

国　土　交　通　省
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第377集

江木下大日遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その１）報告書

縄文時代以後の調査

２００６

国　土　交　通　省
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上武道路は国道17号線のバイパスとして、平成４年２月に熊谷から国道50号線までの間が供用開始となりました。

長きにわたる、県民待望の道路の開通でありました。

この国道50号線以南で発掘調査を実施した22遺跡につきましては、その豊富な調査成果を発掘調査報告書として、当事業団より公刊しております。

平成11年度からは、国道50号線以北の工事区域13.1kmの内、4.9km区間の発掘調査が当事業団に委託され、平成11年４月から平成17年３月にかけまして、今回の工事区域に当たります、前橋市今井町・富田町・江木町・亀泉町・荻窪町に所在する18遺跡の発掘調査を実施しました。

本報告書はこのうち、前橋市江木町に所在します江木下大日遺跡の発掘調査成果について報告するものです。

江木下大日遺跡では、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の集落と、平安時代の浅間山テフラで埋没した水田などが見つかりました。

時代を追って移り変わる集落のありさまが良くとらえられる遺跡です。関西からもたらされたと思われる縄文土器や、文字の書かれた奈良時代の土器、斧や鎌などの鉄製品も含め、出土遺物も多様です。

これらの貴重な資料は、地域の歴史解明に大いに役立つことと思います。

発掘調査から報告書刊行までには国土交通省、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者等の皆様に大変お世話になりました。

また、遺物整理の効率化をはかるため、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団にも協力を賜りました。

ここに、関係者の皆様に心より感謝申し上げ、序とさせていただきます。

平成18年10月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　高橋勇夫

例　言

1　本書は一般国道17号（上武道路）改築工事に伴い、記録保存のために発掘調査が実施された江木下大日遺跡のうち、縄文時代以後の遺構・遺物についての発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は以下のとおりである。
前橋市江木町 927-3・1022-1・1027-1・1030-1・1030-2・1030-3・1030-4・1030-5・1032・1043-4・1043-5・1043-6・1043-11・1043-12・1043-16・1048・1058-3・1058-6・1058-8・1058-9・1058-10・1047-2・1048・1064-2・1049・1052-1・1052-2・1053-1・1057-5・1341-13・1341-14・1341-27・1341-36・1341-30

3　遺跡名称は、前橋市教育委員会と協議の上、当団の設定方法に従い、大字名と小字名を組み合わせて付した。ただし発掘調査時点での事業名称は江木Ⅱ遺跡であり、江木Ⅱ遺跡には富田漆田遺跡、富田下大日遺跡と江木下大日遺跡が含まれる。

4　遺跡の略号はJK46である。

5　事業主体　国土交通省

6　調査主体　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

7　発掘調査期間　平成13年４月１日～平成14年３月31日及び平成14年８月１日～平成14年10月25日

8　発掘調査組織及び事務担当
平成12年度
理事長　小野宇三郎　　常務理事兼事務局長　赤山容造 管理部長　住谷進　　調査研究第１部長　水田稔
調査研究第２課長　小山友孝　　総務課長　坂本敏夫　　総務係長　笠原秀樹　　経理係長　小山建夫　　主幹兼係長代理　須田朋子
係長代理　吉田有光　　主任　森下弘美　柳岡良宏　　主事　片岡徳雄
非常勤嘱託　大沢友治　土橋まり子　原田恒弘　奈良部清満
事務補助員　吉田恵子　吉田笑子　並木綾子　今井もと子　内山佳子　若田　誠　佐藤美佐子　本間久美子　北原かおり　田村恭子
狩野真子　廣津真希子　松下次男　吉田茂　蘇原正義
発掘調査担当　主幹兼専門員　木津博明　　専門員　田村公夫　児島良昌
平成13年度
理事長　小野宇三郎　　常務理事　赤山容造　　常務理事　吉田豊　　管理部長　住谷進　　調査研究部長　能登健
調査研究第２課長　小山友孝　　総務課長　大島信夫　　総務係長　笠原秀樹　　経理係長　小山建夫　　主幹兼係長代理　須田朋子
係長代理　吉田有光　森下弘美　　主幹兼専門員　中沢悟　　主事　片岡徳雄
非常勤嘱託　土橋まり子　原田恒弘　奈良部清満
事務補助員　吉田恵子　吉田笑子　並木綾子　今井もと子　内山佳子　若田　誠　佐藤美佐子　本間久美子　北原かおり　田村恭子
狩野真子　廣津真希子　松下次男　吉田茂　蘇原正義
発掘調査担当
主幹兼専門員　女屋和志雄　洞口正史　木津博明　主任調査研究員　吉田和夫　新井英樹　高柳浩道　調査研究員　青木さおり
平成14年度
理事長　小野宇三郎　　常務理事　住谷栄市　　常務理事　神保侑史　　管理部長　萩原利通　　調査研究部長　巾隆行
調査研究第２課長　中沢悟　　総務課長　植原恒夫　　総務課長　小山健夫　　総務係長　高橋房雄　　主幹兼係長代理　須田朋子
係長代理　吉田有光　森下弘美　　主事　田中賢一　　非常勤嘱託　土橋まり子　原田恒弘　奈良部清満
事務補助員　吉田恵子　吉田笑子　並木綾子　今井もと子　内山佳子　若田　誠　佐藤美佐子　本間久美子　北原かおり　田村恭子
狩野真子　廣津真希子　松下次男　吉田茂　蘇原正義
発掘調査担当　主幹兼専門員　洞口正史　主任調査研究員　新井英樹

9　整理主体　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

10　整理期間 平成16年４月１日～平成18年３月31日

11　整理組織及び事務担当
平成16年度（埼玉県埋蔵文化財調査事業団への委託事業期間）
事業名称　平成16年度埋蔵文化財資料整理業務委託
委託期間　平成16年４月１日から平成17年３月31日
業務内容　接合・復元・実測・トレース・拓本・写真撮影・仮レイアウト・遺物観察表作成・全出土土器・石器の分類データベース作成
事務担当
理事長　小野宇三郎　　常務理事　住谷栄市　　常務理事　神保侑史　　管理部長　萩原利通　　調査研究部長　右島和夫
資料整理課長　相京建史　　総務課長　植原恒夫　　総務係長　竹内宏　　整理担当　主幹兼専門員　徳江秀夫
財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団整理担当　金子直行　安生素明　亀田直美
平成17年度
理事長　小野宇三郎（～７月）高橋勇夫（７月～）　事務局長　津金澤吉茂　　常務理事　木村裕紀　総務部長　矢崎俊夫

資料整理部長兼第１課長　中東耕志　　調査研究部長　西田健彦　　資料整理課長　相京建史　　総務課長　宮前結城雄
総務係長　竹内宏　　経理係長　石井清　　専門員　斎藤利昭　　主幹　須田朋子　吉田有光　今泉大作
主任　清水秀紀　佐藤聖行　栗原幸代　非常勤嘱託　土橋まり子　市村良治　黒澤隆一
事務補助員　今井もと子　内山佳子　若田　誠　佐藤美佐子　本間久美子　北原かおり　田村恭子　狩野真子　六本木弘子　武藤秀典
整理担当　専門員　洞口正史　写真撮影　専門員　佐藤元彦　整理補助員　増田政子　矢野純子　安藤美奈子　下田真弓　石田由美子

12　発掘調査時の遺構等にかかる記録図は１：20の縮尺を基本として作図したが、遺構種により一部１：10・１：40・１：60・１：100の等の縮尺で作図したものがある。記録保存原図の作図の一部は株式会社横田調査設計・技研測量設計株式会社に委託した。

13　記録写真発掘調査中に伴う写真撮影は発掘調査担当者が撮影したが、航空写真撮影は技研設計測量株式会社に委託した。

14　以下の項目について、それぞれ業務委託を行った。
テフラ・植物珪酸体分析　株式会社古環境研究所
大型植物遺体同定　株式会社パレオ・ラボ
全体図作成・石器データ作成　株式会社シン技術コンサル

15　本書の作成にかかる作業分担は以下による
編集・構成　洞口正史
遺構写真　上記調査担当者
図版作成　増田政子　矢野純子　安藤美奈子　下田真弓　石田由美子
遺物実測図作成・トレース・写真撮影　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
補足遺物写真撮影　佐藤元彦
第１章１・第３章４執筆　関晴彦
第５章１執筆　株式会社古環境研究所
第５章２執筆　株式会社パレオ・ラボ
土器・石器観察所見・観察表執筆　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
その他の文章作成は、特に断りのない限り洞口が担当した。

16　本遺跡の記録図・記録写真・出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理している。

凡　例

1　本書で使用した地形図は、国土地理院発行1：50,000「宇都宮」「長野」、1：25,000「前橋」前橋市発行白図１：2,500を編集した。

2　挿図中に使用した方位は、日本測地系平面直角座標系第Ⅸ系における座標北を使用している。

3　挿図における座標は日本測地系平面直角座標系第Ⅸ系を用いつつ、上武道路関連遺跡の発掘調査遺跡共通のグリッド名称を付している。これについては第１章３を参照されたい。

4　土層観察所見については、農林水産省水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』を参考に記載を行った。

5　土層観察所見中のテフラ名については　町田洋・新井房夫　『新編火山灰アトラス 日本列島とその周辺』東京大学出版会2003　所載の略称を用いた。

6　挿図中の遺構図面の縮尺は1：60を基準とし、部分図については1：30を用いているが、対象によってこれ以外の縮尺を用いる場合がある。個別図面の縮尺についてはその都度示した。

7　挿図中の遺物図面の縮尺は、土器１：６、石器１：３を基準とするが、対象によってこれ以外の縮尺を用いる場合がある。個別図面の縮尺についてはその都度示した。

8　挿図中のスクリーントーンについては図中に注記のない限り、以下の表現を示す。

焼土

粘土

炭化物

As-B

目　次

序
例言
凡例
目次・挿図目次・表目次・写真図版目次
第１章　発掘調査の経過と方法　1
　1　調査に至る経過　1
　2　遺跡名称について　2
　3　調査区とグリッドの設定　2
　4　調査の経過　4
　5　整理事業の経過　4
第２章　江木下大日遺跡の立地と環境　6
　1　遺跡の位置と立地　6
　2　周辺の遺跡　6
第３章　縄文時代の遺構と遺物　13
　1　概要　13
　2　竪穴住居　14
　3　土坑・ピット　40
　4　遺構外出土遺物　51
第４章　古墳時代の遺構と遺物　97
　1　概要　97
　2　遺構と遺物　98
第５章　奈良・平安時代以後の遺構と遺物　122
　1　概要　122
　2　竪穴住居　122
　3　掘立柱建物・柱穴列　270
　4　井戸・土坑・ピット　322
　5　溝・水田　370
第６章　遺物観察表　376
第７章　自然科学分析報告　429
写真図版

挿図目次

第１図　江木下大日遺跡の位置　1
第２図　上武道路と江木下大日遺跡　3
第３図　江木下大日遺跡の調査区　5
第４図　江木下大日遺跡と周辺の遺跡　7
第５図　江木下大日遺跡と隣接地の発掘調査　11
第６図　縄文時代遺構分布概念図　13
第７図　32号住居遺物出土状況　14
第８図　32号住居平面図　高低図 柱穴土層断面図　15
第９図　32号住居高低図　16
第10図　32号住居出土遺物１　17
第11図　32号住居出土遺物２　18
第12図　32号住居出土遺物３　19
第13図　32号住居出土遺物４　20
第14図　57号住居遺物出土状況　21
第15図　57号住居平面図　土層断面図
ピット土層断面図 出土遺物１　22
第16図　57号住居出土遺物２　23
第17図　58号住居遺物出土状況　24
第18図　58号住居平面図 高低図　土坑土層断面図　25
第19図　58号住居土層断面図　埋設土器土層断面図　26
第20図　58号住居出土遺物１　30
第21図　58号住居出土遺物２　31
第22図　58号住居出土遺物３　32
第23図　58号住居出土遺物４　33
第24図　58号住居出土遺物５　34
第25図　58号住居出土遺物６　35
第26図　58号住居出土遺物７　36
第27図　58号住居出土遺物８　37
第28図　58号住居出土遺物９　38
第29図　58号住居出土遺物10　39
第30図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物１　41
第31図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物２　42
第32図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物３　43
第33図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物４　44
第34図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物５　46
第35図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物６　48
第36図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物７　50
第37図　出土土器片の時期別数量比　52
第38図　前期土器片の型式別数量比　52
第39図　縄文土器片のグリッド別出土量概念図１　52
第40図　縄文土器片のグリッド別出土量概念図２　53
第41図　縄文土器片のグリッド別出土量概念図３　54
第42図　A15・A17・C17グループ遺物出土状況　57
第43図　A15グループ出土遺物１　58
第44図　A15グループ出土遺物２　59
第45図　A15グループ出土遺物３　60
第46図　A15グループ出土遺物４　61
第47図　A15グループ出土遺物５　62
第48図　A17グループ出土遺物１　63
第49図　A17グループ出土遺物２　64
第50図　A17グループ出土遺物３　65
第51図　C17グループ出土遺物１　65
第52図　C17グループ出土遺物２　66
第53図　H17グループ遺物出土状況　67
第54図　H17グループ出土遺物１　68
第55図　H17グループ出土遺物２　69
第56図　グリッド出土土器１　70
第57図　グリッド出土土器２　71
第58図　グリッド出土土器３　72
第59図　グリッド出土土器４　73
第60図　グリッド出土土器５　74
第61図　グリッド出土土器６　75
第62図　グリッド出土土器７　76
第63図　グリッド出土土器８　77
第64図　グリッド出土土器９　78
第65図　グリッド出土土器10　79
第66図　グリッド出土土器11　80
第67図　グリッド出土土器12　81
第68図　グリッド出土土器13　82
第69図　グリッド出土土器14　83
第70図　グリッド出土土器15　84
第71図　石器・剥片類のグリッド別出土量概念図１　84
第72図　石器・剥片類のグリッド別出土量概念図２　85
第73図　グリッド出土石器類１　86
第74図　グリッド出土石器類２　87
第75図　グリッド出土石器類３　88
第76図　グリッド出土石器類４　89
第77図　グリッド出土石器類５　90
第78図　グリッド出土石器類６　91
第79図　グリッド出土石器類７　92
第80図　グリッド出土石器類８　93
第81図　グリッド出土石器類９　94
第82図　グリッド出土石器類10　95
第83図　グリッド出土石器類11　96
第84図　古墳時代遺構分布概念図　97
第85図　33号住居平面図　土層断面図　掘方平面図　98
第86図　33号住居竈平面図　土層断面図　99
第87図　33号住居竈掘方平面図　高低図　99
第88図　33号住居出土遺物　99
第89図　34号住居遺物出土状況図　100
第90図　34号住居平面図　土層断面図　貯蔵穴土層断面図　101
第91図　34号住居掘方平面図　高低図　ピット土層断面図　102
第92図　34号住居竈1遺物出土状況図　平面図　土層断面図　103
第93図　34号住居竈2平面図　土層断面図　103
第94図　34号住居出土遺物１　104
第95図　34号住居出土遺物２　105
第96図　34号住居出土遺物３　106
第97図　36号住居平面図　土層断面図
貯蔵穴・ピット土層断面図　108
第98図　36号住居掘方平面図　高低図　109
第99図　36号住居竈平面図　土層断面図　110
第100図　36号住居竈掘方平面図　高低図　110
第101図　36号住居出土遺物１　111
第102図　36号住居出土遺物２　112
第103図　55号住居平面図　土層断面図　貯蔵穴土層断面図　113
第104図　55号住居竈平面図　土層断面図　114
第105図　55号住居掘方平面図　高低図　115
第106図　55号住居出土遺物１　115
第107図　55号住居出土遺物２　116
第108図　55号住居出土遺物３　117
第109図　56号住居計測模式図　118
第110図　56号住居平面図　土層断面図　119
第111図　56号住居貯蔵穴　土層断面図　高低図　119
第112図　56号住居高低図　120
第113図　56号住居ピット１遺物出土状況　平面図　高低図　120
第114図　56号住居竈平面図　土層断面図　高低図　120
第115図　56号住居出土遺物　121
第116図　竪穴住居の時期別数　122
第117図　古代竪穴住居分布概念図　123
第118図　１号住居平面図　土層断面図　高低図　124
第119図　１号住居出土遺物　124
第120図　２号住居平面図　土層断面図　高低図　125

第121図　2号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　126
第122図　2号住居出土遺物　126
第123図　3号住居平面図　高低図　土層断面図　127
第124図　3号住居掘方平面図　土層断面図　128
第125図　3号住居竈平面図　土層断面図　129
第126図　3号住居竈掘方平面図　129
第127図　3号住居出土遺物　129
第128図　4号住居平面図　土層断面図　130
第129図　4号住居掘方平面図　高低図　130
第130図　4号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　131
第131図　4号住居出土遺物　131
第132図　5号住居平面図　土層断面図
高低図　貯蔵穴土層断面図　132
第133図　5号住居掘方平面図　ピット土層断面図　133
第134図　5号住居竈平面図　土層断面図　133
第135図　5号住居竈掘方平面図　高低図　133
第136図　5号住居出土遺物　134
第137図　6号住居平面図　土層断面図　135
第138図　6号住居掘方平面図　高低図　136
第139図　6号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　136
第140図　6号住居出土遺物　137
第141図　7号住居平面図　土層断面図
高低図　掘方平面図　ピット土層断面図　139
第142図　7号住居掘方高低図　140
第143図　7号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　140
第144図　7号住居出土遺物1　141
第145図　7号住居出土遺物2　142
第146図　8号住居平面図　土層断面図　高低図　143
第147図　8号住居掘方平面図　143
第148図　8号住居竈平面図　土層断面図　144
第149図　8号住居竈掘方平面図　高低図　144
第150図　8号住居出土遺物　145
第151図　9号住居平面図　土層断面図　146
第152図　9号住居掘方平面図　土層断面図　146
第153図　9号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　147
第154図　9号住居出土遺物　147
第155図　10号住居平面図　土層断面図　高低図　148
第156図　10号住居掘方平面図　149
第157図　10号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　149
第158図　10号住居出土遺物　150
第159図　11号住居平面図　土層断面図　151
第160図　11号住居掘方平面図　高低図　151
第161図　11号住居出土遺物　151
第162図　12号住居平面図　土層断面図　152
第163図　12号住居掘方平面図　土層断面図　153
第164図　12号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　154
第165図　12号住居出土遺物　155
第166図　13号住居平面図　土層断面図　高低図　156
第167図　13号住居掘方平面図　157
第168図　13号住居床面焼土塊　土層断面図　157
第169図　13号住居竈平面図　土層断面図　158
第170図　13号住居竈掘方平面図　158
第171図　13号住居出土遺物1　159
第172図　13号住居出土遺物2　160
第173図　14号住居平面図　土層断面図　高低図　161
第174図　14号住居掘方平面図　162
第175図　14号住居掘方貯蔵穴　北西張り出し部土層断面図　162
第176図　14号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　162
第177図　14号住居出土遺物　163
第178図　15号住居平面図　土層断面図
高低図　貯蔵穴土層断面図　163
第179図　15号住居掘方平面図　高低図　164
第180図　16号住居平面図　土層断面図　高低図　165
第181図　16号住居竈平面図　土層断面図　165
第182図　16号住居竈掘方平面図　166
第183図　16号住居出土遺物　166
第184図　17号住居平面図　土層断面図　高低図　167
第185図　17号住居掘方平面図　土層断面図　168
第186図　17号住居竈平面図　土層断面図　169
第187図　17号住居竈掘方平面図　169
第188図　17号住居出土遺物　170
第189図　18号住居平面図　土層断面図　高低図　171
第190図　18号住居竈平面図　土層断面図　172
第191図　18号住居竈掘方平面図　172
第192図　18号住居出土遺物　172
第193図　19号住居平面図　土層断面図　高低図　173
第194図　19号住居掘方平面図　土層断面図　174
第195図　19号住居竈平面図　土層断面図　174
第196図　19号住居出土遺物　175
第197図　20号住居平面図　土層断面図　高低図　176
第198図　20号住居竈平面図　土層断面図　177
第199図　20号住居竈掘方平面図　177
第200図　20号住居掘方平面図　土層断面図　178
第201図　20号住居出土遺物1　178
第202図　20号住居出土遺物2　179
第203図　21号住居平面図　土層断面図　高低図　180
第204図　21号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　181
第205図　21号住居出土遺物1　181
第206図　21号住居出土遺物2　182
第207図　22号住居平面図　土層断面図　高低図　183
第208図　22号住居出土遺物　183
第209図　23号住居平面図　土層断面図　高低図　184
第210図　23号住居竈平面図　土層断面図　184
第211図　23号住居出土遺物1　184
第212図　23号住居出土遺物2　185
第213図　24号住居平面図　土層断面図　186
第214図　24号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　186
第215図　24号住居出土遺物　187
第216図　25号住居平面図　土層断面図　高低図　188
第217図　25号住居竈平面図　土層断面図　189
第218図　25号住居竈掘方平面図　189
第219図　25号住居掘方平面図　189
第220図　25号住居出土遺物　190
第221図　26号住居平面図　土層断面図　191
第222図　26号住居高低図　192
第223図　26号住居掘方平面図　土層断面図
貯蔵穴土層断面図　192
第224図　26号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　193
第225図　26号住居出土遺物　194
第226図　27号住居平面図　土層断面図　高低図　195
第227図　27号住居掘方平面図　196
第228図　27号住居竈平面図　土層断面図　196
第229図　27号住居竈掘方平面図　196
第230図　27号住居出土遺物　197
第231図　28・29号住居平面図　土層断面図　掘方平面図　198
第232図　28・29号住居貯蔵穴・ピット土層断面図　198
第233図　28・29号住居竈平面図　土層断面図　200
第234図　28・29号住居竈掘方平面図　土層断面図　200
第235図　28・29号住居出土遺物1　201
第236図　28・29号住居出土遺物2　202
第237図　30号住居平面図　202
第238図　30号住居出土遺物　202
第239図　31号住居平面図　土層断面図　高低図　掘方平面図　203
第240図　35号住居平面図　土層断面図

高低図　掘方平面図　高低図　205
第241図　35号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　206
第242図　35号住居出土遺物　206
第243図　37号住居平面図　土層断面図　貯蔵穴土層断面図　207
第244図　37号住居掘方平面図　高低図　床下土坑土層断面図　208
第245図　37号住居竈平面図　土層断面図　209
第246図　37号住居竈掘方平面図　高低図　209
第247図　37号住居出土遺物１　210
第248図　37号住居出土遺物２　211
第249図　37号住居出土遺物３　212
第250図　38号住居平面図　土層断面図　213
第251図　38号住居掘方平面図　213
第252図　38号住居竈平面図　土層断面図　214
第253図　38号住居出土遺物　215
第254図　39号住居平面図　土層断面図　高低図　217
第255図　39号住居竈・竈掘方平面図　土層断面図
貯蔵穴・ピット・土坑土層断面図　218
第256図　39号住居掘方平面図　高低図　ピット土層断面図　219
第257図　39号住居出土遺物1　222
第258図　39号住居出土遺物2　223
第259図　39号住居出土遺物3　224
第260図　39号住居計測模式図　224
第261図　40・41号住居遺物分布図　225
第262図　40・41号住居平面図　土層断面図　226
第263図　40号住居西竈平面図　土層断面図　227
第264図　40号住居東竈平面図　土層断面図　掘方平面図
土層断面図　228
第265図　41号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図
土層断面図　229
第266図　40・41号住居掘方平面図　土層断面図　230
第267図　40号住居床下土坑土層断面図　230
第268図　40・41号住居掘方高低図　230
第269図　40号住居出土遺物１　231
第270図　40号住居出土遺物２　232
第271図　40号住居出土遺物３　233
第272図　40号住居出土遺物４　41号住居出土遺物　234
第273図　42・43号住居平面図　掘方平面図　土層断面図
高低図　236
第274図　42号住居ピット土層断面図　236
第275図　42号住居竈平面図　土層断面図　237
第276図　42号住居竈掘方平面図　土層断面図　237
第277図　42・43号住居出土遺物　238
第278図　44号住居平面図　土層断面図　239
第279図　44号住居掘方平面図　土層断面図　高低図　240
第280図　44号住居竈平面図　土層断面図　241
第281図　44号住居竈掘方平面図　土層断面図　241
第282図　44号住居出土遺物１　242
第283図　44号住居出土遺物２　243
第284図　45号住居平面図　土層断面図　244
第285図　45号住居掘方平面図　高低図　244
第286図　45号住居竈平面図　土層断面図　245
第287図　45号住居貯蔵穴　床下土坑　土層断面図　245
第288図　45号住居出土遺物　246
第289図　46号住居平面図　土層断面図　247
第290図　46号住居掘方平面図　土層断面図　高低図　247
第291図　46号住居竈平面図　土層断面図　248
第292図　46号住居 貯蔵穴土層断面図　248
第293図　46号住居竈掘方平面図　高低図　249
第294図　46号住居出土遺物　249
第295図　47号住居平面図　土層断面図　250
第296図　47号住居掘方平面図　250
第297図　47号住居出土遺物　251
第298図　48号住居平面図　土層断面図　252
第299図　48号住居掘方平面図　252
第300図　48号住居出土遺物　252
第301図　49号住居平面図　土層断面図　253
第302図　49号住居掘方平面図　253
第303図　50号住居平面図　高低図　254
第304図　50号住居出土遺物　254
第305図　51号住居平面図　高低図　255
第306図　51号住居土層断面図　256
第307図　51号住居竈平面図　土層断面図　257
第308図　51号住居貯蔵穴土層断面図　257
第309図　51号住居竈掘方平面図　高低図　258
第310図　51号住居掘方平面図　高低図　258
第311図　51号住居出土遺物１　259
第312図　51号住居出土遺物２　260
第313図　52号住居遺物分布図　261
第314図　52号住居平面図　土層断面図　261
第315図　52号住居竈平面図　土層断面図　262
第316図　52号住居出土遺物１　262
第317図　52号住居出土遺物２　263
第318図　53号住居平面図　土層断面図　264
第319図　53号住居掘方平面図　高低図　264
第320図　53号住居竈平面図　土層断面図　265
第321図　53号住居竈掘方平面図　265
第322図　53号住居出土遺物１　266
第323図　53号住居出土遺物２　267
第324図　53号住居出土遺物３　268
第325図　54号住居平面図　高低図　土層断面図　269
第326図　54号住居鍛冶炉平面図　土層断面図　高低図　269
第327図　54号住居出土遺物　269
第328図　掘立柱建物分布概念図　270
第329図　１号掘立柱建物平面図　高低図　柱穴土層断面図　271
第330図　１号掘立柱建物計測模式図　272
第331図　２・４・６・７号掘立柱建物重複概念図　272
第332図　２号掘立柱建物平面図　高低図　273
第333図　２号掘立柱建物柱穴土層断面図　274
第334図　２号掘立柱建物計測模式図　274
第335図　３号掘立柱建物平面図　高低図1　275
第336図　３号掘立柱建物平面図　高低図2　276
第337図　３号掘立柱建物柱穴土層断面図　276
第338図　３号掘立柱建物計測模式図　276
第339図　４号掘立柱建物計測模式図　277
第340図　４号掘立柱建物平面図　高低図　278
第341図　４号掘立柱建物柱穴土層断面図　278
第342図　５号掘立柱建物平面図　高低図　280
第343図　５号掘立柱建物計測模式図　280
第344図　５号掘立柱建物柱穴土層断面図　281
第345図　６号掘立柱建物出土遺物　281
第346図　６号掘立柱建物計測模式図　281
第347図　６号掘立柱建物平面図　高低図　282
第348図　６号掘立柱建物柱穴土層断面図　282
第349図　７号掘立柱建物平面図　高低図　284
第350図　７号掘立柱建物柱穴土層断面図　284
第351図　７号掘立柱建物計測模式図　284
第352図　８号掘立柱建物柱穴土層断面図　285
第353図　８号掘立柱建物平面図　高低図　286
第354図　８号掘立柱建物計測模式図　286
第355図　９号掘立柱建物計測模式図　287
第356図　９号掘立柱建物柱穴土層断面図　287
第357図　９号掘立柱建物平面図　高低図　288
第358図　10号掘立柱建物平面図　高低図　289
第359図　10号掘立柱建物柱穴土層断面図　290

第360図　10号掘立柱建物計測模式図　290
第361図　11号掘立柱建物平面図　高低図　291
第362図　11号掘立柱建物計測模式図　291
第363図　11号掘立柱建物柱穴土層断面図　292
第364図　12号掘立柱建物柱穴土層断面図　292
第365図　12号掘立柱建物平面図　高低図　293
第366図　12号掘立柱建物計測模式図　293
第367図　12号掘立柱建物出土遺物　293
第368図　13号掘立柱建物平面図　高低図　294
第369図　13号掘立柱建物計測模式図　294
第370図　13号掘立柱建物柱穴土層断面図　295
第371図　14号掘立柱建物平面図　高低図　295
第372図　14号掘立柱建物計測模式図　295
第373図　15号掘立柱建物平面図　高低図　296
第374図　15号掘立柱建物計測模式図　296
第375図　15号掘立柱建物柱穴土層断面図　296
第376図　16号掘立柱建物平面図　高低図　297
第377図　16号掘立柱建物計測模式図　298
第378図　17号掘立柱建物計測模式図　298
第379図　17号掘立柱建物平面図　高低図　299
第380図　17号掘立柱建物柱穴土層断面図　299
第381図　18号掘立柱建物平面図　高低図　301
第382図　18号掘立柱建物柱穴土層断面図　301
第383図　18号掘立柱建物計測模式図　301
第384図　19号掘立柱建物計測模式図　304
第385図　19号掘立柱建物柱穴土層断面図　304
第386図　19号掘立柱建物平面図　高低図　305
第387図　20号掘立柱建物柱穴土層断面図　307
第388図　20号掘立柱建物平面図　高低図　308
第389図　20号掘立柱建物計測模式図　310
第390図　21号掘立柱建物柱穴土層断面図１　310
第391図　21号掘立柱建物柱穴土層断面図２　311
第392図　21号掘立柱建物平面図　高低図　311
第393図　21号掘立柱建物計測模式図　312
第394図　21号掘立柱建物出土遺物　312
第395図　22号掘立柱建物平面図　高低図　313
第396図　22号掘立柱建物計測模式図　313
第397図　22号掘立柱建物柱穴土層断面図　314
第398図　23号掘立柱建物平面図　高低図　315
第399図　23号掘立柱建物柱穴土層断面図　316
第400図　23・24号掘立柱建物重複概念図　316
第401図　23号掘立柱建物計測模式図　316
第402図　24号掘立柱建物柱穴土層断面図　317
第403図　24号掘立柱建物計測模式図　317
第404図　24号掘立柱建物平面図　高低図　318
第405図　１号柱穴列平面図　柱穴土層断面図　320
第406図　２号柱穴列平面図　柱穴土層断面図　320
第407図　３号・４号柱穴列平面図　高低図　柱穴土層断面図　321
第408図　井戸・土坑・ピット分布概念図　322
第409図　１号井戸平面図　土層断面図　323
第410図　２号井戸ピット土層断面図　323
第411図　２号井戸平面図　土層断面図　324
第412図　２号井戸出土遺物１　324
第413図　２号井戸出土遺物２　325
第414図　３号井戸平面図　土層断面図　325
第415図　３号井戸出土遺物１　326
第416図　３号井戸出土遺物２　327
第417図　４号井戸平面図　土層断面図　327
第418図　４号井戸出土遺物　327
第419図　土坑平面図　土層断面図１　329
第420図　土坑平面図　土層断面図２　330
第421図　土坑平面図　土層断面図３　331
第422図　土坑平面図　土層断面図４　39号土坑出土遺物　333
第423図　土坑平面図　土層断面図５　335
第424図　土坑平面図　土層断面図６　９号土坑出土遺物　337
第425図　土坑平面図　土層断面図７　339
第426図　土坑平面図　土層断面図８　94号土坑出土遺物　341
第427図　土坑平面図　土層断面図９　343
第428図　土坑平面図　土層断面図10　45号土坑出土遺物　345
第429図　土坑平面図　土層断面図11　347
第430図　ピット平面図　土層断面図１　10号ピット出土遺物　349
第431図　ピット平面図　土層断面図２　350
第432図　ピット平面図　土層断面図３　351
第433図　ピット平面図　土層断面図４　352
第434図　ピット平面図　土層断面図５　353
第435図　ピット平面図　土層断面図６　354
第436図　ピット平面図　土層断面図７　355
第437図　ピット平面図　土層断面図８　356
第438図　ピット平面図　土層断面図９　357
第439図　ピット平面図　土層断面図10　358
第440図　ピット平面図　土層断面図11　359
第441図　ピット平面図　土層断面図12　360
第442図　ピット平面図　土層断面図13　361
第443図　ピット平面図　土層断面図14　362
第444図　ピット平面図　土層断面図15　363
第445図　ピット平面図　土層断面図16　364
第446図　ピット平面図　土層断面図17　365
第447図　ピット平面図　土層断面図18　366
第448図　ピット平面図　土層断面図19　367
第449図　ピット平面図　土層断面図20　368
第450図　ピット平面図　土層断面図21　369
第451図　溝・水田　分布概念図　370
第452図　１号溝平面図　土層断面図　371
第453図　１号溝出土遺物　372
第454図　２号溝及び水田想定地平面図　土層断面図　372
第455図　３・４・５・６号溝模式図　373
第456図　４・５・６号溝土層断面図　373
第457図　３・４・５・６号溝及び水田部平面図　土層断面図　374

表目次

第１表　39号住居ピット計測表　224
第２表　１号掘立柱建物柱穴計測表　271
第３表　２号掘立柱建物柱穴計測表　274
第４表　３号掘立柱建物柱穴計測表　277
第５表　４号掘立柱建物柱穴計測表　277
第６表　５号掘立柱建物柱穴計測表　279
第７表　６号掘立柱建物柱穴計測表　281
第８表　７号掘立柱建物柱穴計測表　284
第９表　８号掘立柱建物柱穴計測表　286
第10表　９号掘立柱建物柱穴計測表　287
第11表　10号掘立柱建物柱穴計測表　290
第12表　11号掘立柱建物柱穴計測表　291
第13表　12号掘立柱建物柱穴計測表　293
第14表　13号掘立柱建物柱穴計測表　294
第15表　14号掘立柱建物柱穴計測表　295
第16表　15号掘立柱建物柱穴計測表　297
第17表　16号掘立柱建物柱穴計測表　298
第18表　17号掘立柱建物柱穴計測表　298
第19表　18号掘立柱建物柱穴計測表　301
第20表　19号掘立柱建物柱穴計測表　304
第21表　20号掘立柱建物柱穴計測表　310
第22表　21号掘立柱建物柱穴計測表　312
第23表　22号掘立柱建物柱穴計測表　313
第24表　23号掘立柱建物柱穴計測表　316
第25表　24号掘立柱建物柱穴計測表　317

写真図版目次

PL.１　江木下大日遺跡の遺構集中部分
PL.２　江木下大日遺跡
PL.３　32号住居
PL.４　32号住居
PL.５　32号住居出土遺物１
PL.６　32号住居出土遺物２
PL.７　32号住居出土遺物３／　57号住居
PL.８　57号住居／　57号住居出土遺物
PL.９　58号住居
PL.10　58号住居／　58号住居出土遺物１
PL.11　58号住居出土遺物２
PL.12　58号住居出土遺物３
PL.13　58号住居出土遺物４
PL.14　58号住居出土遺物５
PL.15　58号住居出土遺物６
PL.16　58号住居出土遺物７／　土坑・ピット１
PL.17　土坑・ピット２
PL.18　土坑・ピット３
PL.19　土坑・ピット４
PL.20　土坑・ピット５
PL.21　土坑・ピット出土遺物
PL.22　グリッド出土遺物
PL.23　A15グループ出土遺物１
PL.24　A15グループ出土遺物２
PL.25　A15グループ出土遺物３
PL.26　A15グループ出土遺物４
PL.27　A17グループ出土遺物１
PL.28　A17グループ出土遺物２
PL.29　C17グループ出土遺物
PL.30　H17グループ出土遺物
PL.31　グリッド出土土器１
PL.32　グリッド出土土器２
PL.33　グリッド出土土器３
PL.34　グリッド出土土器４
PL.35　グリッド出土土器５
PL.36　グリッド出土土器６
PL.37　グリッド出土土器７
PL.38　グリッド出土土器８
PL.39　グリッド出土土器９
PL.40　グリッド出土土器10
PL.41　グリッド出土土器11
PL.42　グリッド出土土器12
PL.43　グリッド出土石器類1
PL.44　グリッド出土石器類2
PL.45　グリッド出土石器類3
PL.46　グリッド出土石器類4
PL.47　グリッド出土石器類5
PL.48　グリッド出土石器類6
PL.49　グリッド出土石器類7
PL.50　グリッド出土石器類8
PL.51　グリッド出土石器類9
PL.52　グリッド出土石器類10
PL.53　33号住居出土遺物
PL.54　34号住居
PL.55　34号住居出土遺物１
PL.56　34号住居出土遺物２／　36号住居
PL.57　36号住居出土遺物／　55号住居
PL.58　55号住居出土遺物／　56号住居出土遺物１
PL.59　55号住居出土遺物２／　56号住居
PL.60　56号住居出土遺物

PL.61　1号住居出土遺物/　2号住居出土遺物
PL.62　3号住居出土遺物/　4号住居
PL.63　4号住居出土遺物/　5号住居
PL.64　5号住居出土遺物/　6号住居/　30号住居
PL.65　6号・30号住居出土遺物/　7号住居
PL.66　7号住居出土遺物/　8号住居/　9号住居
PL.67　9号住居出土遺物/　10号住居
PL.68　10号住居出土遺物/　11号住居/　12号住居
PL.69　12号住居出土遺物/　13号住居
PL.70　13号住居出土遺物1
PL.71　13号住居出土遺物2/　14号住居
PL.72　14号住居出土遺物/　15号住居/　16号住居
PL.73　16号住居出土遺物/　17号住居
PL.74　17号住居出土遺物/　18号住居出土遺物
PL.75　19号住居出土遺物
PL.76　20号住居
PL.77　20号住居出土遺物/　21号住居
PL.78　21号住居出土遺物/　22号住居
PL.79　23号住居出土遺物/　24号住居
PL.80　24号住居出土遺物/　25号住居
PL.81　25号住居出土遺物/　26号住居
PL.82　26号住居出土遺物/　27号住居
PL.83　27号住居出土遺物/　28号住居
PL.84　28号住居出土遺物/　31号住居
PL.85　35号住居出土遺物/　37号住居
PL.86　37号住居出土遺物/　38号住居
PL.87　38号住居出土遺物/　39号住居
PL.88　39号住居出土遺物1
PL.89　39号住居出土遺物2/　40・41号住居
PL.90　40・41号住居出土遺物1
PL.91　40・41号住居出土遺物2
PL.92　40・41号住居出土遺物3/　42号住居
PL.93　42号住居出土遺物/　43号住居出土遺物/　44号住居
PL.94　44号住居出土遺物1
PL.95　44号住居出土遺物2/　45号住居出土遺物
PL.96　46号住居
PL.97　46号住居出土遺物/　47号住居出土遺物/　48号住居
PL.98　49号住居/　50号住居出土遺物/　51号住居
PL.99　51号住居出土遺物1
PL.100　51号住居出土遺物2/　52号住居
PL.101　52号住居出土遺物/　53号住居
PL.102　53号住居出土遺物1
PL.103　53号住居出土遺物2/　54号住居
PL.104　54号住居出土遺物/　1号掘立柱建物
PL.105　2号掘立柱建物/　3号掘立柱建物
PL.106　4号掘立柱建物/　5号掘立柱建物
PL.107　6号掘立柱建物/　7号掘立柱建物/　8号掘立柱建物
PL.108　9号掘立柱建物/　10号掘立柱建物
PL.109　11号掘立柱建物/　12号掘立柱建物/　13号掘立柱建物
PL.110　14号掘立柱建物/　15号掘立柱建物/　16号掘立柱建物
PL.111　17号掘立柱建物/　18号掘立柱建物
PL.112　19号掘立柱建物/　20号掘立柱建物
PL.113　21号掘立柱建物/　22号掘立柱建物
PL.114　23号・24号掘立柱建物
PL.115　1号～4号柱穴列/　1号井戸
PL.116　2号井戸・出土遺物/　3号井戸
PL.117　3号井戸出土遺物・4号井戸
PL.118　土坑1
PL.119　土坑2
PL.120　土坑3
PL.121　土坑4/　ピット1
PL.122　ピット2
PL.123　ピット3
PL.124　ピット4
PL.125　ピット5
PL.126　ピット6
PL.127　ピット7
PL.128　ピット8
PL.129　ピット9
PL.130　ピット10
PL.131　ピット11
PL.132　ピット12
PL.133　1号溝
PL.134　1号～6号溝/　水田
PL.135　4号溝/　5号溝/　水田
PL.136　主要墨書土器集成
PL.137　植物珪酸体（プラントオパール）の顕微鏡写真
PL.138　出土した大型植物化石
PL.139　出土炭化材組織の走査電子顕微鏡写真

報告書抄録

書名ふりがな	えぎしもだいにちいせき
書名	江木下大日遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その1)報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第377集
編著者名	洞口正史・関晴彦・株式会社古環境研究所・新山雅広・植田弥生
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2006.09.30
作成法人ID	21005
郵便番号	377－8555
電話番号	0279－52－2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	えぎしもだいにちいせき
遺跡名	江木下大日遺跡
遺跡所在地	群馬県前橋市江木町
市町村コード	10201
遺跡番号	0743
北緯(日本測地系)	362344
東経(日本測地系)	1390815
北緯(世界測地系)	362355
東経(世界測地系)	1390803
調査期間	2000.04.01～2002.3.31
調査面積	18,219.3m²
調査原因	道路建設
種別	集落・生産
主な時代	縄文時代/古墳時代/奈良・平安時代
遺跡概要	縄文時代前期竪穴住居3棟、前期・中期遺物集中地点2か所、土坑及びピット37基／古墳時代後期竪穴住居5棟／奈良・平安時代竪穴住居50棟、掘立柱建物24棟、柱穴列4条、井戸4基、水田2か所、土坑85基、ピット221基、溝7条。
特記事項	縄文時代前期及び8世紀から10世紀の集落。竪穴住居。掘立柱建物。井戸。小鍛冶遺構。墨書土器「寺」「院」「主」など。

第１章　発掘調査の経過と方法

1　調査に至る経過

上武道路は「昭和30年代後半からの交通需要の急速な増大により、各地域で交通混雑を生むようになり」、「こうした交通需要に対応し地域の活性化を図るため、東京～前橋間の大規模バイパスの一環として計画」され、平成元年３月３日には埼玉県境から国道50号線までが供用された（「　」内は国土交通省パンフレットから引用）。

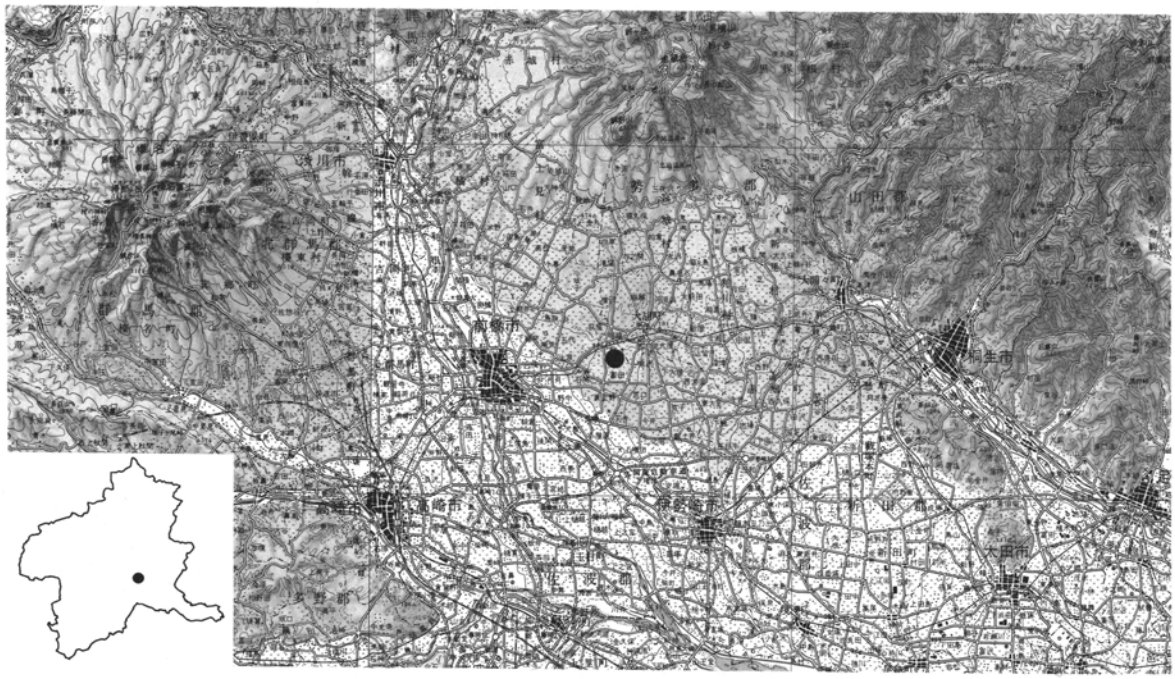
群馬県教育委員会文化財保護課は、昭和時代に建設省関東地方整備局高崎工事事務所から事業の照会を受け、事業予定地内の埋蔵文化財の有無について現地踏査をおこなった。

同課は分布調査を実施し、事業予定地に縄文時代から平安時代の集落、古代の埋没水田・畠等が広く分布していることが明らかになったが、その時点では事業実施に至らなかった。

後年、この分布調査の結果を受けて、群馬県教育委員会と前橋市教育委員会は、平成10年度に事業地内の埋蔵文化財包蔵地を改めて把握し、埋蔵文化財の取り扱いを協議して、事業予定地全体に遺跡が分布しており、本格的な発掘調査を行う必要があることを事業者に通知した。

建設省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長及び財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、平成11年４月１日付けで、一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その１）に関する協定を締結し、国道50号線以北で、かつ前橋市江木町までを対象とした区間の発掘調査が実施されることとなった。

発掘調査は協定書に基づいて、平成11年４月１日に富田細田遺跡から開始され、用地の買収および発掘調査体制が整うのを待って、順次着手した。一部の未調査区域については、用地買収の解決した平成14年度後半に終了した。



第１図　江木下大日遺跡の位置

発掘調査表面積は18,219.3m²である。

2　遺跡名称について

上武道路は、谷と台地が交互に現れるという赤城山南麓の特徴的な地形を、南東から北西に横切るように走ることになる。各台地上には居住跡や墓跡としての遺跡が認められ、谷地にはテフラ等に被覆された水田の遺跡があるものと想定された。

上武道路関連埋蔵文化財の発掘調査に当たっては、初期段階の発掘調査担当者が作成した原案に基づいて前橋市教育委員会と協議を行い、これにより地形に従って、南（あるいは東）側の谷地とその北（あるいは西）側の台地をあわせて一単位の「遺跡」としてとらえ、遺跡名称を付するという考え方を採った。また、遺跡名称については、所在地の大字名と小字名を冠することを基本とし、すでに調査が行われ、命名済みの遺跡がある部分の隣接地等については、既存の名称を踏襲した上で後ろに「Ⅱ」を付すこととして、平成11年４月からの発掘調査を開始している。これに従って、今回の発掘調査部分については、大字名「江木」と小字名「下大日」を合わせた「江木下大日遺跡」と命名し、東南の富田下大日遺跡との間の谷の東縁辺から、西北の萱野Ⅱ遺跡に含まれる谷の西縁辺までを範囲とした。

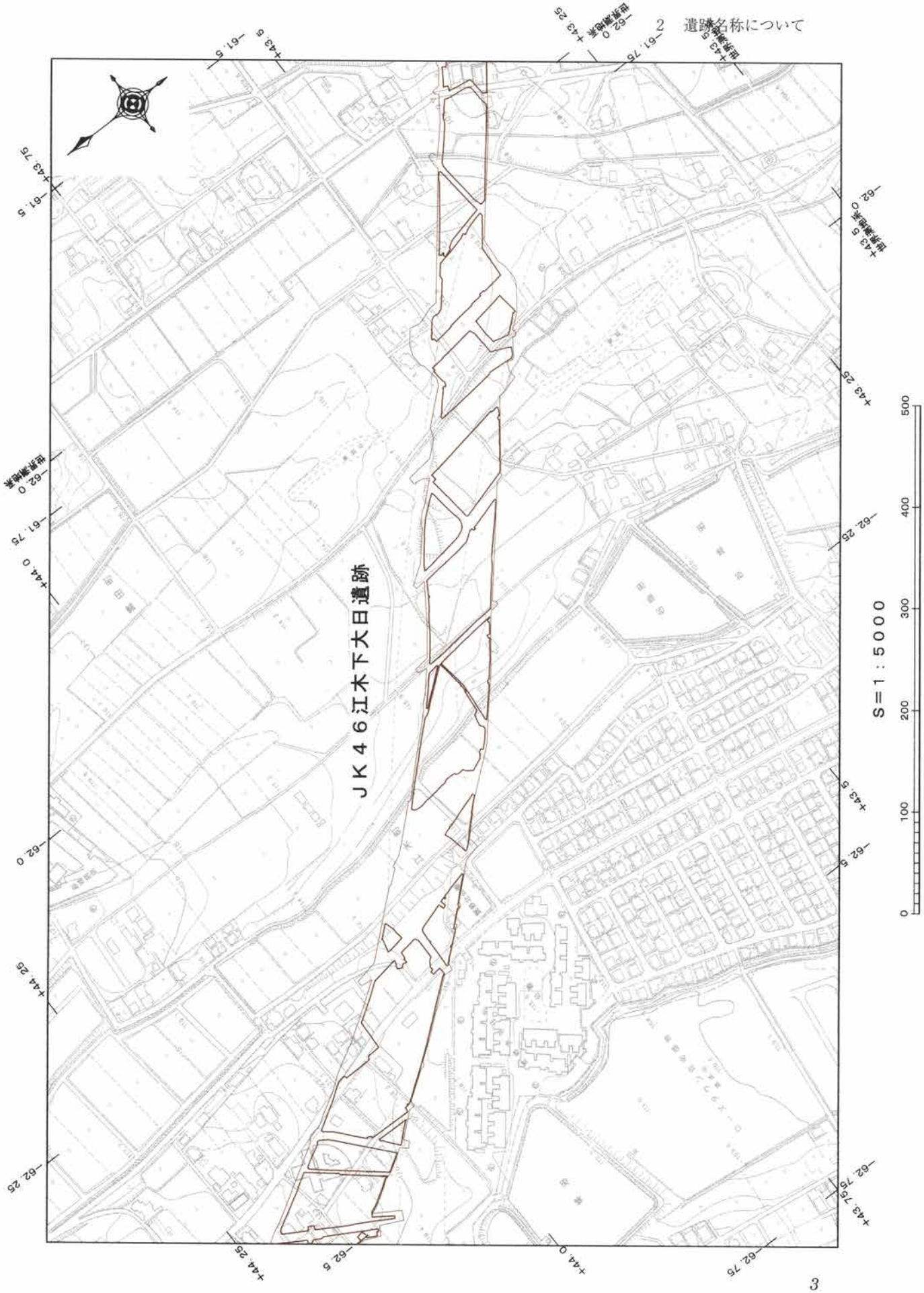
その後平成12年５月から、本遺跡周辺では前橋市埋蔵文化財発掘調査団によりローズタウン住宅団地の建設に伴う発掘調査が行われた。この調査に際しては、事業地内の遺跡の総称として「ローズタウン遺跡群」が使用され、その中に富田下大日遺跡と堤沼下遺跡が置かれた。群馬県遺跡情報システムでもこの遺跡名が採用されており、本遺跡はこの命名に従うと「富田下大日遺跡」の範囲に含まれることとなる。

一方で、上武道路関連遺跡においては、本遺跡の東に隣接する台地を中心とする前橋市富田町字下大日所在部分を、先の協議に従ってすでに「富田下大日遺跡」と命名している。このため、さらなる輻輳を避けるため、本遺跡は「江木下大日遺跡」として扱う。

3　調査区とグリッドの設定

上武道路関連遺跡の発掘調査に当たっては遺跡相互の関連性が把握しやすいように、調査の基準となる階層的なグリッド網を設定することとした。1000m四方の大グリッド→100m四方の中グリッド→５m四方の抄グリッドの３段階であり、大グリッド１から９により調査区全体をカバーする。江木下大日遺跡は大グリッド６に全域が含まれるため、平面図上ではこれを特に使用していない。中グリッドは大グリッドを100個に区切ることになる。東南隅を１とし、西方向へ２から10までの番号を付し、１の北を11として西へ順次番号を付す。江木下大日遺跡では61、71、72、81、82の中グリッドにかかる。小グリッドは中グリッドをさらに100個に区切るもので、各分界線に東から西へAからT、南から北へ１から20の名称を付し、各区画の東南隅の交点名をグリッド名称とした。

なお発掘調査時点では、道路や水路に区切られた現行地割りに従って工事用の区画が設定されていたため、便宜的にこれを調査区画として使用している。国道50号線以北の上部国道関連遺跡最南端の遺跡である今井道上Ⅱ遺跡の最南端の調査区画を「１」として、順次北に向かって数を増やすもので、本遺跡にあっては51区画から54区画が相当した。この区画は考古学的な遺跡の動向とは関連しないものであるため、報告中では用いないこととされたが、調査経過の記述においてはこれを用いたほうが整合的であるので、本章の中に限ってはこれを用いることがある。また、発掘調査時の採取図面、写真、遺物注記等においてはすべてこの工事区画単位で記載が行われており、本書における遺構番号と同一ではない。



第２図　上武道路と江木下大日遺跡

51区画は遺跡南部の広い菱形区画であり、東端に谷地が入る。この谷地は試掘調査の結果後世の攪乱が著しく、遺構がないものと判断されたので調査対象としていない。東の富田下大日遺跡とは道路で区切られ、52区画、53区画とは水路で区切られる。

52区画は水路を挟んで51区画北部の西に接した、狭い三角形の区画である。53区画は調査区中央近くの三角形の区画で、西の54区の間に道路、水路を挟む。54区は調査区北西部の広い菱形の区画で、東側は道路、西側は急斜面で谷地に落ち込み、谷底の水路で萱野Ⅱ遺跡と画される。

4　調査の経過

江木下大日遺跡の調査は平成12年４月から着手した。発掘調査に当たっての事業名称は富田漆田遺跡の一部と富田下大日遺跡を合わせて「江木Ⅱ」とされており、西に接する萱野Ⅱ遺跡とも並行しつつ発掘調査を行った。

初年度は表土掘削及び遺構確認を行ない、奈良時代・平安時代の竪穴住居及び掘立柱建物や縄文時代遺構がある可能性が高いことを確認した。この遺構確認状況を受けて、翌平成13年度から遺構調査を開始した。

調査は51区画のうち、未買収地となっていた谷地東縁辺の一部を除く部分及び54区から着手し、並行して53区と52区の調査を行った。

平成14年８月から10月にかけて、新たに調査可能となった51区の残地部分を調査し、本遺跡の調査を終了した。

5　整理事業の経過

(1)　整理事業の埼玉県埋蔵文化財調査事業団への一部委託

整理事業の財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団への一部委託について、群馬県教育委員会と埼玉県教育委員会とは、平成12年11月に他県協力について協力体制協議を開始し、平成13年度中には４回にわたって協議を重ね、平成14年３月27日付けで「埋蔵文化財保護の協力に関する協定書」を締結した。同日付けで、群馬県教育委員会教育長から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団あて、「埋蔵文化財保護の協力に関する協定について」の依頼があり、平成14年度事業のうち、整理事業について協力することが協議され、具体的な業務仕様や発注方法等については、両事業団間で調整して決定することとなった。

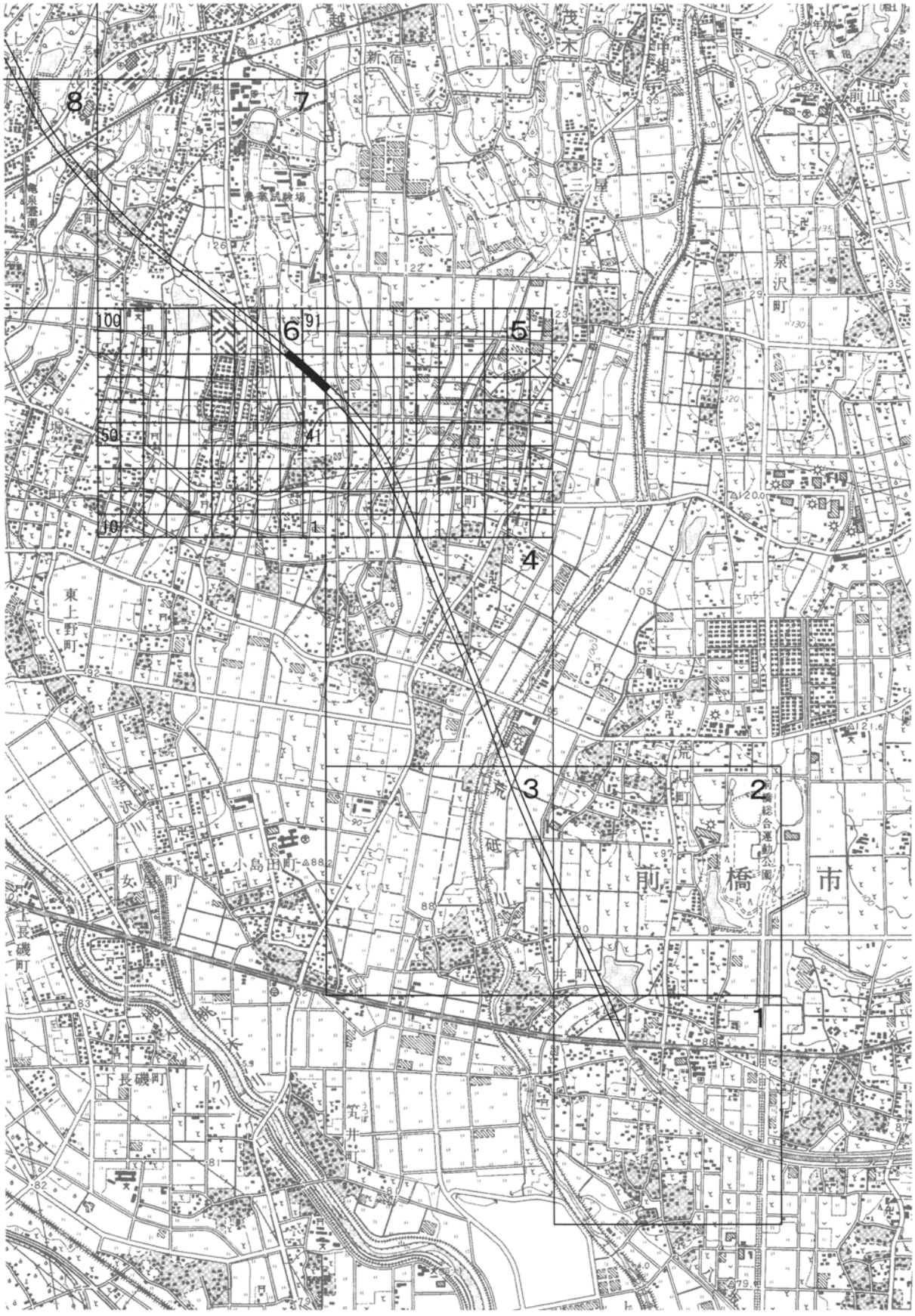
(2)　整理事業の経過

発掘調査現場においては、採取図面、写真資料に関する仮台帳の作成及び遺物の洗浄、注記を調査区画単位に行った。

平成16年４月１日から平成17年３月31日までを上記による財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団での整理委託期間とした。この委託事業では、遺物の接合、復元、実測、拓本、トレース、写真撮影、遺物図版の仮レイアウト、遺物観察表作成、所見記載、基礎データ集積、縄文土器・石器に関する分類及びデータベース作成が行われた。

平成17年４月１日から平成18年３月31日まで行い、平成18年度に報告書を刊行した。

整理事業では遺構図と遺構写真を整理・編集し、記載及び観察所見を加え、鉄器など特殊遺物の整理、実測図作成を行い、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に委託して作成した遺物図・写真・遺物観察所見原稿と併せ、報告書刊行のための再編集を行った。



第３図　江木下大日遺跡の調査区

0　1：25,000　1km

第２章　江木下大日遺跡の立地と環境

１　遺跡の位置と立地

江木下大日遺跡は、群馬県前橋市の東南部、江木町にある。前橋市街地からは６kmほど東方に離れている。長く裾を引く赤城山南麓の裾部終端近くにあたり、この遺跡の南方1.5kmほどで山麓地形は沖積地へと変換する。赤城山南麓には北から南へ下る荒砥川、白川、粕川などの河川を幹として、中小の放射谷が枝状に発達している。ローム層を基盤とする台地がこの谷にはさまれて、南北方向に細長く伸びている。

今回の発掘調査部分は、東の荒砥川と西の寺沢川に挟まれた台地内にあって、さらに小河川によって形成された谷地に東西を区画される台地を中心とする。この台地は、南北２kmほどの長さで、巾は最も広いところで300mほど、調査地付近では150mほどの細長い形状である。なだらかに北から南に下り、調査地付近での標高は114mから115mほどである。調査地の南800mほどの、東西の谷が合流する地点でこの台地はとぎれることになるが、本遺跡北東部には西側の谷に向かう小さな埋没谷があり、微視的に見ればさらに複雑な地形が隠されているものと思われる。

東側の谷は本調査地点の北200mほどの位置に谷頭を有するものと思われる。東西の台地からは比較的緩い傾斜で下り、本遺跡側の台地頂部との比高は２mほど、幅は70mほどの狭く浅い谷である。この谷の対岸が富田下大日遺跡である。西側の谷は萱野Ⅱ遺跡との境界としたものである。調査値の北１kmほどにある江木新沼を谷頭としている。100m弱の幅があり、本遺跡の台地からは５mほどの比高があって、比較的急傾斜で落ち込む、やや深い谷である。発掘調査時点では、どちらの谷にも河川はなく、水田として耕作されていた。

赤城山南麓の台地は赤城山の火山活動と、その後の堆積、浸食の繰り返しによって形成されている。発掘調査時に確認できた最下層の堆積物は7.5万年前とされる大胡火砕流の堆積物層であり、その上位には榛名八崎テフラ（以下Hr-HP）、浅間板鼻褐色軽石（同As-BP）、浅間大窪沢第１軽石（同As-ok1）、板鼻黄色軽石（同As-YP）等がローム中に混じて見られる。ローム層の上部は漸移的に黄褐色のソフトロームとなる。表土との間には比較的薄い暗褐色から黒褐色土壌があるが、黒ボク土の発達は谷地をのぞいてごく弱い。この中には、浅間Cテフラ（同As-C）や榛名渋川テフラ（同Hr-FA）の軽石が混在している。谷部や一部の竪穴住居のくぼみ部分には浅間Bテフラ（同As-B）が降下時の状況を良く残した状態で堆積している。また、表土中には浅間Aテフラ（同As-A）の軽石が混入することがある。

地形、地質環境とともに、この地域の自然環境として人間生活に大きな影響を与えたであろうと思われるのが気候条件、なかんずく強い季節風である。具体的な小気候データとして示せるものはないが、冬型の気圧配置がもたらす北西風は、時として発掘作業を中止せざるを得ないほどに強くなる。西向き斜面から台地頂部にかけてのローム層以上の土壌堆積層の薄さも、これに起因するかもしれない。特に西向き斜面での作業には多大な影響があったことを思うとき、各時代の遺構の粗密があるいはこうした気候条件に左右されたものではないかとの感を禁じ得ない。

２　周辺の遺跡

埋蔵文化財の宝庫と言われる本県にあっても、赤城山南麓は特に密度濃く、多種多様な埋蔵文化財があることで知られている。明治22年の町村制施行時に荒砥村とされたこの地域は、昭和10年に行われた群馬県下

第４図　江木下大日遺跡と周辺の遺跡

第２章　江木下大日遺跡の立地と環境

江木下大日遺跡周辺の遺跡
1：大胡城跡（平安/中世）文献３
2：養林寺西遺跡（奈良・平安/中世/近世）文献３
3：養林寺館（平安）文献３
4：殿町遺跡（奈良）文献11
5：茂木上ノ町漏１号墳（古墳）
6：天神遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）文献30
7：堀越小此木遺跡（縄文/平安）
8：堀越五十山遺跡（縄文/古墳/奈良・平安/近世）
9：大胡町第17号墳（古墳）文献１
10：堀越永閑寺遺跡（奈良・平安）
11：堀越城泉寺遺跡（縄文/奈良・平安）
12：堀越甲真木Ｂ地点遺跡（旧石器/縄文）
13：生協団地古墳（古墳）
14：堀越甲真木遺跡（平安）
15：堀越甲真木Ｄ地点遺跡（縄文）
16：茂木二本松遺跡（縄文）文献39
17：茂木米野道上遺跡（縄文/古墳/平安）
18：勝山遠堀（中世）文献３
19：柴崎遺跡（縄文/近世）文献30
20：大胡町第40号墳（古墳）文献３
21：桂萱58号墳 ほっこし塚古墳（古墳）文献１
22：荻窪城（中世）
23：坂上遺跡（古墳）
24：西荻窪城（中世）
25：高見遺跡（縄文）
26：塔の堀（中世）文献２
27：桂萱57号墳（古墳）文献１
28：新田塚古墳（古墳/縄文）文献１
29：上泉風袋遺跡（縄文）
30：西久保遺跡（縄文/古墳）
31：薬師塚古墳（古墳）文献36
32：足軽町遺跡（縄文/古墳/奈良）
33：農業試験場東遺跡（縄文）
34：大日遺跡（古墳）
35：今城遺跡（奈良）文献26
36：足軽グランド遺跡（奈良・平安）
37：茂木大日遺跡（古墳/奈良・平安）
38：稲荷窪遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）　文献37/40
39：茂木大道下遺跡（縄文/平安/近代）
40：柳沢遺跡（平安）
41：天神風呂遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）文献８
42：西小路遺跡（縄文/古墳/近世）文献31
43：大胡町第３号墳（古墳）文献３
44：大胡町第４号墳（古墳）文献３
45：大胡町第10号墳（古墳）文献３
46：上ノ山遺跡（旧石器/縄文/古墳/中世/近世）文献27
47：大胡町第５号墳（古墳）文献27
48：大胡町第６号墳（古墳）文献27
49：茂木古墓（平安）文献３
50：下宮関遺跡（古墳）
51：山神遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）文献28
52：稲荷前遺跡（縄文/古墳）文献41
53：荒砥355号墳（古墳）文献41
54：中富田高石（古墳）
55：少将塚古墳（古墳）
56：丸山遺跡（縄文）
57：北原遺跡（古墳）文献15
58：第328号御殿山古墳（古墳）文献１
59：荒砥348号墳（古墳）文献１
60：荒砥347号墳（古墳）文献１
61：富田東曲輪遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）
62：富田中前遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）
63：おとうか山古墳（古墳）文献１
64：東原遺跡（縄文）文献５
65：富田細田遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）
66：富田宮下遺跡（弥生/古墳/奈良・平安）文献７
67：西原遺跡（古墳）
68：大塚古墳（古墳）文献１
69：高石遺跡（古墳/奈良・平安/中世）
71：富田下大日遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）文献44/45/46/47/53
73：農業試験場遺跡（縄文）
74：萱野遺跡（古墳/奈良・平安）文献24
75：堤沼下遺跡（縄文/奈良・平安）文献43
76：桂萱70号墳（古墳）文献１
77：桂萱69号墳（古墳）文献１
78：堤沼西遺跡（奈良・平安）文献49
80：桂萱東小西遺跡（古墳/奈良）
81：寺沢川遺跡（古墳）
82：江戸原古墳群（古墳）
84：中山遺跡（縄文/古墳）
85：亀泉霊園地内Ａ遺跡（古墳）
86：亀泉霊園地内Ｂ遺跡（古墳）
87：本郷遺跡（縄文）
88：正円寺古墳（古墳）文献２
89：江木吹地遺跡（古墳/奈良・平安）
90：大泉坊遺跡（古墳）
91：宮田遺跡（古墳/奈良・平安/弥生）文献51/52
92：木舟遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）
93：前田遺跡（古墳）文献２
94：今井城（中世）
95：荒砥三木堂遺跡（旧石器/縄文/古墳/奈良・平安）文献25/29
96：今井道上遺跡（縄文）文献33
97：荒砥大日塚（古墳/奈良・平安）文献32
98：鶴谷遺跡群（古墳/奈良・平安）文献10
99：荒砥北原遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）
100：荒口前原遺跡（弥生）文献14/16
101：荒口小塚遺跡（古墳）文献２
102：荒砥前田遺跡（古墳）文献52
103：第333号古墳（古墳）文献１
104：荒砥宮田遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）文献52
105：荒砥諏訪西遺跡（古墳/奈良・平安）文献48/50
106：第330号小塚古墳（古墳）文献１
107：大道古墳（古墳）文献１
108：第332号古墳（古墳）文献１
109：荒砥諏訪遺跡（古墳/奈良・平安）文献50
110：荒口大道古墳（古墳）文献１
111：柳久保遺跡群（旧石器/古墳/平安）文献12/13/17/18/20/21/22
112：大道古墳Ｂ（古墳）
113：大道古墳Ａ（古墳）
114：笂井八日市遺跡（縄文/古墳/奈良・平安）文献34
115：小島田八日市遺跡（縄文/中世/近世）文献35
116：木瀬７号墳（古墳）文献１
117：木瀬６号墳（古墳）文献１
118：万福寺遺跡（奈良）
119：女堀（中世）

上武道路関連遺跡
①今井道上遺跡
②荒砥三木堂遺跡
③荒砥北原Ⅱ遺跡
④荒砥前田Ⅱ遺跡
⑤富田細田遺跡
⑥富田宮下遺跡

⑦富田西原遺跡
⑧富田高石遺跡
⑨富田漆田遺跡
⑩江木下大日遺跡
⑪萱野Ⅱ遺跡
⑫堤沼上遺跡

参考文献

1　『群馬県史蹟名勝天然紀念物調査報告書第５輯　上毛古墳綜覧』　群馬県　1938
2　『前橋市史　第１巻』　前橋市史編さん委員会　1971
3　『大胡町誌』　大胡町誌編纂委員会　1976
4　『群馬県古城塁址の研究』　上・下　山崎　一　1978
5　『荒砥東原遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1979
6　『群馬県古城塁址の研究　補遺編』　上・下　山崎　一　1979
7　『富田遺跡群・西大室遺跡群・清里南部遺跡群』　前橋市教育委員会　1980
8　『勢多郡大胡町茂木天神風呂遺跡』　大胡町教育委員会　1981
9　『群馬県史 資料編３　原始古代３』　群馬県史編さん室　1981
10　『鶴谷遺跡群II』　前橋市教育委員会　1982
11　『殿町遺跡』　大胡町教育委員会　1983
12　『柳久保遺跡群Ⅰ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1985
13　『柳久保遺跡群Ⅱ』　前橋市教育委員会、前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1985
14　『荒砥前原遺跡 赤石城址』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1985
15　『荒砥北原遺跡 今井神社古墳群 荒砥青柳遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1986
16　『群馬県史 資料編２　原始古代２』　群馬県史編さん室　1986
17　『柳久保遺跡群Ⅲ』　山武考古学研究所　1986
18　『柳久保遺跡群Ⅳ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団/前橋市教育委員会　1987
19　『群馬県史 資料編１　原始古代１』　群馬県史編さん室　1988
20　『柳久保遺跡群Ⅴ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1988
21　『柳久保遺跡群Ⅵ』　山武考古学研究所　1988
22　『柳久保遺跡群Ⅶ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1988
23　『群馬県の中世城館跡』　群馬県教育委員会　1989
24　『萱野遺跡・下田中遺跡・矢場遺跡』　群馬県企業局　1991
25　『荒砥北三木堂遺跡Ⅰ』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991
26　『今城遺跡』　前橋市教育委員会　1992
27　『中川原遺跡群　上ノ山遺跡』　大胡町教育委員会　1992
28　『中川原遺跡群　小林・山神・大畑遺跡』　大胡町教育委員会　1992
29　『荒砥北三木堂遺跡Ⅱ』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1992
30　『大胡北西部遺跡群　乙西尾引遺跡、西天神遺跡、柴崎遺跡』　大胡町教育委員会　1994
31　『西小路遺跡』　大胡町教育委員会　1994
32　『荒砥大日塚遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1994
33　『今井道上遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1994
34　『笂井八日市遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1994
35　『小島田八日市遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1994
36　『亀泉町薬師塚古墳』　前橋市教育委員会　1996
37　『茂木遺跡群　稲荷窪A地点遺跡』　大胡町教育委員会　1996
38　『柳久保遺跡群』　前橋市教育委員会　1996
39　『横沢向田遺跡・堀越丁二本松遺跡・横沢向山遺跡他・茂木二本松遺跡』　大胡町教育委員会　1998
40　『茂木遺跡群　稲荷窪B地点遺跡』　大胡町教育委員会　1998
41　『市内遺跡発掘調査報告書　平成8年度』　前橋市教育委員会　1998
42　『諏訪西遺跡・諏訪遺跡・柳久保遺跡・川籠皆戸遺跡・向原遺跡』　群馬県教育委員会　1998
43　『ローズタウン遺跡群　堤沼下遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000
44　『ローズタウン遺跡群　富田下大日Ⅰ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000
45　『ローズタウン遺跡群　富田下大日Ⅱ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000
46　『ローズタウン遺跡群　富田下大日Ⅲ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001
47　『ローズタウン遺跡群　富田下大日Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001
48　『荒砥諏訪西遺跡Ⅰ』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002
49　『堤沼西Ⅲ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003
50　『荒砥諏訪西遺跡II・荒砥諏訪遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　2003
51　『荒砥宮田遺跡I』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　2003
52　『荒砥宮田遺跡II・荒砥前田遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　2004
53　『富田漆田遺跡　富田下大日遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　2006
54　『今井道上Ⅱ遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　2006
群馬県文化財情報システムWeb版　http://www2.wagamachi-guide.com/gunma/index.html　2006年３月31日取得

古墳一斉調査に際して、古墳数のあまりの多さに、一年の日数と同じ365基を報告するに留めたというエピソードも伝えられる地域である。東方の荒砥川を越えた荒子町、荒口町、今井町、さらに神沢川を越えた東大室町、西大室町では、古くから知られる遺跡が数多く、また圃場整備事業に伴う発掘調査が比較的早い時期から行われて、各時代の豊富な資料が得られている。赤城山南麓の遺跡分布については先行研究も多く、上武道路関連遺跡の先行調査報告である「今井道上Ⅱ遺跡・荒砥北三木堂Ⅱ遺跡」や「富田下大日遺跡・富田漆田遺跡」においても詳述されているので、これを参照されたい。

一方、微視的に本遺跡直近の周辺を見ると、「著名な」遺跡は無く、発掘調査例自体も少なかった。第４図は東の荒砥川と西の寺沢川に挟まれた間にある主立った遺跡をプロットしたものであるが、この遺跡周辺がポケット状に遺跡分布が希薄な地域となっていたことがわかる。

昭和54年から56年にかけて、東に隣接する富田町において、圃場整備事業に伴って発掘調査された富田遺跡群が、この地域での大規模な埋蔵文化財調査としては嚆矢となる。この調査では、縄文時代前期、弥生時代から平安時代にかけての集落、後期古墳、中世の古墓群などが見つかっている。

また、昭和60年度、61年度に、西側の谷を隔てた萱野住宅団地建設に際して萱野遺跡が調査された。縄文時代および古墳時代前期から平安時代の集落、横穴式石室を持つ古墳などが見つかっている。注目されたのは古墳時代中期の集落で、台地の東南傾斜地に40棟が密集しており、質、量とも豊富な土器があった。袋状鉄斧や鋸など、県内でも古い時期に位置づけられる鉄製品も出土している。

上武道路建設に伴う発掘調査では、この萱野遺跡に隣接する路線部分を「萱野Ⅱ遺跡」として平成13年度から平成15年度まで、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査している。この調査では古墳時代住居は認められず、旧石器時代遺物包含層、縄文時代集落、横穴式石室を有する古墳、奈良時代、平安時代の集落が見つかっている。

東側の比較的浅い谷を挟んだ富田下大日遺跡でも、縄文時代前期・中期、古墳時代後期、平安時代の集落と後期古墳等が見つかっている。さらに東の富田漆田遺跡では縄文時代中期、古墳時代中期・後期、平安時代の集落が見つかっており、中でも平安時代では60棟以上の竪穴住居と須恵器焼成土坑５基などが見つかっていて、平安時代におけるこの周辺の核となる集落であったものと思われる。

富田下大日遺跡と本遺跡を囲むように、前橋工業団地造成組合による「ローズタウン住宅団地」の造成が計画されており、これに伴う発掘調査報告が「ローズタウン遺跡群」として刊行されている。ローズタウン遺跡群には「富田下大日Ⅰ～Ⅳ遺跡」及び「堤沼下遺跡」が含まれる。遺跡名に混乱を生じているが、このうち富田下大日Ⅱ遺跡の「西側調査区」と富田下大日Ⅳ遺跡が本書で報告する「江木下大日遺跡」と同一台地上にあるものである。富田下大日Ⅱ遺跡西側調査区と同Ⅳ遺跡の北調査区は南北に隣接して並び、台地中央から西側にあたる。縄文時代前期住居１棟と奈良・平安時代住居５棟、掘立柱建物３棟などが見つかっている。同Ⅳ遺跡の南調査区は台地の先端に近い位置で、東側に縄文時代住居4棟、奈良・平安時代住居３棟、掘立柱建物１棟、西側に平安時代住居１棟がある。西側の竪穴住居には鉄滓が見られる。

ローズタウン遺跡群の発掘調査に際しては、本調査実施前に遺構確認用の試掘用トレンチが比較的密度濃く入れられている。このため、江木下大日遺跡を合わせて、この台地の先端部分についての遺跡情報をかなり確実に把握することができる。第６図では、本遺跡とローズタウン遺跡群の発掘調査で見つかった竪穴住居、掘立柱建物と試掘トレンチ掘削位置を示した。本書の後段でも繰り返し触れることになるが、上武道路路線部分、すなわち江木下大日遺跡部分に遺構が多く、とりわけその東向き傾斜の部分に顕著なまとまりが見られ、遺構分布域はそれからさほど広い範囲には広がらないことがわかる。

第５図　江木下大日遺跡と隣接地の発掘調査

この台地には、縄文時代前期、古墳時代後期、奈良・平安時代の遺構があるのだが、それぞれの時期においてさほど大きな規模を持たない集落であった。平安時代以後は遺構・遺物ともにとぎれてしまう。1108年降下とされる As-B が９世紀後葉の51号住居内に厚いレンズ状をなして堆積していることから考えると、この住居の廃絶以後 As-B の降下までの間は、住居窪地が埋められたり整地されたりするような事もなかったようである。

『上野國郡村誌』所載の「上野国勢多郡江木村」の項では、「地勢　北ハ赤城山麓南ハ平坦ニシテ田野遠ク開ケ水路不便ナリ北部ハ谷田少ク樹林多シ水上ハ寺沢末ニシテ年々干損ス畑林等足リ因テ桑薪等不足ナシ」「税地　更正田反別四十町四歩　更正畑反別六十六町四反六畝歩　更正宅地反別七町二反六畝歩　更正林反別八十五町八畝二歩」とあって、畑が田を上回り、林地も四割を占めるという、この地域農村の典型を示しているのだが、この遺跡がある「字下大日」については「本村東北ニシテ東西二町五間南北五町四十間田地少々林多シ畑宅地等ノ類ナシ」との記述で、谷間にわずかに水田が開かれていた他は林地であったとされ、積極的な土地利用には乏しい場所であったことが示されている。

東の富田下大日遺跡、西の萱野・萱野Ⅱ遺跡と本遺跡を比較すると、竪穴住居のあり方や時期的な変遷に共通点、相違点をそれぞれ抽出することができそうである。たとえば、古墳時代中期には萱野遺跡に大きな集落が作られるが、後期にはそれが消え、江木下大日、富田下大日両遺跡にわずかな竪穴住居が見られるにとどまるようになる。奈良時代には萱野・萱野Ⅱ遺跡と江木下大日遺跡に小規模な集落が作られ、平安時代まで継続するが、９世紀には富田下大日遺跡から富田漆田遺跡にかけて大規模な集落が現れる。小さな両域を限ってみても、集落が単純に継続・廃絶するのではなくて、複雑な変遷過程をたどっていることが示されるものと解したい。本遺跡を含む勢多郡域は、古代上野の中心地域でありながら、「倭名抄」の郷名比定もままならない。複雑な集落動態がこの困難さを招来する一因となっているのかもしれない。今後も続く上武道路関連遺跡の発掘調査により、こうした課題を解き明かす鍵が得られようとしているものと期待したい。

第３章　縄文時代の遺構と遺物

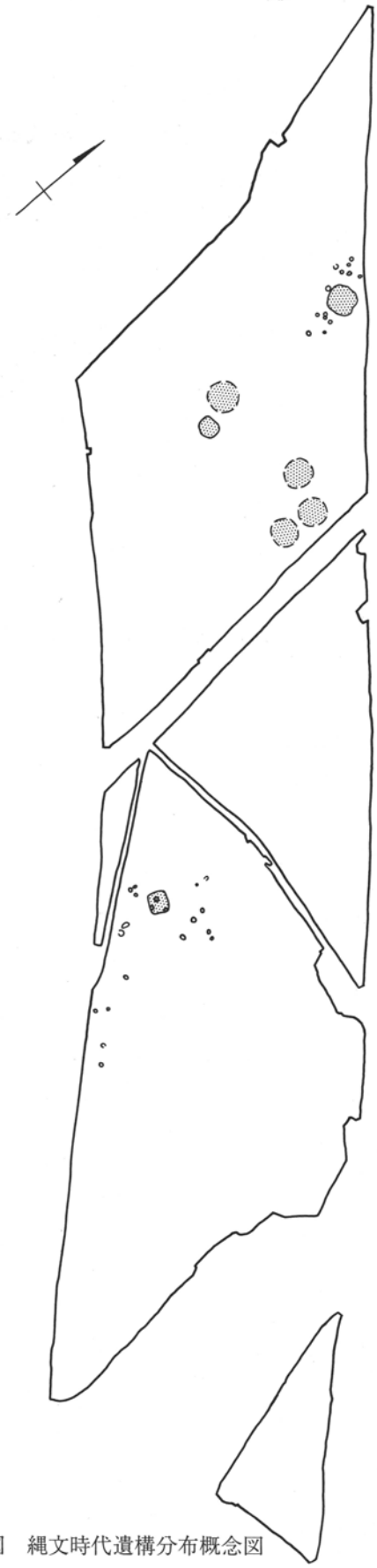
1　概　　要

縄文時代の遺物は、前期を中心に、一部早期、中期の土器が調査範囲の全域で見られた。遺構として調査できたものは竪穴住居およびその存在が想定される遺物集中地点５、土坑35基である。遺構として捉えられた竪穴住居は、花積下層式期、黒浜式期、諸磯ｂ式期各１棟であり、そのほかに花積下層式期と後期堀之内式の遺物集中地点がある。住居、遺物集中地点は、南北に延びる台地の頂部から西向き斜面にかけての部分に多く、東向き傾斜部では土坑が比較的多く見つかっているものの、住居は１棟のみにとどまる。

出土土器について、整理を担当した財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団の金子氏より以下の所見を頂戴している。

花積下層式が比較的まとまっており、近隣の五目牛清水田遺跡との様相の違いが興味深い。また、全て尖底で、縦位鋭角羽状縄文を施文するが、口縁部に隆帯を廻らす第56図20、21、第48図１、第56図34のような比較的新相と思われる土器群が含まれていることが面白い。時間差として考えるか、系統差として考えるか検討する価値があろう。

58号住居出土遺物の把握が難しい。通常ならば、諸磯 b1 式の新しいものと、b2 式の古いものとが混在しているものと考えるのであろうが、第110号土壙の共伴関係を考えると、爪形文土器を新しく考えるか、浮線文土器を古く考えるかのいずれかになろう。この場合、爪形文土器が b1 式新で、浮線文土器が b2 式古と考えたくなるが、両者が同時期であることから考えを進めたい。第34図２の浮線文土器の口縁部には「米」字状文のモチーフが浮線で描かれている。これは明らかに諸磯ａ式の「米」字状文の系譜を引くものであり、この浮線文土器がそれほど新しくないことを物語っている。また、この土器の波状口縁の波底部には２個対の小突起が付けられ



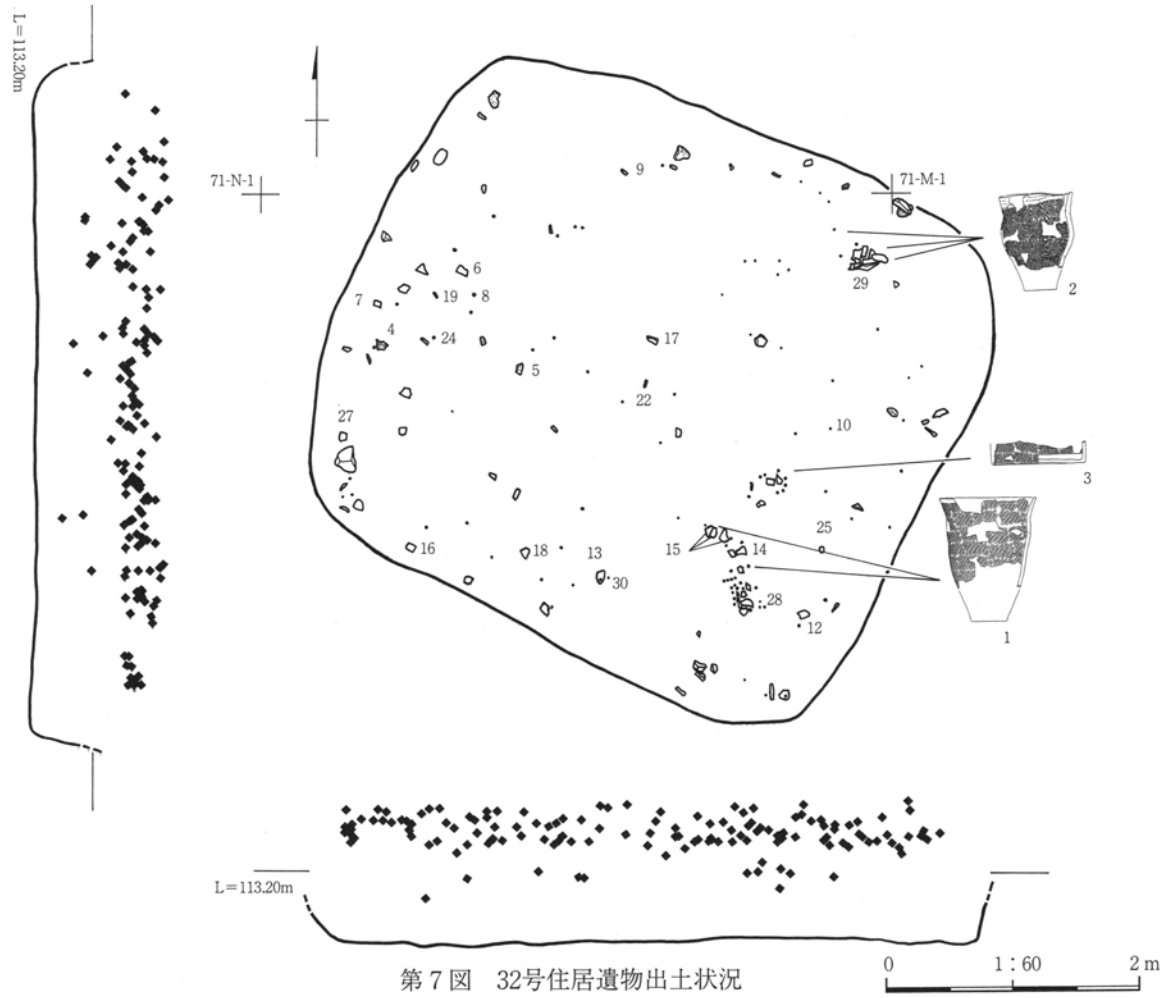
第６図　縄文時代遺構分布概念図

ており、これも黒浜式や諸磯a式を通して系譜する要素で、この土器が諸磯a式からそれほど離れていない時期に位置付けられることが予想されるのである。従来、浮線文の出現を持って諸磯 b2 式としているが、爪形文土器との関係や、最古の浮線文土器が検討されて来なかった経緯があり、地域的な様相も含めて検討する価値がある。かつて、山内清男が諸磯a式と認定した先史土器図譜の土器には、縦位の円形竹管文列と、口縁部と胴部を区画する浮線を持つ土器が紹介されている。諸磯b1式段階に浮線文が存在しないとは軽々に判断できず、むしろ、今日的には b1 式といわれた段階の土器群の組成を検討し直す時期に来ているものと思われる。諸磯a式の最新段階と諸磯 b1 式の爪形文土器や平行沈線文土器の境目が不明瞭なこと、多くの場合浮線文土器が絡んでいることを再度検討しなおしてみる価値があることを、今回の資料を検討していて強く感じた次第である。諸磯 b 式土器研究の停滞状況を打破する良い機会になるのではないだろうか。今回の資料には、それなりの価値があるものと考える。

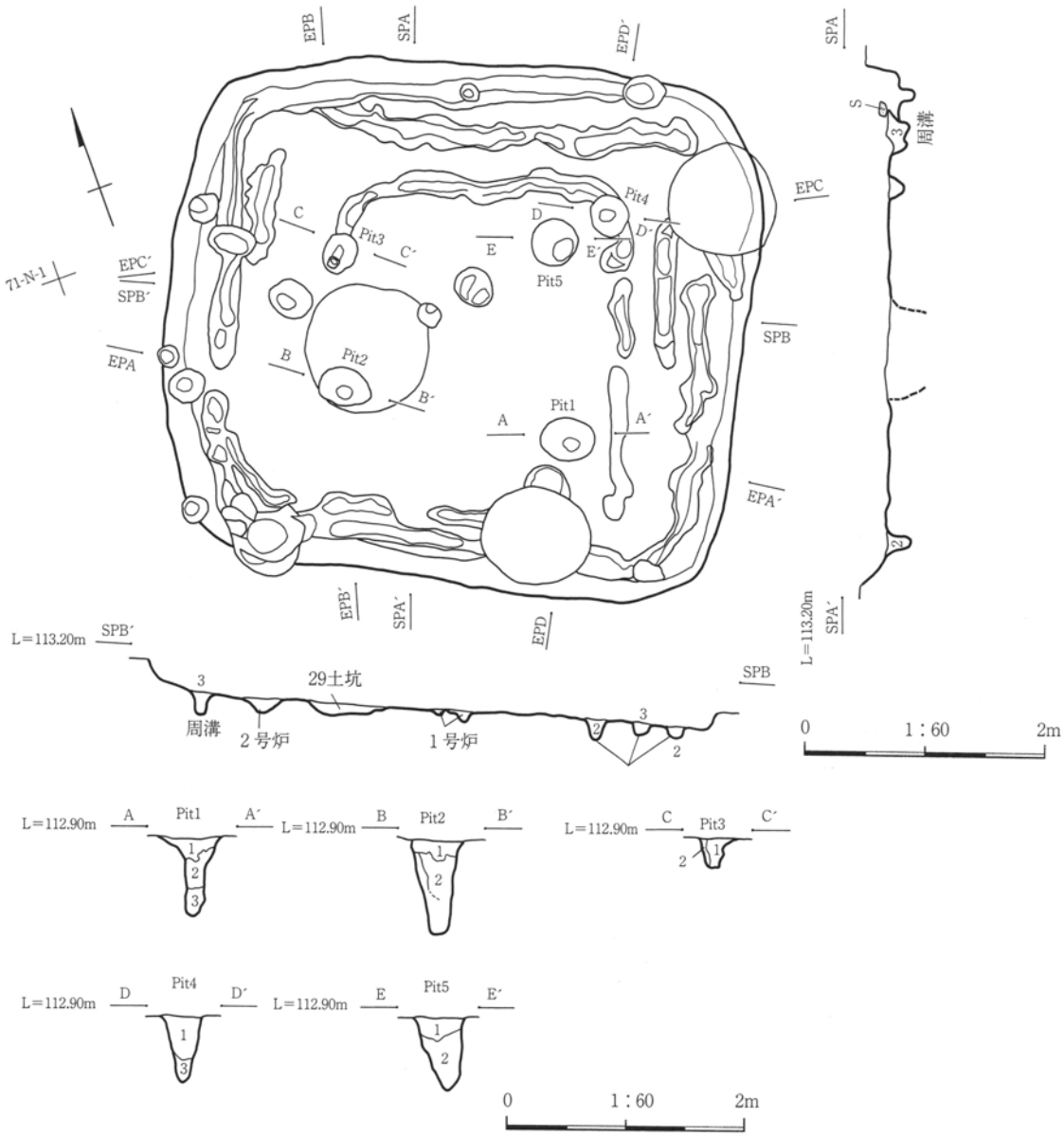
2　竪穴住居

32号住居

位置　61-L. M-20・71-L. M-1グリッド　標高113.3mから113.4mの台地頂部に近い東向き緩傾斜部に立地する。南壁の中央やや東よりを19号土坑に、東壁北隅近くを20号土坑に、また住居中央やや西よりを21号土坑に切られる。ともに縄文時代の土坑であり、この時代の遺構が希薄な部分にあって特異な状況を示す。



第７図　32号住居遺物出土状況



第８図　32号住居平面図　高低図　柱穴土層断面図

32号住居　土層観察所見

1　10YR2/3黒褐色土～10YR5/4にぶい黄褐色土が斑状に混じる。灰白（黄）色軽石粒３％含む。焼土粒、炭化物粒少量含む。砂質。しまっている。

2　10YR5/4　にぶい黄褐色土　As-ok1、As-BPを思われる軽石を含む。しっかりした砂質。

3　２層に10YR5/8黄褐色ロームと軽石を含む10YR3/1黒褐色土が斑点状に混入する。

ピット１・２・３・４

1　10YR4/1褐灰色-10YR3/1黒褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土の斑を含む。As-BPを少量含む。径１mm以下の炭化物粒をまばらに含む。密に硬く締まっている。

2　１層にロームブロックを斑状に含む。密に硬く締まっている。

3　10YR6/6　明黄褐色粘質土　やや緻密だが締まり弱くやわらかい。

ピット５

1　10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR5/8黄褐色ロームが斑状に混入する。白色軽石を含む。砂質。

2　10YR4/3　にぶい黄褐色土　大きいものでは径１cmほどの炭化物を多く含む。As-BP、As-ok1と思われる軽石粒を含む。砂質。

形態・規模　東西に長軸をおく、東壁より西壁がやや短いため隅丸の台形状を呈するが、基本的には隅丸長方形を指向したものと思われる。壁周溝が三重に廻り、少なくとも二回の建て替えがあったものと思われる。最も内側の壁周溝は南北がやや長く、その後の建て替え時に長軸方向が変わっている。最終使用時の住居規模は東西4.57m、南北4.06m。中位の壁周溝間距離は東西3.6m、南北3.3m、最も内側の壁周溝残存長は東西2.4m、南北2.7mである。

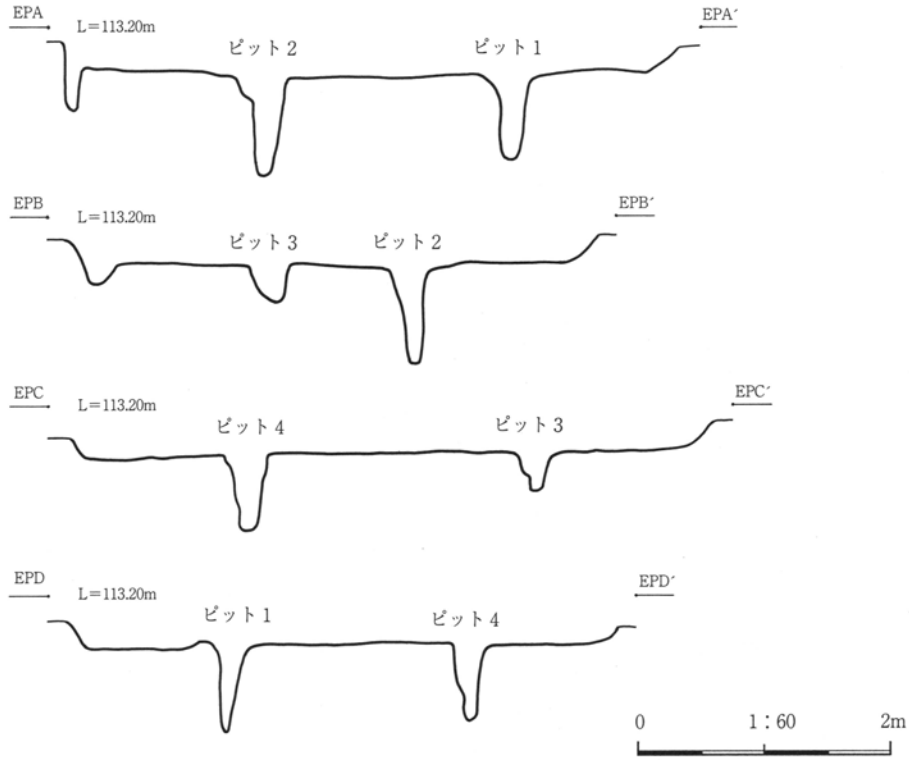
床・壁　残存壁高は28cmから30cmある。基本的に地山ロームを床面とする。東壁側ではやや不明瞭になるが、壁下に幅10cmから27cm、深さ10cmから30cmの周溝がめぐる。また、床面下からさらに二重の周溝痕跡が見つかっている。柱穴と思われるピットは５基あり、ピット１は長軸46cm×短軸36cm×深さ67cm、ピット２は45cm×32cm×78cm、ピット３は35cm×27cm×28cm、ピット４は35cm×32cm×59cm、ピット５は40cm×38cm×59cmである。

炉　住居中央よりやや北寄りと、西壁よりの２か所で見つかっている。どちらも地床炉と思われる。北よりの炉はピット３とピット５の間から35cmほど内側に入ったところにあり、長軸35cm、短軸30cmほどの楕円形の平面形を呈する。８cmほどの深さの掘り込みがあり、床面より軟質で炭化物粒を混じた土で覆われていた。西壁よりの炉はピット２とピット３の間から50cmほど西壁に寄った位置にある。長軸40cm、短軸32cmほどの楕円形の平面形で、深さ10cmほどの掘り込みがあり、焼土粒、炭化物粒を含む軟質の土で覆われていた。

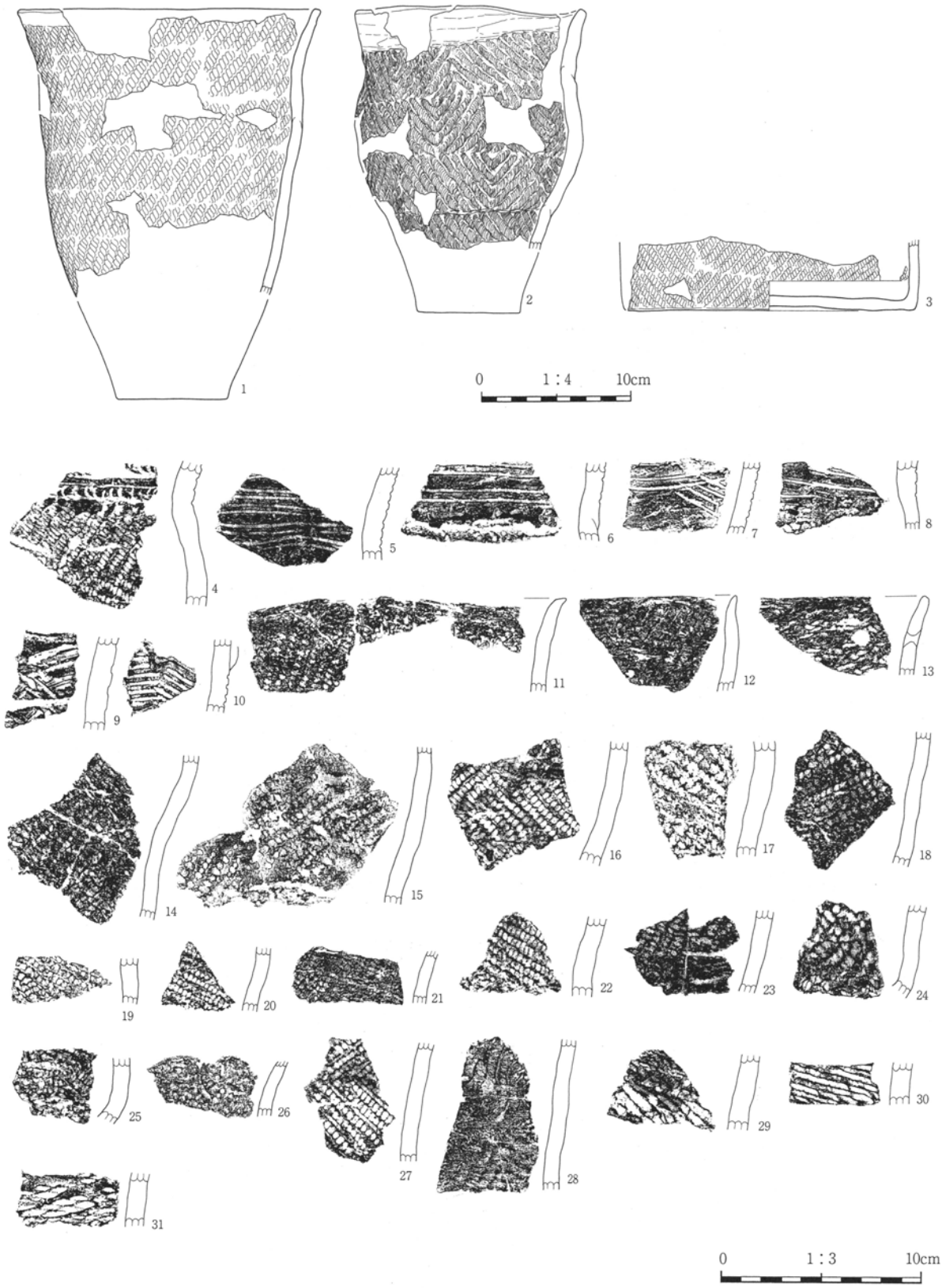
遺物出土状況　住居内覆土全体に土器片が散在する。

32号住居出土遺物

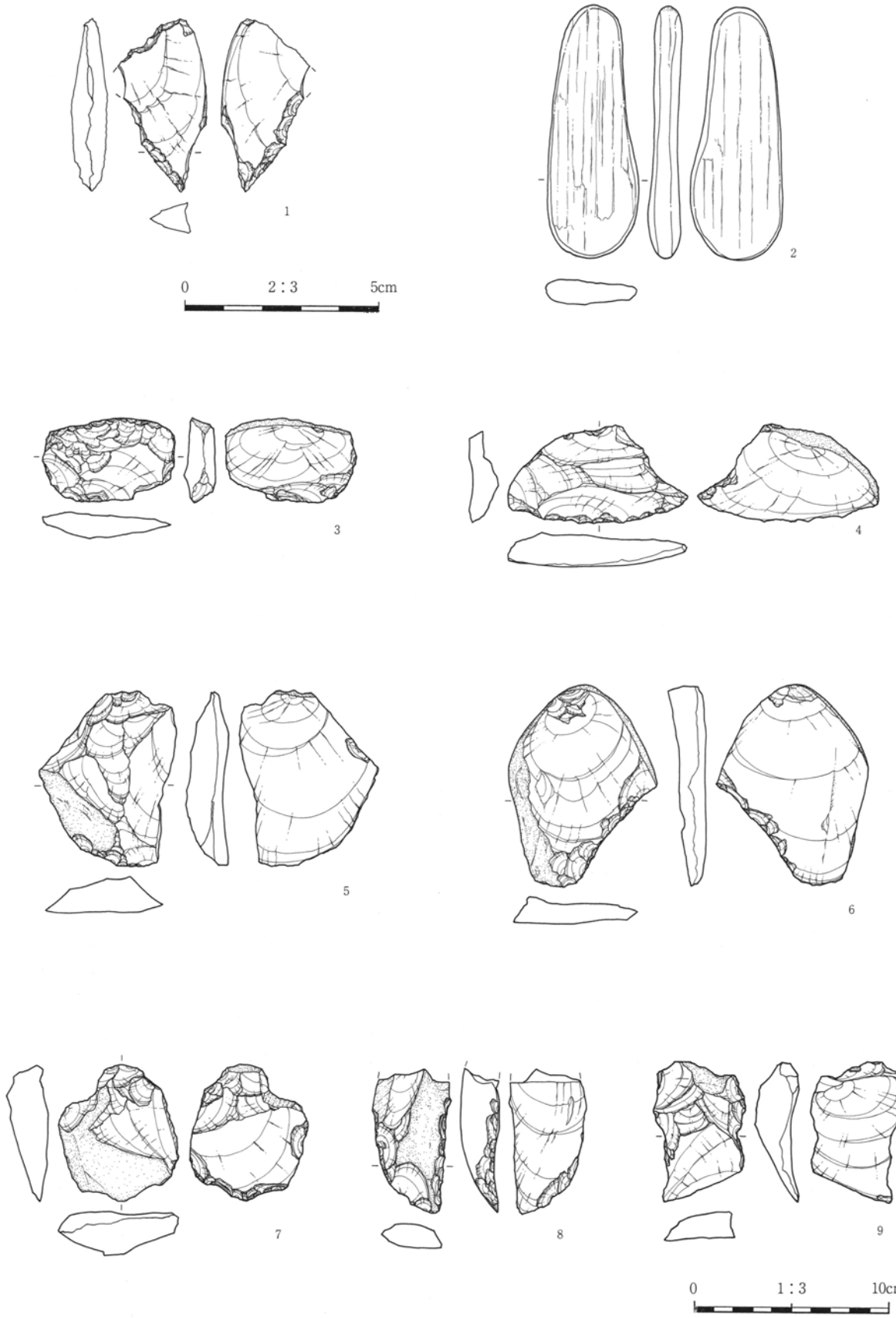
土器　器形を復元できたものは３点である。いずれも黒浜式土器で、縄文のみ施文する土器群である。１は推定口径20.5cm、現存高19.2cmを測る口縁部の開く深鉢形土器で、単節 LR の斜縄文を施文する。２は推定



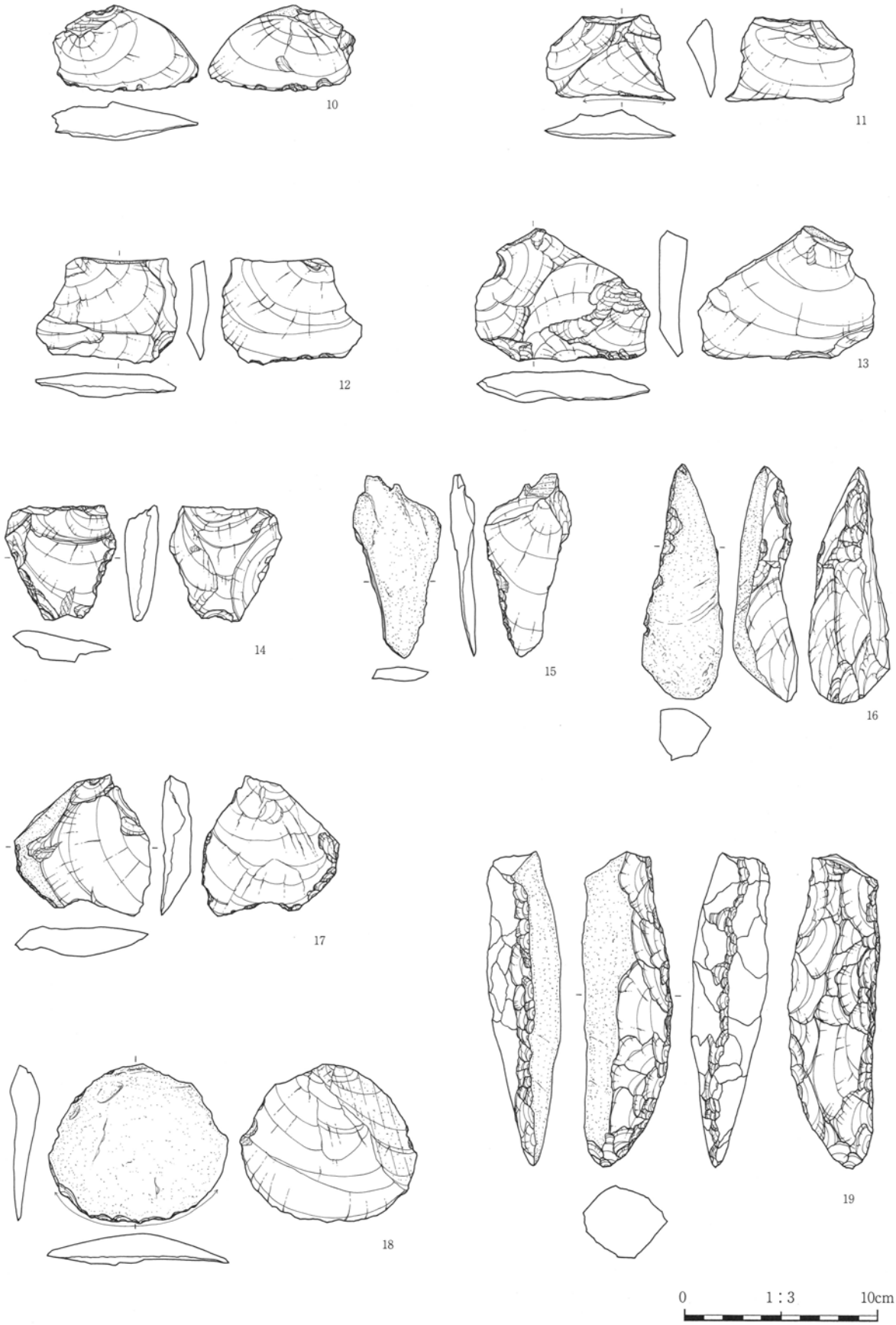
第９図　32号住居高低図



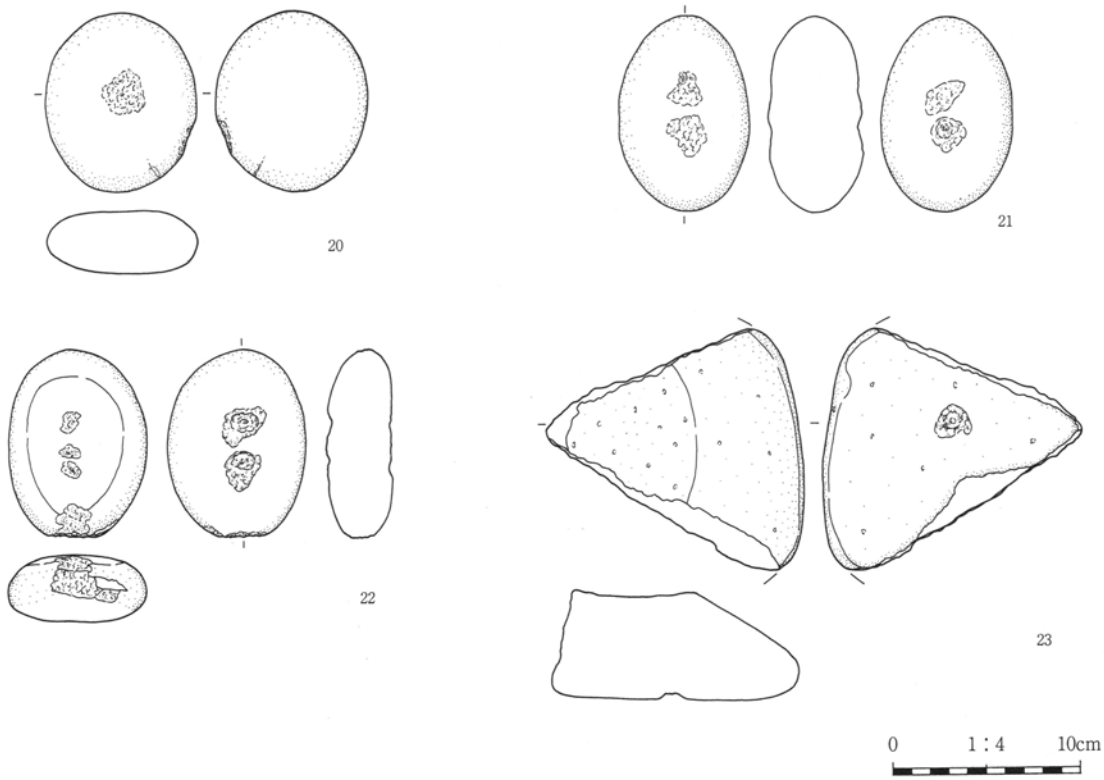
第10図　32号住居出土遺物 1



第11図　32号住居出土遺物２



第12図　32号住居出土遺物３



第13図　32号住居出土遺物４

口径15.8cm、現存高16.2cmを測る胴部がやや膨らむ深鉢形土器で、無節Ｒとｌの羽状縄文を施文する。３は推定底径20cm、現存高５cmを測る底径の大きな深鉢と思われるが器形は不明であり、比較的薄い器壁で、単節 RL と LR の羽状縄文を施文する。４～10はいわゆる有文土器で、４は爪形文で、６～10は平行沈線文で、菱形状のモチーフを描くものと思われる。４は胴部に単節 RL と LR の羽状縄文を施文する。10は口縁部付近の破片と思われ、縦位の棒状貼付文を垂下させる。11～31地文のみのいわゆる無文土器である。11～13は口縁部破片で、14～31は胴部破片である。11、13は口縁部が開き、12はやや内湾気味に立つ器形を呈する。地文は一覧表の通りである。

石器　出土している石器の点数は比較的多いが、定型的な石器は少ない。特に石鏃などの小型石器類はほとんどなく、１の剥片の末端に錐状の機能部を作出したもの以外は図化すべき資料はほとんど見当たらない。組成する石器の半数近くに二次加工が認められるが、それは主に、黒色頁岩や黒色安山岩の剥片を素材とし、その縁辺に粗い二次加工を施したもので、掻器、削器などと同様の機能を想定させる（３～18）。そのうち３に関しては、剥片の上下から剥離が施されており、楔形石器としての機能も評価した。これらの石器の素材となる剥片の形状には規格性が乏しく、一部に礫面を残すものが多い。二次加工も粗く、鋸歯状を残したり、不連続なものが多い。

10～13・18に見られる、微細な剥離は、機能部を作出する意図的な二次加工を加えたというよりも、剥片の鋭利な１辺をそのまま使用したため刃こぼれと考えられる。いわゆる「臨機的」な石器が主体をなすといえるだろう。石斧類が破片資料を含め、ほとんど認められないのも特筆すべき点だろう。磨石類は、円礫の中央に敲打による窪みが観察できるものが多く比較的中型から小型のものが多い。石皿は破片が１点出土している。特記する石器としては19の角錐状の石器が上げられよう。大型の剥片を素材として、礫面を残している。面的な加工で成形し、左右の側縁は細かな剥離がさらに加えられている。やや風化が激しいが、側縁

にはつぶれが見える部分もある。末端部は側縁の加工により細くなり、端部からの加工も加わり、ピック状となる。

57号住居

位置　72-G. H-16グリッド　標高112.9mから113.0mの東向き緩傾斜部に立地する。周辺には縄文土器が比較的多く散布している。特に北側では濃密で、H17グループとした遺物集中地点が接し、土器の量や破片の大きさとしては本住居部分の方が希薄なほどである。

形態・規模　確認面では炭化物粒を含むやや暗い色調のローム再堆積土中に土器片が含まれるぼやけたシミ状の広がりとして捉えられた。土層断面では壁周辺にはブロック化した地山ハードロームが流れ込んでいる様子が捉えられたため、これを住居の範囲として認定した。長軸4.45m、短軸4.05mの東西にやや長い、ゆがんだ隅丸長方形の平面形を呈する。

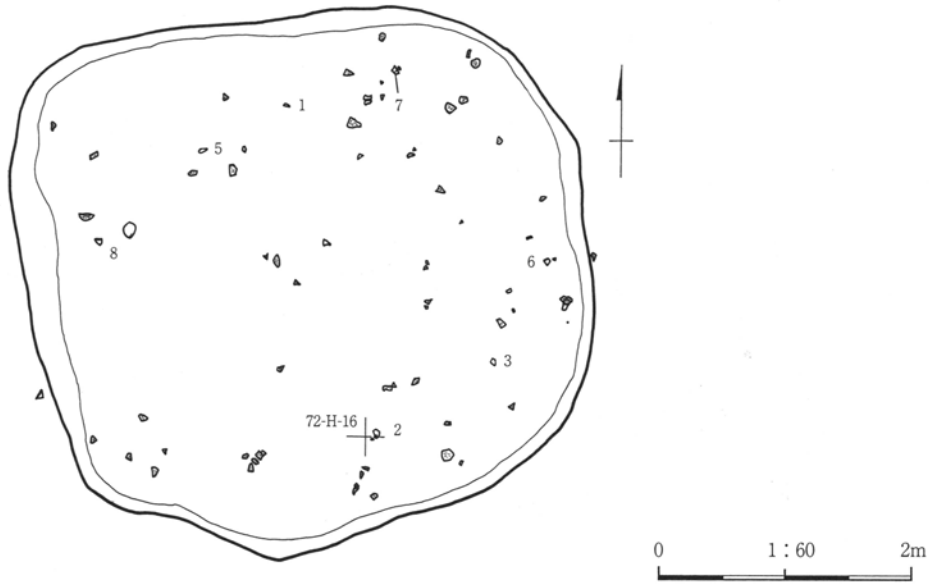
床・壁　掘削底面は確認面から25cmほどの深さのハードローム中に達している。北半が一段低く、南半が弱いテラス状に高まるが、全体に凹凸が多く、明確な床面は捉えられない。壁も明確に立ち上がる状態では捉えられていない。掘方の下底面近くのみが残存したものと判断した。南東隅近くに径40cmほど、深さ13cmのゆがんだ円形を呈するピットがある。表層の覆土は住居と共通する。

炉　確認できない。住居中央よりやや西に寄った位置に、径20cmほどの円形の範囲に灰白色粘質土が貼られたような状態で残されており、これが炉に関係するものであるかもしれない。

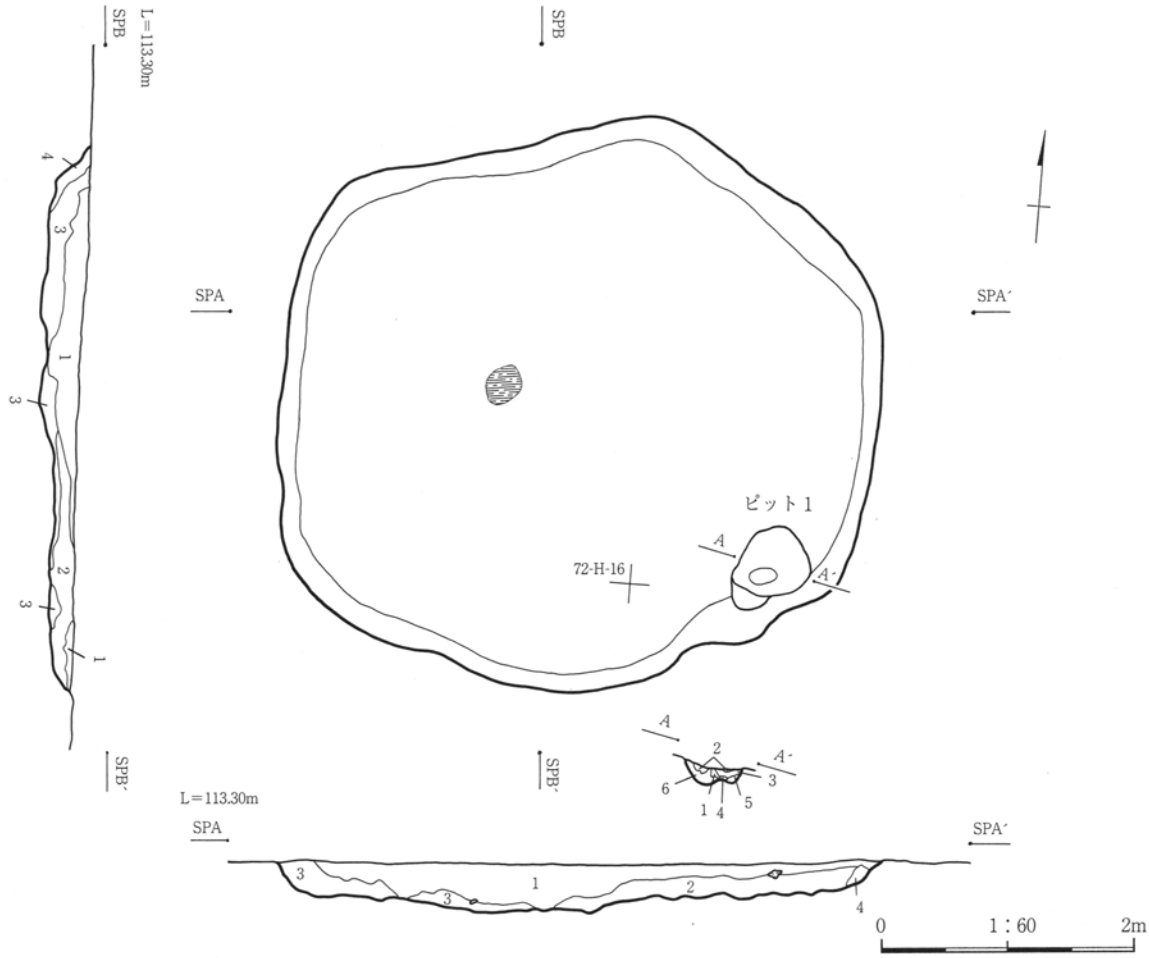
遺物出土状況　特定の集中傾向を持たず、覆土全体に土器片が散在する。

57号住居出土遺物

全て花積下層式に比定される土器群である。1は口縁部にRとLの側面圧痕文を施文するもので、2は折り返し状の段帯口縁部を形成するが、縄文を施文する。9の底部は尖底を呈し、胴部破片は0段多条RLの鋭角羽状縄文を施文し、6のみ横位羽状縄文を施している。同時期か、時期が異なるのか、花積下層式の中でも新しい土器なのか判断が難しい。あまり石器数は多くない。グリッド出土石器と類似した傾向をもつ。



第14図　57号住居遺物出土状況

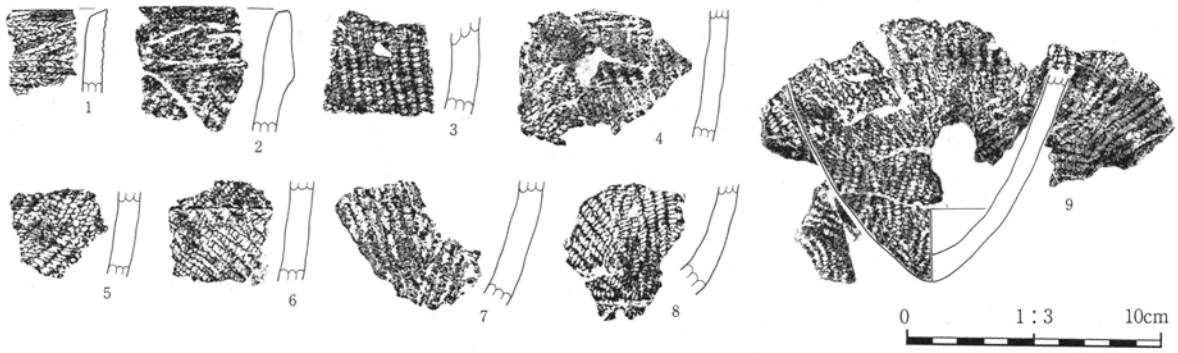


57号住居　土層観察所見

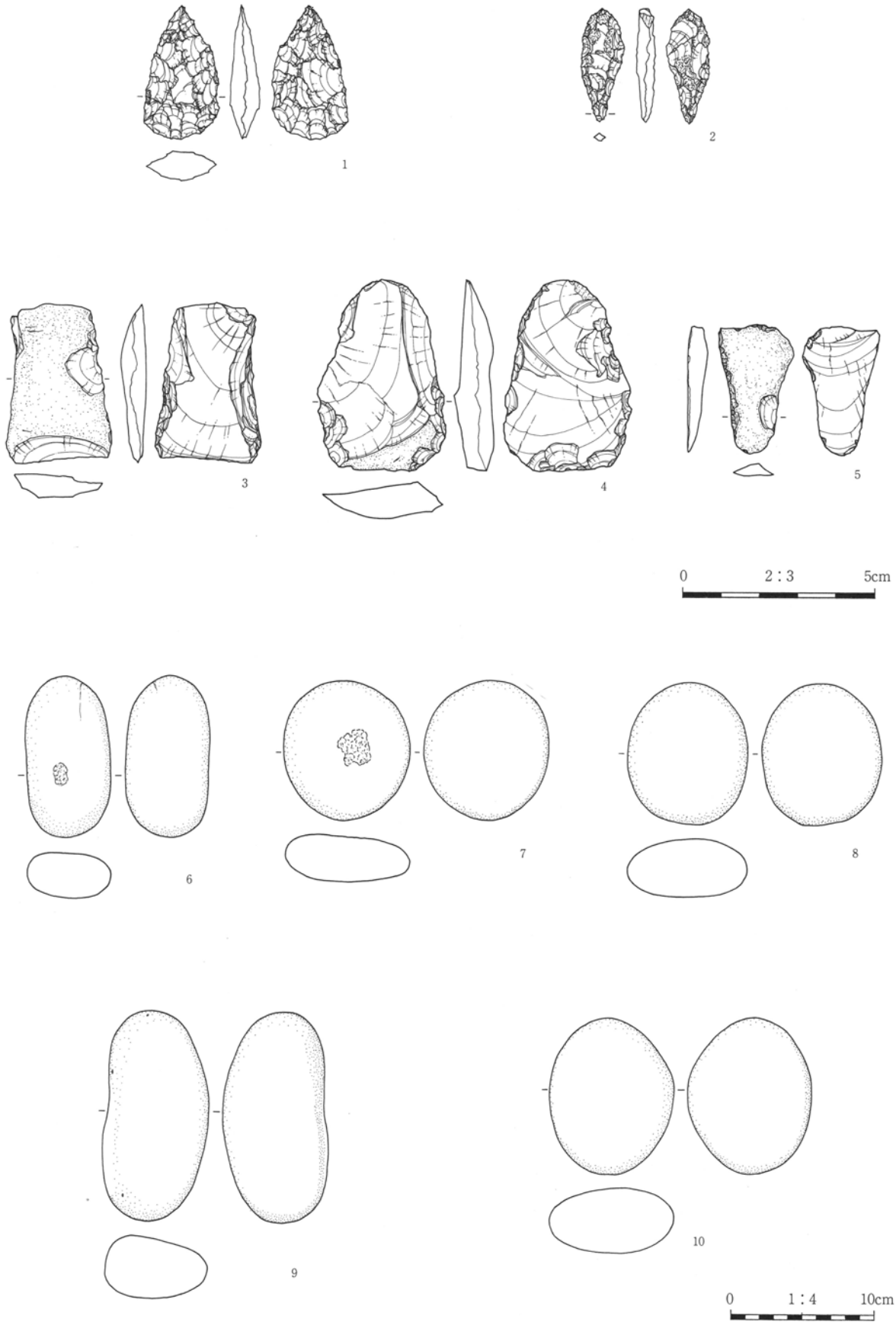
1　10YR4/6　褐色壌土　灰白色軽石粒、焼土粒を含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性なし。
2　10YR4/6　褐色壌土　灰白色軽石粒含む。１層より硬く締まる。粘性なし。
3　10YR5/6　黄褐色壌土　灰白色軽石粒含む。硬く締まる。粘性なし。
4　10YR4/6　褐色壌土　10YR6/6明黄褐色ロームブロックを含む。硬く締まる。粘性なし。

57号住居ピット１　土層観察所見

1　10YR4/6　褐色壌土　灰白色軽石粒を含む。やわらかい。粘性なし。
2　10YR4/6　褐色壌土　灰白色軽石粒、炭化物粒をわずかに含む。硬く締まる。粘性なし。
3　10YR5/6　黄褐色壌土　灰白色軽石粒含む。硬く締まる。粘性なし。
4　10YR4/6　褐色壌土　灰白色軽石粒を含む。やわらかい。粘性なし。
5　10YR5/6　黄褐色壌土　灰白色軽石粒をごくわずかに含む。やわらかい。粘性なし。
6　10YR4/6　褐色壌土　径３mm程度の黄橙色軽石粒を含む。炭化物粒を含む。硬く締まっている。粘性ない。



第15図　57号住居平面図　土層断面図　ピット土層断面図　出土遺物１



第16図　57号住居出土遺物２

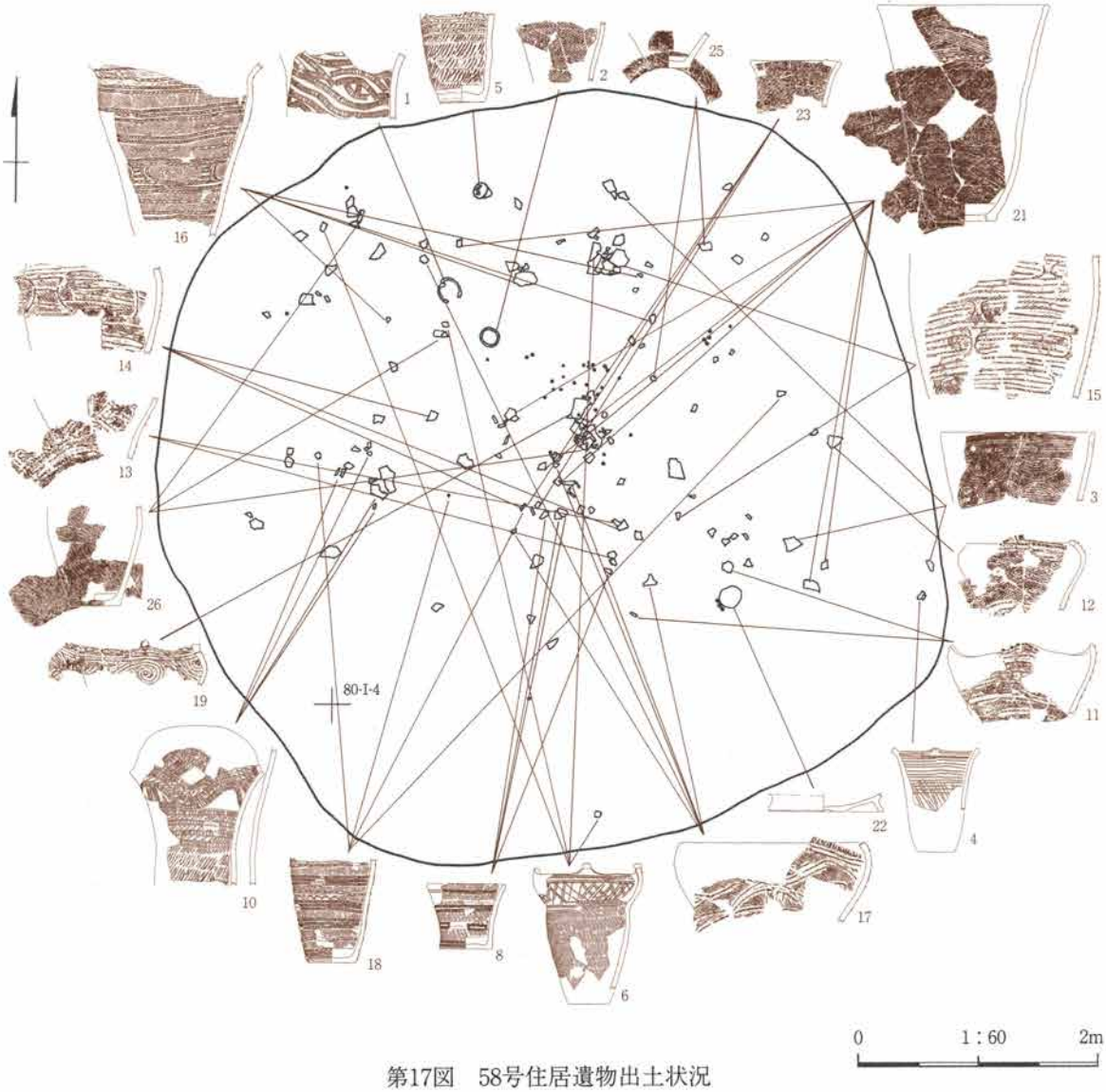
58号住居

位置　82-H.I-3.4グリッド　標高114.3mから114.5mの西向き傾斜部に立地する。この住居の西で斜度がかなり強くなり、いわば台地の肩に位置する。この住居周辺では表土直下面から縄文土器が多く出土している。57号住居や土器集中部とはかなり離れているが、109号から120号の12基の土坑、223ピットなどがまとまってこの周囲にある。110号、112号土坑は時期が近い。112号土坑はごく近接し、この住居中央部を切る土坑もあるが、110号土坑を含め、土坑のいくつかはこの住居に伴う屋外施設と見て良いだろう。

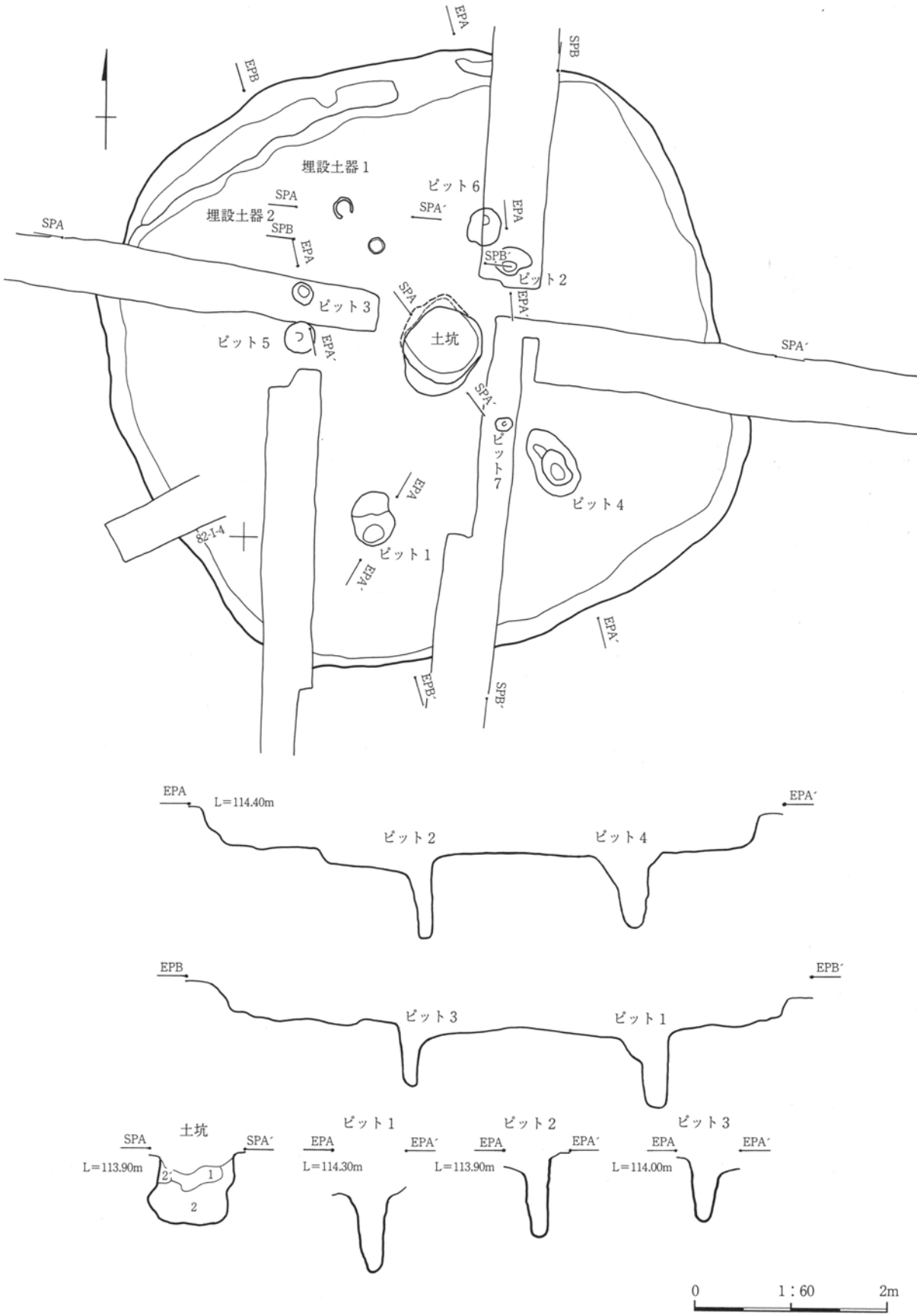
形態・規模　この地域特有のソフトロームを掘り込んで作られ、ソフトロームで埋没するため、試掘溝を併用して形状、規模の確認を行った。東西方向に長軸を置く。東西６m、南北5.45mほどの隅丸方形の平面形で、柱穴の南北方向は北から20°ほど西に振れる。

床・壁　残存壁高は30cmから35cmある。基本的に掘削底面にあたるロームを床面としている。柱穴が床面で４基あり、東西方向の柱間は２mほど、南北方向では2.4mから2.5mほど、ある。さらに床下精査時に南西柱穴をのぞく３基の柱穴に近接して古い柱穴の痕跡と思われるピットが見つかっている。

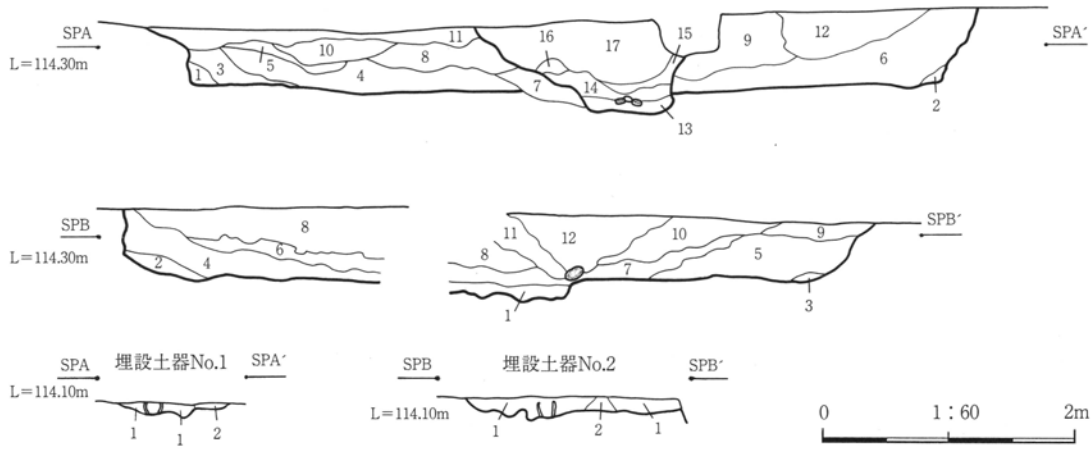
屋内施設　明確に炉と判断しうる施設はない。住居北部の柱穴に囲まれた範囲の外に２か所、土器が埋設さ



第17図　58号住居遺物出土状況



第18図　58号住居平面図　高低図　土坑土層断面図



第19図　58号住居土層断面図　埋設土器土層断面図

58号住居　Aライン土層観察所見

1　10YR4/6　褐色土　浅黄橙色軽石粒、灰白色軽石粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
2　10YR5/6　黄褐色土　灰白色軽石粒、焼土粒を含む。かたい。粘性なし。
3　10YR4/6　褐色土　灰白色軽石粒、焼土粒、炭化物粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
4　10YR4/6　褐色土　焼土、炭化物が３層より多い。かたい。粘性なし。
5　10YR4/6　褐色土　焼土、灰白色軽石粒を含む。４層より暗色。４層よりかたい。粘性なし。
6　10YR4/6　褐色土　焼土、炭化物が３層より多い。かたい。粘性なし。
7　10YR4/6　褐色土　灰白色軽石粒、焼土を含む。微細粒。やわらかめ。粘性なし。
8　10YR4/4　褐色土　焼土を含む。炭化物をおおくふくむ。非常にかたい。粘性なし。
9　10YR3/4　暗褐色土　焼土粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
10　10YR4/6　褐色土　焼土を含む。炭化物をおおくふくむ。非常にかたい。粘性なし。
11　10YR3/4　暗褐色土　焼土粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
12　10YR4/6　褐色土　焼土を含む。微細粒。やわらかい。粘性なし。
13　10YR4/6　褐色土　炭化物、焼土を微量含む。微細粒子。やわらかめ。粘性なし。
14　10YR4/6　褐色土　焼土、炭化物を多く含む。13層より暗色。13層よりかため。粘性なし。
15　10YR4/6　褐色土　焼土粒を微量含む。14層より赤みがかる。14層と同じかたさ。粘性なし。
16　10YR4/6　褐色土　焼土粒多い。微細粒子。14層より暗色。やわらかめ。粘性なし。
17　10YR4/6　褐色土　焼土粒、炭化物を含む。やや明色のブロックを含む。硬く締まる。粘性なし。

58号住居　Bライン土層観察所見

1　10YR5/8　黄褐色土　炭化物、灰白色軽石粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
2　10YR4/6　褐色土　灰白色軽石粒を含む。かたい。粘性なし。
3　10YR6/6　明黄褐色壌土　非常に細かい粒子からなる。浅黄橙色軽石粒を含む。硬く締まる。粘性なし。
4　10YR5/8　黄褐色土　炭化物、灰白色軽石粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
5　10YR5/6　黄褐色壌土　浅黄橙色軽石粒を含む。硬く締まるが、３層土より粗い粒子。
6　10YR4/6　褐色土　灰白色軽石粒を含む。やわらかい。粘性なし。
7　10YR4/6　褐色壌土　炭化物を含む。浅黄橙色軽石粒を含む。５層土より暗色。硬く締まる。粘性なし。
8　10YR3/4　暗褐色土　焼土粒を含む。６層より硬く締まる。粘性なし。
9　10YR5/6　黄褐色壌土　５層より暗色。５層よりやわらかい。粘性なし。
10　10YR4/6　褐色土　径２mm以下の浅黄橙色軽石粒を含む。７層よりやわらかい。粘性なし。
11　10YR3/4　暗褐色土　焼土粒、炭化物を含む。浅黄橙色軽石粒を含む。８層と同程度の堅さ。粘性なし。
12　10YR4/6　褐色土　焼土粒、炭化物を含む。やや明色のブロックを含む。硬く締まる。粘性なし。

58号住居埋設土器１・２　土層観察所見

1　7.5YR4/6　褐色土　ロームに黒褐色土が混じる。白色からクリーム色の軽石粒（As-ok あるいは As-YP か）をわずかに含む。焼土がわずかにある。やや軟質。
2　7.5YR5/8　明褐色土　地山と同様のロームを主体とし、わずかに黒褐色土が混じる。１層と同様の軽石粒をわずかに含む。１層より固いが、地山よりやや軟らかい。
※　土器下面付近の地山は特に固く締まっている。

58号住居　土坑セクション

1　7.5YR4/6　褐色土　ローム粒多く、斑状に濃く含む部分が特に壁際に多い。白色軽石粒（As-ok か）を含む。炭化物はほとんどない。
2　7.5YR4/6　褐色土　１層とほぼ同じ。炭化物片を少量含む。
3　7.5YR3/4　暗褐色土　ローム粒を少量含む。径１cm以内の炭化物片を含む。白色軽石粒を少量含む。やや軟質。

れている。埋設土器１は最大径21.5cmほどの深鉢の胴部を埋め込んだもので、埋設土器２は径15cmほどの深鉢の胴部である。

遺物出土状況　上記埋設土器のほか、多量の土器片が出土している。特に住居中央部の覆土中に多いが、これはこの住居を切って掘り込まれた土坑の影響があるのかもしれない。北白川下層式と思われる土器8は住居中央部でやや高い位置から出土している。

58号住居出土遺物

土器

出土土器群は殆どが前期後葉の諸磯b式土器群であり、沈線文系、爪形文系、浮線文系土器群が出土している。土器群の様相から若干の時間差のある土器群が出土しているが、大半はb2式古段階の土器群と思われる。系列的な要素に分けて説明を加える。

埋甕

まずは、住居跡に直接付随する埋甕であるが、１は埋設土器１であり、最大径約21.5cmを測る深鉢土器の胴部を埋設したもので、諸磯b式の爪形文系土器である。右下に流れるような波状モチーフとやや崩れたレンズ状文を爪形文で描くものである。諸磯b1新～b2式古にかけての所産と思われる。

２は埋設土器２であり、推定最大径14.8cm、現存高10cmを測る深鉢の胴部で、結束の羽状縄文を施すものである。

覆土出土土器

沈線文系土器（3～7、27～34）

３は推定口径26cm、現存高15.5cmを測る深鉢で口縁部と胴部を平行沈線で区画し、胴上半部に平行沈線による上下対弧状の重弧文を施文するもので、区画間にはランダムに円形竹管文を１個か２個施文する。地文は単節 RL を施文する。

４は推定口径14.8cm、現存高10.2cmを測る口縁部の開く深鉢で、口縁に４単位の小突起が付くものと思われる。口縁部には横位の並行沈線文を多段に施文し、胴部に斜位から縦位方向の粗い沈線文を施文する。

５は底径7.5cm、現存高15cmを測る深鉢で、胴下半を現存する。間隔の開いた平行沈線文で胴部を区画し、地文に無節 L を施文する。

６は推定口径16cm、現存高20.5cmを測る深鉢で、口縁部が内湾し、頚部で括れる器形を呈し、口縁部に４単位の小突起が付くものと思われる。口縁部は上下を平行沈線で区画し、斜格子目文を描くもので、若干張る胴部の地文には単節 RL を施文する。

７は推定口径22cm、現存高16.5cmを測る深鉢で、口縁部が大きく外反する器形を呈する。外反する口縁部には平行沈線で斜格子目文を、胴部には弧線や直線文を組み合わせた変形木葉文系の崩れたモチーフを描き、胴部地文に単節RLを施文する。口唇上には押圧状の刻みを施す。

27～34は沈線文系土器群の破片で、27は３と同様な対弧状のモチーフであるが、上段部分がレンズ状モチーフとなっている。口縁部に小突起を持つ。28は単節 RL 縄文上に平行沈線で連続するモチーフを描くが、構成は不明瞭である。やはり口縁部に小突起を持つ。29～34は口縁部に平行沈線で斜格子目文を描くもので、30、32のように地文に縄文を施文するものや、31、33のように構成がやや崩れているものがある。33、34は接合しないが７と同一固体である。

爪形文系土器（8～10、35～50）

８は推定口径13.2cm、底径９cm、器高11cmを測る小型の鉢形土器で、口縁部が段帯状に肥厚し、幅狭の爪形文で口縁部、胴部、底部を区画する、胴部は爪形文で長方形の区画文を施し、単節RLを施文する。赤彩された土器である。

９は推定口径23.2cm、現存高16cmを測る波状口縁の深鉢で、幅広の爪形文によるレンズ状文やレンズ状文が連結した渦巻文を施文する。モチーフの間にはランダムに円形竹管文を施文する。

10は推定口径23cm、現存高22.5cmを測る２単位大波状口縁を呈する深鉢と思われ、爪形文間に刻みを挟む幅広爪形文で波状文を描き、部分的に垂下する区画文を施す。胴部の区画には同種の爪形文を４段に施文し、地文に無節Lを施文する。

35は外反する口縁部に低隆帯が２条めぐり、細かな刻みを施す。口縁部は幅広の爪形文で区画される。37は幅広爪形文で波状文と渦巻文を組み合わせたモチーフを描き、区画内に円形竹管文を施文する。45～47も刻みを施さない幅広爪形文で波状文やレンズ状文を描く。36・38は刻みを挟む幅広爪形文で波状文と渦巻文を施文するもので、対の円形竹管文をランダムに施文する。39～44は刻みを挟む幅広爪形文でモチーフを描くものであるが、円形竹管文を施文しないものである。39～41は同一固体で、角頭状口唇部には押圧状の刻みを施す。48～50は２単位大波状口縁深鉢の口縁部破片であり、48、50には波頂部と波底部の間の口縁部に台形状の突起が付く。

浮線文系土器（11～20）

11は推定口径24.5cm、現存高12cmを測る緩い波状口縁深鉢で、縄文を転がす浮線文を口縁部から胴部にかけて多段に施文し、口唇部には小貼付文を等間隔に施文する。地文は不明瞭であるが、単節RLとLRを施文する。

12は推定口径19.2cm、現存高12cmを測る平口縁土器で、左右非対称の突起が付く。大きく内湾する口縁部と胴部をやや太い浮線で区画し、刻みを施す。地文には、末端の結節回転文を持つ単節LRを施文する。

13は最大径21cm、現存高10.5cmを測る頸部から胴部にかけての破片で、刻みを施す太い浮線でモチーフを描くものである。

14～16は胴部に浮線の楕円区画文を施すもので、14は最大径24cm、現存高14.5cmを測り、地文と浮線上に単節RLを施文する。15は最大径32.5cm、現存高24.5cmを測る大形土器で胴部に楕円区画文を多段に施文する。浮線上には単節LRを施文する。16は最大径30cm、現存高30.5cmを測る深鉢で、頸部で大きく括れる器形を呈す。胴部は１～３本単位の浮線で多段に区画し、部分的に短い浮線を挟む。胴下半部には楕円区画文を施文し、複数施文の浮線には異方向の刻みを施し、単独施文される浮線には大きな鋸歯状の刻みを施す。区画間には大きな円形竹管文を等間隔に施文し、地文に単節RLを施文する。

17は推定口径31cm、現存高13.5cmを測る深鉢の口縁部破片で、口唇部上には短い浮線を等間隔に施文する。口縁部は２～３本の浮線で大きな波状文を描き、部分的に垂下するモチーフを組み合わせている。浮線上には縄文を転がし、地文には単節 RL を施文する。

18は最大径14.8cm、底径8.5cm、現存高17.5cmを測る深鉢の胴部で、１本と３本単位の浮線を組み合わせて胴部を区画し、１本浮線には鋸歯状の刻みを、３本浮線にはそれぞれ異方向の刻みを施している。地文は単節 RL と LR の羽状を構成する。

19は推定口径24cm、現存高6.8cmを測るキャリパー形深鉢で、内湾する口縁部に浮線の渦巻文を連結するモチーフを施文する。口縁部には柱状の突起が付き、口唇上には横位連結の菱形状浮線文を施文する。

20は推定口径21cm、最大径31cm、現存高11.2cmを測るキャリパー形深鉢で、口縁部の内湾が強い。口縁部には３～４本の浮線で波状文を描き、その間にトメ文を持つ渦巻文を施文しており、浮線の刻みは同方向に施される部分が多い。

52～55、57、58は浮線上に縄文を施文するもので、52は波状口縁に沿って小突起を持つ。53は17と同一個体で、54は口縁部の浮線渦巻文部分に円形竹管文を施文する。57、58は楕円区画文を施文するものである。

56は口縁部の橋状把手で、把手の周辺に円形竹管文を施す。59～61はモチーフ間に円形竹管文を等間隔に施文するもので、やや太目の浮線で施文し、浮線上には異方向の刻みを施す。62、63はやや太めの浮線でモチーフを描くものである。

64～74は渦巻文を連結するモチーフを描くもので、64～66は柱状の突起が付く。68、69は口唇上に刻み状もしくは鋸歯状の浮線を貼付する。75～84は横位の浮線で胴部を区画するもので、85、86は底部に幅狭の文様帯を持つ。

87、88は浅鉢であり、87は内折する口縁部に刻みを施さない浮線でモチーフを描く。

89～92は浮線文の付く獣面把手で、89はややリアルな表現が採られており、若干古く位置付けられようか。92は形骸化した獣面把手で、顔の表現はなくなっている。

浮島式系土器

21は推定口径29.5cm、底径10.5cm、現存高36.5cmを測る深鉢土器で、口縁部に集合平行沈線の鋸歯状文を描いている。胴部には末端の結節痕を持つ単節 LR を施文する。胎土は若干砂質を帯びる。95は貝殻腹縁と思われるロッキング文を施すもので、96は21の胴部破片である。

他の土器群

93、94は同一固体であり、大きく外反する口唇部の内外面に深い縦位の刻みを施しており、大木４式的な要素が窺える。口縁部の無文帯下には、単節RLを施文する。

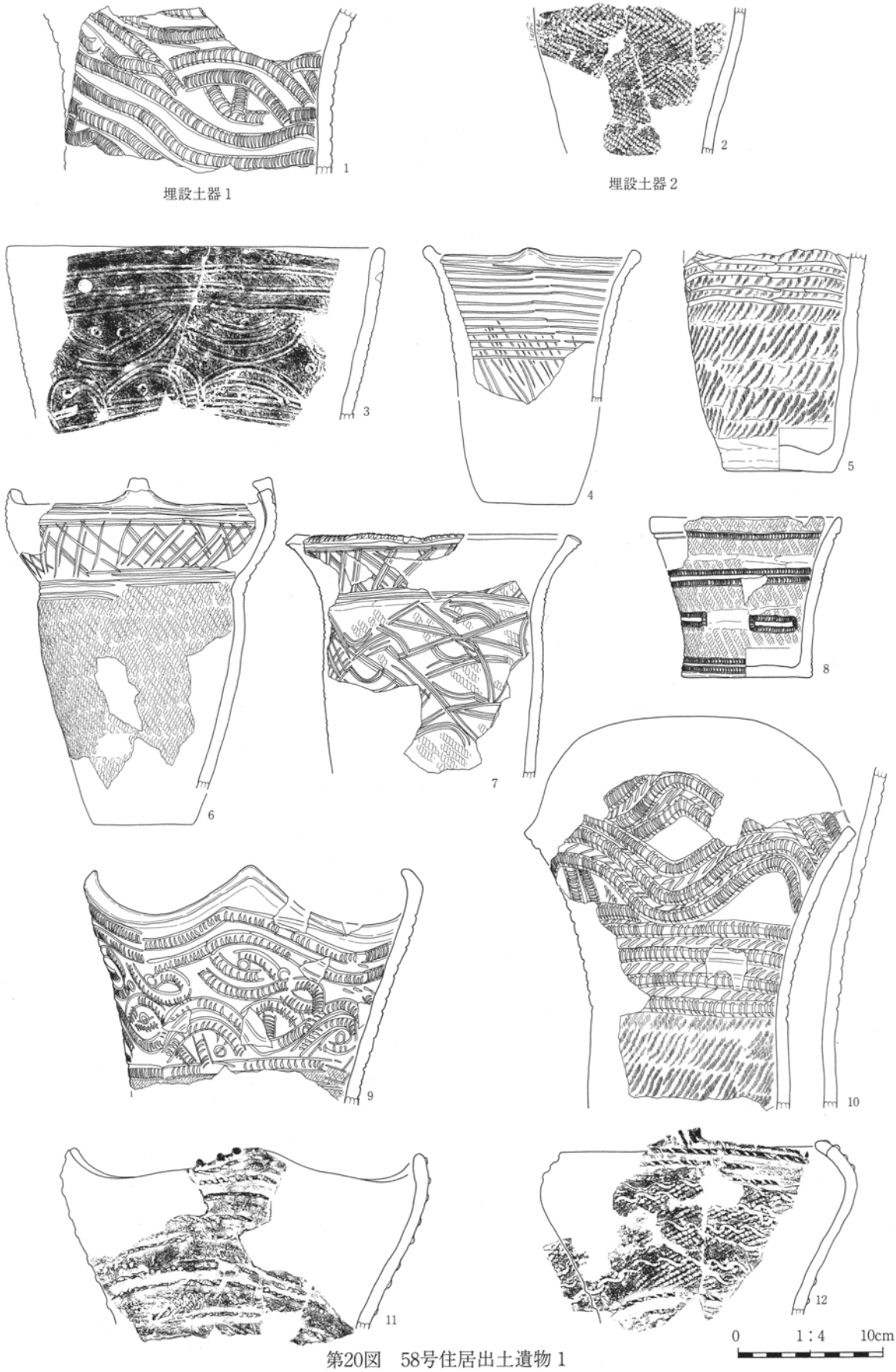
22は浅鉢の底部破片で、底径19.5を測る。底部外面には単節 RL を施文する。

23～26、72～87は縄文のみ施文される土器群である。23は推定口径15.5cm、現存高８cmを測る深鉢で、緩く開く口縁部に小突起が付く。地文は単節 LR で、末端の結節回転文が残る。24は最大径10.5cm、現存高５cmを測る胴部で、単節 LR を施文する。25、26は底部破片で、25は底径7.4cm、現存高６cmを測り、地文は単節RLである。26は底径8.8cm、現存高16.5cmを測り、地文に単節 RL を施文する。

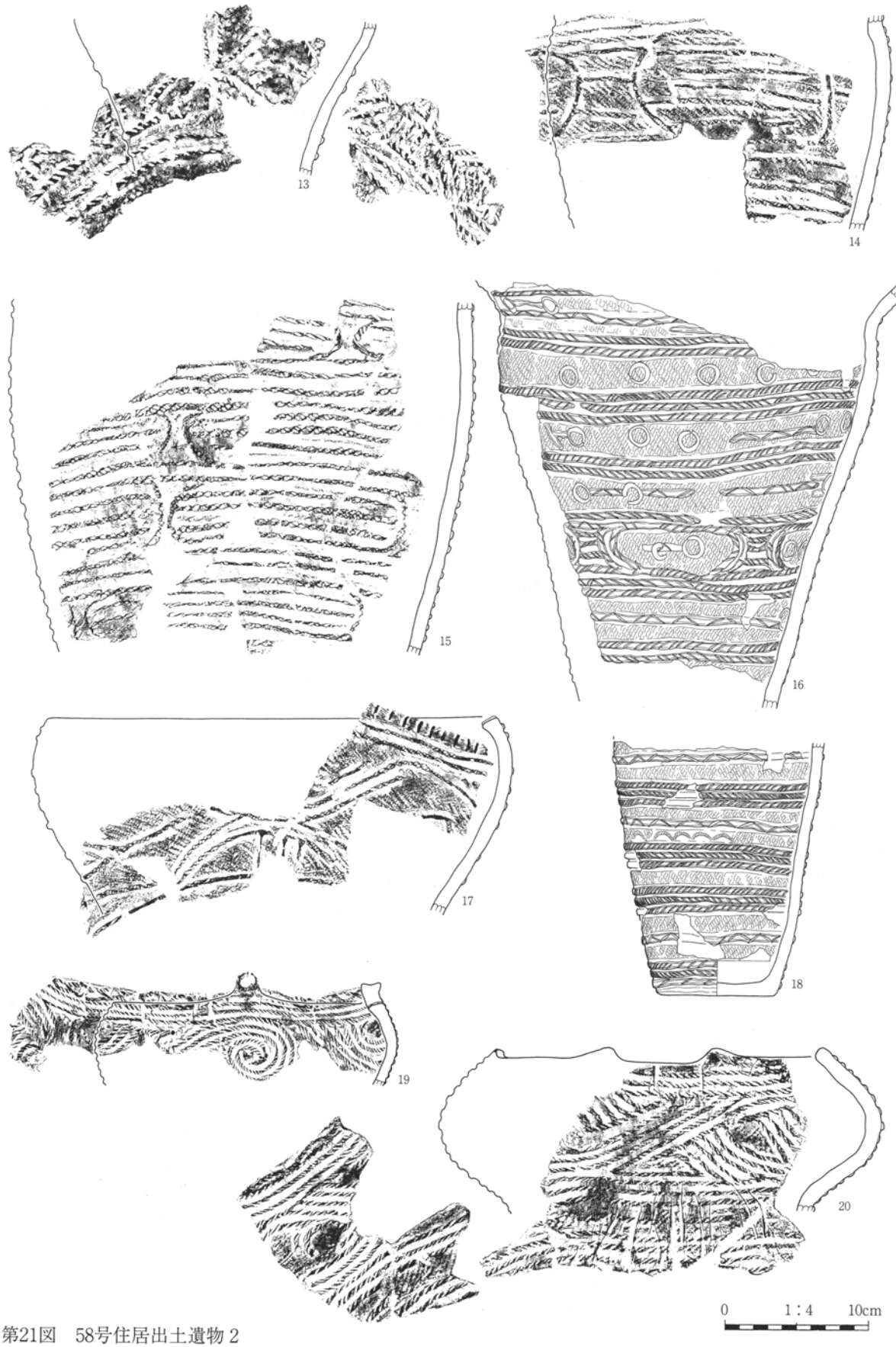
97～101は結束羽状縄文を施文するもので、102～111は単節の斜縄文を、112は無節のランダムな縄文を施文している。

石器

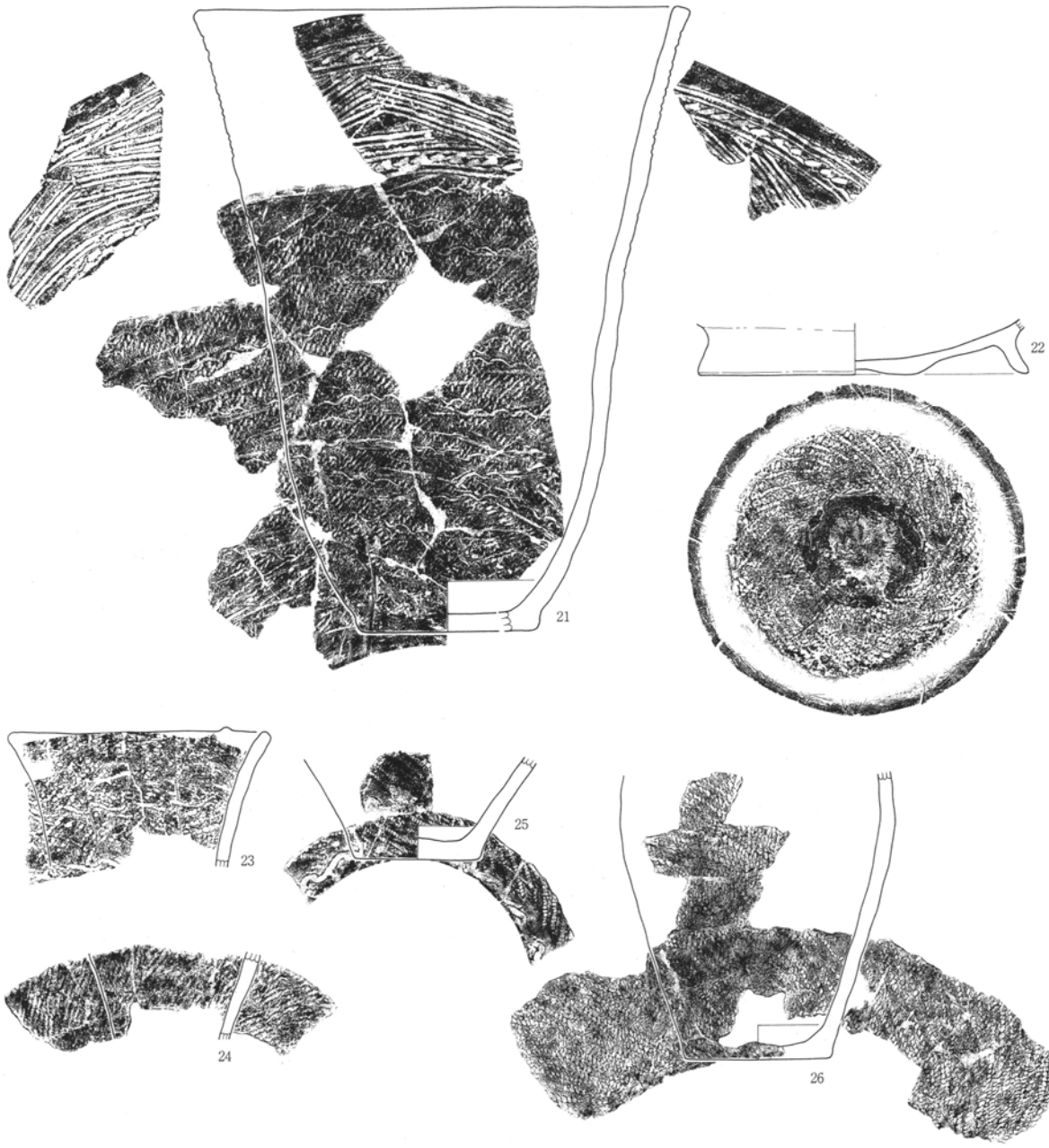
小型剥片石器では、石錐が他と比べ比較的多く出土しているほか、小型の黒曜石製の石核も組成している。やや大型の剥片石器は、32号住居と同じく、剥片の一部に簡単な二次加工を施すだけのものが目立つ。32は上下端に顕著な敲打痕が観察できるが、打製石斧や礫器を再利用したようにも見える。33や31も類似している。34は磨製石斧だが、先端部、基部とも欠損し表面には浅いくぼみ状の敲打痕跡が見られることから、敲き石として転用した可能性もある。



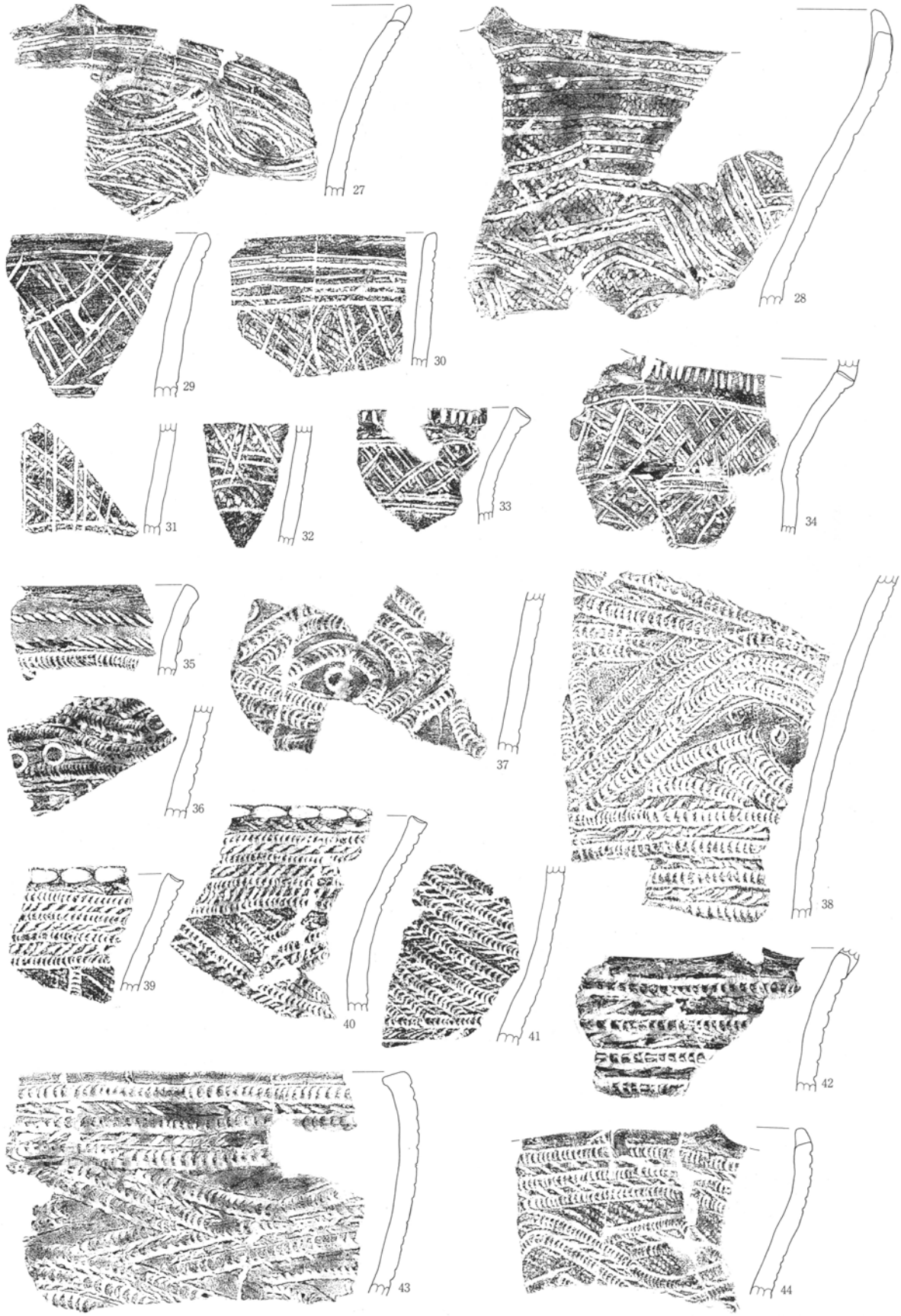
第20図　58号住居出土遺物１



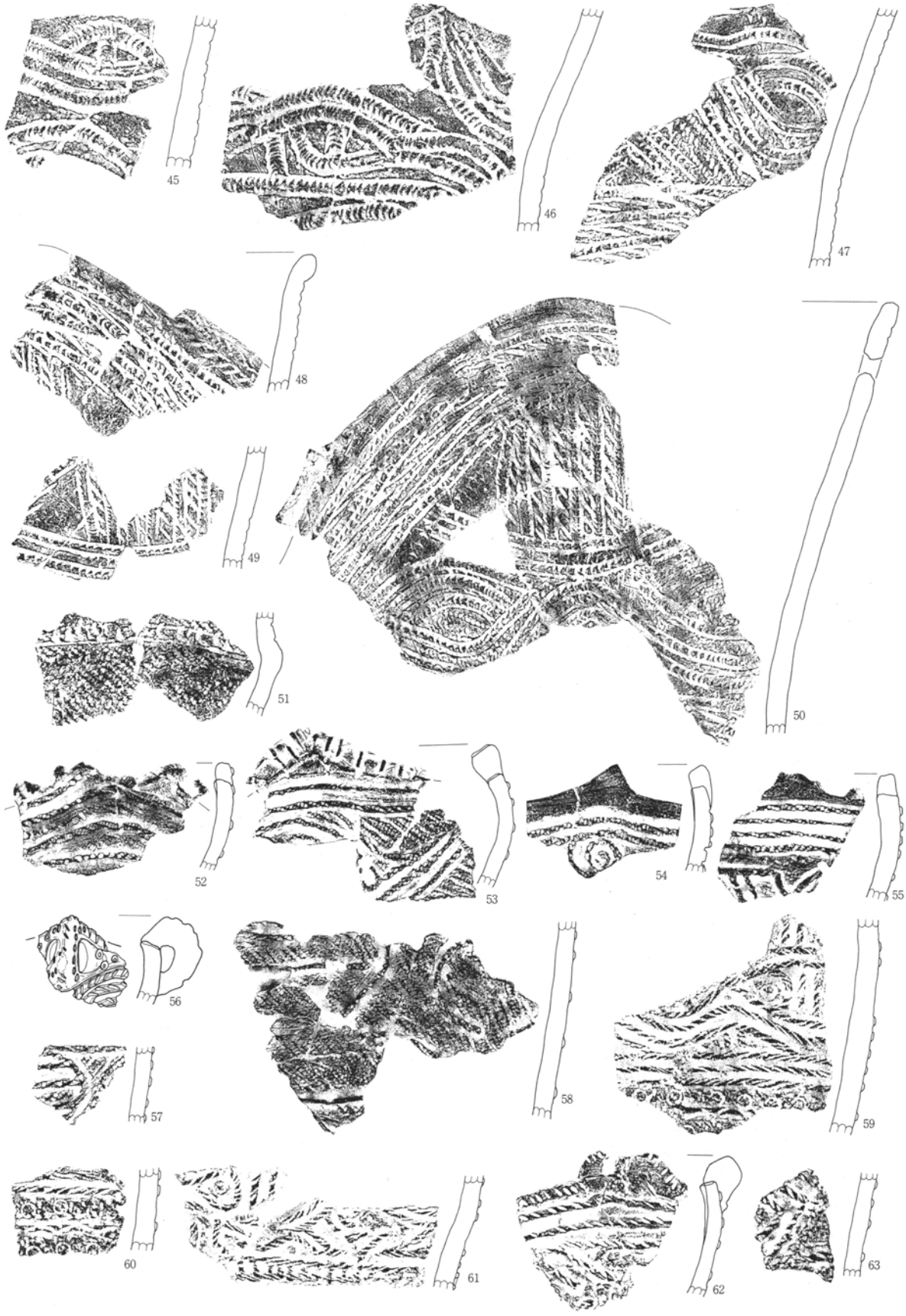
第21図　58号住居出土遺物２



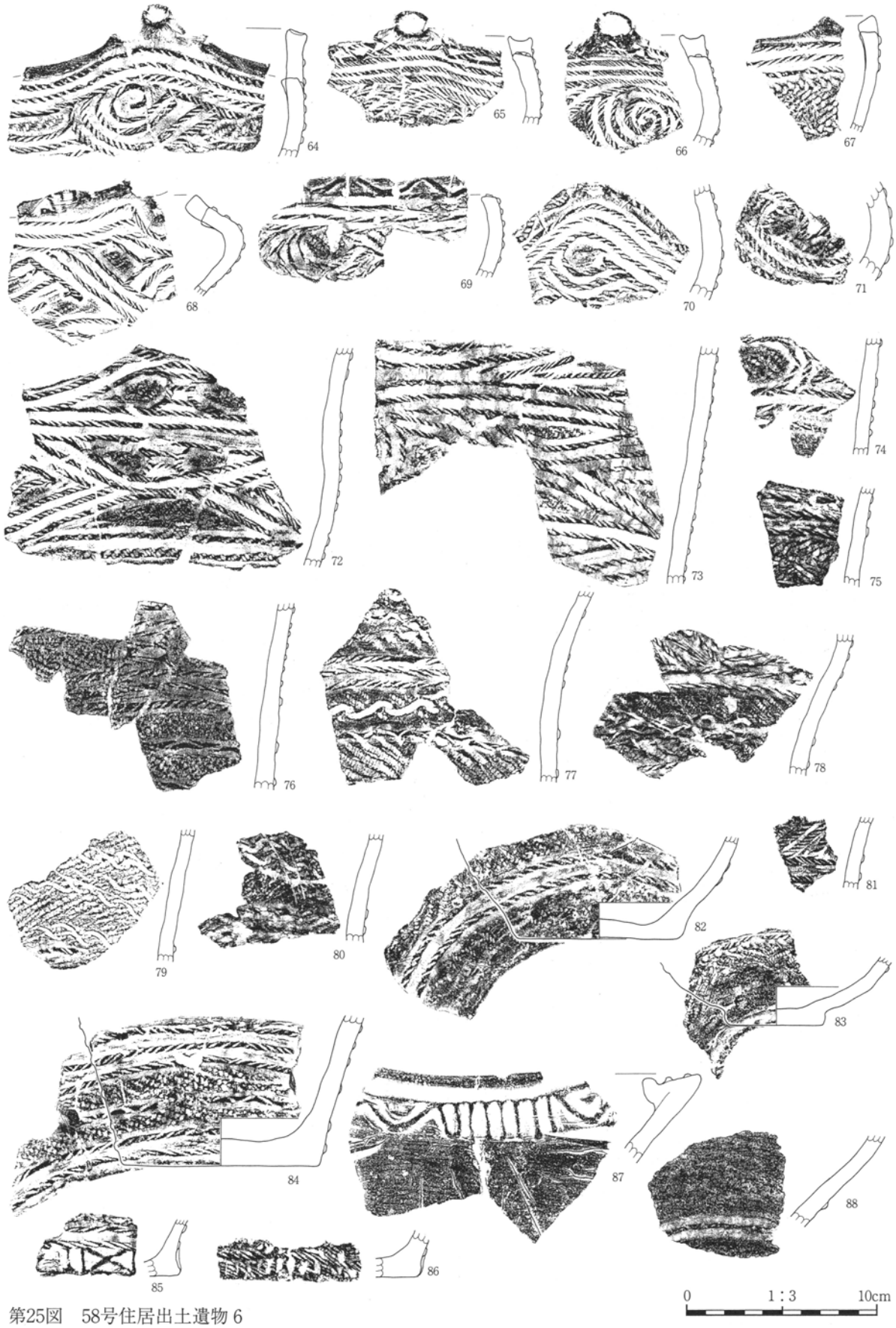
第22図　58号住居出土遺物３



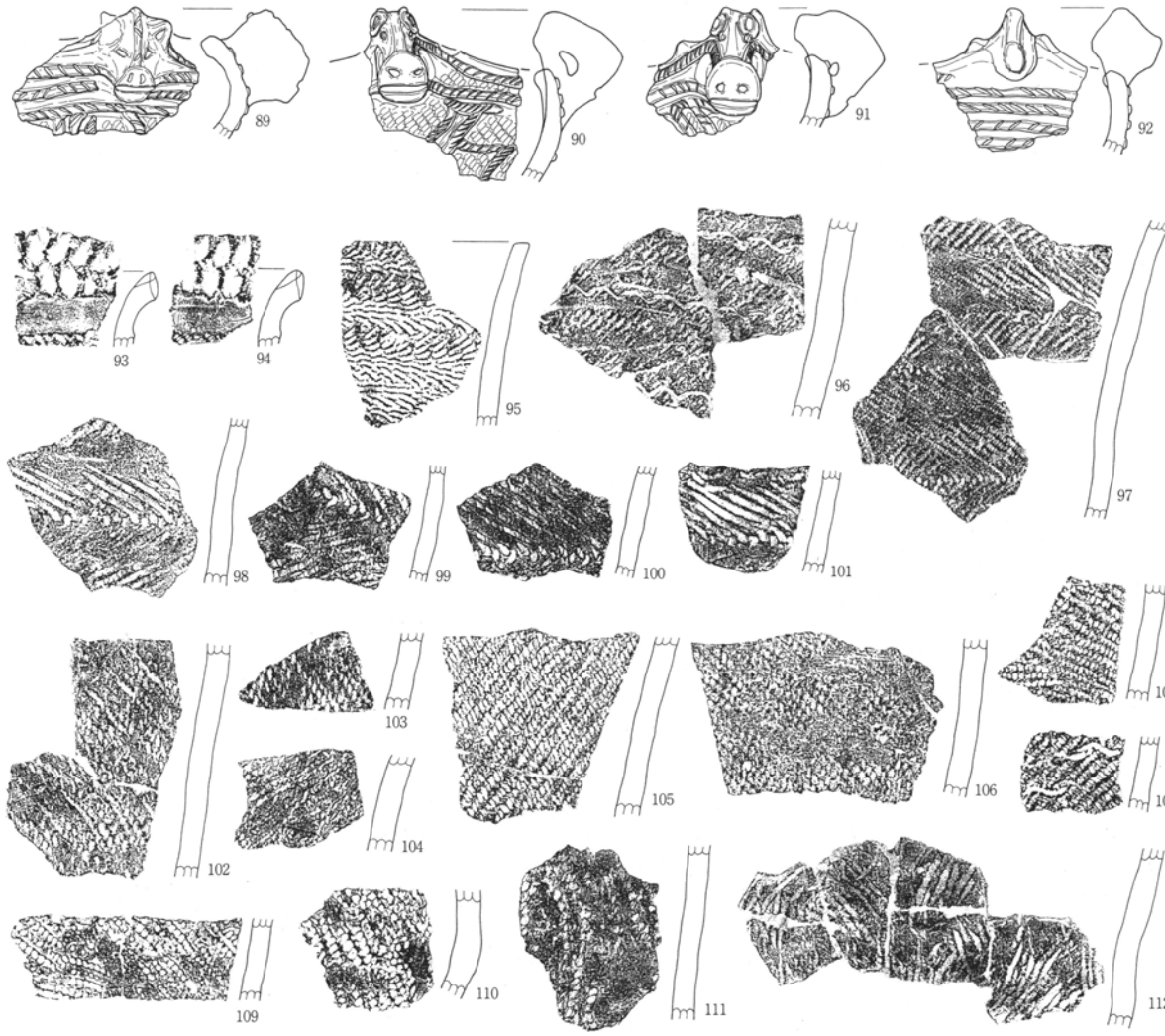
第23図　58号住居出土遺物４



第24図　58号住居出土遺物５

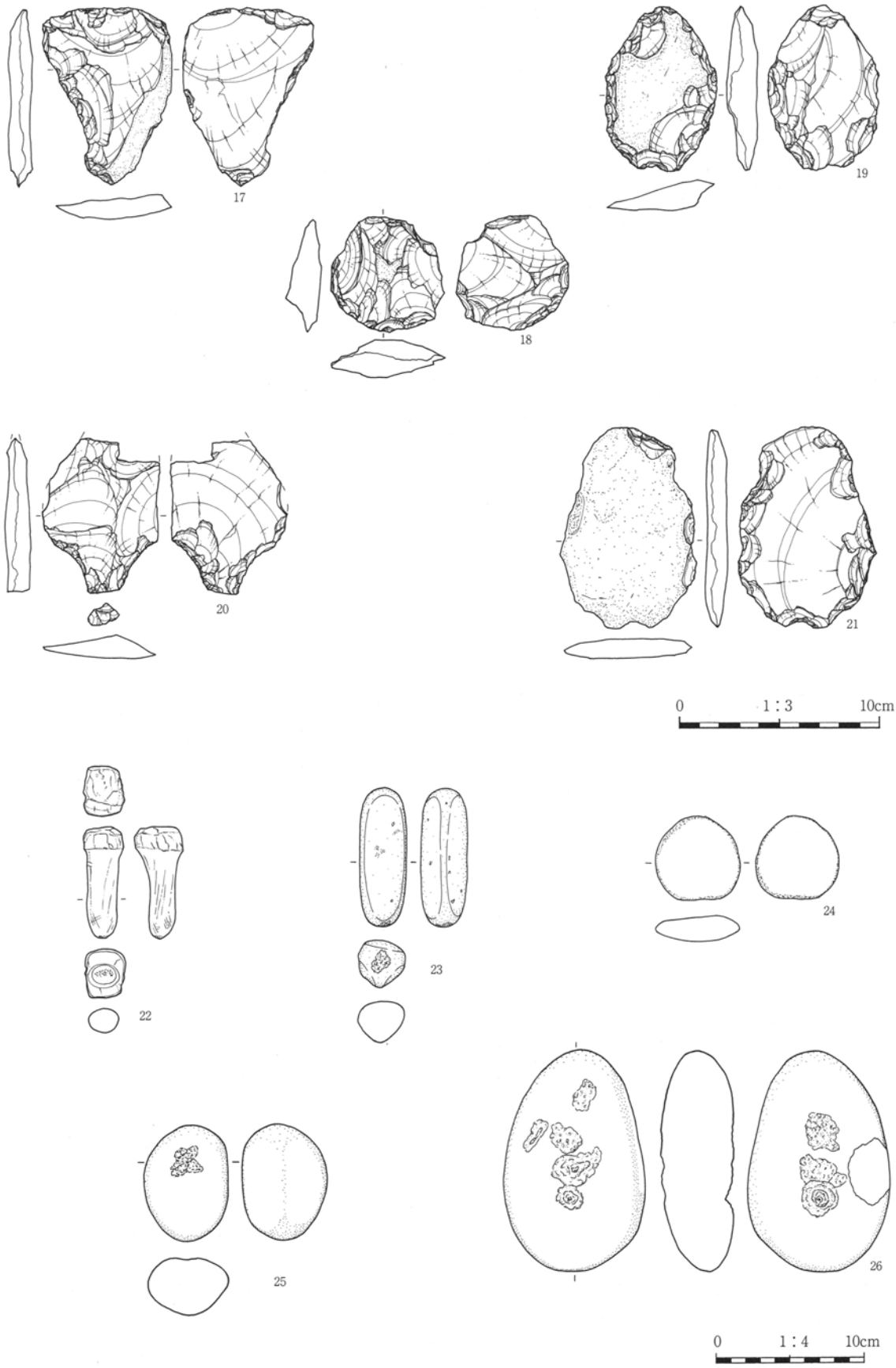


第25図　58号住居出土遺物 6

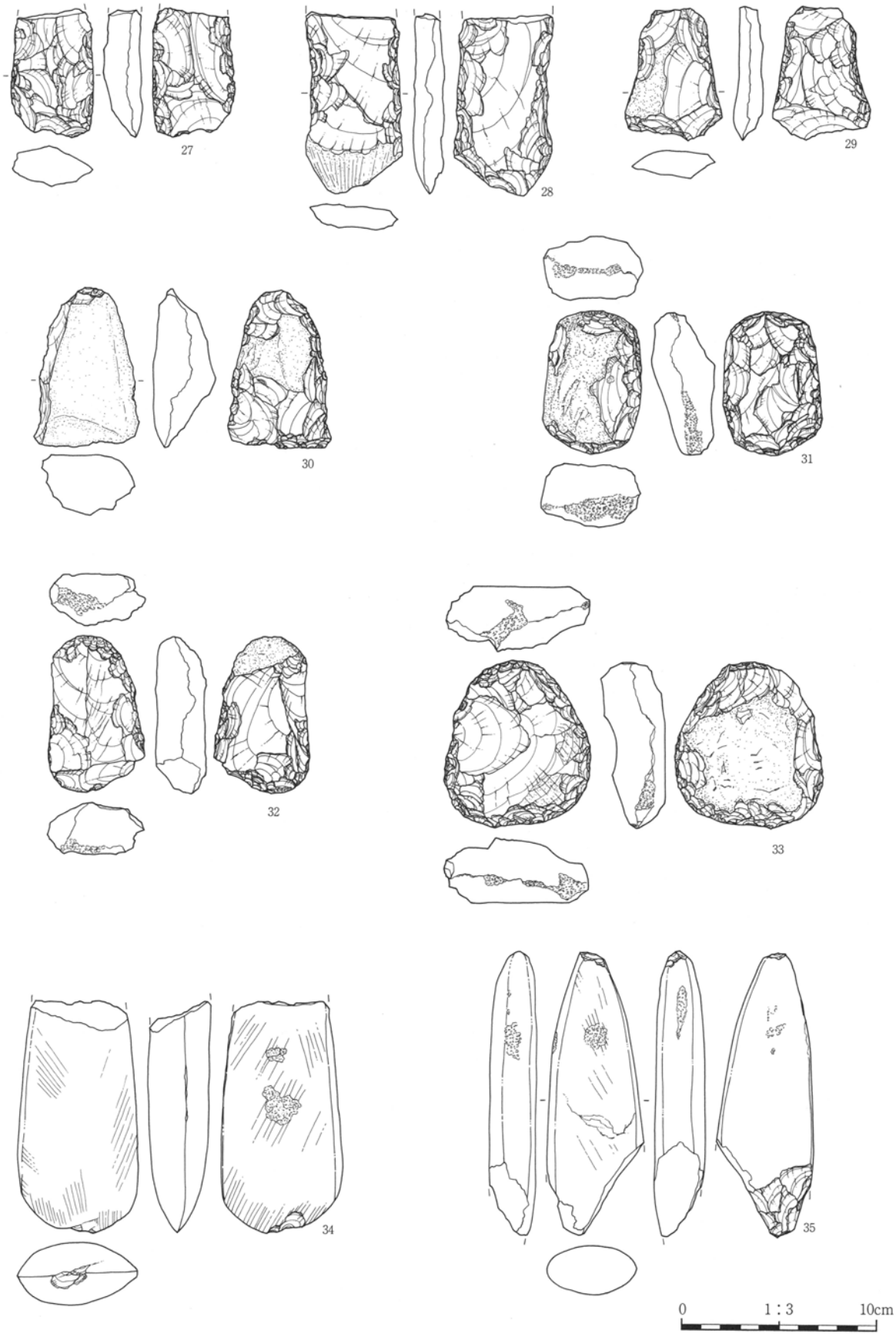


第26図　58号住居出土遺物７

第27図　58号住居出土遺物８



第28図　58号住居出土遺物９



第29図　58号住居出土遺物10

3　土坑・ピット

11号土坑　61-J-15グリッド　標高112.7mの東向き傾斜部に立地する。東部を欠くが、口径108cm、最大径126cm、深さ72cm。平面形は円形を呈し、断面形は袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土の主体は黒褐色砂質土で、炭化物粒をやや多く含む。出土土器は非結束縦位の単節羽状縄文を施文するもので、黒浜式と判定したが、縦位構成羽状縄文であることから花積下層式の可能性も残る。また、黒色頁岩、砂岩の剥片が出土している。

12号土坑　61-L-17グリッド　標高112.8mの東向き傾斜部に立地する。口径60cm、最大径113cm、深さ57.5cm。平面形は東西がわずかに長い円形を呈し、断面形は袋状で底面にはやや凹凸がある。ローム漸移層下部からソフトローム上面で検出している。２層が主たる埋没土で、炭化物粒を少量含む。１層は転圧後の流入土で、遺物は埋没が完了した頃、２層上面に混入したものかと思われ、この部分に多い。出土土器は胴上半部に平行沈線で菱形状のモチーフを施文するもので、有尾式系の土器である。また、砂岩、黒色安山岩の剥片が出土している。

13号土坑　71-K-1グリッド　標高112.9mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長146cm、短軸長106cm、深さ41cm。平面形は楕円形を呈し、本来は袋状の断面形状を有したものかと思われる。底面はほぼ平坦である。覆土の主体は明黄褐色土で、炭化物粒を少量含む。出土土器は平行沈線でモチーフを描くもので、有尾式系の土器と思われる。

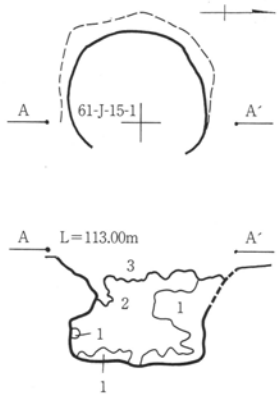
14号土坑　71-M-3グリッド　標高113mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長66cm、短軸長60cm、深さ43cm。平面形はいびつな円形を呈し、断面形はほぼ箱形である。底面は一部乱れるが、ほぼ平坦である。覆土の主体はしまった暗褐色土で、炭化物粒を含む。出土遺物はない。

15号土坑　71-L-1グリッド　標高112.8mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長114cm、短軸長110cm、深さ97cm。平面形はみだれた円形を呈し、断面形はほぼ箱形である。底面は東半部が弱い段を持って低くなる。黒浜式土器小片が出土している。

17号土坑　71-L-2グリッド　標高113mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長110cm、短軸長106cm、深さ42.4cm。全体の平面形は円形を呈するが、南東部が一段深くなっていて、この部分は楕円形をなす。断面形はほぼ箱形で、底面は平坦である。覆土の主体はにぶい黄褐色砂質土で、ローム小ブロックを含む。壁際に炭化物粒を含む部分がある。黒浜式と思われる土器小片および黒色頁岩の剥片が出土している。

18号土坑　71-M-3グリッド　標高113mの東向き傾斜部に立地する。南部を欠くが、長軸は南北方向にあるものと思われる。口径94cm、最大径158cm、深さ73.3cm。平面形はほぼ円形を呈し、断面形は袋状で、底面は平坦である。出土遺物はない。

11号土坑

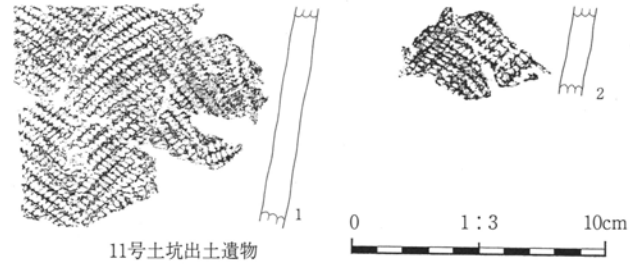


11号土坑土層観察所見

1　10YR4/4　褐色土砂質土　ローム粒、As-BPを含む。粘性やや強い。密で硬く締まる。

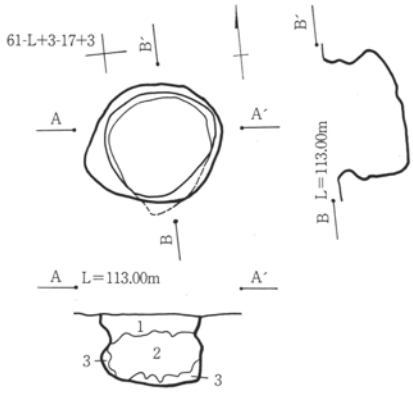
2　10YR3/2　黒褐色砂質土　ロームとの混土。炭化物粒をやや多く含む。粘性やや強い。密で硬く締まる。

3　ローム漸移土。



11号土坑出土遺物

12号土坑

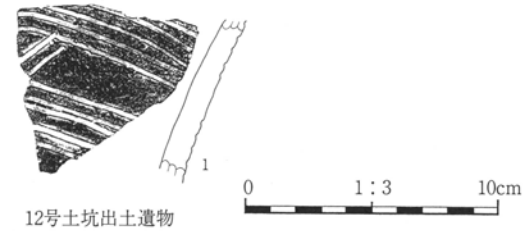


12号土坑土層観察所見

1　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　直径1cm大のローム小ブロックを含む。やや密で硬く締まる。

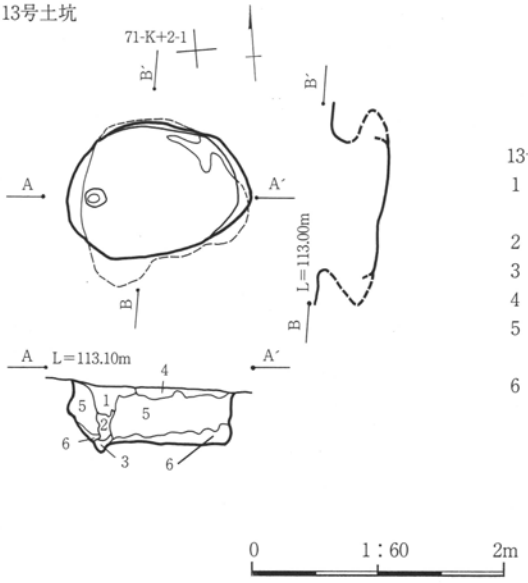
2　10YR3/3　暗褐色砂質土（10YR3/3）。As-BPを多く含む。炭化物粒を少量含む。密で硬く締まる。

3　2層と、10YR6/8～7/8ロームブロックの混土。As-BPを少量含む。密で硬く締まる。



12号土坑出土遺物

13号土坑



13号土坑土層観察所見

1　10YR4/2　灰黄褐色砂質土　白色と黄色の軽石を少量含む。炭化物粒を含む。褐色土を斑状に含む。

2　10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化物粒を含む。

3　10YR3/3　暗褐色土　褐色土を斑点状に含む。

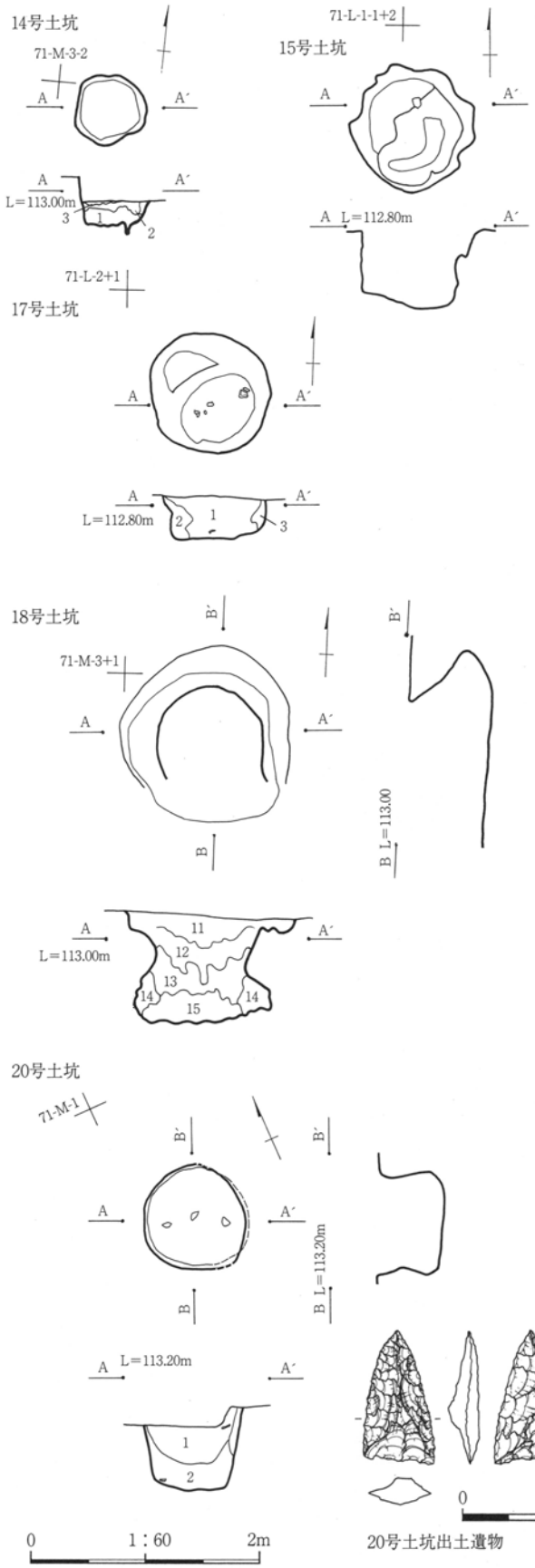
4　10YR5/2　灰黄褐色土、縄文層。

5　10YR6/6　明黄褐色土、白色と黄色の軽石を少量含む。炭化物粒を含む。暗褐色土を斑状に含む。

6　10YR5/6　黄褐色土　締まり弱い。

13号土坑出土遺物

第30図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物1



20号土坑出土遺物

14号土坑土層観察所見

1　10YR3/3　暗褐色土　白色と黄色の軽石を少量含む。炭化物粒を含む。暗褐色土を斑状に含む。締まっている。
2　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土。
3　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土。

17号土坑土層観察所見

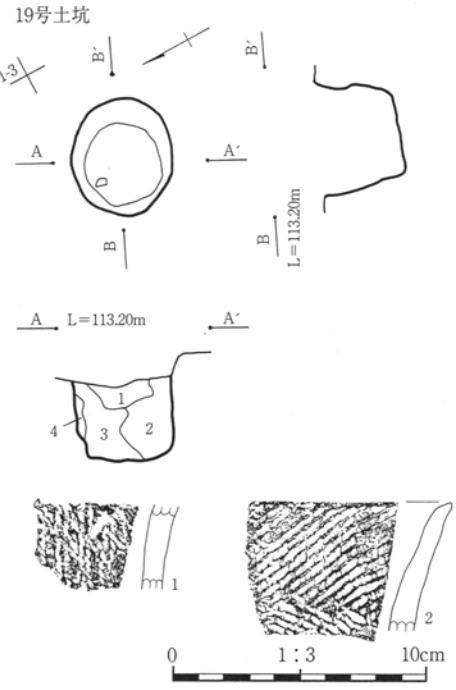
1　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　直径１cm大のローム小ブロックを含む。やや密で硬く締まる。
2　10YR3/3　暗褐色砂質土（10YR3/3）。As-BPを多く含む。炭化物粒を少量含む。密で硬く締まる。
3　２層と、10YR6/8～7/8ロームブロックの混土。As-BPを少量含む。密で硬く締まる。

19号土坑土層観察所見

1　10YR2/3　黒褐色砂質土　10YR4/4褐色土を小斑状に含む。焼土粒、As-BPと思われる軽石粒を含む。締まり弱い。
2　10YR3/3　暗褐色砂質土　10YR4/4褐色土を小斑状に含む。焼土粒、As-BPと思われる軽石粒を含む。締まり弱い。
3　10YR4/4　褐色砂質土　10YR4/6褐色土を小斑状に含む。焼土粒、As-BPと思われる軽石粒を含む。締まり弱い。
4　10YR4/4　褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロックを含む。壁の崩落部分か。この後２層で埋まる。

20号土坑土層観察所見

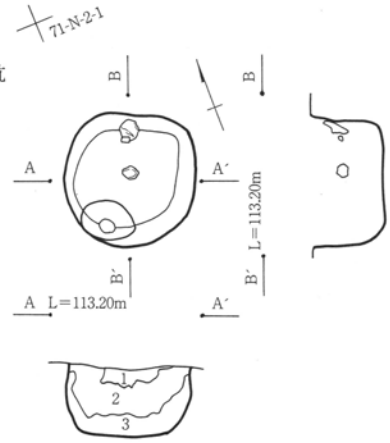
1　10YR3/3　暗褐色砂質土　黄褐色土を小斑状に含む。As-BPと思われる軽石粒を含む。硬く締まる。
2　10YR3/3　暗褐色土　As-BPと思われる軽石粒を含む。硬く締まる。
3　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　硬く締まる。



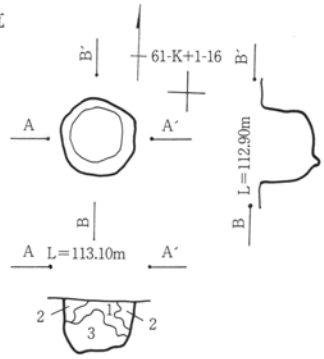
19号土坑出土遺物

第31図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物２

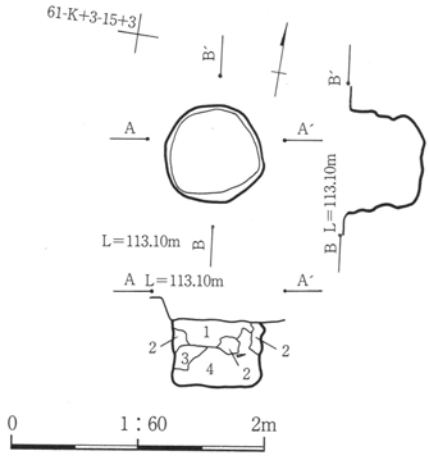
21号土坑



22号土坑



23号土坑



21号土坑土層観察所見

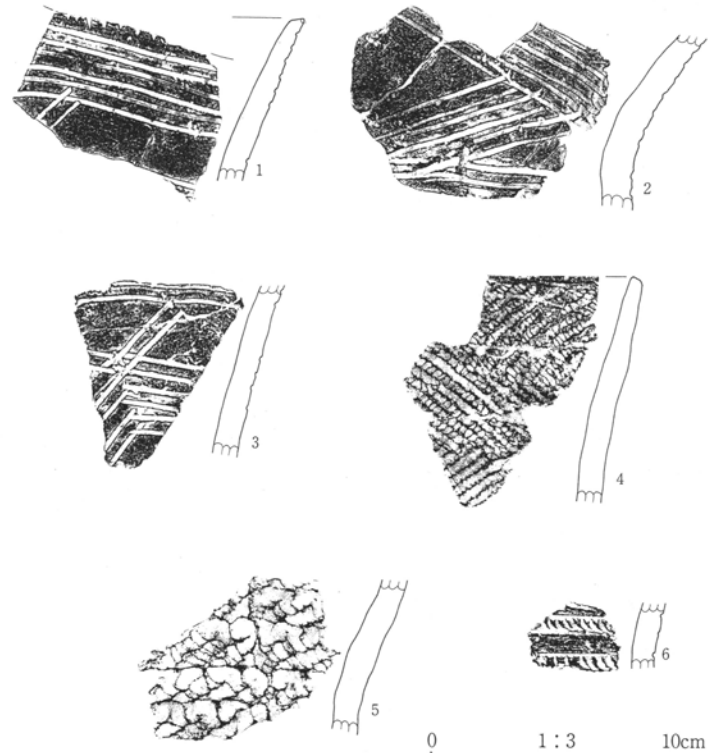
1　10YR3/3　暗褐色砂質土　黄褐色土を小斑状に含む。As-BPと思われる軽石粒を含む。硬く締まる。
2　10YR3/3　暗褐色土　As-BP と思われる軽石粒を含む。径２mm以下の炭化物粒を少量含む。
3　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　直径１mm以下の炭化物粒を少量含む。硬く締まる。

22号土坑土層観察所見

1　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒を含む。硬く締まる。
2　１層にロームを多く混ずる。硬く締まる。
3　10YR2/3　黒褐色土　硬く締まる。壁際はロームを多く含み明るい。炭化物粒を少量含む。

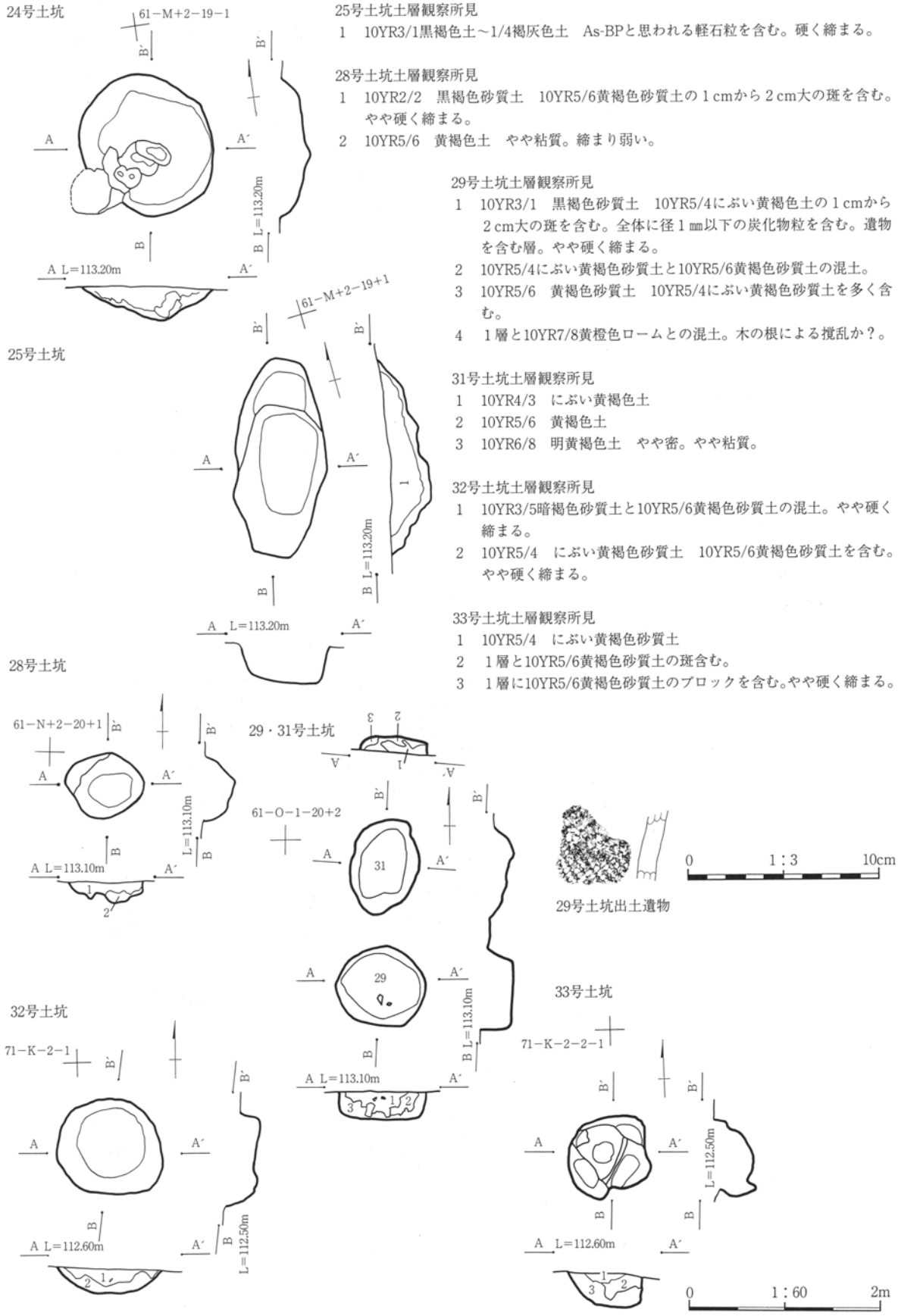
23号土坑土層観察所見

1　10YR3/3　暗褐色土　直径１cm以下のローム粒を含む。炭化物粒を少量含む。硬く締まる。
2　１層に径１cm大のローム小ブロックを多く混ずる。硬く締まる。
3　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒、炭粒をやや多く含む。硬く締まる。
4　10YR2/3　黒褐色砂質土　径１cm大のローム小ブロック、炭化物粒をやや多く含む。上半に As-BP 起源と思われる灰白色微砂を含む。硬く締まる。



23号土坑出土遺物

第32図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物３



25号土坑土層観察所見

1　10YR3/1黒褐色土～1/4褐灰色土　As-BPと思われる軽石粒を含む。硬く締まる。

28号土坑土層観察所見

1　10YR2/2　黒褐色砂質土　10YR5/6黄褐色砂質土の１cmから２cm大の斑を含む。やや硬く締まる。

2　10YR5/6　黄褐色土　やや粘質。締まり弱い。

29号土坑土層観察所見

1　10YR3/1　黒褐色砂質土　10YR5/4にぶい黄褐色土の１cmから２cm大の斑を含む。全体に径１㎜以下の炭化物粒を含む。遺物を含む層。やや硬く締まる。

2　10YR5/4にぶい黄褐色砂質土と10YR5/6黄褐色砂質土の混土。

3　10YR5/6　黄褐色砂質土　10YR5/4にぶい黄褐色砂質土を多く含む。

4　１層と10YR7/8黄橙色ロームとの混土。木の根による攪乱か？。

31号土坑土層観察所見

1　10YR4/3　にぶい黄褐色土

2　10YR5/6　黄褐色土

3　10YR6/8　明黄褐色土　やや密。やや粘質。

32号土坑土層観察所見

1　10YR3/5暗褐色砂質土と10YR5/6黄褐色砂質土の混土。やや硬く締まる。

2　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　10YR5/6黄褐色砂質土を含む。やや硬く締まる。

33号土坑土層観察所見

1　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土

2　１層と10YR5/6黄褐色砂質土の斑含む。

3　１層に10YR5/6黄褐色砂質土のブロックを含む。やや硬く締まる。

第33図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物４

19号土坑　71-M-1グリッド　標高113.1mの東向き傾斜部に立地する。32号住居を切る。長軸を東西方向におく。長軸長91cm、短軸長80cm、深さ84cm。平面形は円形を呈し、断面形はわずかに上部が開く箱形で、底面はほぼ平坦である。覆土の主体は褐色、暗褐色の砂質土で焼土粒を含む。出土土器のうち、1は内削状の口唇部が開く口縁部破片で、非結束の無節羽状縄文を施文する。2は撚糸Rを施文する。また、黒色頁岩の剥片が出土している。

20号土坑　71-M-1グリッド　標高113mの東向き傾斜部に立地する。32号住居を切る。長軸を東西方向におく。長軸長94cm、短軸長92cm、深さ72cm。平面形は円形を呈し、断面形は箱形ないしごく弱い袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土は暗褐色土で、硬く締まっている。土器は見られないが、黒色安山岩製の石鏃、黒色安山岩、黒色頁岩の剥片が出土している。

21号土坑　71-M-1グリッド　標高113mの東向き傾斜部に立地する。32号住居を切る。長軸を南北方向におく。長軸長106cm、短軸長104cm、深さ80.5cm。平面形は円形を呈し、断面形は中程がややふくらむ箱形で、底面はほぼ平坦である。底面近くの覆土はにぶい黄褐色砂質土で、その上位に暗褐色土が乗る。ともに炭化物粒を少量含んでいる。土器は見られないが、覆土中位から流れ込むように、粗粒輝石安山岩の石皿片などが出土している。

22号土坑　61-K-16グリッド　標高112.9mの東向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長64cm、短軸長48cm、深さ48cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形で、底面はやや乱れるが、北西側に低くなる傾向がある。覆土の主体は硬く締まった黒褐色土で、炭化物粒を少量含む。出土遺物はない。

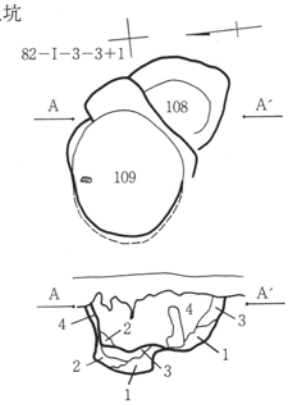
23号土坑　61-K-15グリッド　標高112.9mの東向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長80cm、短軸長76cm、深さ78.5cm。平面形は円形を呈し、断面形は底部がやや広がり気味であるがほぼ箱形で、底面は凹凸があるものの平坦である。覆土の主体は黒褐色土で、炭化物粒を含む。底部近くの黒褐色砂質土中には、ローム小ブロックや炭化物粒が、やや多く含まれる。出土土器のうち1～3は平行沈線で、6は爪形文で施文する有尾式系の土器である。4は非結束の単節羽状縄文を施文する口縁部破片で、5はループ縄文を施文する。その他、黒色頁岩の剥片が出土している。

24号土坑　61-M-19グリッド　標高113.1mの東向き傾斜部に立地する。長軸を北西-南東方向におく。長軸長150cm、短軸長136cm、深さ33.3cm。平面形は円形を呈し、断面形は中央部が深い皿状で、底面は乱れている。出土遺物はない。

25号土坑　61-M-19グリッド　標高113.2mの東向き傾斜部に立地する。長軸を北東-南西方向におく。長軸長206cm、短軸長94cm、深さ45.6cm。平面形は長円形を呈し、断面形はほぼ皿状であるが、北側が小さな段を持って徐々に浅くなる。覆土は硬く締まった黒褐色から灰褐色土である。出土遺物はない。

28号土坑　61-O-20グリッド　標高113mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長82cm、短軸長70cm、深さ31.4cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼU字形であるが底面は乱れる。覆土の主体

108・109号土坑



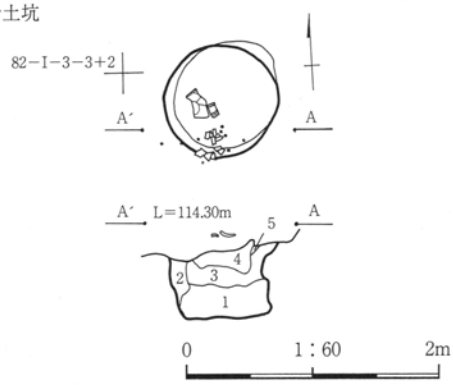
108号土坑土層観察所見

1　7.5YR4/6　褐色土　10YR5/8　黄褐色ハードロームブロックを含む。やや粘質。締まっている。
2　10YR4/6　褐色土　焼土粒を少量含む。やや粘質。硬く締まっている。
3　7.5YR5/8　黄褐色土　地山が崩れた、やや汚れたハードロームのブロックを主体とする。やや粘質。締まっている。
4　10YR5/6　黄褐色土　炭化物粒、焼土粒を比較的多く含む。縄文時代前期の土器片を含む。やや粘質。硬く締まっている。

109号土坑土層観察所見

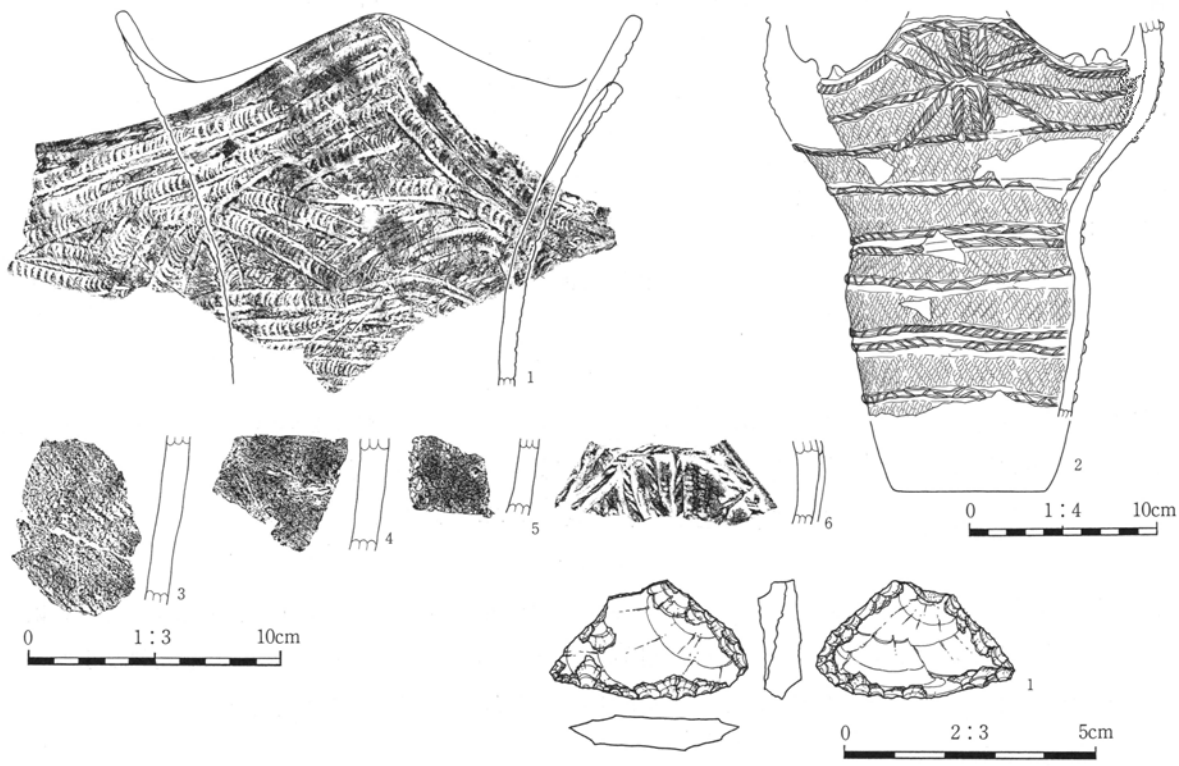
1　7.5YR4/6　褐色土　10YR5/6黄褐色ハードロームブロックを含む。やや粘質。締まっている。
2　7.5YR4/6　褐色土　焼土粒を少量含む。粘性やや強い。硬く締まっている。
3　10YR4/6　褐色土　炭化物粒、焼土粒を少量含む。粘性やや強い。硬く締まっている。
4　10YR5/8　黄褐色土　炭化物粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。

110号土坑



110号土坑土層観察所見

1　7.5YR3/4　暗褐色土　白色およびAs-BP、As-MPと思われる褐色から橙色の軽石粒、As-BPを含むロームブロックを含む。最大長５cm程度の炭化物片を含む。締まっている。
2　7.5YR4/6　褐色土　地山ロームの再堆積土主体。暗褐色土を含む。締まりやや弱い。
3　7.5YR4/4　褐色土　白色およびAs-BP、As-MPと思われる褐色から橙色の軽石粒、As-BPを含むロームブロックを含む。炭化物片をやや多く含む。
4　7.5YR4/4　褐色土　ロームブロックを斑状に含む。径２mm以下の白色軽石粒を含む。As-BP、As-MPと思われる褐色から橙色の軽石粒を少量含む。炭化物細片をわずかに含む。
5　４層とほぼ同相。ローム分がやや多い。



110号土坑出土遺物

第34図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物５

はローム斑を含む黒褐色砂質土である。磨石片が出土している。

29号土坑　61-O-20グリッド　標高113.1mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長95cm、短軸長84cm、深さ33.3cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形で壁は垂直に立ち上がる。土器小片が出土している。黒色安山岩の剥片が出土している。

31号土坑　61-O-20グリッド　標高113.1mの東向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長103cm、短軸長70cm、深さ23.4cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は中央部が緩く窪んだ箱状で、北側の方が深くなっている。覆土の下位は地山ロームの再堆積と見られる黄褐色砂質土、上位は炭化物粒を含むしまった黒褐色砂質土である。出土遺物はない。

32号土坑　71-K-2グリッド　標高112.4mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長115cm、短軸長105cm、深さ34.2cm。平面形は円形を呈し、断面形は皿状であるが底面には凹凸が多く、南側がやや深くなる。覆土は明黄褐色からにぶい黄褐色土で、地山ロームの乱れたものである。出土遺物はない。

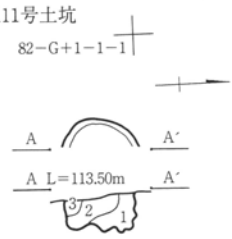
33号土坑　71-K-2グリッド　標高112.4mの東向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長96cm、短軸長84cm、深さ55.7cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼU字形であるが、攪乱されて底面を確実に捉えることができない。覆土は黄褐色からにぶい黄褐色土で、地山ロームの乱れたものと見られる。出土遺物はない。

108号土坑　82-H-3グリッド　標高114.2mの西向き傾斜部に立地する。109号土坑に切られ、全体形状は把握できない。北東-南西方向の確認最大長80cm、短軸長58cm、深さ57.5cm。平面形は円形ないし楕円形を呈するものと思われ、断面形はほぼ箱形であろう。底面はほぼ平坦である。覆土は褐色から黄褐色土で、上位の黄褐色土に炭化物粒や土器小片が含まれている。

109号土坑　82-H-3グリッド　標高114.2mの西向き傾斜部に立地する。108号土坑を切る。長軸を東西方向におく。長軸長130cm、短軸長84cm、深さ60cm。平面形は円形を呈し、断面形は上方にやや開く箱形である。底面は108号土坑を切る部分が波打つが、ほぼ平坦である。覆土の主体は炭化物粒を少量含む黄褐色土で、壁際に炭化物粒、焼土粒を少量含む褐色土が堆積する。土器小片が出土している。

110号土坑　82-H-3グリッド　標高114.3mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長98cm、短軸長86cm、深さ55.5cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形であるが、北部では壁がわずかにオーバーハングする。底面は平坦である。覆土の主体は褐色から暗褐色土で、下位に比較的大きな炭化物片が含まれる。土器片および剥片が出土している。1は推定口径28cm、現存高19.5cmを測る深鉢で、口縁が大きく開く4単位の波状口縁深鉢である。胴上半部には幅広の爪形文で構成の崩れたモチーフを施文する。2は推定口径21.2cm、現存高23cmを測る4単位波状口縁の深鉢土器で、頚部が大きく括れ、口縁の波底部には2個対の小突起が付いている。内湾する口縁部には波頂下に2～3本の浮線で「米」字状のモチーフを構成し、頚部から胴部にかけては1本と2本の浮線が交互に施文され区画する。浮線上には1本でも異方向の刻

111号土坑



111号土坑土層観察所見

1　7.5YR4/6　褐色土　暗褐色土を多く含む。上位は白色軽石粒多く、下位はAs-BPと思われる褐色の軽石粒を多く含む。

2　7.5YR5/6　明褐色土　暗褐色土をやや多く含む。白色軽石粒、As-BPと思われる褐色の軽石粒を含む。

3　7.5YR5/8　明褐色土　暗褐色土を含む。白色軽石粒、As-BPと思われる褐色の軽石粒を含む。

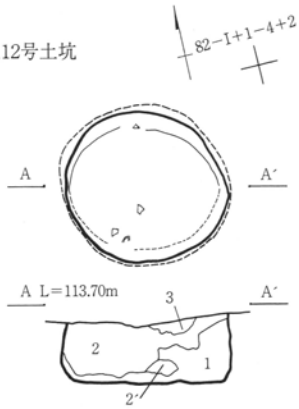
112号土坑土層観察所見

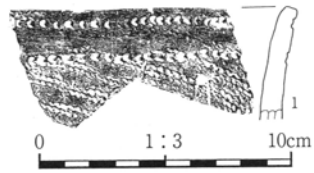
1　7.5YR5/8　明褐色土　地山ロームの再堆積土主体。暗褐色土を少量含む。As-BP、As-okと思われる軽石粒を少量含む。

2　7.5YR4/6　褐色土　ロームと暗褐色土が斑状に混じる。As-YP、As-BP、As-okと思われる軽石粒、炭化物片をわずかに含む。締まっている。　2′　軽石粒が少ない。

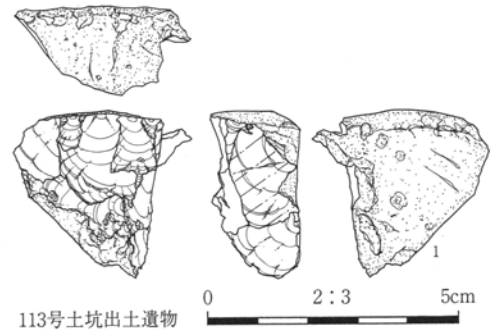
3　7.5YR3/4　暗褐色土　ローム粒を含む。As-YP、As-okと思われる軽石粒を含む。

112号土坑



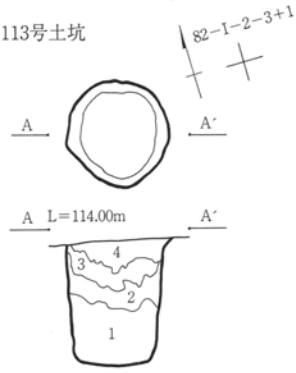


112号土坑出土遺物



113号土坑出土遺物

113号土坑



113号土坑土層観察所見

1　7.5YR3/3　暗褐色土　炭化したクルミ殻片、焼土粒を多く含む。ローム粒、軽石（As-BP、As-ok）をわずかに含む。締まりやや弱い。

2　7.5YR3/4　暗褐色土　ローム粒を多く含む。炭化物細片を含む。軽石粒（As-okか）を含む。

3　7.5YR3/3　暗褐色土　ローム粒を少量含む。炭化物細片を含む。軽石粒（As-okか）を含む。

4　7.5YR4/6　褐色土　ロームと暗褐色土の混土。炭化物細片、軽石粒（As-YP、As-okか）を含む。締まっている。

114号土坑土層観察所見

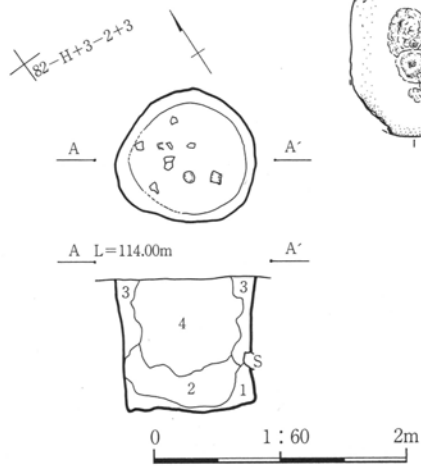
1　7.5YR3/4暗褐色～4/6褐色土　暗色帯周辺のやや粘質のロームと暗褐色土の混土。

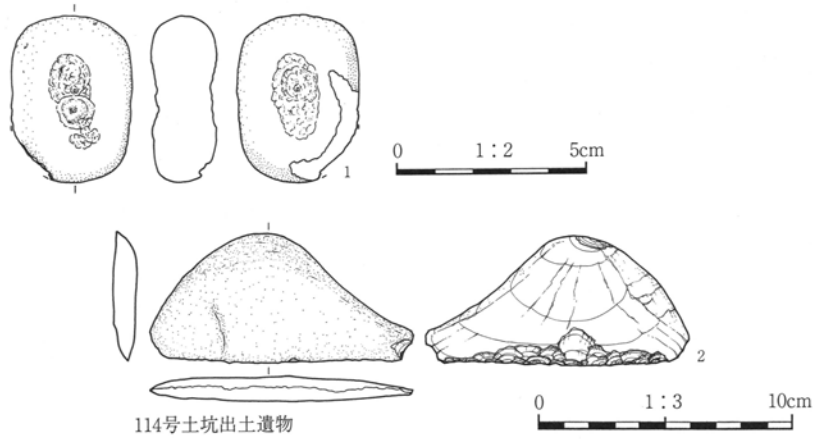
2　7.5YR2/3　極暗褐色土　ローム、軽石をほとんど混じない。炭化物片を少量含む。締まり弱い。

3　7.5YR4/6　褐色土　ロームに暗褐色土を混じる。軽石（As-okか）を含む。締まりやや弱い。

4　10YR3/4　暗褐色土　軽石（As-YP、As-okか）、炭化物片を少量含む。上位は締まっている。

114号土坑





114号土坑出土遺物

第35図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物６

みや、鋸歯状の刻みを施している。地文は単節RLとLRの羽状縄文である。3～5は縄文のみ施文される破片で、6は2の同一個体である。黒色安山岩、砂岩などの剥片も出土している。

111号土坑　82-G-19グリッド　標高113.4mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長60cm、短軸長21cm、深さ26cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱であるが、底面は乱れており、凹凸が激しい。覆土は褐色から明褐色土で、地山ロームが乱れたものと見られる。出土遺物はない。

112号土坑　82-I-4グリッド　標高114.2mの西向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長140cm、短軸長122cm、深さ54cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形で壁はやや内傾気味に直立する。底面は平坦である。覆土は東側から地山ロームが崩れたものと思われる明褐色土が流入し、次いで炭化物粒をわずかに含む褐色土が堆積する。前期の土器片および黒色頁岩などの剥片が出土している。

113号土坑　82-H-3グリッド　標高113.9mの西向き傾斜部に立地する。長軸長86cm、短軸長80cm、深さ98cm。平面形は円形を呈し、断面形は深い箱形である。底面は平坦である。覆土全体に炭化物の細片を含むが、最下位の暗褐色土中には焼土粒および炭化したオニグルミ核の小片が多く含まれる。諸磯a式、諸磯b式土器片と黒色安山岩の剥片が比較的多く出土している。

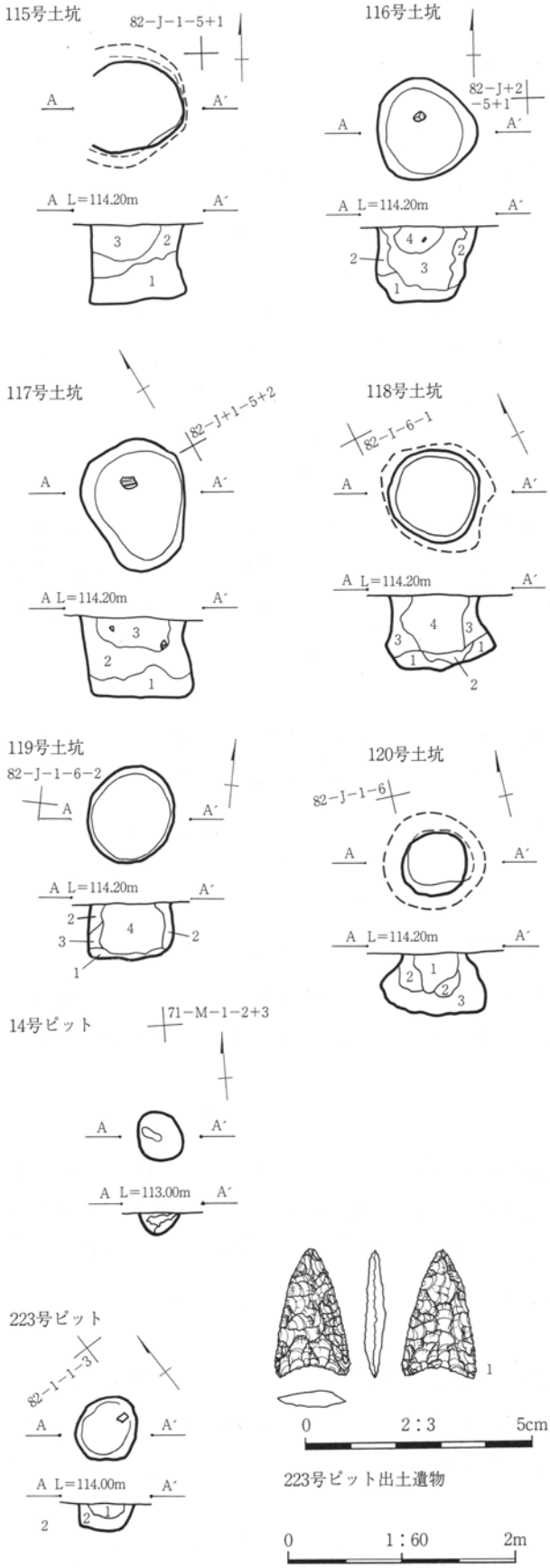
114号土坑　82-H-2グリッド　標高113.9mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南西-北東方向におく。長軸長112cm、短軸長102cm、深さ105cm。平面形はほぼ円形を呈し、断面形は深い箱形で、壁は強く直立する。底面はほぼ平坦である。覆土は極暗褐色土から暗褐色土で、炭化物粒を少量含む。諸磯b式土器片および黒色頁岩、黒色安山岩などの剥片、粗粒輝石安山岩のくぼみ石などが出土している。

115号土坑　82-I-5グリッド　標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸長108cm、短軸確認長76cm、深さ70cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形であるが、壁は外反気味に直立する。底面はほぼ平坦である。覆土の主体は褐色土で、炭化物粒をごく少量含む。諸磯b式を中心とする土器小片、黒色頁岩の剥片などが出土している。

116号土坑　82-I-5グリッド　標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸長89cm、短軸長80cm、深さ68cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形で、壁はわずかに開き気味に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。覆土の主体は褐色から黄褐色土で、炭化物粒を少量含む。花積下層式の土器小片、黒色安山岩、黒色頁岩の剥片、粗粒輝石安山岩の磨石などが出土している。

117号土坑　82-I-5グリッド　標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長116cm、短軸長76cm、深さ73cm。平面形はゆがんだ楕円形を呈し、断面形はほぼ箱形である。底面は平坦である。覆土の主体は炭化物粒を少量含む褐色土で、諸磯b式、花積下層式の土器小片、黒色安山岩、黒色頁岩の剥片、緑泥片岩の砕片などが比較的多く出土している。

118号土坑　82-H-5グリッド　標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長



第36図　土坑平面図　土層断面図　出土遺物７

115号土坑土層観察所見

1　10YR4/6　褐色土　ロームと暗褐色土の混土。軽石粒、炭化物粒をごく少量含む。締まりごく弱い。
2　10YR4/6　褐色土　ロームと暗褐色土の混土。細粒の白色軽石粒、炭化物粒を少量含む。締まり弱い。
3　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。締まっている。

116号土坑土層観察所見

1　10YR4/6　褐色土　ロームの再堆積土主体。暗褐色土を含む。締まりやや弱い。軽石、炭化物はほとんど含まない。
2　10YR5/8　黄褐色土　ロームの再堆積土主体。白色軽石を少量含む。
3　10YR4/6褐色～10YR5/8黄褐色土　締まりの弱いロームの再堆積土を主体とする。締まった暗褐色土斑を含む。炭化物を少量含む。
4　10YR3/4暗褐色～10YR4/6褐色土　暗褐色土　黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。締まっている。

117号土坑土層観察所見

1　10YR4/6　褐色土　ロームと暗褐色土の混土。軽石粒をごく少量含む。炭化物細片を含む。締まりごく弱い。
2　10YR4/6　褐色土　ロームと暗褐色土の混土。細粒の白色軽石粒、炭化物粒を少量含む。上位は締まっている。下部は締まりやや弱い。
3　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。炭化物細片を含む。締まっている。

118号土坑土層観察所見

1　10YR4/6褐色～10YR5/8黄褐色土　ロームと暗褐色土の混土。軽石粒、炭化物粒をごく少量含む。
2　10YR4/6　褐色土　ロームと暗褐色土の混土。軽石粒、炭化物粒をごく少量含む。
3　10YR4/6　褐色土　黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を少量含む。締まっている。
4　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。締まっている。

119号土坑土層観察所見

1　10YR3/4暗褐色～4/6褐色土　黄褐色のロームブロックを含む。締まっている。
2　7.5YR4/6褐色～5/8明褐色土　ロームに暗褐色土を混ずる。細粒の白色軽石を少量含む。締まりやや弱い。
3　10YR3/4暗褐色～10YR4/6褐色土　黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を少量含む。締まっている。
4　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。締まっている。

120号土坑土層観察所見

1　10YR4/6　褐色土　ロームに暗褐色土を混ずる。炭化物を少量含む。底部近くは締まりやや弱い。上位は硬く締まっている。
2　10YR4/6　褐色土　炭化物を少量含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を少量含む。締まりやや弱い。
3　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。炭化物細片を含む。締まっている。

223号ピット

1　7.5YR5/6　明褐色土　地山ロームの再堆積土を主体とし、暗褐色土が混じる。軽石（As-okか）を少量含む。
2　7.5YR4/6　褐色土　ロームを含む。軽石（As-okか）を少量含む。炭化物片をわずかに含む。締まっている。

108cm、短軸長84cm、深さ64cm。平面形は円形を呈し、断面形は弱い袋状で、底面中央部がやや低くなる。床面は中央部がやや深くなっている。覆土は褐色から暗褐色土で、炭化物粒を少量含む。出土遺物はない。

119号土坑　82-I-5グリッド　標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長85cm、短軸長72cm、深さ50cm。平面形は円形を呈し、断面形は箱形で、壁は直立する。底面はわずかに波打つがほぼ平坦である。覆土の主体はローム斑を含む暗褐色土で、花積下層式土器小片、黒色頁岩、黒色安山岩、チャートの剥片が出土している。

120号土坑　82-I-5グリッド　標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。口径長軸長89cm、同短軸長80cm、深さ57cm。平面形は円形を呈し、断面形は袋状で、最大径は108cmある。底面は小さな凹凸が多く、東側がやや低くなる。覆土は褐色土で炭化物粒を少量含む。諸磯b式を中心とする土器小片、黒色安山岩の剥片および自然石が出土している。

14号ピット　71-M-2グリッド　標高112.9mの東向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長46cm、短軸長40cm、深さ20.9cm。平面形は円形を呈し、断面形はU字形である。出土遺物はない。

223号ピット　82-H-2グリッド　標高113.9mの西向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長60cm、短軸長50cm、深さ25cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形である。チャートの石鏃、黒色安山岩の剥片が出土している。

4　遺構外出土遺物

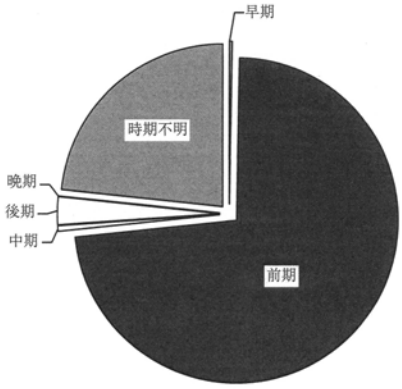
本遺跡からは、8000片を越える縄文土器片、5000点近い石器類が出土している。これらの遺物については、破片単位で、型式、器形、部位、施文原体等の観察を行っている。前項までで示した遺構に伴う出土遺物のうち、土器581片、石器類121点、また本項では遺構外遺物のうち土器858片、石器類141点を図示する。

出土遺物全体の時期的傾向を見ると、時期不明の小片が23%を占めるが、縄文時代前期のものが74%と圧倒的に多く、後期が３%、早期及び後期がごく少量ある。草創期、晩期の土器は見られない。前期のうちでは、花積下層式42%、有尾式系１%、黒浜式22%、諸磯ａ式６%、諸磯ｂ式27%、諸磯ｃ式１%という構成比である。石器類では剥片が71%を占め、石鏃、石錐、削器・掻器などの剥片石器類が17%、石斧や磨石などの礫石器類が12%ある。

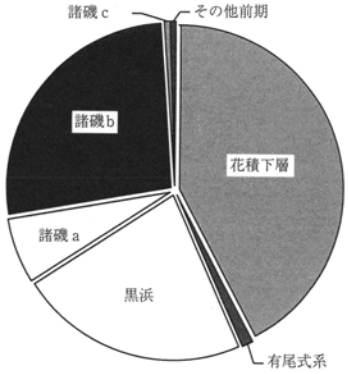
土器1974片、石器類1148点は前記した遺構に伴うものである。これ以外の遺物のうち、土器591片、石器類320点については大まかな調査区画ごとに取り上げられたものであるが、土器5726片、石器類3569点については、グリッド単位で取り上げられており、おおよその空間的位置の把握が可能である。

遺構として確実に捉えられたものは、61区北端から71区南端部分と72区北部、82区南部に集中し、遺物も調査区全体で見つかってはいるが、遺構の周辺部分で特に多い。また、遺物が集中的に見つかる地点が、72区A-12からC-17グリッド周辺及びH-17グリッド周辺にある。この部分については住居があるものと見て、精査を重ねたのであるが、遺構を確認することができず、炉の痕跡を思わせるような焼土なども認められなかった。耕作等により攪乱されて、土器片のみが残されたものであるかもしれない。

A-12からC-17グリッド部分については、土器の分布状況から３つのグループに分けられる。A-15グリッド



第37図　出土土器片の時期別数量比



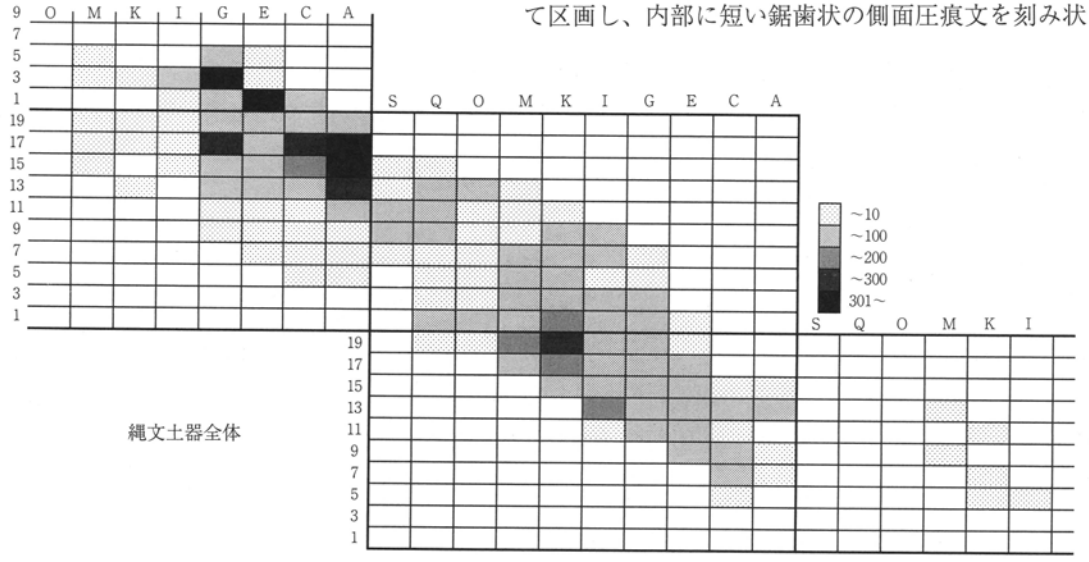
第38図　前期土器片の型式別数量比

からB-16グリッド南半にかけて（A15グループ）と、A-17からB-17グリッドにかけて（A17グループ）は花積下層式がまとまっており、住居があったことを彷彿とさせるものであるが、C-17からD-18グリッドにかけて（C17グループ）は花積下層式の他、諸磯ａ・ｂ・ｃ式も混在しており、出土状況もやや散在的であるため、前者のような遺構の残痕ではないだろう。

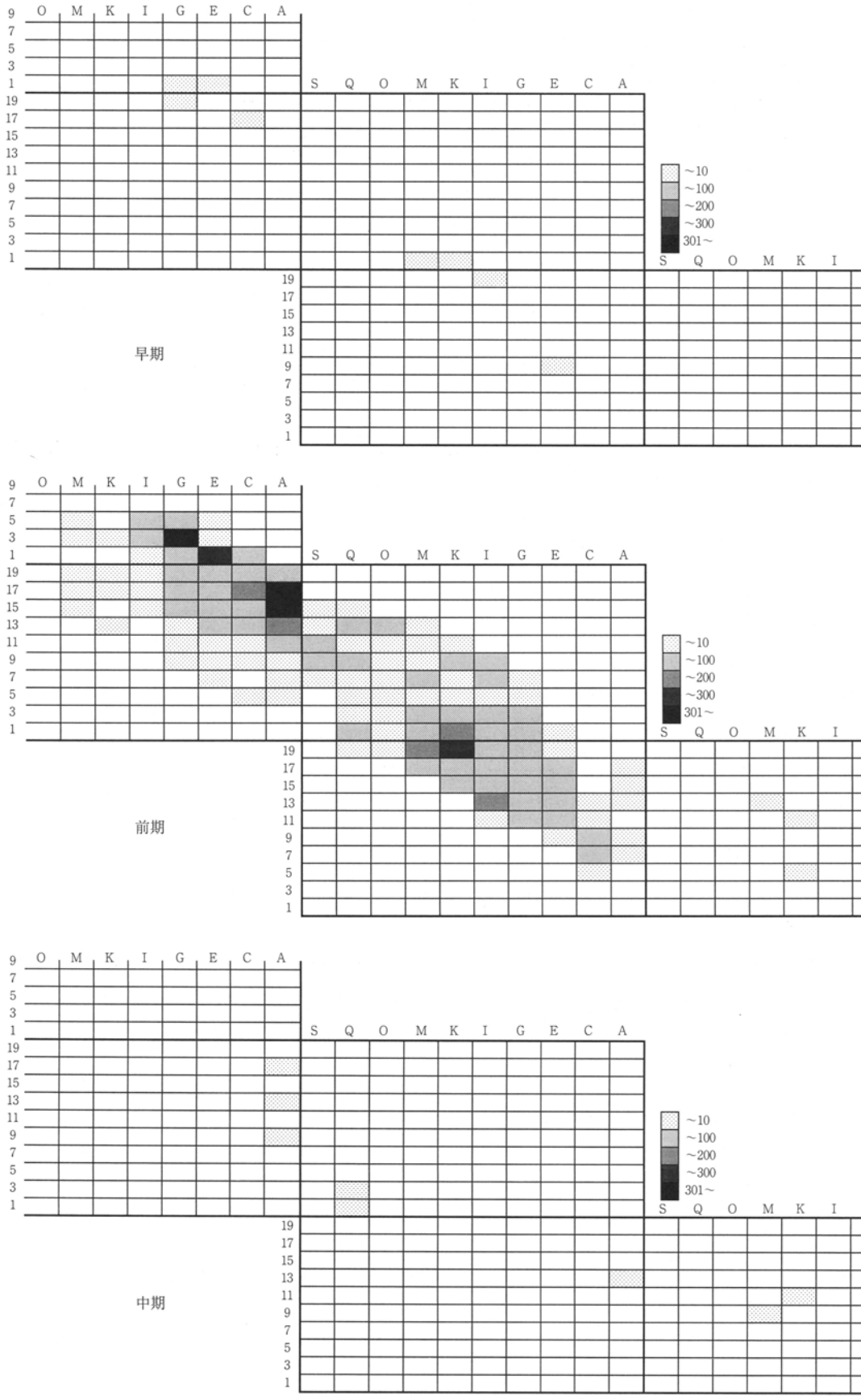
なお、以下の遺物の記述については、整理を担当した財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団の金子氏、亀田氏による記載に基づいている。しかし、委託時点での整理単位である調査区画を上武道路関連遺跡の報告書編集に当たって採用しないこととなったため、図版の大幅な組み替えを行うこととなり、これに伴って両氏の記載文についても、個別遺物の記載単位に分解して再編せざるを得ないこととなってしまった。齟齬の無いように注意したつもりではあるが、両氏の意を尽くせない結果となってしまったかもしれない。非は編集者にあることを明記し、お詫びしておきたい。

土器

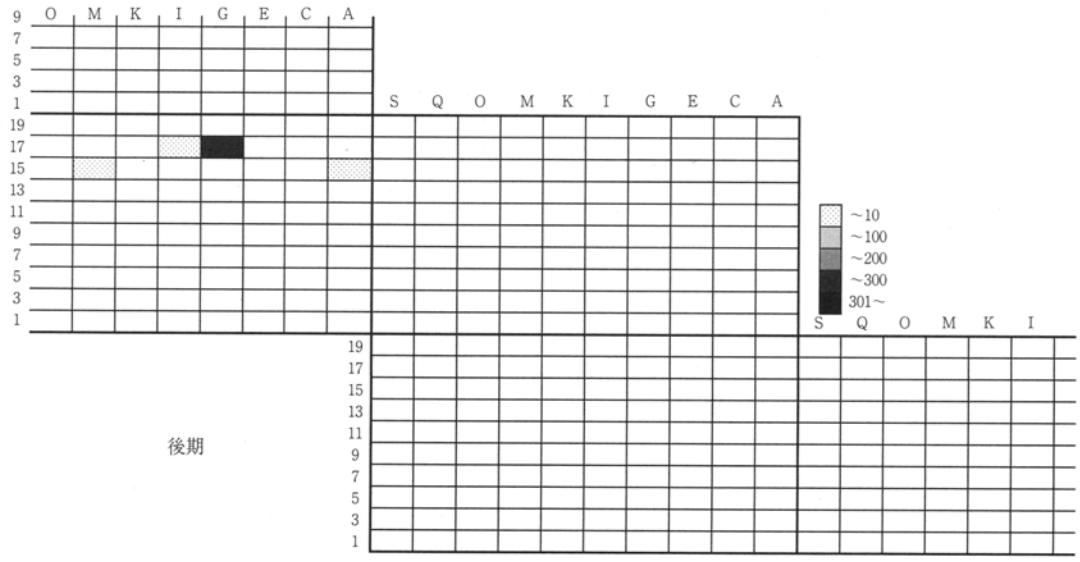
A15グループは前期初頭花積下層式土器である。１、２は折り返し状の段帯部で口縁部文様帯が形成されおり、幅狭な口縁部文様帯にはＲとＬを合わせた側面圧痕文で菱形状の鋸歯状文を描く。３はやや幅広の口縁部文様帯が形成され、ＲとＬの側面圧痕文を横位に施文して区画し、内部に短い鋸歯状の側面圧痕文を刻み状に施



第39図　縄文土器片のグリッド別出土量概念図　１



第40図　縄文土器片のグリッド別出土量概念図　2



第41図　縄文土器片のグリッド別出土量概念図　3

文する。波頂部下には「の」字状の側面圧痕文を縦列に施文する。４、５はRとLの側面圧痕文を口縁部に施文する６。７は幅狭の段帯状口縁部に羽状縄文を施文する。８～14は口縁部文様帯を形成しない。８、９は口唇直下に２段の縄の側面圧痕文を１条廻らす。胴部は０段多条RLの縦位鋭角羽状縄文を施文する。40、41、61、62は底部破片で、底部は尖底を呈する。42～48は胴部破片であり、格子目状の羽状縄文や鋭角羽状縄文を施文する。49、50は口縁部にRとLを合わせた側面圧痕文で鋸歯状のモチーフを描くものである。49は刻み状のモチーフを側面圧痕文で施文する。51は無肥厚の口縁部破片で、やや外反する器形を呈す。52～60は胴部破片で、０段多条RLの縦位鋭角羽状縄文である。

A17グループも花積下層式土器で、１は口唇部外端に断面三角の隆帯を貼付し、幅広の口唇部を形成している。口唇部上に細沈線文を施しており、口唇直下には２段の縄の側面圧痕を１条施文する。胴部は０段多条RLの縦位鋭角羽状縄文を施文する。２～４は口縁部にＲとＬを合わせた側面圧痕文で鋸歯状のモチーフを描くものである。２は小さな渦巻状の側面圧痕文を縦列に施文する。３は口縁部に隆帯を垂下する。５は肥厚する段帯状の口縁部に羽状縄文を施文し、側面圧痕文と同様の効果を表している。６、７は若干内湾気味に開く器形を呈する。８～37は胴部破片で、０段多条RLの縦位鋭角羽状縄文である。38～41は底部片で尖底を呈する。平底はない。

C17グループ出土土器には、やや時期的なばらつきがある。１は早期の撚糸文系土器群で、絡条体条線文を施文する稲荷台式に比定される土器群と思われる。２～10は前期初頭花積下層式土器である。２は幅狭な口縁の段帯部に２の縄の側面圧痕で集合鋸歯状文を施文する。３、４は口縁部にＲとＬを合わせた側面圧痕文で鋸歯状のモチーフを描くものである。５は無肥厚の口縁部破片で、やや外反する器形を呈す。６、７は肥厚する段帯状の口縁部に羽状縄文を施文し、側面圧痕文と同様の効果を表している。８～10は胴部破片で、０段多条 RL の縦位鋭角羽状縄文である。11、12は前期後半諸磯a式土器である。11は口縁部の内折する無文の浅鉢で、推定口径19.8cm、現存高4.5cmを測る。12は平行沈線で木葉文を施文する。13、14は諸磯b式土器に比定される爪形文系土器で、刻みを挟む幅広爪形文でモチーフを描くものである。15は集合沈線文を施文する諸磯c式土器である。横位羽状の集合沈線を施文する。

H-17グリッド周辺では、本遺跡では数少ない後期の土器がまとまって出土している。特に大型破片が多く、

遺構の存在を前提として調査に当たったが、ついにこれを捉えることができなかった部分である。1～6は同一個体と思われる称名寺Ⅱ式土器で、1の推定口径41.5cm、現存高45cmを測る、口縁部が大きく開き胴部で緩く括れる深鉢形土器である。口縁部は幅広の無文帯を沈線で区画し、胴部に鉤状文を施文し区画内に列点を充填する。7、8、14～20は沈線で鉤状のモチーフや渦巻文などのモチーフを施文し、列点を充填するものもある。称名寺式最終末から堀之内式初頭にかけての土器群と思われる。9～13は列点文を施す三十稲場式系の土器と思われる。21は底部に網代痕のある浅鉢か鉢状の土器と思われ、器壁の薄さなどから堀之内Ⅱ式に位置付けられる可能性が高い。

その他のグリッドからの出土土器も前期が中心である。第56図以後にこれを示した。1～4は早期の撚糸文系土器群で、絡条体条線文を施文する稲荷台式に比定される土器群と思われる。5～15は早期前半の楕円押型文土器である。沈線文期並行と思われる。

16～208は前期初頭の花積下層式土器で、16～19、24は口縁部に2段の縄の側面圧痕で鋸歯状文を中心としたモチーフを施文する。20、21は接合しないが同一固体と思われる。口唇部外端と口縁部に断面三角の隆帯を廻らして口縁部を区画し、隆帯間に三角形状の連続刺突文を施文する。外削状の幅広口唇部上には細沈線で鋸歯状文を施文する。胴部は0段多条 RL で縦位鋭角羽状縄文を施文する。22、23は2段の縄の側面圧痕文が施される。25～42はRとLを合わせた側面圧痕文で鋸歯状のモチーフを描くものである。25は小さな渦巻状の側面圧痕文を縦列に施文し、32は屈曲する段帯部で口縁部文様帯を構成し、屈曲部分に瘤状の突起を持つ。34は口唇部外端に断面三角の隆帯を貼付し、幅広の口唇部を形成している。35は弧線状のモチーフを施文する。43、45は肥厚する段帯状の口縁部に羽状縄文を施文し、側面圧痕文と同様の効果を表している。44は無肥厚の口縁部破片で、やや外反する器形を呈す。46～49は0段多条のRLで縦菱形状の鋭角羽状縄文を施文する口縁部破片、50は幅狭口縁部を低隆帯で区画し、羽状縄文を施文する。60以後の胴部破片の多くは、0段多条 RL の縦位鋭角羽状縄文を施文する。207では縦走縄文や斜格子目状縄文を施文する。91は底部破片である。146、147、198、199、206なども尖底であり、平底は見られない。

209～234は前期中葉の黒浜式並行の有尾式系土器群である。209～213は爪形文で菱形文を描き、214～233は平行沈線で菱形文を描く。234は地文縄文上に平行沈線で菱形文を描いている。235～238は黒浜式土器で、古段階のものと思われる。格子目文や刺突文、短沈線文、鋸歯状沈線文等を施文する。235～338は黒浜式土器に比定され、235～248が古段階、249～338が新段階のものと思われる。235は平行沈線でモチーフを描く。236～238、245、247、248は格子目文や刺突文、短沈線文、鋸歯状沈線文等を施文する。239～244は小波状文を描く中段階のものと思われる。249・250・253・254・319は同一個体で、器壁に繊維を含む。4単位の波状口縁を呈し、肋骨文を施すものである。259～268は爪形文を施文する。259、260は爪形文で口縁部と胴部を区画し、261～268は爪形文で「米」字状文を描く最新段階のものと思われる。269はモチーフの結合点に「の」字状の小さな側面圧痕文を施文する。297～338は縄文施文のもので、271-276、290～308は非結束 RL＋LR の羽状縄文を施すもの、277、309-311は付加条縄文を施文するもの、278・279、312～317はL＋R無節羽状縄文を施文する。280-282はループ縄文、283-285、318-337は無節の縄で、286-289、327-333は単節の縄で羽状縄文、斜縄文を施文する。334-336は撚糸文を施文する。

339-392は諸磯a式土器に比定される。339は条線文の肋骨文系の土器。樹枝状の肋骨文で、円形竹管文列を垂下させる。340-348は葉脈状肋骨文、349は単方向の肋骨文を描く。350-354は横位多段の鋸歯状文を施文する。縦位の円形竹管文列を施文する。355は文様帯内に多段の波状沈線文を描き、356は横位区画文内に鋸歯状沈線文を描く。357は地文縄文上に円形竹管文を施文するものである。358は横位多段の鋸歯状文を施

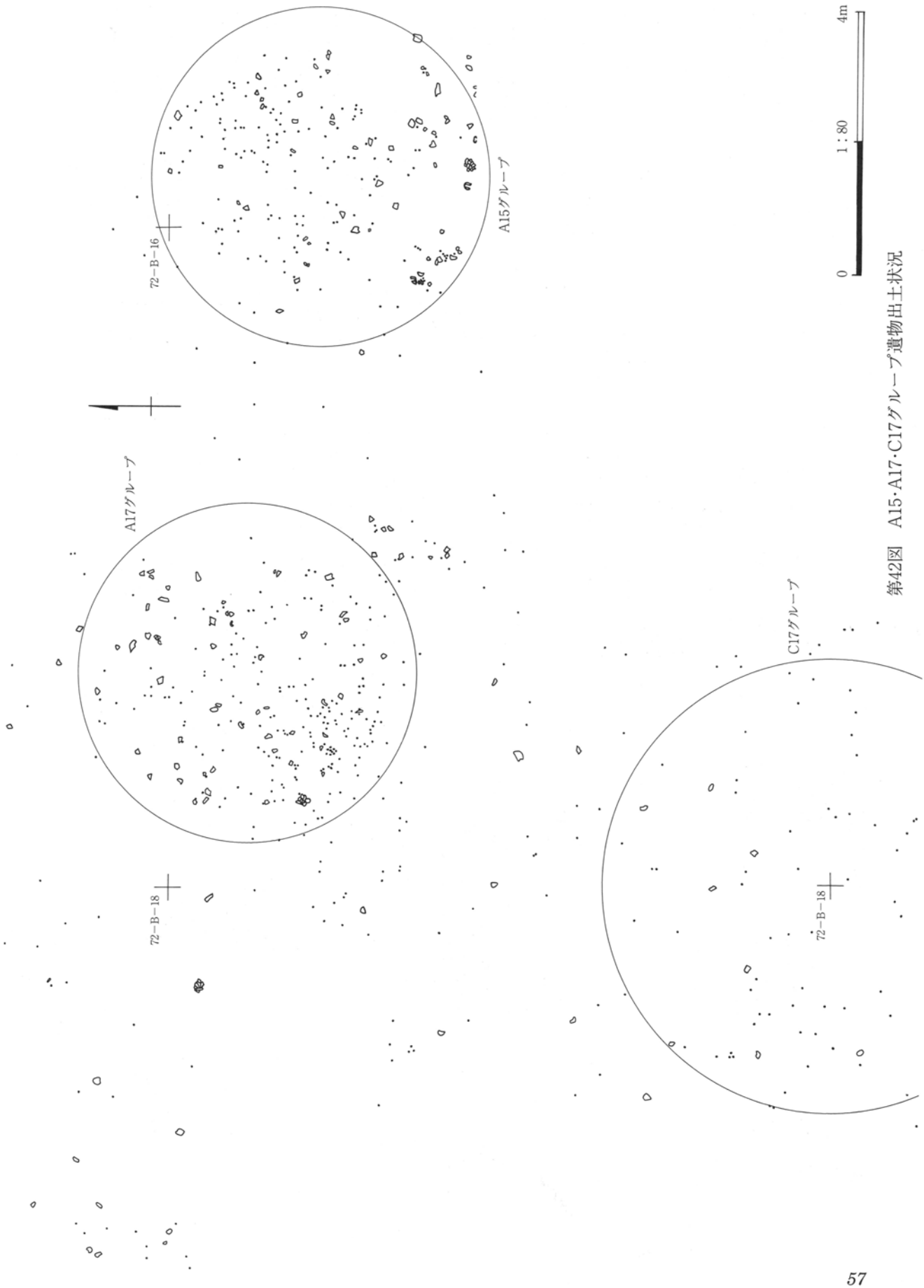
文する。横位の円形竹管文を施文する。359は横位多段の鋸歯状文を施文する。平行爪形文で胴部を区画し、区画内に円形竹管文を施文する。361、362は平行沈線や爪形文を口縁部に施文するもので、文様帯の省略形のものが多い。367は木葉文を施文する浅鉢で、推定口径16.5cm、現存高6.2cmを測る。胴部で強く屈曲する。368-373は変形木葉文系のモチーフを持つ深鉢で口縁部に幅狭な文様帯を持つ。374-390は縄文のみ施文する。375-380は比較的器壁の整形が丁寧で、細かな縄文を施文するのが特徴である。381-388は単節RLを施文する。391は平底の底部片、392は無文の浅鉢片である。

393-414は諸磯b式土器に比定される。394は爪形文系土器で、細い爪形文で口縁部を区画したり、モチーフを描いたりするものである。柱状の突起を基点として口縁部に幅狭の文様帯を区画し、爪形文で長方形区画を施す。395～398、400-412は刻みを挟む幅広爪形文でモチーフを描くものである。396は円形竹管文をランダムに施文するものである。397、412は地文縄文上に幅広の爪形文で弧線状のモチーフを描く。400は細い爪形文で口縁部を区画したり、モチーフを描いたりするものである。401-406は円形竹管文をランダムに施文する。415は非対称の突起が付く波状口縁の深鉢で、口縁部に３本の爪形文が廻る。399、413、414は沈線文系土器で、地文縄文上にモチーフを描いている。416-444は浮線文系土器である。416、417は浮線上に縄文を施文し、417は波状口縁の口唇部に小瘤状突起を等間隔に配する。420、421、430、438は刻みを施す浮線と円形竹管文が併施文される。422は台形状の突起を巻くように浮線を施文し。424は楕円区画を施す。425-429、431-441は刻みを施す浮線で渦巻文を連結するモチーフを描く。444は内折する幅広口縁部に、刻みを施さない浮線で鋸歯状のモチーフを描く浅鉢である。445、446は諸磯b2式段階の沈線文系土器である。447、467は無文土器で、467は58号住居№21と同一個体である可能性が高い。448-470は縄文施文の土器である。450、451は結束羽状縄文を施文し、452、453は無節縄文を施文するが、単節斜縄文を施文するものが多い。448は浅鉢で、推定口径22cm、現存高８cmを測る。

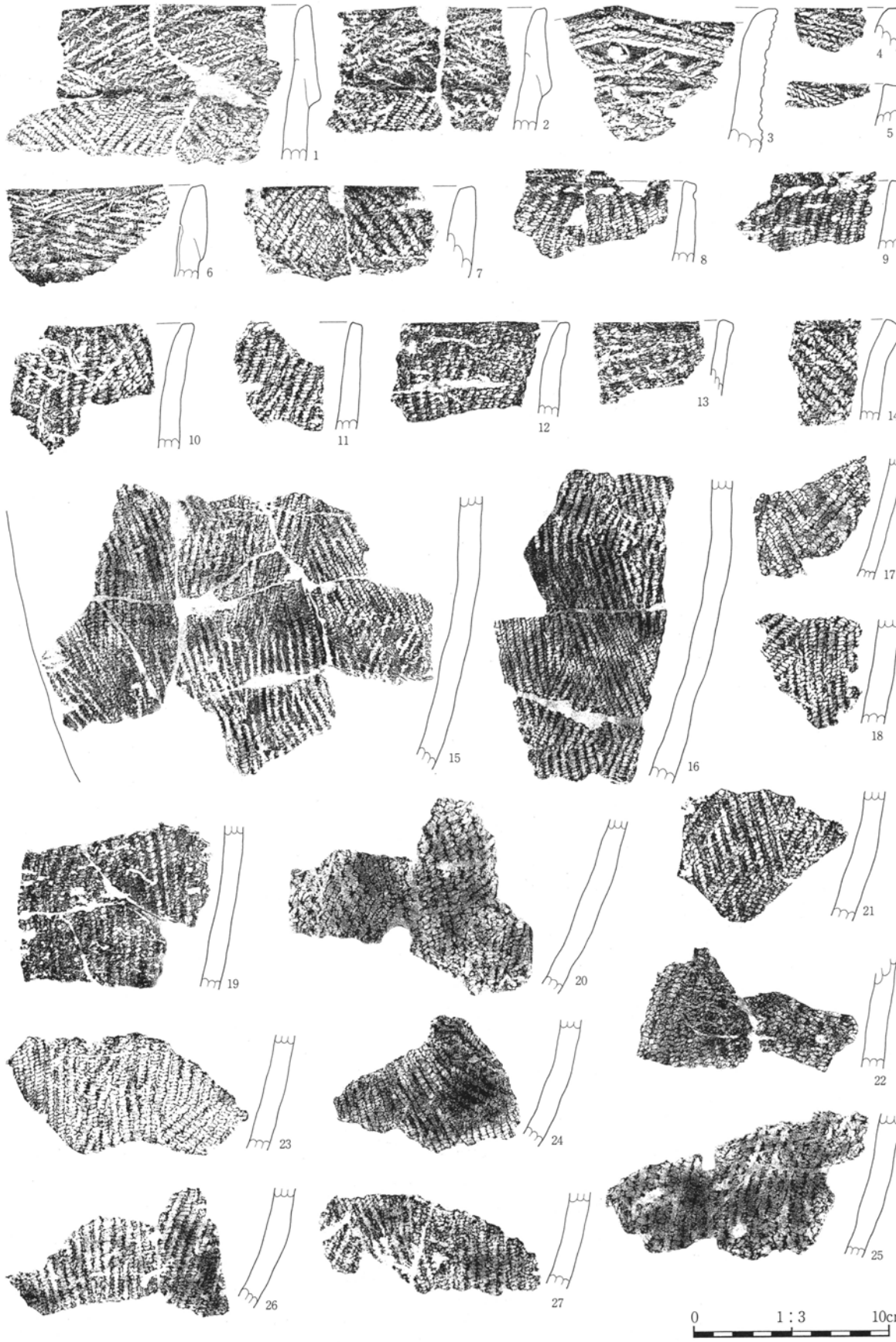
471-483は諸磯c式土器に比定される。471は推定口径32cm、現存高11cmを測る、口縁部が開く深鉢である。緩い波状を呈し、波頂部は内面側に押されて変形し、穿孔を伴う切り込みが施されている。切り込みの下部には背高の縦位の貼付文を施し、口縁部を区画している。口縁部は横位の集合沈線文を施し、口唇外端部には爪起し状の連続刻みを施している。貝殻状貼付文出現以前の、諸磯c式古段階の土器と思われる。472も口縁部に耳朶状の貼付文を施す古段階の土器である。473-478は結節浮線文を施文する新段階のものである。479-483は集合沈線文を施文する。279、282が横位、480は縦位、481、483は斜位の集合沈線を施文する。

484～486は平行沈線区画内に貝殻腹縁をロッキング施文する興津式である。諸磯c式に伴うものと思われる。

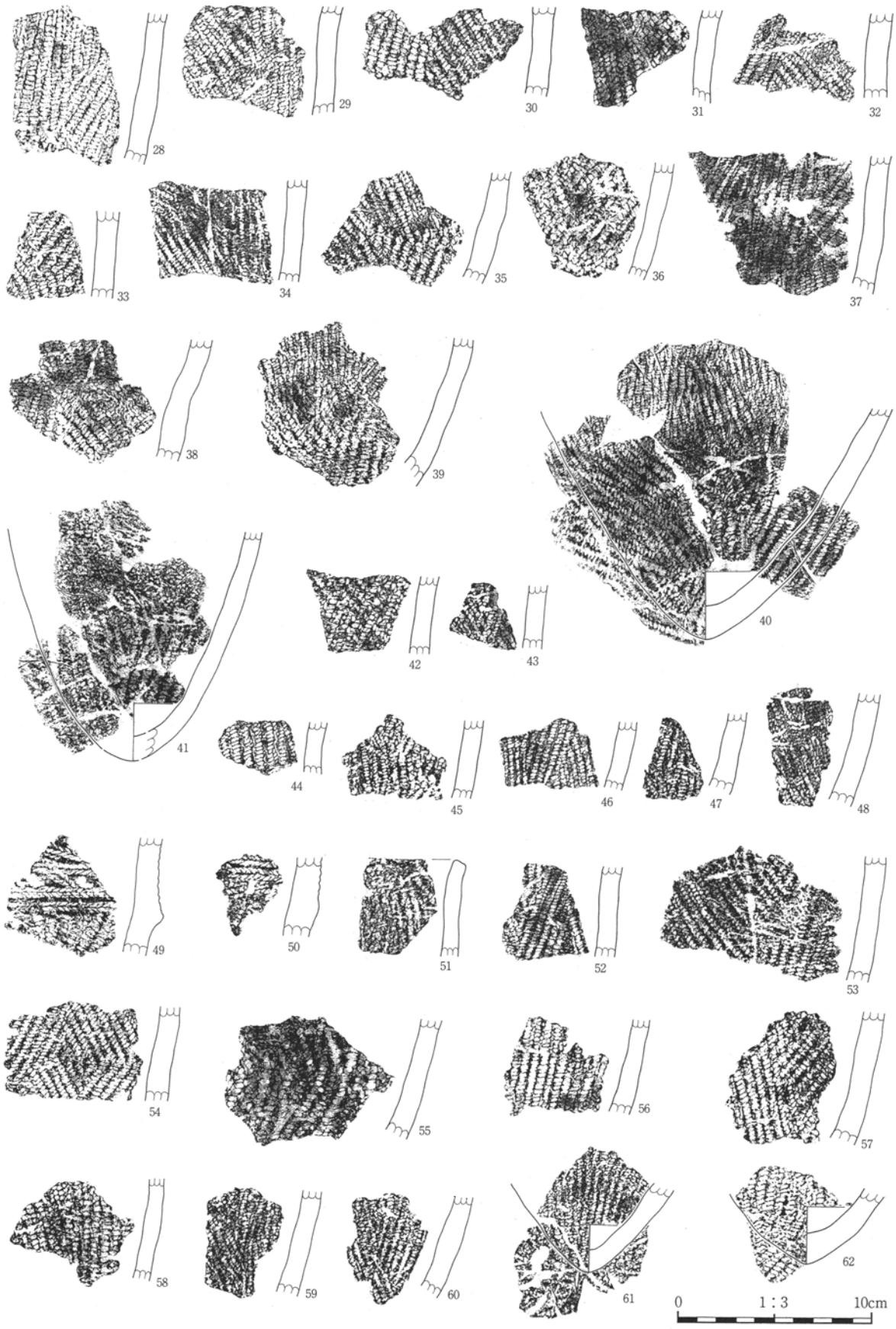
487-491は中期中葉の土器群で、型式比定は難しいが、三角印刻文や平行沈線文、押圧隆帯、角頭口唇部などから阿玉台Ⅰb式並行期に位置付けられようか。493-495は同一個体と思われ、中期中葉の阿玉台Ⅱ式に比定されよう。496-501は磨消懸垂文を垂下する中期末葉の加曽利EⅢ式土器である。地文に単節RLを施文する。



第42図　A15・A17・C17グループ遺物出土状況

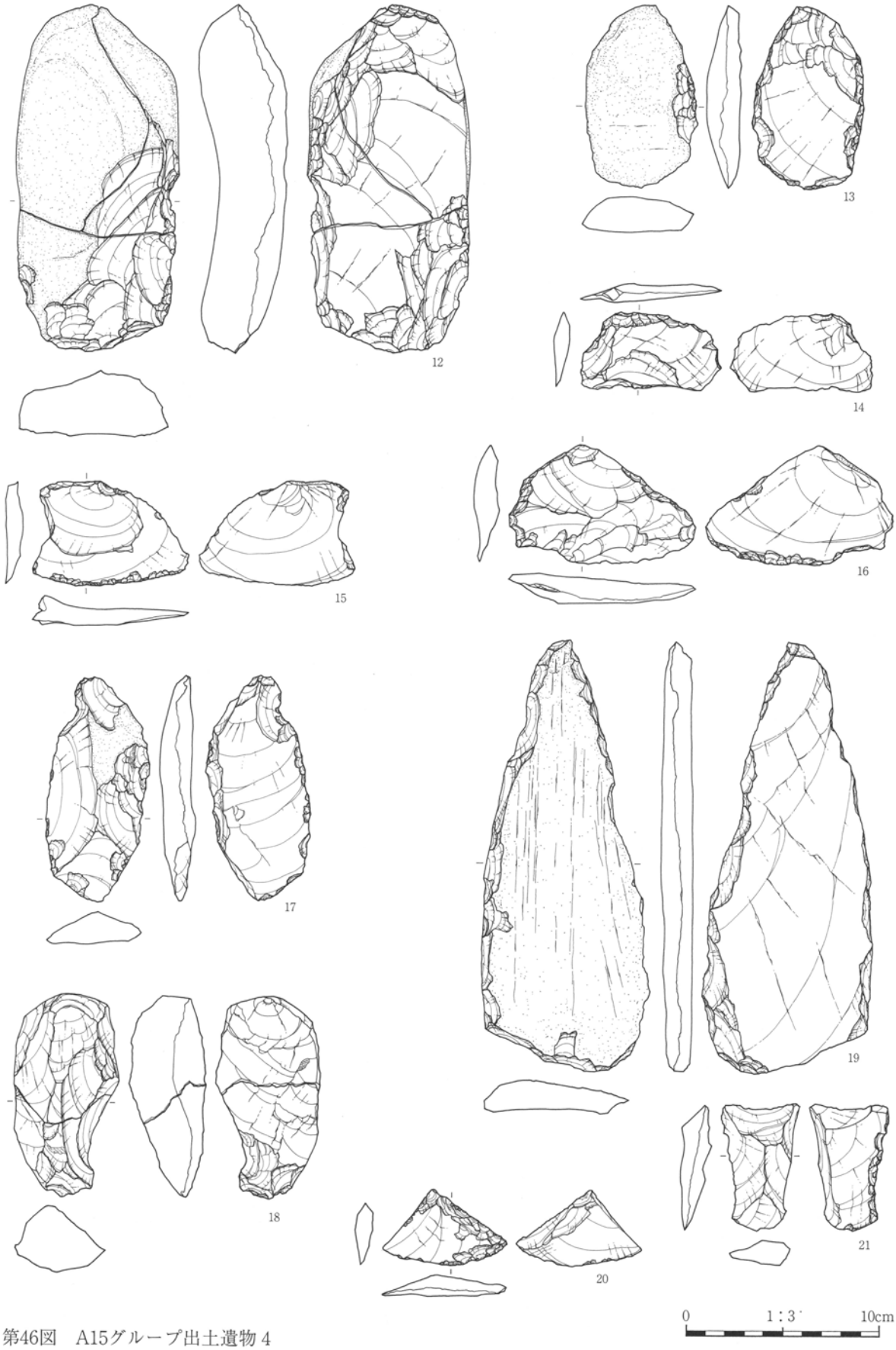


第43図　A15グループ出土遺物１

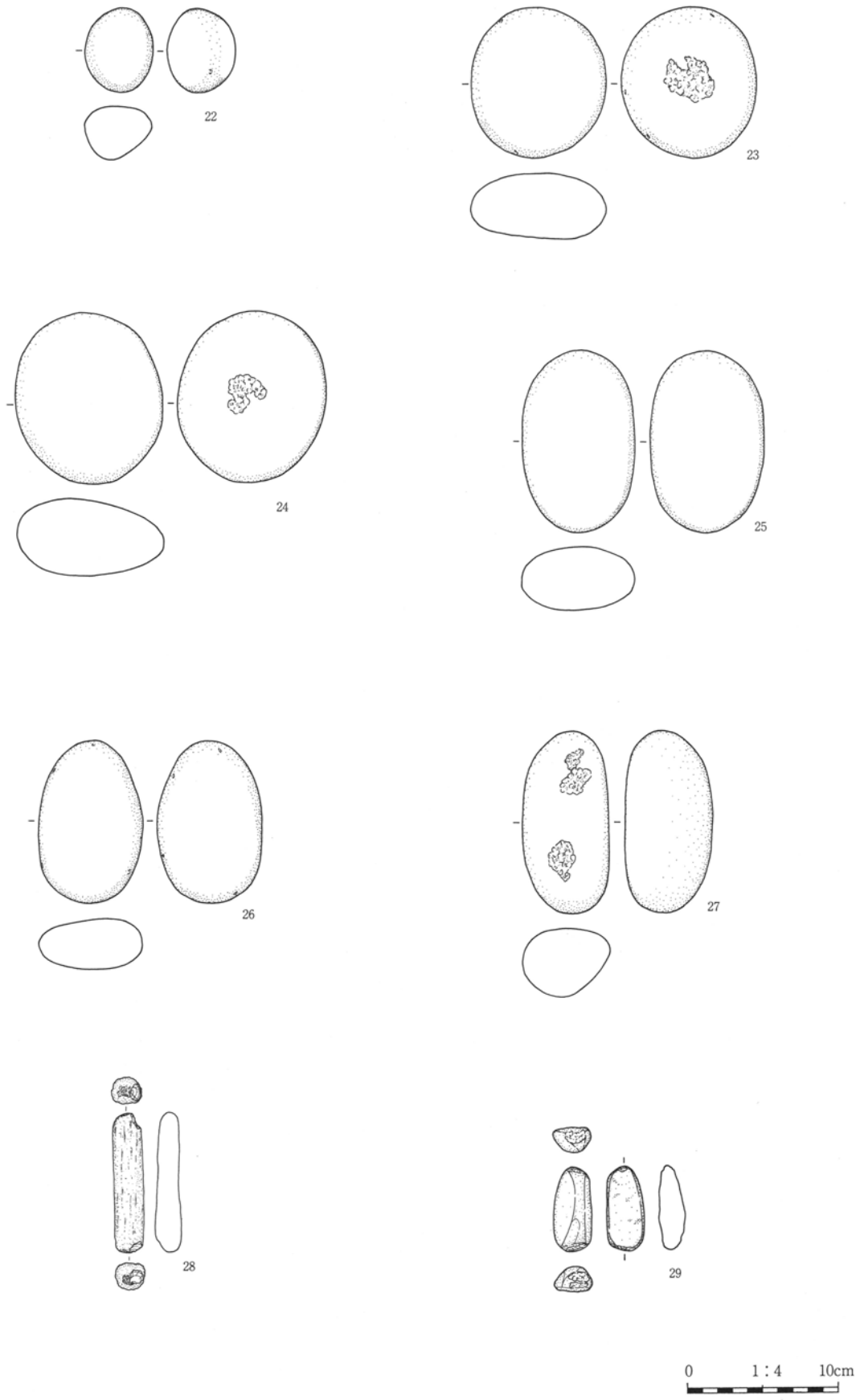


第44図　A15グループ出土遺物２

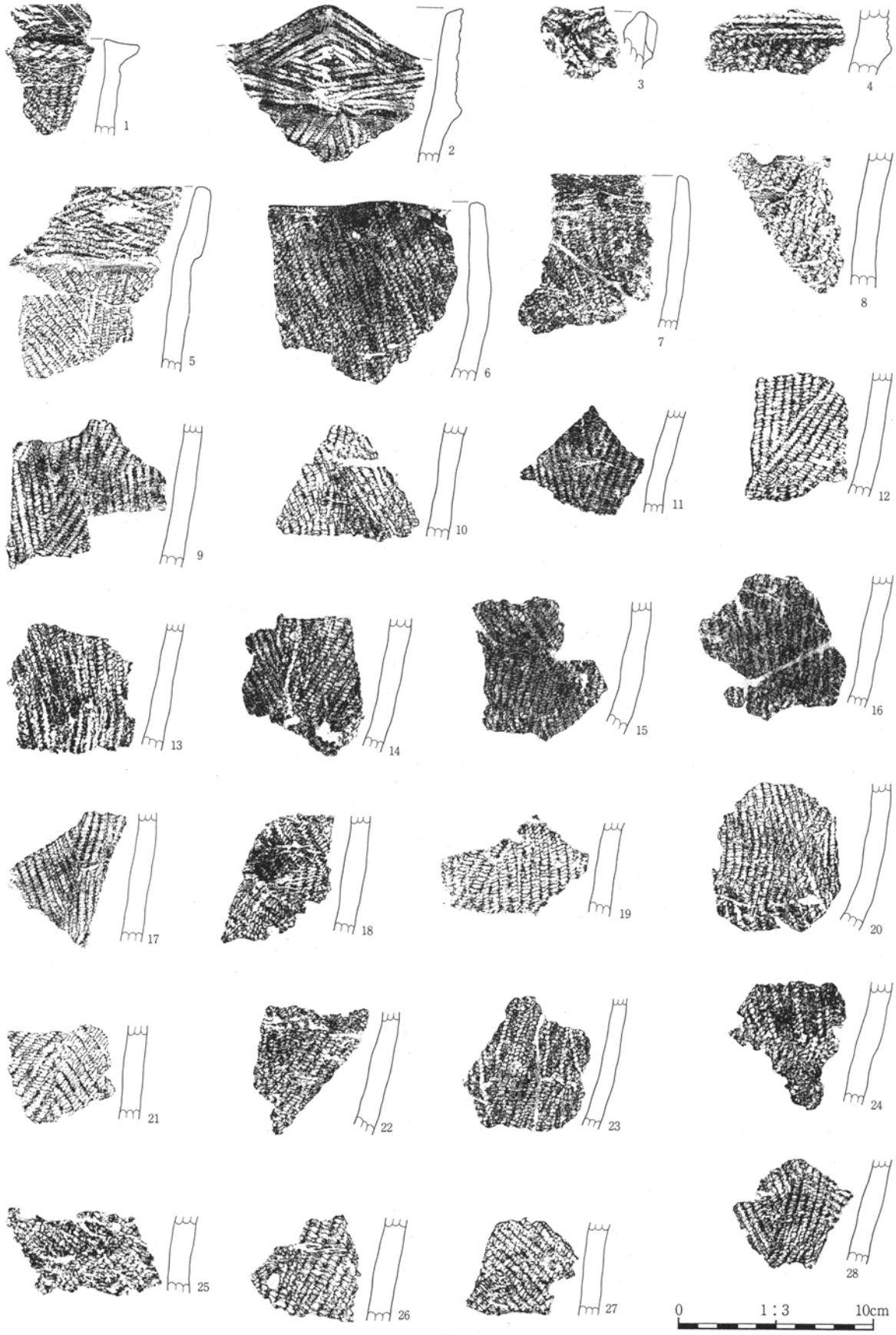
第45図　A15グループ出土遺物３



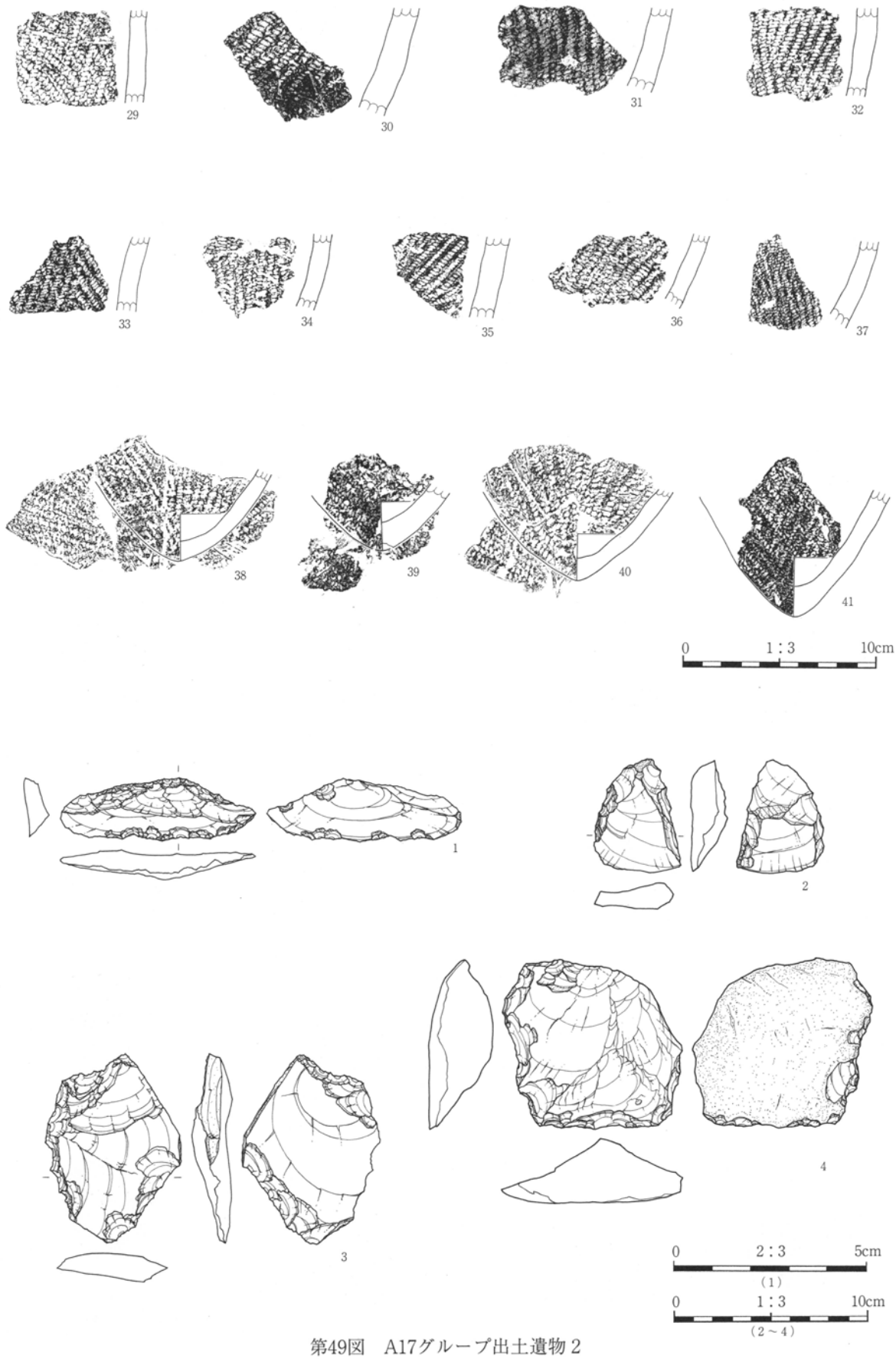
第46図　A15グループ出土遺物４



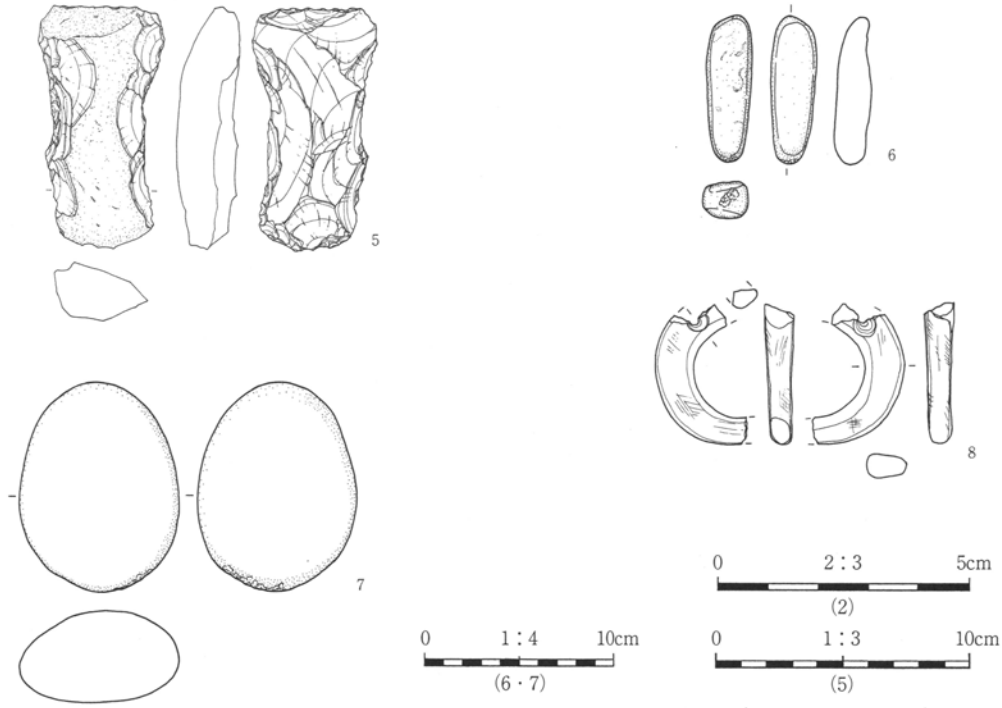
第47図　A15グループ出土遺物５



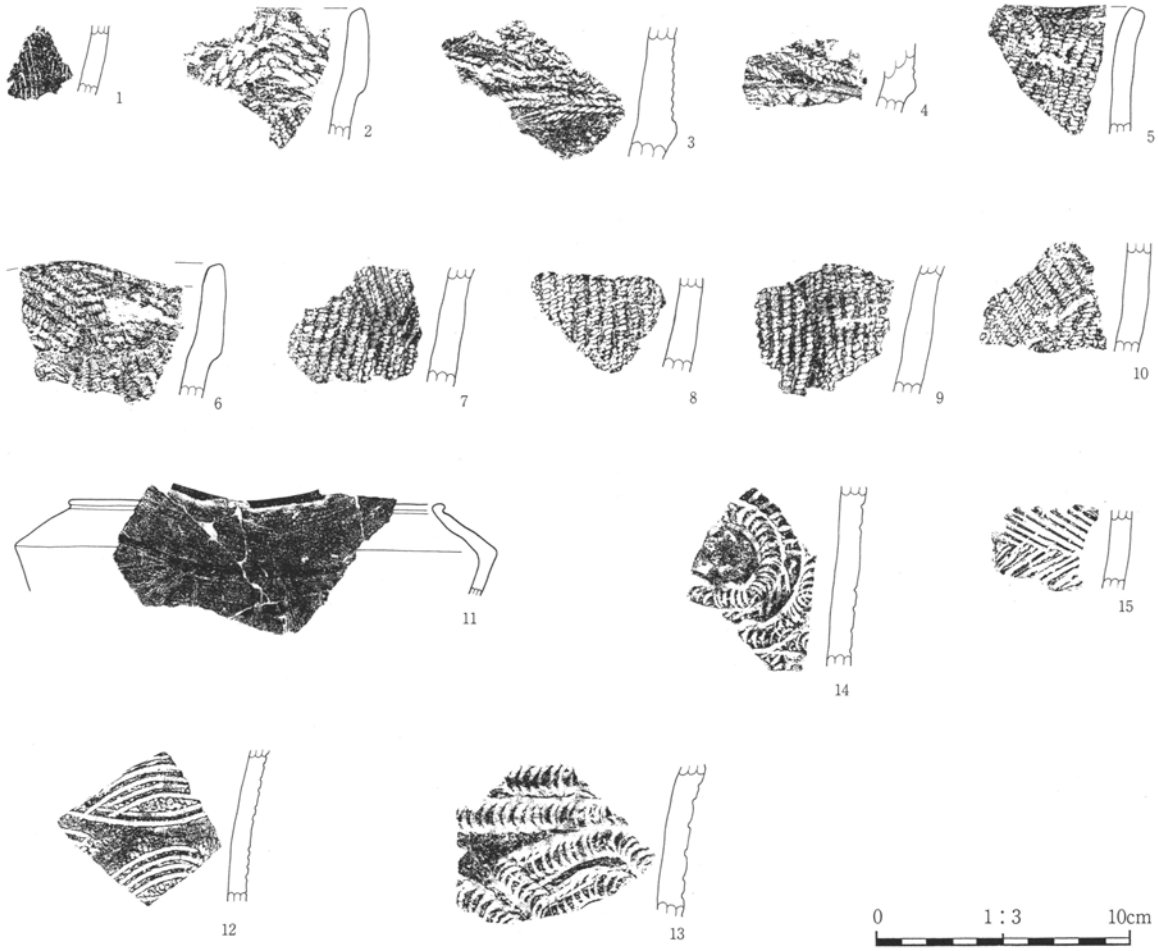
第48図　A17グループ出土遺物 1



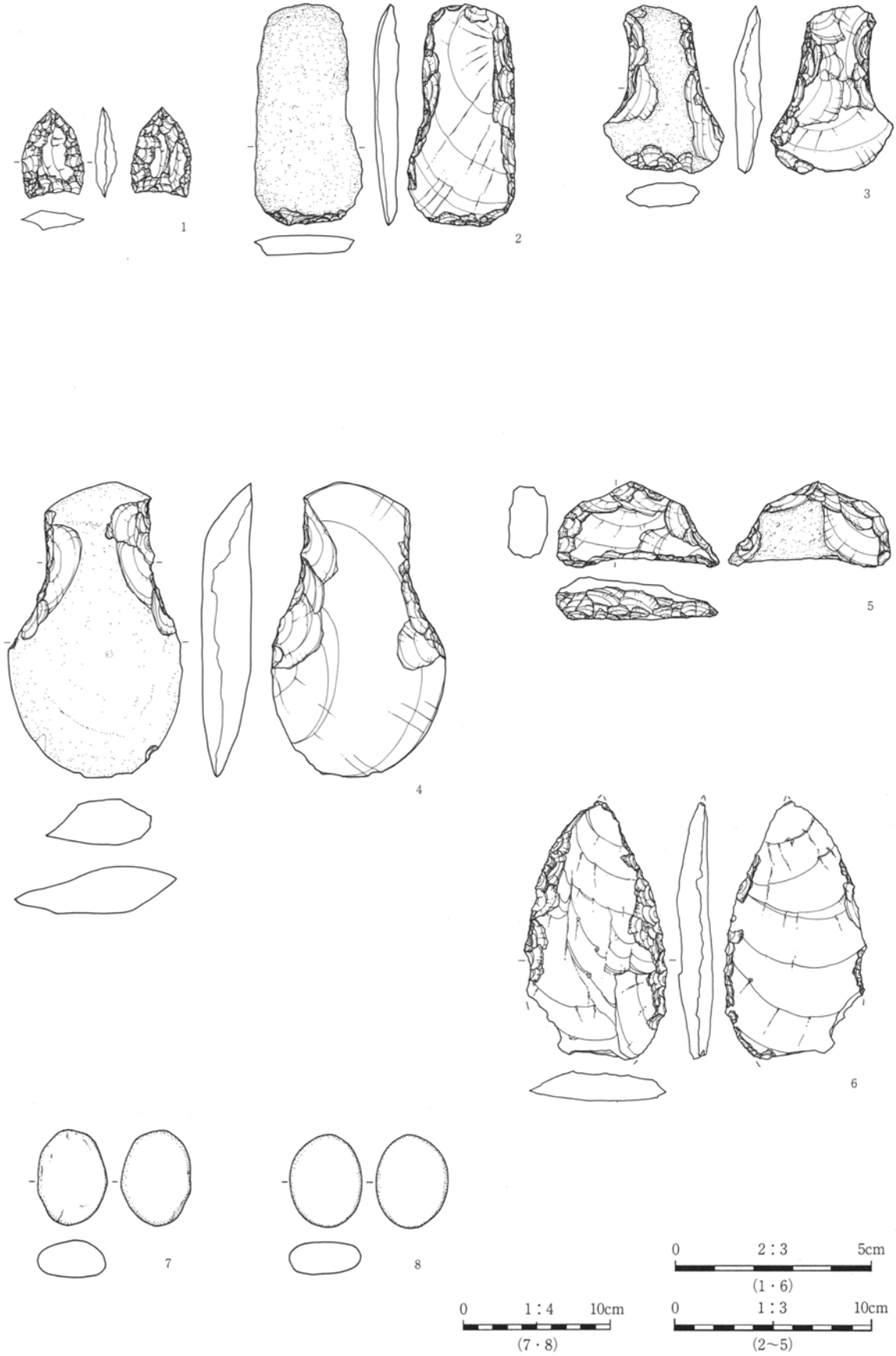
第49図　A17グループ出土遺物２



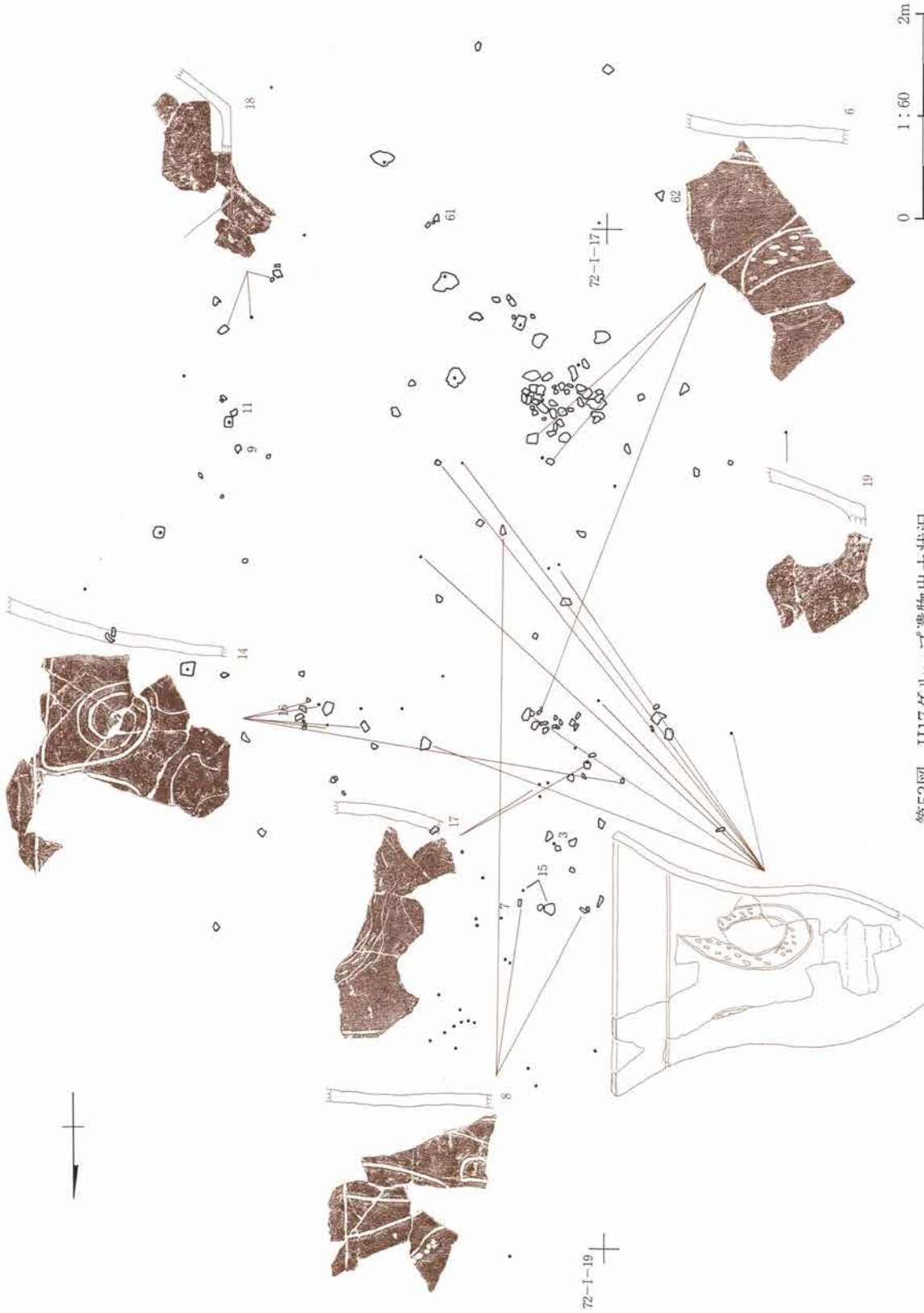
第50図　A17グループ出土遺物３



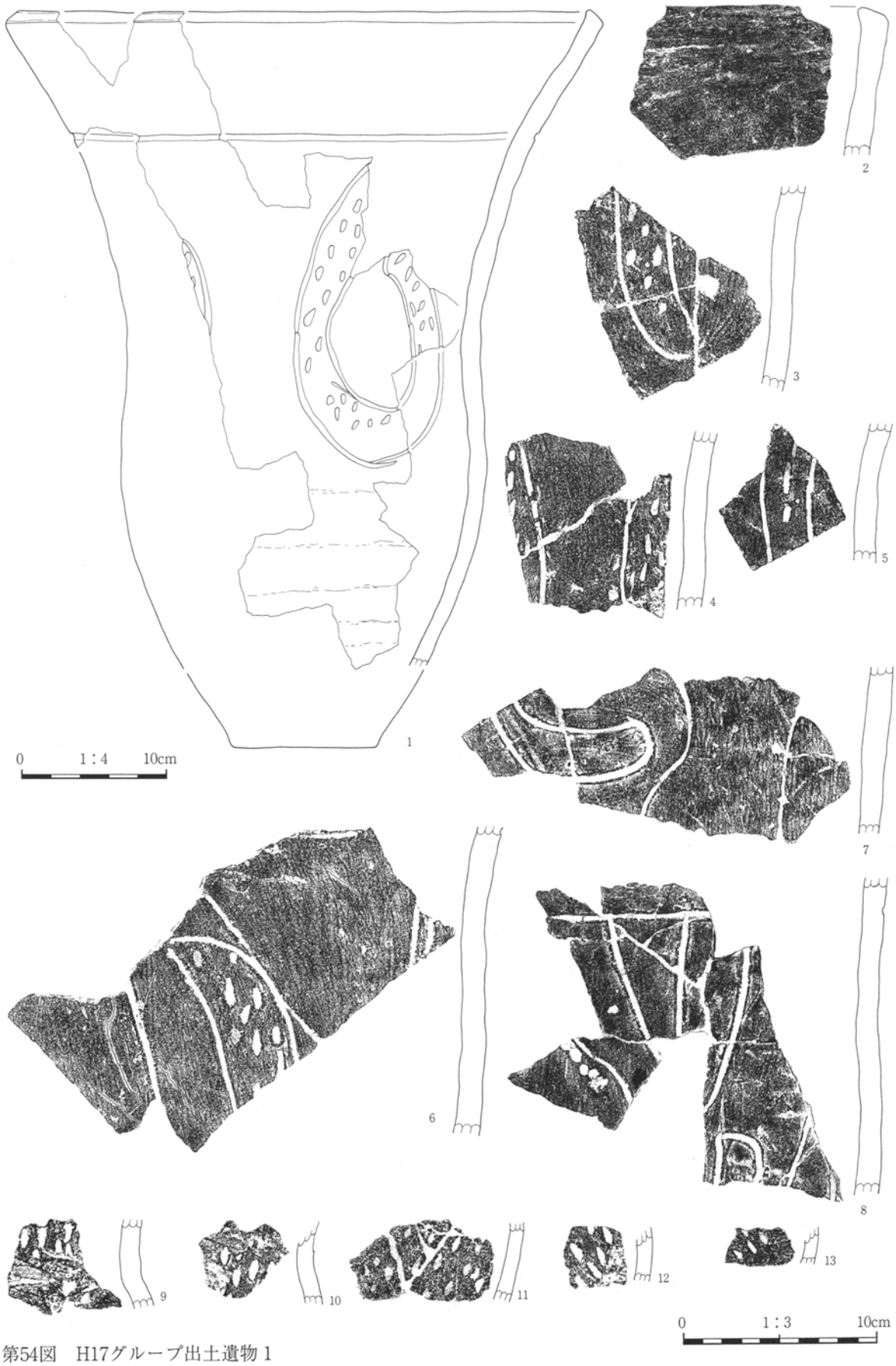
第51図　C17グループ出土遺物１



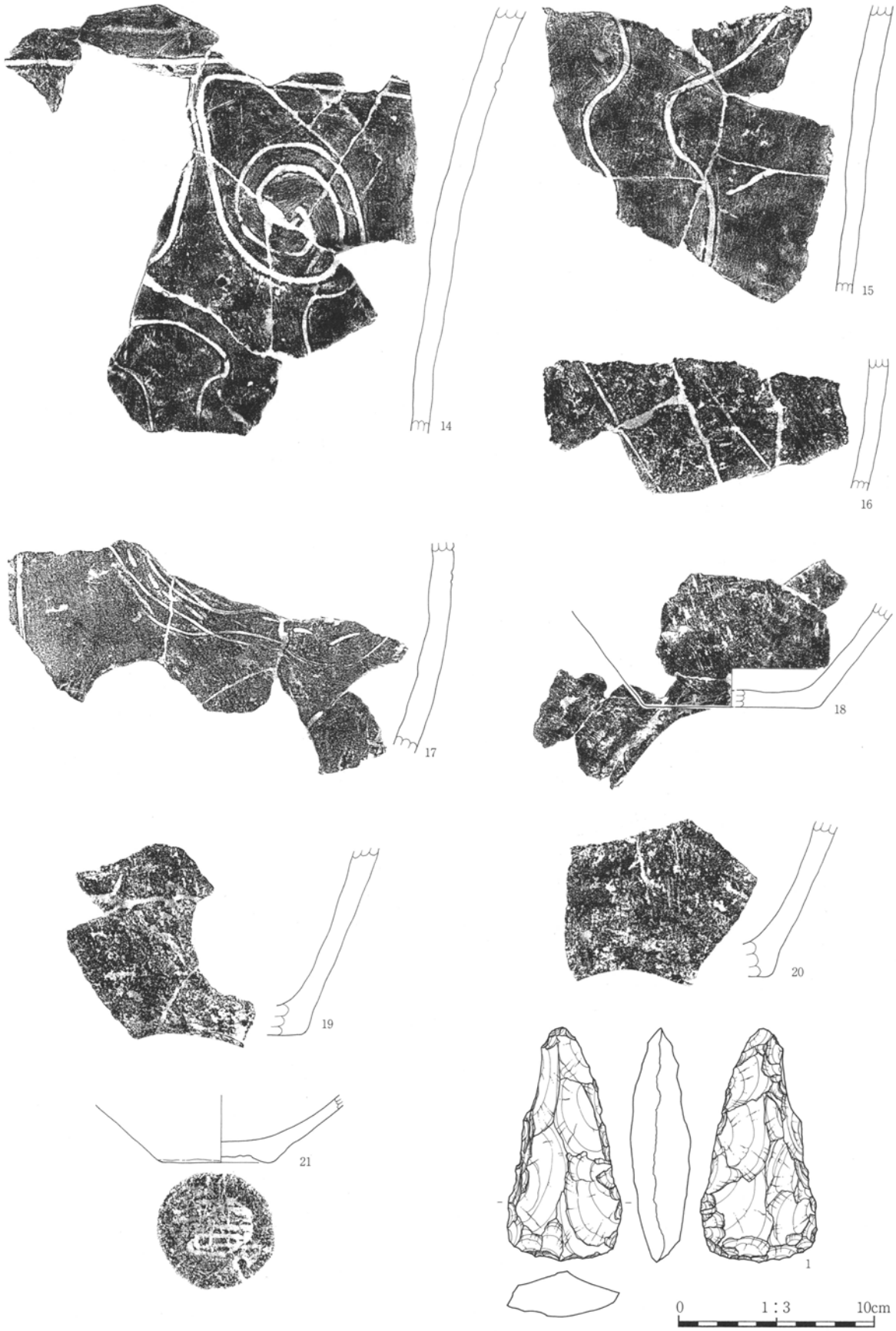
第52図　C17グループ出土遺物２



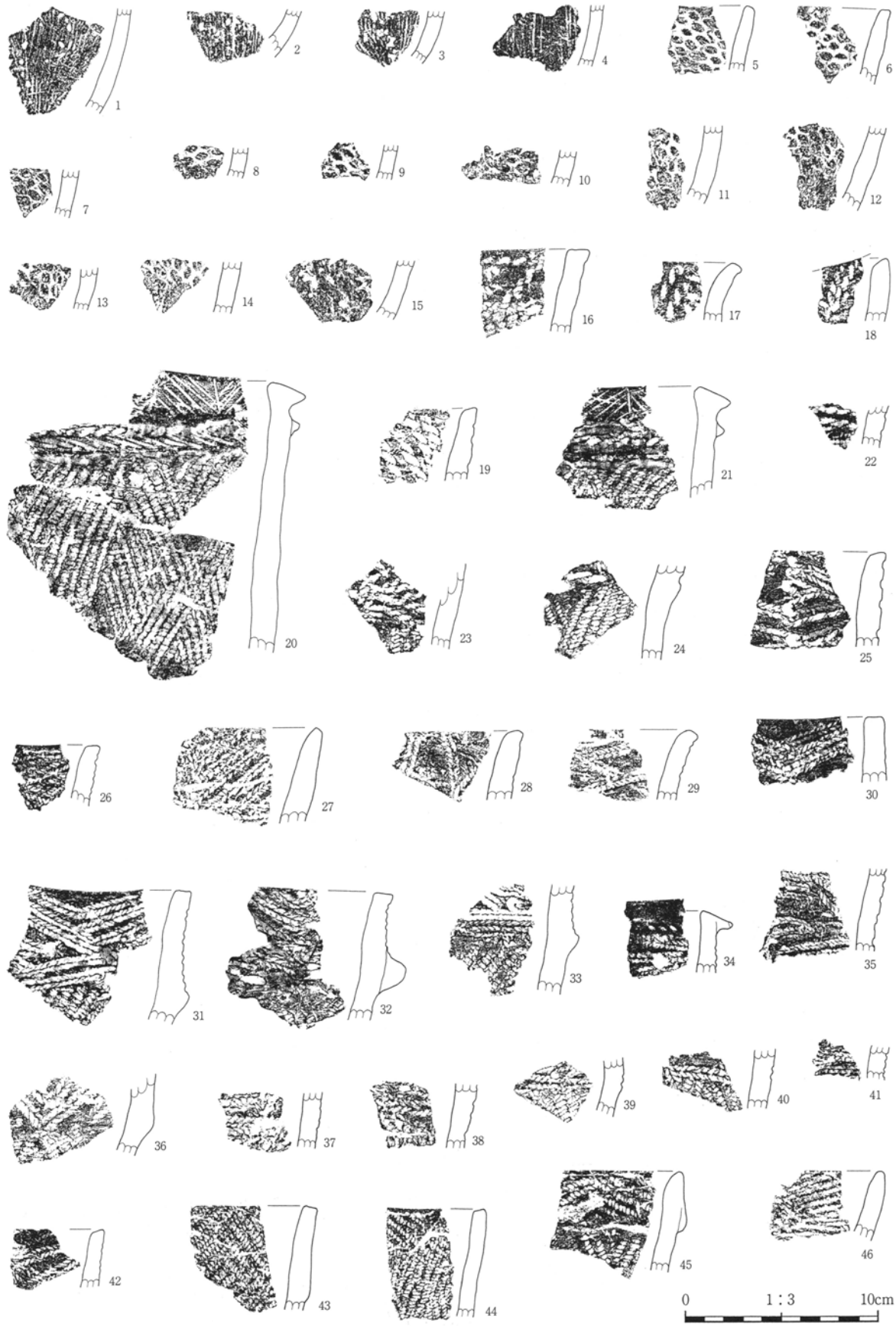
第53図　H17グループ遺物出土状況



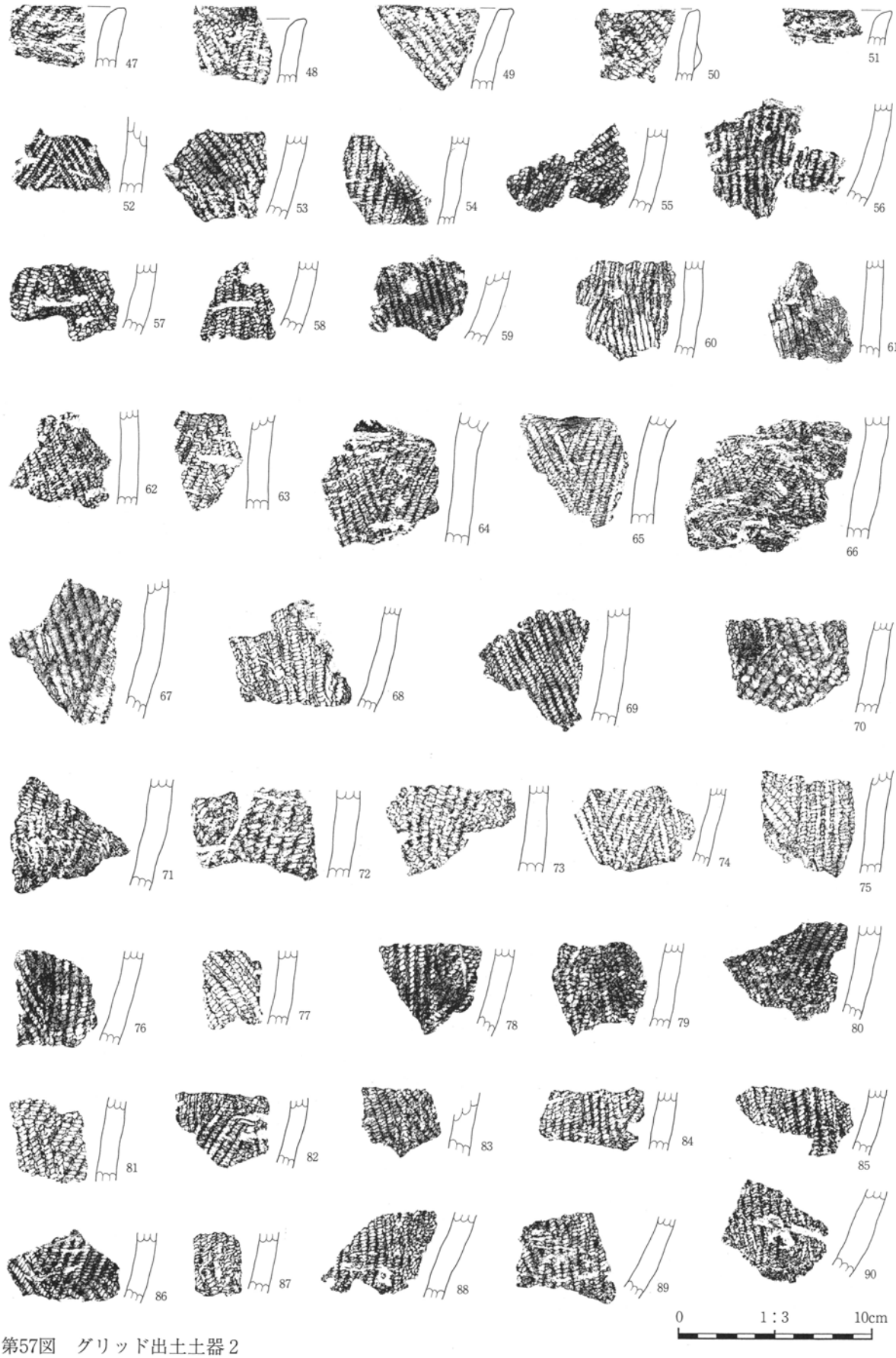
第54図　H17グループ出土遺物１



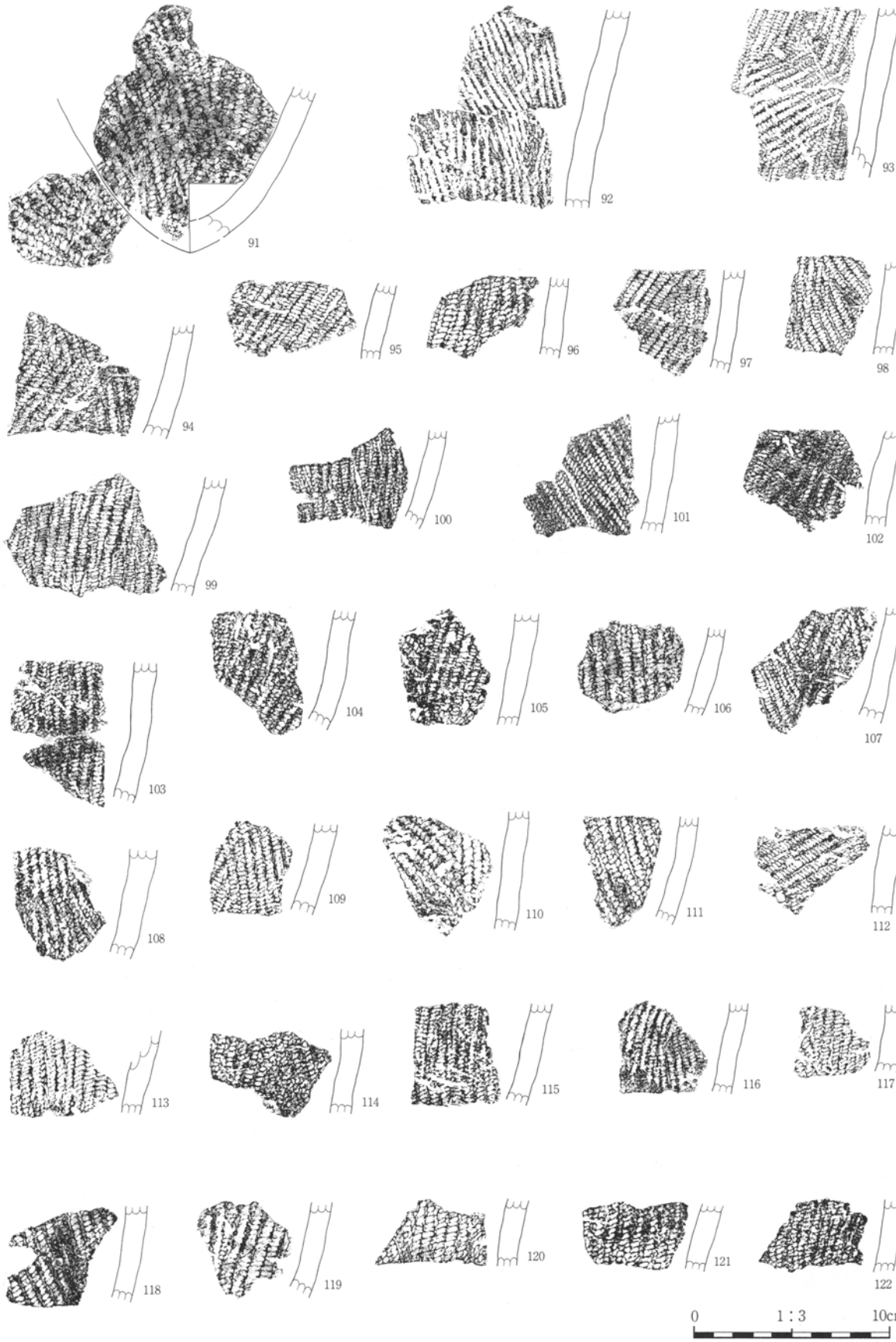
第55図　H17グループ出土遺物２



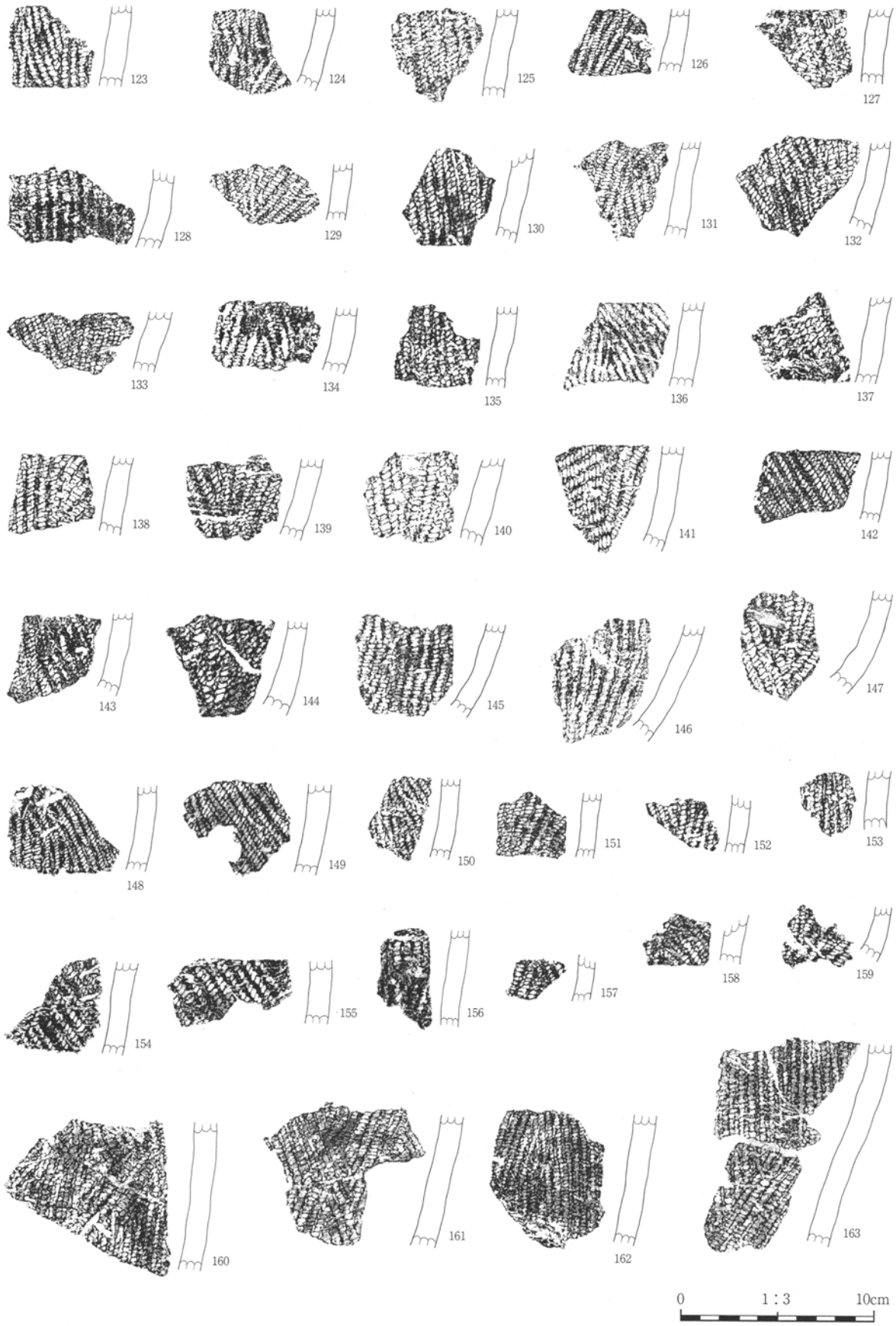
第56図　グリッド出土土器１



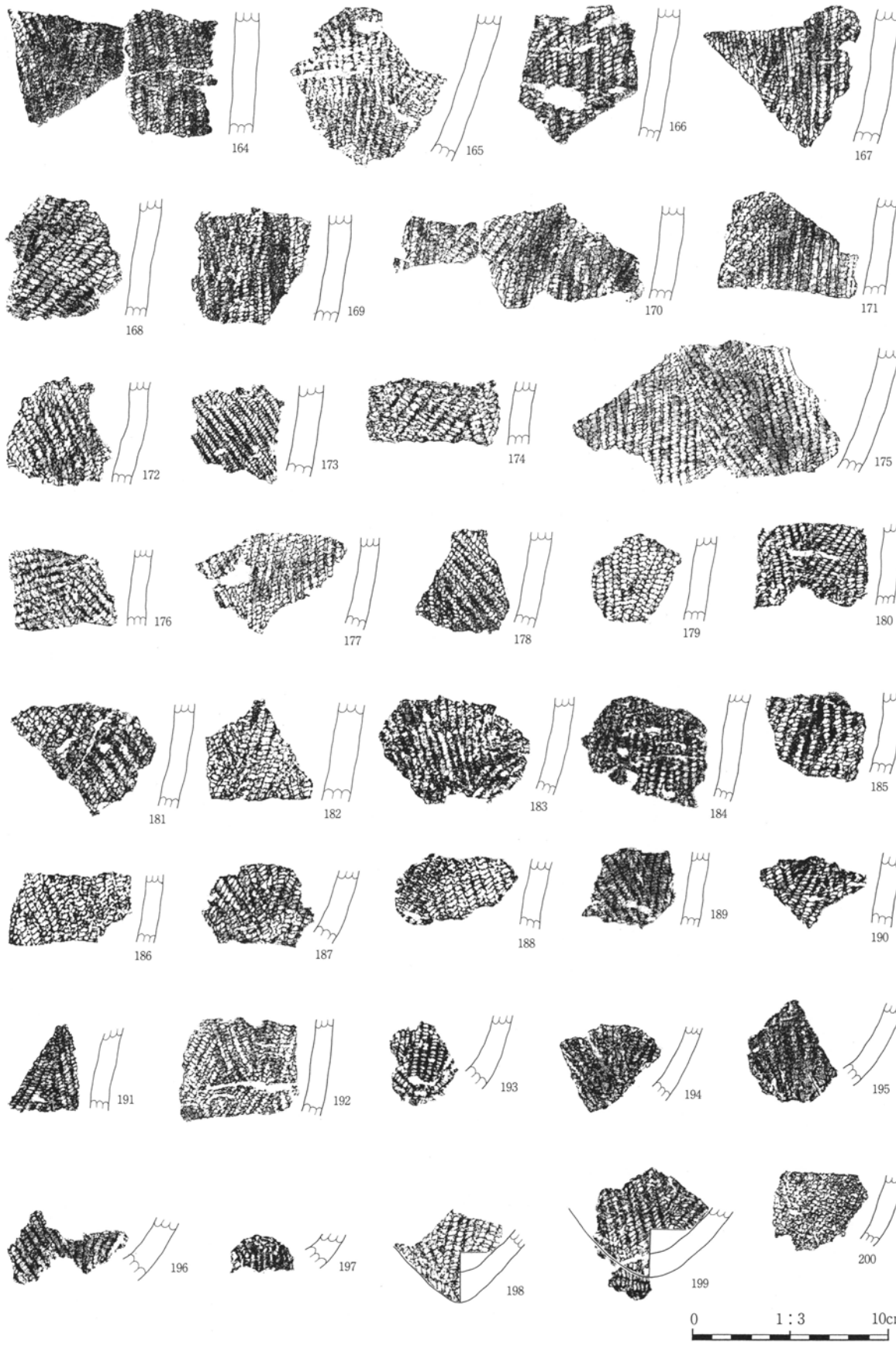
第57図　グリッド出土土器２



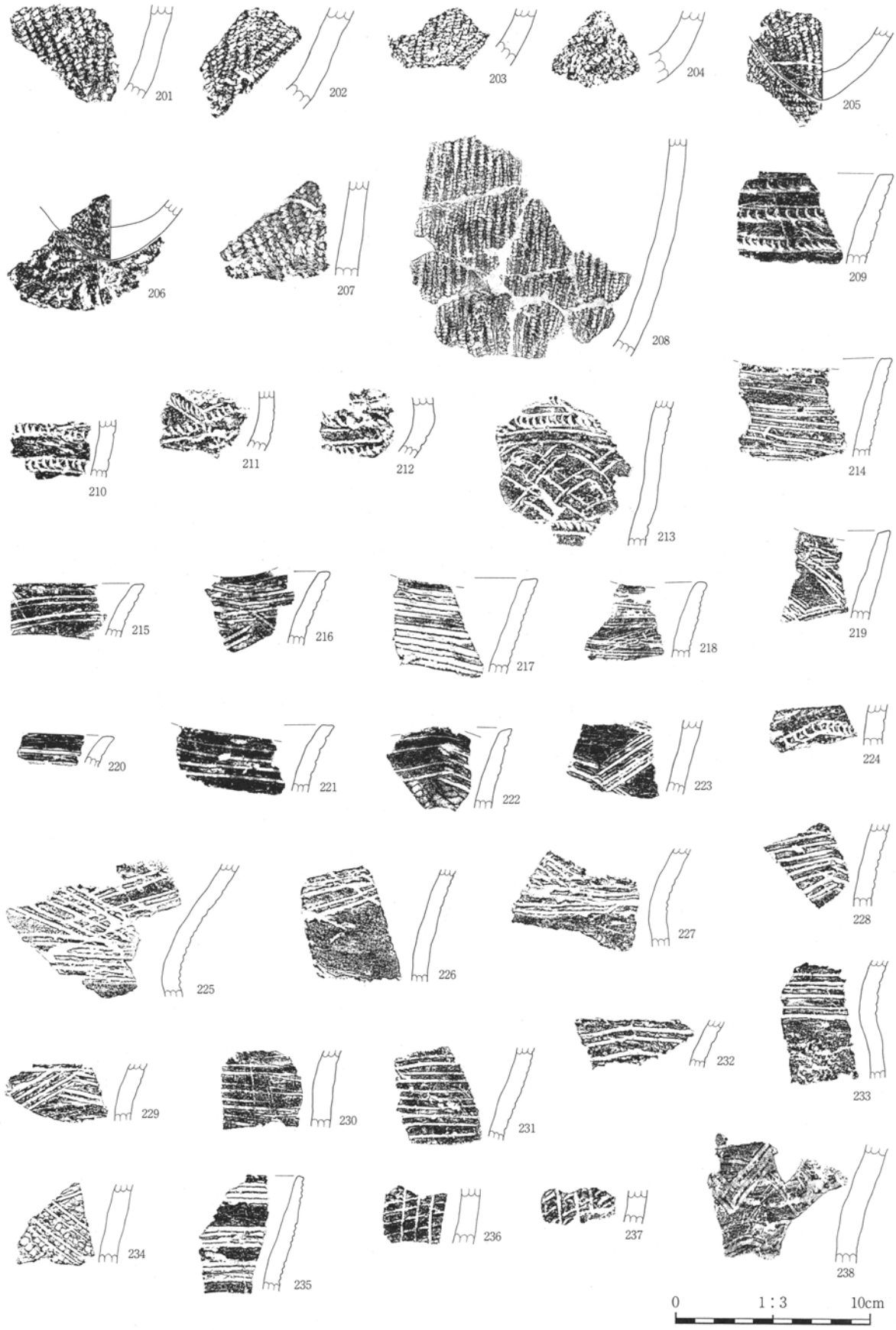
第58図　グリッド出土土器３



第59図　グリッド出土土器４

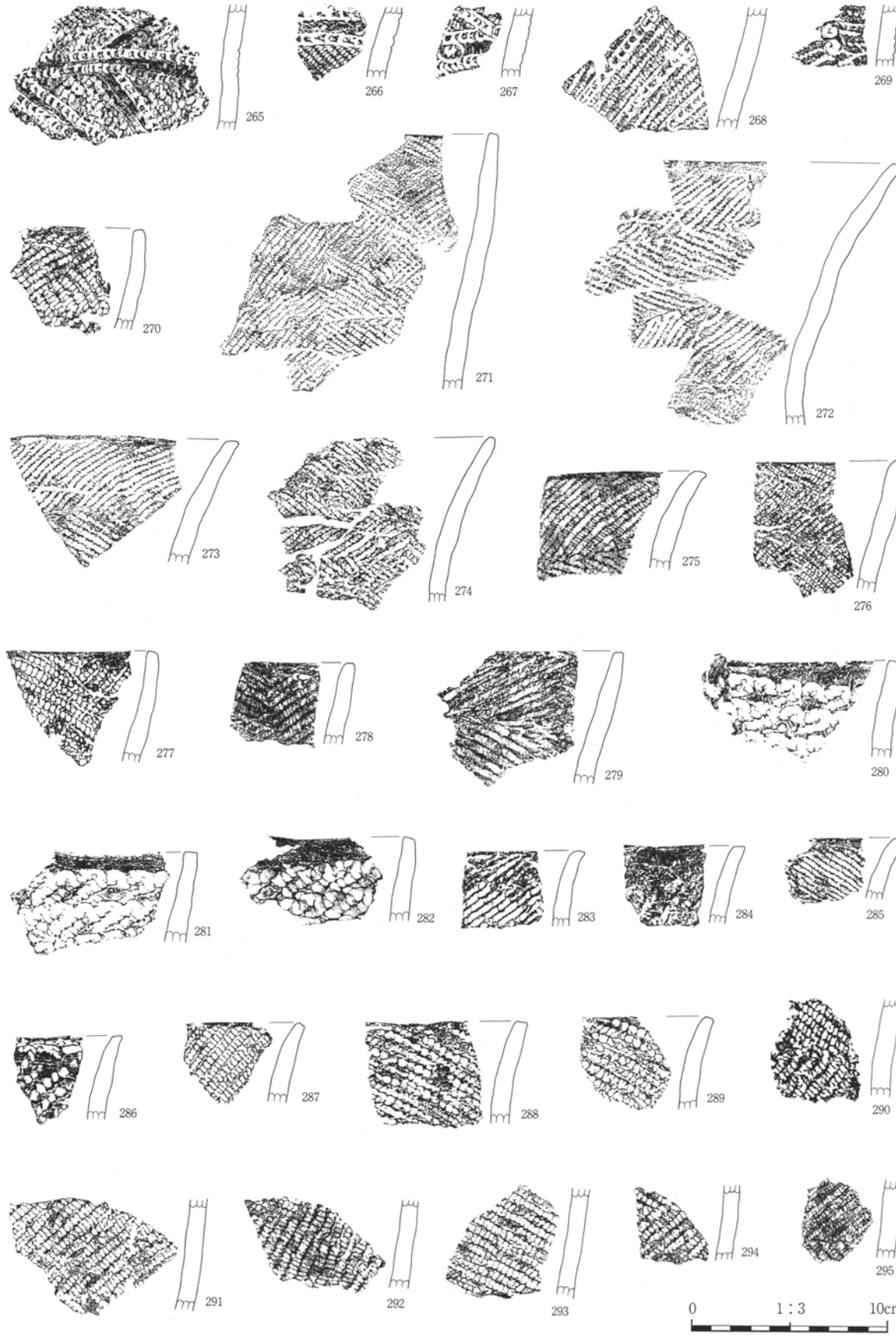


第60図　グリッド出土土器５

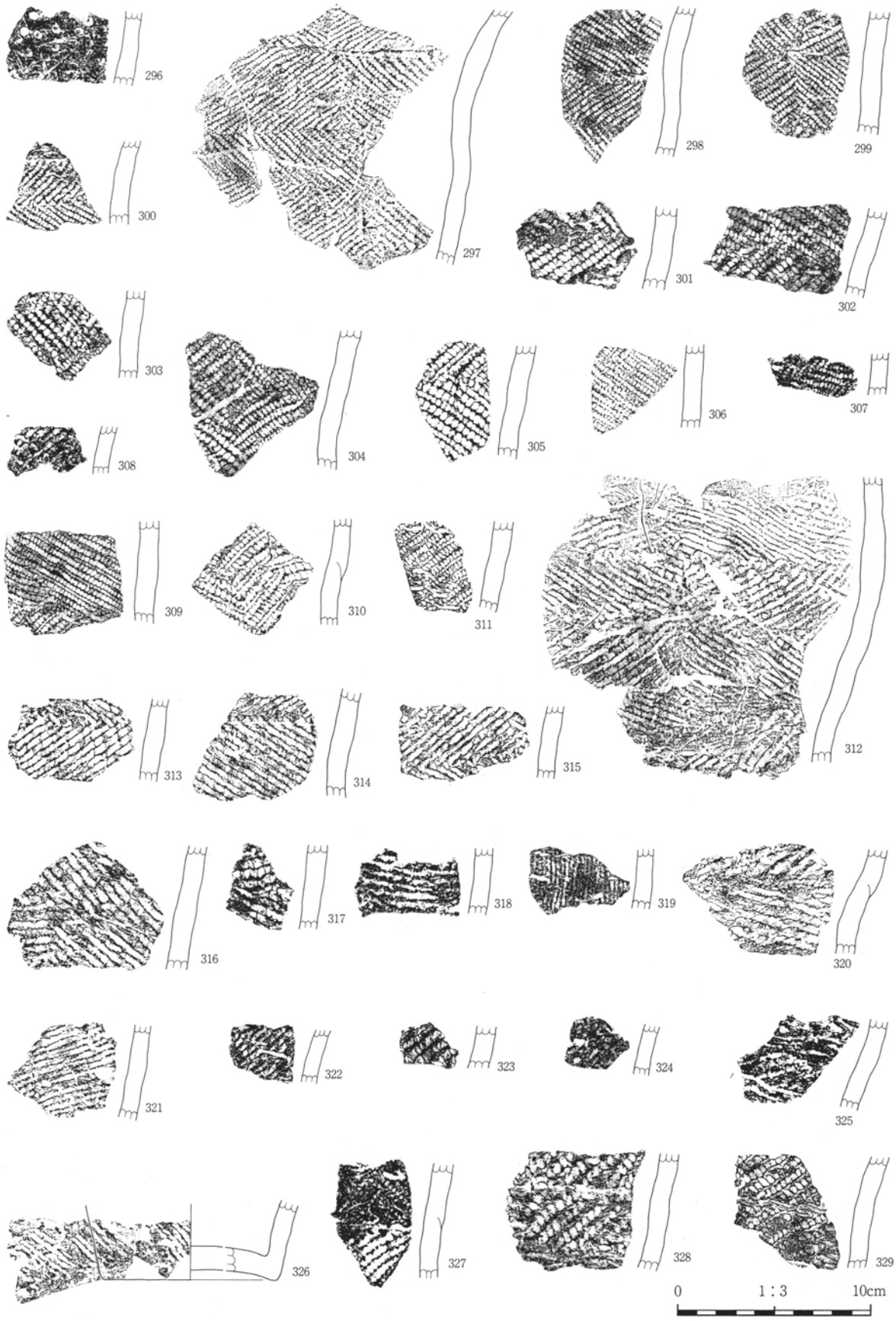


第61図　グリッド出土土器６

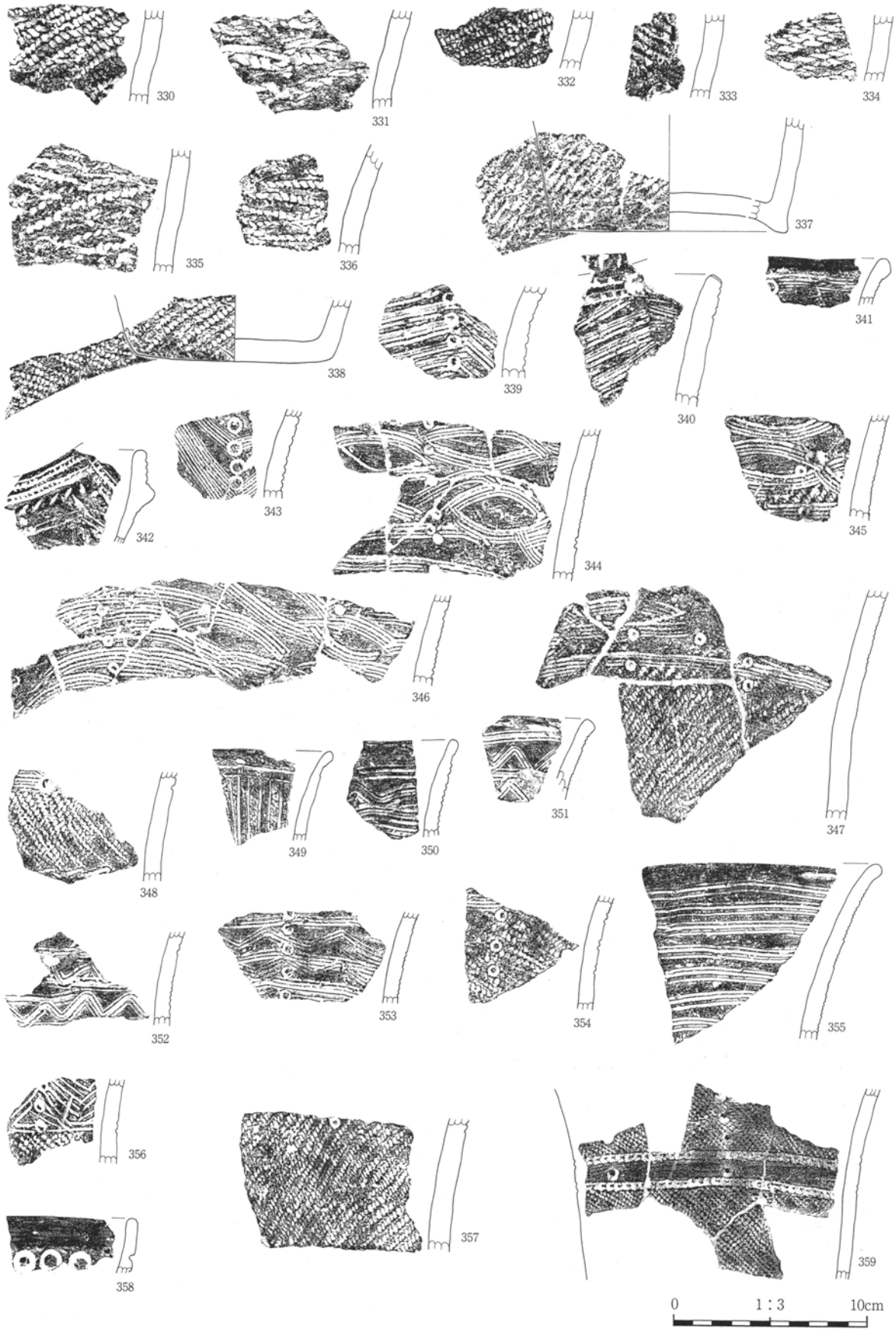
第62図　グリッド出土土器７



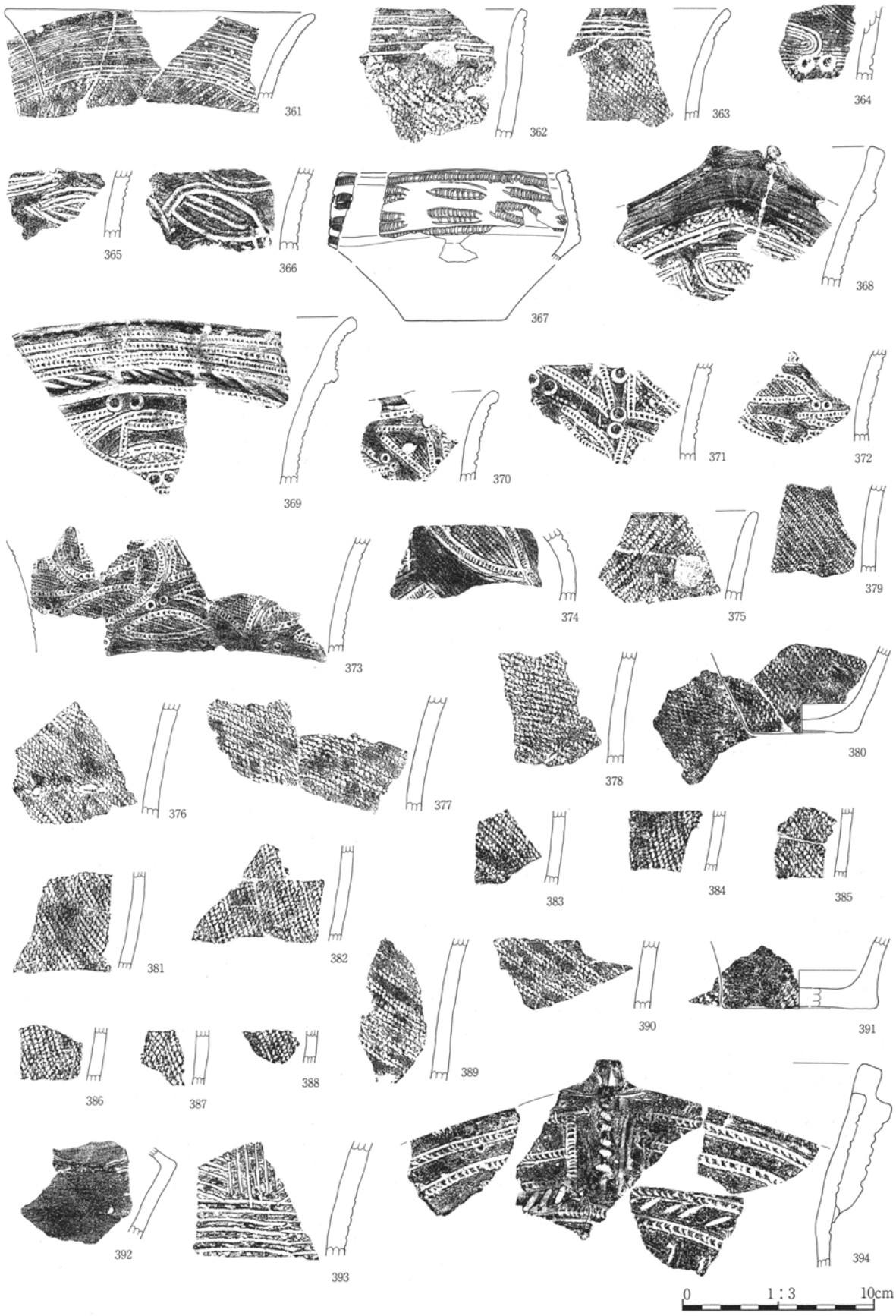
第63図　グリッド出土土器８



第64図　グリッド出土土器９

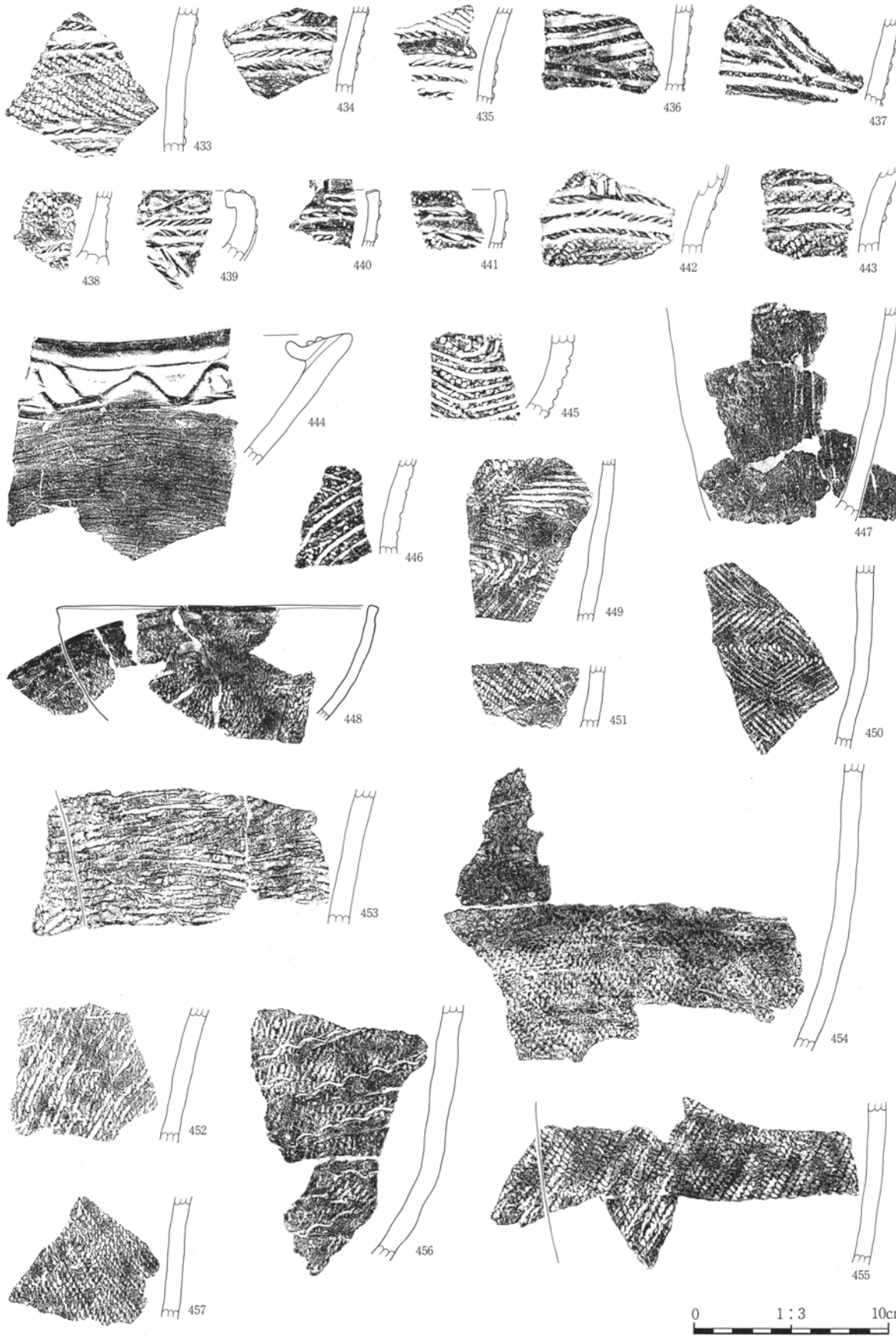


第65図　グリッド出土土器10

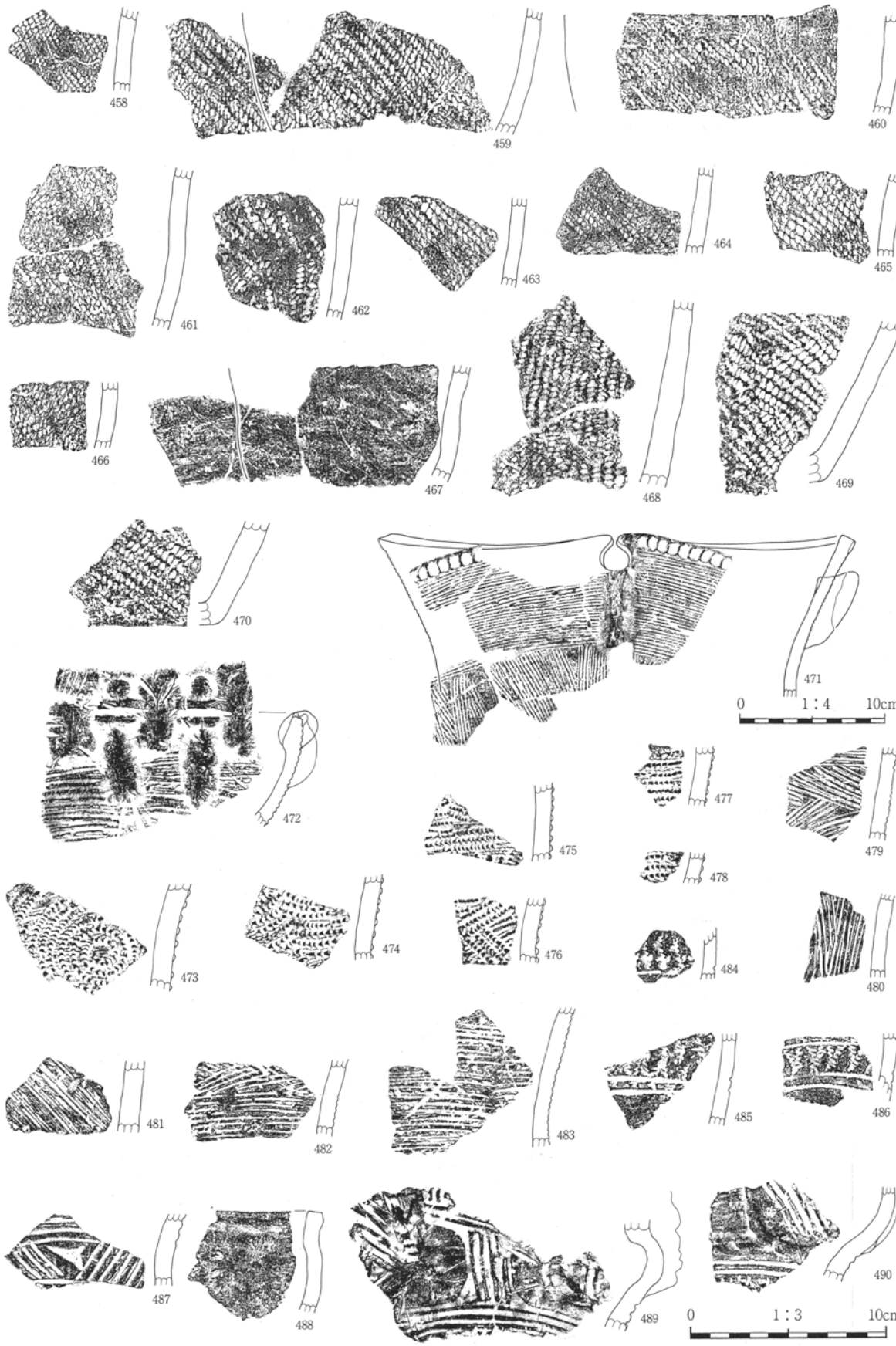


第66図　グリッド出土土器11

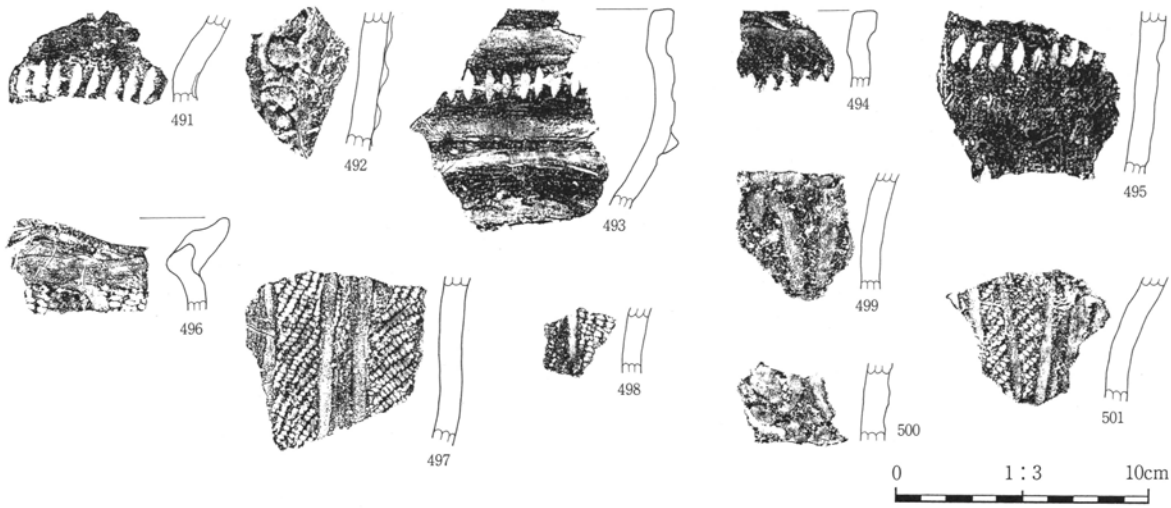
第67図　グリッド出土土器12



第68図　グリッド出土土器13



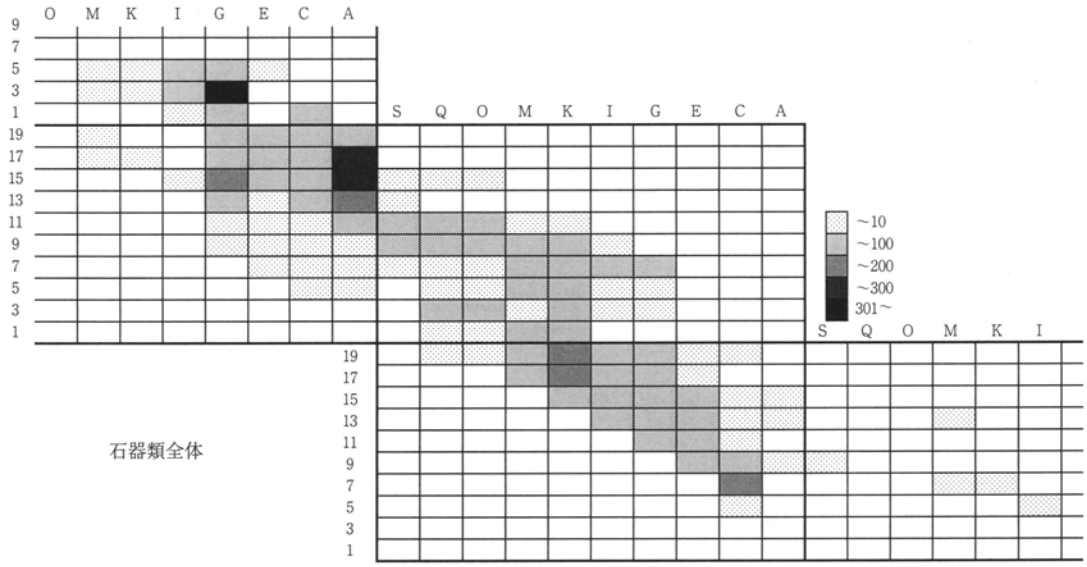
第69図　グリッド出土土器14



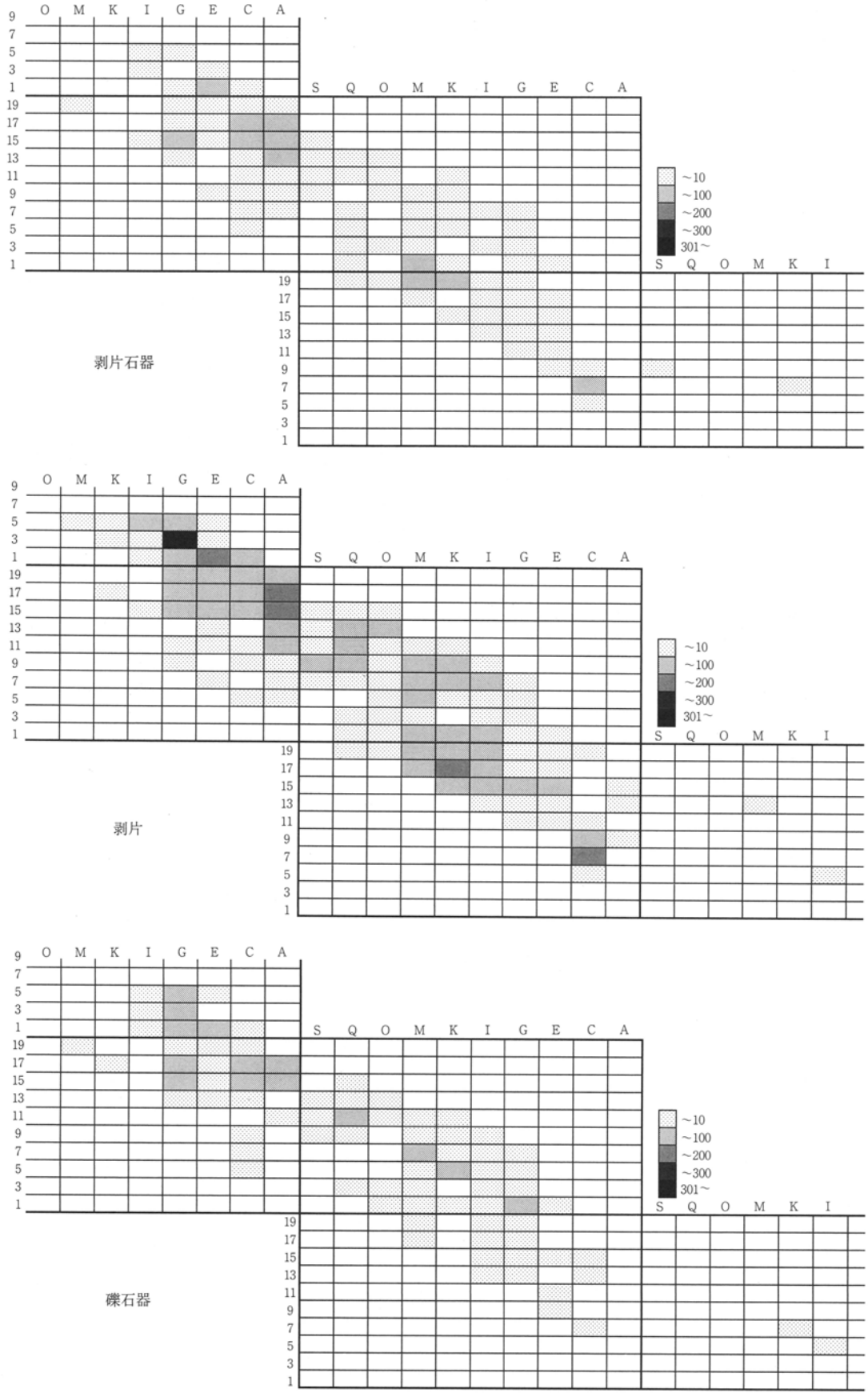
第70図　グリッド出土土器15

石器

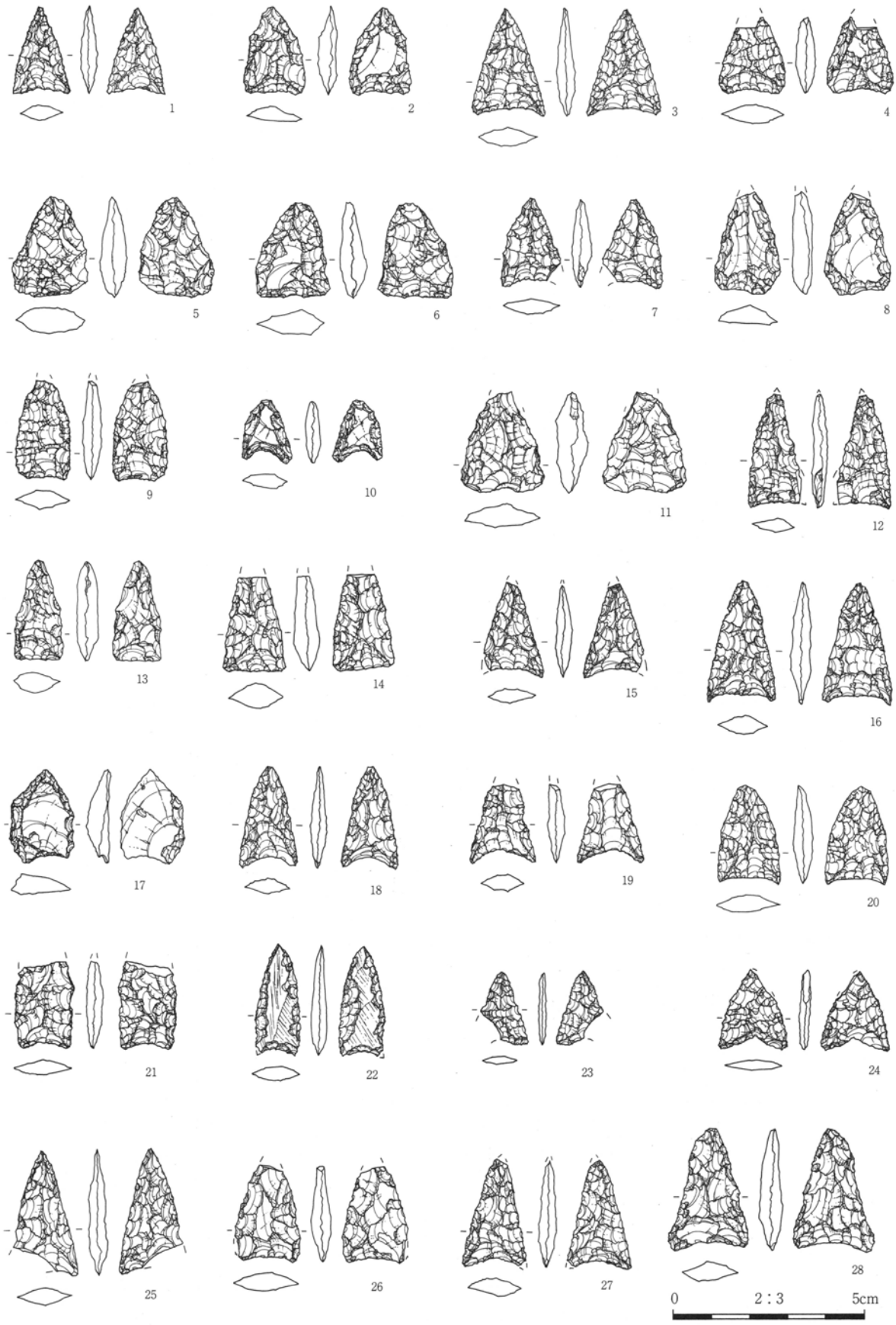
小型剥片石器に関しては、石匙など、石鏃以外の組成が貧弱である。石鏃には舌部を持つものが若干含まれている。やや大型の剥片を素材としたものでは、表面に礫面を残した剥片の一縁辺に加工を施すものが多い。厚手の剥片を素材としたものでは、急角度の二次加工を施し、掻器の機能を想定させるものもある。遺構外22の石鏃は表裏面を磨かれており、擦痕が観察できる。打製石斧は刃部が片面からの打撃で作出され、掻器状の角度を持つものがある。遺構外61などが典型である。また逆に陣部に加工を施さず、剥片縁辺を残す箆状の遺構外80のようなものも組成している。磨石類に関しては特記することはあまりない。A17グループでは、耳飾の欠損後垂飾に転用したと考えられる石製品（9）が組成している。



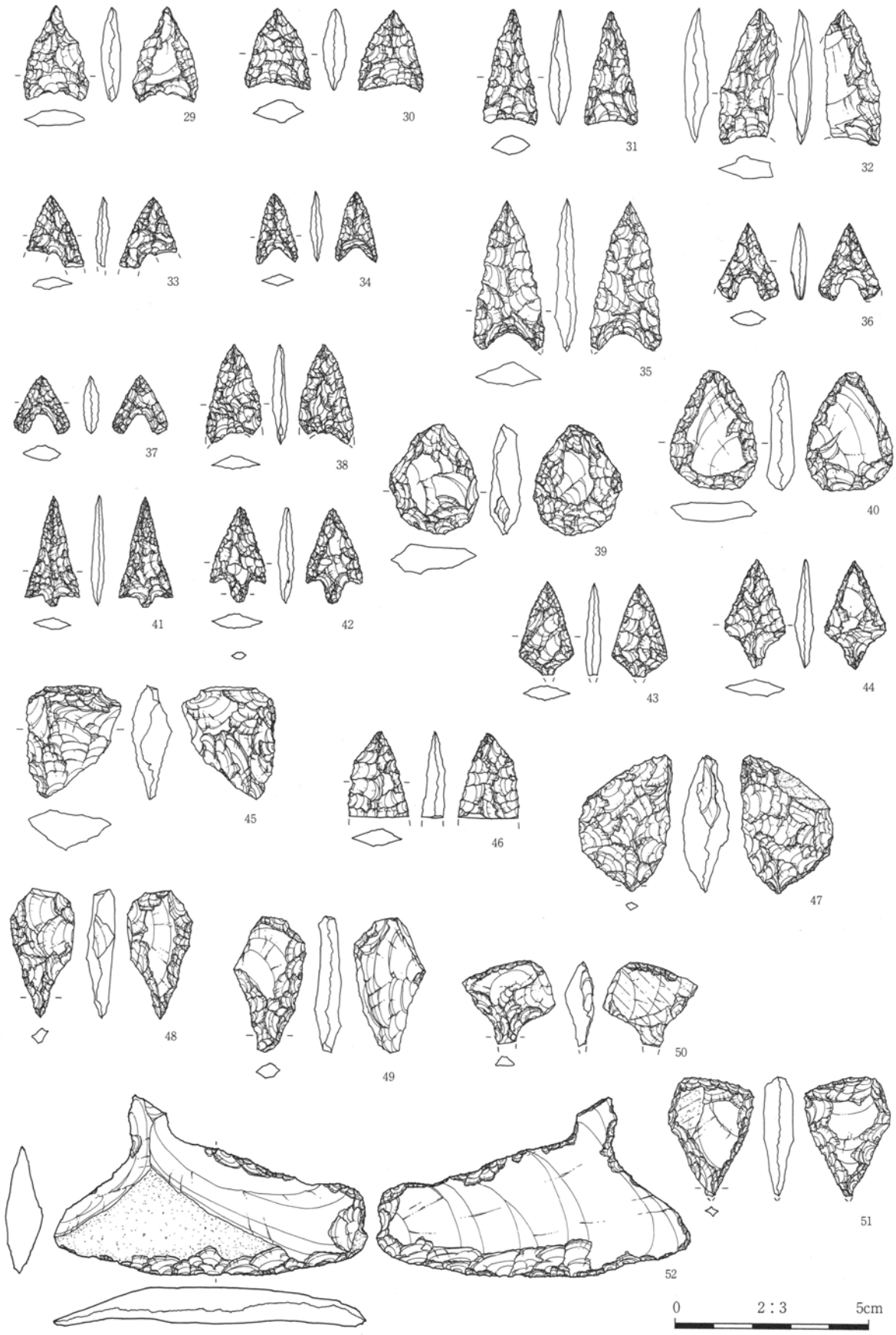
第71図　石器･剥片類のグリッド別出土量概念図　1



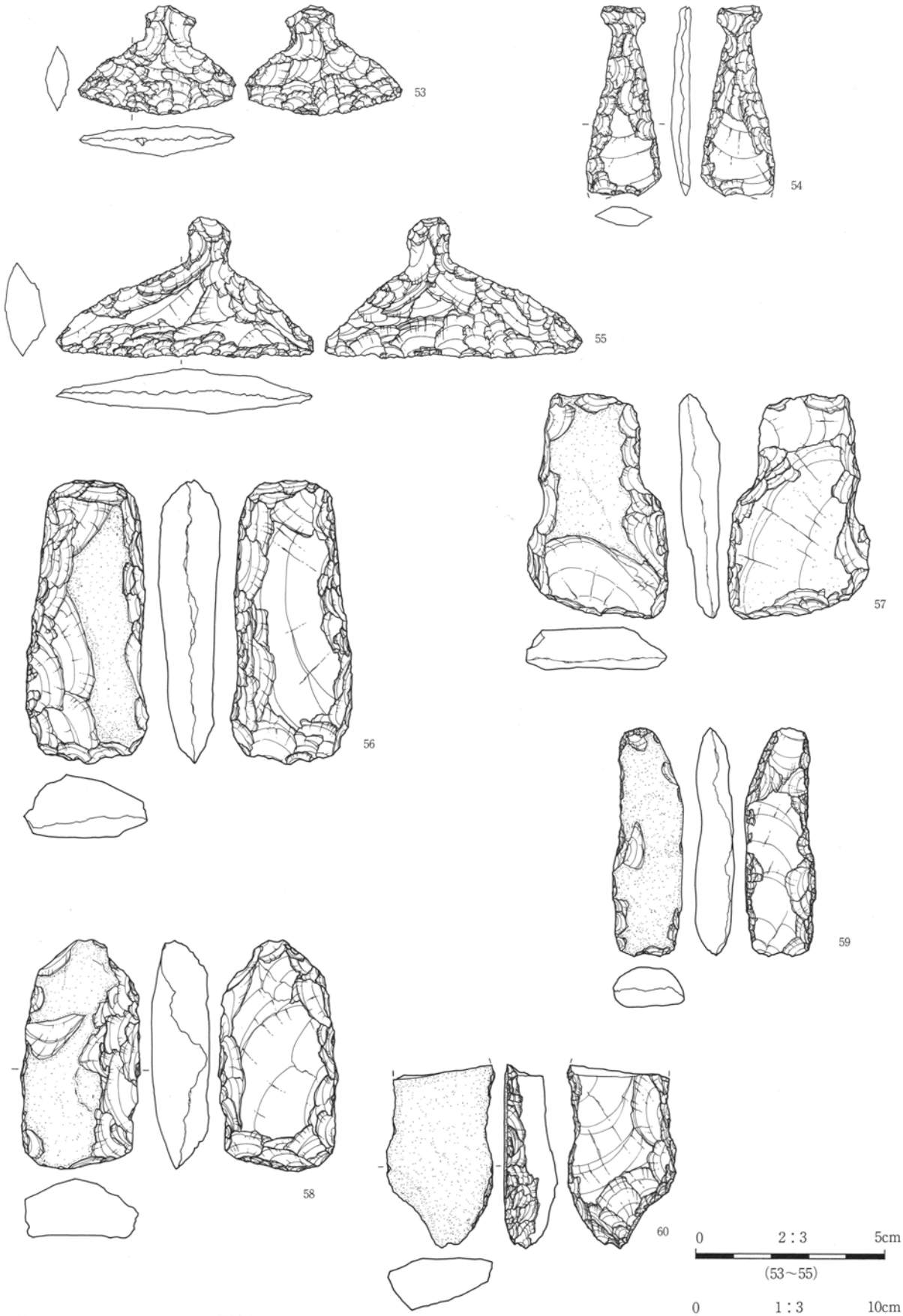
第72図　石器･剥片類のグリッド別出土量概念図　2



第73図　グリッド出土石器類１

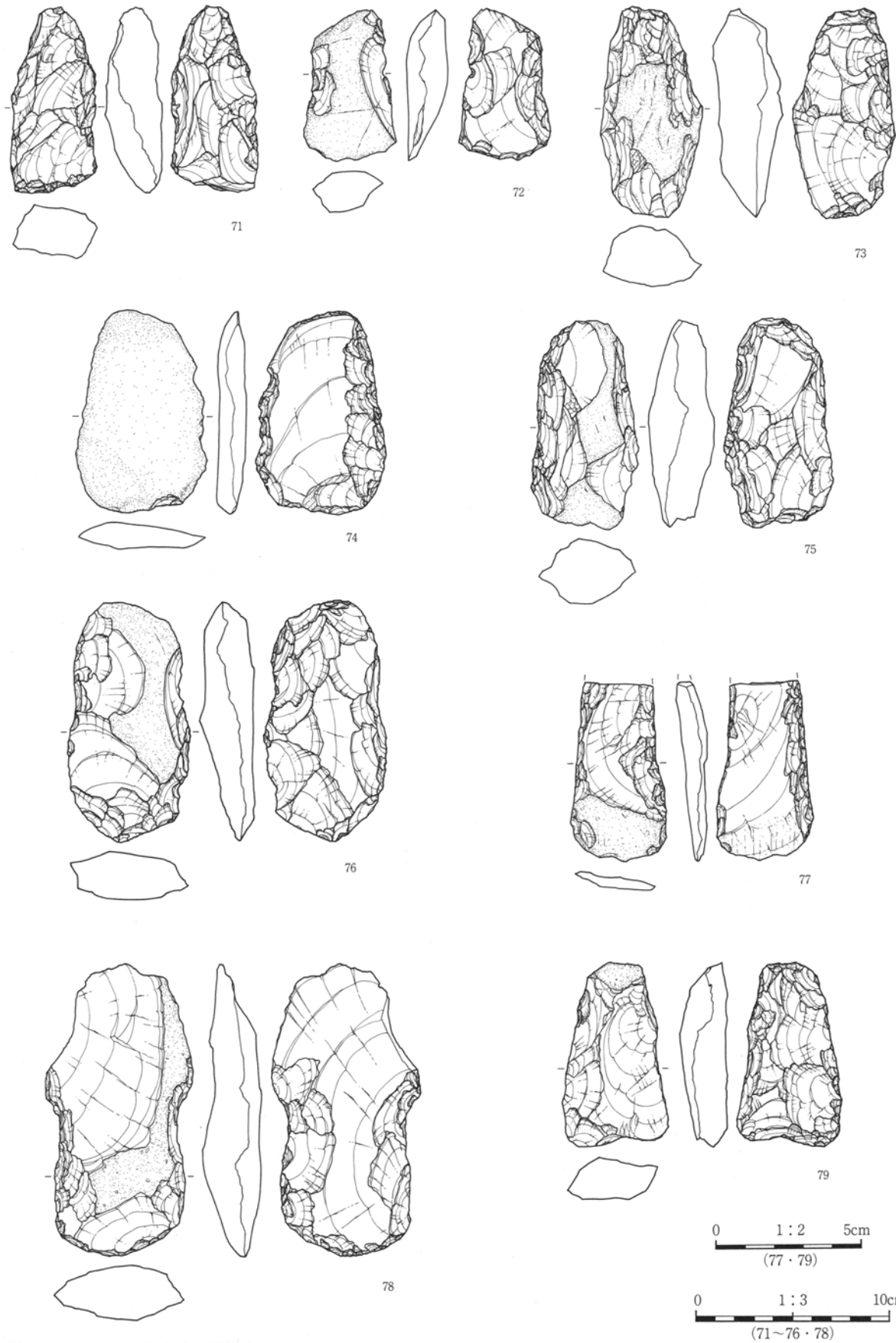


第74図　グリッド出土石器類２



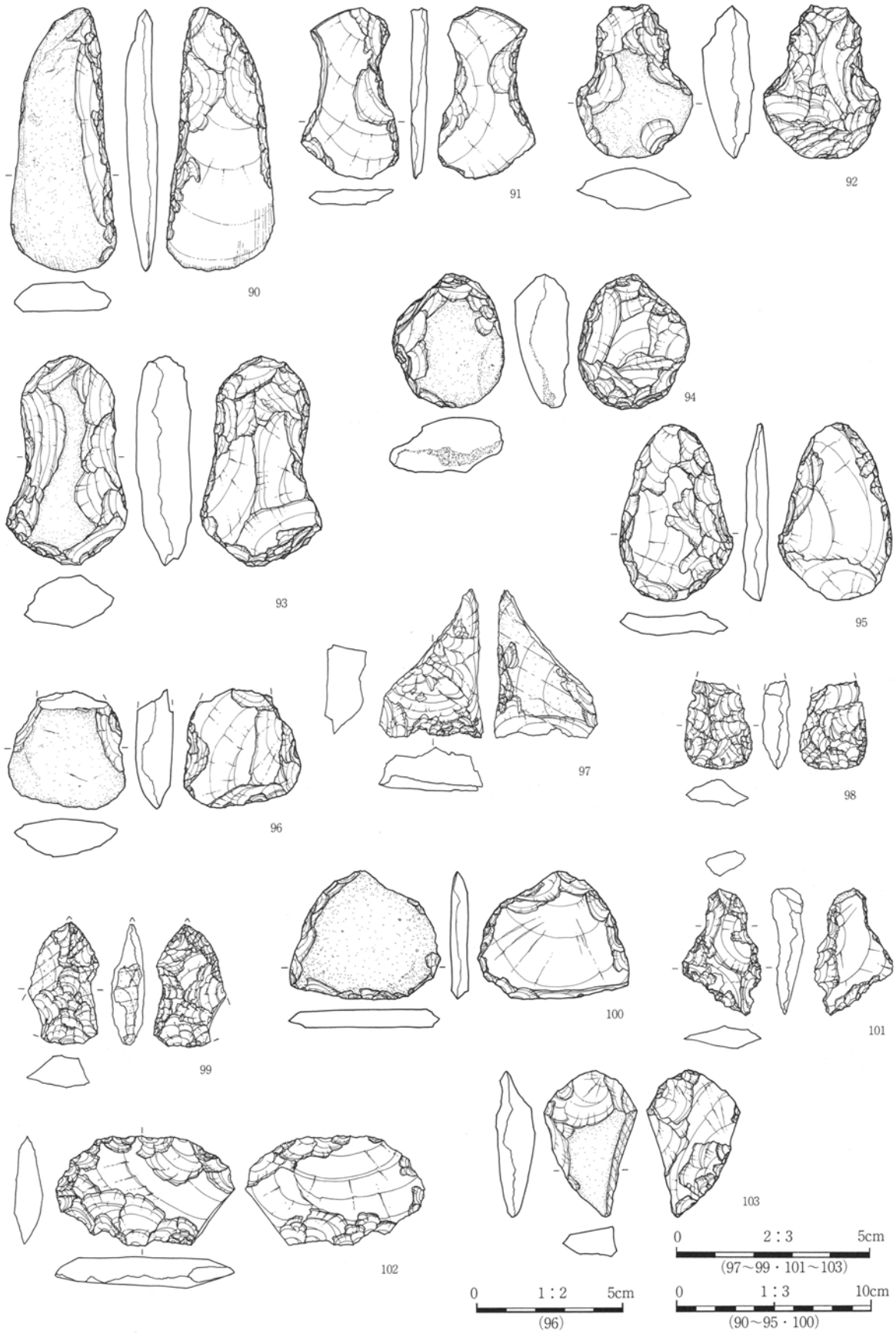
第75図　グリッド出土石器類３

第76図　グリッド出土石器類４

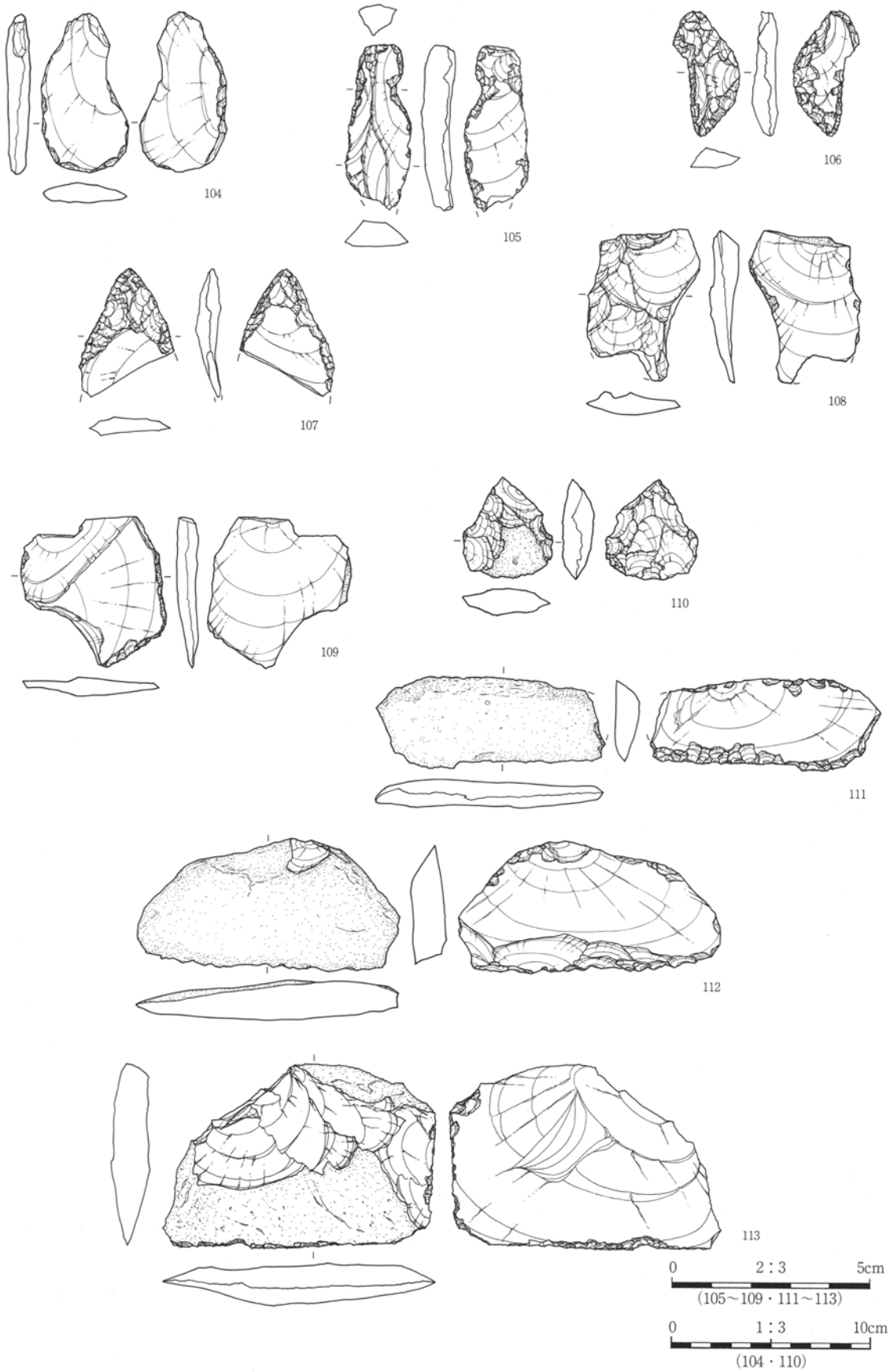


第77図　グリッド出土石器類５

第78図　グリッド出土石器類６

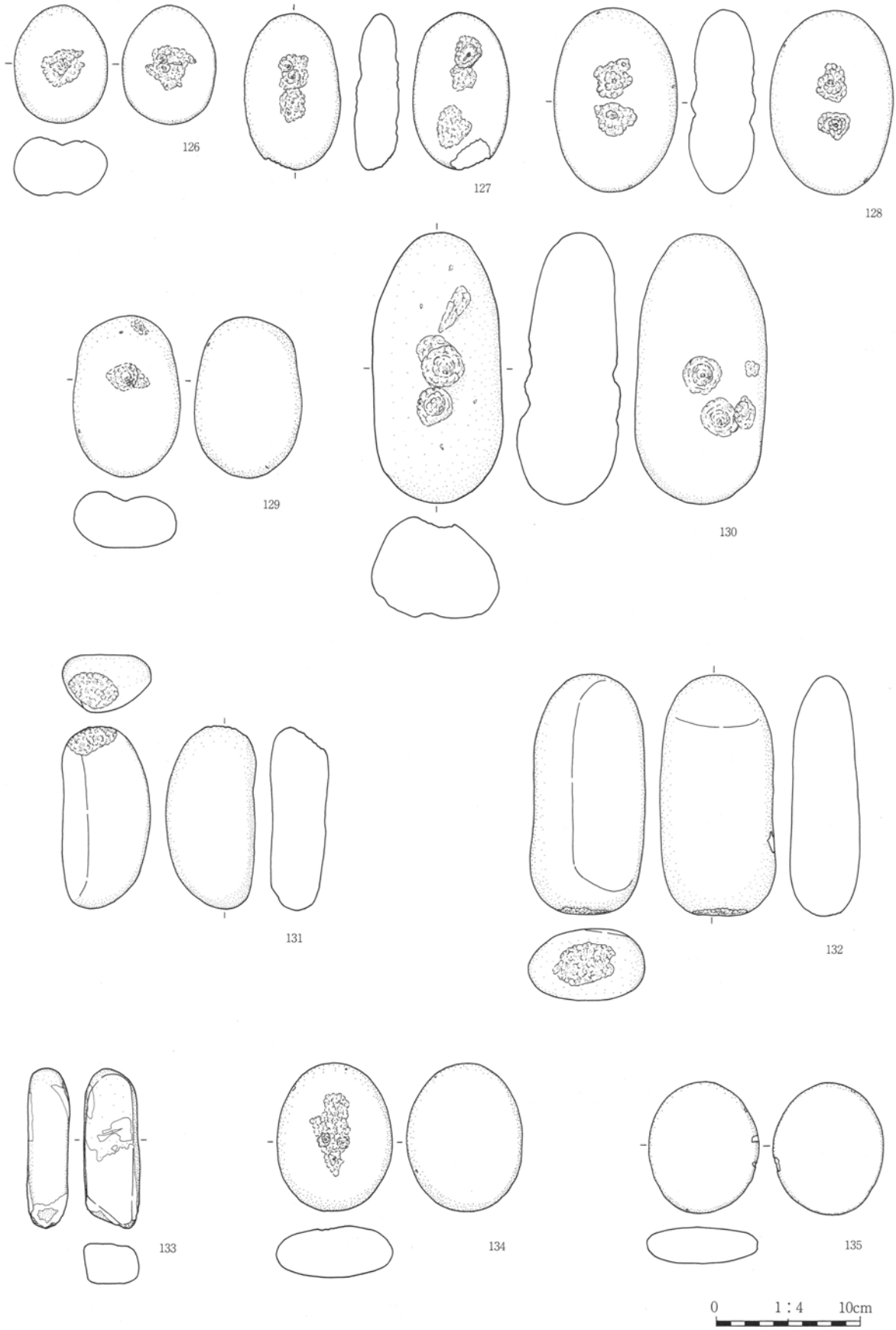


第79図　グリッド出土石器類７

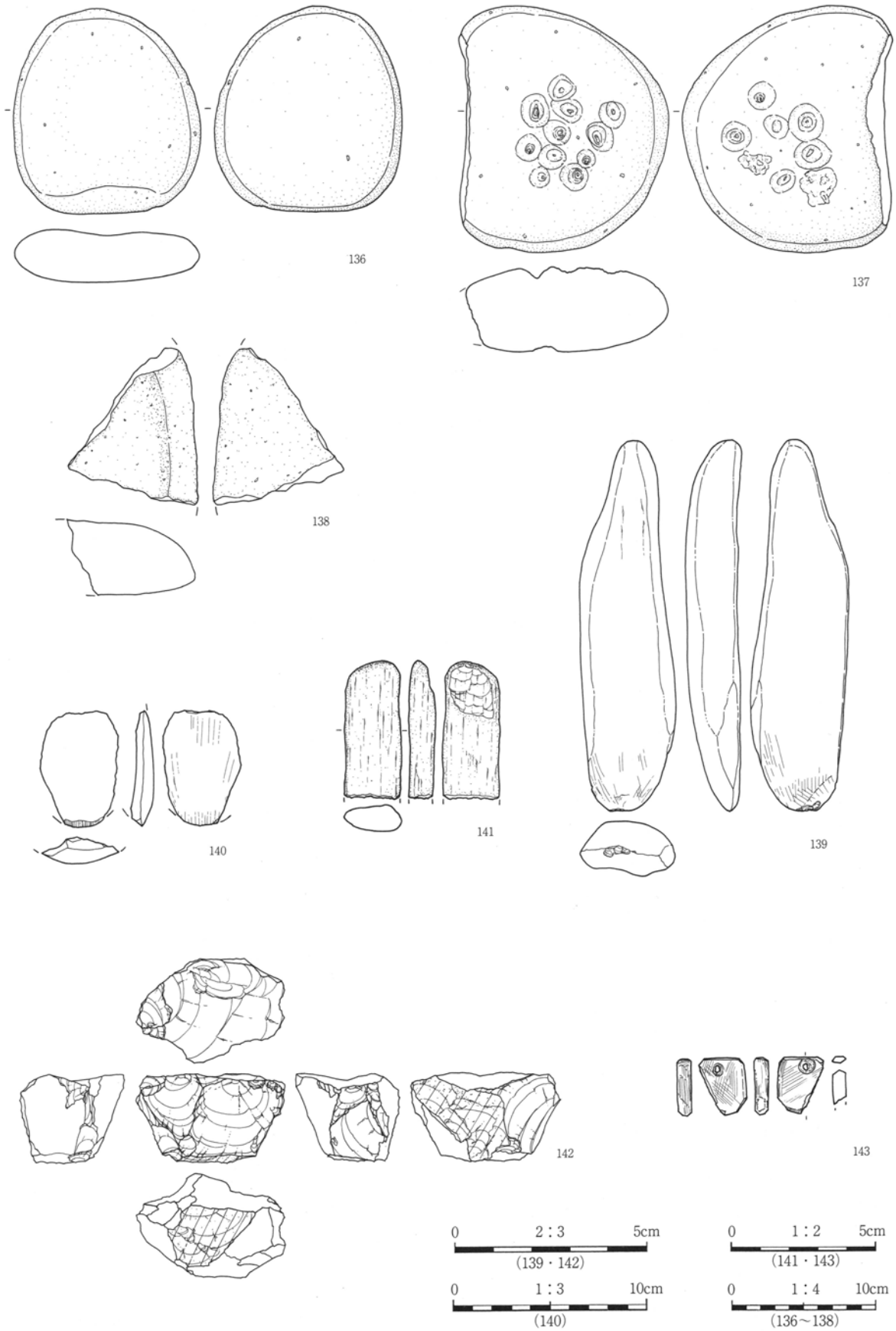


第80図　グリッド出土石器類８

第81図　グリッド出土石器類９



第82図　グリッド出土石器類10



第83図　グリッド出土石器類11

第4章　古墳時代の遺構と遺物

1　概　要

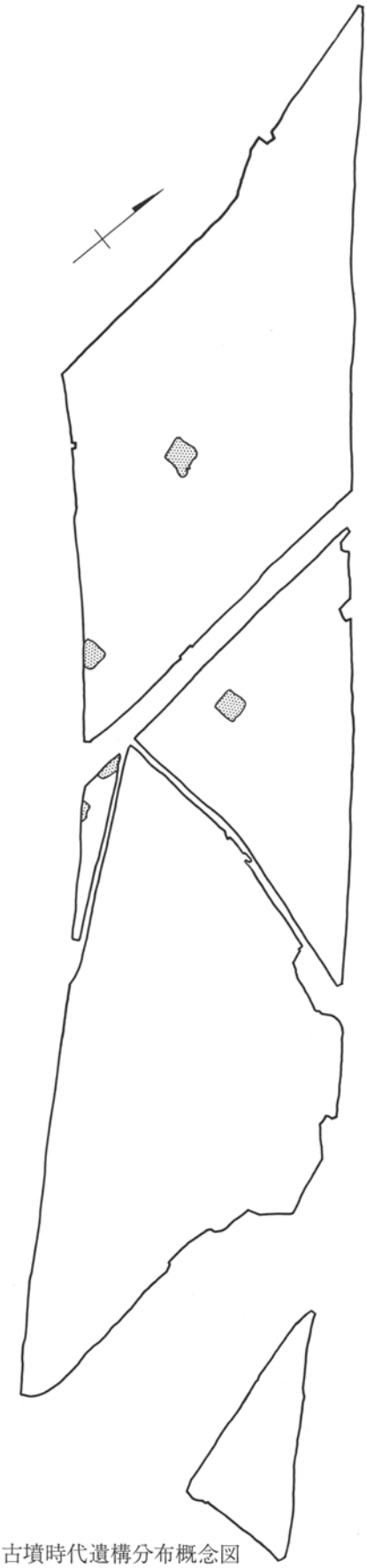
縄文時代後期以後、弥生時代から古墳時代前期、中期にかけての時期の遺構、遺物については、この調査区内ではともに全く認められない。

西側の谷を隔てた萱野遺跡では、台地上に古墳時代中期の比較的大きな集落遺跡が調査されているが、本遺跡では、古墳時代後期、6世紀代にいたってようやく、人々の活動痕跡を再びたどることができるようになる。

本遺跡では、古墳時代の遺構として確認できるものは少ない。竪穴住居5棟のみである。数が少ないため、分布上の傾向を窺うことは難しいが、調査区中央部の台地頂部近くから西向きの斜面にかけて、点在するように残されており、全体としては台地頂部近くに占地すると見て良い。前橋市教育委員会による隣接地の調査でも、この時期の遺構が広がる様子は見られない。東側の谷を隔てた富田下大日遺跡では、6世紀代の竪穴住居が数棟調査されていて、本遺跡と同じような状況が認められる。本遺跡にもごく小規模な集落があったものと考えて良いだろう。

調査した竪穴住居はともに、比較的深く地山を掘り込んで作られている。全形をうかがいうるものはみな、大きめの、整った方形の平面形を持つ。東壁の中央よりに、住居内に張り出した燃焼部を持つ竈がある。この時期の竪穴住居に通有の特徴を備えたものである。33号住居、34号住居は部分的な調査にとどまるが、34号住居では竈の作り替えが認められた。55号住居は火を受けたものらしく、炭化物が多く認められた。56号住居は東壁の延長上に張り出しを持ち、そこに深く大きな貯蔵穴を設備するという形状を有している。

出土遺物は土師器の坏、高坏、甕、甑、壺などで、須恵器がほとんど見られない。33号住居からは石製の紡錘車が出土している。34号住居出土の土師器坏には、底部を削り残した台状突起がつくものがある。



第84図　古墳時代遺構分布概念図

2　遺構と遺物

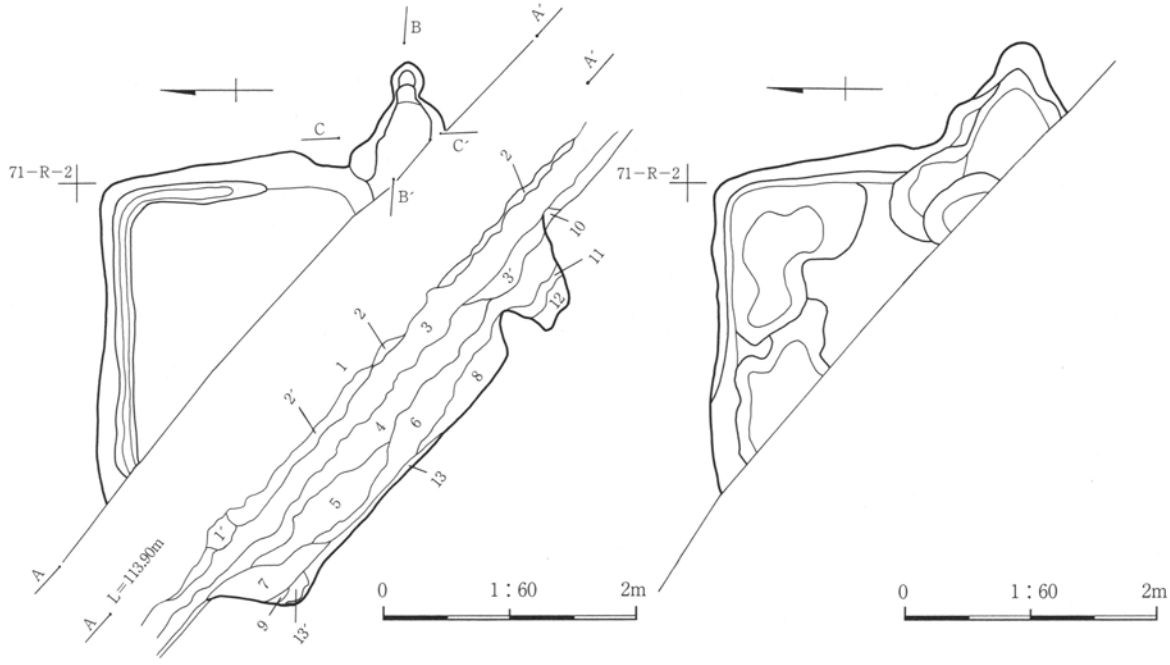
33号住居

位置　71-R.S-1グリッド　標高113.4mから113.5mの台地頂部に立地する。狭小な調査区であるため、一部を調査したのみである。重複する遺構はなく、北に６mほど離れた、ほぼ同時期と思われる34号住居が最も近い住居である。西の15号住居との間は15mほどある。

形態　北西隅部から東壁の中央近くに当たると思われる一角のみの調査である。北辺の西端は南に屈曲する角部近くに達しているものと思われる。東壁は竈左袖部以北までの調査部分において北壁確認長を越える規模を持っている。横長長方形の平面形であったものと考えられる。**規模**　北壁確認長2.2m　東壁確認長2.6m

床　固く締まったロームを掘り込んでおり、住居中央部はこれをそのまま床とする。壁際は不定形な浅い掘り込みを埋め戻し、これを固めて均平な床を作る。北壁から東壁の竈左手前部分まで周溝がめぐる。

壁　全体に40cm強の残存壁高がある。壁周溝を介して、ほぼ垂直に立ち上がる。



33号住居　土層観察所見

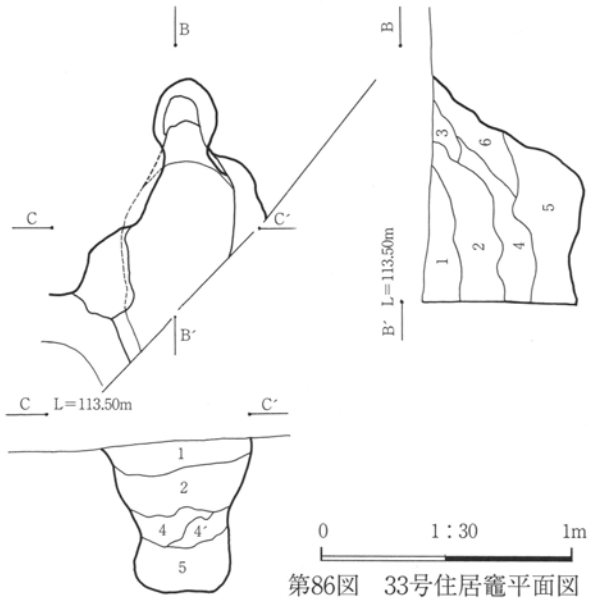
1　10YR3/3　暗褐色土　現表土　1′ 10YR2/2 黒褐色土
2　10YR2/2　黒褐色土　As-B を多量に含む。降下堆積状態が大きく乱されていない部分もある。　2′ As-B を多く含む。
3　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA を多量に含む。ローム粒をわずかに含む。粘性弱い。締まりやや弱い。　3′ ローム粒を多量に含む。粘性ない。
4　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒、焼土粒をわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。
5　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA、ローム粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
6　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA、暗褐色粘土ブロックを含む。ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
7　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒を含む。As-C、Hr-FA を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
8　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。As-C、Hr-FA、焼土粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
9　10YR4/6　褐色土　ローム粒を含む。粘性弱い。締まり弱い。
10　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA を少量含む。粘性やや弱い。締まりやや弱い。
11　7.5YR3/2　黒褐色土　焼土粒、焼土ブロック、暗褐色粘土ブロックを多く含む。粘性弱い。締まっている。
12　7.5YR3/4　暗褐色土　灰、焼土ブロックを多く含む。粘性ない。締まり弱くぼそぼそ。
13　ロームブロック主体。踏み固められた床面　13′ ロームブロック少ない。

第85図　33号住居平面図　土層断面図　掘方平面図

柱穴　貯蔵穴　認められない。

竈　東壁を壁外に掘り込み、天井部を暗褐色粘土で構築する。左袖部は地山を掘り残して住居内に張り出す。支脚や構造用材は認められない。燃焼部から短い煙道へ急角度で立ち上がる。主軸方向はN-90°-Eを示す。

遺物　遺物は少なく、資料化可能であったのは覆土出土の石製紡錘車１点のみであるため、遺物から年代を確実に判断することは困難である。住居の形状や竈の方向が34号住居と共通点するところから、古墳時代後期、６世紀後半ごろの可能性が高いものと思われる。



33号住居竈　土層観察所見

1　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA、ローム粒を多量に含む。粘性なし。締まり弱い。

2　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA、暗褐色粘土ブロックを含む。ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。

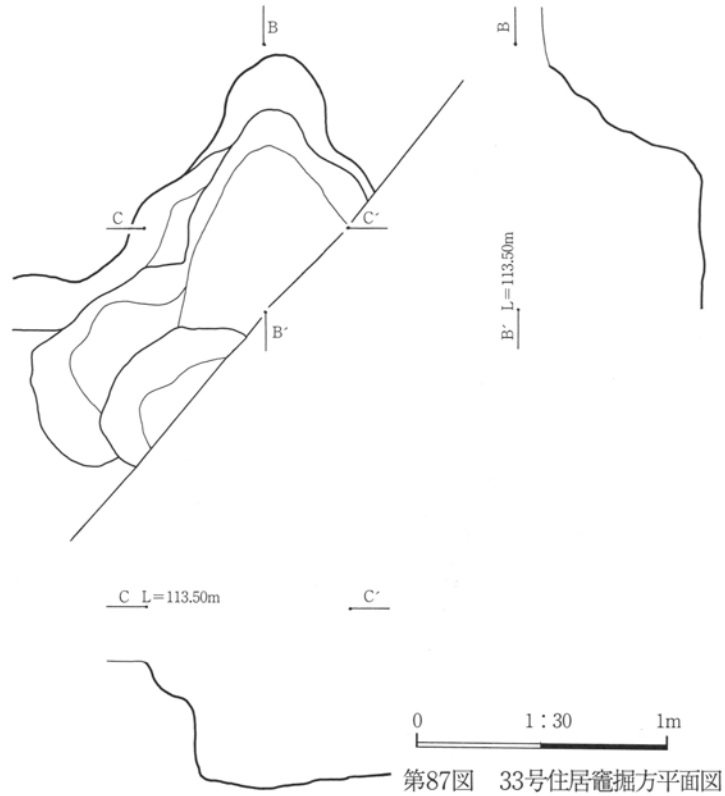
3　10YR3/3　暗褐色土　焼土粒、焼土ブロック、暗褐色粘土ブロックを多く含む。粘性弱い。締まり弱い。

4　7.5YR3/2　黒褐色土　焼土粒、焼土ブロック、暗褐色粘土ブロックを多く含む。粘性弱い。締まっている。4′ 締まりなくぼそぼそしている。

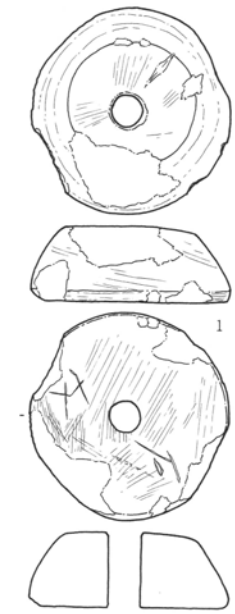
5　7.5YR3/4　暗褐色土　灰、焼土ブロックを多く含む。粘性ない。締まり弱くぼそぼそしている。

6　7.5YR4/4　褐色土　焼土粒、焼土ブロックを含む。粘性弱い。締まりやや弱い。

第86図　33号住居竈平面図　土層断面図



第87図　33号住居竈掘方平面図　高低図



第88図　33号住居出土遺物

34号住居

位置　71-R.S-3.4グリッド　標高113.4mから113.5mの台地頂部に立地する。水路と道路に挟まれた狭小な調査区であるため、東壁から南壁にかけての一部を調査したのみである。重複する遺構はなく、南６mの33号住居が最も近い住居である。北西の56号住居、東の26号住居との間はそれぞれ20m以上ある。

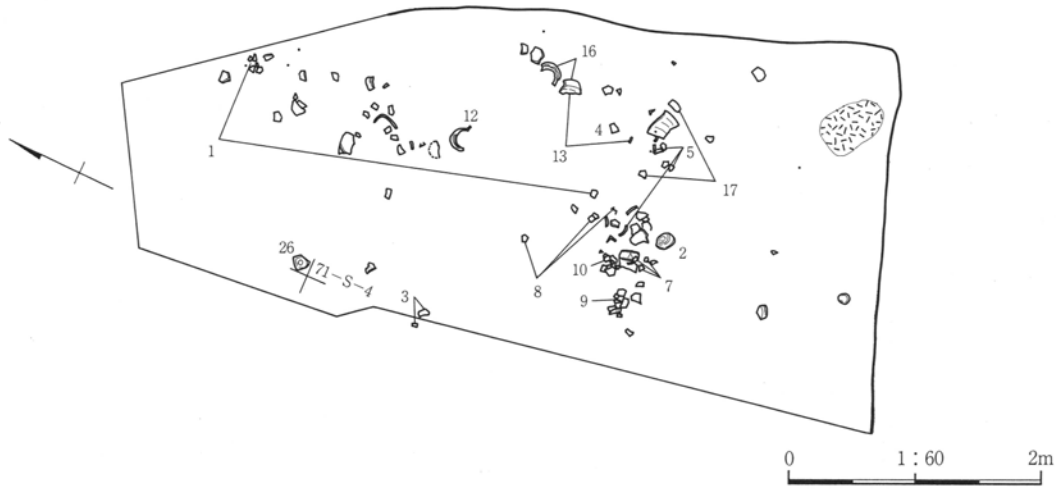
形態　東南部のみが調査されたものであるため、全体の形状を確認することはできないが、確認できた東壁および南壁はゆがみのない直線で、東南隅は直角に曲がることから、整った方形あるいは長方形の平面形であるものと思われる。掘方調査では、東部が一段低く掘削されていて、東壁際に竈の煙道口の残痕が認められた。その正面に当たる位置には焼土塊があって、焚口の痕跡と考えられることなどから、この竈を持っていた当初の住居が、東および南へ拡張するように作り直されたものと判断した。なお、調査終了時に住居範囲を確認するための試掘坑を掘削したところ、南壁から6.8mの位置で北壁を確認している。　**規模**　南北6.8m　東西確認長2.9m

床　西側は地山をそのまま床として踏み固めている。東側は一段深く掘り窪められた部分に、ロームブロックを多く含む暗褐色土を貼っている。ほぼ均平で、硬く締まった床面である。壁が確認できた竈右手から南壁にかけて、幅は狭いが、深さ６cmから10cmのしっかりとした壁周溝がめぐっている。

壁　残存壁高は50cmから54cmある。壁周溝を介して垂直に立ち上がる。崩れのない、しっかりとした壁である。

柱穴　ピット１およびピット２が主柱穴に当たるものと思われる。南壁東よりにも50cm×70cm、深さ10cmほどの、不整形の浅い落ち込みがあるが柱穴とは認められない。ピット１は上端径70cmから90cm、最大深さ78cmであるが、深さ50cmほどに中段を持ち、２基のピットが重複したものと判断した。７層を覆土とする古いピットを切って、新たにピット２と類似した断面形状のピットが作られている。新しいピットの底面近くに礫が置かれているものと考える。ピット２は直径50cmほどの円形の平面形を呈し、底径27cmほどの平らな底面を持つ。深さは37cmある。

貯蔵穴　東壁の南部に２基の土坑がある。このうち北側の土坑が最終使用時に開口していたものと思われる。上端径径70cmほどの円形土坑の北側に、方形の浅い掘り込みが付属する。床面からの深さ66cmで径22cmの円形の底面に達する。竈の右手にあたり、貯蔵穴として良い位置であるが、やや小さく、深い。この土坑の

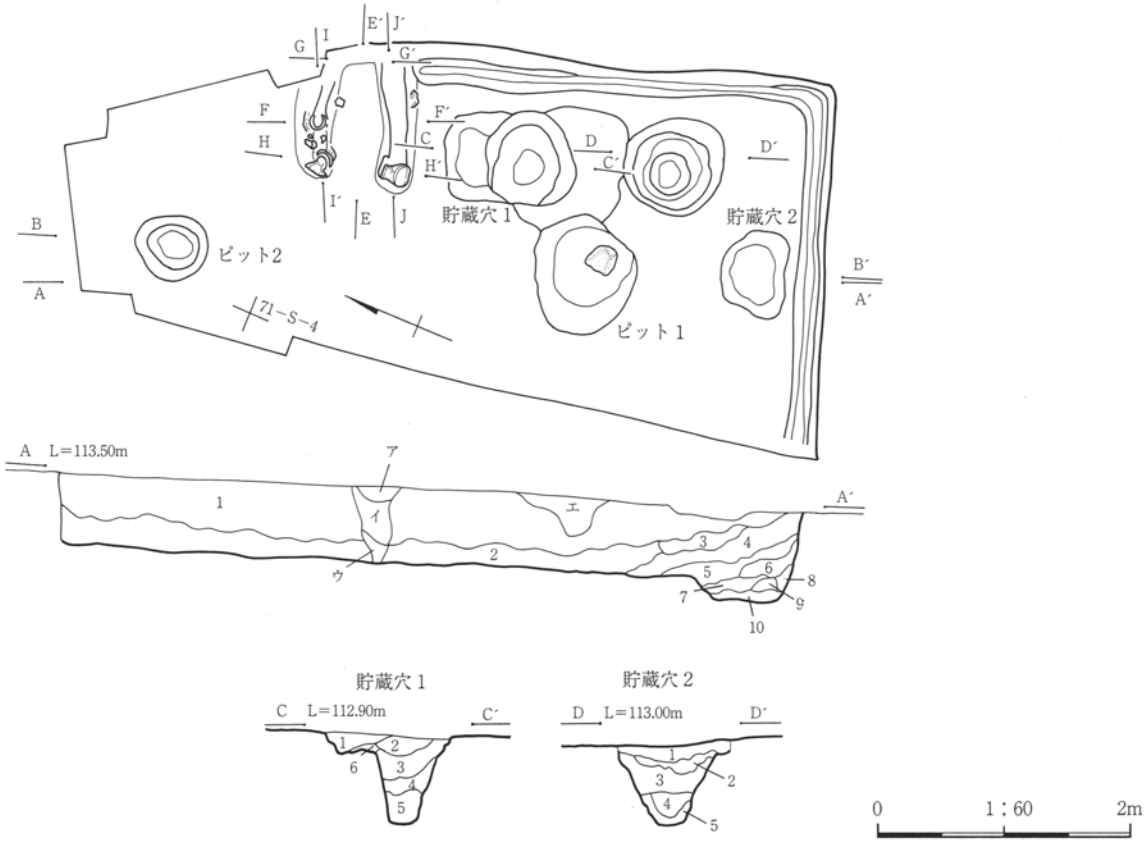


第89図　34号住居遺物出土状況図

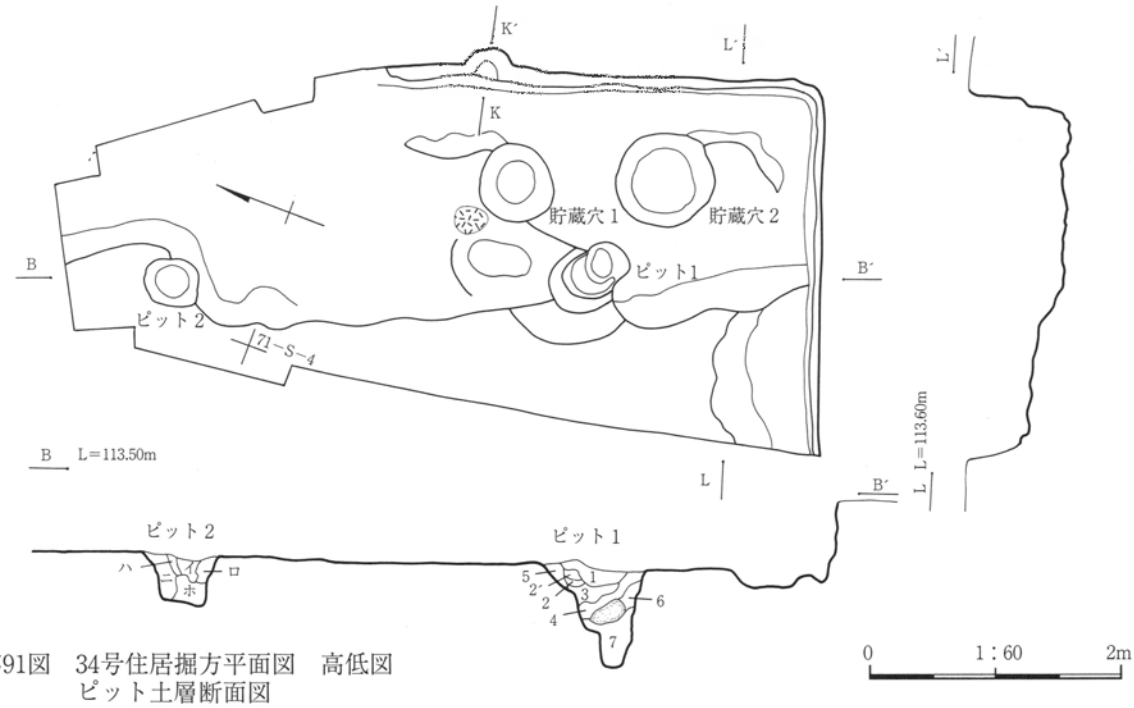
南側にもう１基の土坑がある。上端径78cmほどの円形の平面形を有し、床面から60cmほどの深さで径20cmほどの円形の底面に至る。こちらは床構成土が土坑覆土の上に乗るため、最終使用時には開口していないことがわかる。掘方で認められた旧竈の右手に当たるため、拡張前の住居に伴う貯蔵穴の可能性があるが、これも貯蔵穴としてはやや深い。

竈　最終使用時の竈は東壁中央近くに作られている。煙道部は現水路下にかかって確認できない。にぶい黄褐色および白色の粘土を用いて住居内に燃焼部を構築している。燃焼部左壁は粘土を基礎にして、土師器の甕を口縁を下にする形で２個並べて構造材としている。焚き口には石を据え、さらに口縁を下に向けた甕を被せた上に粘土を貼っている。右壁は粘土のみで構築されるが、焚き口にはやはり石を据え、これに口縁を下に向けた甕を被せて粘土を貼っている。焚き口天井部には口縁を右に向けた甕を入れ子にして横たえている。燃焼部中央やや奥には、やや小振りの須恵器の甕が据えられ、支脚として用いられていたものと考えられた。主軸方向はN-72°-Eを示す。掘方調査時にはこの竈の南１mほどの壁に、被熱した白色粘土ブロックが入った掘り込みが認められ、この掘り込みの西1.2mの床下には、径20cmほどの範囲で地山が焼けた焼土塊があって、古い竈の痕跡と考えられた。壁際の掘り込みは煙道として間違いなく、焼土塊の部分が焚き口部と考えると、最終使用時と同じような大きさの竈が作られていたものと想定される。

遺物　出土遺物は竈構造材のほか、竈以南にかなり多くの土器が分布している。壁際には比較的少なく、貯蔵穴から竈にかけておよびピット１の周辺に多く見られる傾向がある。土師器を中心とし、６世紀後半の土師器の甕、甑、高坏、坏、須恵器の蓋、坏など多様な器種がそろっている。また、東南隅近くで鉄製刀子片が出土している。

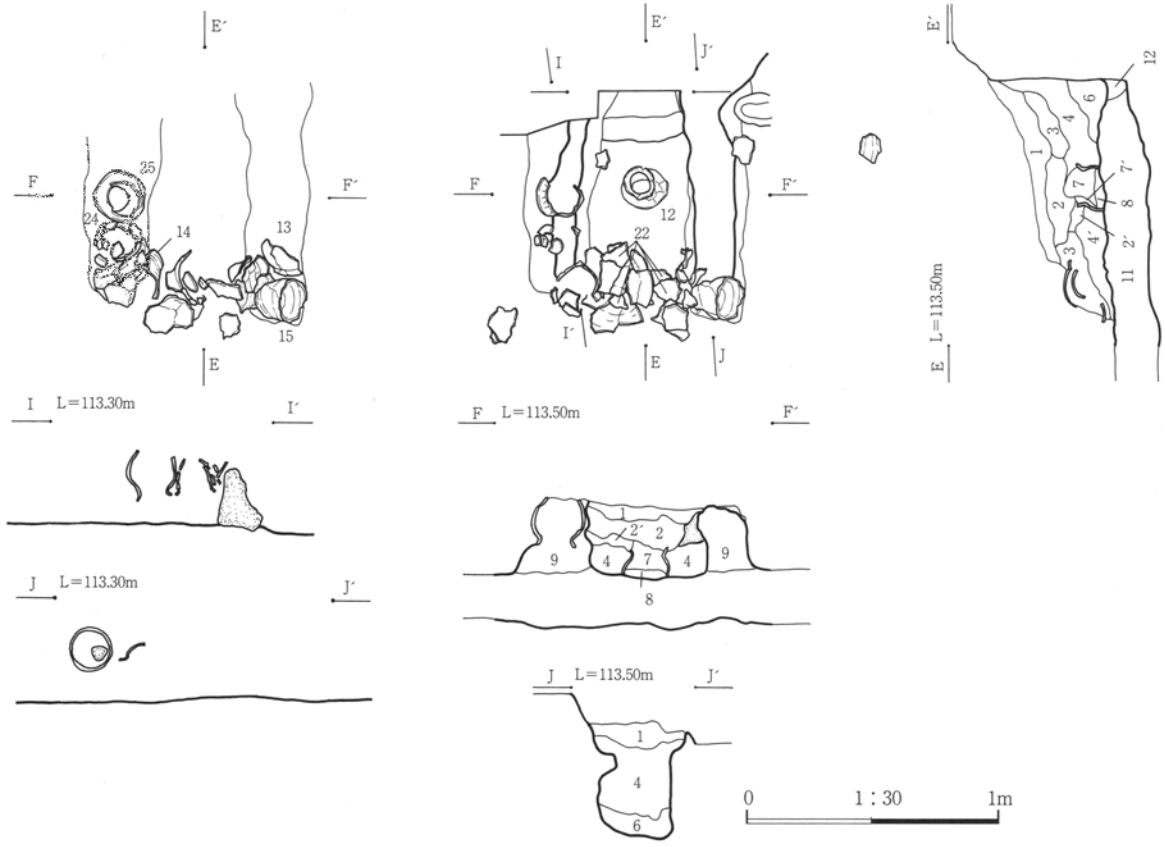


第90図　34号住居平面図　土層断面図　貯蔵穴土層断面図



第91図　34号住居掘方平面図　高低図
ピット土層断面図

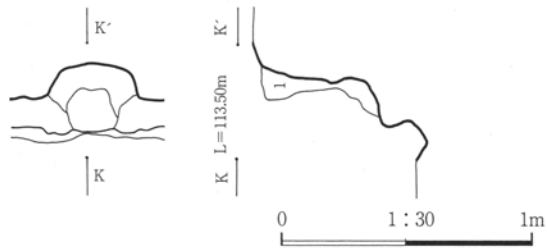
34号住居　土層観察所見
1　10YR2/1　黒色土　As-C、Hr-FAを多量に含む。砂質。締まり弱い。平安期の土器片を含む。
2　10YR4/4　褐色土　As-C、Hr-FAを少量含む。粘性やや強い。締まりやや弱い。
3　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
4　10YR4/6　褐色土　As-C、Hr-FA含む。ロームブロック少量含む。焼土粒、炭化物をごくわずかに含む。粘性弱い。やや締まっている。
5　10YR4/4　褐色土　焼土粒、炭化物粒を含む。As-C、Hr-FAを含む。粘土ブロックを少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
6　10YR4/6　褐色土　As-C、Hr-FA含む。ロームブロック少量含む。焼土粒、炭化物をごくわずかに含む。粘性弱い。やや締まっている。
7　10YR4/6　褐色土　ロームブロック多く含む。As-C、Hr-FA含む。焼土粒、炭化物粒ごくわずかに含む。粘性弱い。やや締まっている。
8　10YR5/8　黄褐色土　ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
9　10YR5/8　黄褐色土　ローム粒、ロームブロックを含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
10　10YR5/8　黄褐色土　ロームブロック主体。粘性弱い。締まりやや弱い。
34号住居貯蔵穴１　土層観察所見
1　10YR4/4　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
2　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FAを多量に含む。ロームブロック少量含む。焼土粒をわずかに含む。粘性弱い。締まり弱くぼそぼそ。
3　10YR5/8　黄褐色土　ローム粒、ロームブロックを極めて多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
4　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック、炭化物粒を少量含む。粘性やや強い。締まり弱い。
5　10YR3/4　暗褐色土　BPの混じったロームブロック、焼土粒を含む。粘性やや強い。締まり弱い。
34号住居貯蔵穴２　土層観察所見
1　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック主体。粘性弱い。強く締まっている。貼り床。
2　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック、灰色粘土ブロックを多く含む。粘性弱い。締まり弱い。
3　10YR4/6　褐色土　ローム粒、ロームブロックを極めて多く含む。粘性強い。締まりない。
4　10YR4/6　褐色土　ローム土を多く含む。ローム粒、ローム小ブロックを含む。粘性やや強い。締まり弱い。
5　10YR5/4　にぶい黄褐色土　ロームを多く含む。炭化物を少量含む。粘性やや強い。締まり弱い。
34号住居ピット１・ピット２　土層観察所見　（１～７：ピット１　イ～ホ：ピット２）
1　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA含む。ローム粒少量含む。焼土粒、炭化物粒わずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。
2　10YR4/6　褐色土　ローム粒を多量に含む。粘性ない。締まり弱い。　2′灰色粘土ブロック。
3　10YR4/6　褐色土　ローム粒を多量に含む。ロームブロック少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
4　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。炭化物を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
5　10YR5/6　黄褐色土　ローム土を良く含む。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
6　10YR5/6　黄褐色土　ローム土を良く含む。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
7　10YR5/6　黄褐色土　ローム土を良く含む。ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
イ　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒、ロームブロックを少量含む。焼土ブロックをわずかに含む。粘性弱い。締まり弱い。
ロ　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA、ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
ハ　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA、ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
ニ　10YR3/3　暗褐色土～10YR3/2黒褐色土　ローム粒少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
ホ　10YR5/6　黄褐色土　ローム主体。ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。



第92図　34号住居竈１遺物出土状況図　平面図　土層断面図

34号住居竈１　土層観察所見

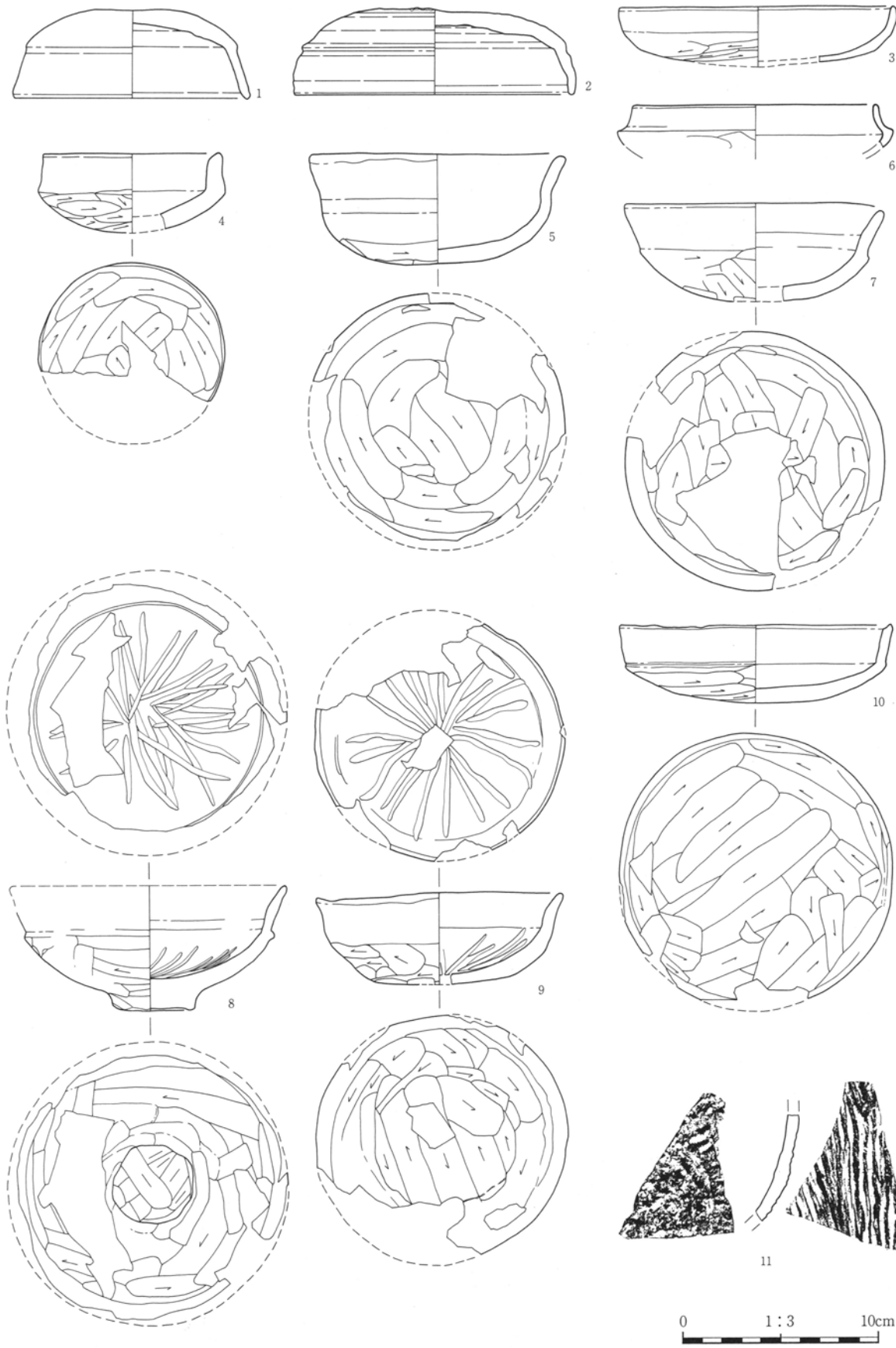
1　10YR4/4　褐色土　As-C、Hr-FA を多量に含む。ローム粒含む。暗褐色粘土ブロックを少量含む。粘性ない。締まり弱い。
2　10YR4/6　褐色土　As-C、Hr-FA、ローム粒を多量に含む。ロームブロック、白色粘土ブロックを少量含む。粘性ない。締まり弱い。
2′粘土ブロックの混入量少ない。
3　10YR4/6　褐色土　ローム粒、白色粘土ブロックを多量に含む。天井崩落土。粘性弱い。締まりやや弱い。
4　10YR5/4　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。焼土ブロックを少量含む。粘性ない。締まり弱い。
5　10YR5/3　にぶい黄褐色土　下面が被熱した白色粘土ブロックを含む。天井崩落土。
6　10YR4/3　にぶい黄褐色土　白色粘土ブロック、焼土ブロックを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
7　10YR5/3　にぶい黄褐色土　白色粘土ブロックを含む。支脚内に詰められたもの。　7′　粘土ブロック混入量多い。
8　10YR5/3　にぶい黄褐色土　白色粘土ブロックを含む。硬化している。
9　10YR5/3　にぶい黄褐色土　白色粘土、ロームブロックをわずかに含む。非常に良く締まっていて硬い。
10　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
11　10YR5/6　黄褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱くぼそぼそしている。
12　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。



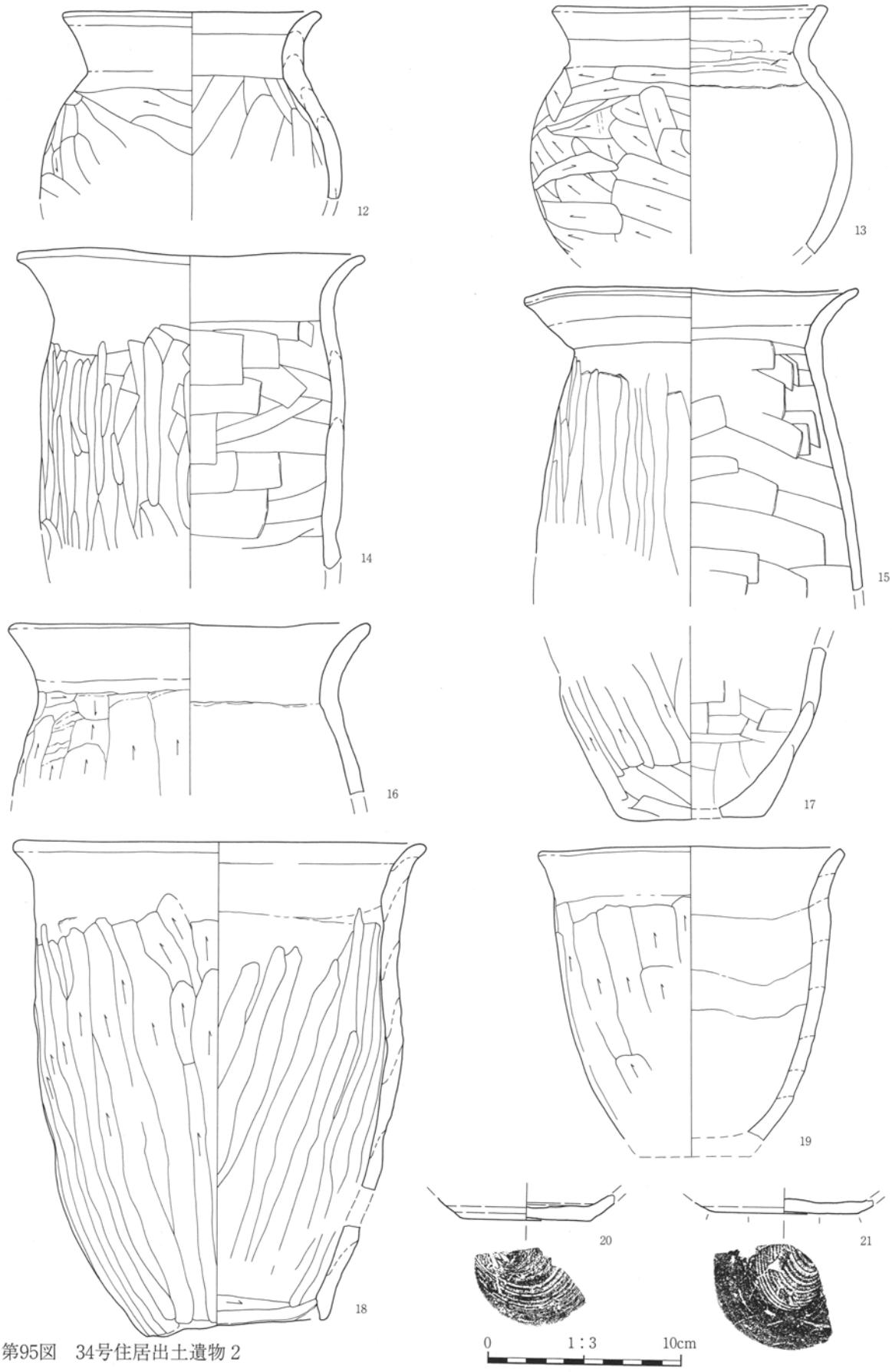
第93図　34号住居竈２平面図　土層断面図

34号住居竈２　土層観察所見

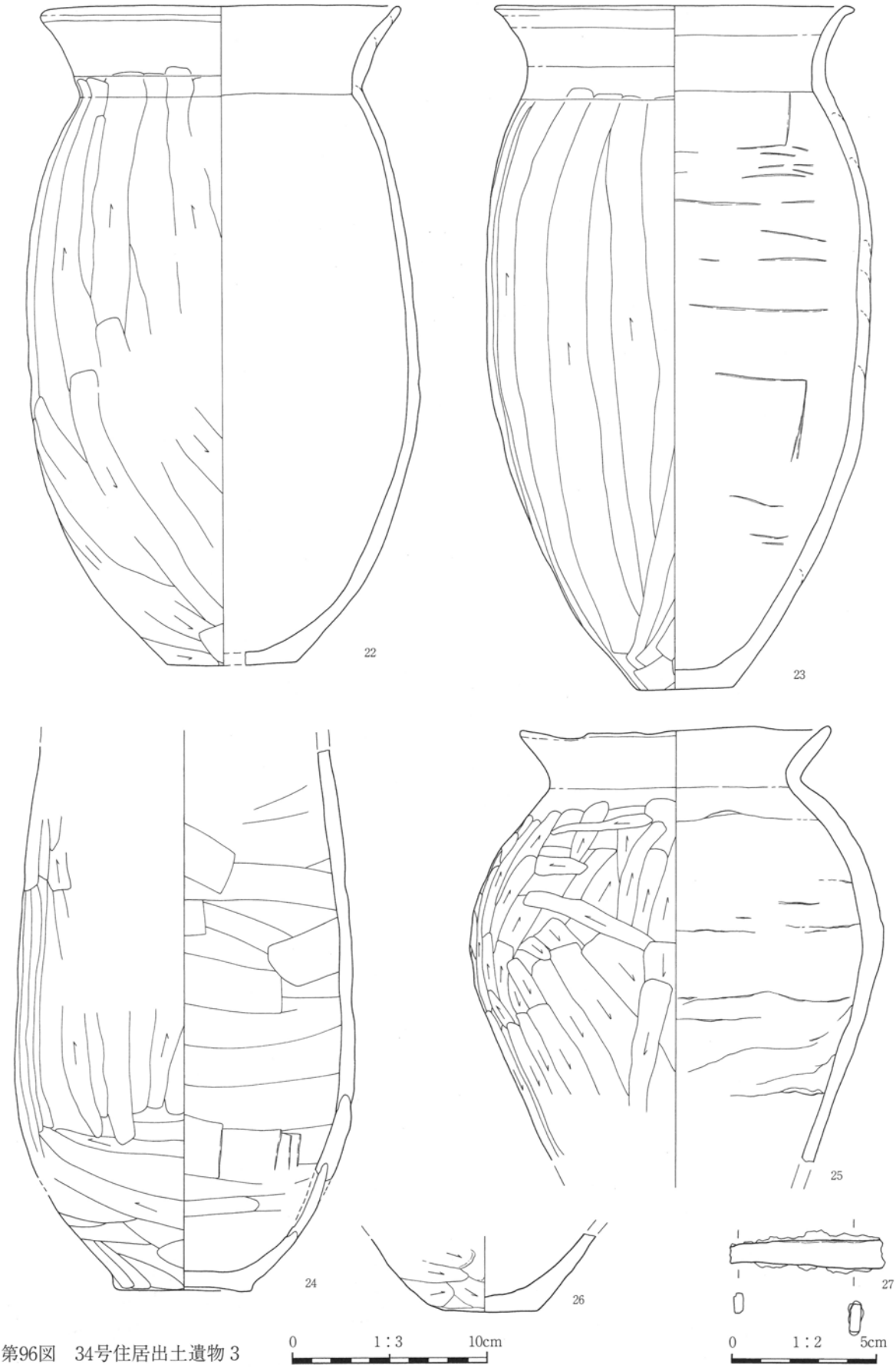
1　2.5YR4/3　にぶい赤褐色土　白色粘土、ロームブロックをわずかに含む。非常に良く締まっていて硬い。



第94図　34号住居出土遺物１



第95図　34号住居出土遺物２



第96図　34号住居出土遺物３

36号住居

位置　71-P.Q-9グリッド　標高113.8mから140.0mの緩傾斜部に立地する。42号土坑、38号土坑、18号掘立柱建物に切られる。西に35号住居、北東に37号住居がある。同時期の住居として33号住居、34号住居があるが、南西方向にそれぞれ30mほど離れている。

形態　整った方形の平面形を有する。東南角はわずかに丸みを持つが、他の三角は稜を持つかのように、鋭く直角に曲がる。　**規模**　東西3.24m　南北3.24m

床　ハードローム中に床面がある。掘方には小さな凹凸があり、これをわずかに汚れたブロック状の地山ロームを主体とする褐色土で埋めている。均平で、ごく堅く締まった床面となっている。竈前から住居中央近くにかけて、床面下に炭化物層が見られた。

壁　東壁側で56cmから60cm、西壁側で62cmから69cmの残存壁高がある。南壁では、中央部近くでわずかに上方に開き気味になるが、全体としてほぼ垂直に立ち上がる、整った壁面である。

柱穴　ピット1からピット4が柱穴に当たるものと思われる。ピット1は長径25cm、短径20cmほどの楕円形で深さ60cm強。ピット2は径24cmほどのゆがんだ円形で、50cmほどの深さがある。ピット3は径24cmほどのゆがんだ円形で深さ36cm。ピット4は長径30cm、短径20cmほどの楕円形で深さ50cm強で、このピットのみ柱痕を残している。それぞれの柱穴間は2mから2.1mある。

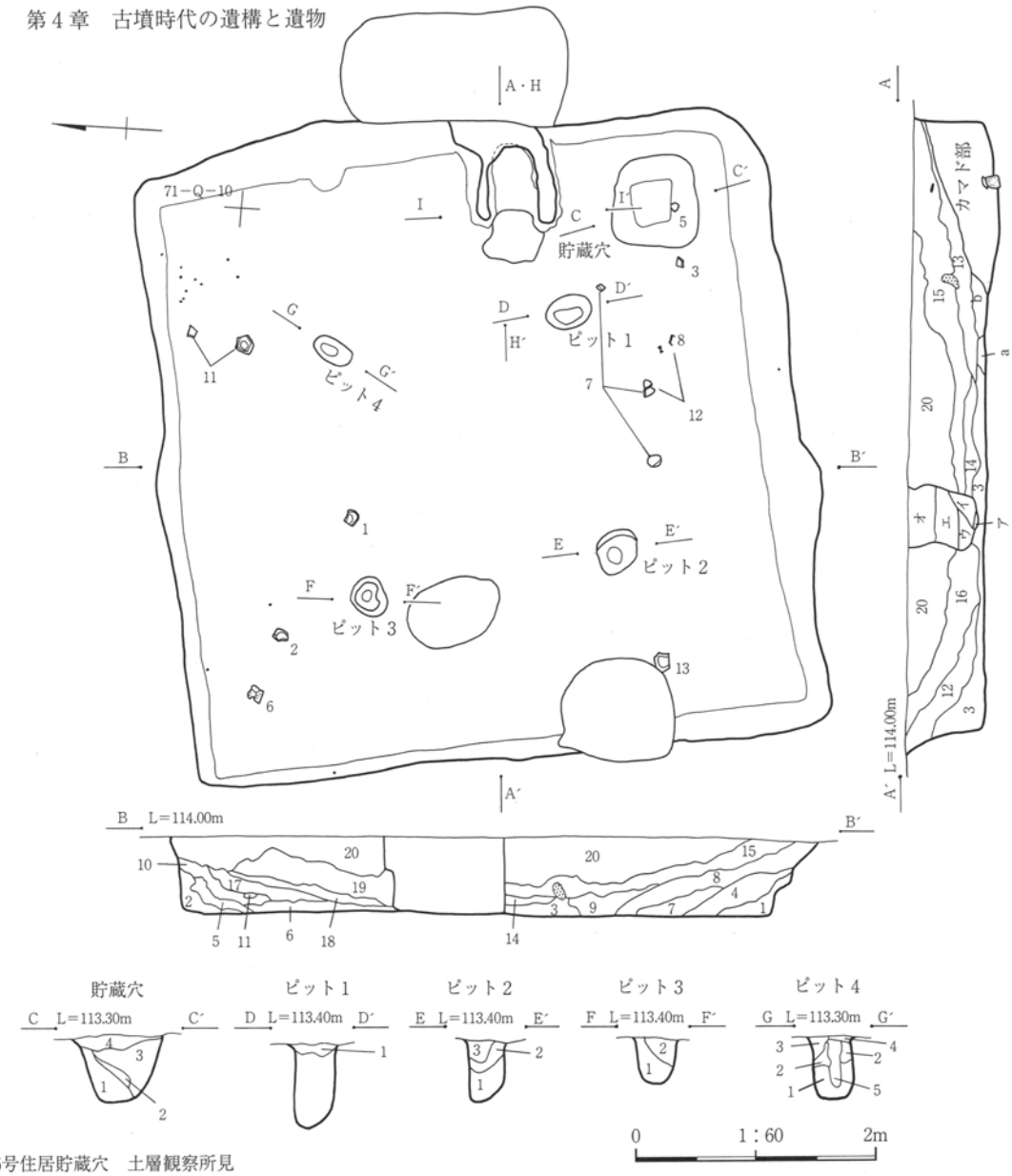
貯蔵穴　東南隅にある。1辺50cmほどの隅丸方形の平面形で、床面から55cmの深さで、30cm四方の平底気味の底部に至る。

竈　東壁中央よりやや南側に作られる。にぶい黄褐色粘土を構築材とし、スサを混じた痕跡が残されている。石などの構造材は用いられていない。燃焼部中央近くに小ピットがあり、支脚の据え方かと思われる。燃焼部は住居内にあり、壁外に煙道を延ばすが、105号土坑に切られている。主軸方向はN-97°-Eを示す。

遺物　出土遺物は特定の場所に集中することなく散在する。古墳時代後期のもので、大小の土師器甕、須恵器坏蓋の模倣坏、高坏、須恵器蓋の摘み破片などが出土している。6世紀後半のものと思われる。

36号住居　土層観察所見

1　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒多く含む。ローム小ブロック多く含む。
2　10YR3/4　暗褐色土　1層とほぼ同相。ローム粒、ローム小ブロック多く含む。
3　7.5YR4/4　褐色土　崩れた地山ローム主体。ハードロームの小ブロックを含む。暗褐色土の斑を含む。
3′　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含む。
4　10YR4/4　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含む。As-C、炭化物粒含む。やや締まっている。
5　10YR2/2　黒褐色土
6　7.5YR2/2　黒褐色土　ローム小ブロック多く含む。炭化物多く含む。
7　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、焼土粒、炭化物粒含む。As-C少量含む。
8　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、As-C含む。
9　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒多く含む。ローム小ブロック、As-C少量含む。
10　10YR2/2　黒褐色土　ロームブロック多く含む。As-C含む。
11　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック多く含む。やや粘質で全体が硬く締まっている。
12　10YR4/4　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含む。As-C、炭化物粒含む。やや締まっている。
13　10YR4/4　褐色土　As-Cを多く含む。a・b層の円形斑を含む。
14　10YR3/4　暗褐色土　ローム斑を含む。As-C、Hr-FAを含む。
15　10YR1.7/1　黒色土　As-C、Hr-FA含む。炭化物含む。
16　10YR1.7/1　黒色土　As-C、Hr-FA含む。炭化物含む。
17　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、焼土粒、炭化物粒含む。As-C少量含む。
18　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、As-C含む。
19　10YR1.7/1　黒色土　As-C、Hr-FA含む。炭化物含む。
20　10YR2/2　黒褐色土　As-C、Hr-FA多く含む。10YR2/3の円形斑を多く含む。
a　10YR4/3　にぶい黄褐色粘質土　焼土粒、焼土小ブロック含む。
b　10YR4/4　褐色土　a層のブロックを含む。焼土、炭化物を含む。



36号住居貯蔵穴　土層観察所見

1　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ロームブロック、ローム斑を含む。やや粘質。やや締まる。
2　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含む。１層との境界に沿って径２cmほどのロームブロックが並ぶ。
3　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含む。やや粘質。１層より締まり強い。
4　10YR4/4　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含む。As-C、Hr-FA をごく少量含む。やや粘質。締まりやや強い。

36号住居ピット１　土層観察所見

1　10YR4/4　褐色土　ロームブロックを含む。As-C、Hr-FA をごく少量含む。堅く締まっている。

36号住居ピット２　土層観察所見

1　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒を多く含む。粘性弱い。締まり弱い。
2　10YR3/4　暗褐色土　１層よりローム粒を多く含む。ロームブロック多く含む。やや粘質。やや締まっている。
3　10YR3/3　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。やや粘質。締まりやや強い。

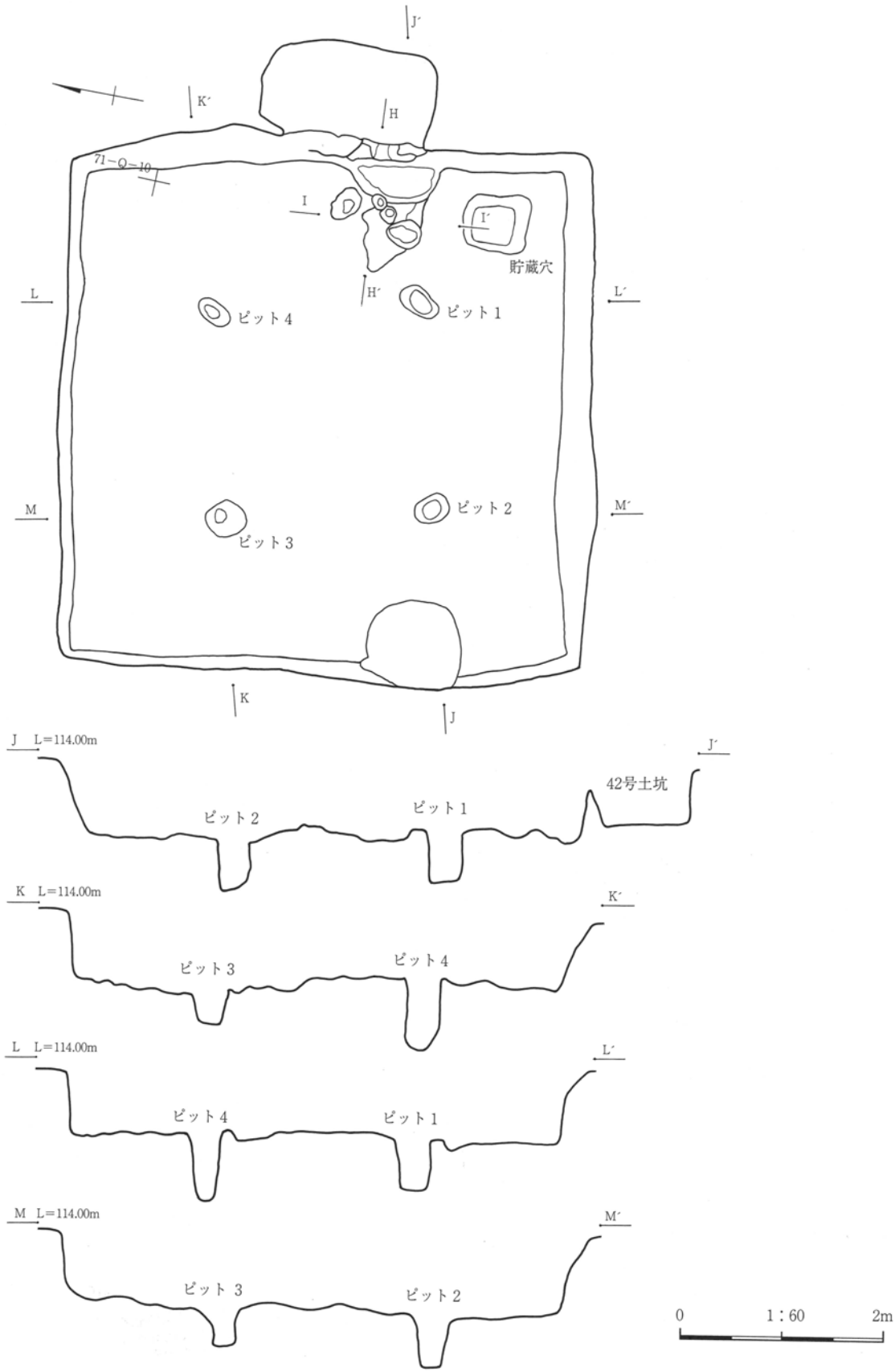
36号住居ピット３　土層観察所見

1　10YR3/4　暗褐色土　１層よりローム粒を多く含む。ロームブロック多く含む。やや粘質。やや締まっている。
2　10YR3/3　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。やや粘質。締まりやや強い。

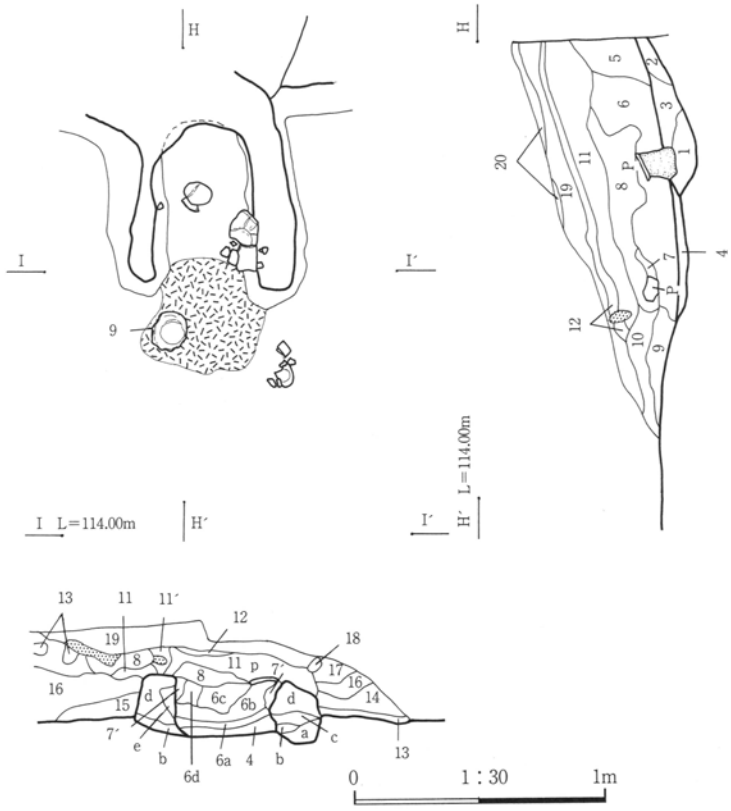
36号住居ピット４　土層観察所見

1　10YR4/4　褐色土　ロームの再堆積土主体。ロームブロックを含む。粘性弱い。やや締まっている。
2　10YR4/6　褐色土　ロームブロック主体。粘性強い。締まっている。
3　10YR4/6　褐色土　As-C、Hr-FA を少量含む。やや粘質。締まっている。
4　10YR5/3　にぶい黄褐色土　竈構築土と同質の粘質土。As-C、Hr-FA を含む。粘性強い。締まっている。
5　10YR3/3　暗褐色土　粘性ない。しまり弱い。柱痕。

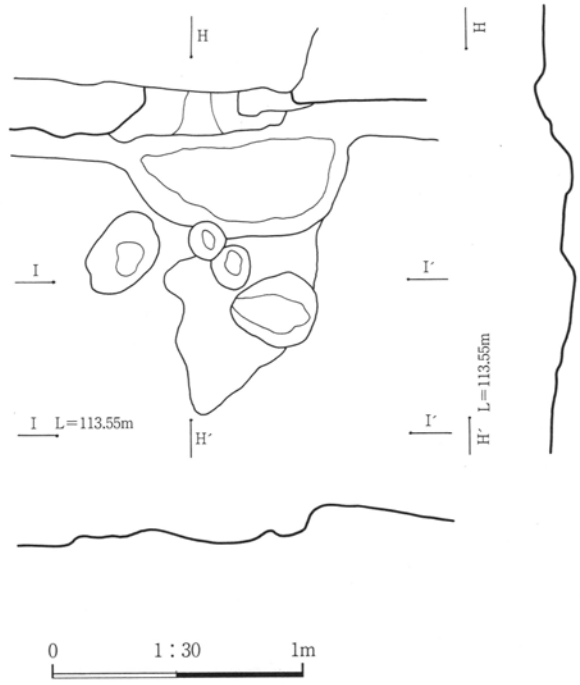
第97図　36号住居平面図　土層断面図　貯蔵穴・ピット土層断面図



第98図　36号住居掘方平面図　高低図



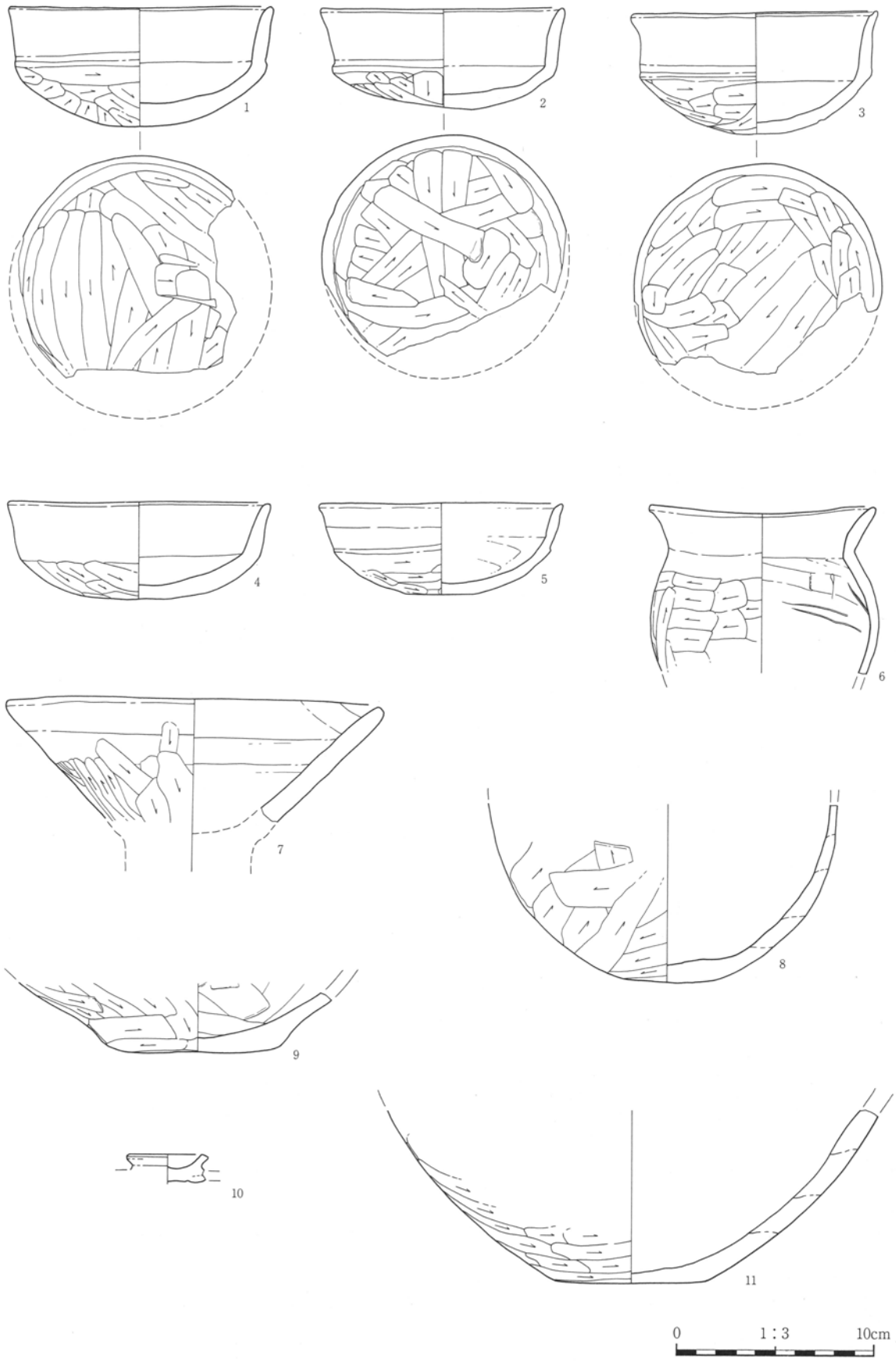
第99図　36号住居竈平面図　土層断面図



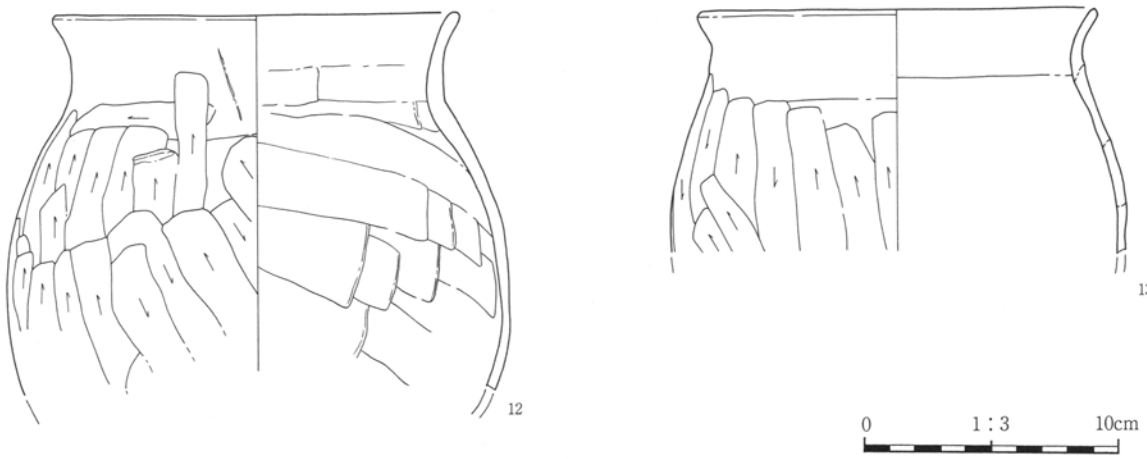
第100図　36号住居竈掘方平面図　高低図

36号住居竈　土層観察所見

1　10YR3/4　暗褐色土　粘質土　Hr-FA、As-C粒を含む。強く締まっている。
2　10YR2/3　ローム粒含む。やや粘質、やや締まっている。
3　10YR3/4　暗褐色土　Hr-FA、As-C粒を含む。焼土粒を多く含む。粘性弱く、締まりも弱い。
4　焼土
5　10YR5/4　炭化物、焼土粒含む。構築粘土の斑を含む。粘性強く、締まっている。
6a　灰と褐色土の混土。焼土小ブロック３％含む。
6b　10YR5/3　にぶい黄褐色粘質土（竈構築土）を主体とし、焼土ブロック５％含む。
6c　10YR5/3　にぶい黄褐色粘質土（竈構築土）。天井が崩落したもので、下部が強く焼け焼土化する。
6d　10YR5/3　にぶい黄褐色粘質土（竈構築土）を主体とし、焼土ブロックを少量含む。
7　10YR5/3　にぶい黄褐色粘質土（竈構築土）。締まっている。
7′　構築土が焼き締まった部分。スサが入っている。
8　10YR4/4　ローム粒多く含む。７層の斑を含む。焼土粒少量含む。やや締まっている。
9　10YR2/3　ロームブロック、７層斑を少量含む。Hr-FA、焼土粒、炭化物を含む。
10　10YR3/3　As-C、Hr-FA、炭化物を含む。７層の斑を多く含む。
11　10YR3/4　暗褐色土　７層の斑を主体とする。As-C 粒を含む。粘質。締まっている。
11′　10YR3/4　暗褐色土　７層の斑を主体とする。As-C粒を含む。粘質。締まり弱く乱れる。
12　10YR4/4　７層の斑を多く含む。As-C 粒を含む。ローム粒少量含む。締まっている。
13　10YR4/4　７層の崩れたもの。
14　10YR3/4　暗褐色土　粒状の７層、ローム粒、炭化物粒を含む。締まり弱い。
15　10YR3/4　暗褐色土　粒状の７層、ローム粒を含む。締まり弱い。
16　10YR4/4　ローム粒、ローム斑を多く含む。炭化物粒を含む。締まり弱い。
17　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、ローム斑を多く含む。焼土粒を少量含む。締まり弱い。
18　ロームブロック。
19　10YR3/3　As-C、Hr-FA、炭化物、７層の斑を含む。
20　10YR2/3　As-C、Hr-FA、炭化物を含む。
a　10YR5/6　黄褐色土　構築土のブロックを少量含む。やや粘質。締まり弱い。
b　地山ロームのブロック。
c　10YR5/4　にぶい黄褐色粘質土　袖基部の粘土。ローム粒を少量含む。粘性強く、締まっている。
d　10YR6/4　にぶい黄橙色粘土　構築土。砂粒を含む。ごく硬く締まっている。
e　ｄ層が焼けて、やや赤変している。



第101図　36号住居出土遺物 1



第102図　36号住居出土遺物２

55号住居

位置　72-B.C-5.6グリッド　標高113.3mから113.5mの台地頂部に近い西南向き緩傾斜部に立地する。北側に小さな谷が入る。西に向かう傾斜はこれ以西で急に強くなり、各時代を通じて遺構が認められなくなる。南西隅が調査区外になる。遺構が希薄な部分であり、北西の54号・56号住居まで40m以上、北東の36号住居まで30m、南東の34号住居まで20mほどの間隔がある。

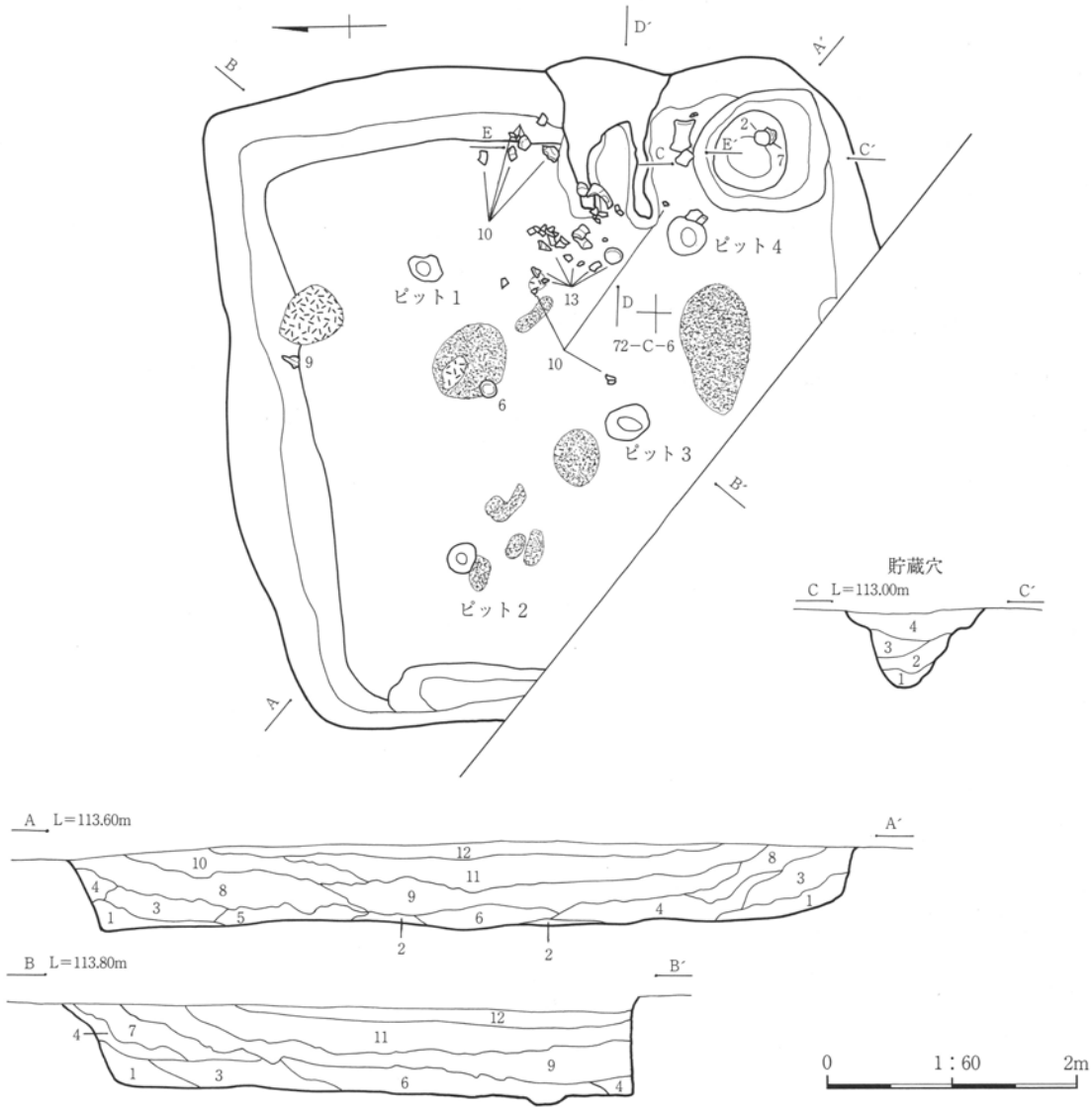
形態　南西隅が調査区外になるため、全体の形状を把握できないが、ほぼ整った方形の平面形を呈するものと見られる。東南角は貯蔵穴が占めてわずかに張り出す傾向を見せるが、北東、北西の両角は比較的強く屈曲する。　**規模**　南北4.73m　東西4.68m

床　掘削面を床面とし、貼り床は見られない。ハードローム中にあって、緩やかに波打つような凹凸があるものの、堅く締まった床面である。竈と貯蔵穴部分を除く壁際は、周溝状に掘り窪められる。西壁部ではこの幅がやや広くなる。焼失した住居であるらしく、床直上の各所に焼土や炭化物の集中が見られる。柱穴間および柱穴に囲まれた内側の部分に炭化物が多い傾向が認められる。個々の形をとどめない、細片化した炭が多く、住居構造にかかわる材としての形状をとどめたものはない。

壁　上部がわずかに崩れているが、総体としては垂直に近い立ち上がりを示す。南部では50cmほど、北部から東部に架けては60cm前後の残存壁高がある。

柱穴　主柱穴と考えられるもの３基（ピット１-３）がある。住居の対角線上に配置されるようで、南東の柱穴も調査区外にあるものと思われる。ピット１は径29cm、深さ22cm、ピット２は径28cm、深さ34cm、ピット３は径26cm、深さ56cmで、それぞれゆがんだ円形の平面形を有する。径は比較的近い数字を示すが、深さにはかなりの差がある。柱間の距離は１-２間が2.18m、２-３間が2.25mある。住居中央やや南よりにも径37cm、深さ27cmの円形ピットがある。また、南壁の中央近くには径26cm、深さ８cmのピットがあるが、機能を推定する根拠を欠く。

貯蔵穴　東南隅に壁をやや掘り込むように作られている。一辺94cmほどの隅丸方形で、幅10cmほどの犬走



55号住居　土層観察所見

1　10YR4/6　褐色壌土　10YR5/6黄褐色ロームブロックを多量に含む。
2　10YR3/3　暗褐色壌土　炭化物粒、焼土粒含む。ローム小ブロック含む。
3　10YR4/6　褐色壌土　10YR5/6黄褐色ロームブロックを多く含む。炭化物（材片）含む。
4　10YR4/6　褐色壌土　10YR5/6黄褐色ロームブロック、ローム粒を多く含む。
5　10YR3/3　暗褐色壌土　炭化物粒、焼土粒含む。
6　10YR3/2　黒褐色壌土　As-C多く含む。炭化物（材片）、焼土粒多く含む。
7　10YR3/3　暗褐色壌土　As-C、Hr-FA 含む。ローム斑20%含む。
8　10YR3/3　暗褐色壌土　As-C、Hr-FA 含む。ローム斑７%含む。
9　10YR2/2　黒褐色壌土　As-C、Hr-FA 多く含む。
10　10YR3/3　暗褐色壌土　As-C、Hr-FA、ローム粒含む。
11　10YR2/3　黒褐色壌土　As-C、Hr-FA 多く含む。
12　10YR2/1　黒色砂壌土　As-B を多量に含む。

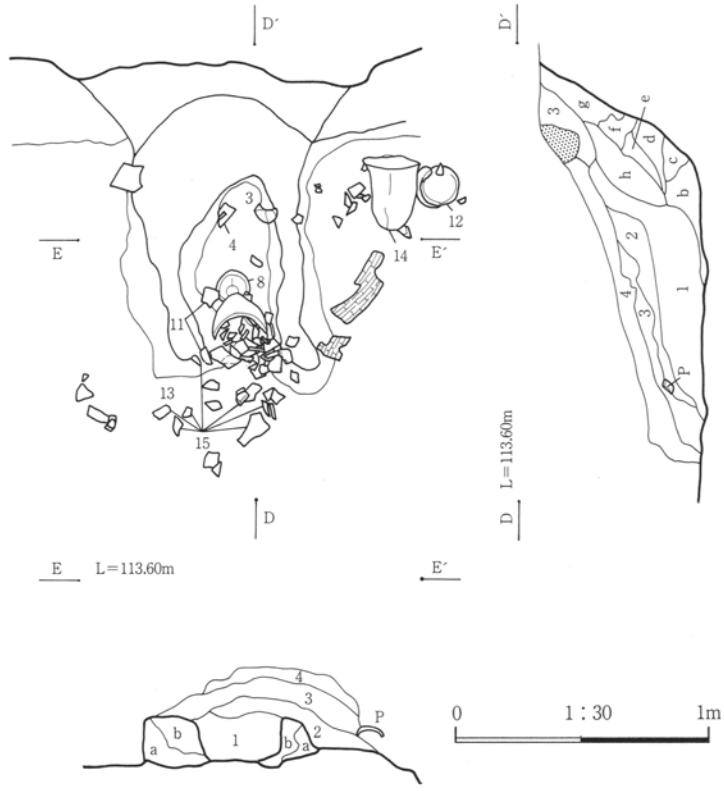
貯蔵穴　1　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒（As-BP のパミス）を多く含む。ローム小ブロック含む。締まりない。
2　10YR4/4　褐色土　ローム粒、ローム小ブロック多く含む。締まりない。
3　10YR4/4　褐色土　ローム粒、ローム小ブロック主体。締まりない。
4　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、ローム小ブロック多く含む。炭化物粒少量含む。やや締まっている。

第103図　55号住居平面図　土層断面図　貯蔵穴土層断面図

り状の中段を持っており、中央に径70cm、深さ65cmの丸底の底面を持つ円形土坑が掘り込まれている。下層覆土は黒褐色土とロームを多く混じる褐色土であるが、締まりが弱く、上層の暗褐色土のみやや締まっている。

竈　東壁やや南よりにある。にぶい黄褐色粘土で本体を構築し、特定の構造材は用いられていない。強く焼けた構築土が崩落した多量のブロックが燃焼部内に落ち込んでいるが、燃焼部底面は床面と同レベルにあって掘り込まれていない。支脚には土師器高坏（６）が使用されており、原位置をとどめているが、灰や炭化物の層は認められない。煙道は壁を切り込んで、傾斜を持って立ち上がっている。主軸方向はN-87°-Eを示す。燃焼部内の支脚から焚き口側にかけて、土師器甕を中心とする多くの土器が出土している。竈右袖と貯蔵穴の間には土師器甕（12・14）が置かれている。

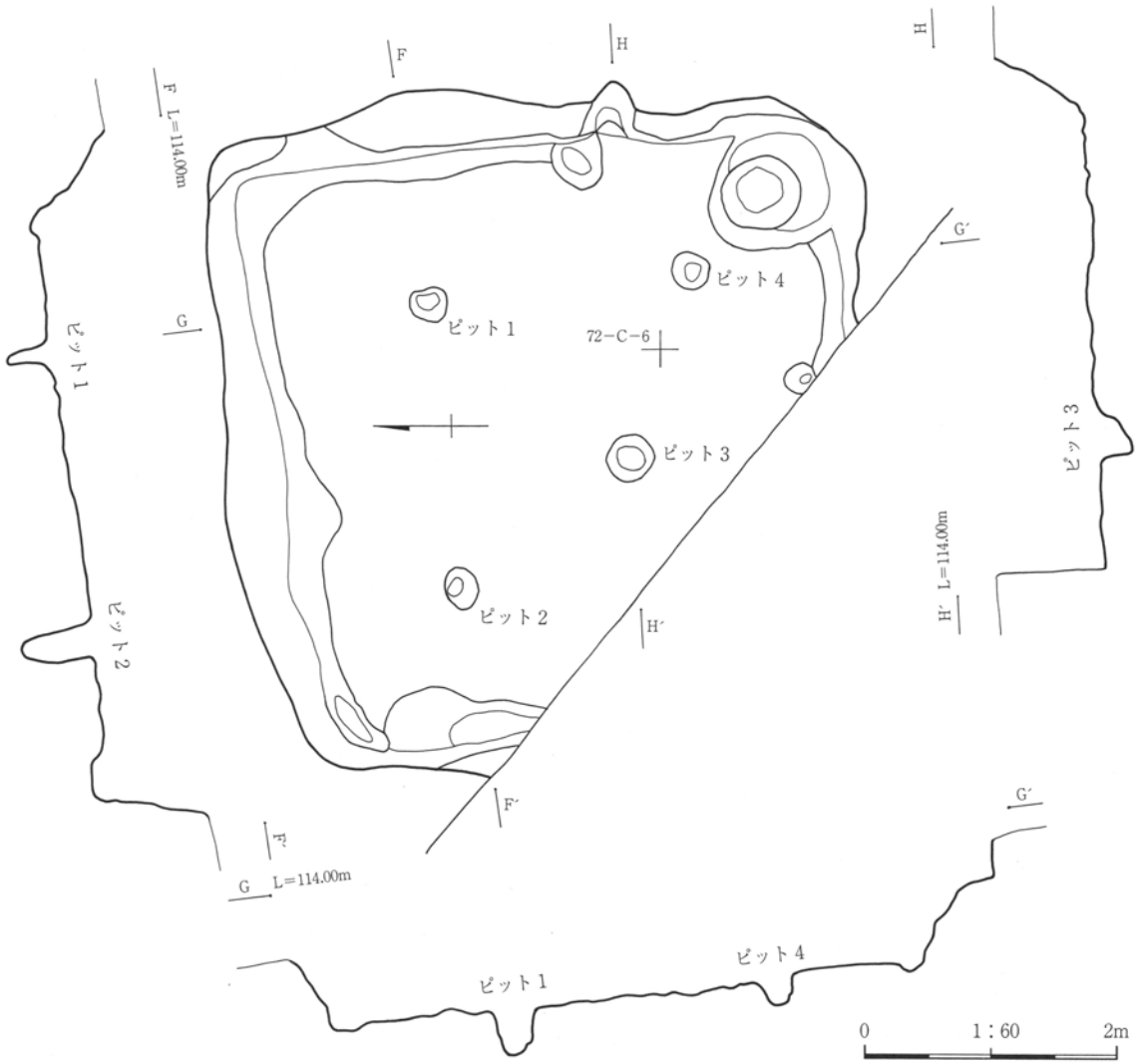
遺物　遺物は竈内およびその周辺から貯蔵穴にかけて集中する。土師器のみであり、甕と須恵器の坏蓋を模倣した坏を中心とする。坏は内面に暗文を施すものが多い。また、口径９cm前後の小型坏が見られる点は56号住居と共通する。６世紀前半と考えられる。



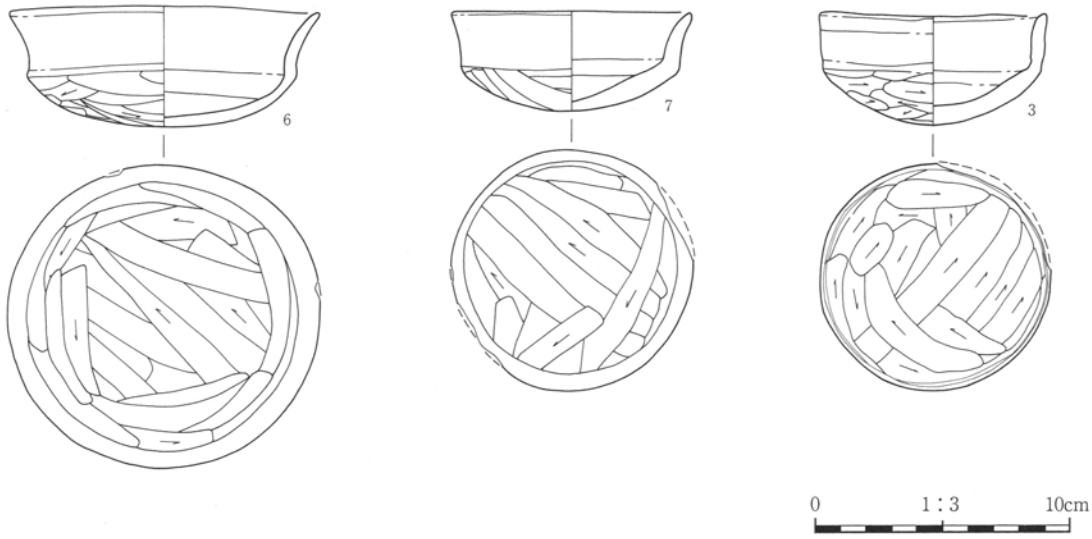
55号住居竈　土層観察所見

1　7.5YR4/6　褐色土　焼土ブロック主体。
2　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土粒、炭化物粒多く含む。
3　10YR4/4　褐色土　焼土粒、焼土粒含む。
4　10YR4/4　褐色土　As-C含む。住居覆土。
a　10YR5/4　にぶい黄褐色粘土。
b　10YR4/4　褐色土　焼土ブロックを多く含む。
c　10YR3/4　暗褐色土　締まりのない汚れたローム。攪乱されているか。
d　10YR4/4　褐色土　焼土粒少量含む。
e　10YR4/4　褐色土　焼土粒多く含む。炭化物粒含む。
f　10YR4/4　褐色土　焼土ブロックを多く含む。
g　10YR3/4　暗褐色土　焼土粒含む。
h　10YR5/4　にぶい黄褐色土　焼土ブロックを含む。やや赤変している。

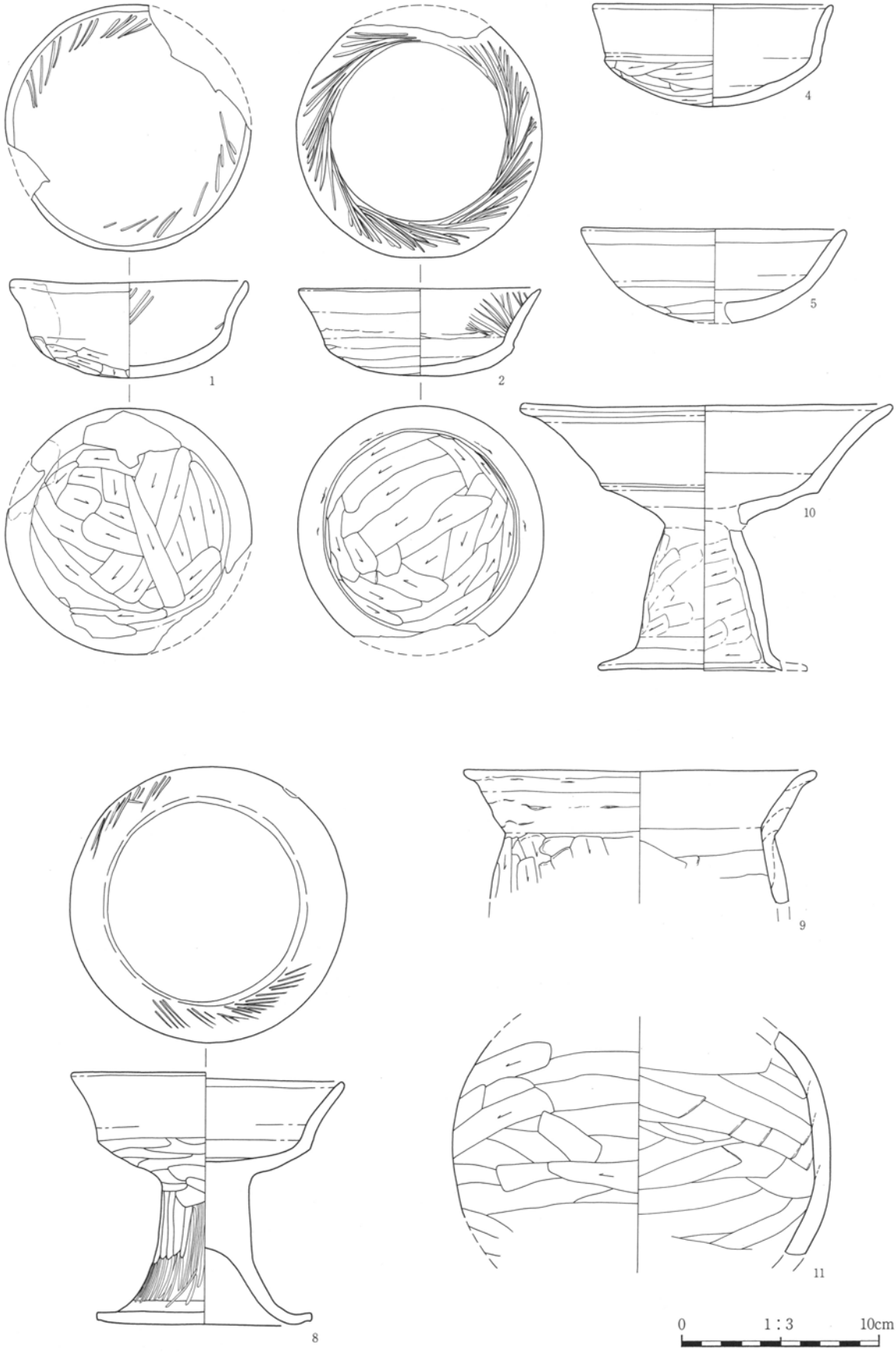
第104図　55号住居竈平面図　土層断面図



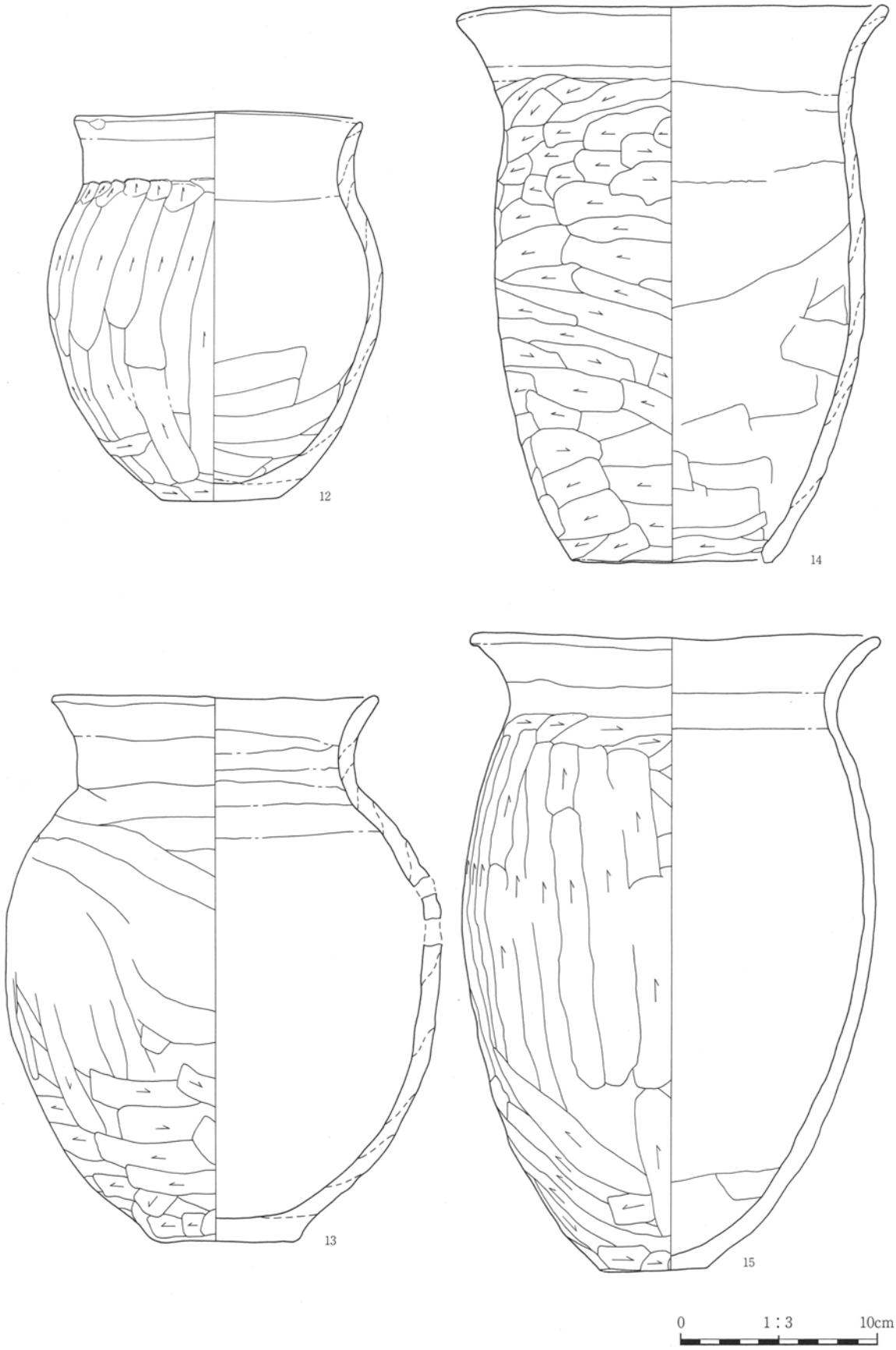
第105図　55号住居掘方平面図　高低図



第106図　55号住居出土遺物 1



第107図　55号住居出土遺物２



第108図　55号住居出土遺物３

56号住居

位置　72-F.G.H-14.15グリッド　標高113.1mから113.3mの西向き緩傾斜部に立地する。南側には小さな谷が入る。西に向かう傾斜はこれ以西で急に強くなり、各時代を通じて遺構が認められなくなる。散在的な古墳時代住居の中でも孤立的な位置にあり、直近の55号住居まで40mを越える間隔がある。54号住居が中央東よりにすっぽりと入り込むように掘られている。覆土の上位には汚れて、ブロック化してはいるものの、部分的に火山灰部分をとどめる As-B が堆積し、その下位に As-C、Hr-FA を含む黒褐色土が堆積しているが、これは54号住居廃絶後の堆積土であり、本来本住居を埋没させているのはローム粒やロームブロックを多く含む褐色から黒褐色の壌土である。

形態　東壁南部から北壁中央部にかけてを試掘トレンチが斜めに切っているが、平面形状は損なわれていない。方形を基本としているが、西壁と北壁がそれぞれ対向壁よりやや短いためにわずかにゆがんでいる。この本体の東南隅に、東壁を南に延長した方形の小さな張り出しが付属し、貯蔵穴が作られている。各隅は小さな丸みを持って屈曲する。

床　掘削底面を踏み固めて床としており、貼り床は見られない。ハードローム中にあり、緩やかな凹凸はあるものの、ごく堅く締まった、しっかりとした床面である。壁周溝は認められない。

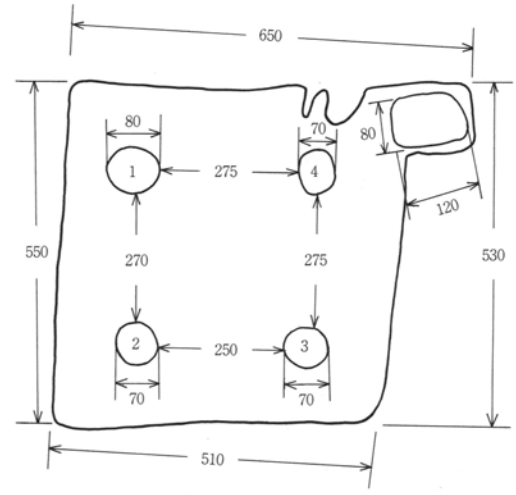
壁　西側で50cmほど、東側では70cm近い残存壁高がある。垂直に近く立ち上がる。

柱穴　４本ある。それぞれ床面での掘方上端径70cmから80cmほどのゆがんだ円形の平面形を有するが、南西のピット２だけが床面から25cmと浅く、他は60cm以上、特にピット１は70cmを越える深さがある。ピット１には土師器甑が南方向から流入したような形で出土している。

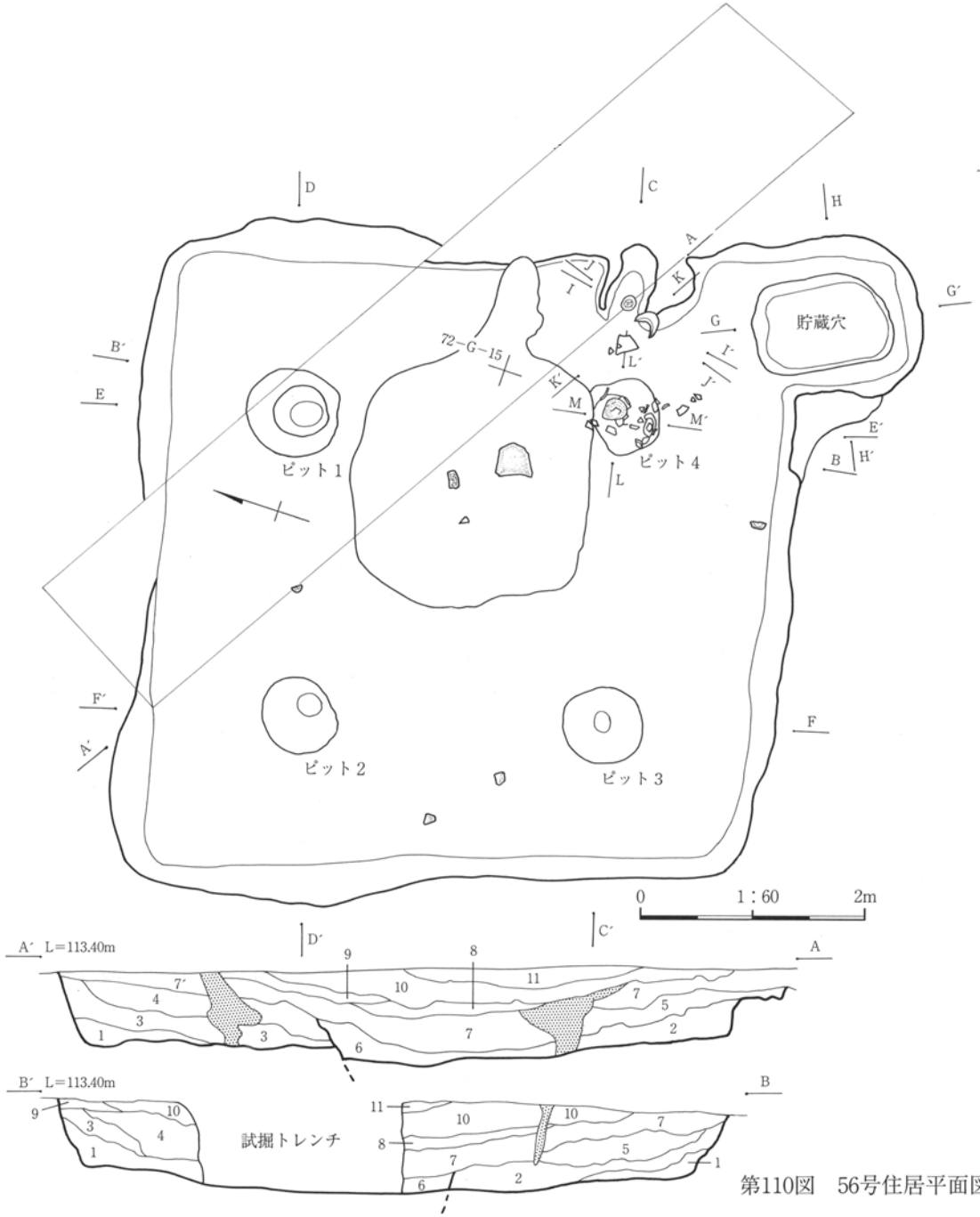
貯蔵穴　東南隅に住居本体から南へ突出する張り出し部の中に貯蔵穴が掘られている。張り出しは東壁の延長上に、間口1.1m、奥行き1.2mの大きさがあり、床面は住居本体からそのまま連続する。貯蔵穴は張り出し部壁下から10cmないし15cmの犬走り状の空間をおいて掘られている。東壁に沿って南北に長軸を置く隅丸長方形の平面形で、長軸1.2m、短軸0.82mほどの大きさがある。深さは70cmほどもあり、ほぼ垂直な壁と、平らで締まった底面を有する。覆土最上位は住居埋没土と共通する黒褐色土であるが、以下はローム粒を多く含み、締まりのごく弱い暗褐色から黒褐色土である。炭化物などはほとんど含まれず、土器等の遺物も出土していない。

竈　東壁の南端近くに作られる。右袖部を除いて試掘トレンチに切られる。暗褐色粘土で構築され、右袖には土師器甕を構造材として用いている。燃焼部は床面をわずかに掘り窪めた程度であり、支脚に用いられたと見られる小型の土師器高坏が中央に据えられている。主軸方向はN-91°-Eを示す。

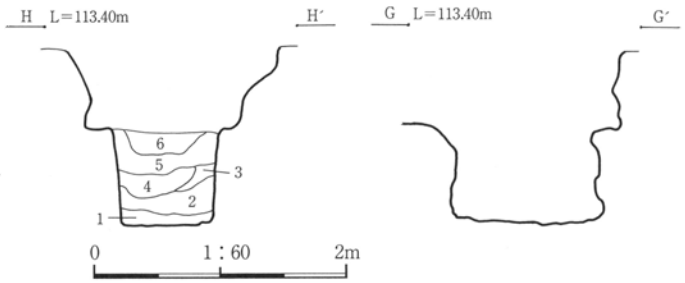
遺物　遺物量は少なく、竈内と竈からピット１にかけての部分に集中する。土師器の坏、高坏、甕、甑がある。坏は須恵器坏蓋を模倣したもので、口径10cmほどの小型品である。高坏の坏部もこれに準ずる。６世紀前半と考えられる。



第109図　56号住居計測模式図



第110図　56号住居平面図　土層断面図



第111図　56号住居貯蔵穴　土層断面図　高低図

56号住居　土層観察所見

1　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA、炭化物粒含む。粘性なし。やや締まっている。

2　10YR4/4　褐色-10YR5/6黄褐色壌土　細かいローム粒の再堆積土主体。焼けたようにやや赤変する部分がある。

3　7.5YR4/4　褐色壌土　細かいローム粒の再堆積土が主体。ローム小斑を含む。1層の斑を少量含む。

4　10YR2/3　黒褐色壌土　Hr-FAをやや多く含む。As-C、炭化物粒含む。粘性なし。やや締まっている。

5　10YR3/2　黒褐色壌土　Hr-FAをやや多く含む。ローム粒、As-C、炭化物粒含む。締まりない。

6　10YR2/3　黒褐色壌土　炭化物粒、ロームブロックを含む。As-C、Hr-FAはごくわずかに含むのみ。粘性やや強い。

7　10YR2/3　黒褐色壌土　As-C 多く含む。10YR2/3黒褐色砂質壌土の斑を多く含む。粘性やや強い。

8　10YR1.7/1　黒色土　As-C 含む。やや粘質。いわゆるC混黒に近いが、As-Cの量が少ない。

9　10YR1.7/1　黒色土　As-C 含む。やや粘質。いわゆるC混黒。

10　攪乱されたAs-B層。部分的ににぶい赤褐色の灰がブロック状に残る。

11　10YR2/1　黒色砂壌土　As-B を多量に含む。いわゆるB混。

貯蔵穴　1　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒多く含む。締まり弱い。

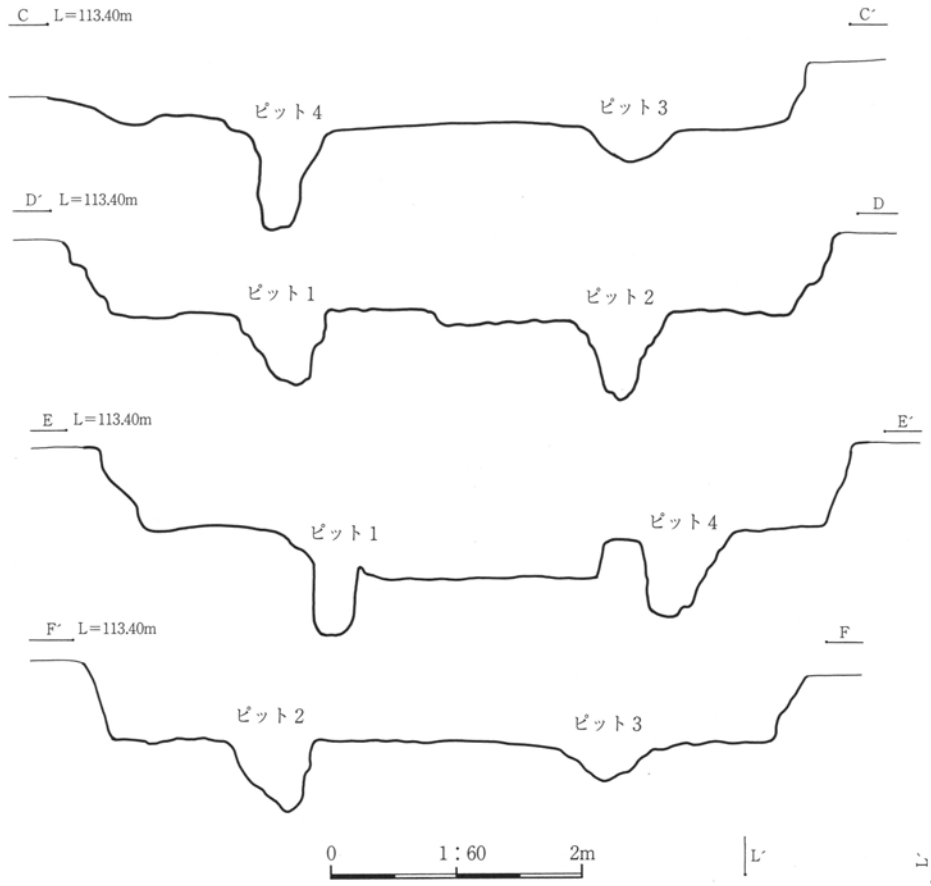
2　7.5YR3/3　暗褐色土　ローム粒多く含む。ローム小ブロック含む。締まり弱い。

3　7.5YR3/3　暗褐色土　ローム粒多く含む。黒褐色土ブロックを含む。

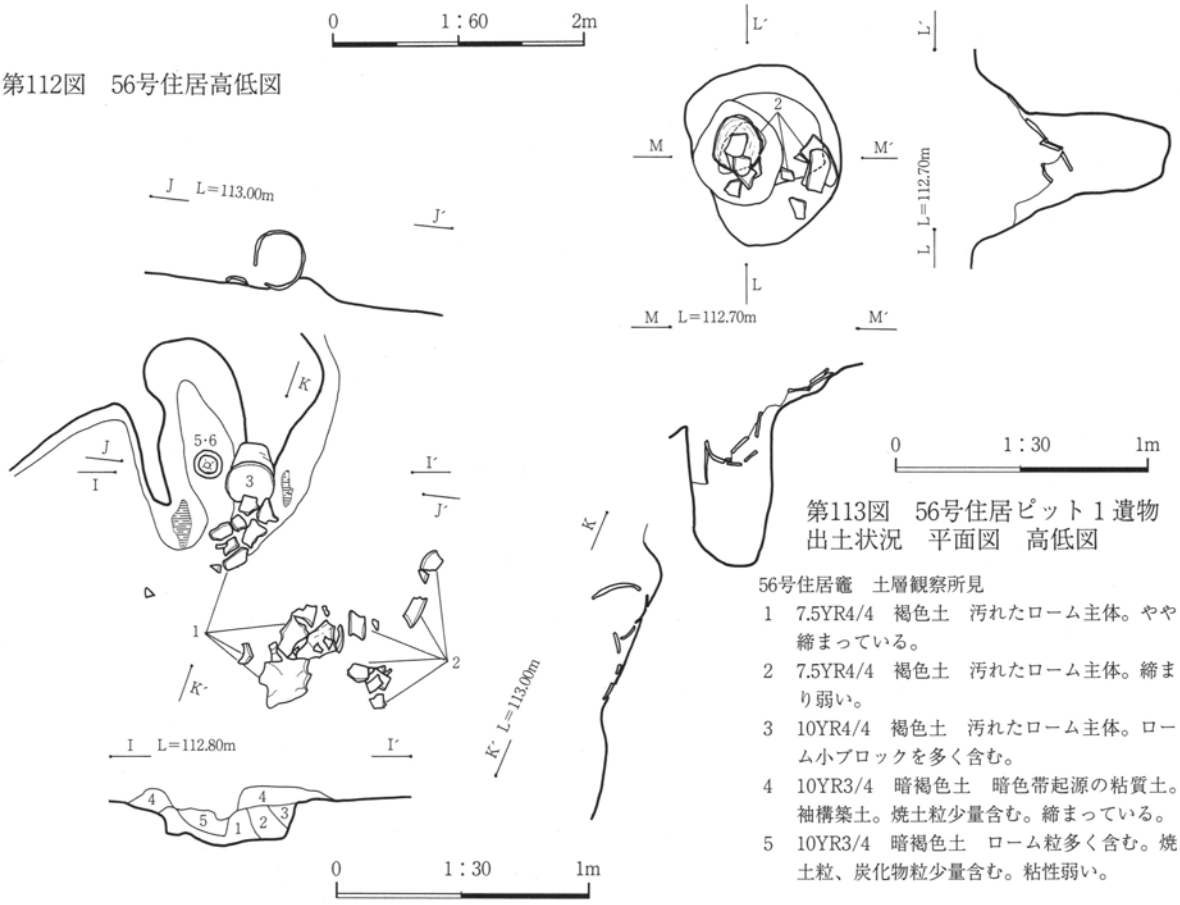
4　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒多く含む。Hr-FA 含む。

5　7.5YR2/3　極暗褐色土　ローム粒多く含む。

6　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒含む。炭化物含む。



第112図　56号住居高低図



第113図　56号住居ピット１遺物出土状況　平面図　高低図

56号住居竈　土層観察所見

1　7.5YR4/4　褐色土　汚れたローム主体。やや締まっている。

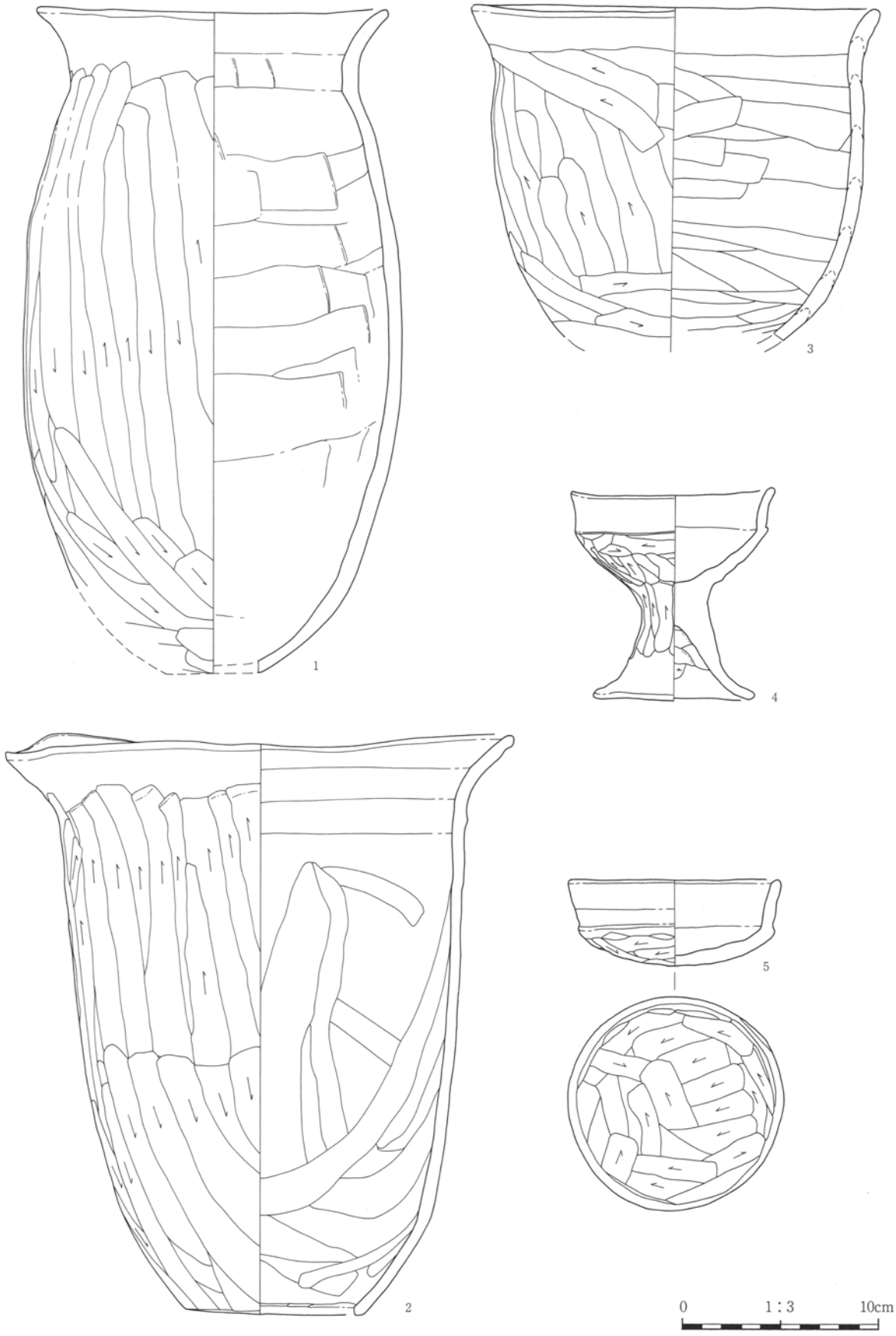
2　7.5YR4/4　褐色土　汚れたローム主体。締まり弱い。

3　10YR4/4　褐色土　汚れたローム主体。ローム小ブロックを多く含む。

4　10YR3/4　暗褐色土　暗色帯起源の粘質土。袖構築土。焼土粒少量含む。締まっている。

5　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒多く含む。焼土粒、炭化物粒少量含む。粘性弱い。

第114図　56号住居竈平面図　土層断面図　高低図



第115図　56号住居出土遺物

第５章　奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

１　概　要

７世紀代の遺構、遺物は認められず、空白の時期となるが、８世紀前葉には竪穴住居が再び作られ始める。これ以後がこの遺跡の中心的な時期であり、比較的多くの遺構が残されている。竪穴住居50棟、掘立柱建物24棟、柱穴列４条、土坑85基、ピット221基、井戸４基、溝６条、水田などを調査している。

東向き傾斜部に集中しており、縄文時代の遺構・遺物が西向き傾斜部に分布の中心を置くのと、対照的な立地傾向であり、古墳時代の竪穴住居が台地頂部近くにあるのともやや趣を異にする。調査範囲の中程に遺構が多く、縁辺には少ないという傾向も見られる。調査区の隣接地は、前橋市教育委員会による発掘調査が行われている。遺構確認のための試掘用トレンチも比較的高密度に入れられているが、遺構はきわめて希薄である。こうしてみると、少なくとも竪穴住居や掘立柱建物などに示される居住域としての土地利用は、今回調査を行った範囲からさほど大きく広がらないものと考えることができそうである。

竪穴住居は８世紀前葉から作られ始めるが、９世紀後葉から末葉にかけてのものが最も多い。

掘立柱建物には、大きく深い掘方で整ったものと、柱穴掘方が小さく、やや柱通りの悪いものの２者が見られる。時期判定の根拠となる出土遺物には乏しいが、前者は古代の、後者は中世以後のものであろう。

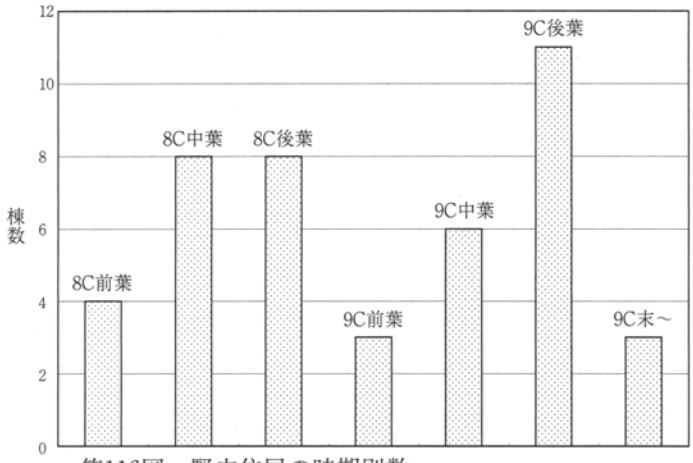
竪穴住居から、「寺」と墨書された土器が出土している。古代の掘立柱建物が「寺」と何らかの関わりを持つものである可能性もあるが、積極的な根拠を見いだすことはできなかった。

集落の東西を挟む低地部分には、As-B の堆積はあるが、東側谷の東縁辺以外では明確な水田遺構がない。集落を支えた水田はより下流側にあるのだろうか。生産域の把握も今後の課題である。

２　竪穴住居

竪穴住居は８世紀前葉から作られ始め、９世紀後葉に最も多くなる。調査区の中央近くやや南よりの東向き傾斜部に大きなまとまりがあり、台地の傾斜にあわせて、等高線に沿うかのように南東―北西方向に広がりを持つ。重複は比較的少ない。このまとまりの中でも、８世紀代のものは比較的南寄りに偏在する傾向があり、古代の掘立柱建物が北寄りに多く認められたのとは対照的な配置となっている。

東壁南寄りに竈、東南隅に貯蔵穴を作る、通有の特徴を持つが、規模や平面形状にはバリエーションがある。39号住居は特に大型で、周囲に壁柱穴を持つという特異な構造を有する。



第116図　竪穴住居の時期別数

北東部の西向き傾斜部にも４棟ある。51・53・54号住居は深く掘り込まれ、覆土上位に As-B がレンズ状に堆積している。54号住居は古墳時代の住居の中央を掘り込んで作られた鍛冶工房と見られる。

遺物は土器類の他、鎌、斧、刀子、釘等の鉄器、石製紡錘車などが出土している。「寺」「主」「石」「矢」や、則天文字ふうの構えを持つ「首」などの墨書土器も出土した。

第117図　古代竪穴住居分布概念図

１号住居

位置　60-T-8.9/61-A-8.9グリッド　調査区南端近くに位置し、他の住居とはやや離れている。標高110.5mから110.4mにかけての、比較的急な東向き傾斜部に立地する。西にほぼ同方向を向く６号掘立柱建物がある。谷地部にあたり、上位にはAs-Bで覆われた水田があったことが想定される位置である。

形態　ほぼ方形

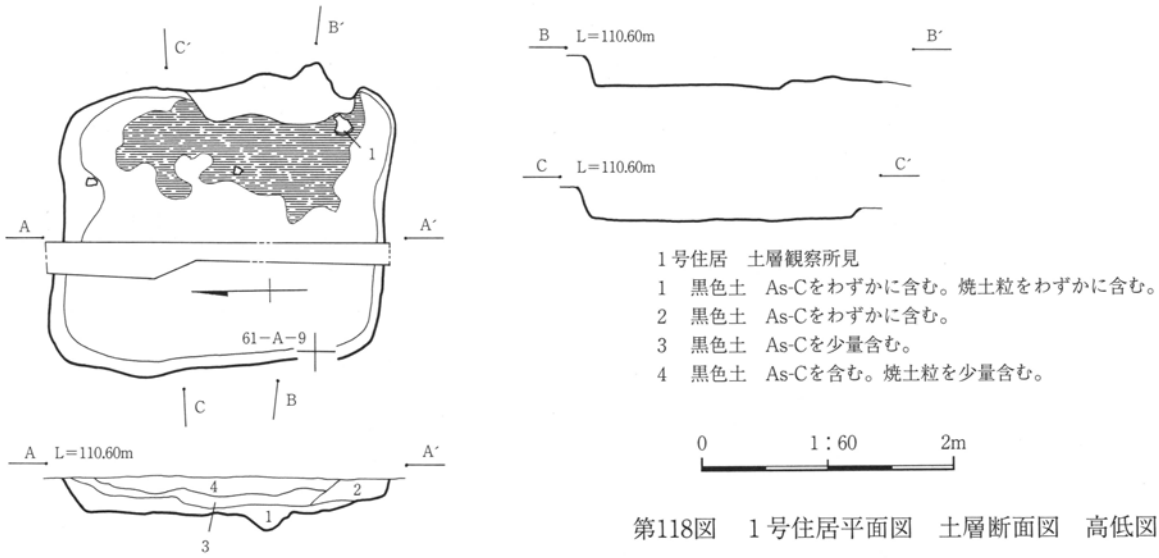
規模　長軸2.6m　短軸2.2m

床　黒ボク土中で確認され、確認面ですでに床面近くまで削平されていた。床面は一部しか確認できないが黒色土中にあり、粘質土で貼り床がなされる。残存部は平坦で硬化している。

壁　特に東半は削平が著しく、明確に壁面が捉えられない。西部は比較的良く残っており、30cmほどの壁高がある。西壁及び南壁は直立する。北壁中央よりやや東寄りではやや内側に張り出すようなゆがみが見られる。

竈　東壁南寄りに痕跡が認められる。

遺物　資料化可能な出土遺物は少ない。竈右手前部で摘みの付かない須恵器蓋が出土している。端部折り返しで、内面にかえりは付かない。扁平な形状である。また、覆土中から土師器甕が出土している。コの字状口縁のものである。９世紀前葉の年代と考えられる。



第118図　１号住居平面図　土層断面図　高低図

第119図　１号住居出土遺物

２号住居

位置　61-C-14.15グリッド　調査区南部にある。標高110.6mから110.5mの比較的ゆるい東向き傾斜部に立地する。２号井戸に切られる。西に３号住居がある。

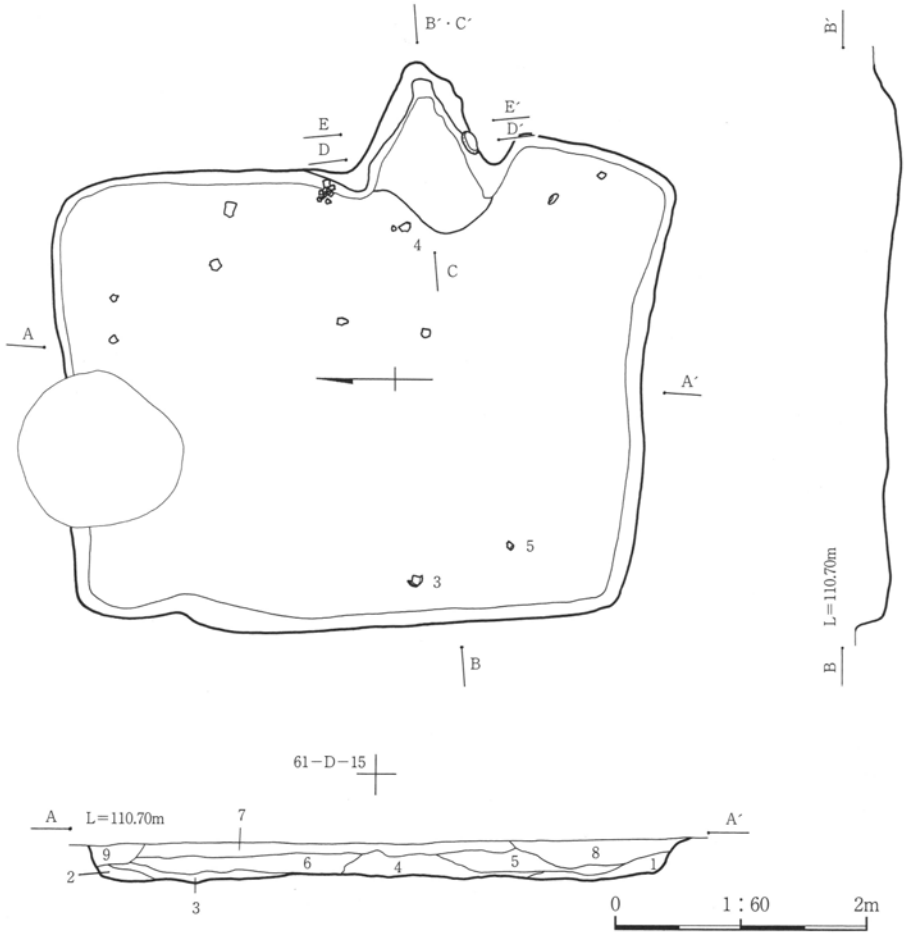
形態　南北に長い横長長方形　**規模**　長軸4.8ｍ　短軸3.44m

床　緩やかな起伏があり、中央部がやや低くなるが、ほぼ平坦に作られる。

壁　残存壁高は19cmから26cmほどある。床面から弧状をなして壁に連なる。

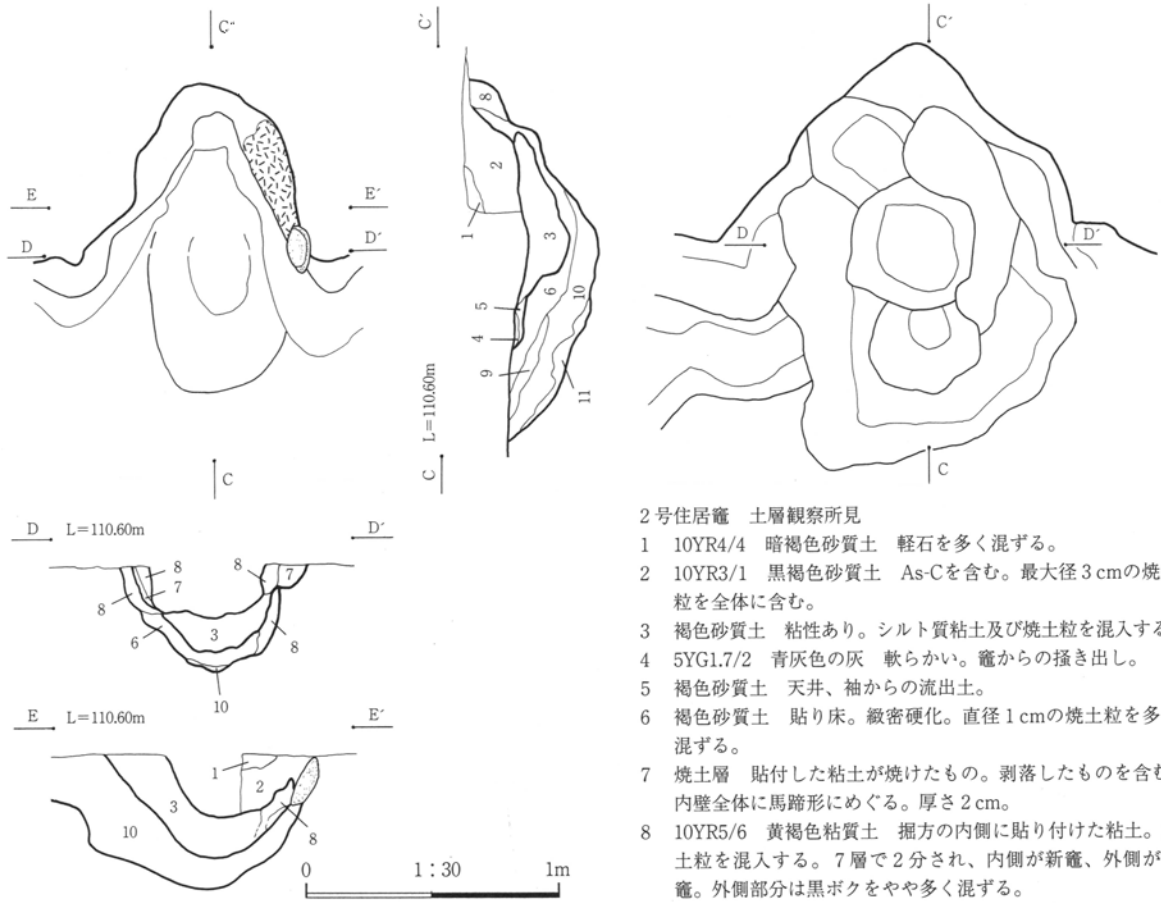
竈　東壁やや南寄りに、壁面を掘り込んで作られている。主軸方向はN-85°-E。地山の黒ボク土を掘り込んで、黄褐色粘質土を馬蹄形に貼り付けて構築する。右壁部には構造材として用いられたと思われる石が残る。土層断面では左壁側に強く焼けた焼土層（７層）があるが、全体的には右壁が強く焼けている。土層断面の所見では作り替えが認められ、当初の掘方内に緻密な褐色砂質土（６層）を貼って一回り小ぶりな竈に作り替えていることがわかる。

遺物　住居東半に土器片が散在する。須恵器短頸壺の蓋、須恵器蓋の環状摘み破片や小型の土師器甕、器高の低い粗雑なつくりの土師器坏が出土している。８世紀中葉の年代が当てはまると思われる。



２号住居　土層観察所見
1　黒褐色土　細粒のAs-C をわずかに含む。
2　黒褐色土　細粒のAs-C をごくわずかに含む。ロームブロック含む。
3　黒褐色土　細粒のAs-C をわずかに含む。
4　黒色土　As-C をわずかに含む。
5　黒色土　As-C を含む。焼土粒を少量含む。
6　黒色土　As-C を少量含む。焼土粒を含む。
7　黒色土　As-C を含む。
8　黒色土　As-C を含む。
9　２号井戸覆土

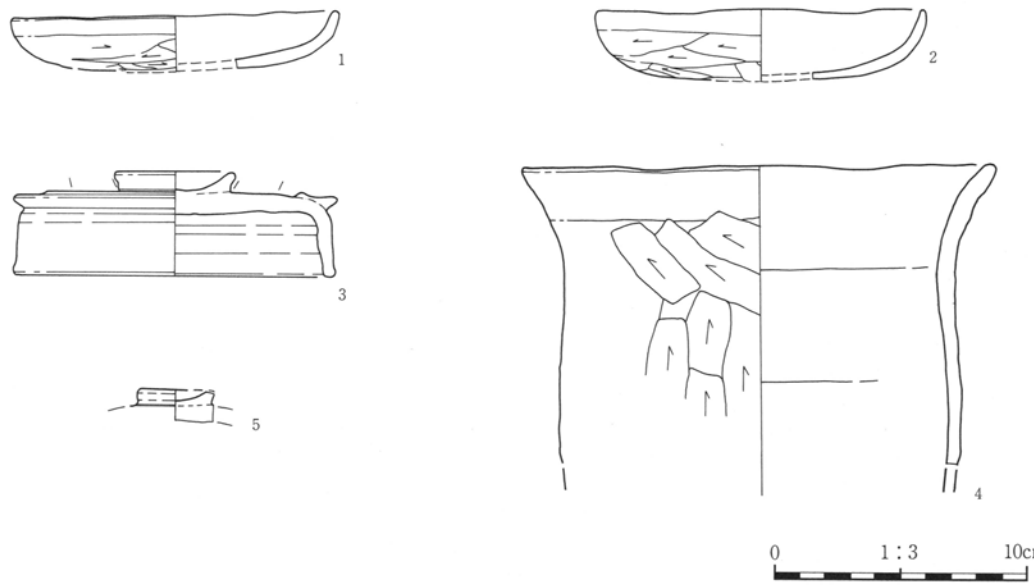
第120図　２号住居平面図　土層断面図　高低図



２号住居竈　土層観察所見

1　10YR4/4　暗褐色砂質土　軽石を多く混ずる。
2　10YR3/1　黒褐色砂質土　As-Cを含む。最大径３cmの焼土粒を全体に含む。
3　褐色砂質土　粘性あり。シルト質粘土及び焼土粒を混入する。
4　5YG1.7/2　青灰色の灰　軟らかい。竈からの掻き出し。
5　褐色砂質土　天井、袖からの流出土。
6　褐色砂質土　貼り床。緻密硬化。直径１cmの焼土粒を多く混ずる。
7　焼土層　貼付した粘土が焼けたもの。剥落したものを含む。内壁全体に馬蹄形にめぐる。厚さ２cm。
8　10YR5/6　黄褐色粘質土　掘方の内側に貼り付けた粘土。焼土粒を混入する。７層で２分され、内側が新竈、外側が古竈。外側部分は黒ボクをやや多く混ずる。
9　6・7・8層の混土。直径１cm大。良く撹拌され緻密硬化。
10　6・7・8層の混土。９層に比して直径１～３cm大と大粒。中央部付近では４層がレンズ状に堆積する。

第121図　２号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図



第122図　２号住居出土遺物

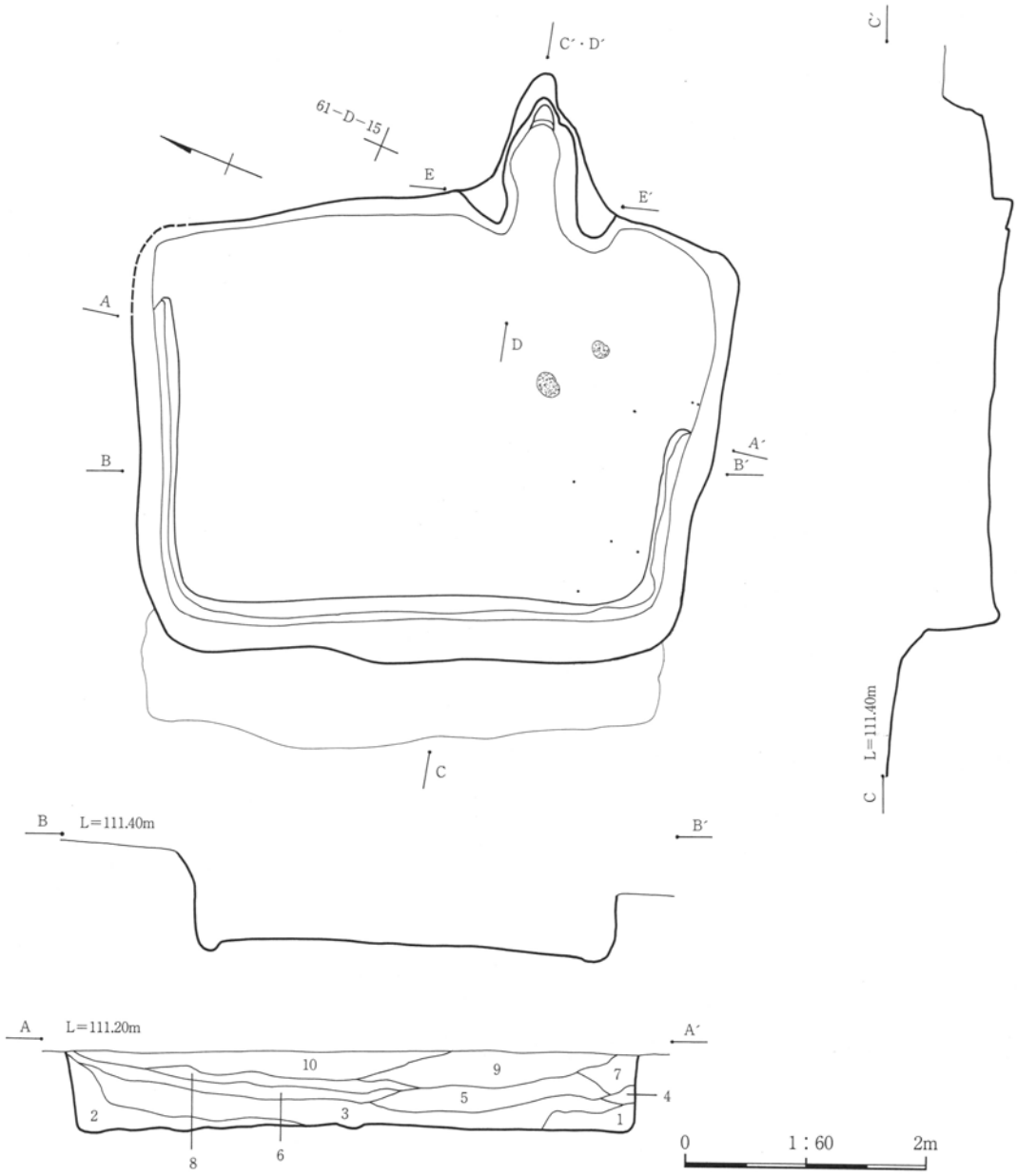
3号住居

位置　61-C-14/61D-14.15グリッド 調査区南部にある。標高111mから111.2mの比較的急な東向き傾斜部に立地する。東に2号住居、西に11号掘立柱建物がある。

形態　南北に長い横長長方形　**規模**　長軸4.68m　短軸3.38m

床　As-C 混土からローム層中にまで掘り込む。ほぼ平坦だが、壁際がわずかに低く、中央部が高い。全体に非常に硬くしまっている。住居中央南寄りに炭化物の集中が点的に見られる。

壁　壁周溝が北壁東部から西壁を経て南壁中央近くまで、コ字状にめぐる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。東側では残存壁高15cmから20cmであるが、西部では最大で80cm近い壁高がある。西壁外には確認面であるロ



第123図　3号住居平面図　高低図　土層断面図

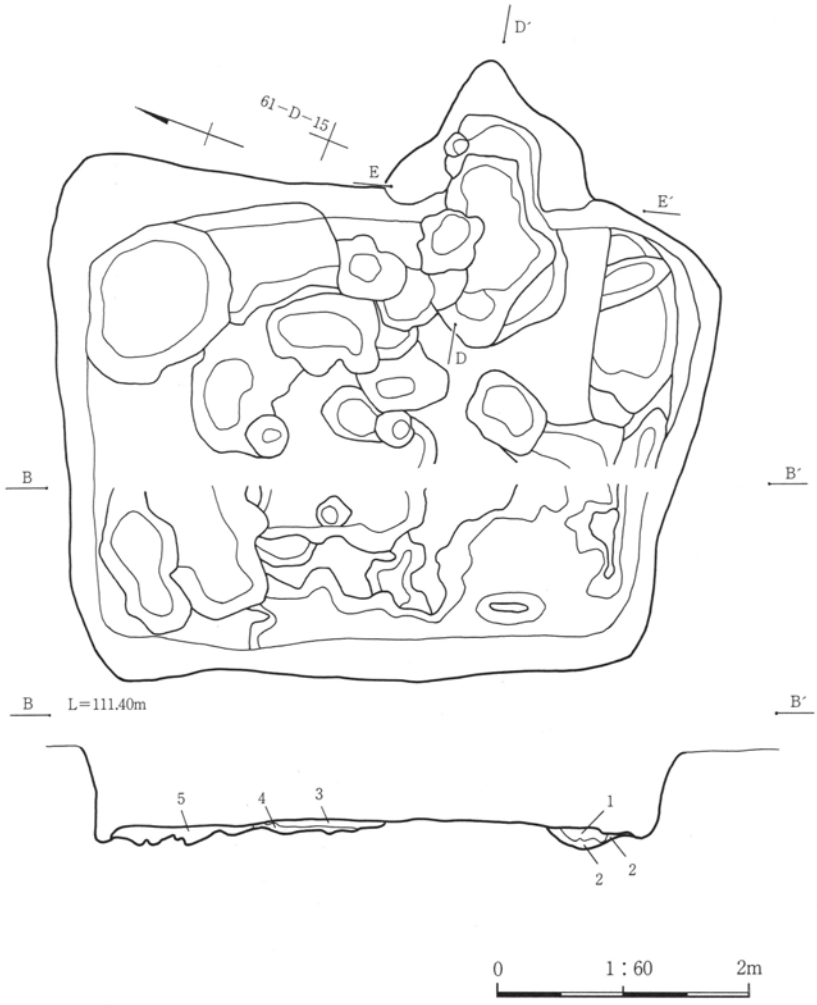
ーム漸移層上面において、As-C を含む黒色土層が不明瞭ながら帯状に分布していることが観察された。住居を取り囲む周堤ないしその内側部の痕跡とも推定される。

貯蔵穴　竈の右手に当たる南東隅部にあるが、掘方調査時に確認されているため、使用時の形状や規模はわからない。南北方向での断面では上端径50cm、深さ22cmほどで、北壁が垂直に立ち上がり、南壁は緩やかな弧を描いて立ち上がる。掘方から見ると東西方向に長軸を持つ歪んだ楕円形を呈したものらしい。

竈　東壁やや南寄りに壁面を掘り込んで構築する。壁際に小さな袖を持つが、ほとんどが壁外に当たる。掘方内にシルト質の粘土を貼り付けて構築し、石などの構造材は用いていない。主軸方向はN-75°-Eを示す。

掘方　竈前から西方向に細長い掘り残し部分があるが、大小の不定型な掘り込みが住居全体に多数見られる。貯蔵穴部分は長軸を東西に持つ楕円形に、また北東隅部は比較的整った円形に掘り込まれる。住居中央部の土坑状掘方底面には灰色の粘土が貼り込まれ、緻密で硬く締まった状態にある。貯蔵穴最深部は床面下35cmであるが、他の部分は10cmから25cmの深さである。

遺物　住居全体の残りはよいのだが、出土遺物はごく少なく、土器の小破片が南部に点在するのみである。８世紀前葉と思われる土師器坏が資料化可能な唯一の遺物である。



３号住居　土層観察所見

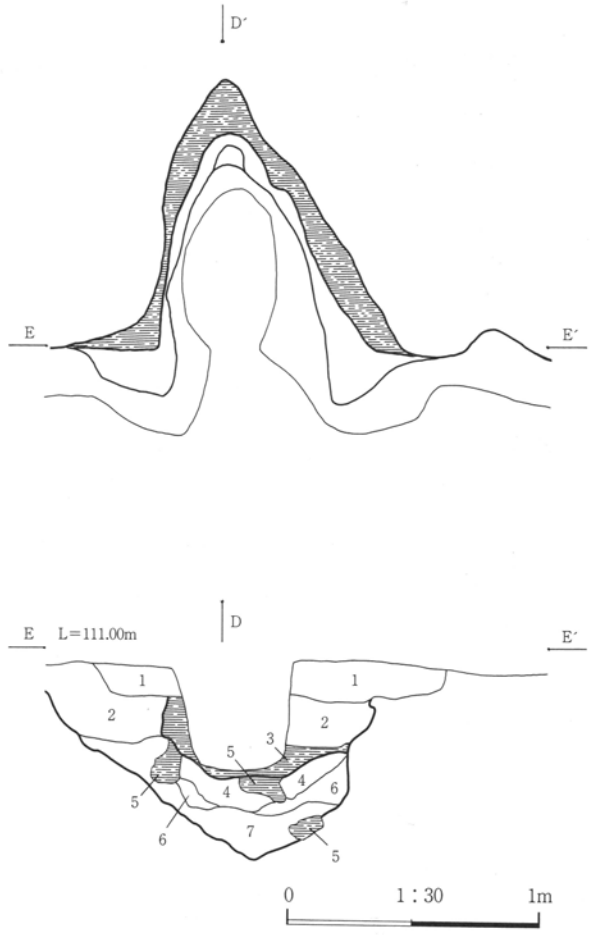
1　黒褐色土　ロームブロック少量含む。
2　黒褐色土　As-C を少量含む。As-C を含む黒色土のブロックを含む。ローム粒を少量含む。
3　茶褐色土　As-C を少量含む。焼土粒を多く含む。ローム粒を混ずる。
4　茶褐色土　白色軽石粒をわずかに含む。
5　茶褐色土　As-C を少量含む。ローム粒を含む。
6　黒色土　As-C を若干含む。焼土粒を含む。ローム粒を含む。
7　暗褐色土　白色軽石粒を少量含む。
8　茶褐色土　As-C 粒を含む。やや大粒の焼土粒を多く含む。ローム粒を含む。
9　茶褐色土　As-C 粒を含む。ロームブロックを少量含む。ローム粒を多く含む。
10　黒色土　As-C 粒を少量含む。

３号住居床下構造　土層観察所見

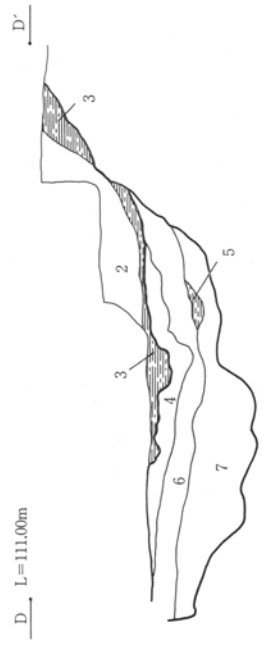
1　黒褐色砂質土　As-C 粒を混ずる。As-BP を少量混ずる。
2　ロームを主とし、１層を少量混ずる。緻密でやや硬く締まる。
3　As-BP ブロックと灰黒色砂質土との混土。直径１cm以下の灰、焼土が混入する。緻密で硬く締まる。
4　5Y1/5　灰色粘土　土坑の底面に貼り込む。緻密で硬く締まる。
5　As-C を含む黒褐色砂質土、ローム、As-BP との混土。

１・２・５層は壁際を帯状にめぐる掘方の充填土。周溝に作る壁体の造作と関係する。

第124図　３号住居掘方平面図　土層断面図



第125図　3号住居竈平面図　土層断面図



3号住居竈　土層観察所見

1　10YR4/4　褐色砂質土　軽石を混入する。直径1cm以下の焼土粒、ローム粒をやや多く混ずる。

2　10YR3/4　褐色砂質土　焼土粒を多く含む。直径1cm大のものが目立つ。袖部構築材起源の5Y8/4淡黄色粘土粒を混ずる。

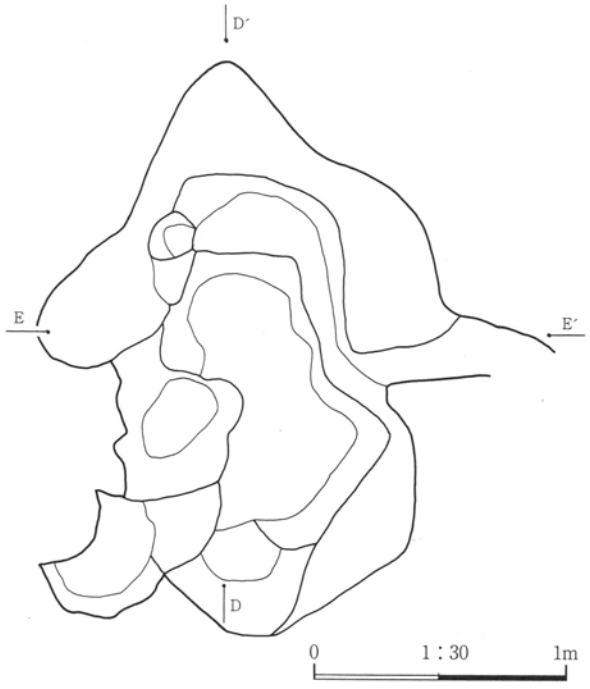
3　10YR5/4　にぶい黄褐色粘質土　天井部構築材の崩落土。焼土粒を少量混ずる。緻密でやや硬い。

4　硬く焼き締まった焼土ブロックを主体とし、青黒色の灰、3層土が斑点状に混入する。

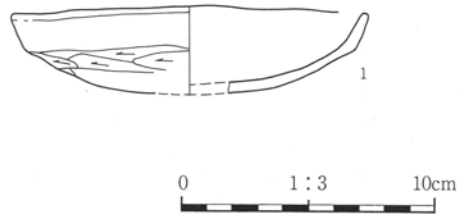
5　にぶい黄褐色粘質土　3層より明るく、焼土粒をやや多く混ずる。

6　黒ボク土とロームの斑状混土。

7　黒ボク、ローム、灰色粘土の混土。灰色粘土は底面に多く見られる。



第126図　3号住居竈掘方平面図



第127図　3号住居出土遺物

４号住居

位置　61-K-18グリッド　調査区中央部の住居集中部の南辺近くにある。標高113.1mから113.2mの台地頂部に近い比較的緩い傾斜部に立地する。周囲に１・３号掘立柱建物、５・６・30号住居などがある。

形態　やや南北に長い横長長方形。　**規模**　長軸2.8m　短軸2.42m

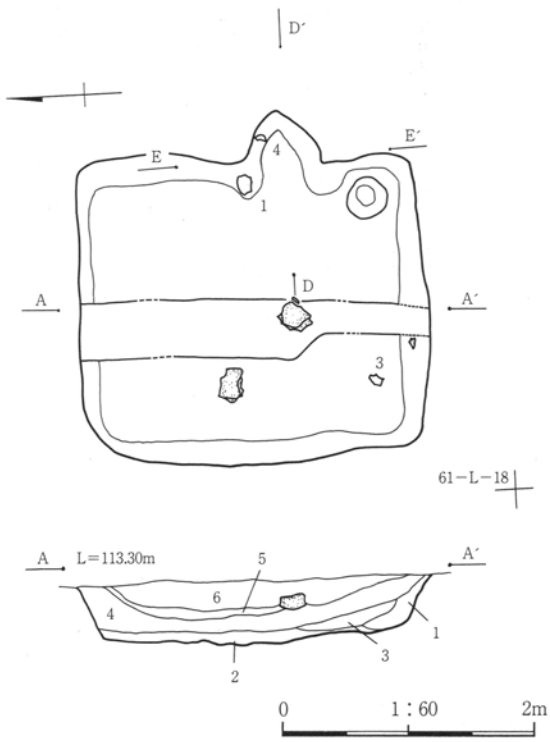
床　ほぼ平坦だが、わずかに東側が低くなる。

壁　残存壁高は東側で30cm、西側で40cmほどある。北壁及び西壁は垂直に近く立ち上がるが、南壁及び東壁は上方にやや開き気味に立ち上がる。

貯蔵穴　竈右手に当たる南東隅部にある。直径35cmほどのやや歪んだ円形で、深さは22cmある。

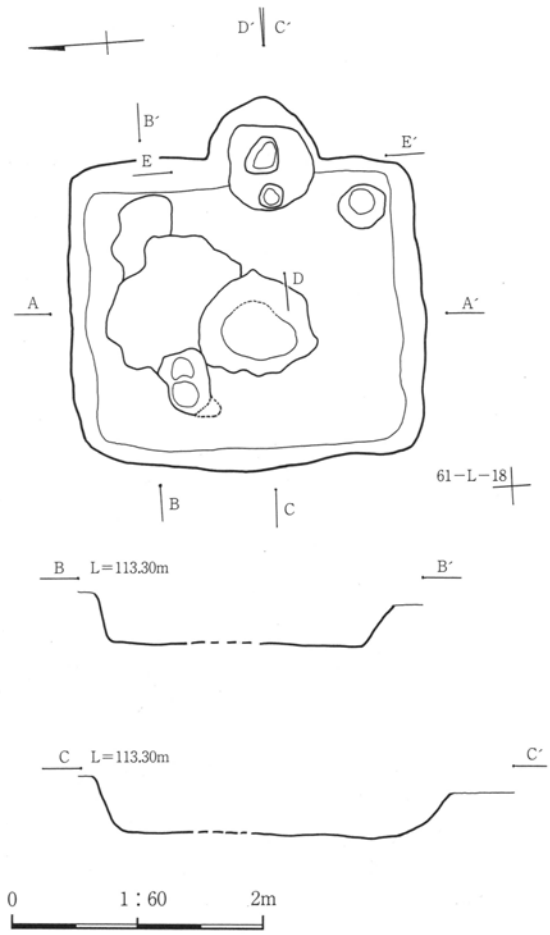
竈　東壁中央よりやや南寄りに壁面を掘り込んで構築している。主軸方向はN-93°-Eを示す。壁際に小さな袖を持つ。燃焼部は壁内から壁外にかけて作られる。茶灰褐色の粘質土が構築材として使用される。

遺物　遺物は竈内及び住居南西部にあり、須恵器高台付椀、坏（いずれも酸化焔焼成）と土師器甕がある。土師器甕は口縁部の形状がコの字から崩れており、器肉も厚みが増している。９世紀後葉から10世紀前葉のものと思われる。３の坏内面には固化した漆が付着している。

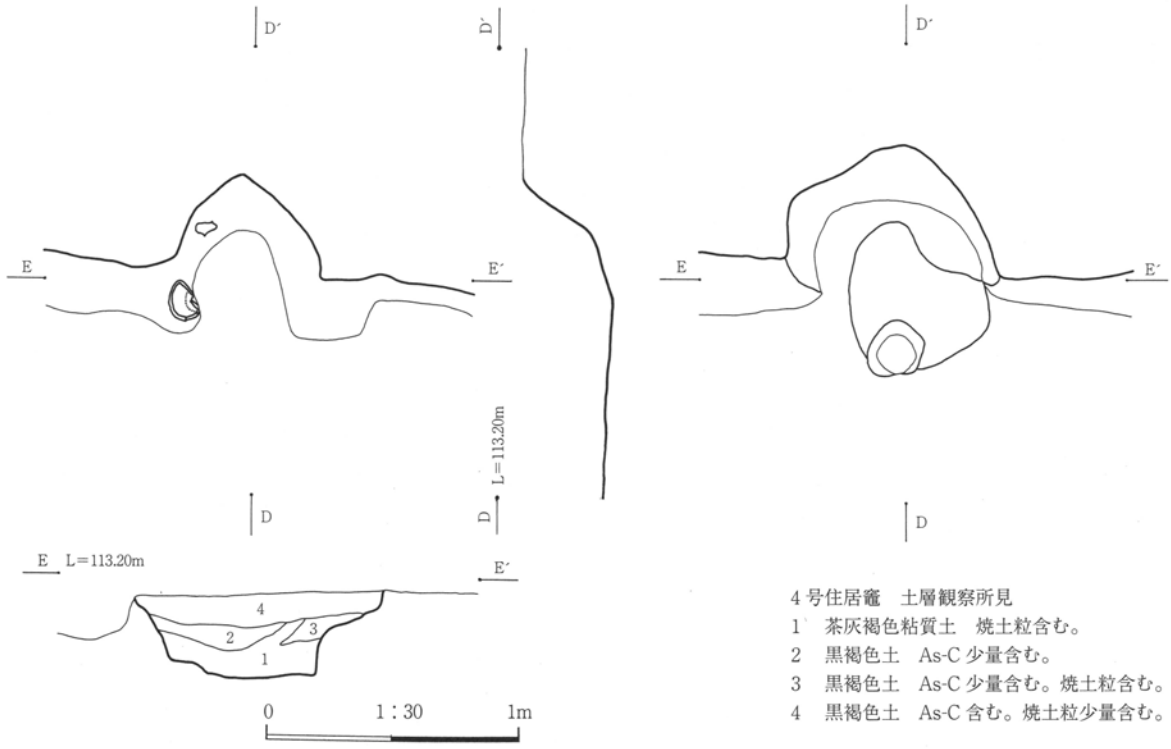


４号住居　土層観察所見
1　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。
2　ロームブロック主体。
3　茶褐色粘質土　ローム粒をわずかに含む。
4　茶褐色土　As-C を少量含む。ローム粒を混ずる。
5　黒色土　As-C を含む。
6　茶褐色土　As-C 含む。ローム粒をわずかに含む。

第128図　４号住居平面図　土層断面図

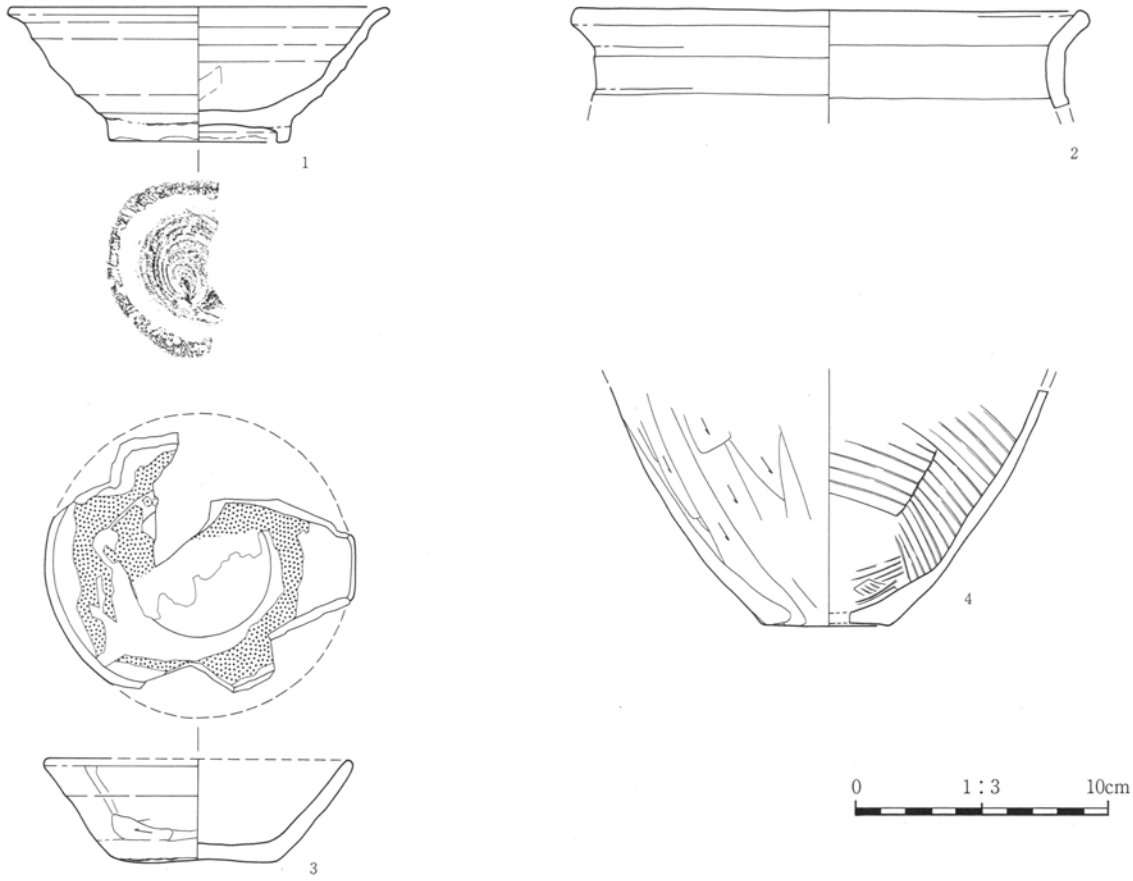


第129図　４号住居掘方平面図　高低図



4号住居竈　土層観察所見
1　茶灰褐色粘質土　焼土粒含む。
2　黒褐色土　As-C 少量含む。
3　黒褐色土　As-C 少量含む。焼土粒含む。
4　黒褐色土　As-C 含む。焼土粒少量含む。

第130図　4号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図



第131図　4号住居出土遺物

５号住居

位置　61-K.L-19グリッド　標高113.1mから113.2mの台地頂部に近い比較的緩い傾斜部に立地する。4号の北に並ぶ。4号掘立柱建物を形成するピットのひとつと重複するが、切り合いは確認できない。

形態　南北に長い歪んだ横長長方形　**規模**　長軸3.5m　短軸2.6m

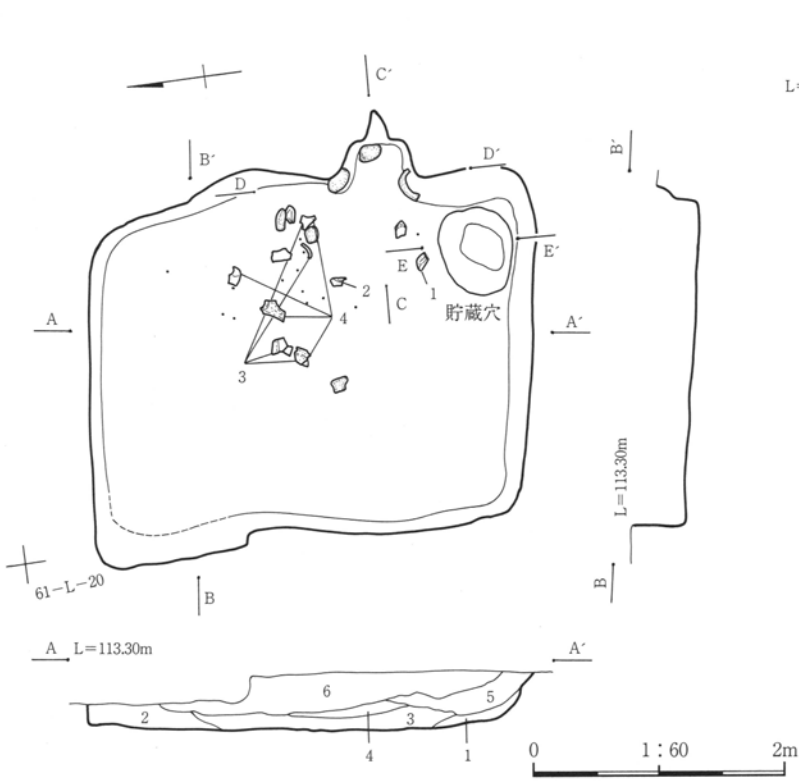
床　ほぼ平坦だが、わずかに東側が低くなる。

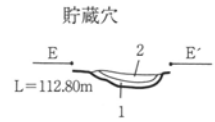
壁　残存壁高は東側で30cm、西側で43cmほどある。四壁ともほぼ垂直に近く立ち上がる。

貯蔵穴　竈右手に当たる南東隅部にある。東西70cm、南北60cmほどのやや歪んだ長円形で、深さは17cmある。

竈　東壁中央よりやや南寄りに壁面を掘り込んで構築している。袖の張り出しはほとんど無く、壁との接合部に袖石を据えている。燃焼部は壁外に作られる。燃焼部右奥部のやや深い位置に、中央からやや左寄りに支脚石が据えられる。粗粒安山岩かと思われる幅広の棒状転石で、一部黒化、赤変している。竈構築土と思われる粘土の付着も見られる。使用面からの高さは19cmほどで、両袖石の頂部より４～５cmほど低い。両袖石の間は17cmほどである。左袖石は支脚石と同様の棒状転石で、加工痕はない。右袖石は角礫が用いられる。右袖との高さを合わせるためか、上部を割り欠いた痕跡がある。支脚、袖石ともに小穴を掘って、その中に下部を埋めている。

遺物　竈左前部から住居中央部にかけて土器片や円礫が散在する。土師器甕が主である。３と４は東側にある破片が比較的高いレベルから出土し、西側の破片が低い状況を示し、埋没途上で流れ込んだものであろう。年代は９世紀後葉と思われる。

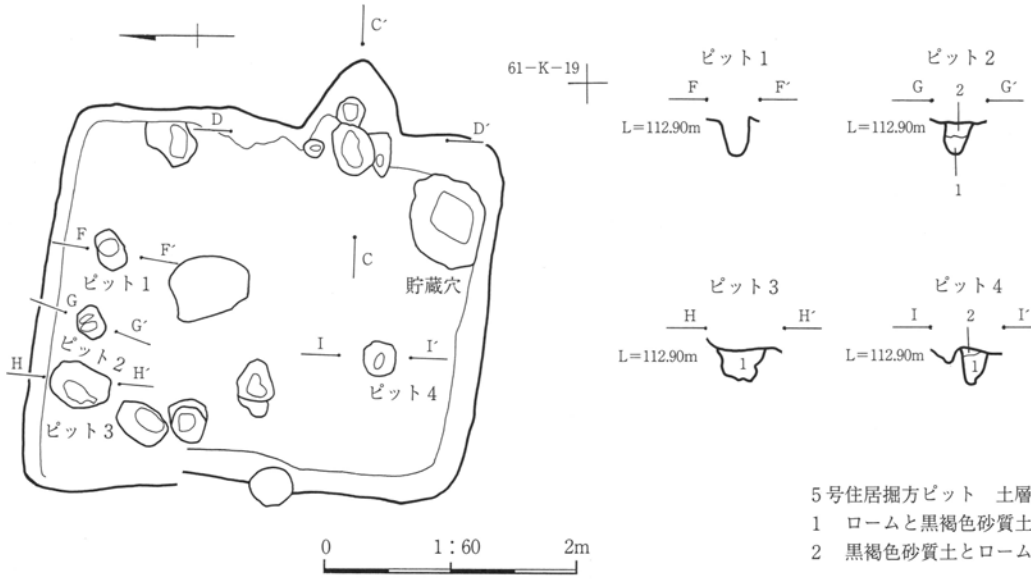




５号住居　土層観察所見
1　暗褐色土　As-C をわずかに含む。ローム粒を少量含む。
2　暗褐色土　As-C をわずかに含む。ローム粒を少量含む。
3　黄褐色土　ロームブロック、ローム粒を非常に多く含む。焼土粒をわずかに含む。
4　黒褐色土　As-C を少量含む。ローム粒を少量含む。
5　茶褐色土　As-C を若干含む。ローム粒を含む。
6　黒褐色土　As-C を含む。ローム粒をわずかに含む。

５号住居貯蔵穴　土層観察所見
1　１cm大のローム小ブロックと黒褐色砂質土の斑状混土。
2　黒褐色砂質土　As-C を含む。ローム粒が混入する。

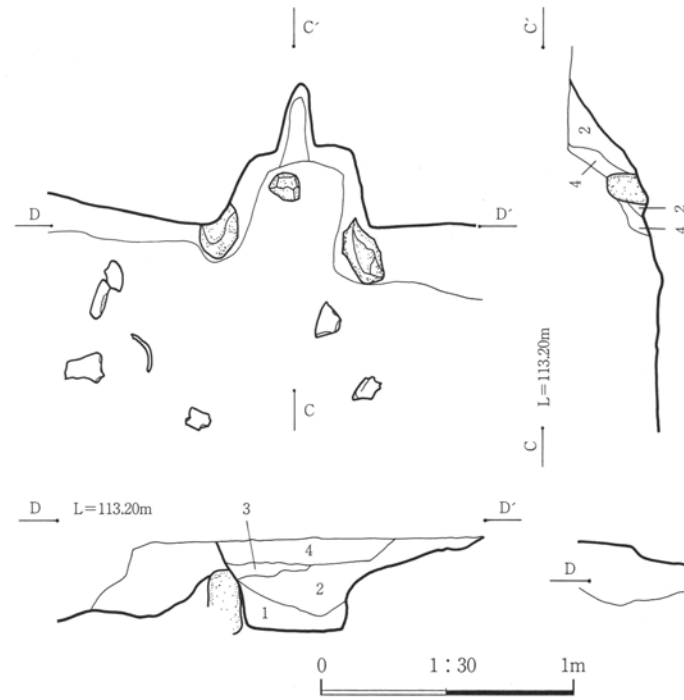
第132図　５号住居平面図　土層断面図　高低図　貯蔵穴土層断面図



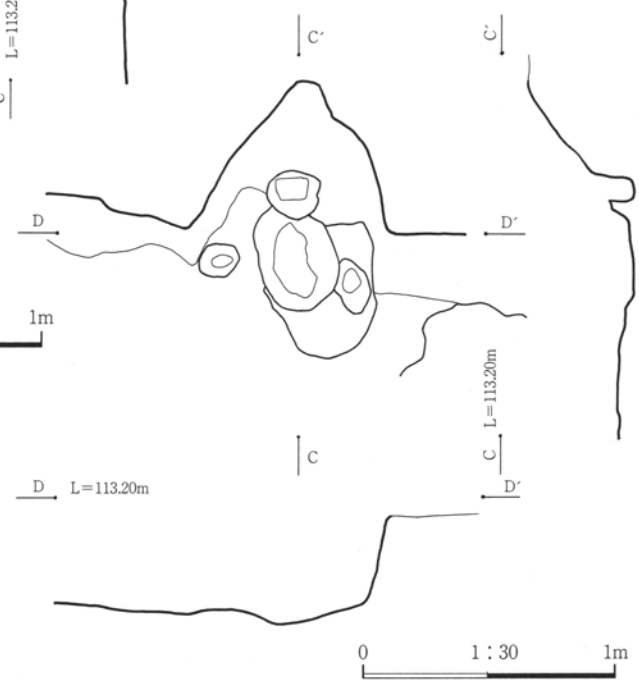
5号住居掘方ピット　土層観察所見
1　ロームと黒褐色砂質土の混土。貼り床。
2　黒褐色砂質土とロームの斑状混土。

第133図　5号住居掘方平面図　ピット土層断面図

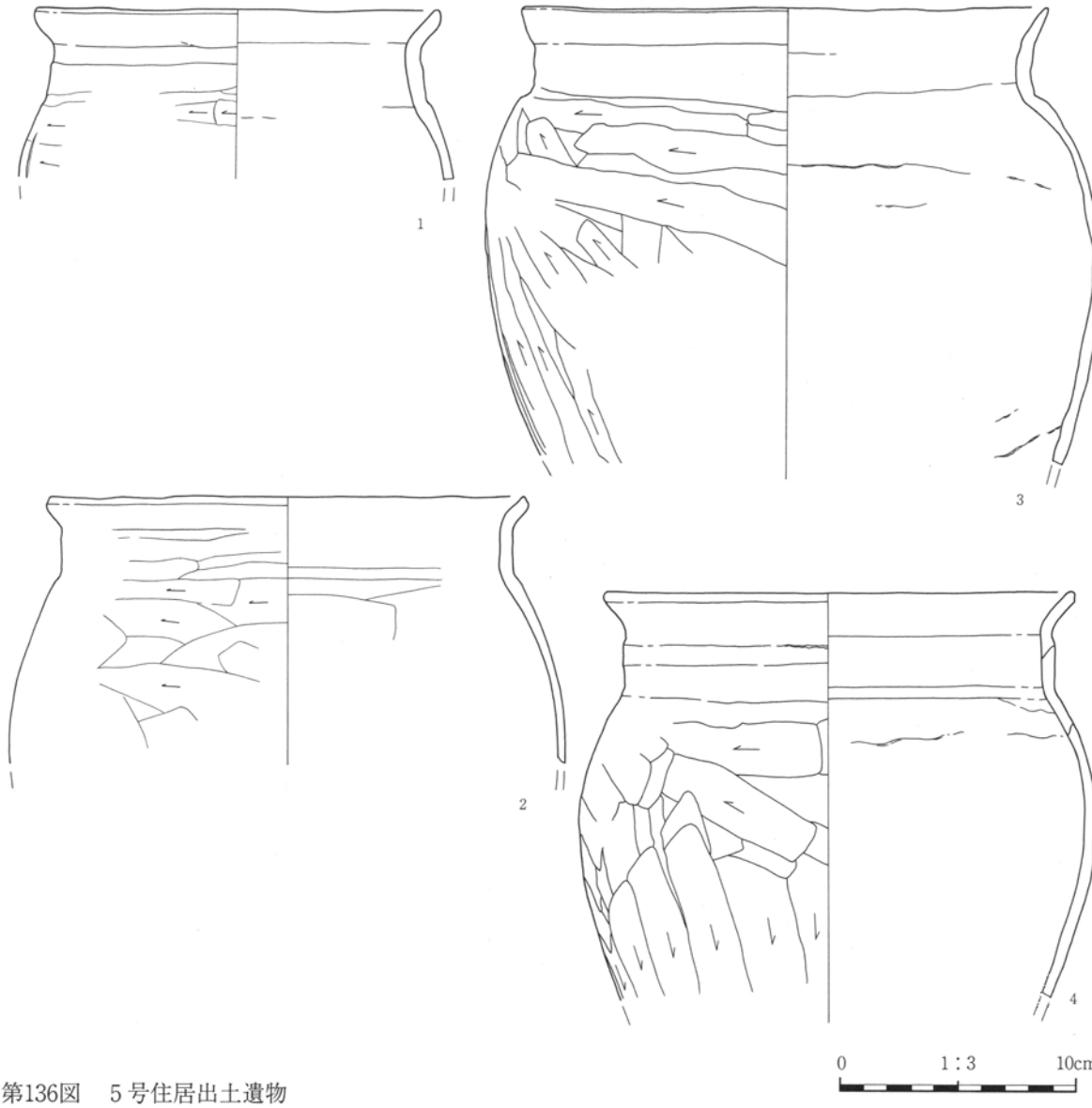
5号住居竈　土層観察所見
1　灰を多く含む。炭化物を少量含む。
2　5YR4/6　赤褐色土　砂質。As-C を含む。ローム粒を含む。焼土粒、焼土ブロックを含む。
3　焼土ブロックを主体とし、黒色土が混ずる。
4　7.5YR3/3　暗褐色土　砂質。As-C を含む。ローム粒を含む。焼土粒を少量含む。



第134図　5号住居竈平面図　土層断面図



第135図　5号住居竈掘方平面図　高低図



第136図　５号住居出土遺物

６号住居

位置　61-L.M-17/61-L-18グリッド　標高113.3mから113.4mの台地頂部に近い緩傾斜部に立地する。30号住居を切る。南西隅部は調査区外に当たる。

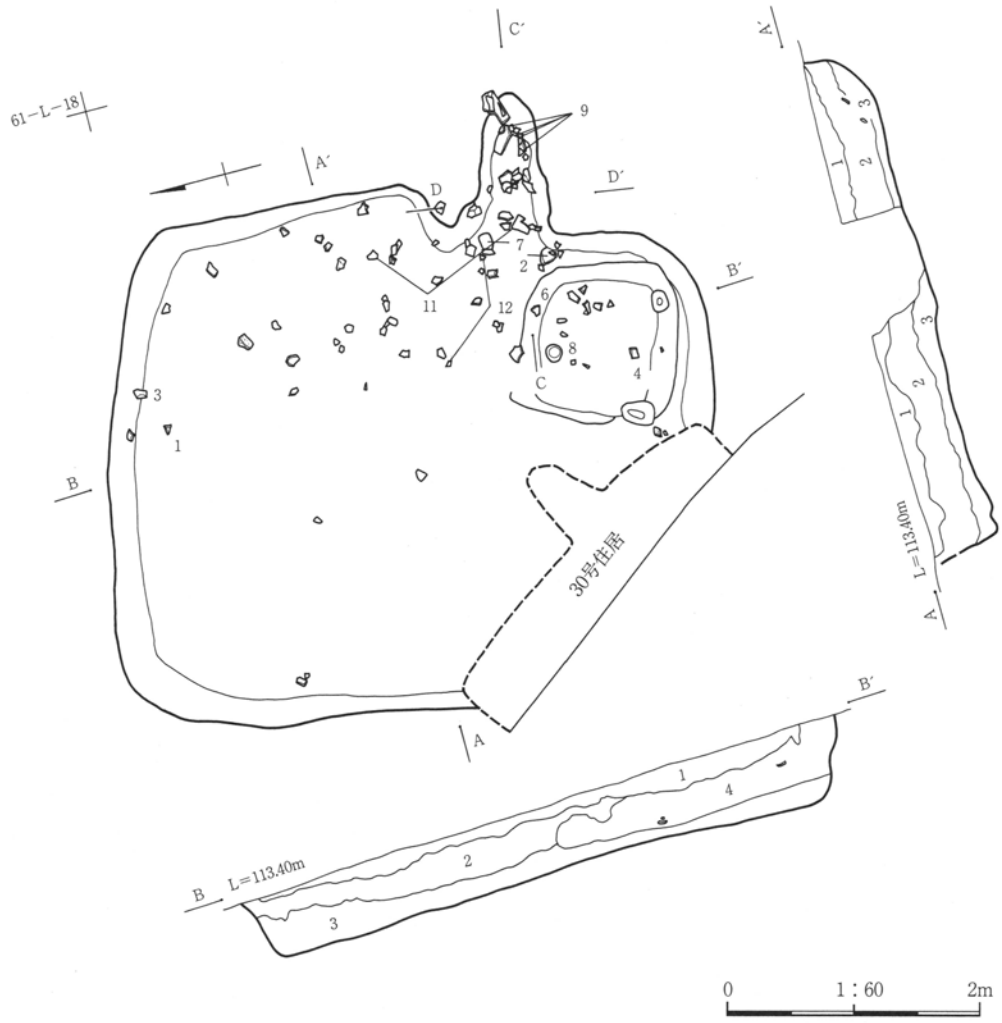
形態　南北に長い横長長方形。南東隅はゆるい弧状をなす。　**規模**　長軸4.32m　短軸3.98m

床　ロームと黒色砂質土との混土が貼られる。ほぼ平坦だが、南側が高く、北側がやや低い。掘方の影響で壁周囲がやや低く、中央部の床面がわずかに高くなる。

壁　最大で54cmほどの壁高がある。四壁ともにわずかに上方に開くが、ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴　竈右手に当たる住居東南隅部にある。一辺1.2mほどの隅丸方形の平面形である。底面に灰色の粘土を貼っている。

竈　東壁やや南寄りに壁面を掘り込んで構築している。主軸方向はN-100°-Eを示す。左袖は住居内に小さく張り出す。灰黄色のシルト質粘土を構築材とする。構造材として川原石や粗粒安山岩の割石が用いられ、左側壁はこれが良く残っている。右半は崩れが大きいが、壁石の残存と思われる礫がある。袖石の抜き取り痕

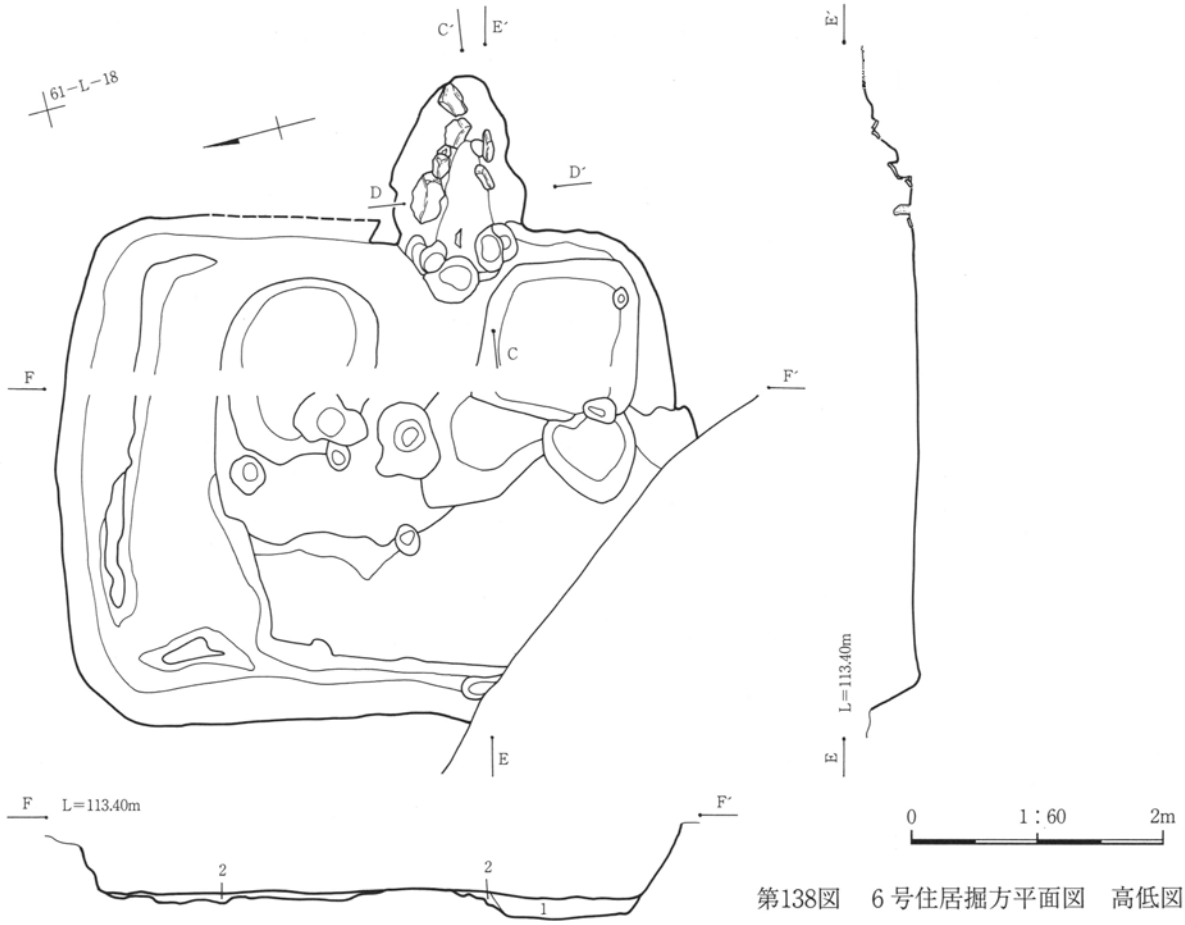


第137図　6号住居平面図　土層断面図

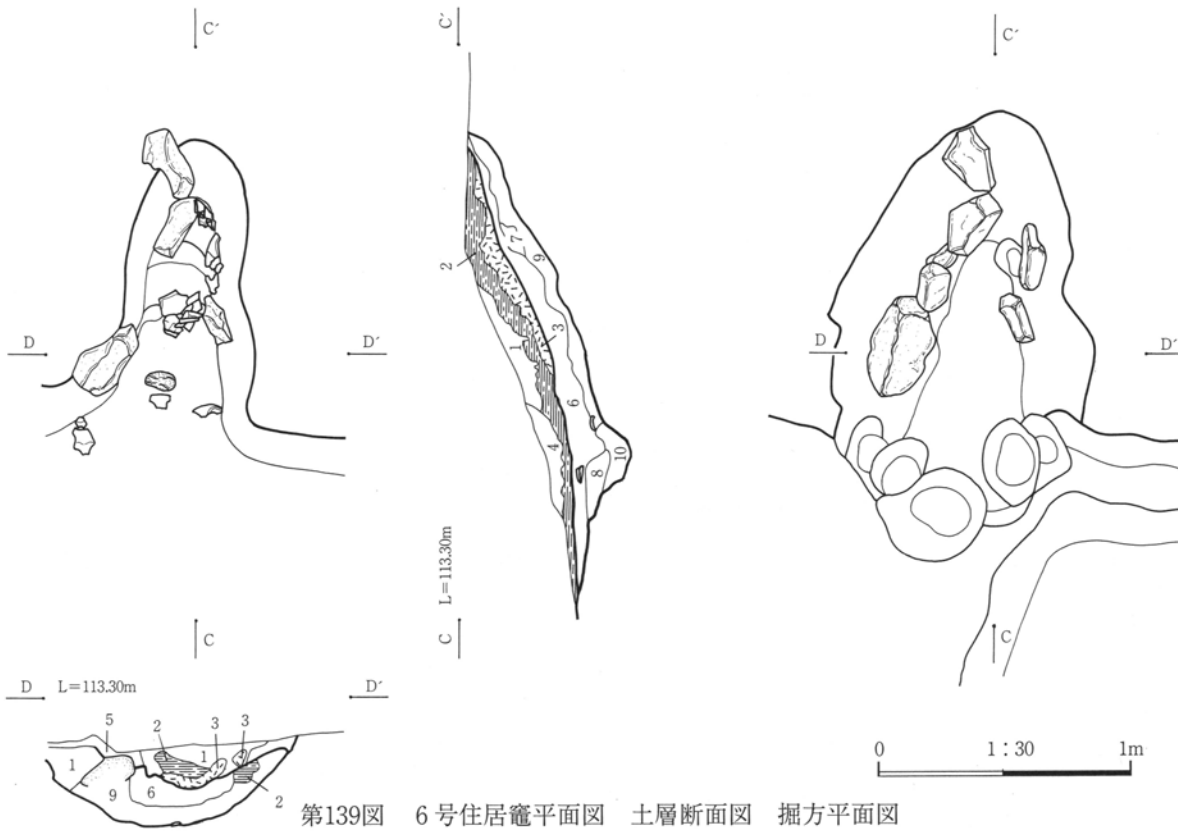
6号住居　土層観察所見
1　As-C 混黒褐色土を主とした10YR5/4にぶい黄褐色土との斑状混土。砂質。やや緻密。
2　10YR4/4　にぶい黄褐色土を主とした As-C 混黒褐色土との斑状混土。砂質。ローム粒やや多い。中に1cm大も含む。
3　2層と同性状。明暗の差で区分。
4　10YR5/4　にぶい黄褐色土。焼土、ローム粒をわずかに含む。
5　As-C 混黒色砂質土　焼土、ロームの微粒を少量混入。

6号住居竈　土層観察所見
1　As-C 混黒褐色砂質土　焼土粒、炭化粒、シルト質粘土混入。
2　2.5Y6/2　灰黄色シルト質粘土　微砂やや密。袖と天井部材。
3　焼土を主とする。2層との混土。焼土は内壁からの剥落。
4　ロームブロック。竈手前に直径1mの範囲で分布。
5　10YR4/1　褐灰色土　シルト質土がやや軟らかくなったもの。軽石粒、焼土粒、炭粒を含む。焼土粒のためか、やや赤みがかる。
6　10YR6/4　にぶい黄橙色砂質土　焼土及び2層をやや多く含む。
7　焼土ブロック。
8　6層と灰、焼土との混土。
9　10YR6/6　明黄褐色砂質土　焼土、灰を混入。煙道側では焼土、焚き口側では灰が多い。
10　灰を主とする。6層との混土。1cmから3cm大の斑状で、やや硬い。

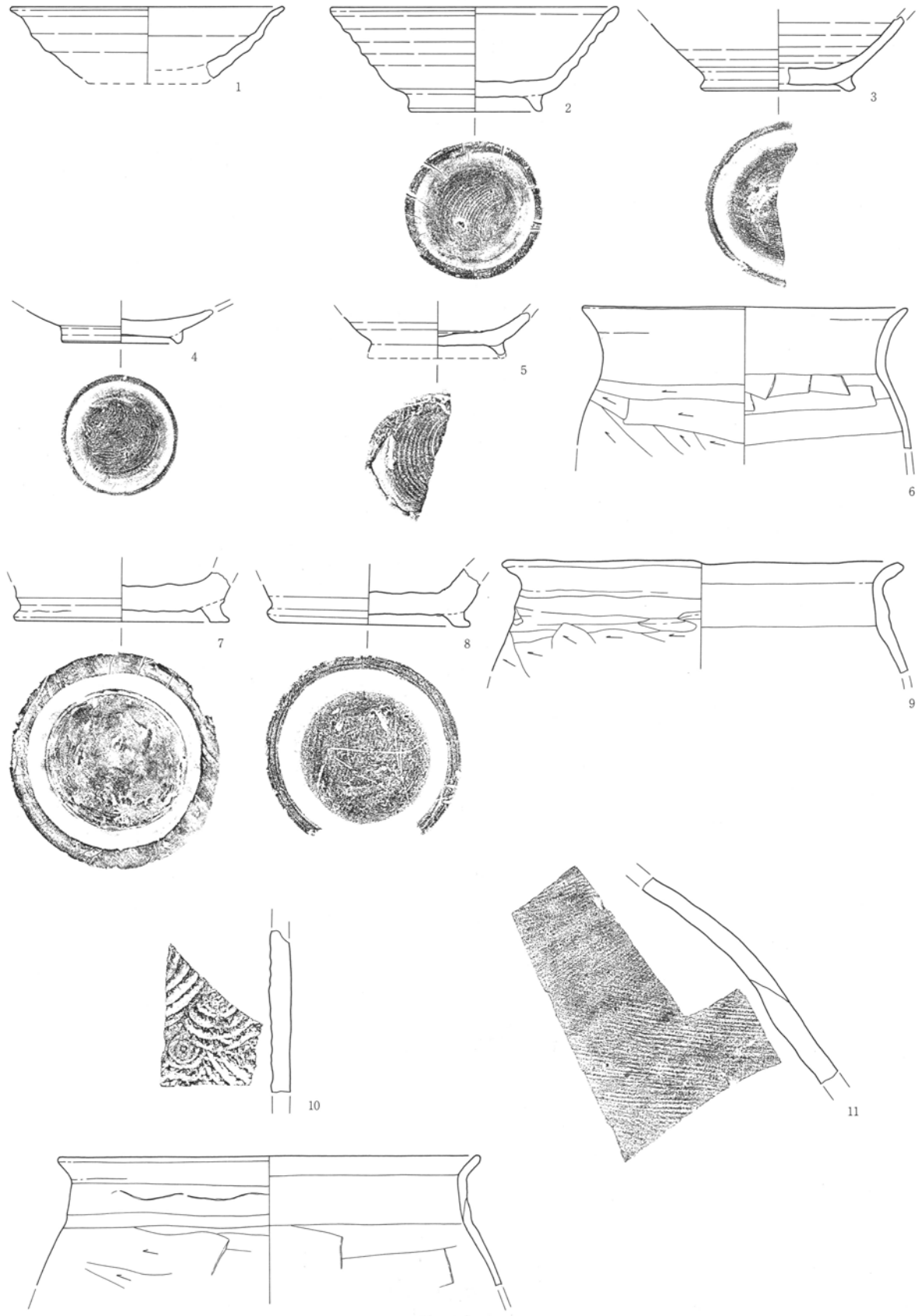
6号住居掘方　土層観察所見
1　ロームを主とする。灰色粘土、黒褐色砂質土の混土。粘土は底面に貼り込む。
2　ロームと黒褐色砂質土の混土。



第138図　６号住居掘方平面図　高低図



第139図　６号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図



第140図　6号住居出土遺物

であろう小ピットもある。

掘方　竈前部は掘り残されるが、これを挟んで南側には貯蔵穴が掘られ、北側にも長径1.5mほどの卵形の掘り込みがある。また、住居中央部には大小のピット状の掘り込みが見られる。北壁沿いは幅広の溝状に掘り込まれ、西壁沿いも広く掘り込まれる。

遺物　土師器甕、酸化焔焼成の須恵器高台付椀、須恵器壷、椀、坏、高台付き皿、甕などが出土している。土師器の口縁部の形態や、須恵器・高台付皿が出土していることなどから、９世紀後葉の住居と思われる。

７号住居

位置　61-L.M-4.5グリッド　標高113.1mから113.3mの台地頂部に近い緩傾斜部に立地する。28号住居に東壁北部を切られる。北壁は用水路下にあたり、未掘であるが破壊されているものと思われる。

形態　北壁が確認できないが、南北にやや長い横長長方形を呈するものと思われる。西南隅は比較的直角に近く折れるが、東南隅は東に開き気味の弧状をなしている。　**規模**　長軸4.5m以上　短軸4.2m

床　軽石粒を含む暗褐色土と明黄褐色のロームブロックの混土を貼っている。ほぼ均平だが、壁際が深く掘られる掘方の状況を反映して、周囲が低く、住居中央がわずかに高くなる傾向がある。壁周溝が竈周辺を除いて西壁から東壁に至る壁下にめぐる。

壁　東壁側で40cm、西壁側では70cm近い残存壁高がある。壁周溝の底からほぼ垂直に立ち上がる。上部はやや崩れ、中ほどからやや上方に開く部分が多い。

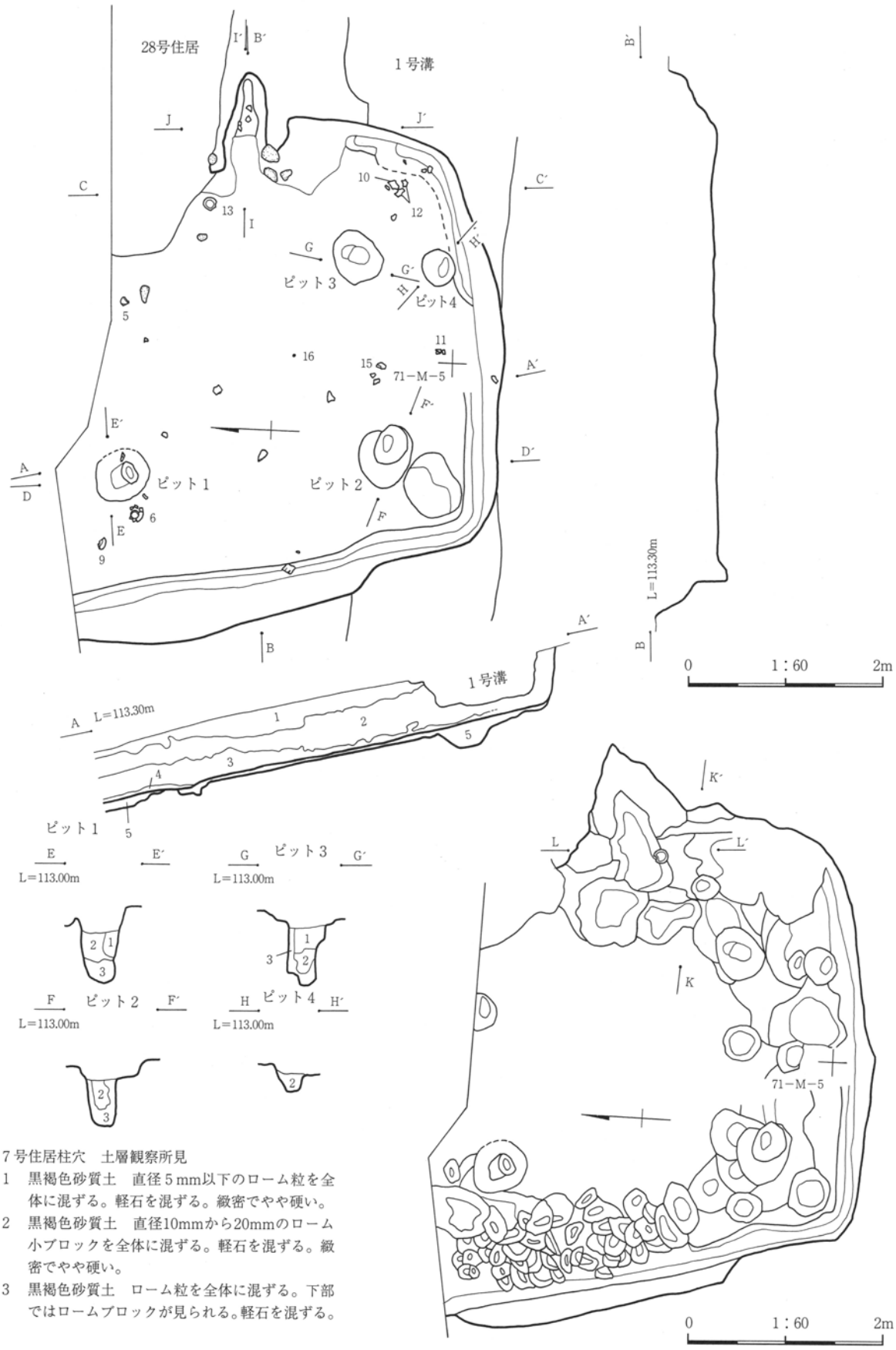
柱穴　主柱穴のうち３本が認められた。明確な柱痕は認められないが、直径30cmから40cm、深さ70cmほどの掘方である。南北方向の柱穴間2.7m、東西方向では約２mある。北東部にあるべき柱穴は明確には確認できなかったが、北部の発掘限界近くの完掘状況できなかったピットがこれに当たるものと考えられる。また、南壁中央やや東寄りに、直径30cm、床面からの深さ20cmほどの小ピットがある。覆土が主柱穴の柱位置に当たる部分と共通するため、これも柱穴であるものと思われる。深くほりこまれた住居であることを考えあわせると、入口施設にかかるものと考えたいが、積極的な根拠を得ることはできていない。

貯蔵穴　東南隅部に土器片がまとまるところから、なんらかの施設があるものと想定されたが、確認できなかった。

竈　東壁中央よりやや東寄りに壁面を掘り込んで構築される。主軸方向はN-89°-Eを示す。地山を掘り残して袖をつくり、焚き口両測には袖石が置かれる。構築材は黄褐色から灰褐色の粘土で、燃焼部壁の焼土中には植物の茎が混ぜられていた痕跡が残る。スサ入りの粘土で築いたものであろう。焼土化した粘土壁は一部で２面が確認されており、作り直しが行われたものと想定される。右袖部は幅50cm、奥行き37.5cmほどの平坦面を持つ、床面から20cmほど高い台状の張り出しへと連続する。

掘方　主柱穴に囲まれた住居中央部は掘削底面がほぼそのまま床面となるが、主柱穴と壁の間には明瞭な掘削痕跡が残されている。南壁から西壁南半にかけては、ゆがんだ円形の平面形を基本とする浅い皿状の掘り込みが重なり合う。西壁の北部は土工具を突き立てて掘り返したような小さなくぼみが連続する。それぞれのくぼみは南側に弦、北側に弧をもつ半月状の平面形を呈するため、壁に沿った南北方向の動作によって掘削されていることがわかる。

遺物　南東隅部に小さなまとまりがあるが、住居全体に土器破片が点在する。須恵器の坏、高台付椀が多く、土師器坏がこれに次ぐ。住居中央部から軟玉製の管玉が１点出土している。床面直上から出土しているものは８世紀前葉の遺物で、覆土中の遺物には８世紀中葉の小型高台付甕や須恵器坏がある。



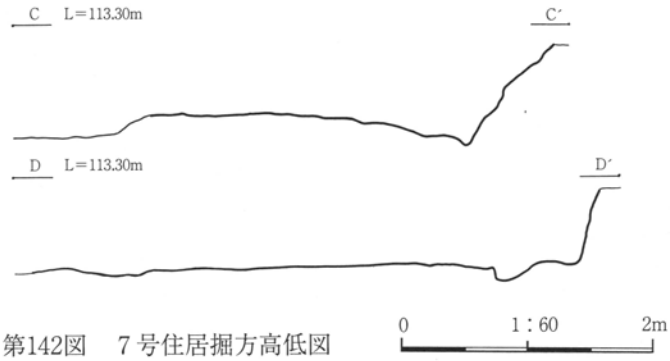
7号住居柱穴　土層観察所見

1　黒褐色砂質土　直径5mm以下のローム粒を全体に混ずる。軽石を混ずる。緻密でやや硬い。

2　黒褐色砂質土　直径10mmから20mmのローム小ブロックを全体に混ずる。軽石を混ずる。緻密でやや硬い。

3　黒褐色砂質土　ローム粒を全体に混ずる。下部ではロームブロックが見られる。軽石を混ずる。

第141図　7号住居平面図　土層断面図　高低図　掘方平面図　ピット土層断面図



第142図　７号住居掘方高低図

７号住居　土層観察所見

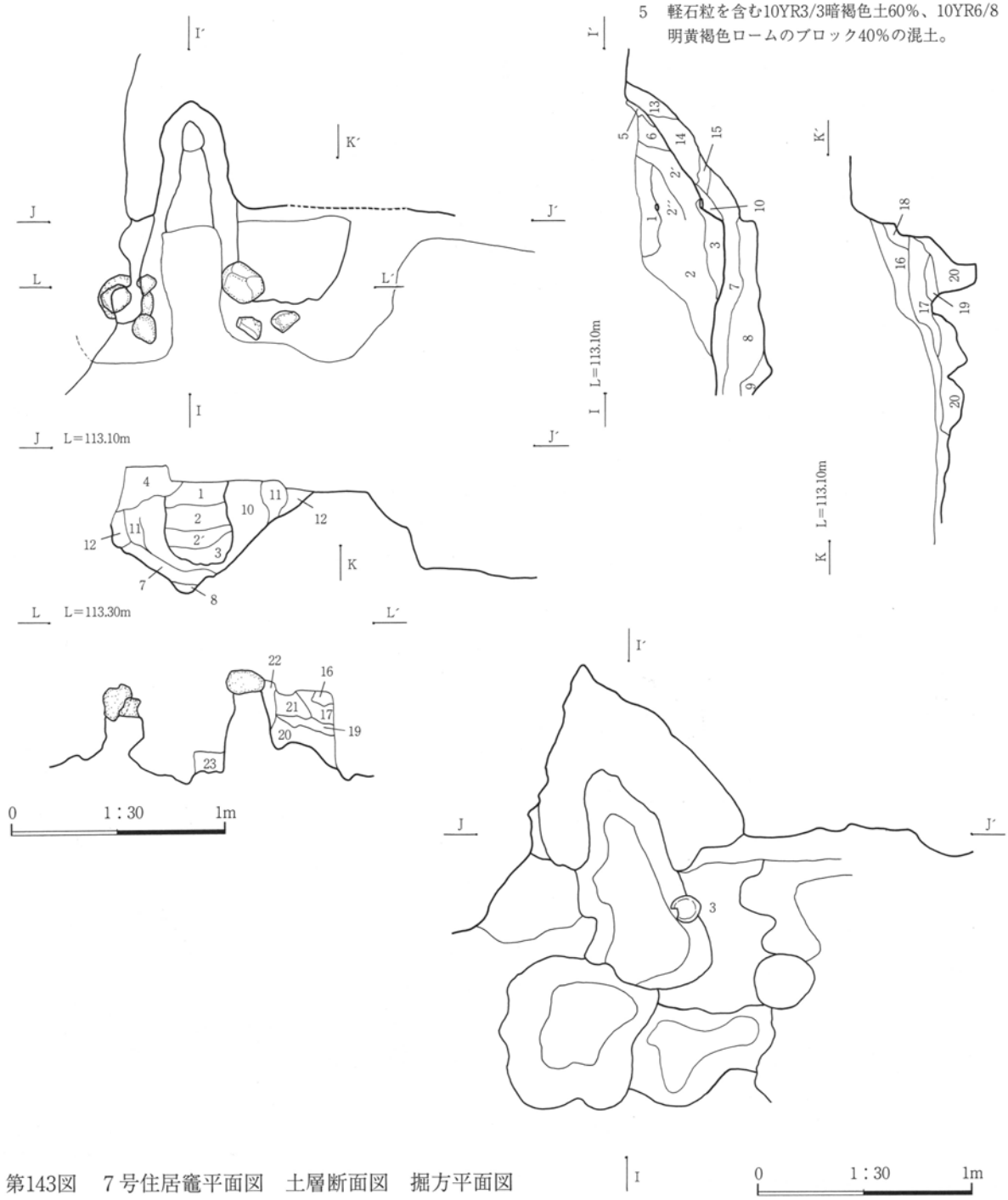
1　10YR4/4　褐色砂質土　軽石粒を多く混ずる。特にAs-Cが多く見られる。直径１cmから２cmのにぶい黄褐色砂質土が斑状に混入。焼土、炭化物粒を少量含む。

2　10YR3/4　暗褐色砂質土　軽石粒を多く混ずる。にぶい黄褐色砂質土が斑状に混入。焼土、炭化物粒を含むが、１層より粒径が大きく、量も多い。

3　10YR3/4　暗褐色砂質土　にぶい黄褐色土が多く混入するため、２層より明るい。軽石粒、焼土、炭化物粒は少ない。

4　３層とソフトローム粒の混土

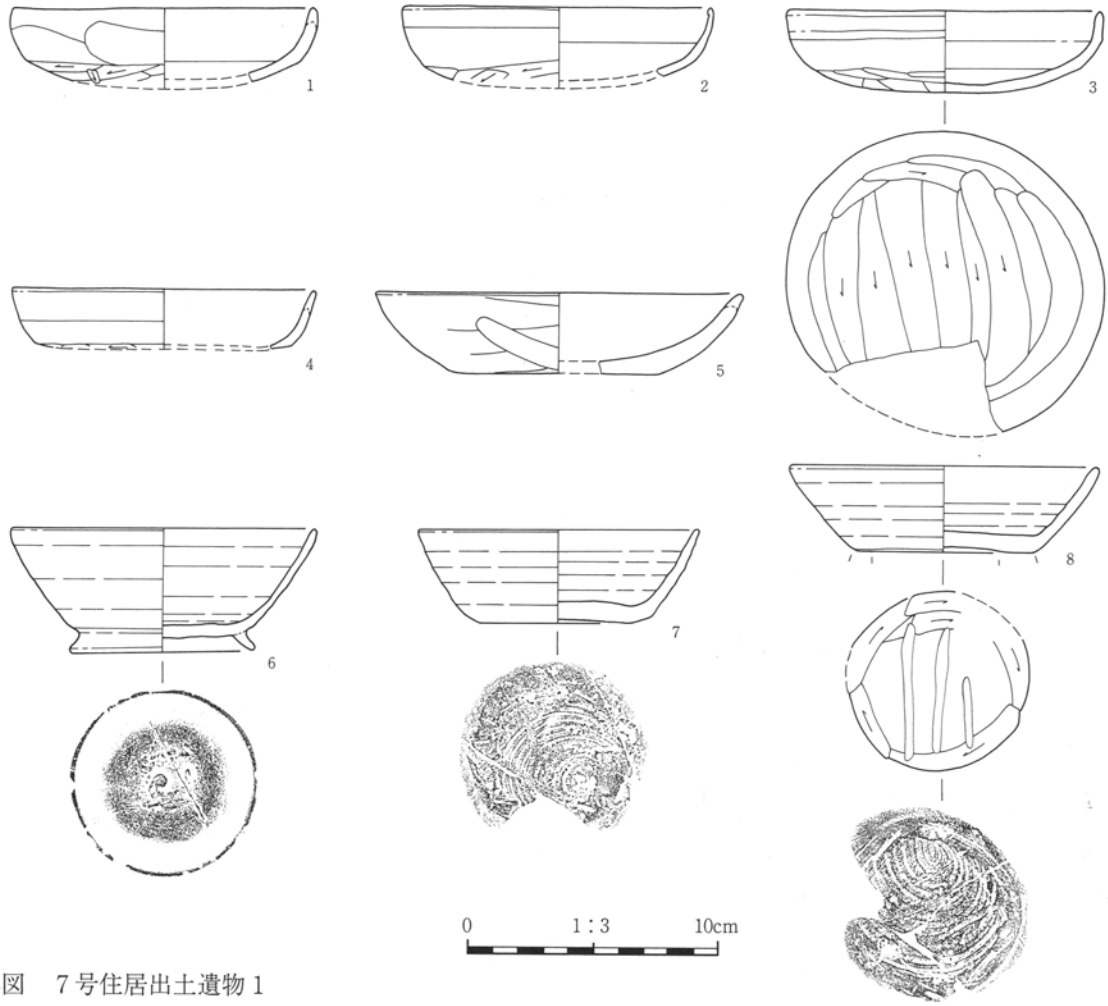
5　軽石粒を含む10YR3/3暗褐色土60%、10YR6/8明黄褐色ロームのブロック40%の混土。



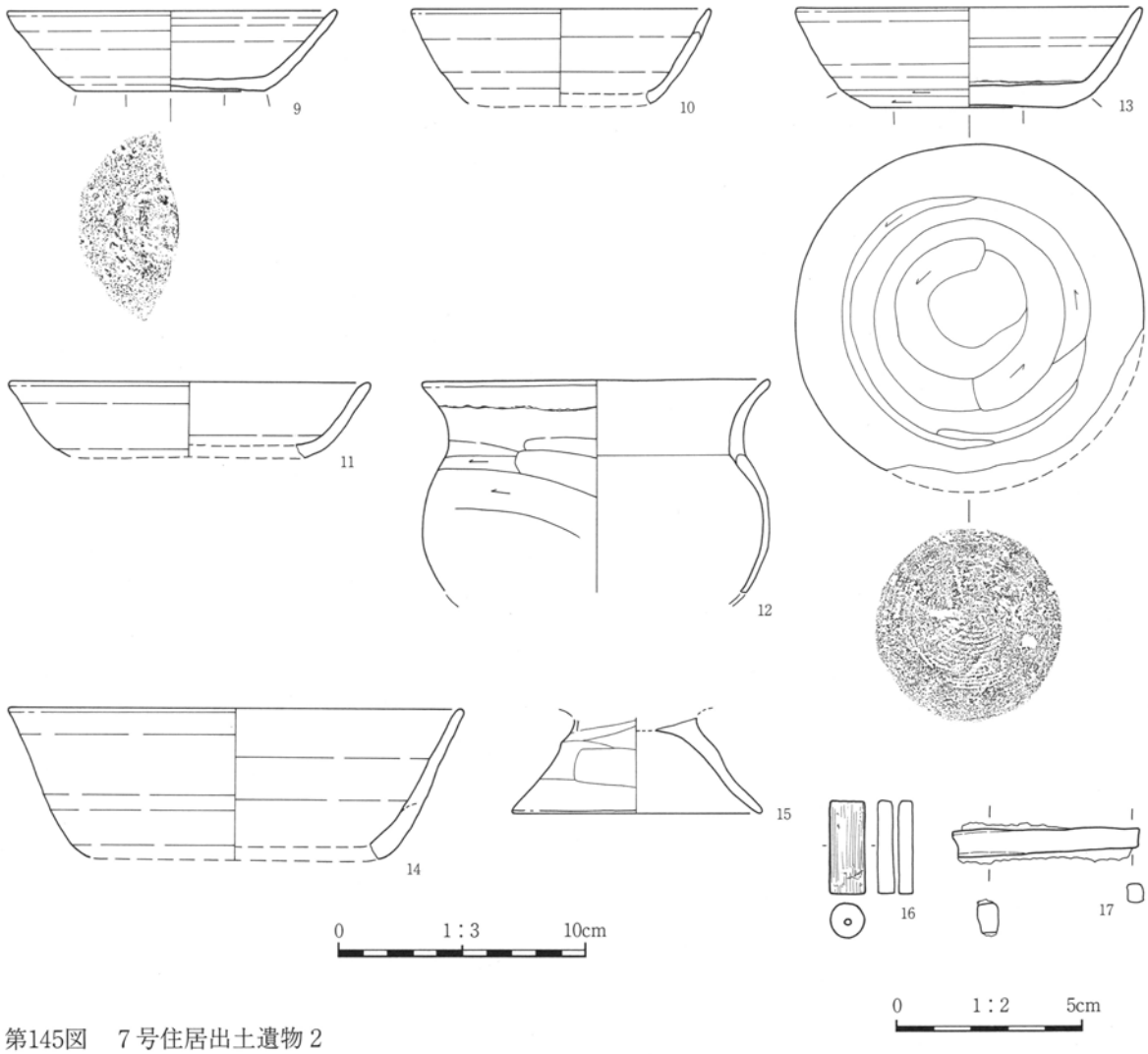
第143図　７号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図

7号住居竈　土層観察所見

1　10YR7/2　にぶい黄橙色粘質土　クリーム色の軽石粒10%、直径1cm程度の橙色の焼土ブロック5%、暗褐色土ブロックが斑状に混入。やや硬く締まる。天井部。
2　1層に炭化物、炭化物粒を含む。　2′焼土ブロックを含む。天井部崩落土。
3　10YR2/3　黒褐色砂質土　焼土粒20%含む。
4　10YR3/3　暗褐色砂質土　As-B混土が撹乱されたもの。
5　10YR6/3　にぶい黄橙色土　焼土ブロックを含む。焼き締まっている。
6　5YR3/3　暗赤褐色砂質土　焼土粒、軽石粒を含む。煙道部相当。
7　10YR2/2　黒褐色砂質土　軽石粒を含む。直径1cmから4cmのローム小ブロック、ローム粒、灰を含む。
8　10YR3/1　黒褐色砂質土　軽石粒を含む。直径5mm程度の焼土小ブロック、ローム粒を含む。灰が不定形斑状に混入。
9　10YR3/1　黒褐色砂質土　直径2cm程度のロームブロック10%含む。
10　7.5YR3/4　暗褐色土　直径1cmから4cmの7.5YR5/6明褐色焼土ブロックを10%含む。
11　7.5YR3/4　暗褐色土と7.5YR5/6明褐色焼土ブロックの等量混土。
12　7.5YR4/2　灰褐色土　直径5mmから1cmの焼土ブロック、焼土粒を10%含む。
13　10YR6/1　褐灰色シルト質粘土　軽石粒を含む。焼土粒を含む。煙道部構築土。
14　10YR2/2　黒褐色砂質土　軽石粒を含む。直径1cmから4cmのローム小ブロック、ローム粒を含む。青みがかった灰を多く含む。
15　10YR5/6　黄褐色土　汚れたロームブロックの集合。
16　10YR5/2　灰黄褐色砂質土　軽石粒、焼土粒、炭化物粒含む。締まっている。
17　10YR4/2　灰黄褐色粘質土　砂粒を含む。軽石粒、焼土粒、炭化物粒含む。硬く締まっている。棚部の崩壊土。
18　1層、2層の混土にロームブロックが混じる。
19　10YR2/2　黒褐色土　長5mm程度の炭化物小片が多く混じる。
20　10YR3/4　暗褐色土　直径1cmから2cmの黄褐色ローム小ブロック30%含む。軽石粒、炭化物粒含む。焼土粒はほとんど含まない。
21　10YR5/1　褐灰色シルト質土　軟らかい。棚部の崩落土。
22　10YR5/1～4/1　褐灰色シルト質土　焼土粒を含む。やや赤変している。
23　10YR4/1　褐灰色質土　直径1cmから3cmの焼土小ブロックを含む。灰を含む。旧竈の残痕か。



第144図　7号住居出土遺物1



第145図　７号住居出土遺物２

８号住居

位置　71-J.K-4.5グリッド　標高112.7mから112.9mの緩傾斜部に立地する。25・29号住居に東壁南部を切られる。北壁は用水路下にあたり、未掘であるが破壊されているものと思われる。

形態　北壁が確認できないが、南北にやや長い横長長方形を呈するものと思われる。

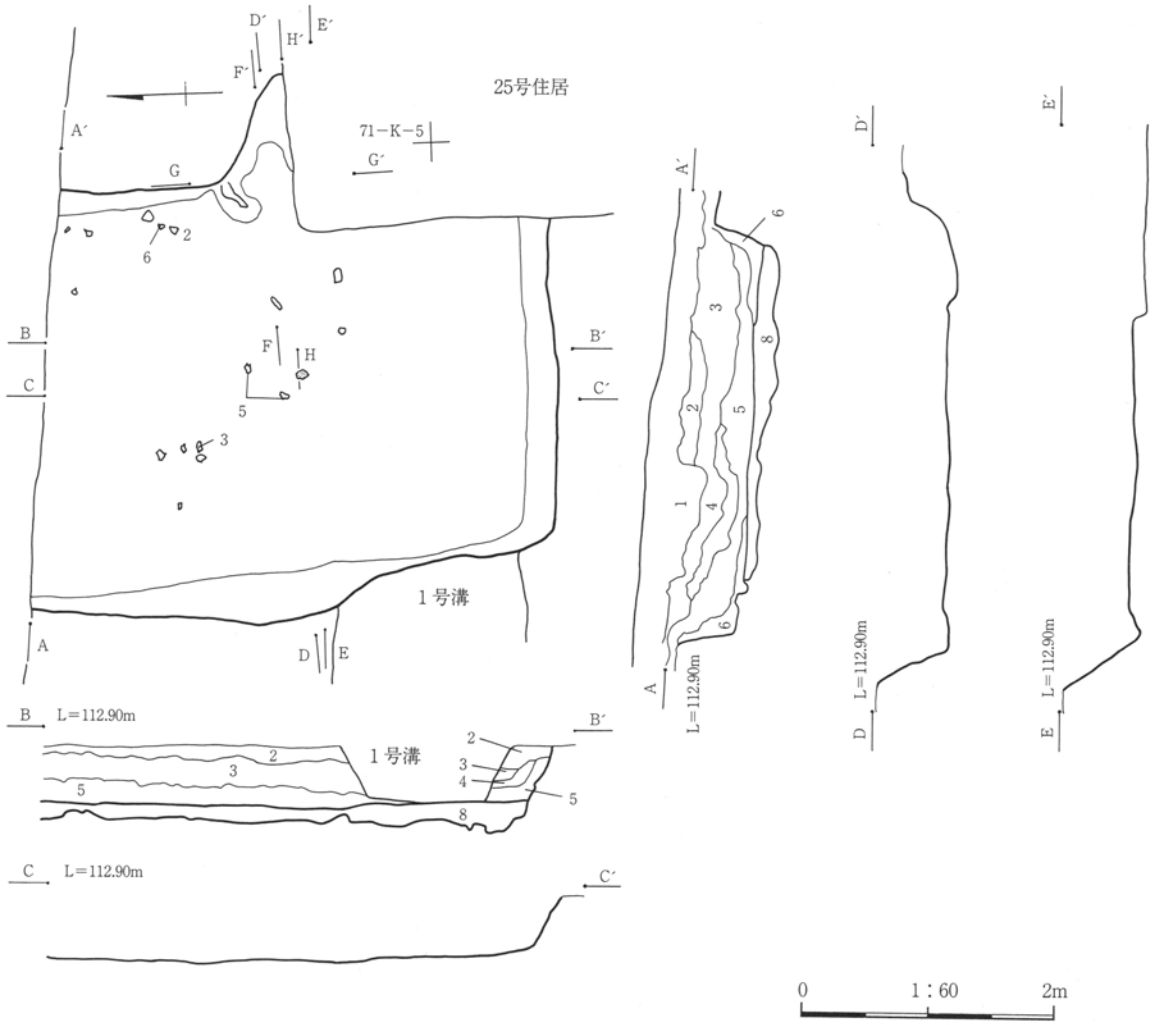
規模　長軸3.85m以上　短軸3.01m

床　As-C 混黒褐色土にロームブロックを混じた土で貼られる。ほぼ均平に仕上げられる。中央部が特に強く硬化する。明確な壁周溝は認められないが、西壁際が帯状にくぼむ。

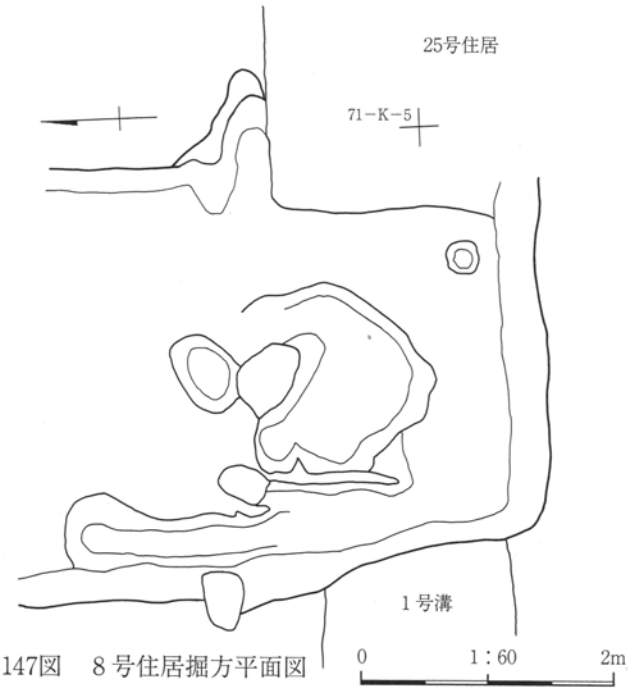
壁　40cmから最大53cmの壁高がある。上部が崩れ、やや上方に開く。

竈　南半の上部は25・29号住居及び１号溝に切られている。東壁の中央部近くに当たるものと思われる。壁を掘り込み、粘土を貼って構築している。地山を削り残した短い袖を持つが、燃焼部の過半は壁外にある。主軸方向はN-89°-Eを示す。

掘方　住居中央やや南西寄りに、不定円形の大きな掘り込みが見られ、その北部にも浅い円形の掘り込みが



第146図　8号住居平面図　土層断面図　高低図



第147図　8号住居掘方平面図

8号住居　土層観察所見

1　表土　暗褐色砂質土　As-Bなど軽石を多く含む。

2　10YR4/4　褐色砂質土　軽石を含む。10YR5/4にぶい黄褐色砂質土を斑点状に混入する。焼土、砕けた土器の細粒を含む。

3　10YR3/3　暗褐色砂質土　軽石を含む。10YR5/4にぶい黄褐色土を斑点状に混入する。焼土やや多い。

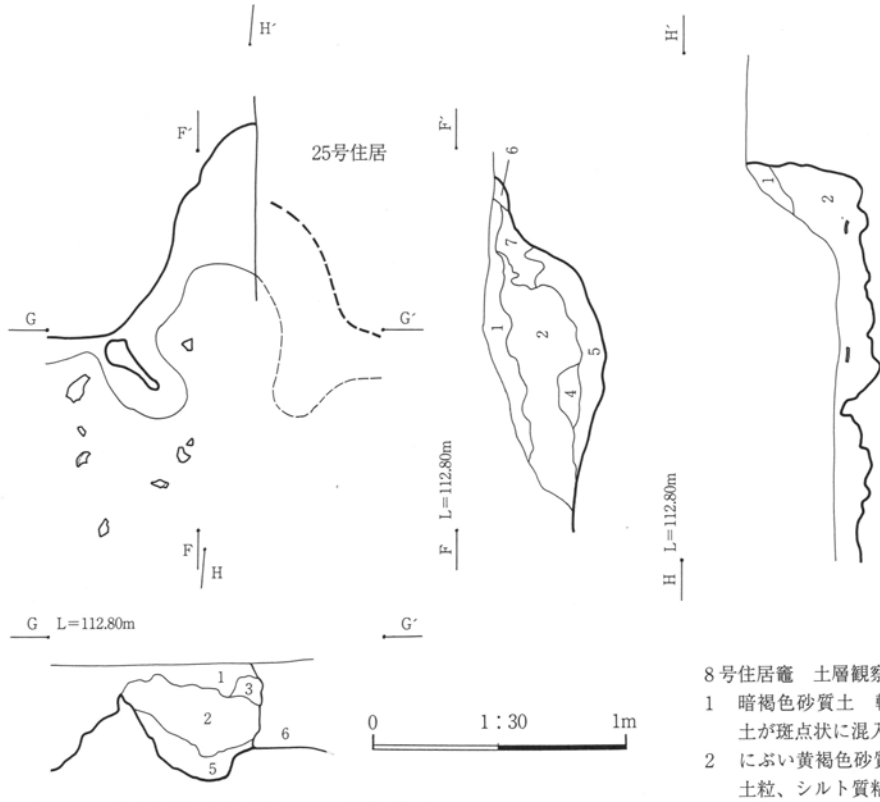
4　3層にロームをブロック状に混入する。

5　3層に竈から流出した10YR7/3にぶい黄橙色粘土を斑点状に混入する。

6　3層と壁から崩落したロームブロック、ローム粒との混土。

連続する。西壁下には壁に沿うように、幅広の浅い帯状掘り込みが見られる。

遺物　竈左手の東壁際および竈前から西壁にかけて狭い帯状に遺物が点在するが、床面直上の遺物はほとんど無く、床面から浮いた覆土中に、土師器の甕や器高の低い坏、小振りの須恵器坏といった８世紀中葉の遺物が出土している。



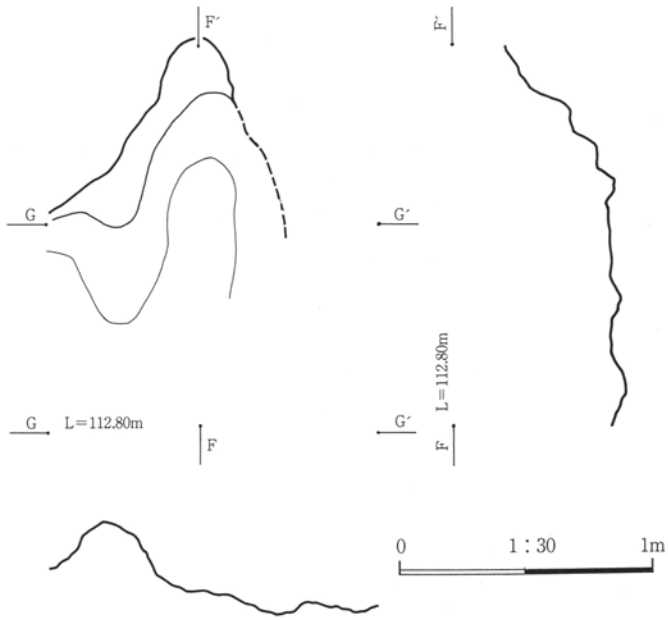
第148図　８号住居竈平面図　土層断面図

８号住居竈　土層観察所見

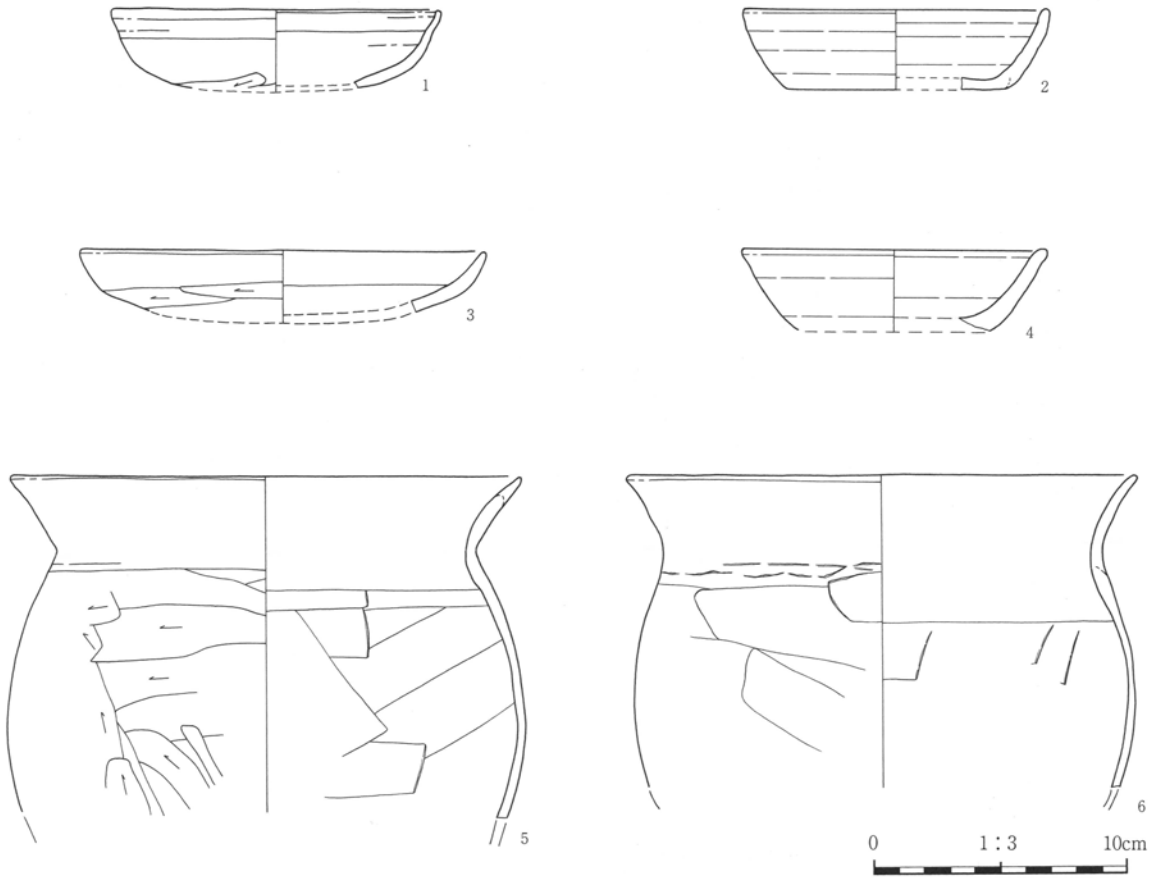
1　暗褐色砂質土　軽石を含む。にぶい黄褐色砂質土が斑点状に混入する。
2　にぶい黄褐色砂質土　直径１mmから５mmの焼土粒、シルト質粘土粒を多く含む。
3　１層を主体とし、２層がわずかに混入する。
4　褐色粘質土　緻密。崩落した天井部。
5　４層に直径１mmから３mmの焼土粒をやや多く含む。
6　10YR3/3　暗褐色砂質土　As-C、焼土粒、炭化物粒を含む。
7　10YR4/8　赤褐色砂質土　灰が混ずる。直径1.5cm程度の焼土ブロックを含む。硬く締まる。焼土化した天井部、煙道が崩れたもの。

８号住居竈Ｈライン　土層観察所見

1　7.5YR7/4　にぶい橙色土　焼土ブロックを含む。
2　7.5YR6/3　にぶい褐色土　灰白色シルト質土が全体に混入。橙色の焼土ブロックが点在する。灰粒、炭化物粒を含む。



第149図　８号住居竈掘方平面図　高低図



第150図　8号住居出土遺物

9号住居

位置　61-D.E-16.17グリッド　標高111.1mから111.4mの緩傾斜部に立地する。9号掘立柱建物と重複する。新旧関係は明確でないが、本住居のほうが新しいものと思われる。

形態　東西に長い縦長長方形。東南隅部がやや南に張り出す。　**規模**　長軸2.96m　短軸2.5～2.76m

床　掘方を暗褐色粘質土で埋め、交互に踏み固められたような薄層が重なっている。ほぼ均平に仕上げられるが、住居中央部がわずかに高い。

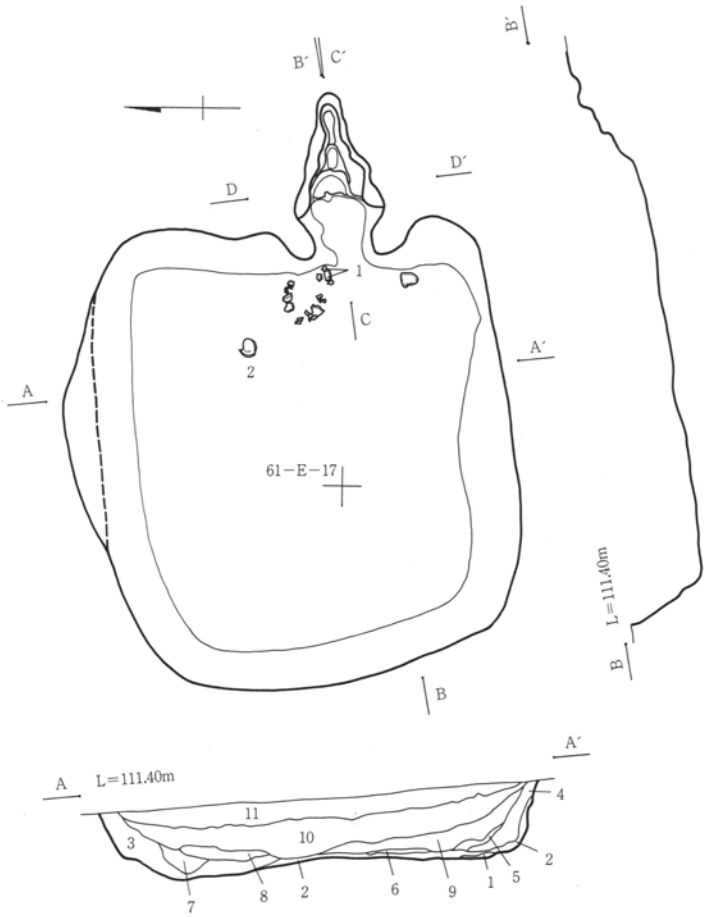
壁　東壁部で50cm弱、西壁部は64cmほどの残存壁高がある。上部が崩れ、上方にやや開く。

柱穴　南北両壁の東端近くに、上端径30cm、深さ15cmほどの小ピットがあり、住居にともなうものと考えられるが、主柱穴に当たるピットは認められない。

竈　東壁南寄りに地山を掘り込み、粘土を貼って構築する。右手前の礫は、構造材とは考えがたい。燃焼部は壁外にあり、二つの段を形成しながら煙道とつながる。住居上端ラインでは袖を意識したかのような地山の掘り残しが見られるが、住居内に明確な袖は形成されない。燃焼部右壁中程に小さなピットがあるが、支脚などの残存は見られず、袖石の据え方も確認できない。主軸方向はN-84°-Eを示す。

掘方　住居中央に、不定形の大きな掘り込みが見られ、その西半にはこれを取り囲むように不定形の掘り込みが連続する。

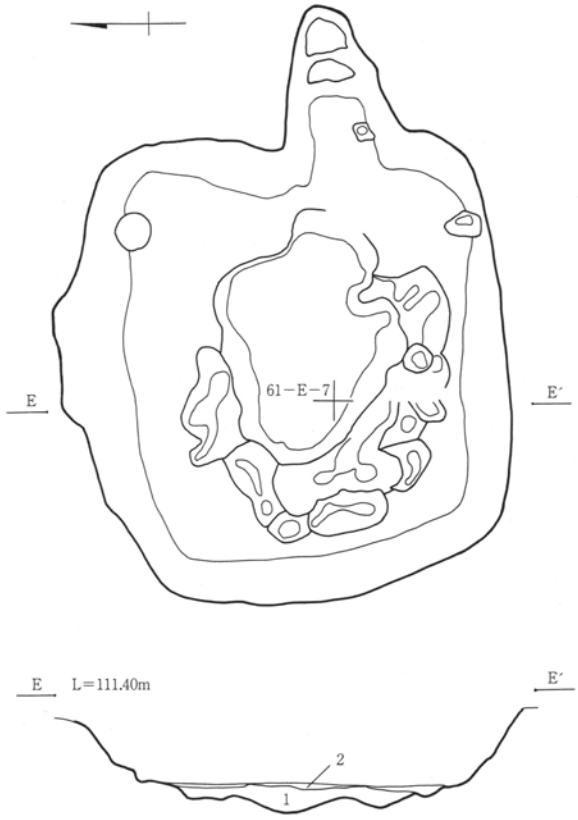
遺物　竈左手前部に遺物がまとまっている。土師器の坏および甕で、8世紀後葉のものである。



9号住居　土層観察所見
1　暗褐色土　ロームブロックを含む。
2　暗褐色土　As-C を若干含む。ロームブロックを含む。
3　黒褐色土　ローム粒を含む。
4　黒褐色土　ロームブロック少量含む。
5　黒褐色土　ロームブロックを若干含む。
6　黒褐色土
7　黒褐色土　As-C 少量含む。
8　黒褐色土　As-C、ローム粒少量含む。
9　黒褐色土　ロームブロック含む。As-C 若干含む。
10　黒褐色土　As-C を含む。
11　黒褐色土　As-C をやや多く含む。

0　1：60　2m

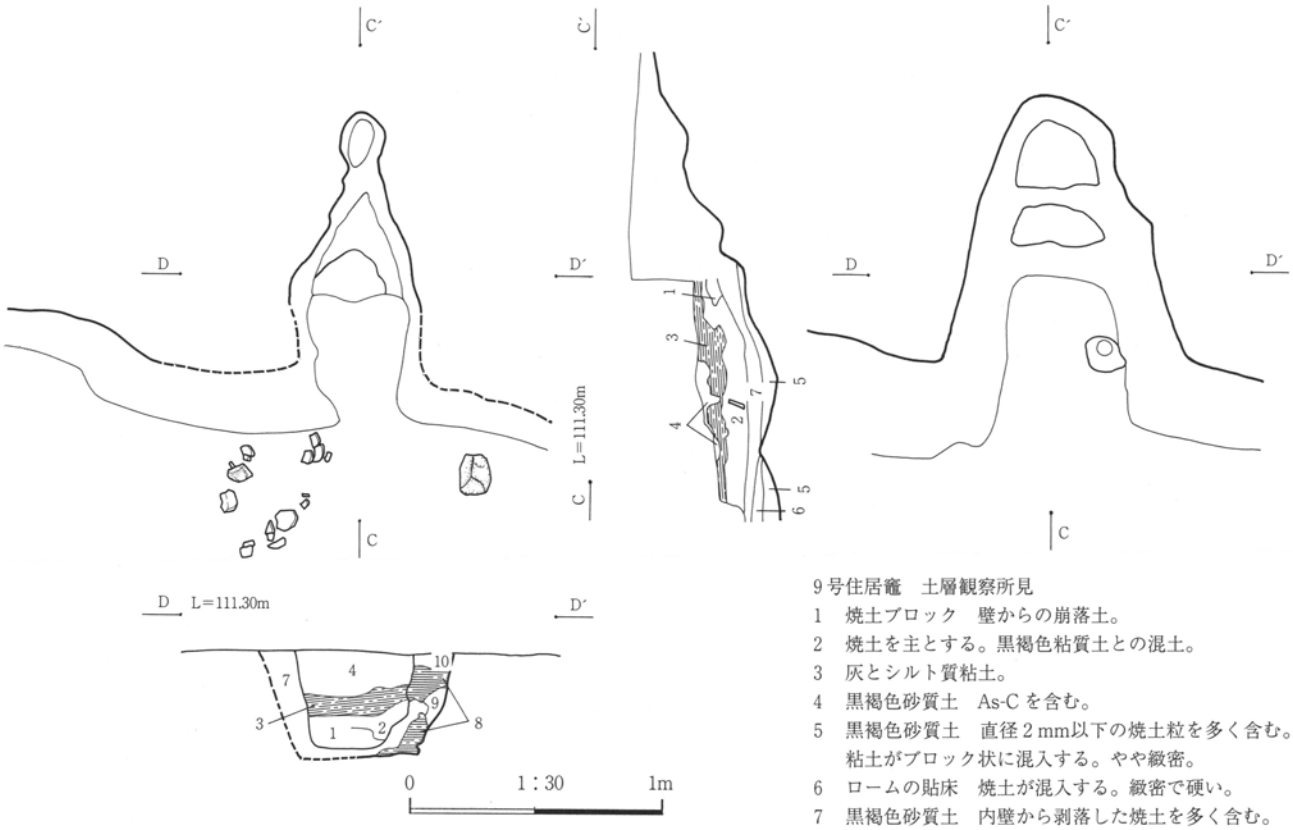
第151図　９号住居平面図　土層断面図



9号住居掘方　土層観察所見
1　暗褐色粘質土を主体とする。
2　As-Cを含む黒色土を主体に、ロームを混ずる暗褐色土、灰褐色粘質土が交互に踏み固められたような薄層の重なりが見られる。

0　1：60　2m

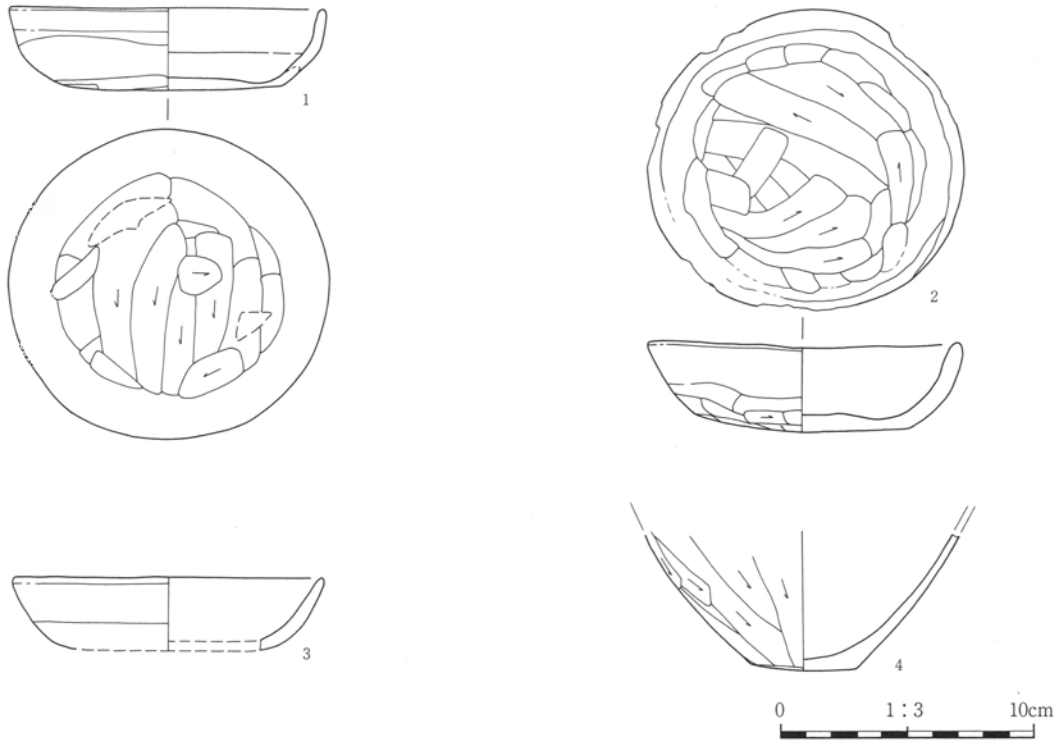
第152図　９号住居掘方平面図　土層断面図



第153図　9号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図

9号住居竈　土層観察所見

1　焼土ブロック　壁からの崩落土。
2　焼土を主とする。黒褐色粘質土との混土。
3　灰とシルト質粘土。
4　黒褐色砂質土　As-C を含む。
5　黒褐色砂質土　直径2mm以下の焼土粒を多く含む。粘土がブロック状に混入する。やや緻密。
6　ロームの貼床　焼土が混入する。緻密で硬い。
7　黒褐色砂質土　内壁から剥落した焼土を多く含む。
8　灰紫色粘土　As-C かと思われる軽石を含む。緻密でやや硬い。
9　黒褐色砂質土　8層と焼土を少量含む。
10　黒褐色砂質土　As-C を含む。



第154図　9号住居出土遺物

10号住居

位置　61-G.H-20グリッド　標高111.9mから112.1mの比較的ゆるい傾斜部に立地する。直接重複する遺構はない。北に17号住居、西に12号住居がある。

形態　ほぼ隅丸方形を呈する。南壁、西壁は直線的だが、他の二壁は共に外ふくらみを持つ。

規模　長軸3.6m　短軸3.5m

床　硬く締まったローム面まで掘り下げられており、そのまま床面をなしている。ほぼ均平だが、北東方向にわずかに下がる傾斜を有する。東壁を除く三壁には浅い周溝がめぐる。

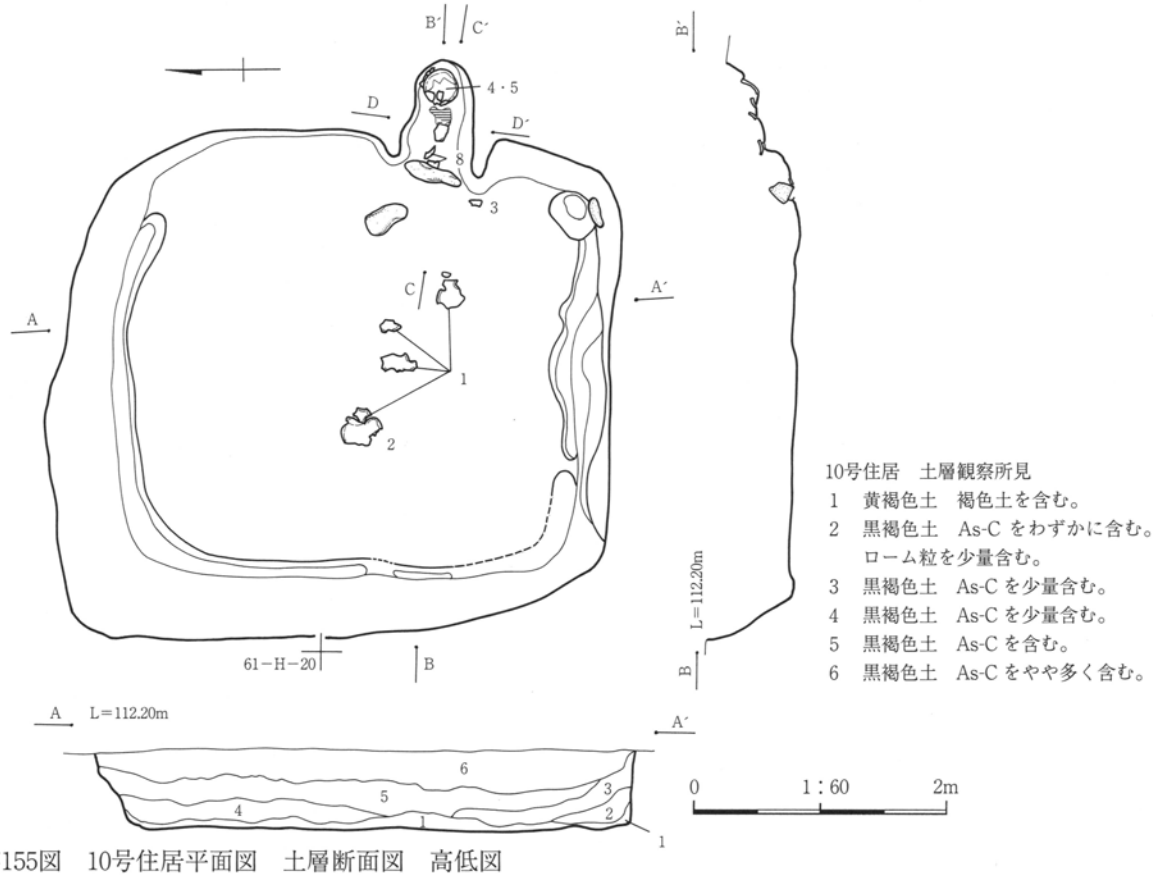
壁　東壁部で50cm以上、西壁では70cm近い壁高がある。北壁及び西壁では上部のソフトロームが大きく崩れ、上方に大きく開いているが、東壁及び南壁では周溝を介してほぼ垂直に立ち上がる。

柱穴　床面調査時点では確認できなかったが、掘方では７基のピットが見られた。直径20cmから30cmで、床面から10cmから20cmほどの深さである。主柱穴としては認めがたい位置である。

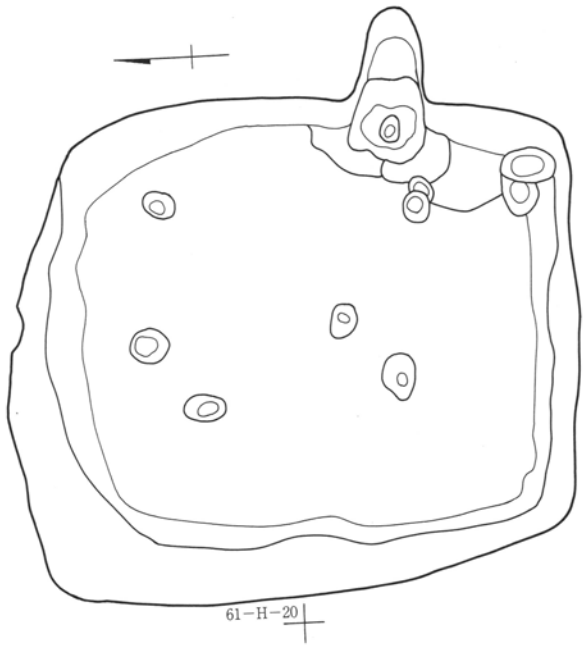
貯蔵穴　南東隅部に長径40cm、短径30cm、深さ25cmほどの土坑が認められたが、遺物等はなく、貯蔵施設とする積極的根拠は得られなかった。

竈　東壁南よりを壁外に掘り込み、砂粒の多い灰褐色粘土を貼って構築している。焚き口部と竈前にやや長い自然石があり、構造材として用いられた可能性がある。掘方では、焚き口から壁の延長部にかけて、燃焼部が一段深く掘り込まれており、その中央に小ピットが掘られている。この掘り込みよりさらに奥に、甕が据えられた状態で残っている。主軸方向はN-90°-Eを示す。

遺物　竈内から住居中央西寄りに、帯状をなして遺物が点在する。土師器の甕が主体で、須恵器甕破片、摘みの無い蓋などがある。８世紀後葉のものと考えられる。

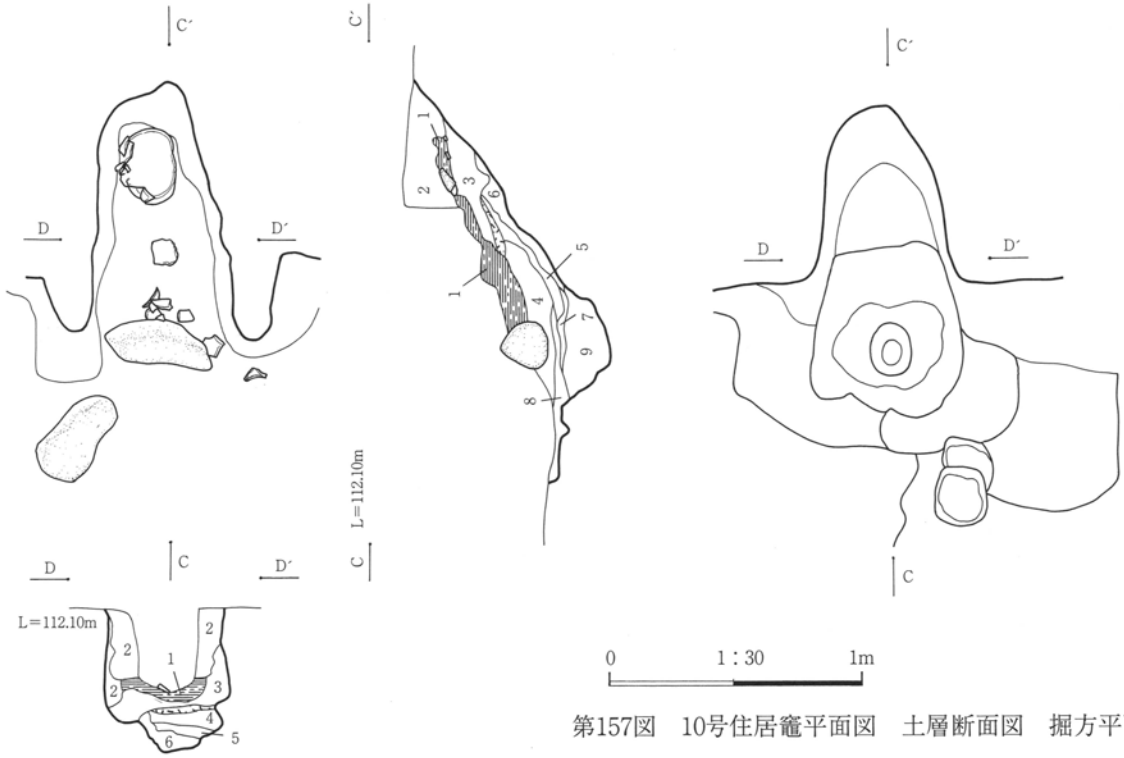


第155図　10号住居平面図　土層断面図　高低図



0　1：60　2m

第156図　10号住居掘方平面図



0　1：30　1m

第157図　10号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図

10号住居竈　土層観察所見

1　5YR6/2　灰褐色粘質土　砂粒を含む。黒色の灰や焼土粒を混入する。下部では灰や焼土がかたまる。天井部の崩落土。
2　10YR3/3　暗褐色砂質土　As-C 混土中に褐色土が混入する。As-C 15%含む。焼土粒を含む。竈崩落後の流入土。
3　5YR5/2　灰褐色砂質土　粘性強い。壁際は橙色の焼土ブロックを多く含む。
4　7.5YR3/4　褐色土　砂粒を多く含む粘質土で、中心部は灰を含み暗い色になる。焼土粒を多く含む。
5　10YR3/4　暗褐色砂質土　焼土粒を少量含む。
6　10YR3/4　暗褐色砂質土　この上面が使用面か。
7　9層上面に貼られたローム土。焚き口部床面。
8　10YR7/1　灰白色の灰層　薄い互層をなし、軟らかい。
9　6層に大粒のロームブロックを混入する。ロームブロックは底面に近いほど多い。

第158図　10号住居出土遺物

11号住居

位置　61-H-18.19グリッド　標高112.2mから112.4mの傾斜地に立地する。直接切り合う遺構はない。北に12号住居、北東に10号住居がある。住居集中域の南端近くに位置する。

形態　南北に長い長方形。東壁南部を大きく撹乱される。竈がないため主軸が決定できない。小型であること、竈を持たないこと、床面硬化が乏しく均平でないこと、出土遺物が乏しいことなどの点で15号住居、31号住居と共通する。居住以外の機能、用途をもった建物と考えるべきかもしれない。　**規模**　長軸2.68m短軸2.0m

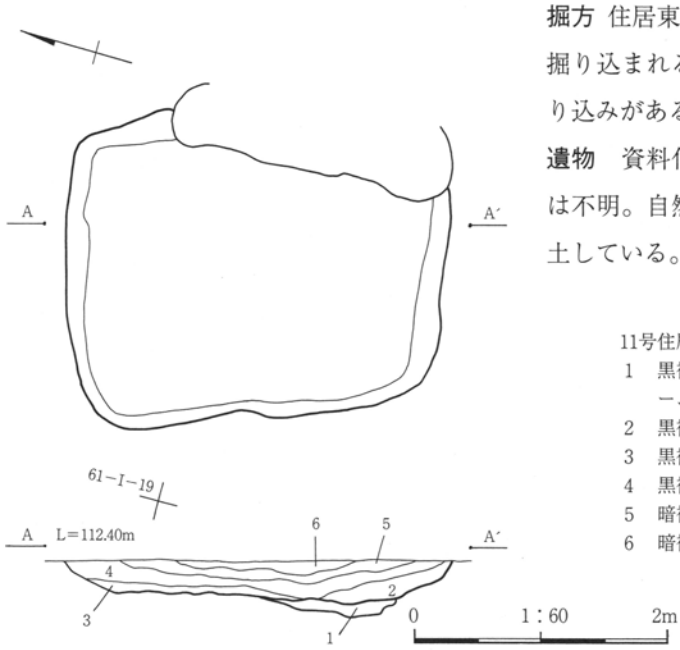
床　ロームブロックを含む黒褐色土で掘方を埋めて床を形成するが、全体に波打ち、硬化も乏しい。

壁　東壁部で15cm弱、西壁部では30cm程度の残存壁高がある。やや上方に開き気味に立ち上がる。

柱穴　貯蔵穴　竈　認められない。

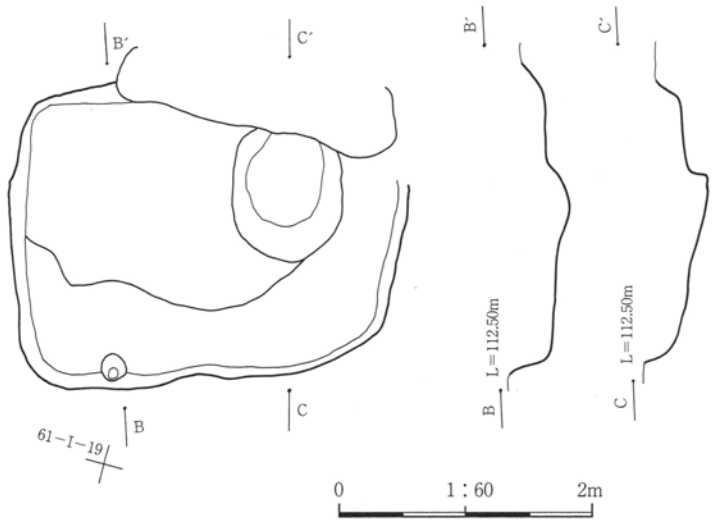
掘方　住居東部から北部にかけての広い範囲で、一段深く掘り込まれる。東南部にはごく浅い楕円形の土坑状の掘り込みがある。

遺物　資料化可能な出土遺物がほとんど無いため、年代は不明。自然釉の付着した須恵器甕の破片が覆土から出土している。

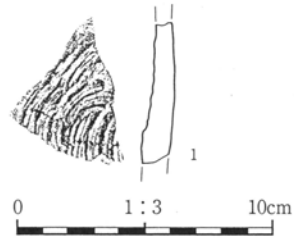


11号住居　土層観察所見
1　黒褐色土　直径3cmから5cmのロームブロックを含む。ローム斑を含む。炭化物少量含む。
2　黒褐色土　大粒のロームブロックを含む。
3　黒褐色土　ロームブロック含む。
4　黒褐色土　ロームブロックは少ない。As-C含む。
5　暗褐色土　As-Cを少量含む。
6　暗褐色土　As-Cを含む。

第159図　11号住居平面図　土層断面図



第160図　11号住居掘方平面図　高低図



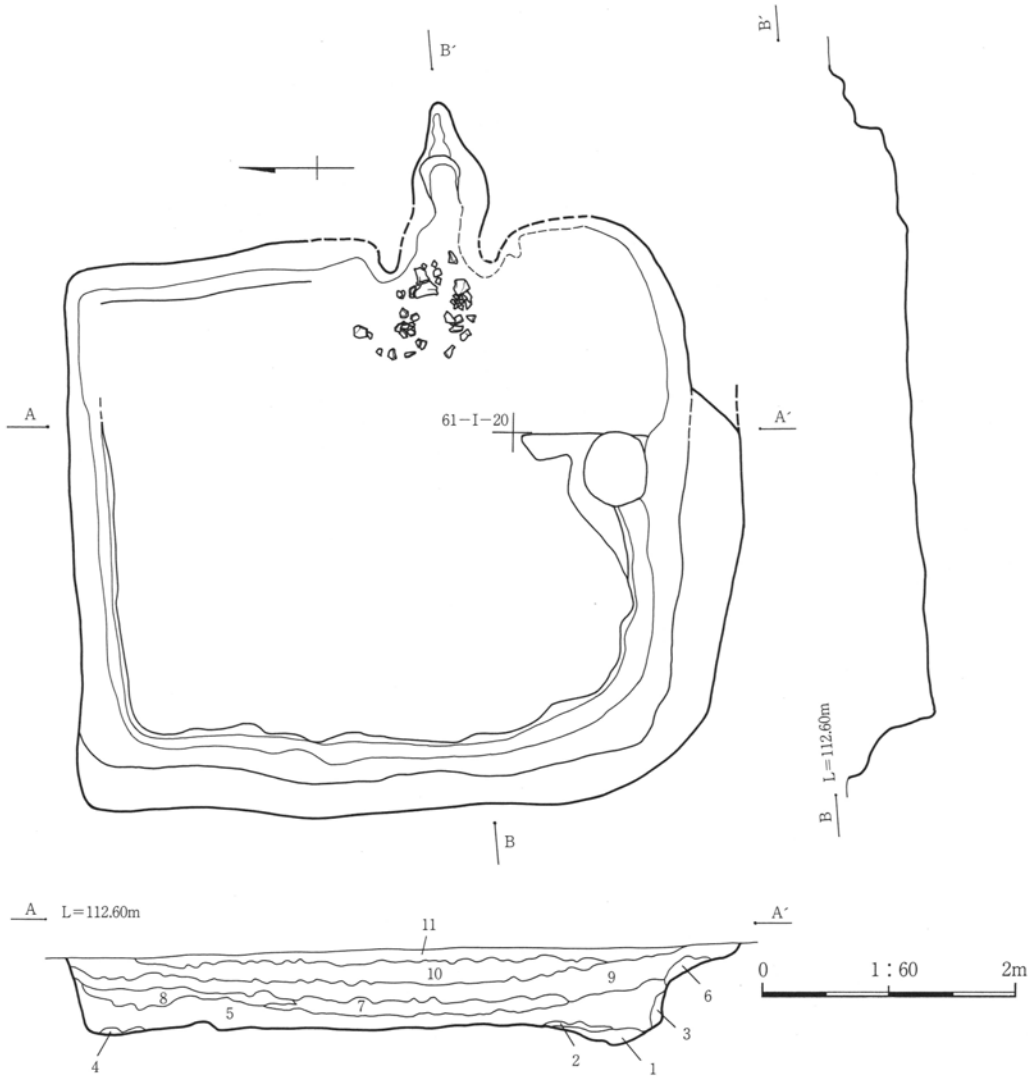
第161図　11号住居出土遺物

12号住居

位置　61-H.I-19.20グリッド　標高112.2mから112.5mの傾斜地に立地する。住居集中域の南部に位置する。北に13号住居、南に11号住居、東に17号、21号住居が隣接してあるが、切り合わない。西の５号住居との間にはやや距離がある。

形態　基本的には方形を呈するものと考えられるが、東南部が膨らむように張り出すため、南北がわずかに長い。北東隅は直角に近いきれいな角をなす。　**規模**　長軸4.2～4.5m　短軸3.9m

床　ソフトロームと As-C を含む黒褐色砂質土のブロック状混土で掘方を埋め、床面を形成する。壁に沿ってやや低く、住居中央部がわずかに高い。壁際では As-C 混土の比率が高く、壁周囲の造作とこれより内側の床面を作る工程との間に不連続が感じられる。南半部では壁周溝が確認できた。



12号住居　土層観察所見

1　暗褐色土　ロームブロックを斑状に含む。
2　灰かと思われる灰白色土と褐色土。
3　暗褐色土　ロームブロック含む。
4　黄褐色土　暗褐色土を含む。
5　暗褐色土　大きなロームブロック、灰褐色粘土ブロックを含む。
6　暗褐色土　ローム粒含む。
7　暗褐色土　黒色土を含む。
8　暗褐色土　As-C、黒色土の斑を含む。
9　暗褐色土　As-C少量含む。
10　暗褐色土　As-C含む。
11　暗褐色土　As-C含む。

第162図　12号住居平面図　土層断面図

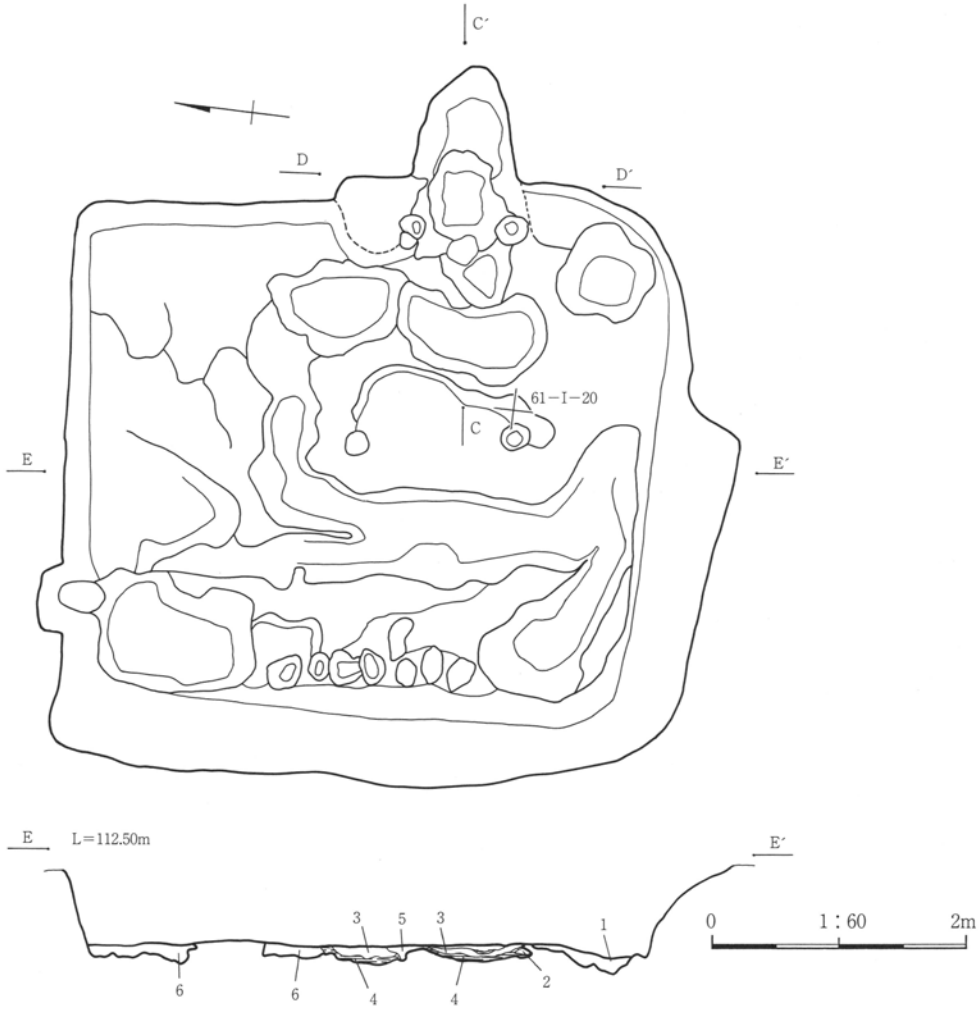
壁　東壁及び北壁は確認面までほぼ垂直に立ち上がる。西壁、南壁は上部が崩れて、途中から大きく上方に開くが、立ち上がり部は垂直に近い。

貯蔵穴　床面調査時には認められなかった。掘方では竈右手に当たる東南隅部にそれらしき掘り込みがあるが、貯蔵穴として確定しうる資料はない。

竈　東壁中央よりやや南側を壁外に掘り込み、灰黄褐色の粘土を貼って構築している。地山を掘り残して小さく袖を作ったものらしい。掘方では壁の延長線上に袖石の据え方と思われる小ピットが左右に並ぶが、石自体は残されていない。主軸方向はN-84°-Eを示す。

掘方　全体に不定形の掘り込みが連続する。竈を囲むように3つの土坑状の掘り込みがあり、北西隅も土坑状に掘られる。西壁中央部には土工具の痕跡かと思われる小ピットが残されている。

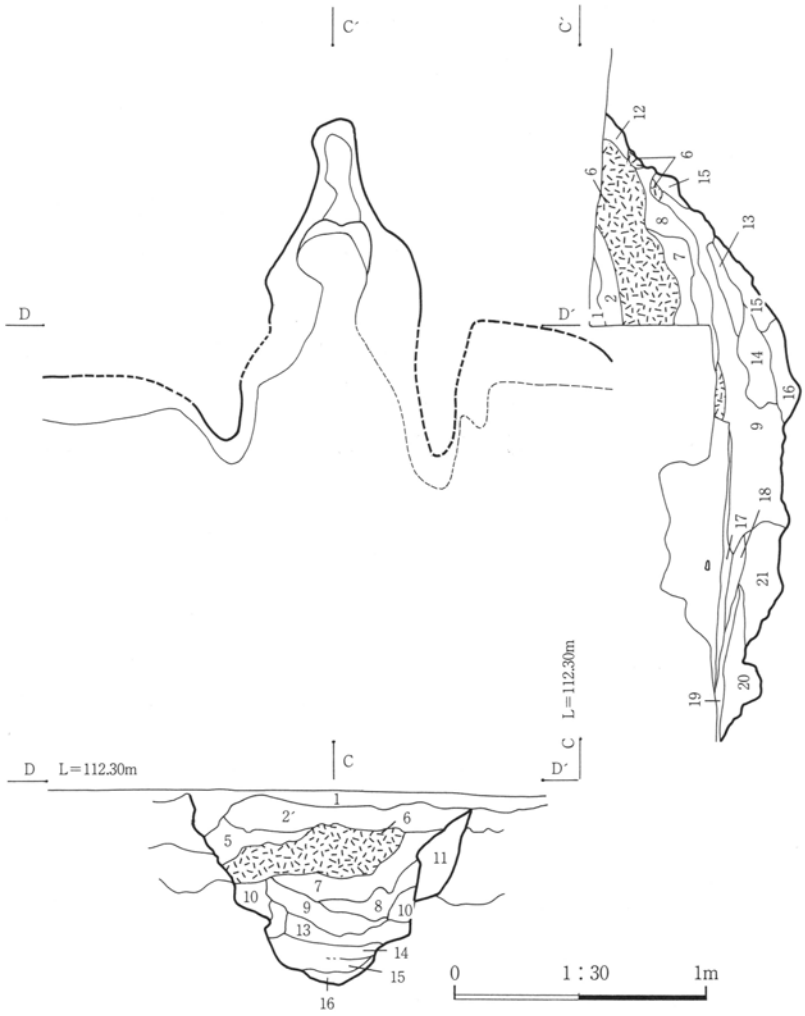
遺物　竈前に集中し、他の部分にはほとんど見られない。土師器坏、甕と須恵器の長頸壺破片が出土している。年代は8世紀前葉と思われる。



12号住居掘方　土層観察所見

1　10YR3/4　暗褐色土　軽石を含む10YR2/2黒褐色土と径1cmから3cmのロームブロックが混入。砂質。
2　10YR2/2軽石を含む黒褐色土と径1cm大のロームブロックの50%混土。砂質。
3　10YR5/8　黄褐色土　硬く締まったロームで、軽石を含む10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR4/1褐灰色粘質土が少量入る。
4　3層と10YR4/1褐灰色粘質土の互層。
5　10YR5/2　灰黄褐色土　軽石を含む。ロームを混ずる。
6　径5cm程度のロームブロックを主体とし、径3cm程度のAs-Cを含む黒色土のブロックが斑点状に入る。

第163図　12号住居掘方平面図　土層断面図



12号住居竈　土層観察所見

1　10YR2/3　黒褐色土　As-B を含む。砂質。（地山）

2　10YR4/4　褐色土　As-C 含む。砂質。（地山）　2′ 10YR4/3　にぶい黄褐色土　6層を含む。

3　10YR4/6　褐色土　ローム層との漸移層。（地山）

4　10YR6/8　明黄褐色土　ローム。硬く締まる。（地山）

5　10YR5/3　にぶい黄褐色土　シルト質土が入る。砂質。

6　10YR5/2　灰黄褐色シルト質土　焼土ブロック、シルトブロック含む。やや粘質。天井部。

7　10YR5/3　にぶい黄褐色砂質土　ロームブロック、焼土ブロックを含む。シルト質土少量含む。

8　10YR5/3　にぶい黄褐色土　5YR/8 橙色の焼土ブロックを含む。

9　10YR5/3　にぶい黄褐色土　焼土。シルト質土を含む。竈の底部から壁。

10　10YR2/3　黒褐色砂質土

11　10YR5/2　灰黄褐色シルト質土　やや粘質。竈袖部。

12　7.5YR3/2　黒褐色土　黒色の灰層に径１cmから２cmの焼土ブロックを含む。煙道部底面。

13　黒褐色砂質土　As-C を含む。ローム粒、焼土粒を少量含む。９層との境界に１cm程度の厚さでロームが貼られる。

14　９層に径１cmから３cmのロームをやや多く混入。

15　にぶい黄褐色砂質土　焼土粒を少量含む。緻密。

16　９層に最大１cmほどのロームをやや多く混入。緻密。

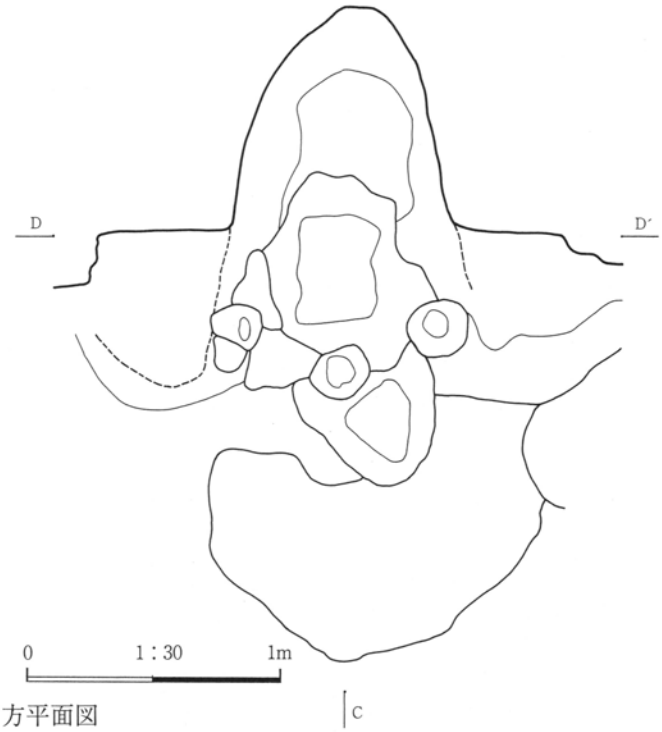
17　As-C を含む黒褐色砂質土とローム１mmから３mmの互層。緻密で硬い。

18　黒褐色砂質土　As-C含む。ローム、灰が混入。

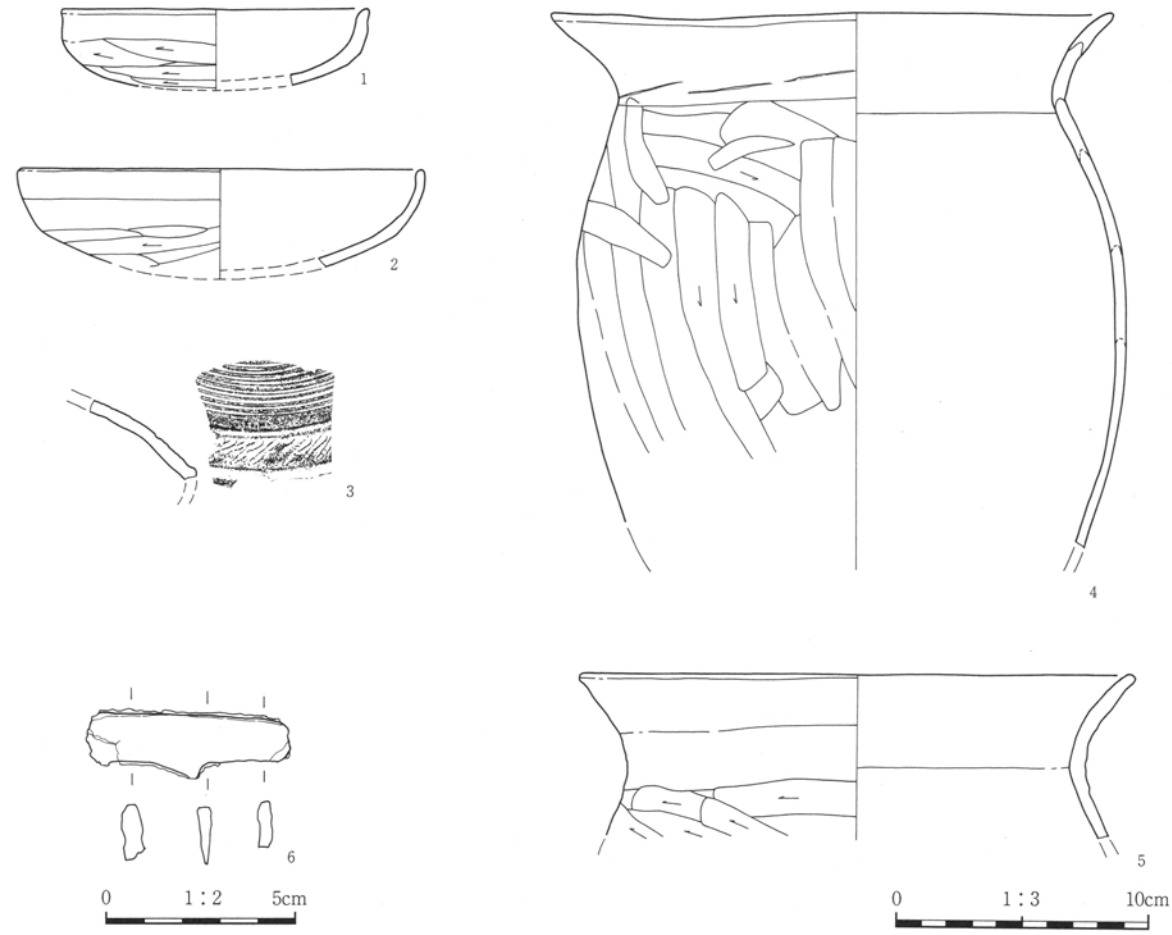
19　18層と灰層の縞状互層。

20　径１cmから４cmのロームブロック70％以上。18層が混ずる。緻密で硬い。

21　18層を主体とする。ローム及び灰が混ずる。緻密でやや硬い。



第164図　12号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図



第165図　12号住居出土遺物

13号住居

位置　71-H.I-1.2グリッド　標高112.1mから112.5mの傾斜地に立地する。20号住居に切られる。住居集中部の南部にあり南に12号住居、東に17号住居がある。

形態　東西に長い縦長長方形。東南隅はにぶく弧状を呈するが、他の３隅はほぼ直角に曲がる。　**規模**　長軸4.29m　短軸3.72m

床　地形に従って、やや東に向かって下がるが、褐色土ブロックを含む黄褐色土で掘方を埋め、ほぼ均平に仕上げられる。南西隅部の床面直上に焼土塊が認められる。西南隅にもやや小さな焼土塊があって、おそらく西壁沿いに広い範囲で焼土があったものと考えられる。強く焼けて硬化した部分と焼土化の弱い部分とがある。炭化材等は認められないが、焼失した住居であったものと考えられる。

壁　深く掘られている。浅い東壁側でも60cm近く、西壁側では最大84cmの残存壁高がある。四壁共にわずかに上方に開くが、ほぼ垂直に立ち上がる。

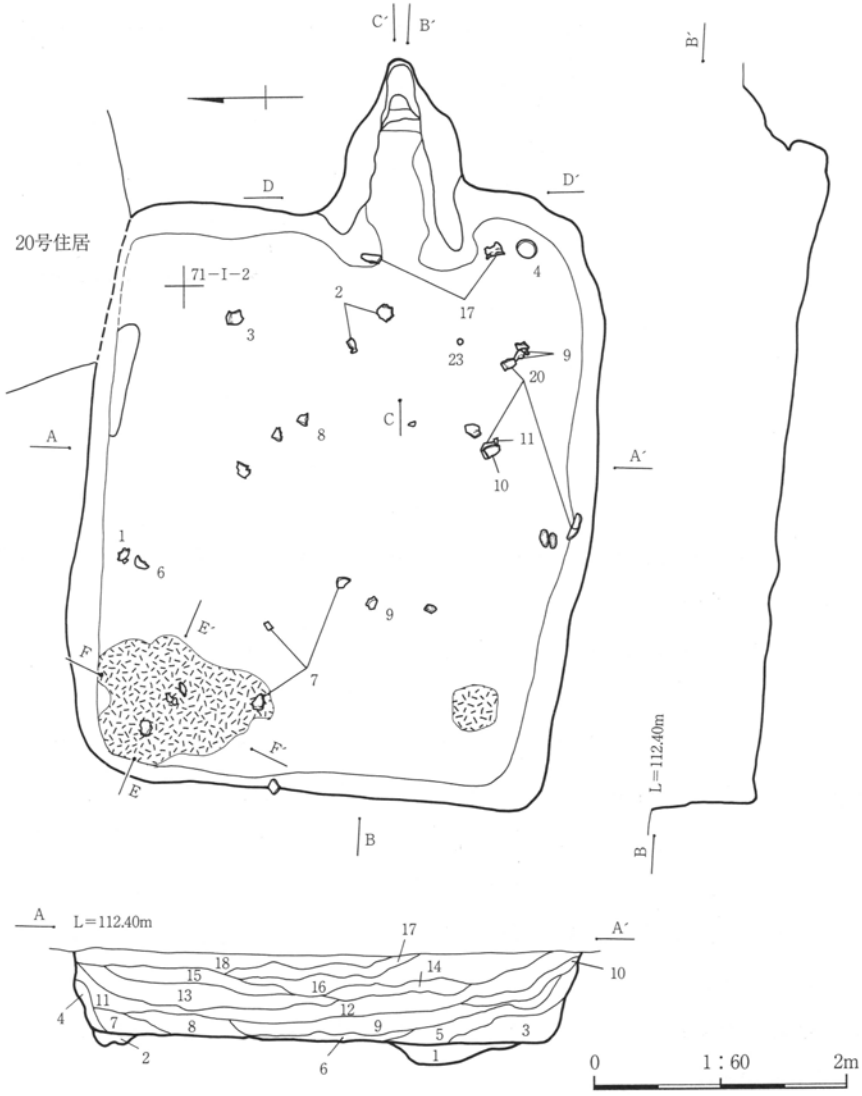
柱穴　床面では認められない。掘方調査においても明確な柱穴はないが、住居中央よりやや南西に偏して、深さ30cmほどのしっかりしたピットがある。

貯蔵穴　床面では認められない。掘方では貯蔵穴相当位置と考えられる東南隅部に直径70cmほどの円形土

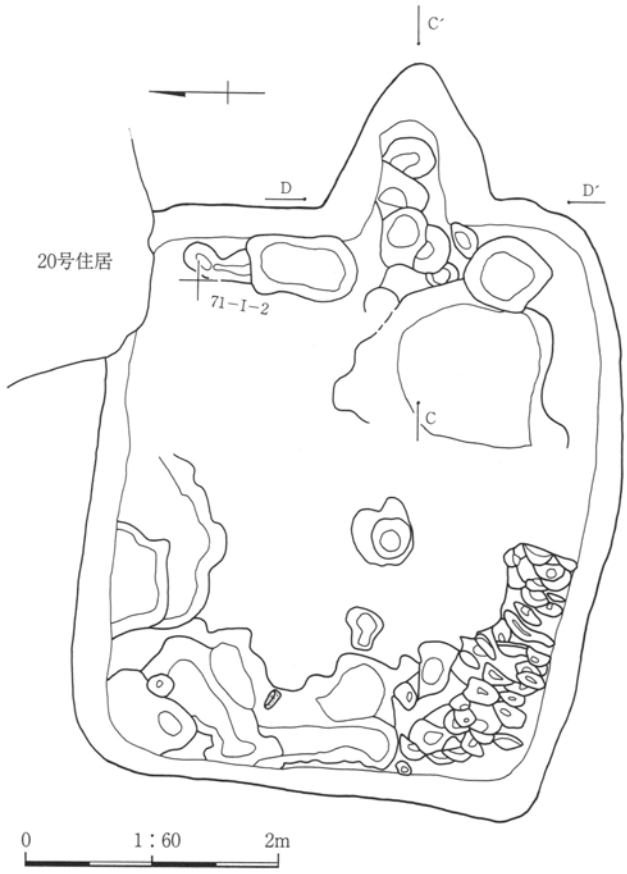
坑がある。また、竈左手部にも長軸85cm、短軸40cmほどの隅丸方形長方形土坑がある。いずれも遺物や炭化物等の集中が見られず、貯蔵穴としての積極的な証拠には乏しい。

竈　東壁中央近くを壁外に掘り込み、にぶい黄橙色の粘土を貼って構築している。主軸方向はN-90°-Eを示す。短い袖を持つが、燃焼部は壁外に作られている。燃焼部の奥行き、間口共に１m近く、深さも１mに迫る大振りの竈で、貼られた粘土が焼き締まった燃焼部左右及び奥壁は、垂直に近く立ち上がる箱形の構造をなしている。底部には青黒色の灰が厚く残されていた。全体的な残りが良く、住居総体からの出土遺物は多いにもかかわらず、確実に竈に伴う遺物はなく、支脚や構造材と見られる石もない。

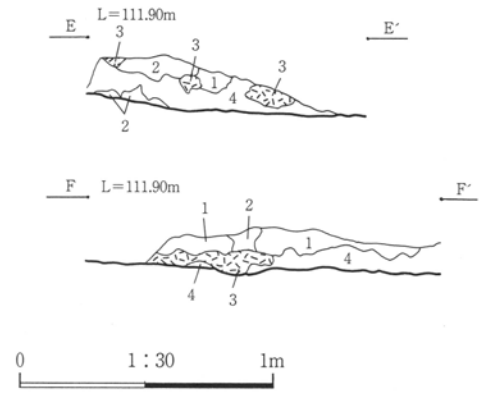
遺物　住居全体に土器破片が散在する。周辺の住居に比して、出土量はかなり多い。土師器が中心で、特に坏が多い。８世紀前葉の特徴を持つ丸底の坏と、中葉の偏平な坏が混在し、大半が８世紀前葉のものである。一方、土師器甕、須恵器坏、有蓋短頸壺は８世紀中葉である。出土遺物の垂直位置を見ると、８世紀中葉の遺物が床面に近い位置から出土している傾向があるため、住居の年代としてはこれを採りたい。また、滑石製紡錘車、砂岩製砥石、刀子かと思われる鉄器がそれぞれ１点出土している。



第166図　13号住居平面図　土層断面図　高低図



第167図　13号住居掘方平面図



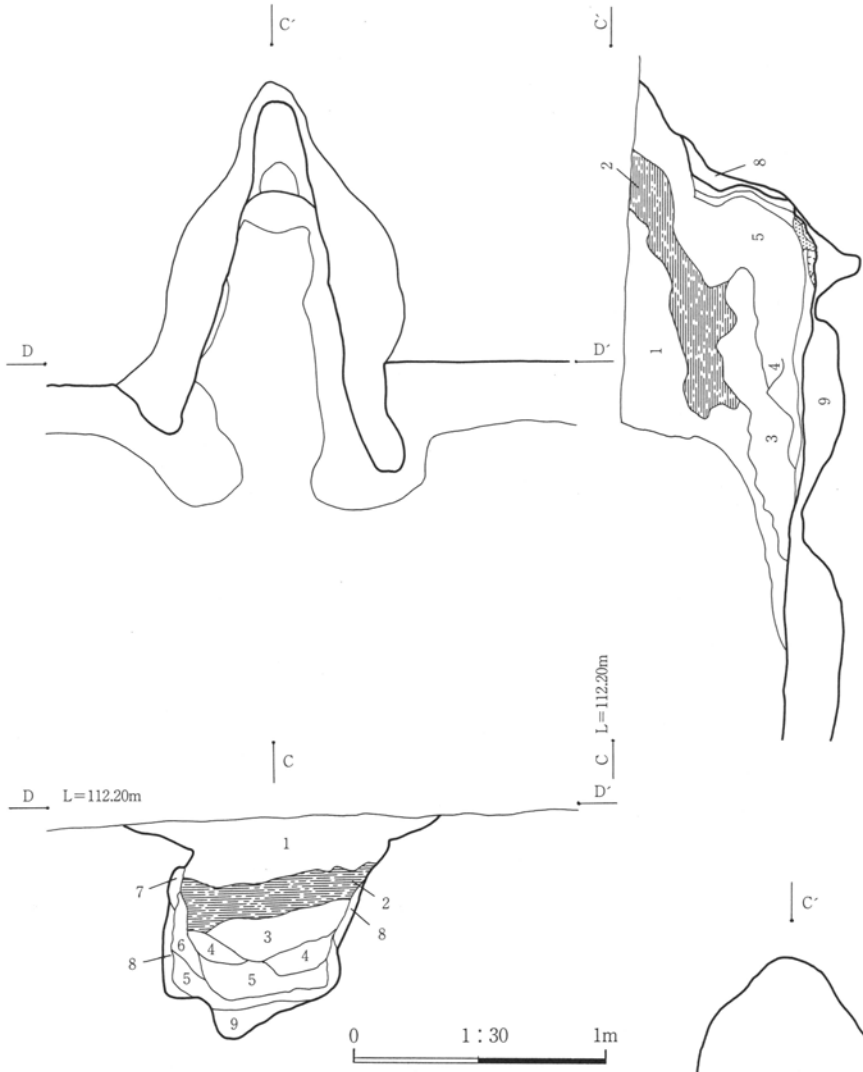
第168図　13号住居床面焼土塊　土層断面図

13号住居　土層観察所見

1　10YR7/8　黄褐色土　ロームブロック主体。As-C を含む10YR2/2黒褐色土の硬く締まったブロックを含む。下面には10YR5/1青灰色粘質土を貼る。
2　黄褐色土　ロームブロックを斑状に含む。
3　暗褐色土　ロームブロック含む。As-C をわずかに含む。
4　暗褐色土　ロームブロック含む。
5　暗褐色土　ロームブロック含む。As-C をわずかに含む。
6　黒褐色土　焼土ブロック、炭化物を少量含む。
7　明褐色土　ロームブロック含む。As-C わずかに含む。
8　明褐色土　ロームブロックを少量含む。As-C を若干含む。
9　黒褐色土　土器片を含む。炭化物粒、As-C、ロームブロックを少量含む。
10　暗褐色土　ロームブロック含む。褐色土ブロック少量含む。As-C わずかに含む。
11　暗褐色土　ロームブロック含む。As-C をわずかに含む。
12　暗褐色土　ロームブロック、褐色土ブロック少量含む。As-C 若干含む。
13　黒褐色土　As-C 含む。炭化物粒少量含む。
14　黒褐色土　褐色土ブロック含む。As-Cをわずかに含む。
15　黒褐色土　As-C 含む。炭化物粒少量含む。
16　暗褐色土　As-C 含む。褐色土ブロック含む。
17　暗褐色土　ローム粒含む。As-C。褐色土ブロック少量含む。
18　暗褐色土　As-C 含む。ローム粒、褐色土ブロック少量含む。

13号住居床面焼土塊　土層観察所見

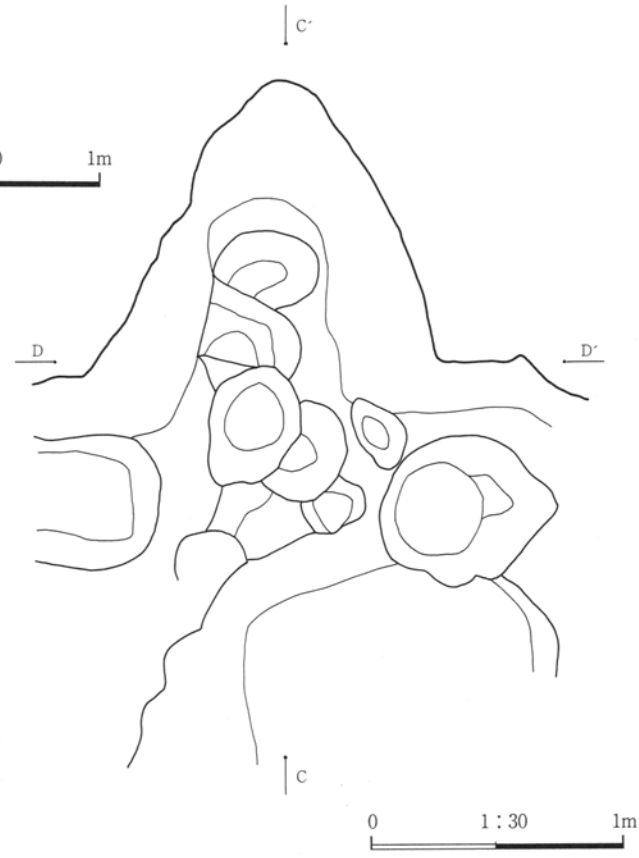
1　暗褐色土　軽石を含む。ローム粒、焼土粒混入。4層が被熱して変色したものか。
2　黒褐色土　ローム粒を多く含む。
3　焼土　4層が焼けたもので、As-C が混入している。
4　黒褐色砂質土　As-C を含む。ロームブロック、ローム粒を含む。



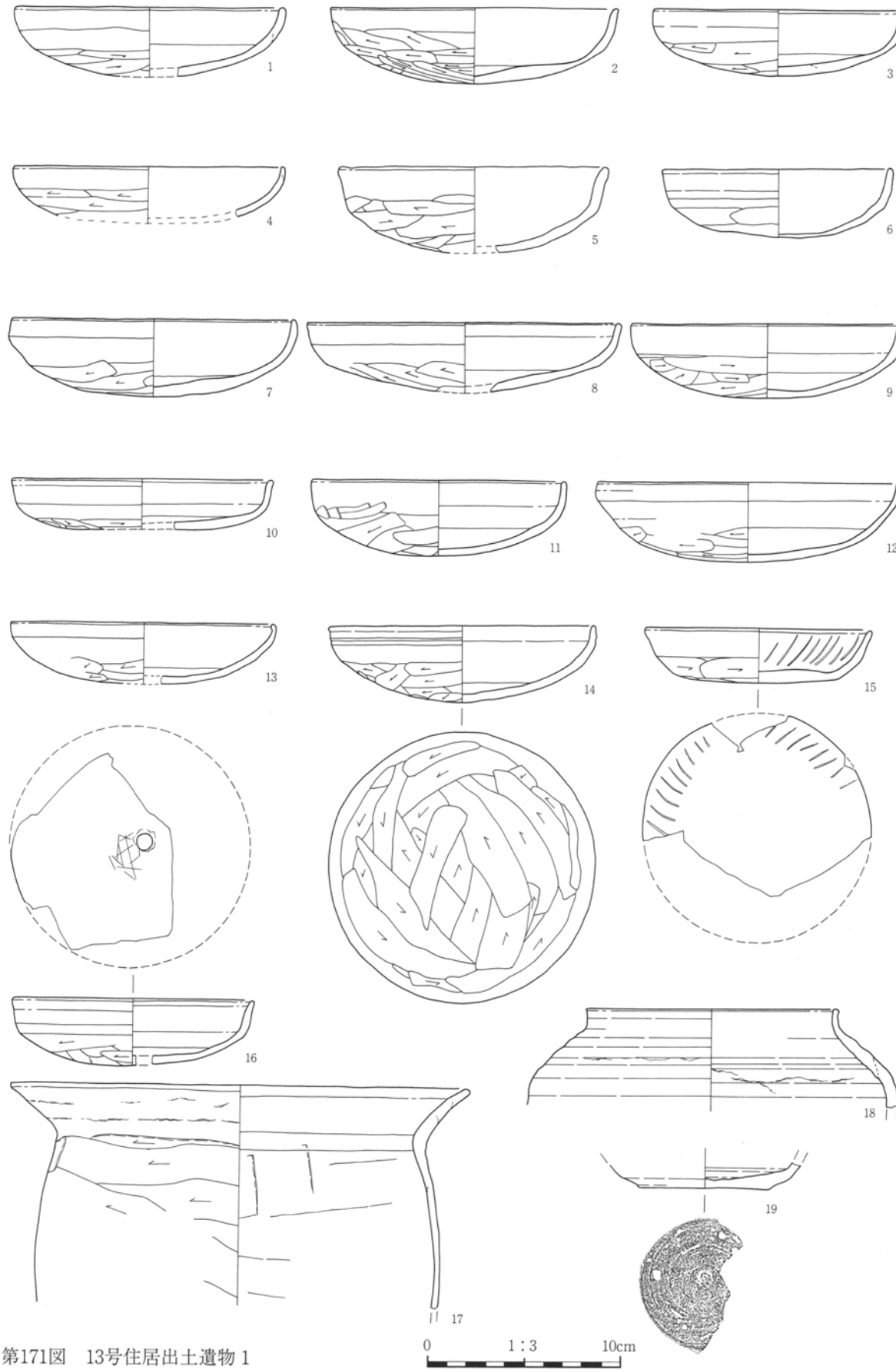
第169図　13号住居竈平面図　土層断面図

13号住居竈　土層観察所見

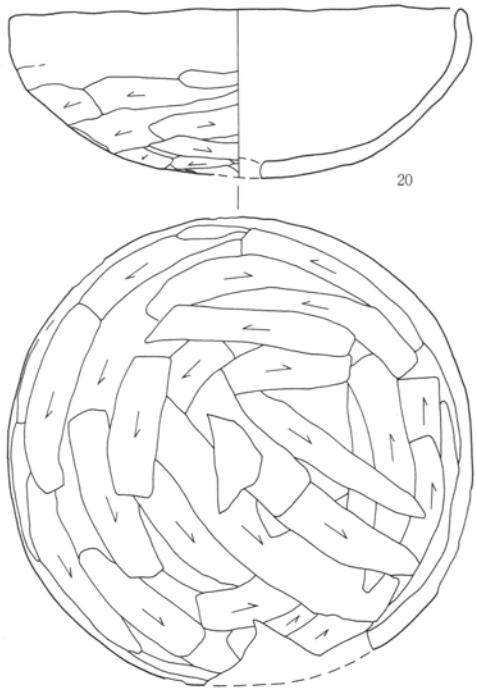
1　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　軽石を含む。焼土粒、ローム粒を少量混入する。住居外からの流入土。
2　10YR7/3-6/3　にぶい黄橙色粘土　径１cmから３cmの１層が斑点状に混入。崩落した天井部。
3　10YR4/4　褐色砂質土　２層の粘土、焼土、As-Cを混ずる黒褐色土が斑点状に混入。
4　３層同様の混土。２層の粘土が主。竈使用時の内壁からの崩落土。
5　5BG1.7/1青黒色の灰と大粒の焼土との混土。
6　にぶい黄褐色砂質土　灰、ローム粒、焼土を混ずる。
7　にぶい黄褐色土　ローム粒を多く混ずる。
8　にぶい黄褐色土　ローム粒をやや多く混ずる。中間に焼土の薄層を挟み上半は細粒、焼土層より下は１cm大の斑点状。
9　ロームを主ににぶい黄褐色砂質土、As-Cを混ずる黒褐色砂質土を斑状に混入する。全体に均質。やや密。硬く締まる。あるいは黒色の灰層中に直径１cmまでの焼土粒を少量混入し、焚き口近くでは焼土と灰を主体にローム粒を多く含む。

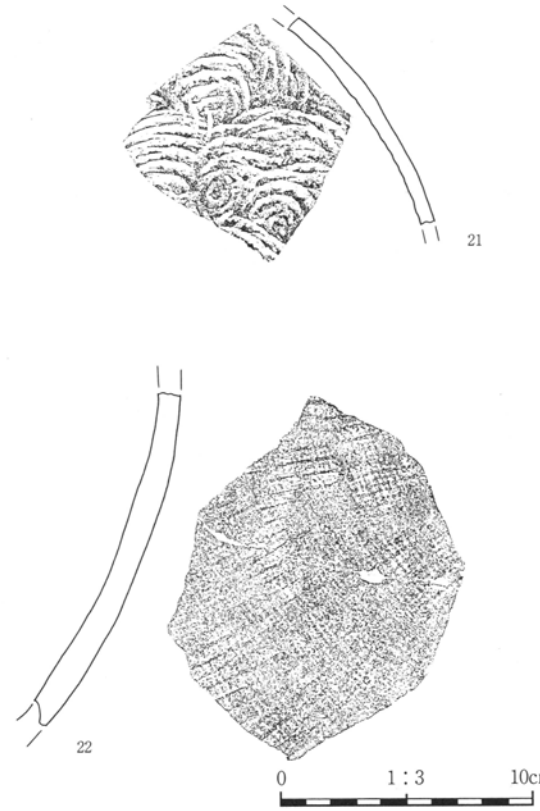


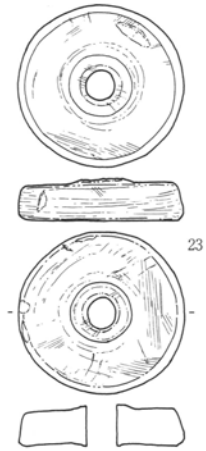
第170図　13号住居竈掘方平面図

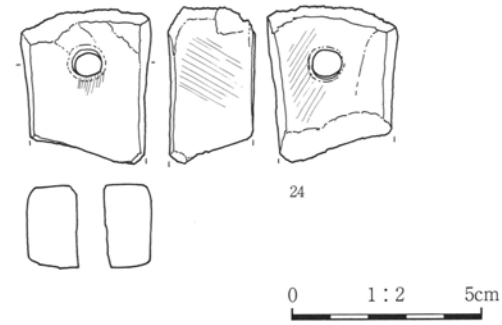


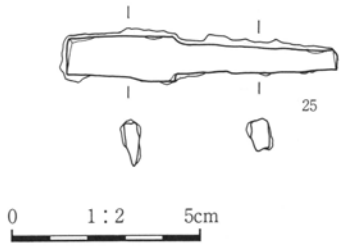
第171図　13号住居出土遺物 1











第172図　13号住居出土遺物２

14号住居

位置　71-J.K-1.2グリッド　標高112.6mから112.9mの傾斜地に立地する。東に13号・20号住居がある。

形態　ほぼ整った方形の平面形を示す、比較的小型の住居である。東南隅がやや丸みを帯びるが、他の三隅は整っている。掘方では西壁北部に一段高い土坑状の張り出しがつくが、住居に伴うものであるか不明。

規模　南北軸3.22m　東西軸3.18m

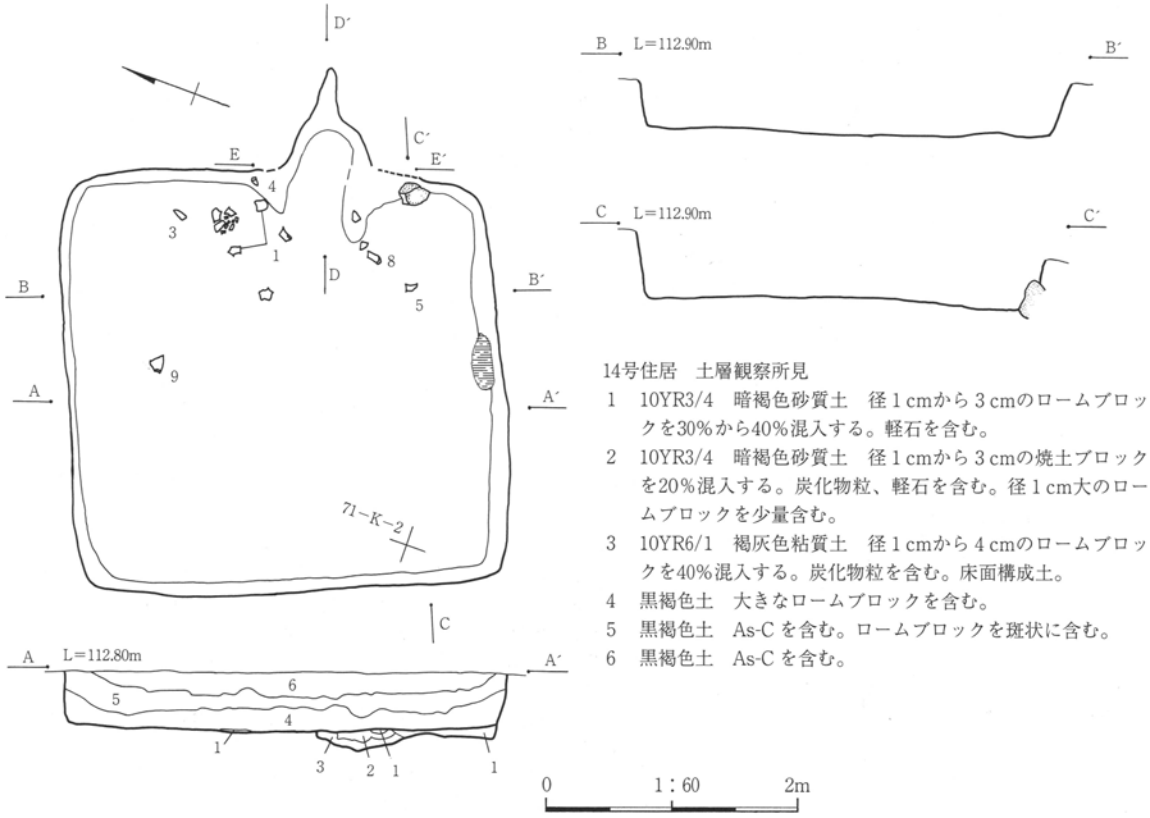
床　ロームブロックと暗褐色土の混土を貼って、ほぼ均平に仕上げられる。竈から東南隅部にかけてを除いて壁周溝がめぐる。

壁　東壁部で30cmから40cm、北西隅部で最大55cmの残存壁高がある。四壁共に壁周溝を介して垂直に近く立ち上がる。

貯蔵穴　床面では認められない。掘方では東南隅部に不定形の掘り込みがあり、竈右手前の掘り込み底部に焼土や灰を含む褐灰色粘土があって、その上位層も焼土や炭化物粒を含む。また、住居中央南寄りには長径84cm、短径78cmの円形土坑があり、この底面にも褐灰色粘土が貼られ、上位に炭化物や焼土ブロックを含む層がある。この層を切って床が貼られるため、最終使用時には開口していなかったものと判断されるが、住居に伴う施設であろう。

竈　東壁南寄りの壁を掘り込んで、灰黄褐色から褐灰色の粘土を貼って構築する。左右共に短い袖を持つ。主軸方向はN-72°-Eを示す。右袖部に小振りの礫があり、右袖と東壁の接点近くにも礫があるが、竈の構造材であるかどうかは不明。掘方でも壁石や支脚の据え方は認められない。

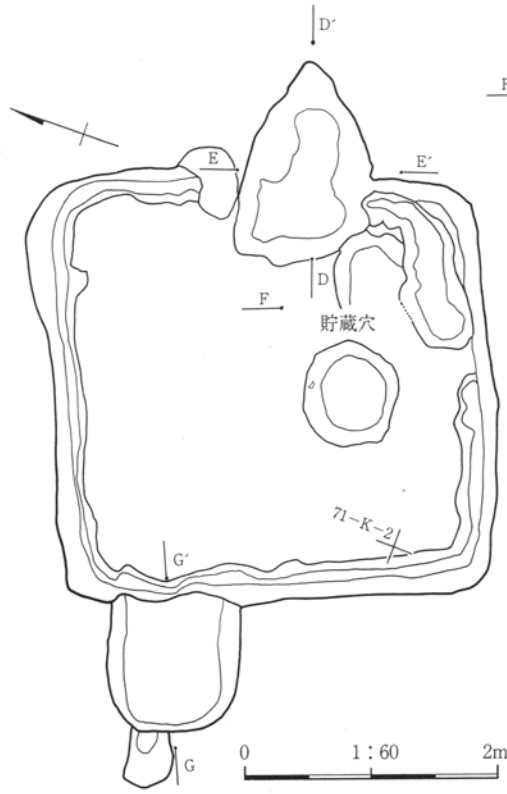
遺物　竈周辺を中心に、比較的多くの遺物が散在する。土師器と須恵器の坏が主体となる。ほかに土師器甑と須恵器甕の破片、小型長頸壺の口縁部破片が出土している。年代はいずれも８世紀後葉である。

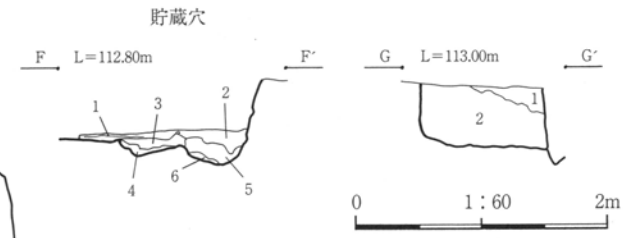


14号住居　土層観察所見

1　10YR3/4　暗褐色砂質土　径１cmから３cmのロームブロックを30%から40%混入する。軽石を含む。
2　10YR3/4　暗褐色砂質土　径１cmから３cmの焼土ブロックを20%混入する。炭化物粒、軽石を含む。径１cm大のロームブロックを少量含む。
3　10YR6/1　褐灰色粘質土　径１cmから４cmのロームブロックを40%混入する。炭化物粒を含む。床面構成土。
4　黒褐色土　大きなロームブロックを含む。
5　黒褐色土　As-C を含む。ロームブロックを斑状に含む。
6　黒褐色土　As-C を含む。

第173図　14号住居平面図　土層断面図　高低図



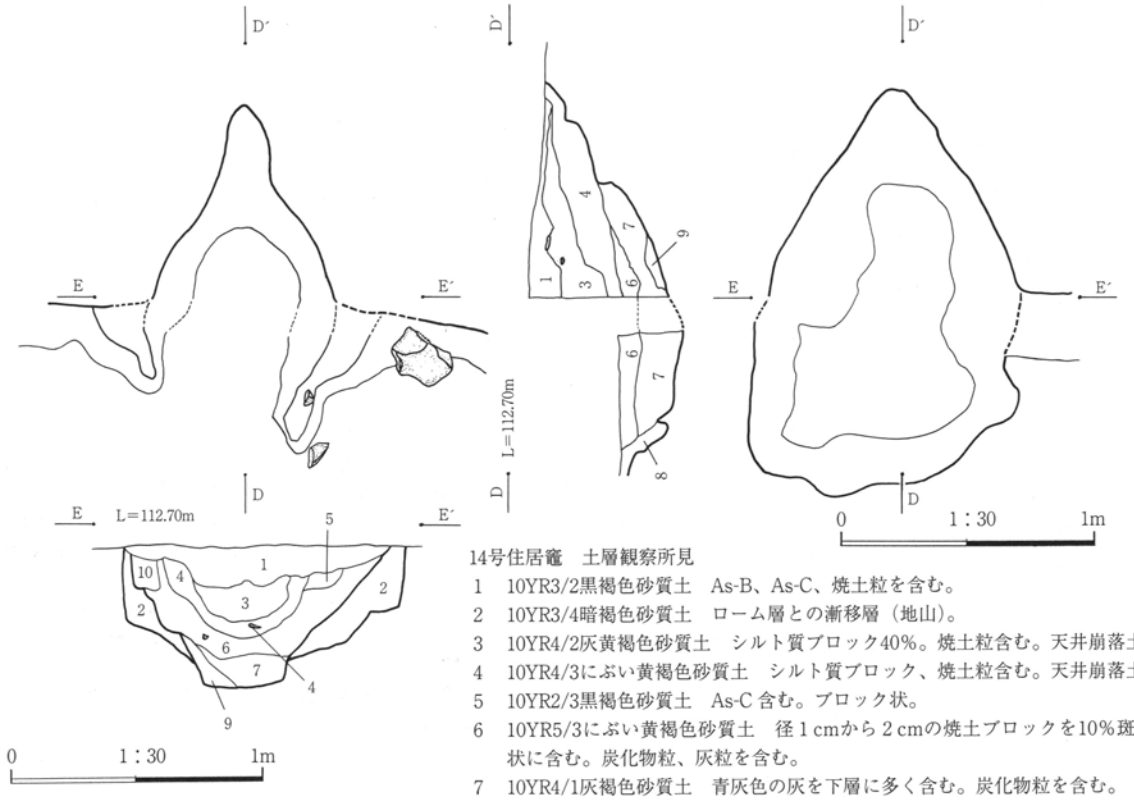


第175図　14号住居掘方　貯蔵穴
北西張り出し部土層断面図

14号住居貯蔵穴　土層観察所見
1　10YR3/4　暗褐色土　焼土粒、炭化物粒、ローム粒を含む。
2　１層よりローム粒少ない。
3　１層中に径１cm大の焼土小ブロック３％。炭化物粒含む。
4　10YR4/1　灰褐色粘質土　焼土粒、炭化物粒含む。
5　10YR5/8　明黄褐色土　径３cmから５cmのロームブロックを主体とし、10YR3/4暗褐色土を混入。
6　黄褐色土　ロームブロック。

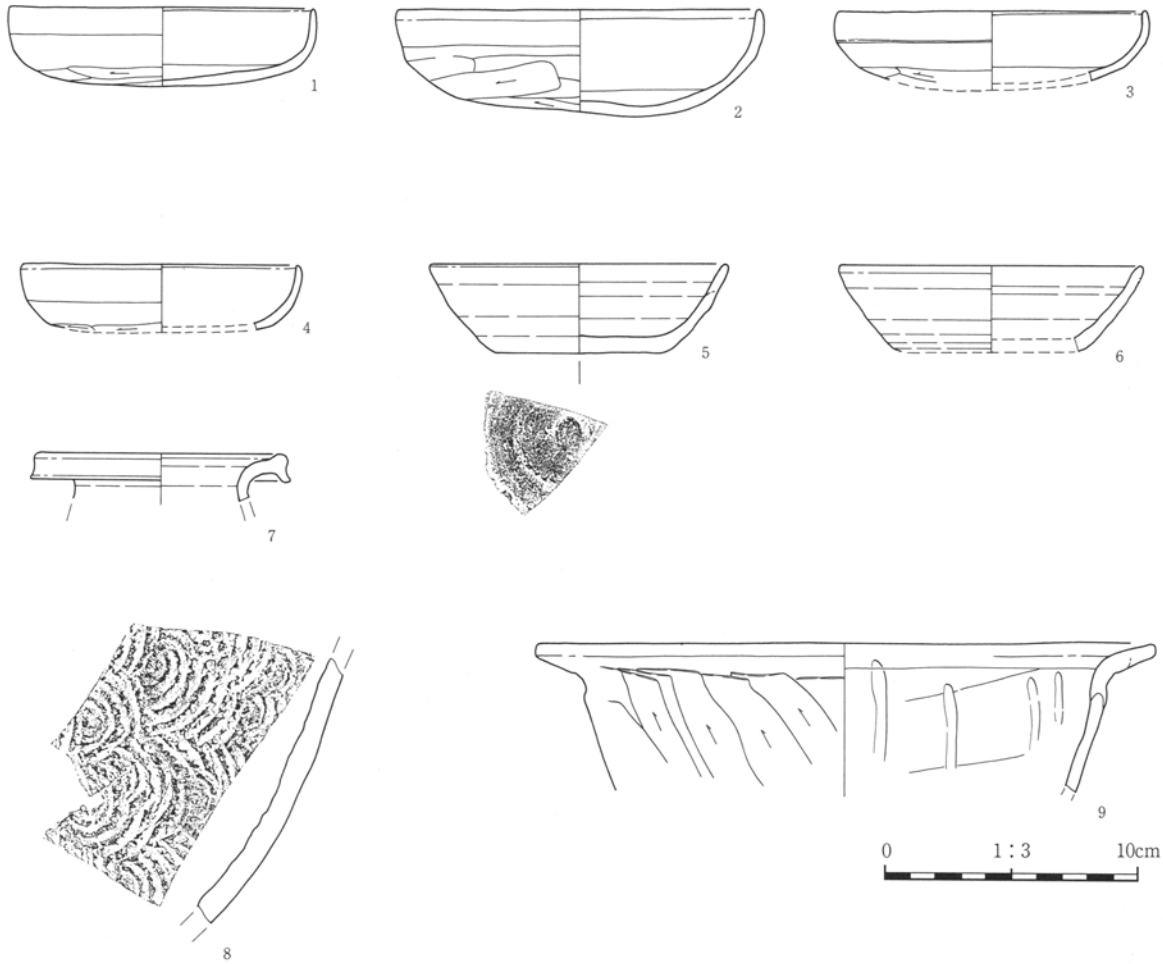
14号住居北西張り出し部　土層観察所見
1　にぶい褐色砂質土　軽石を含む。密。
2　にぶい褐色砂質土　ローム粒、焼土粒、炭化物粒を全体に混ずる。

第174図　14号住居掘方平面図



14号住居竈　土層観察所見
1　10YR3/2黒褐色砂質土　As-B、As-C、焼土粒を含む。
2　10YR3/4暗褐色砂質土　ローム層との漸移層（地山）。
3　10YR4/2灰黄褐色砂質土　シルト質ブロック40%。焼土粒含む。天井崩落土。
4　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土　シルト質ブロック、焼土粒含む。天井崩落土。
5　10YR2/3黒褐色砂質土　As-C 含む。ブロック状。
6　10YR5/3にぶい黄褐色砂質土　径１cmから２cmの焼土ブロックを10%斑点状に含む。炭化物粒、灰粒を含む。
7　10YR4/1灰褐色砂質土　青灰色の灰を下層に多く含む。炭化物粒を含む。
8　10YR2/2黒褐色土　炭化物塊、焼土ブロックを含む。
9　10YR6/8明黄褐色土　地山ローム主体。黒褐色土を含む。
10　10YR5/1褐灰色粘質土　As-C、焼土粒含む。

第176図　14号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図



第177図　14号住居出土遺物

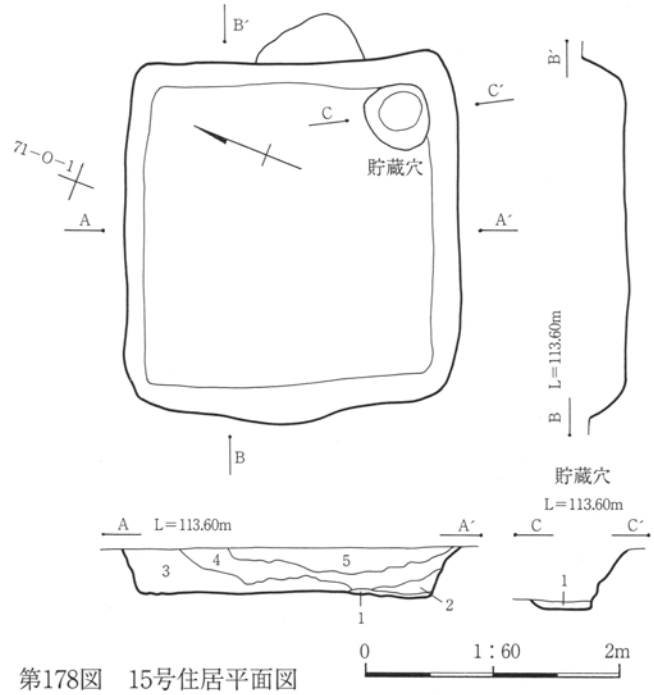
15号住居

位置　61-N.O-20グリッド　標高113.4mの台地頂部に近い平坦地に立地する。調査区界近くにあるため断定できないが、竪穴住居としてはやや孤立した位置にある。東壁部にこの住居より古い土坑がある。

形態　小型で、ほぼ方形を呈する。竈はない。東南隅に土坑があるが他の３隅は整っている。　**規模**　東西2.35m　南北2.30m

床　ほぼ均平に仕上げられるが、硬化面は薄い。西壁際のみが周溝状にわずかに低くなっている。中央部はわずかに高くなる。

壁　ソフトローム中位まで掘り込まれており、30cmから35cmの残存壁高がある。上方に向かってやや開きながら立ち上がる。



第178図　15号住居平面図
土層断面図　高低図　貯蔵穴土層断面図

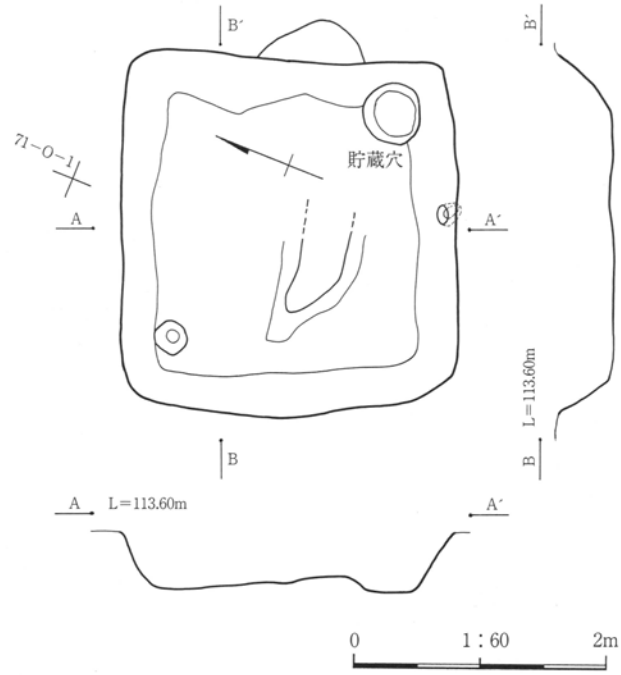
貯蔵穴　東南隅部に浅い円形の掘り込みがあるが出土遺物はない。

竈　認められない。

遺物　この遺構に伴う出土遺物はない。

15号住居　土層観察所見
1　黄褐色土
2　暗褐色土　ロームブロックを斑状に含む。
3　暗褐色土　ロームブロックを含む。As-Cを少量含む。
4　黒褐色土　ロームブロックをまばらに含む。As-Cを含む。
5　黒褐色土　As-Cをやや多く含む。

15号住居貯蔵穴　土層観察所見
1　黒褐色砂質土　As-Cを含む黒褐色土と径１cm大のローム漸移層の混土。



第179図　15号住居掘方平面図　高低図

16号住居

位置　61-E.F-20グリッド　111.4mから111.5mの緩い傾斜部に立地する。住居群の中では低い位置に当たり、西にやや離れて10号、17号住居、北側は同標高でやや離れた位置に18号住居がある。

形態　ゆがんだ隅丸方形の平面形を呈する。北壁がふくらむため、計測値としては南北方向が長軸をなす。ふくらみに従って北東角は弧状をなし、北西角もゆるく曲がる。南西角の屈曲はやや強い。竈右手の東壁南端部は小さな棚状に張り出し、南壁の東端も浅い円弧状に張り出す。　**規模**　南北2.5～2.8m　東西2.3m

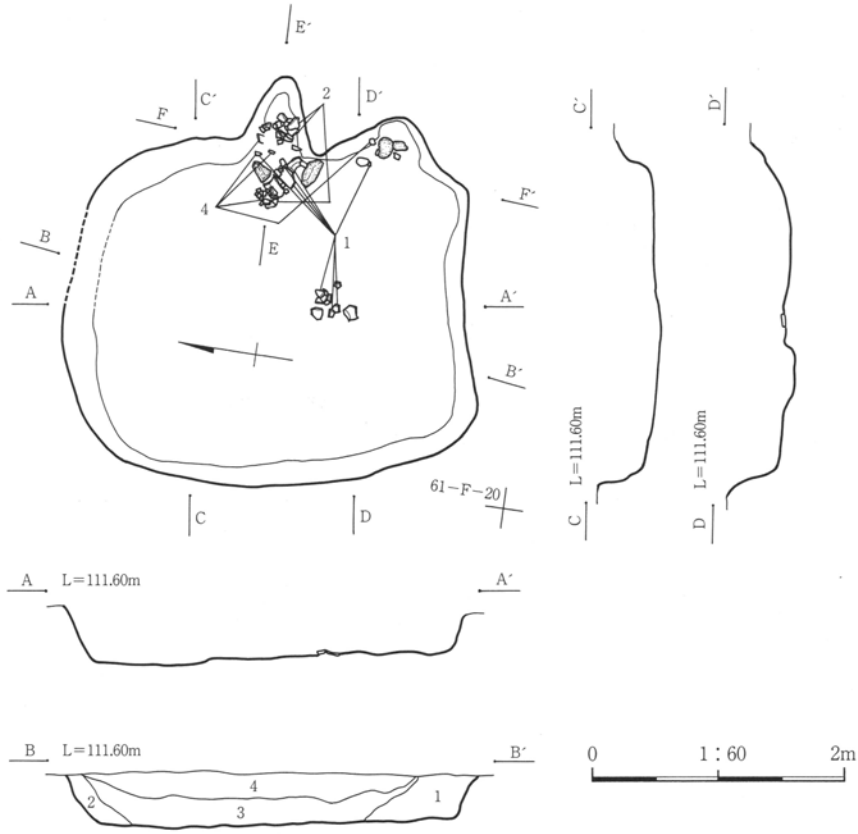
床　黒ボク中にあり、黒色粘質土の掘削面を踏み固めて床とする。全体には均平であるが、住居中央部がやや低く、西部が一段下がる。

壁　東壁側で27cmから30cm、西壁側では36cmから40cmの残存壁高がある。南壁、西壁は比較的垂直に近く立ち上がるが、北壁から東壁にかけてはやや上方に開きながら立ち上がる。

貯蔵穴　貯蔵穴は認められないが、竈右脇にあたる東壁南端部を壁外に小さく掘り込んで、床面より一段高い棚状の施設を設けている。確認面からの深さは20cmほど、床面からの高さは14cmほどで、間口50cm、奥行き35cmほどの台形状の平面形である。

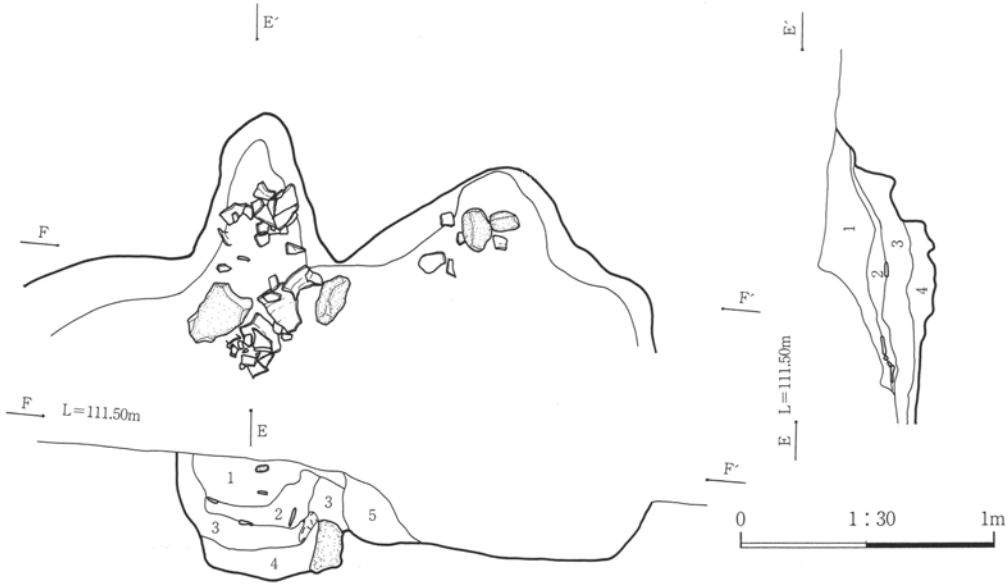
竈　東壁中央部を壁外に掘り込んで、黒褐色の粘土を貼って構築する。主軸方向はN-88°-Eを示す。壁内への張り出しは認められず、焚き口相当部の両側に袖石に用いられたと思われる粗粒安山岩の割石がある。掘方中央には小ピットがあり、支脚の据え方かと思われる。

遺物　竈内から竈前にかけてと棚状施設上面、さらに住居中央部南寄りに、それぞれ小さなまとまりをもって土器が出土している。竈で使用されていたと思われる土師器の甕が中心で器肉の薄い武蔵型甕である。坏は平底で器高の低いものである。年代は８世紀後葉と考えられる。



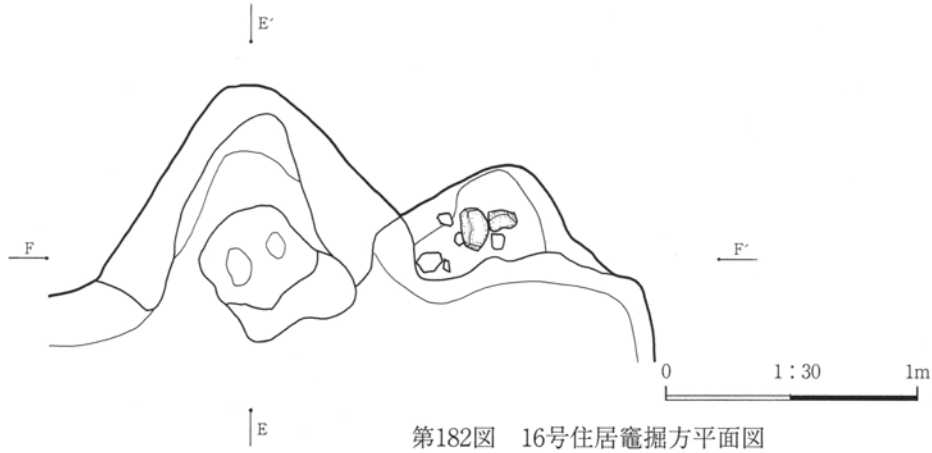
16号住居　土層観察所見
1　黒褐色土　As-C 少量含む。
2　黒褐色土　As-C 少量含む。やや明るい。
3　黒褐色土　As-C を含む。
4　黒褐色土　As-C をやや多く含む。にぶい黄褐色砂質土の斑を多く含む。

第180図　16号住居平面図　土層断面図　高低図

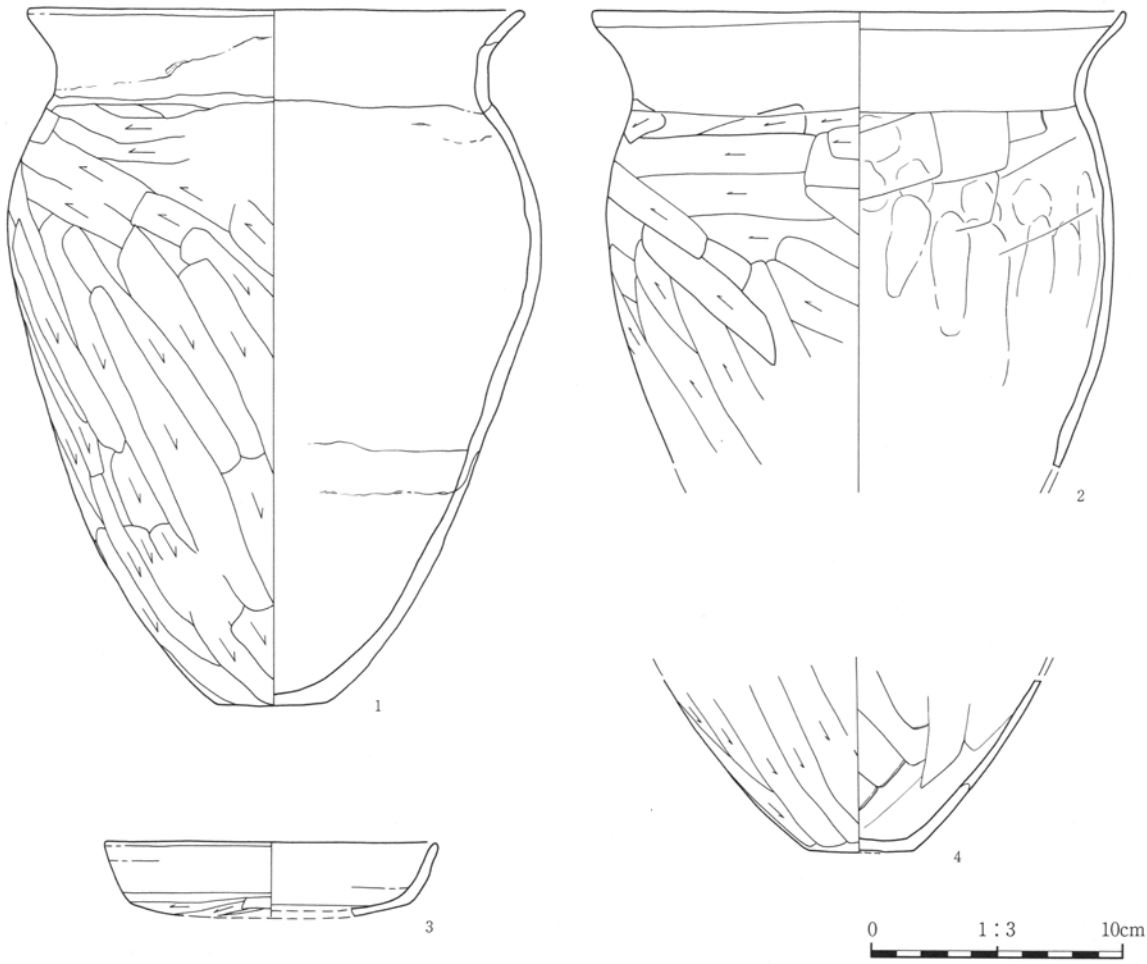


第181図　16号住居竈平面図　土層断面図

16号住居竈　土層観察所見
1　10YR1/3　黒褐色砂質土　にぶい黄褐色土の斑点が全体に混入。
2　10YR3/2　黒褐色砂質土　やや粘性あり。袖及び天井部の構築材が崩落したもの。
3　褐色砂質土　径1mmから5mmの焼土粒をやや多く含む。中央部では特に焼土粒多い。壁際では粘土が混入する。
4　黒色砂質土　径1mm前後の焼土粒を全体に含む。
5　As-Cを含む黒褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質土の斑状混土。



第182図　16号住居竈掘方平面図



第183図　16号住居出土遺物

17号住居

位置　61-G.H-20/71-G.H-1グリッド　標高111.8mから112.0mのややゆるい傾斜部に立地する。直接切り合う遺構はない。南に10号、北に19号、西に13号・20号住居が隣接する。東にやや離れて16号・18号住居がある。

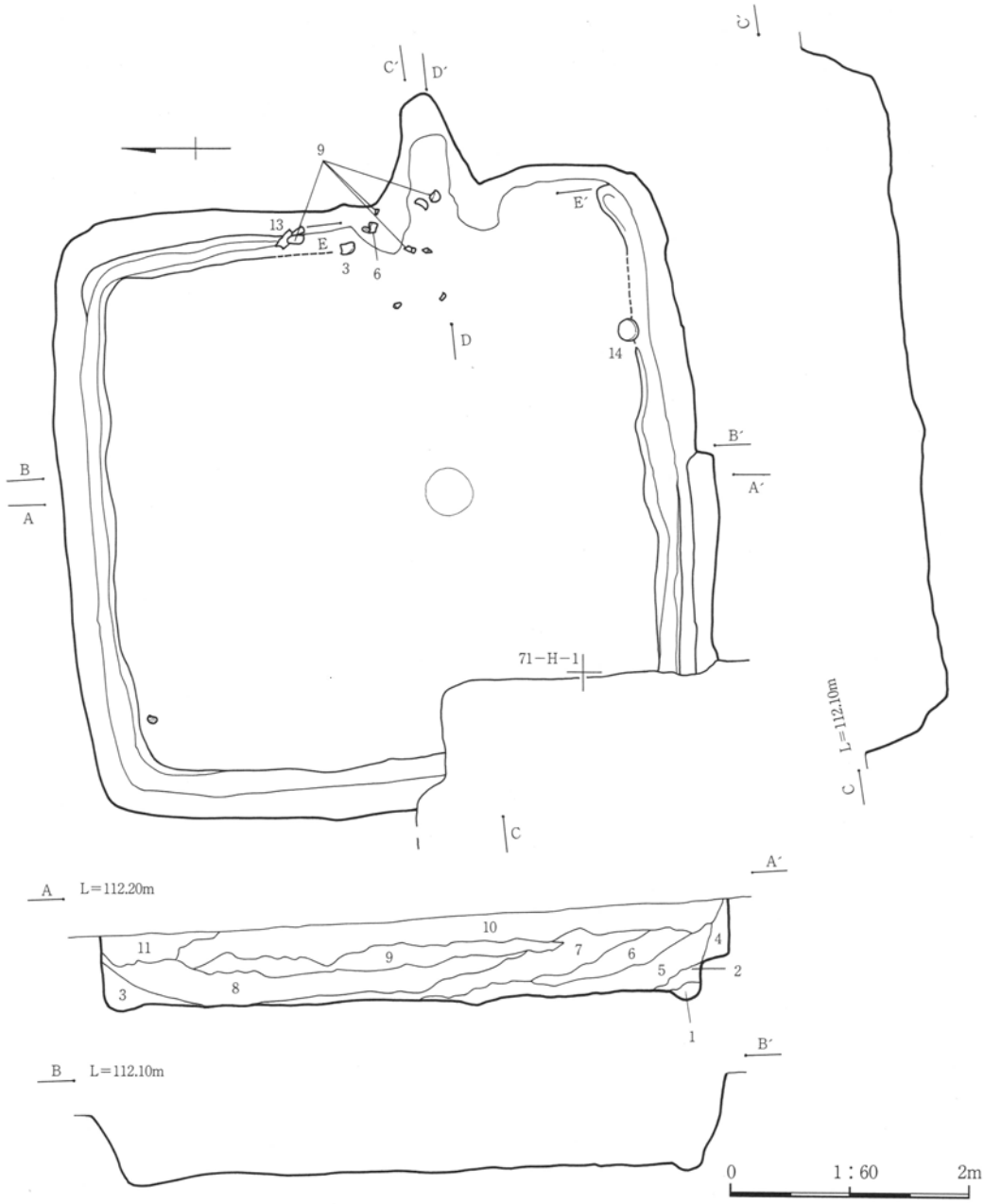
形態　西南隅が攪乱によって失われているが、整った方形を呈する大型の竪穴住居である。　**規模**　南北

4.98m　東西4.68m

床　ロームブロック、ローム粒を主体とし、暗褐色土を含む土を貼って、ほぼ均平に仕上げられる。竈周辺では不明瞭になるが、竈左袖から壁東壁南端部を除いて、壁周溝がめぐる。

壁　四壁とも、壁周溝を介してほぼ垂直に立ち上がる。残存壁高は、低い東壁部でも50cmを越え、最も深い北壁東部では76.2cmある。

竈　東壁中央部を壁外に掘り込んで、天井部には黄橙色粘土、燃焼部には灰黄褐色粘土を貼り、灰白色粘土



17号住居　土層観察所見

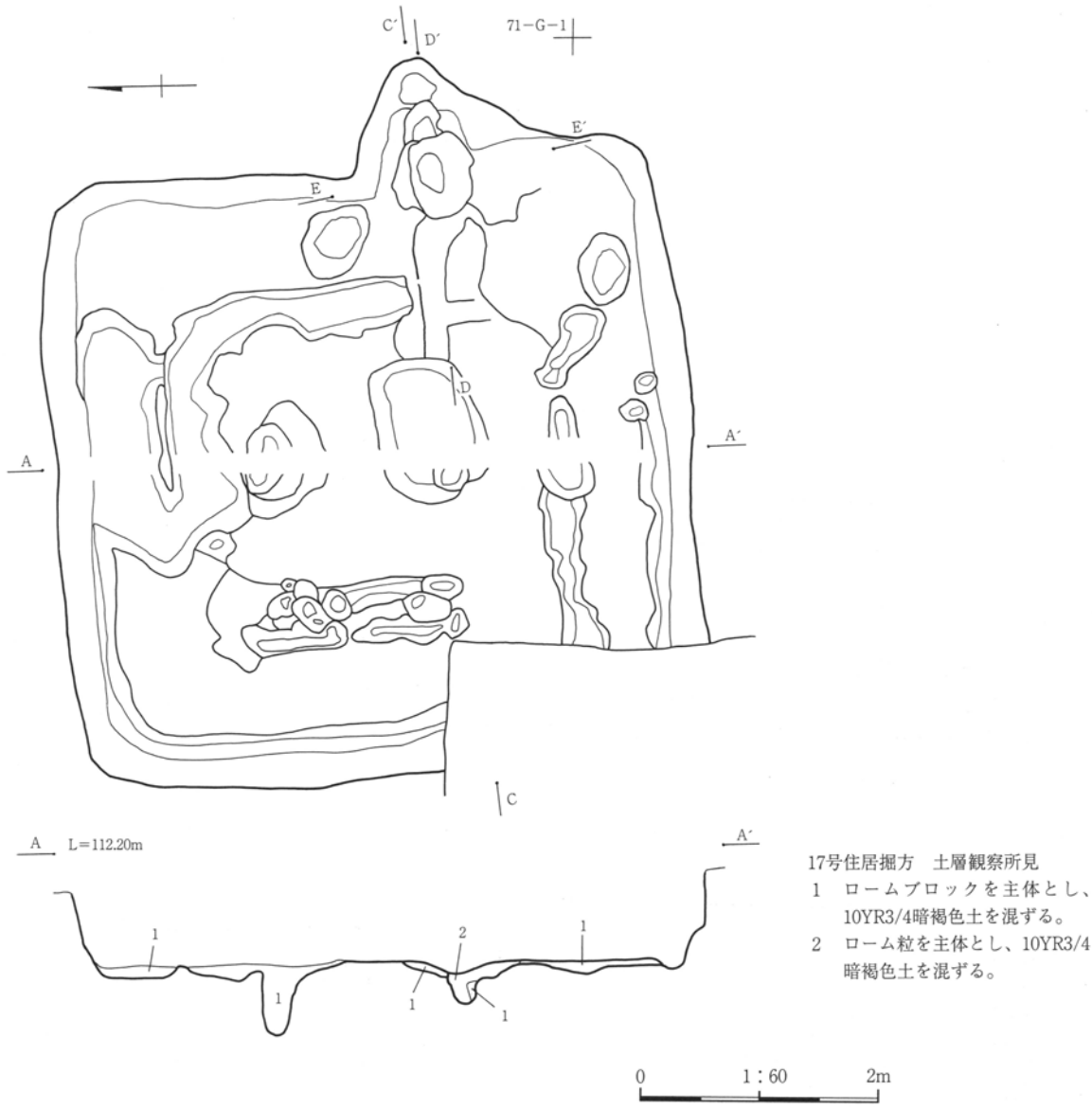
1　暗褐色土　ロームブロックを斑状に含む。
2　暗褐色土　ローム粒少量含む。
3　黒褐色土　ローム粒、ロームブロック、As-C 少量含む。
4　暗褐色土　ローム粒少量含む。
5　黒褐色土　As-C 含む。ローム粒少量含む。やや暗い。
6　黒褐色土　As-C含む。ローム粒少量含む。
7　黒褐色土　As-C含む。ローム粒含む。
8　黒褐色土　As-C含む。ローム粒少量含む。
9　暗褐色土　As-C含む。やや暗い。
10　暗褐色土　As-C含む。やや明るい。
11　暗褐色土　As-C含む。

第184図　17号住居平面図　土層断面図　高低図

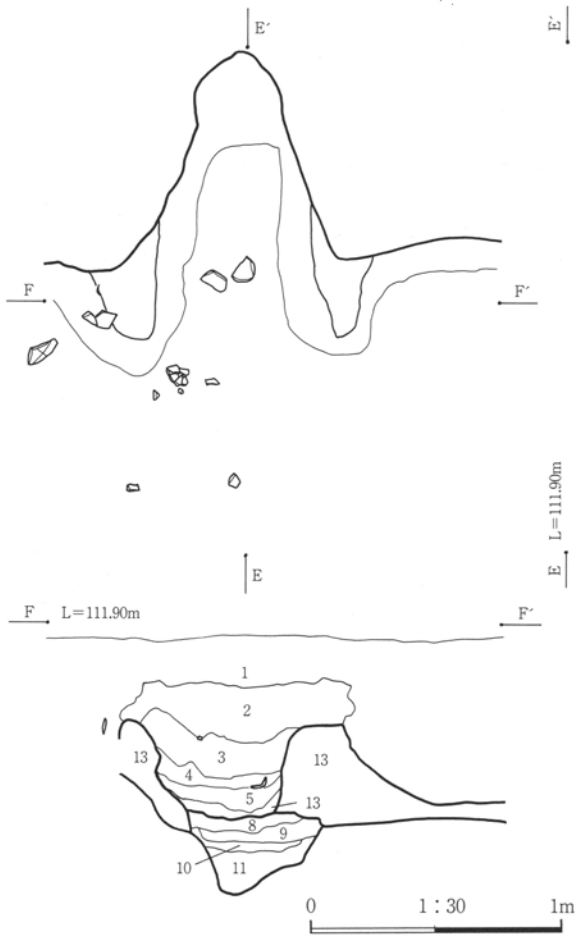
で袖を構築する。主軸方向はN-84.5°-Eを示す。壁内に短い袖を持つ。袖石、支脚およびその据え方は認められなかった。

掘方　壁周溝は西半部で深く、北壁の西半から西壁を経て南壁西半までコ字状にめぐる。竈左手と南壁東部には浅い楕円形掘り込みがあるが、施設として考えられるものではない。住居中央を一回り小さく囲むように幅広の溝状掘り込みが見られ、この内側には比較的大きな隅丸長方形や不整円形の掘り込みがある。東壁北側及び西壁とこの溝状掘り込みの間は大きく掘られることがない。

遺物　出土遺物は竈内から竈左手にかけて多い。土師器の坏が主体である。８世紀前葉と中葉の土器が見られ、前葉の遺物は底部丸底の土師器坏（大型と小型）、須恵器坏蓋の模倣坏、甕である。中葉の遺物としては、器高が低く偏平、あるいは平底の土師器坏、甕、環状摘みの須恵器蓋などがある。垂直的な出土位置では明確に年代は分けられないが、８世紀中葉の遺物が大半を占めている。



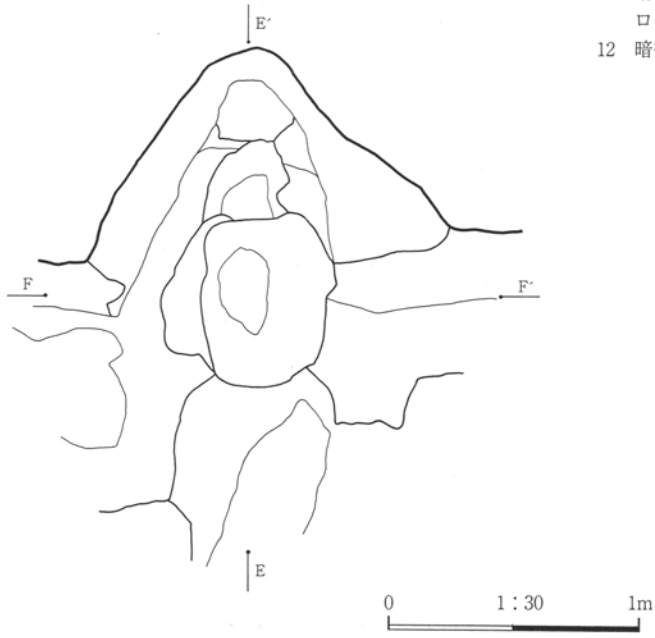
第185図　17号住居掘方平面図　土層断面図



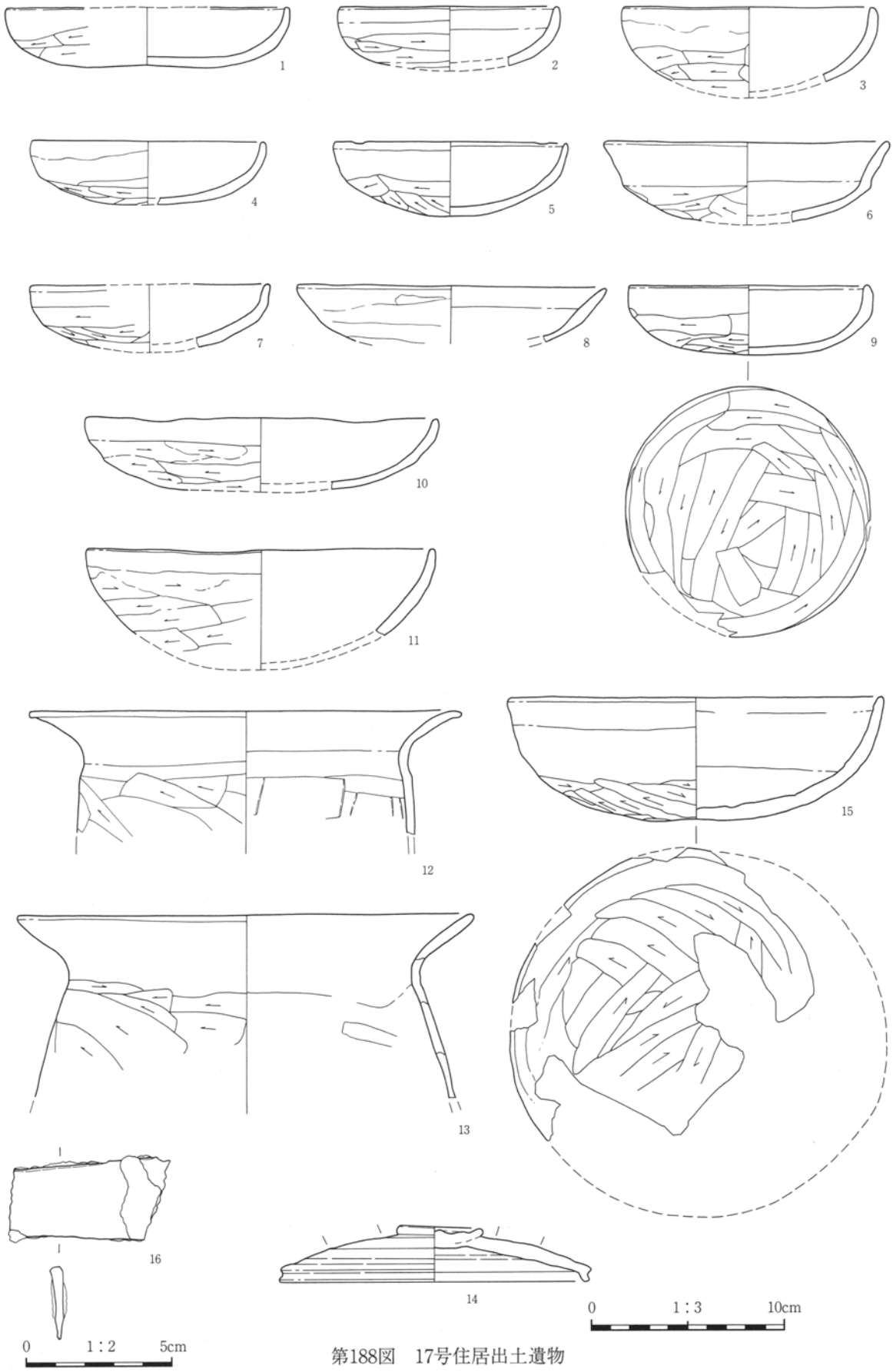
第186図　17号住居竈平面図　土層断面図

17号住居竈　土層観察所見

1　10YR4/4　褐色砂質土　10YR5/4にぶい黄褐色砂質土が斑点状に混入。As-C を主とする径１mm以下の軽石粒を多く含む。
2　１層と10YR7/4　にぶい黄橙色粘土の混土。
3　黄橙色粘土　１層が混入する。全体に被熱し、わずかに赤変している。一部は焼土ブロック化し硬い。天井部崩落土。
4　焼土を主とし、黄橙色粘土が混入する。天井部内壁からの崩落土。
5　10BG2/1　青黒色灰層。
6　３層中に類似。焼土粒を多く含む。
7　10YR2/2　黒褐色砂質土　灰を多く含む。焼土粒含む。
8　10YR6/2　灰黄褐色粘質土　暗褐色土が少量混ずる。焼土ブロックを混ずる。
9　にぶい黄褐色砂質土と10YR5/1褐灰色粘土の混土。焼土粒少量含む。
10　ロームと暗褐色砂質土、黒褐色砂質土との混土。
11　暗褐色砂質土と黒褐色砂質土の混土　径５mm以下の焼土粒、ローム粒をやや多く含む。
12　暗褐色砂質土　ローム粒10％含む。緻密で硬く締まる。



第187図　17号住居竈掘方平面図



第188図　17号住居出土遺物

18号住居

位置　71-D.E-1.2グリッド　標高111.3mから111.5mの緩傾斜部低位に立地する。直接切り合う遺構はない。住居集中部の東端近くにあたり、北に21号住居、南に16号住居、西にやや離れて19号、17号住居がある。

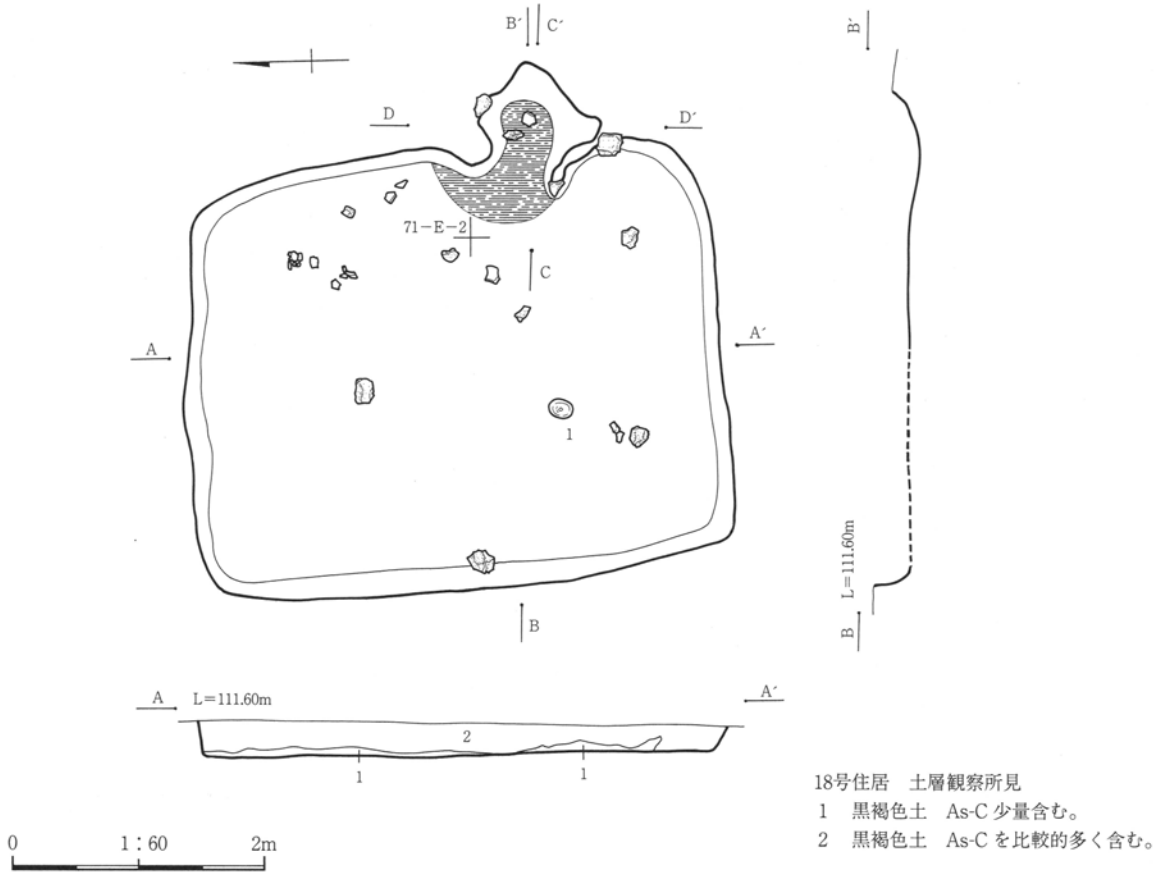
形態　南北にやや長い横長長方形を基本とするが、北辺がやや短く、北東角がやや開き気味になる。南東角は円弧状を呈する。　**規模**　長軸4.03m　短軸2.95m～3.25m

床　黒ボク土中に置かれる。硬化は比較的弱く、捉えにくい。

壁　西壁側では30cmを越える残存壁高があるが、東壁では20cmほど、東南角では15cmほどしかない。ほぼ垂直に立ち上がる。

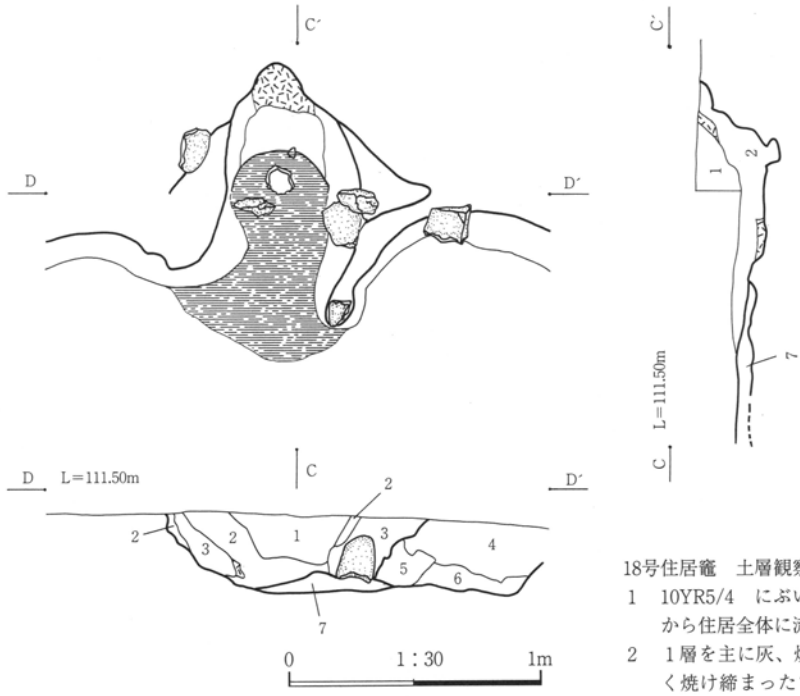
竈　東壁南寄りの地山を掘り込んで作る。主軸方向はN-96°-Eを示す。袖部は住居内に短く張り出す。燃焼部は壁外にある。にぶい黄褐色の粘土を貼って構築材とし、壁には粗粒安山岩の割石を構造材として用いる。燃焼部中央やや左手に支脚用石が残されていた。竈前面に粘土が広がっている状況が観察されたが、これは竈から流れて広がったものではなく、住居底面の黒ボク土の直上に貼られたものと見られ、1号、2号、16号住居でも同様の状況が見られる。竈掘方掘削後、竈前の床から竈底面にかけて粘土を貼り、壁石を並べてから壁、天井を貼るという構築順序が想定される。

遺物　住居の東北四半に遺物が小さなまとまりを見せるが、資料化できるものは少ない。器高が低く、底部がヘラ削りで調整された坏、頂部が潰れたような形状の小振りな宝珠形摘みを持つ蓋、器高が低く偏平な土師器坏があり、8世紀中葉頃の年代があてはまると思われる。



18号住居　土層観察所見
1　黒褐色土　As-C 少量含む。
2　黒褐色土　As-C を比較的多く含む。

第189図　18号住居平面図　土層断面図　高低図



第190図　18号住居竈平面図　土層断面図

18号住居竈　土層観察所見

1　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　焼土粒を少量含む。壁外から住居全体に流れ込む自然埋没土。

2　１層を主に灰、焼土を多く混ずる。壁際に混ずる焼土は硬く焼け締まったブロック状で一部は径１cm大の斑状をなす。中央部では径５mm大のものが全体に混じり込んでいる。

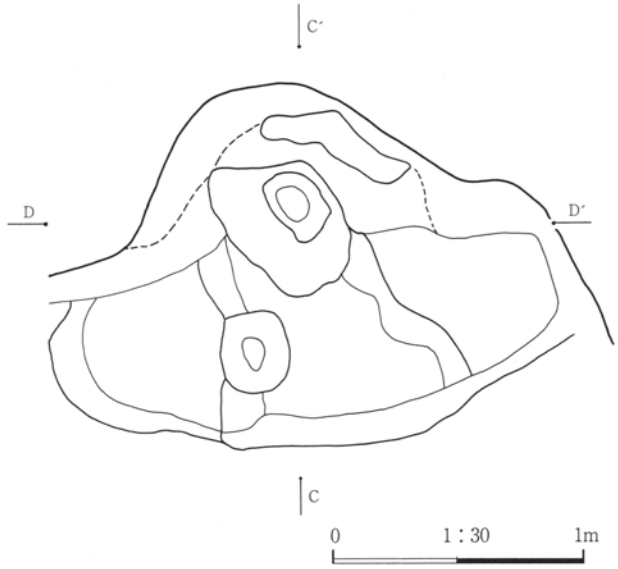
3　10YR5/4　にぶい黄褐色粘質土　やや緻密で硬い。被熱によりわずかに赤変している。主たる構築材。

4　黒褐色砂質土　As-C を含む。

5　黒褐色砂質土　にぶい黄褐色砂質土を斑点上に含む。３層の径１cm大の小ブロックを少量含む。

6　灰白色粘土　４層を多く含む。

7　地山の黒ボク土にわずかに焼土流が混入。貼り床材と見られ、やや硬く、緻密。



第191図　18号住居竈掘方平面図

18号住居竈　礫観察所見

①　左側壁の構造材　粗粒輝石安山岩転石。

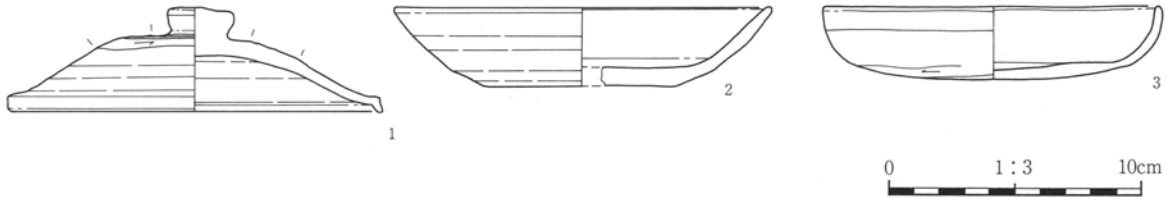
②　右側壁の構造材　粗粒輝石安山岩転石。

③　右側壁の構造材　粗粒輝石安山岩。水平に置かれ。②が脇に立てられている。

④　支脚石　粗粒輝石安山岩　赤変している。

⑤　直方体の割石。壁際に固定される。竈袖の養生材か。

⑥　竈と直接関係しない。砥石か？



第192図　18号住居出土遺物

19号住居

位置　71-F.G-2グリッド　標高111.7mから111.8mの緩傾斜部に立地する。直接切り合う遺構はない。南に17号住居、西に20号、22号住居、東にやや離れて18号、21号住居がある。

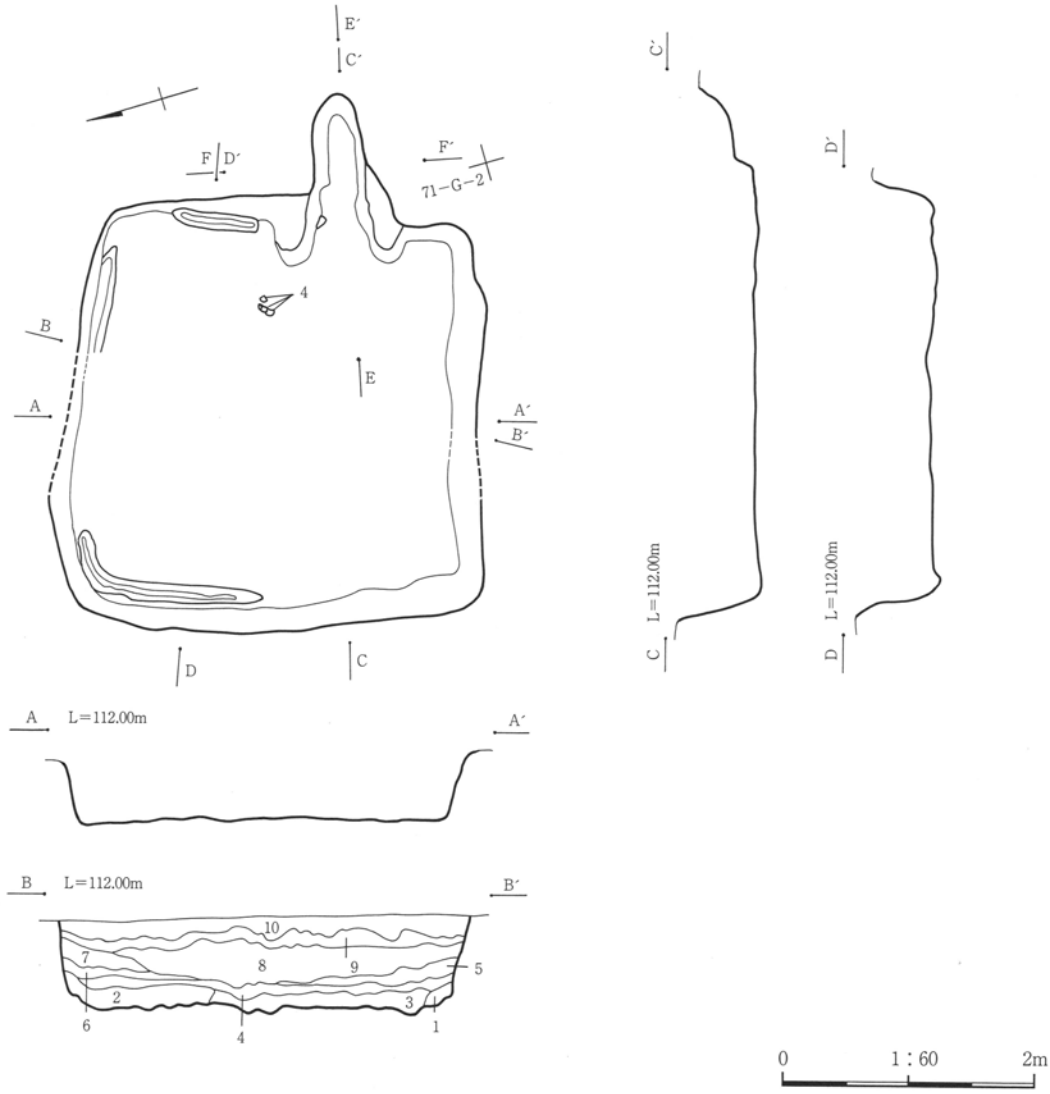
形態　東西がやや長い縦長長方形。四隅の角は共に比較的整っている。　**規模**　長軸3.02m　短軸2.84m

床　ローム土及びローム漸移土と黒色砂質土の混土で貼られる。住居中央部がわずかに高いが、ほぼ均平に仕上げられる。住居北半には壁周溝がめぐる。

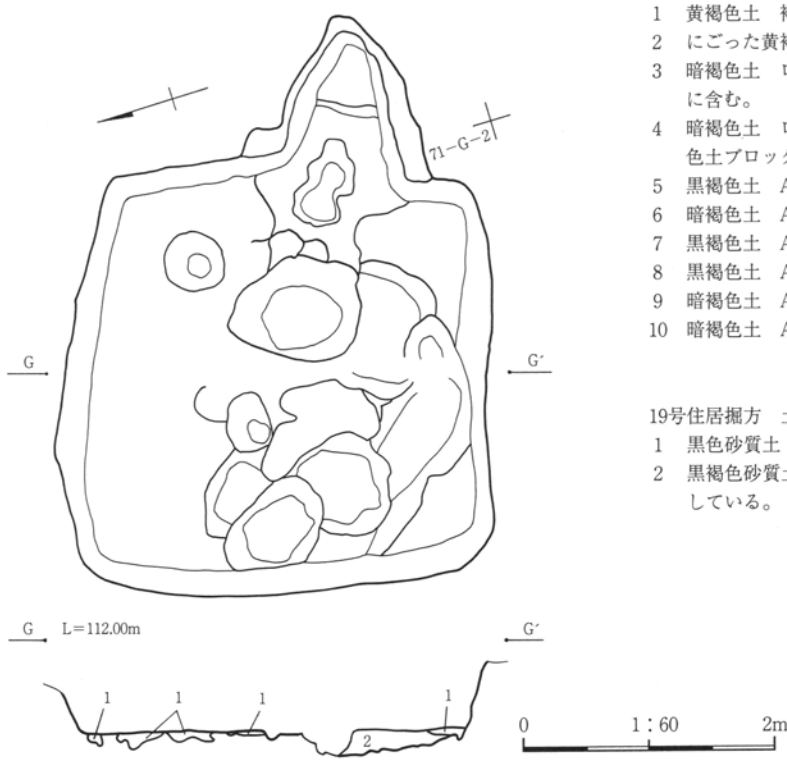
壁　最も浅い東南隅で43cm、西壁中央では65cmの残存壁高がある。四壁共に垂直に近く立ち上がる。

竈　東壁南よりの地山を掘り込み、住居内に短く袖を張り出す。暗褐色、灰黄褐色の粘土を貼って作られ、支脚の据え方と思われるくぼみがあるが、支脚そのものは残っていない。遺物も少ない。

遺物　出土遺物は少ない。底部をヘラで切離し後、底部周縁をヘラ削りで調整した須恵器坏、器高が低く偏平なつくりの土師器坏、土師器甕があり、いずれも８世紀中葉のものである。



第193図　19号住居平面図　土層断面図　高低図



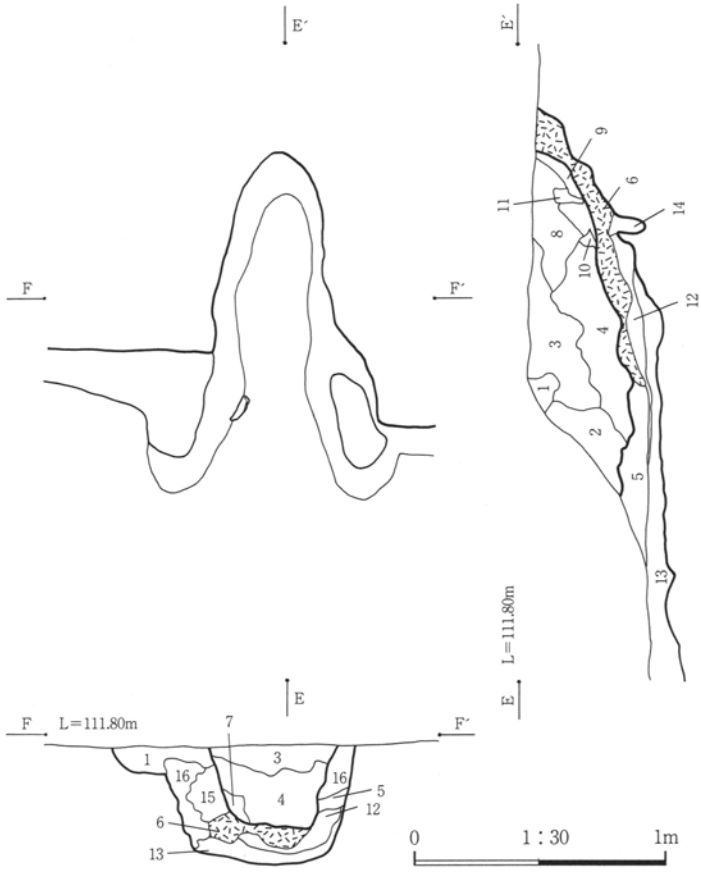
19号住居　土層観察所見

1　黄褐色土　褐色土ブロック少量含む。
2　にごった黄褐色土　ロームブロック含む。褐色土斑含む。
3　暗褐色土　ロームブロック少量含む。焼土ブロックわずかに含む。
4　暗褐色土　ロームブロックを斑状に含む焼土ブロック、褐色土ブロックわずかに含む。
5　黒褐色土　As-C 少量含む。
6　暗褐色土　As-C、ローム粒少量含む。
7　黒褐色土　As-C 含む。ローム粒わずかに含む。
8　黒褐色土　As-C 含む。焼土粒若干含む。
9　暗褐色土　As-C 含む。やや暗い。
10　暗褐色土　As-C 含む。褐色土ブロック少量含む。

19号住居掘方　土層観察所見

1　黒色砂質土　径１cm以下のローム小ブロックを少量含む。
2　黒褐色砂質土を主とし、ロームを斑状に含む。上面は硬化している。

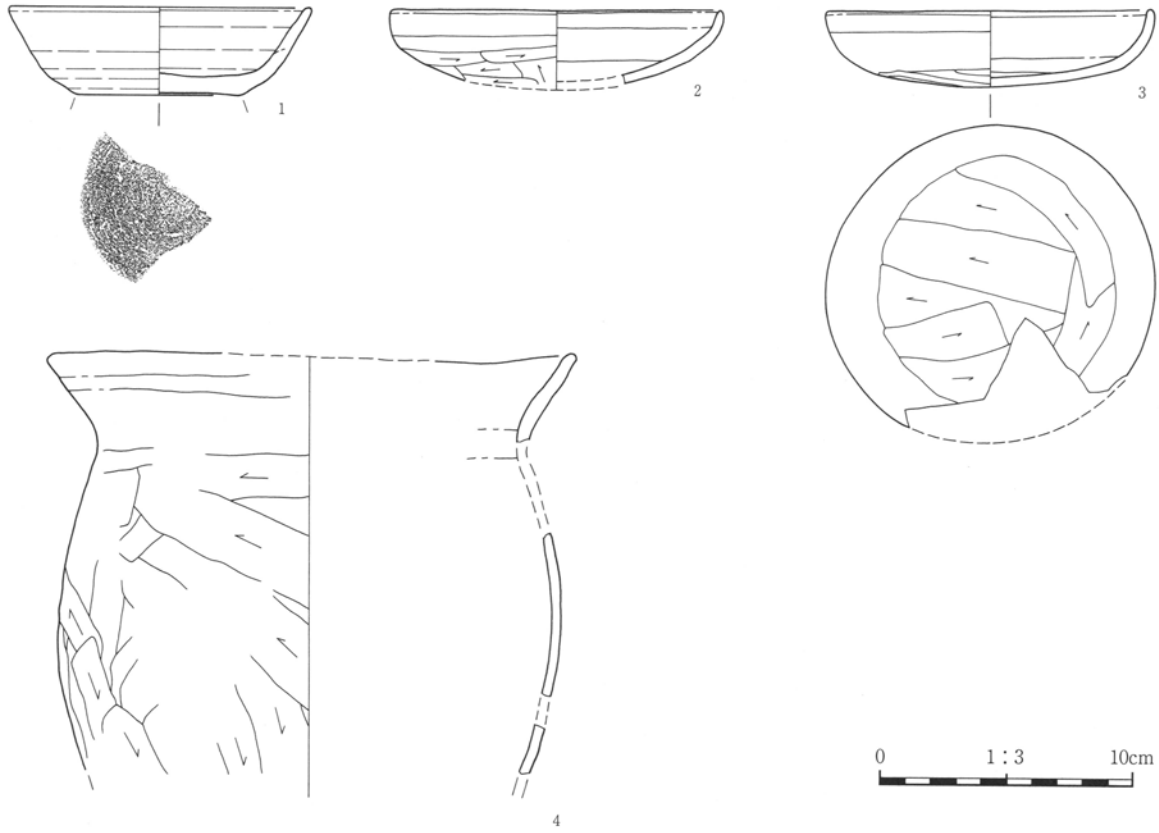
第194図　19号住居掘方平面図　土層断面図



19号住居竈　土層観察所見

1　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　軽石を少量含む。
2　10YR1/3　黒褐色砂質土　軽石を含む。
3　２層と１層の斑状混土。４層近くではシルト質粘土を少量含む。
4　10YR3/3　暗褐色砂質土　軽石を含む。シルト質粘土を少量含む。
5　10YR3/4　暗褐色粘質土　焼土粒わずかに含む。緻密。天井部崩落土か。
6　焼土層　カリカリに焼けた径１cmから３cmのブロック。天井崩落土。
7　10YR5/2　灰黄褐色粘質土　焼土を斑点状に含む。
8　10YR7/2　にぶい黄橙色シルト質土　軽石、径１cm大の焼土ブロックを少量含む。黒褐色土を斑点状に含む。煙道部天井に当たる。
9　８層に炭化物や焼土ブロックを含む。軽石は含まない。
10　10YR2/2　黒褐色砂質土　炭化物ブロックを含む。
11　10YR6/8　橙色砂質土　天井から崩落した焼土が崩れたもの。
12　暗褐色砂質土　まばらに焼土を含む。やや粘性あり。
13　にぶい黄褐色土　ローム漸移層主体。焼土粒を含む黒色土との混土。床面構成土。
14　12層に粘土、焼土をやや多く含む。
15　５層を主とし、にぶい黄褐色砂質土と混ずる。内側は粘土主体で被熱し、淡く赤変。緻密で硬い。
16　５層とにぶい黄褐色砂質土との混土。

第195図　19号住居竈平面図　土層断面図



第196図　19号住居出土遺物

20号住居

位置　71-H.I-2グリッド　標高112.0mから112.2mの傾斜部に立地する。遺構の集中する部分にあたり、南西隅部で13号住居を切る。北に22号、東に19号、西に14号の各住居などがある。また、北側に１号柱穴列、２・６・７号掘立なども隣接する。

形態　南西角が13号住居を切り込むため不明確だが、やや平行四辺形状に歪んだ方形の平面形を呈する。確認できる三隅は整った角をなし、特に北西角は強く屈曲する。　**規模**　南北3.4m　東西3.22m

床　黄褐色のロームと黒褐色土の混土で貼られ、ほぼ均平に仕上げられる。壁周溝は認められないが、壁下をめぐるような掘方に沿って、壁際がわずかに低くなる。

壁　最も浅い東南角隅でも43cm、最深の北西隅では76.5cmの残存壁高がある。四壁共に崩れは比較的少なく、垂直に近く立ち上がる。

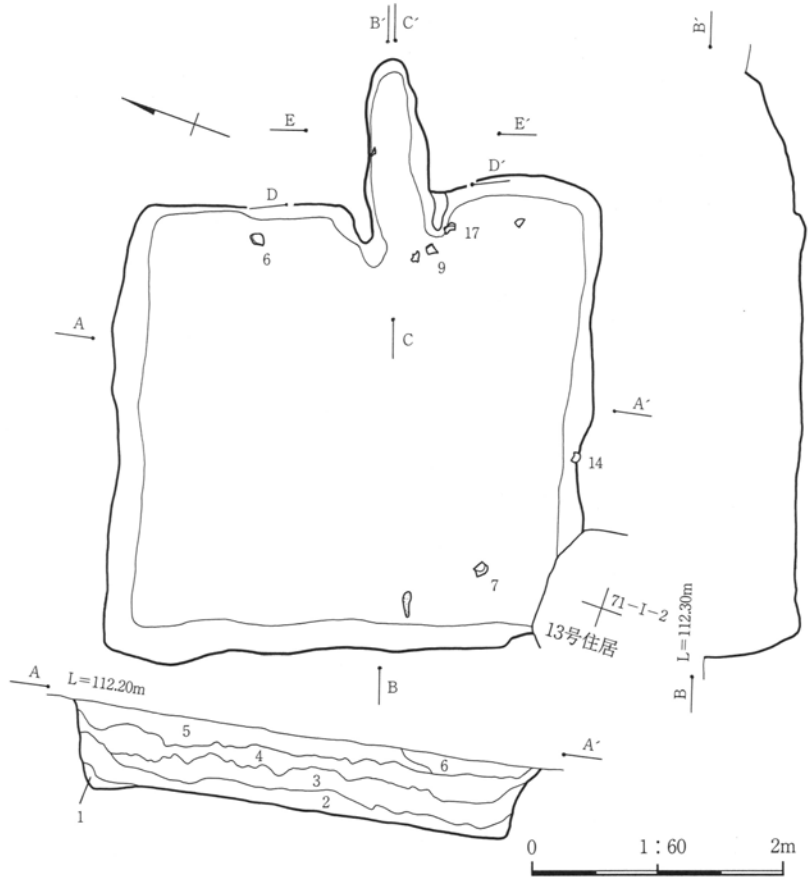
柱穴　床面では認められない。掘方では竈左手前及び住居中央部に径25cmから30cm、深さ15cmから20cmのピットがあるが、柱穴が想定される位置ではない。

貯蔵穴　床面では認められない。掘方では東南隅部が方形に広く掘り込まれ、その中でも住居の角にあたる部分が径40cm、深さ７cmほどの浅いくぼみとなっているが、遺物の出土等はない。

竈　東壁中央近くの地山を大きく壁外に掘り込み、にぶい黄褐色から黄橙色の粘土を厚く貼って構築している。住居内に短い袖を張り出す。主軸方向はN-71°-Eを示す。左袖焚き口部には16の甕が置かれ、そのやや奥には構造材を抜き取ったかのようなピットが見られる。右側壁部掘方でも甕がみつかっており、これも構造材として用いられたものであろう。燃焼部底には銀白色の灰が厚く堆積していた。

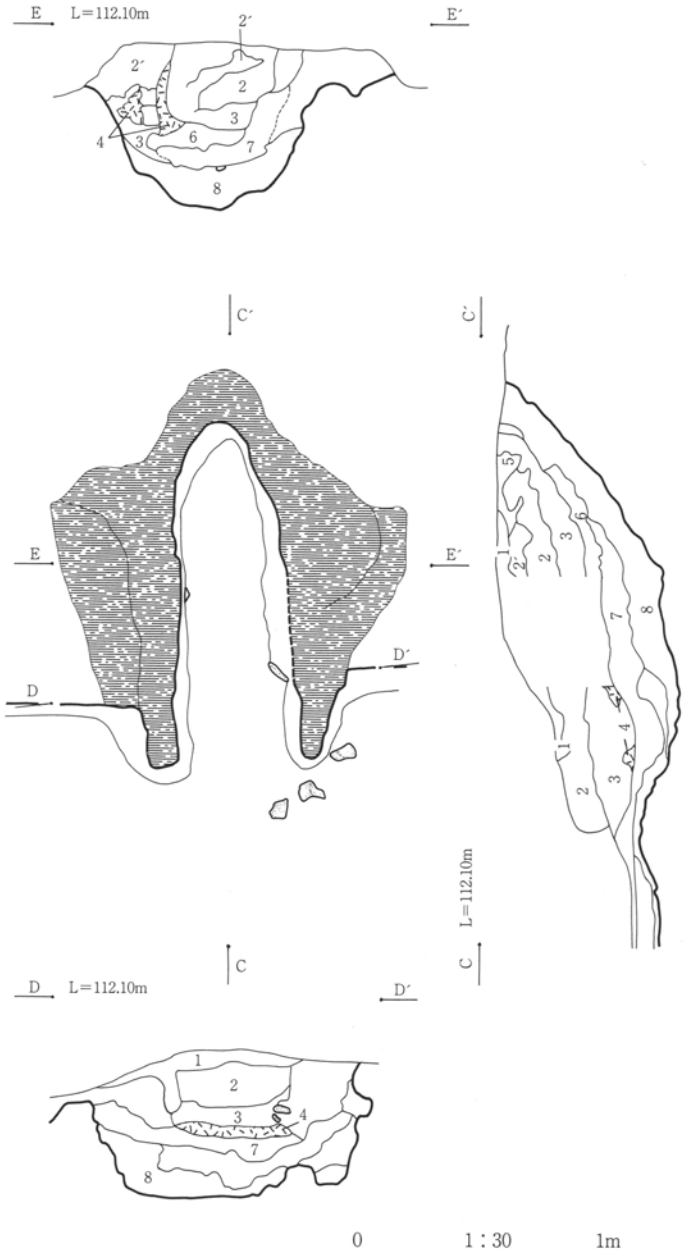
掘方　壁沿いを広く掘っているが、中央部は掘り残される。竈前は大きな弧状の掘方が連続し、そこからさらに一段下がるように方形に掘られる。北東隅から北西隅にかけても弧状の掘方が続き、西壁中央部では壁に沿った幅広の溝状になっている。南西隅から南壁中央にかけては小さなピットが連続するような掘方で、土工具の痕跡が残されているもののようである。

遺物　覆土から出土する土器は多いが、床面近くでは竈前および壁際に少量の土器が点在するのみである。土師器・須恵器の坏が主体となる。全体的に８世紀と９世紀の遺物が混在している様子で、９世紀の遺物はほとんどが土師器坏で、底部平底で体部の調整が省略されるものである。ほかに粗雑なつくりの須恵器高台付椀、環状摘みを持つ蓋が９世紀前葉の遺物となる。８世紀後葉の遺物は土師器甕、土師器台付甕、回転糸切離しの坏となる。８世紀中葉・前葉の遺物も混入しており、底部を回転ヘラ起こしで切離した須恵器坏、大型の土師器坏（銅椀模倣坏）がある。８世紀中葉の13号住居を切っていることもあり、９世紀前葉の年代を当てておきたい。



20号住居土層観察所見
1　黄褐色土　褐色土ブロックを斑状に含む。炭化物粒若干含む。
2　暗褐色土　As-C、焼土粒、炭化物粒少量含む。
3　暗褐色土　As-C、焼土粒、炭化物粒少量含む。
4　褐色土　As-C、焼土粒少量含む。
5　褐色土　As-C 含む。焼土粒わずかに含む。
6　撹乱土

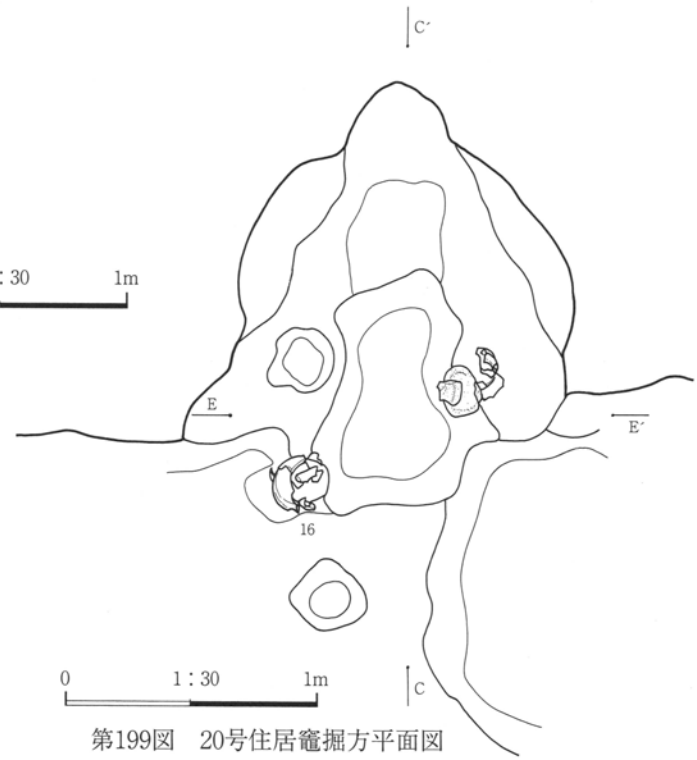
第197図　20号住居平面図　土層断面図　高低図



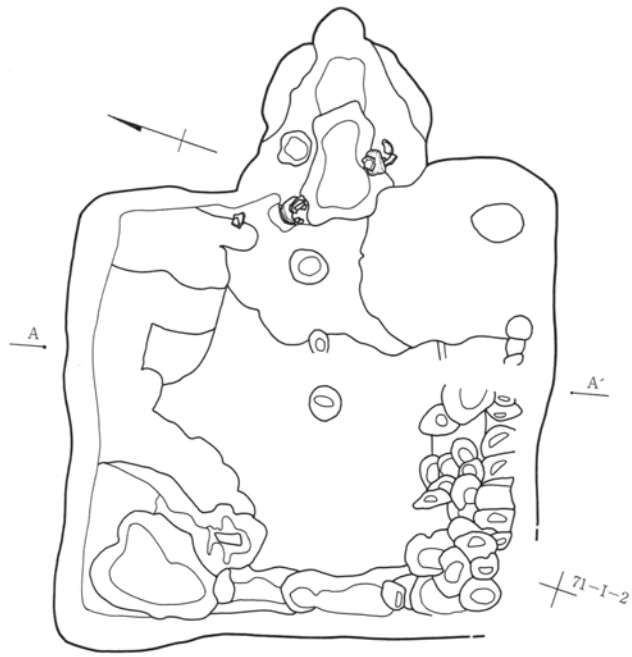
20号住居竈　土層観察所見

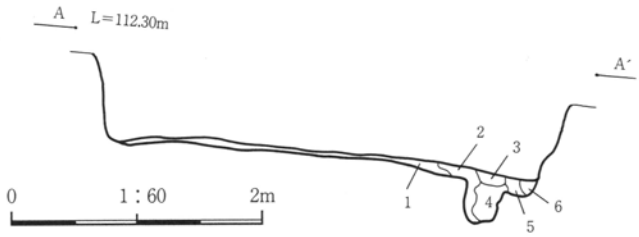
1　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　細かい焼土粒、粘土粒を全体に含む。
2　10YR5/2　灰黄褐色シルト質土　褐色砂質土が斑点状に混入。袖からの崩落土。　2′　10YR6/3にぶい黄褐色砂質土　焼土粒、軽石粒を含む。1層と2層の混土らしい。
3　10YR4/3　にぶい黄褐色粘質土　被熱し赤みを帯びる。天井部崩落土。
4　焼土　袖内壁部。
5　10YR5/3　にぶい黄褐色土　焼土粒、軽石粒を含む。被熱し、やや赤みを帯びる。
6　灰層。
7　灰と焼土ブロックの混土。
8　3層と径1cmから3cm大の焼土ブロックとの混土。

第198図　20号住居竈平面図　土層断面図



第199図　20号住居竈掘方平面図

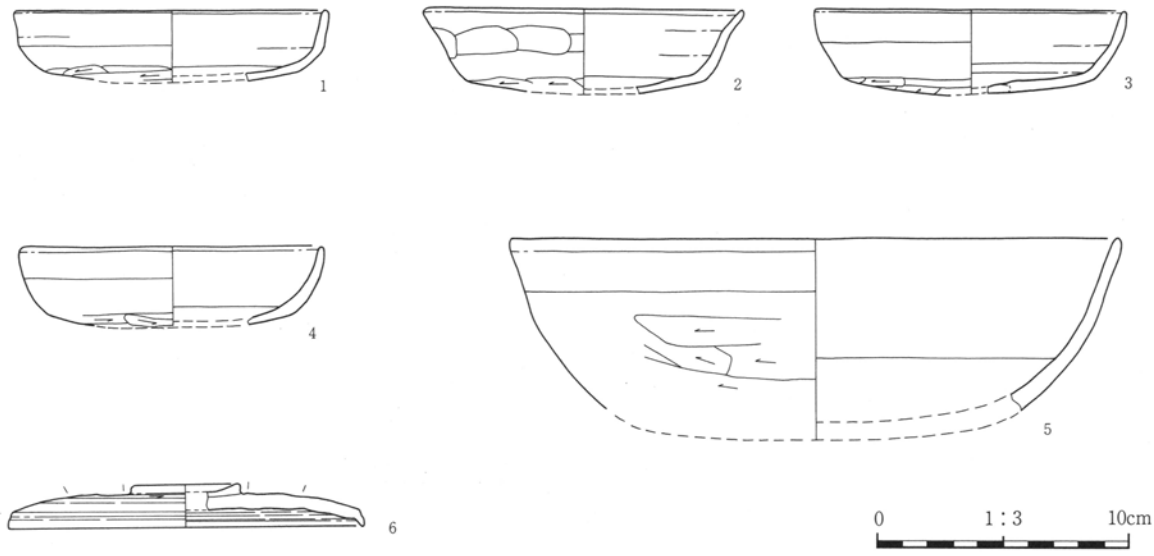




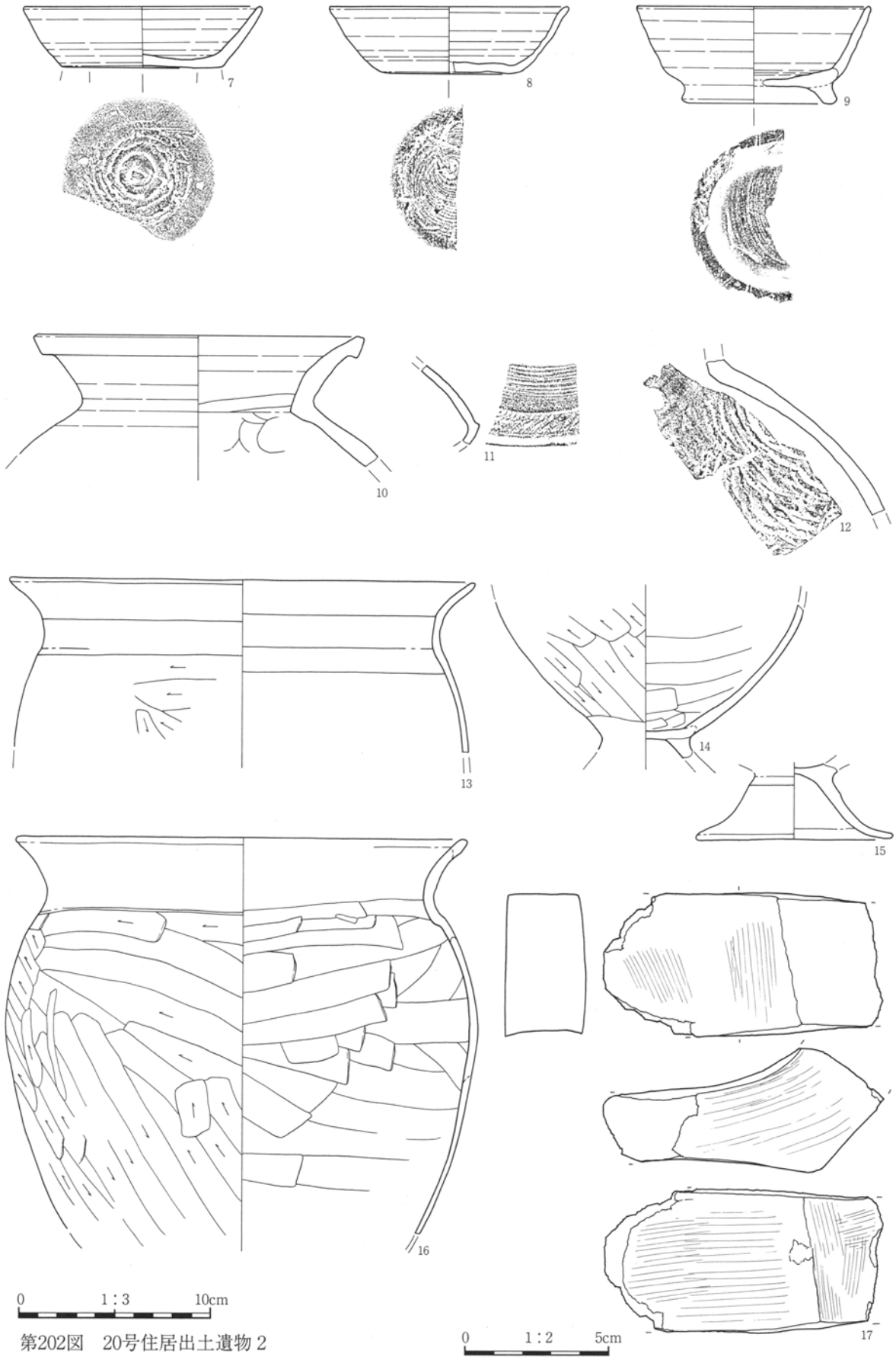
第200図　20号住居掘方平面図　土層断面図

20号住居掘方　土層観察所見

1　10YR5/8黄褐色ロームブロックと10YR2/3黒褐色土のブロックの混土。
2　１層に似るが、ロームブロックが大きく多い。
3　１層に似るが、黒褐色土が多く、ロームは粒状のもの。
4　１層に似るが、黒褐色土が多く、ロームブロックは径１cm大と小さい。
5　１層に似るが、ロームブロックが大きく多い。
6　１層に似るが、黒褐色土が主体をなし、As-Cを含む。



第201図　20号住居出土遺物１



第202図　20号住居出土遺物２

21号住居

位置　71-E.F-2.3グリッド　標高111.6mから111.7mの緩傾斜部低位に立地する。直接切り合う遺構はない。住居集中部の東部にあたり、南東に18号住居、南西に19号住居がある。

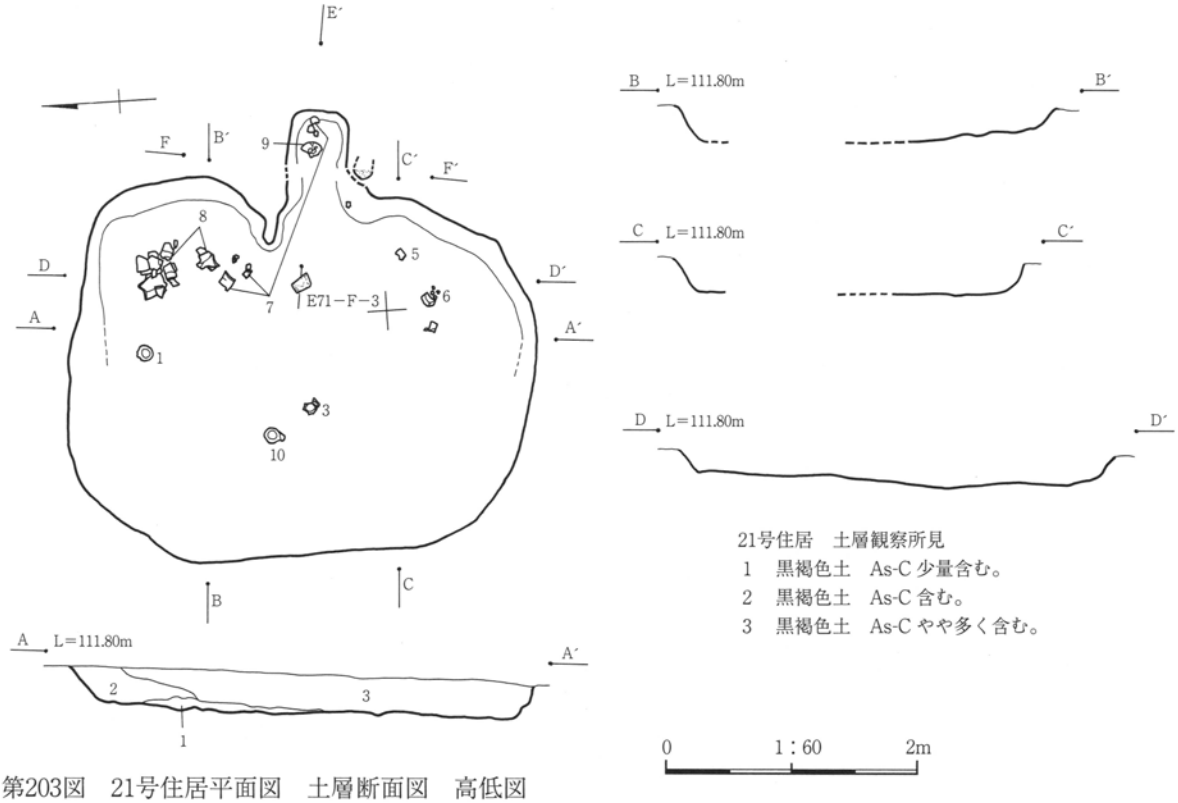
形態　北壁及び東壁北部は比較的直線的であるが、他は弧状をなす。南北に長い隅丸長方形と思われるが、東壁南部から南壁にかけてはゆるい弧状をなして連続し、屈曲しない。　**規模**　長軸3.3m　短軸2.6m

床　黒色土中にあり、硬化は弱い。北側は比較的平らであるが、南側及び住居中央部は波打ちながらやや低くなる。

壁　やや上方に開きながら立ち上がる。東壁北部で15cmほど、東南部で20cmほどの残存壁高がある。

竈　東壁ほぼ中央を壁外に底辺の広い三角形状に掘り込んで構築する。左袖は地山を掘り残しているが、右袖部はわずかに張り出すのみである。右側壁には一部構造材の石が残されていて、これを黄褐色土で被覆して竈本体を構築している。燃焼部奥にも石が据えられていて、そこから段をもって煙道に連続する。この石を覆うのは外部から流入したと思われる黒褐色土であり、構造材ではないことがわかるが、支脚としてもやや奥よりに過ぎるように思われる。

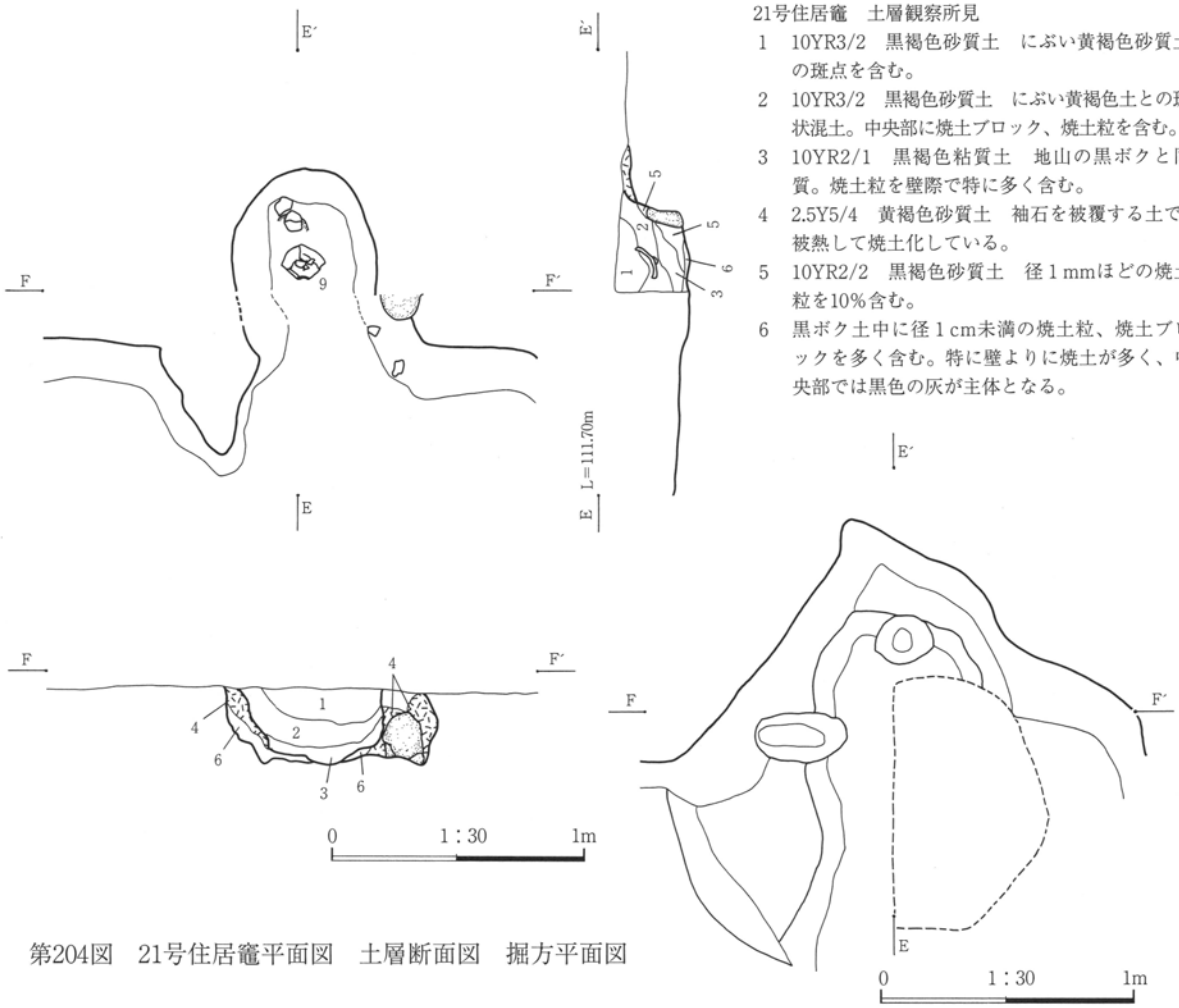
遺物　住居の東北四半に甕片が集中し、坏類は特定の傾向を持たずに点在する。器種としては須恵器の高台付椀が主体で、いずれも体部下半が膨らみ、口縁部は強く外反する。高台などのつくりはいずれの椀も粗雑で、ほとんどが還元焔焼成である。高台付椀に、判読不能だが体部外面に墨書のあるもの、内面に「硯」と思われる線刻のあるものが見られる。土師器甕は小振りなつくりで、口縁部は短く、コの字からはかなり崩れた形状となる。土師器坏は須恵器坏に似た形状で、10世紀代に入る可能性もある。住居の年代としては、高台付椀や甕などの特徴から、９世紀後葉としておきたい。



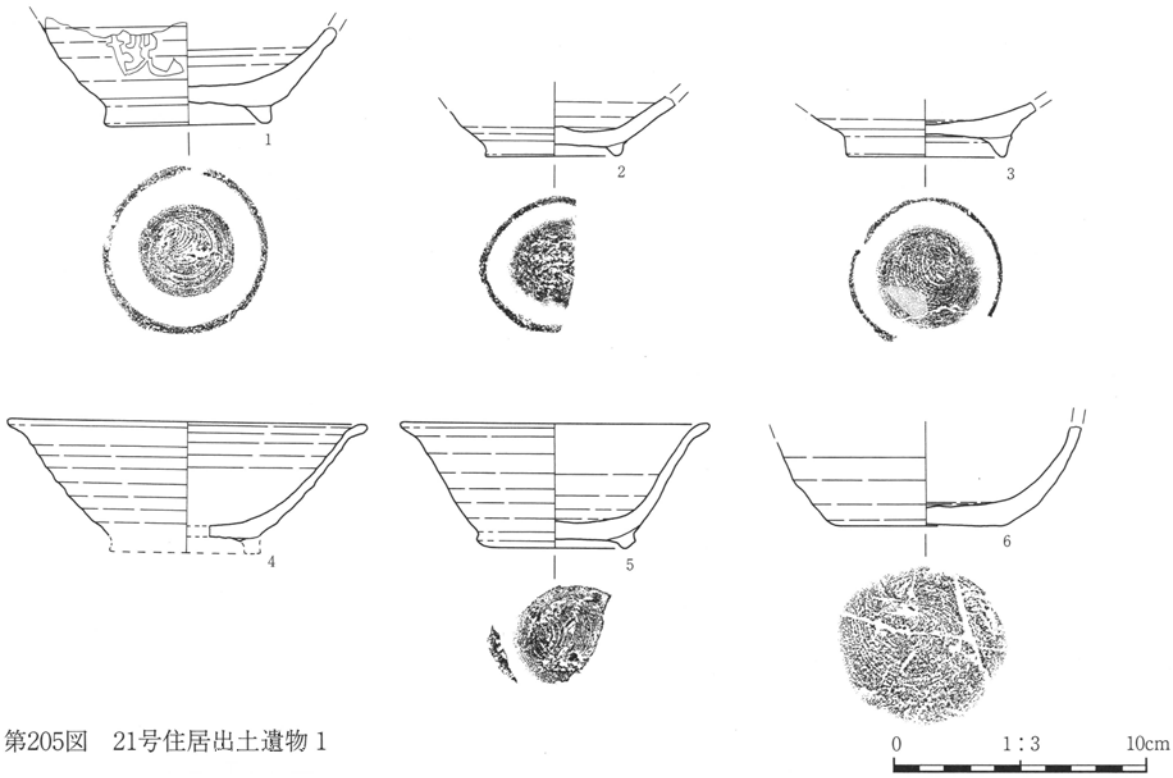
第203図　21号住居平面図　土層断面図　高低図

21号住居竈　土層観察所見

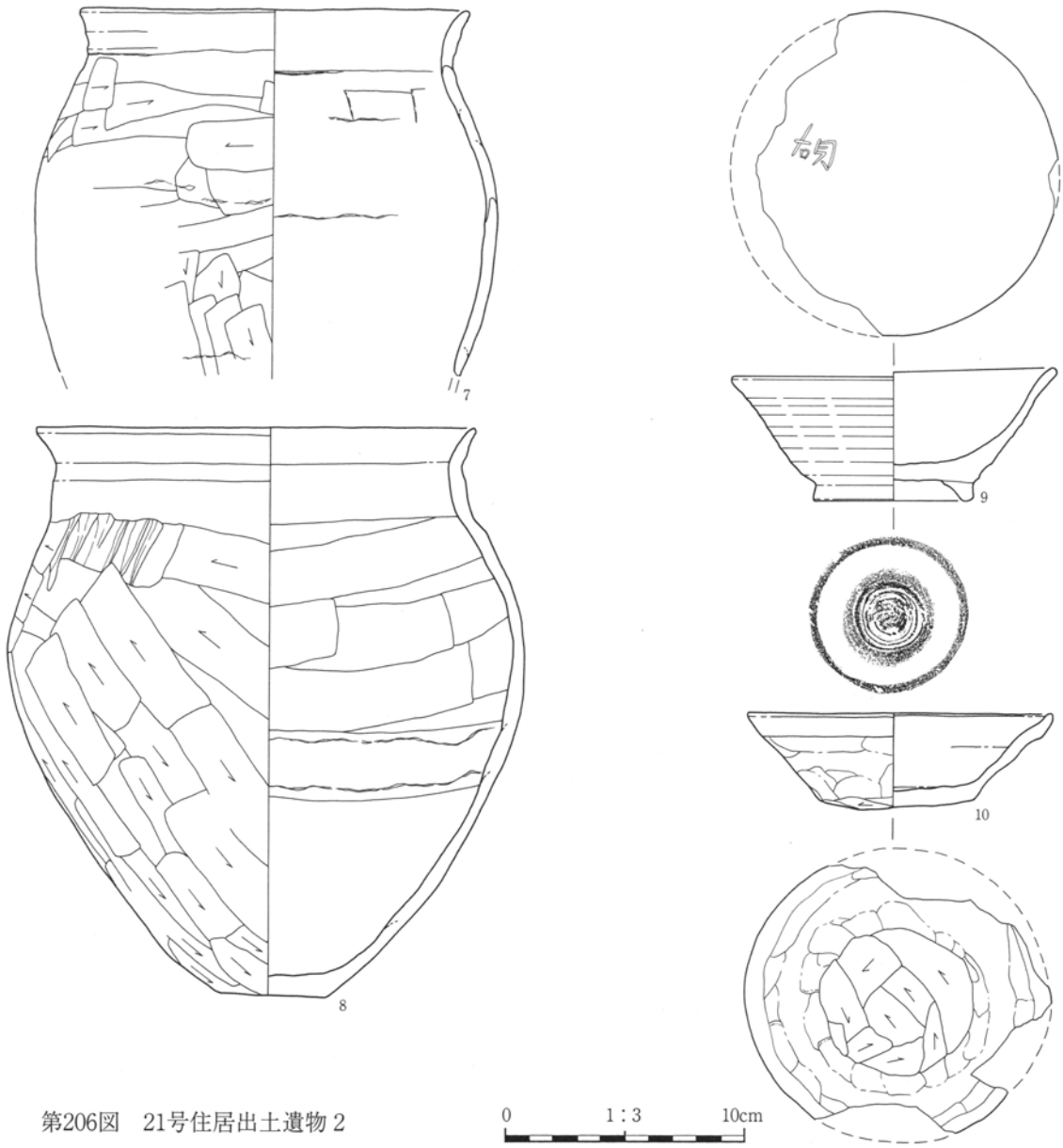
1　10YR3/2　黒褐色砂質土　にぶい黄褐色砂質土の斑点を含む。
2　10YR3/2　黒褐色砂質土　にぶい黄褐色土との斑状混土。中央部に焼土ブロック、焼土粒を含む。
3　10YR2/1　黒褐色粘質土　地山の黒ボクと同質。焼土粒を壁際で特に多く含む。
4　2.5Y5/4　黄褐色砂質土　袖石を被覆する土で、被熱して焼土化している。
5　10YR2/2　黒褐色砂質土　径1mmほどの焼土粒を10%含む。
6　黒ボク土中に径1cm未満の焼土粒、焼土ブロックを多く含む。特に壁よりに焼土が多く、中央部では黒色の灰が主体となる。



第204図　21号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図



第205図　21号住居出土遺物1



第206図　21号住居出土遺物２

22号住居

位置　71-H-3グリッド　標高111.9mから112.1mの緩傾斜部に立地する。８号掘立柱建物に切られる。１号柱穴列とは直接切り合わないが、本住居のほうが古いものと思われる。南に19号、20号、北西に23号北東にやや離れて27号の各住居がある。

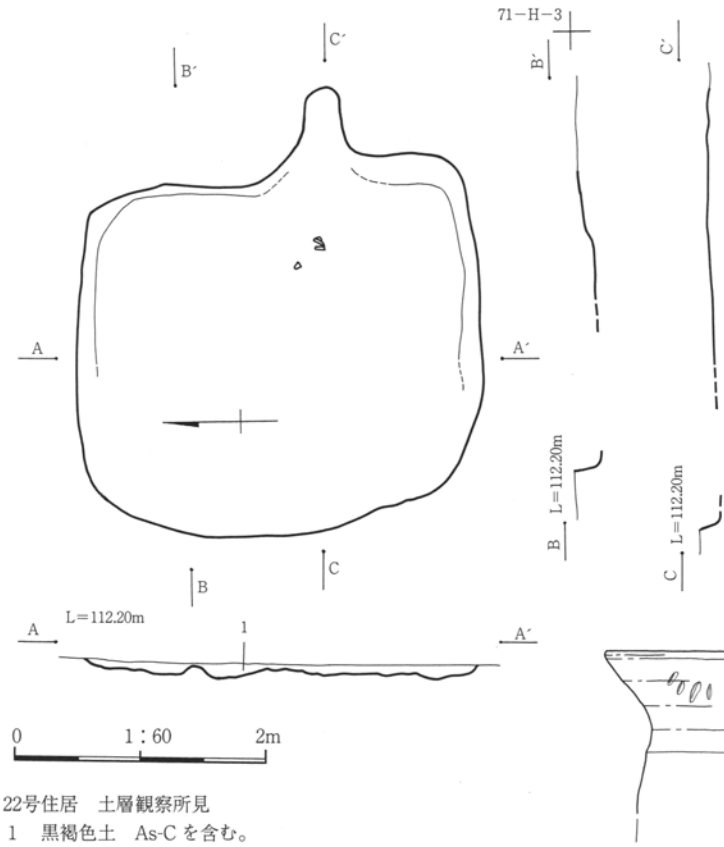
形態　方形あるいはやや南北に長い横長長方形の住居として調査を開始したが、掘方底面のみの残存であったため、正確な形状は把握できない。　**規模**　南北2.94m　東西推定2.7m

床・壁　掘方埋土と見られるAs-Cを含む黒褐色土が残存するが、床面は失われている。

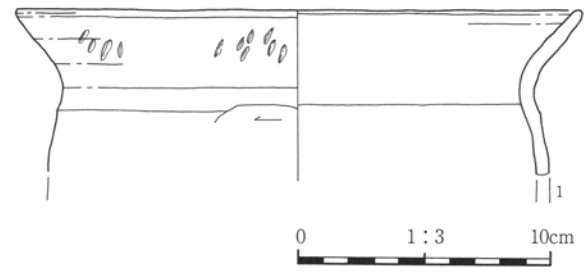
柱穴・貯蔵穴　確認できない。

竈　東壁やや南寄りに想定されるが、確認できない。

遺物　竈想定位置の手前で土師器甕の破片が出土している。口縁部の破片のみだが、８世紀中葉の可能性が考えられる。



第207図　22号住居平面図　土層断面図　高低図



第208図　22号住居出土遺物

23号住居

位置　71-I.J-3.4グリッド　標高112.3mから112.5mの傾斜部に立地する。遺構が集中する地点で、特に掘立柱建物が重複する部分に当たり、2号・6号・7号掘立柱建物を切る。南西から東にかけて、13、14、20、22号の各住居、北西に25・29号住居などがあり、北東に27号住居がある。

形態　南北に長く、南辺を上底とする台形状を呈する。東辺は掘立柱建物の柱穴との切り合いでやや不明瞭である。

規模　長軸2.98m～3.1m　短軸　北壁2.62m　南壁2.31m

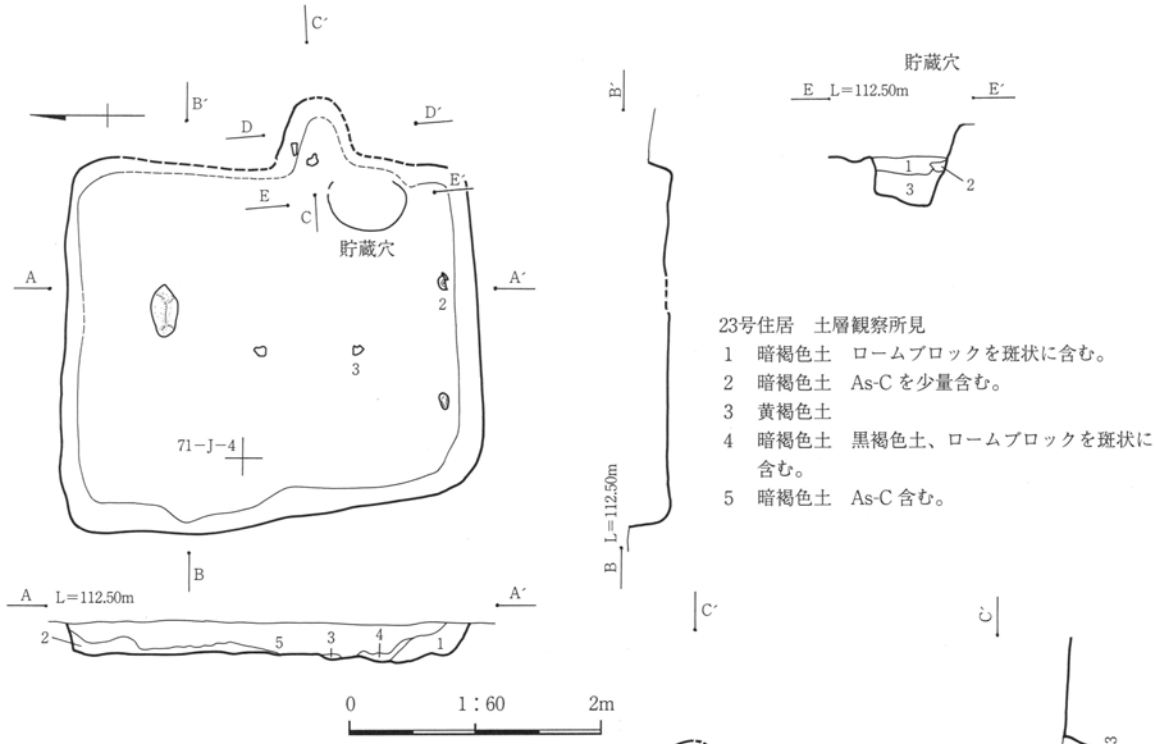
床　ローム漸移層上面近くまで掘り下げられていて、ロームブロック混じりの黒褐色土が床面を構成している。壁際はわずかに低くなるが、ほぼ均平に作られる。住居中央より北壁よりの床上に長40cmほどの礫がある。

壁　北東部で15cm強、南部では30cm強の残存壁高がある。やや上方に開きながら立ち上がる。

柱穴・貯蔵穴　確認できない。

竈　東壁南よりの地山を掘り込み、粘土を貼って構築する。2号、6号掘立柱建物の柱穴との切り合いを誤認したため、詳細な構造把握ができていない。

遺物　竈周辺および住居中央から南壁際にかけて土器片や礫が点在する。土器は酸化焔焼成の須恵器高台付椀が大半を占めるが、還元焔焼成の須恵器高台付椀も出土している。土師器高台付甕の破片が出土しており、年代は9世紀後葉と思われる。

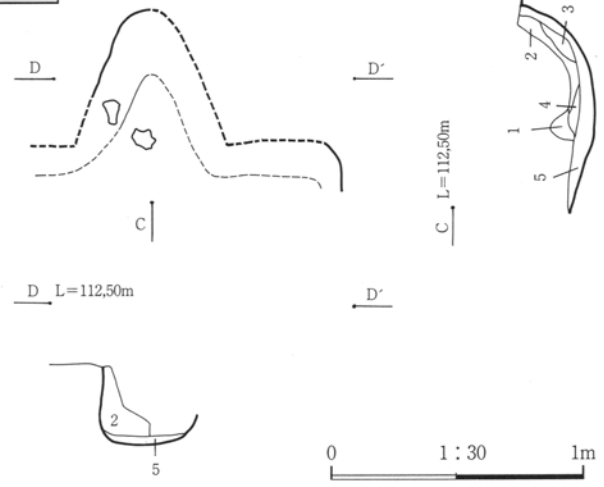


23号住居　土層観察所見
1　暗褐色土　ロームブロックを斑状に含む。
2　暗褐色土　As-C を少量含む。
3　黄褐色土
4　暗褐色土　黒褐色土、ロームブロックを斑状に含む。
5　暗褐色土　As-C 含む。

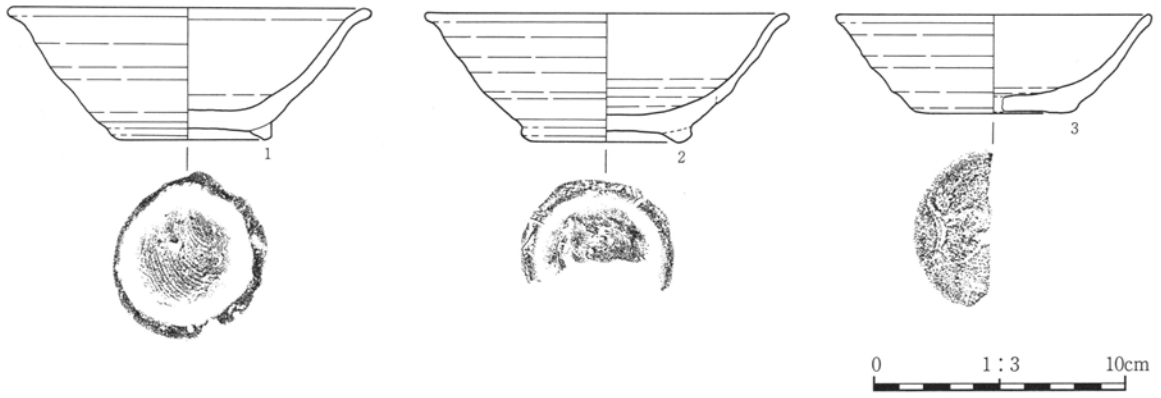
第209図　23号住居平面図　土層断面図　高低図

23号住居貯蔵穴　土層観察所見
1　10YR3/3　暗褐色砂質土　ローム粒、焼土粒、径１cm から２cmの炭化物を20％含む。
2　10YR4/4　褐色砂質土　周溝か。
3　10YR2/2　黒褐色砂質土　径３mmから５mmのロームブロックを20％含む。

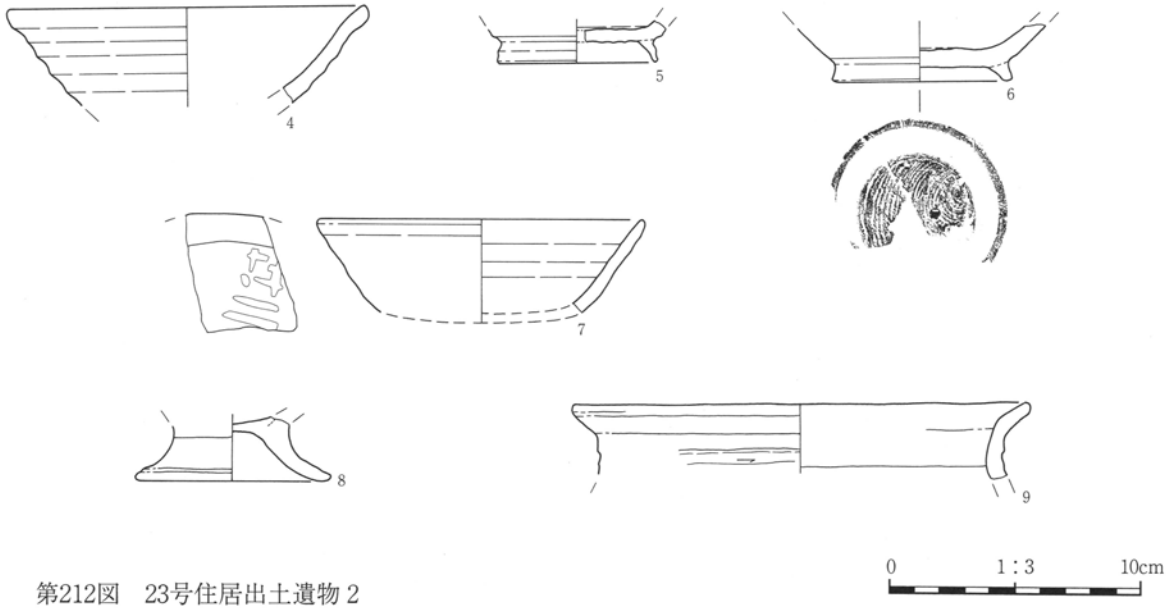
23号住居竈　土層観察所見
1　10YR4/1　褐灰色土　灰、焼土、炭化物などが混じる。
2　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒含む。
3　10YR2/2　黒褐色土　橙色の焼土粒少量含む。
4　10YR3/4　暗褐色土　ソフトロームを含む。
5　10YR2/2　黒褐色土　ロームブロック20％含む。As-C 含む。



第210図　23号住居竈平面図　土層断面図



第211図　23号住居出土遺物１



第212図　23号住居出土遺物２

24号住居

位置　71-G.H-4.5グリッド　標高11.19mから112.0mの緩傾斜部に立地する。北半は用水路下にかかるため調査できていない。南部は１号溝に切られる。西半は27号住居を壊して、その上に本住居が造られている。南に22号住居、西に25・29号住居があり、北側には用水を挟んで48号、49号住居がある。

形態　竈と東壁南端部以外は把握できないため、形状を確定することができない。27号住居の覆土を掘り込んでおり、その中位に床を貼っているが、全体を確実に捉えることができない。南北方向の土層断面により西壁が確認できるが、これも大部分を１号溝に切られていて西部は不明瞭である。貼床の残存範囲と西壁の想定線は必ずしも相似形をなさない。他の住居における竈位置などから見て長方形あるいは方形の平面形状と推定する。　**規模**　東西推定長3.62m　南北確認長2.48m

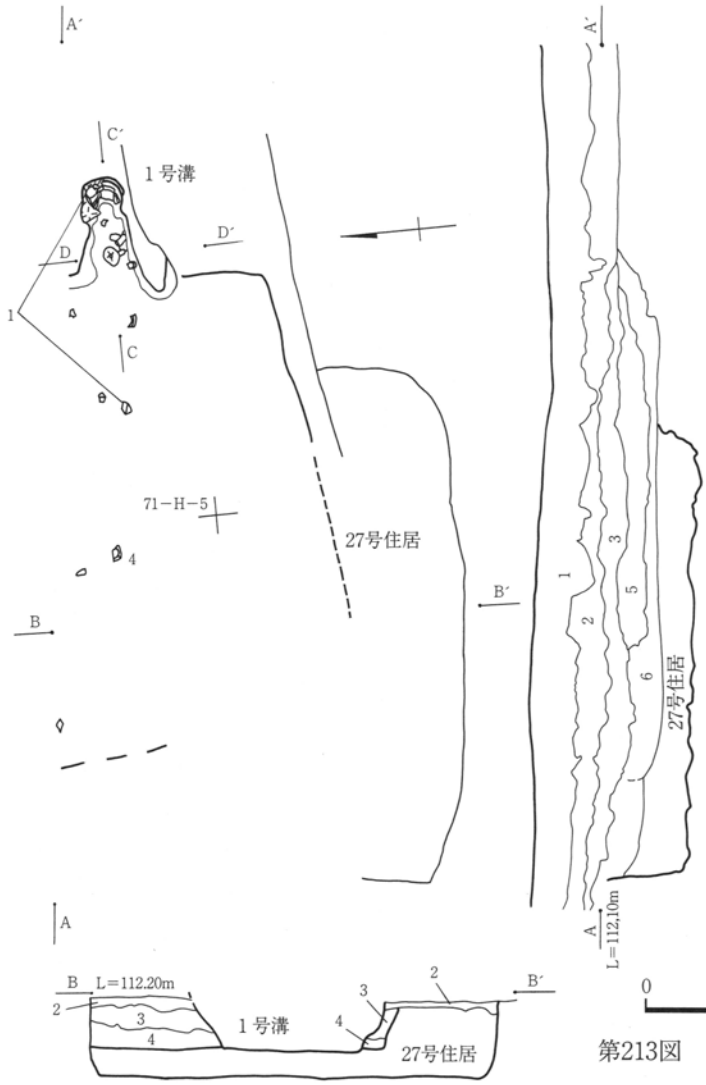
床　27号住居上に大部分を作るため、全体に貼り床が施される。住居中央部、特に東半部は強く硬化しているが、壁周辺および西部では軟らかく、確実な範囲が捉えがたい。床土は As-C を混ずる黒褐色砂質土と、竈に利用される粘土に近い、にぶい黄橙色の粘質土を混じている。

壁　東西方向土層断面では、北壁部について、やや上方に開きながらもほぼ垂直に立ち上がる状況が看取できた。この部分では40cm近い残存壁高がある。他の壁は切り合いのため、明確に捉えられない。

柱穴・貯蔵穴　認められない。

竈　東壁の南寄りを壁外に大きく掘り込んで構築している。左右の袖は小さく住居内に張り出すが燃焼部は壁外に作られる。褐灰色およびにぶい黄褐色の粘土を構築材として用いており、焼土化した粘土中に植物質のスサが観察されるものもある。主軸方向はN-84.5°-Eを示す。焼土化した面が部分的に２面認められるため、造り替えが行われた可能性がある。燃焼部中央やや手前に支脚石があるが、袖石及び他の構造用石は認められない。燃焼部奥壁立ち上がりから煙道への連続部に土器破片がまとまるが、これは煙道の構造材として用いられたものであろう。支脚周辺には２の甕が散乱する。こちらは調理に使用されたものと見ることもできるが、煙道部出土土器との接合片もある。

遺物　竈内以外からの遺物は少ない。口縁部が強く外反し、内面に「石（あるいは石偏か）」の線刻がある高台付椀や須恵器坏に似た形状の土師器坏が出土している。年代は９世紀後葉と思われる。



24号住居　土層観察所見

1　暗褐色土　As-A、As-B を多く含む。現表土、耕作土。

2　10YR3/2　黒褐色砂質土　10YR4/4 褐色砂質土の斑を含む。

3　２層に似る。褐色砂質土の斑を多く含む。

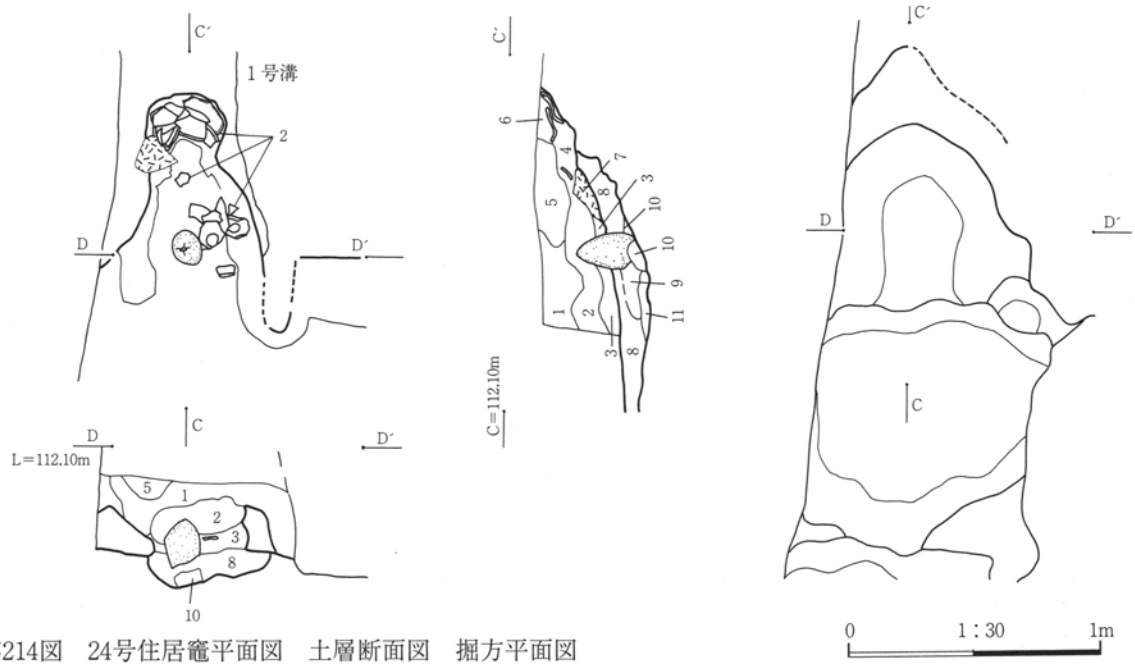
4　As-C を含む黒褐色砂質土とにぶい黄橙色粘土の混土。貼り床構成土。

5　10YR3/2　黒褐色砂質土　ローム粒やや多く含む。

6　10YR2/1　黒色砂質土　径１mm焼土粒、１cm大の焼土小ブロックをやや多く含む。

0　1：60　2m

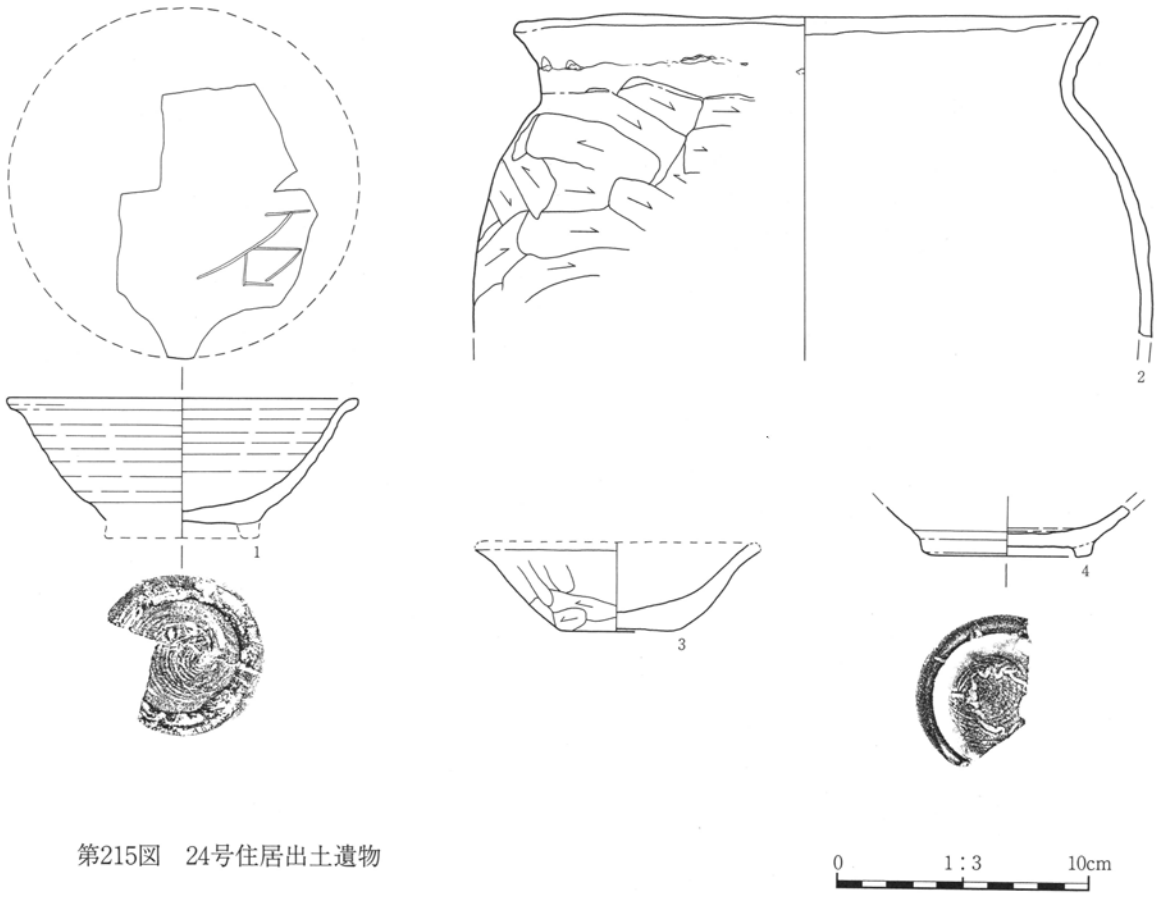
第213図　24号住居平面図　土層断面図



第214図　24号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図

24号住居竈　土層観察所見

1　10YR3/4　暗褐色砂質土　As-C を含む黒色土と褐色土の混土。焼土粒、炭化物粒含む。
2　10YR4/1　褐灰色粘質土　径1cmから4cmの焼土ブロックを10%含む。As-C を含む黒色土が斑点状に含む。奥壁側に多く炭化物含む。天井崩落土。
3　10YR2/2　黒褐色砂質土　黒色の灰、焼土粒、炭化物粒含む。
4　10YR4/1　褐灰色粘質土　径1cmから4cmの焼土ブロックを30%含む。As-Cを含む黒色土が斑点状に含む。奥壁側に多く炭化物含む。
5　10YR7/2　にぶい黄褐色粘質土　焼土粒、軽石、暗褐色土のブロックを斑点状に含む。2層より硬く締まっている。
6　10YR3/1　黒灰色土　焼土ブロック含む。
7　暗褐色土　強く焼き締まったスサ入りの焼土ブロックを含む。
8　暗褐色土と焼土粒、炭化物粒の混土。
9　暗褐色土と細かい焼土粒、炭化物粒、灰の混土。
10　10YR3/1　黒褐色砂質土　焼土粒少量含む。
11　10YR2/2　黒褐色砂土　川砂様の砂粒主体。



第215図　24号住居出土遺物

25号住居

位置　71-J.K-4.5グリッド　標高112.7mから112.9mの傾斜部に立地する。1号溝に切られる。北西角で8号住居を切る。南東にやや離れて23号住居がある。

形態　調査時点では南北に2棟の住居が切り合っているものとされた。南部と北部で床下構造が異なり、これに伴って床面でも南より部分に小さなくぼみ状の段差がつくこと、西壁の周溝残痕と思われるくぼみがやはり同一位置近くで完結することなどによる。しかし、覆土の土層観察所見からは両者を分離することができず、東西両壁ともほぼ連続すること、北部の古いと考えられる住居に付属すべき竈が痕跡としても確認できないことなどから、1棟の住居が1号溝の影響を受けて見かけ上二分されている、あるいは南部分の歪ん

だ方形住居が先に作られ、北部に拡張されたもので、いずれにせよ埋没時には南北に長軸を持つ横長長方形の住居１棟であったものと判断する。北西隅は８号住居との切り合いのため明確ではないが、他の三角は直角に近い屈曲を見せ、整った長方形を呈している。　**規模**　長軸　3.28m　短軸長　2.07m

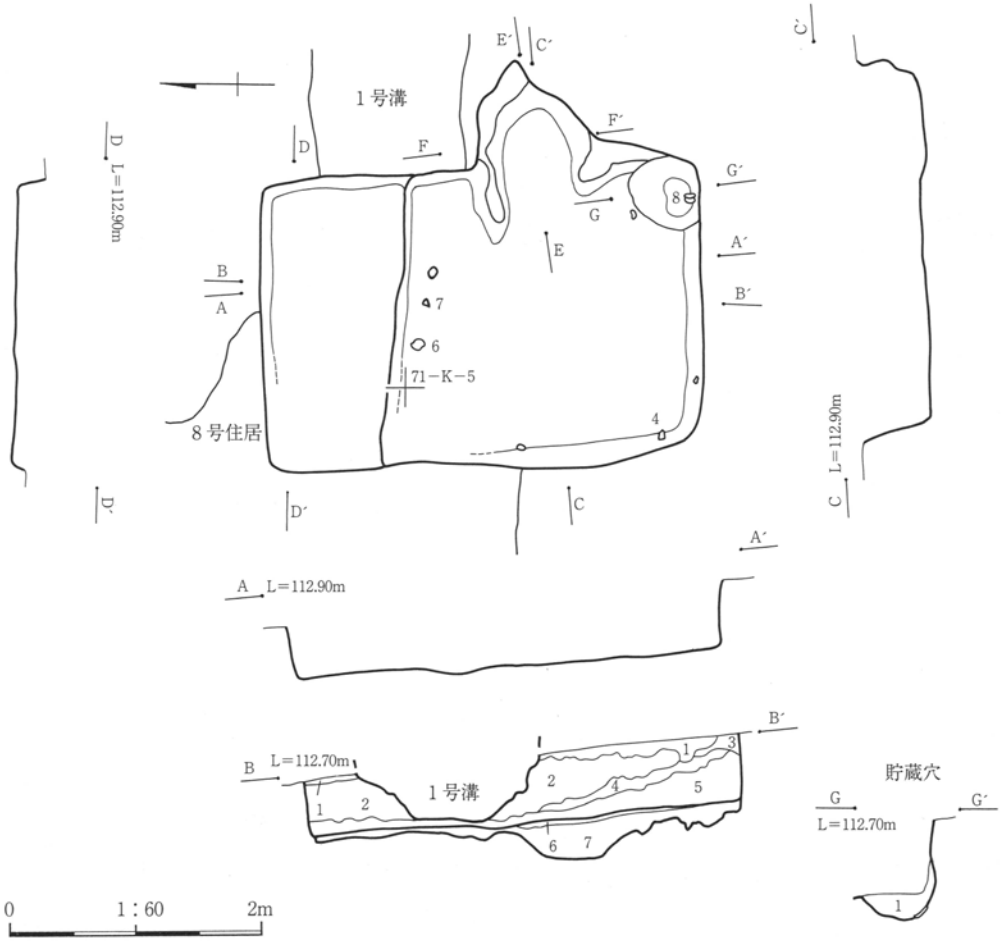
床　緩やかに波打つ。南よりに小さなくぼみ状の段差がつく。暗褐色土とロームブロックの混土が踏みしめられており、南部中央付近では黒褐色土とローム、焼土などが混じた土が硬く踏みしめられている。

壁　北東隅部で40cmほど、南西部では56cm程の残存壁高がある。西壁上部はやや崩れているが、四壁とも垂直に近い、強い立ち上がりを示す。

貯蔵穴　竈右手に当たる南東隅に壁をやや掘り込むように作られている。径63cmほどの、ややいびつな円形の平面形で、深さは床面から25cmほどある。丸底で暗褐色の砂質土で埋まっている。

竈　東壁南寄りの地山を掘り込んで構築する。特に左袖部は住居内に張り出し、燃焼部も過半が住居内に作られている。主軸方向はN-90°-Eを示す。竈前には構築材として用いられたと見られる暗褐色粘質土が広がる。構造用石、支脚石などは見られない。左袖部内に坏があるが、これも構造を支えるものとは見られない。

遺物　出土遺物は９世紀後葉～10世紀前葉のものと思われる須恵器と土師器の坏、灰釉陶器の椀破片がある。覆土中からは９世紀前葉と思われる須恵器蓋、高台付椀が出土している。



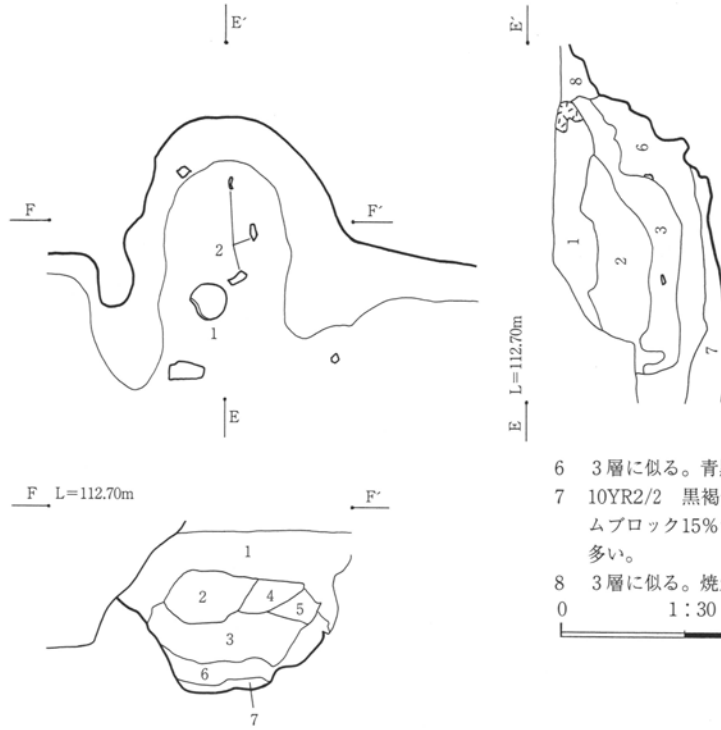
第216図　25号住居平面図　土層断面図　高低図

25号住居　土層観察所見

1　10YR3/3　暗褐色砂質土　As-C含む。ローム粒少量含む。
2　10YR3/2　黒褐色砂質土　As-C含む。ローム粒、焼土粒少量含む。
3　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　ローム粒多く含む。
4　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　ローム粒、ローム小ブロック多く含む。
5　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　ローム粒、ローム小ブロック多く含む。北半は径1cmから3cmのブロックが斑状に混ずる。南部は1cmから4cm大のブロックが多く混ずる。
6　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、焼土粒、炭化物粒を含む。As-Cかと思われる白色軽石含む。締まっている。床構成土。
7　10YR3/4暗褐色砂質土と径5mmから5cmのロームブロックの斑状混土。

25号住居貯蔵穴　土層観察所見

1　10YR3/3　暗褐色砂質土　ローム粒、炭化物粒含む。ローム粒は下部に多い。サラサラした砂質土。

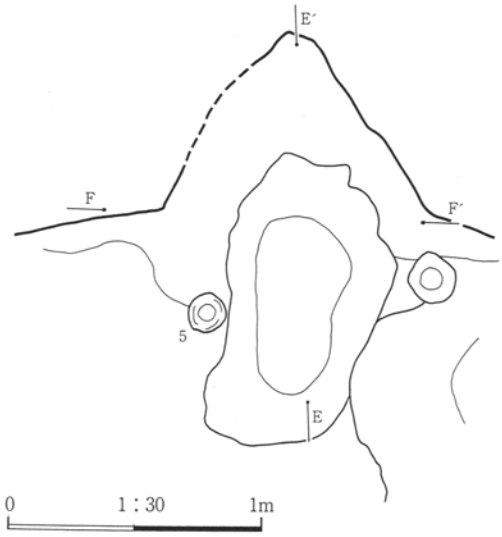


25号住居竈　土層観察所見

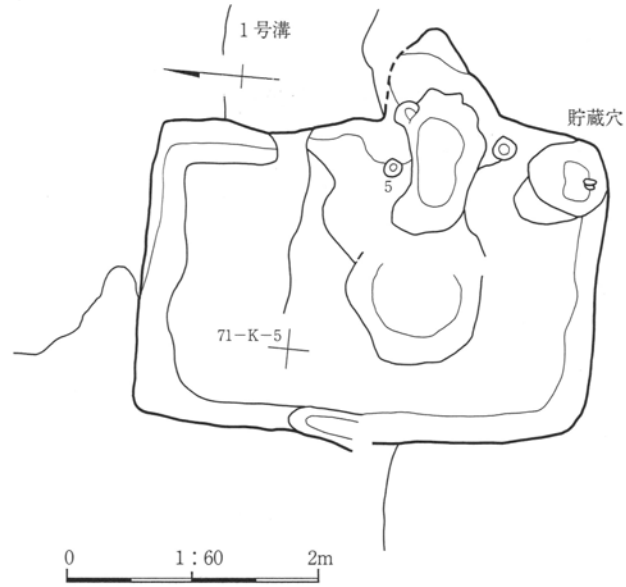
1　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　ローム粒を含む。乱れている。
2　1層中にロームブロックを互層状に含む。
3　10YR3/4　暗褐色砂質土　中位から下位に1mmから20mm大の焼土粒、焼土小ブロックをやや多く含む。2層との境界には黒色の灰を挟む。
4　ロームブロック。
5　不明。
6　3層に似る。青黒色の灰を多く含む。
7　10YR2/2　黒褐色土　径1cmから3cmの10YR6/8明褐色ロームブロック15%から30%を斑点状に含む。下部では黒褐色土が多い。
8　3層に似る。焼土粒10%含む。青黒色の灰を多く含む。

0　1：30　1m

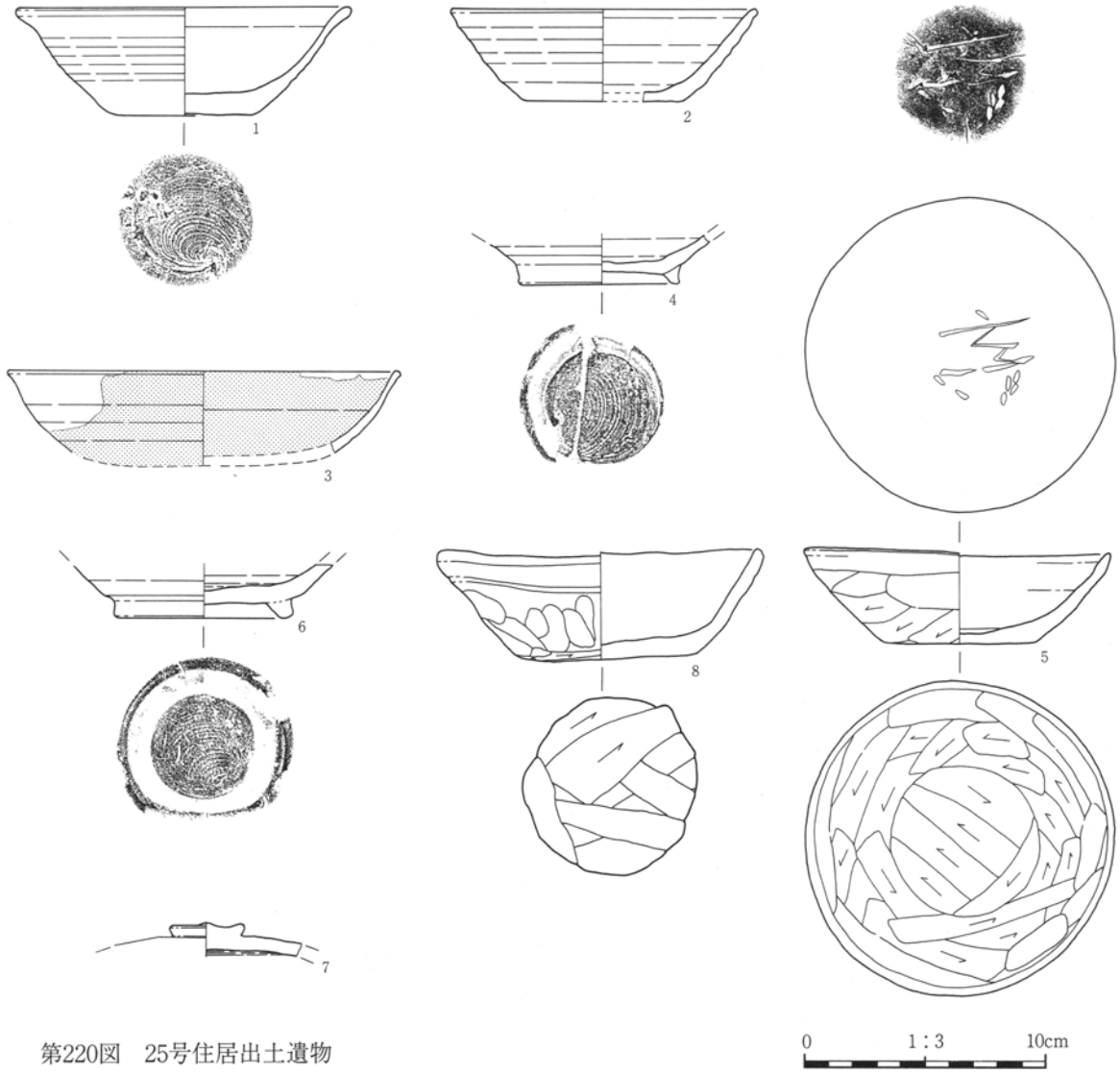
第217図　25号住居竈平面図　土層断面図



第218図　25号住居竈掘方平面図



第219図　25号住居掘方平面図



第220図　25号住居出土遺物

26号住居

位置　71-M.N-4.5グリッド　標高113.3mから113.5mの台地頂部に近い緩傾斜部に立地する。北東に７号住居があるが、南の15号住居とはやや離れている。11号掘立柱建物に切られる。

形態　やや南北に長いが、ほぼ方形を呈する。東南隅と西南隅はやや丸みを帯びる。壁外に住居を取り巻く形で40cmから70cmの幅で黒色土が帯状に残されており、周堤の残痕である可能性が考えられた。　**規模**　長軸（南北）4.26m　短軸（東西）3.84m

床　明黄褐色のロームと暗褐色土の混土及び As-C を含む黒褐色土が踏み固められて床面を形成している。東壁の竈以北と北壁から西壁北部にかけて壁周溝がめぐる。他の部分も壁際がやや低くなり、また全体にゆるく波打つ。

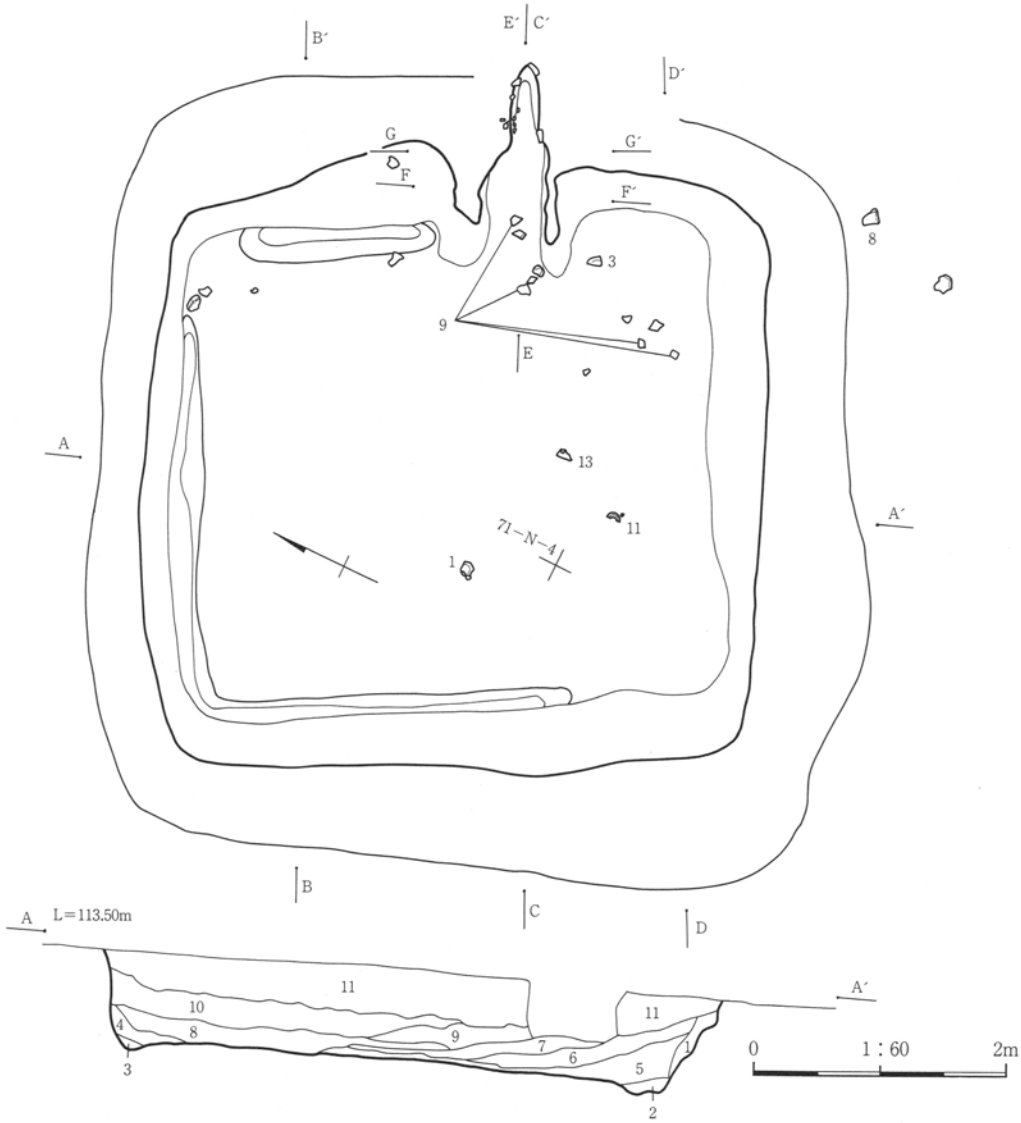
壁　比較的浅い東壁中央近くでも54cm、西壁南部では80cm近い残存壁高がある。基部は急角度だが、中位以上は上方に開き気味に立ち上がる。

柱穴　掘方では東南隅の貯蔵穴と思われる土坑以外に、他の三隅にも深さ15cmから30cmの不整形の掘り込みが見られるが、柱穴としては弱い。南壁沿いには小ピットが並んでおり、梯子穴と考えられた。

貯蔵穴　床面調査時には確認されていないが、掘方東南隅に貯蔵穴と思われる土坑状の掘り込みがあった。長径1.1m、短径0.7mほどの南北方向にやや長い長円形で、最深部までの深さは20cmほどある。

竈　東壁南寄りを壁外に大きく掘り込み、灰黄褐色粘土を貼って構築している。左右の袖も粘土で構築され、構造材は見られない。燃焼部は過半が壁外に当たり、燃焼部奥壁は強く立ち上がって煙道部につながる。主軸方向はN-91°-Eを示す。

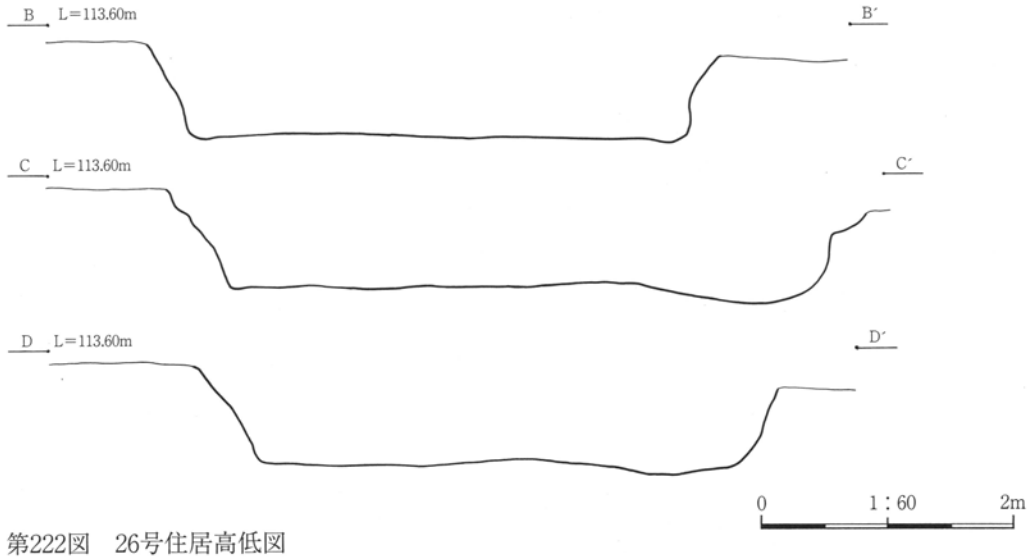
遺物　出土遺物は須恵器坏、高台付椀、蓋や土師器坏、甕など多種に及ぶ。床面に近い位置から出土するのは８世紀後葉の遺物で、上野型短頸壺の蓋や須恵器坏、土師器坏、甕がある。覆土中には９世紀前葉～中葉の遺物があり、11号掘立柱建物と関連が考慮される。



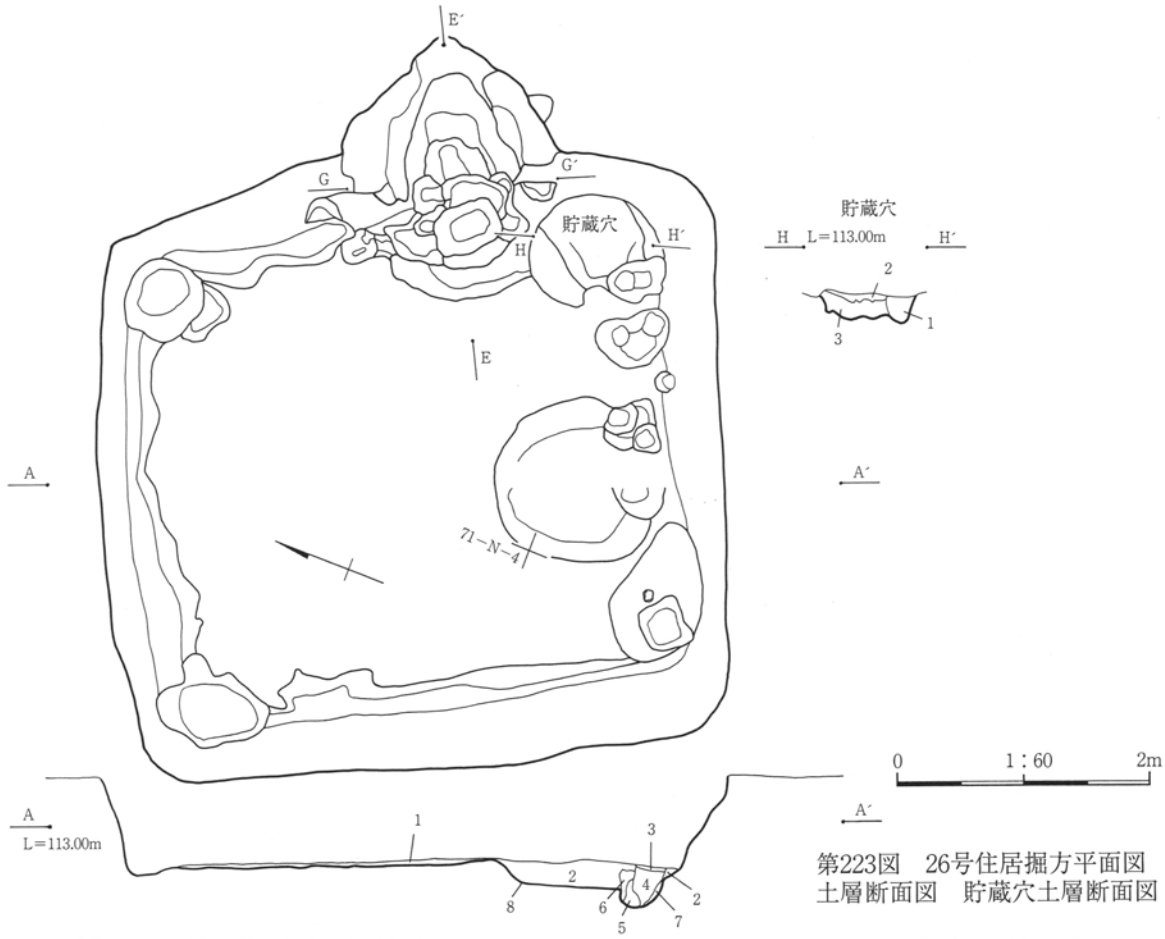
26号住居　土層観察所見

1　にごった黄褐色土
2　褐色土　ロームブロック含む。
3　褐色土　ロームブロック含む。
4　褐色土　ロームブロック少量含む。
5　褐色土　ローム粒含む。炭化物粒若干含む。
6　褐色土　ローム粒含む。焼土粒、炭化物粒少量含む。
7　褐色土　ロームブロック、焼土粒含む。炭化物粒若干含む。
8　褐色土　ローム粒、焼土粒少量含む。As-C わずかに含む。
9　褐色土　焼土ブロック若干含む。炭化物、ロームブロック少量含む。
10　褐色土　As-C 若干含む。ローム粒、炭化物粒少量含む。焼土粒わずかに含む。
11　暗褐色土　As-C 含む。焼土粒少量含む。炭化物粒、ローム粒わずかに含む。

第221図　26号住居平面図　土層断面図



第222図　26号住居高低図



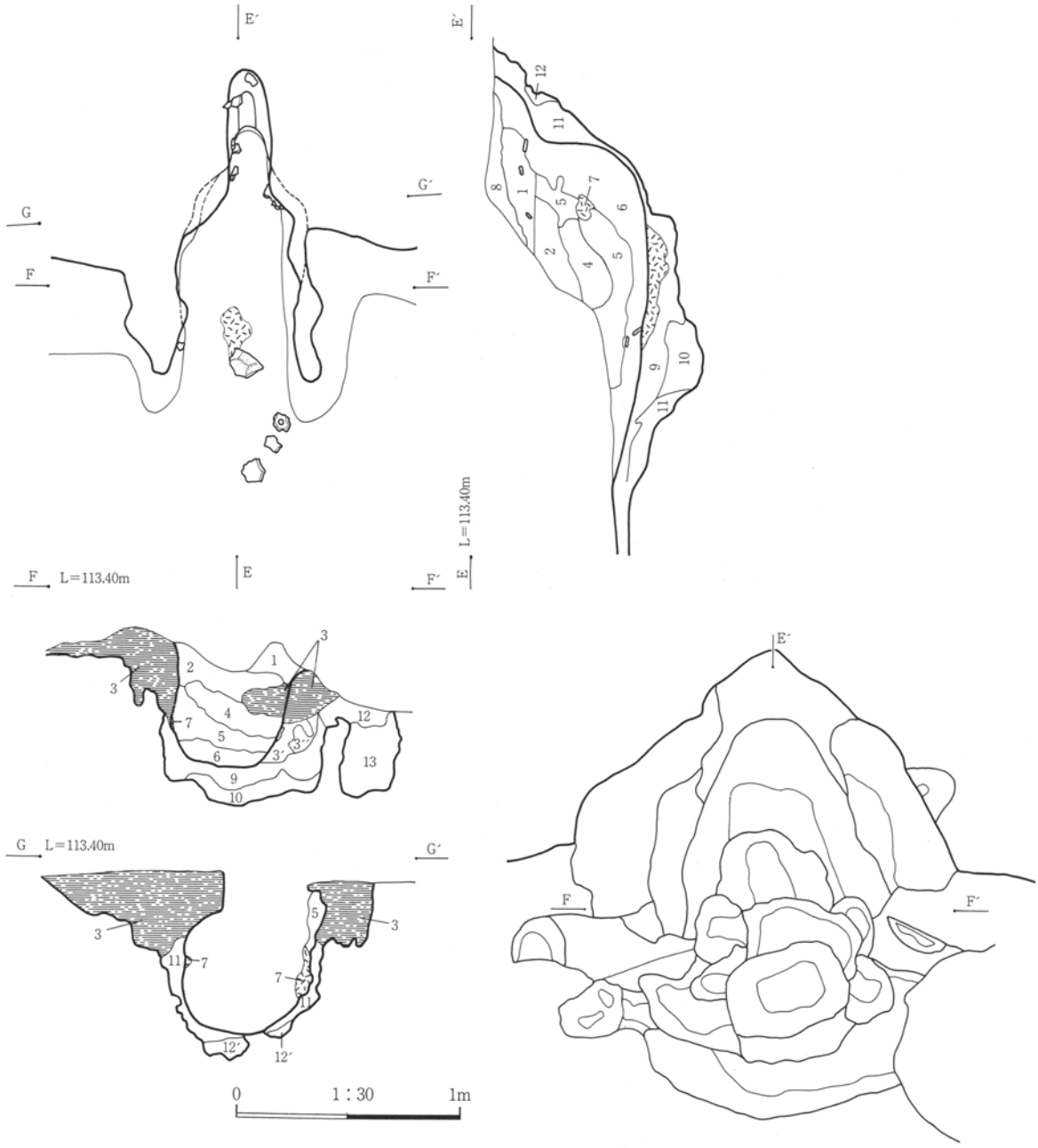
第223図　26号住居掘方平面図
土層断面図　貯蔵穴土層断面図

26号住居貯蔵穴　土層観察所見

1　10YR2/2　黒褐色砂質土　As-C 含む。径５mm大のローム小ブロック10％含む。
2　10YR4/1　褐灰色粘質土　黒褐色土とロームが斑状に混入。
3　10YR3/4　暗褐色土　ローム、炭化物粒、焼土粒が斑状に混入。

26号住居掘方　土層観察所見

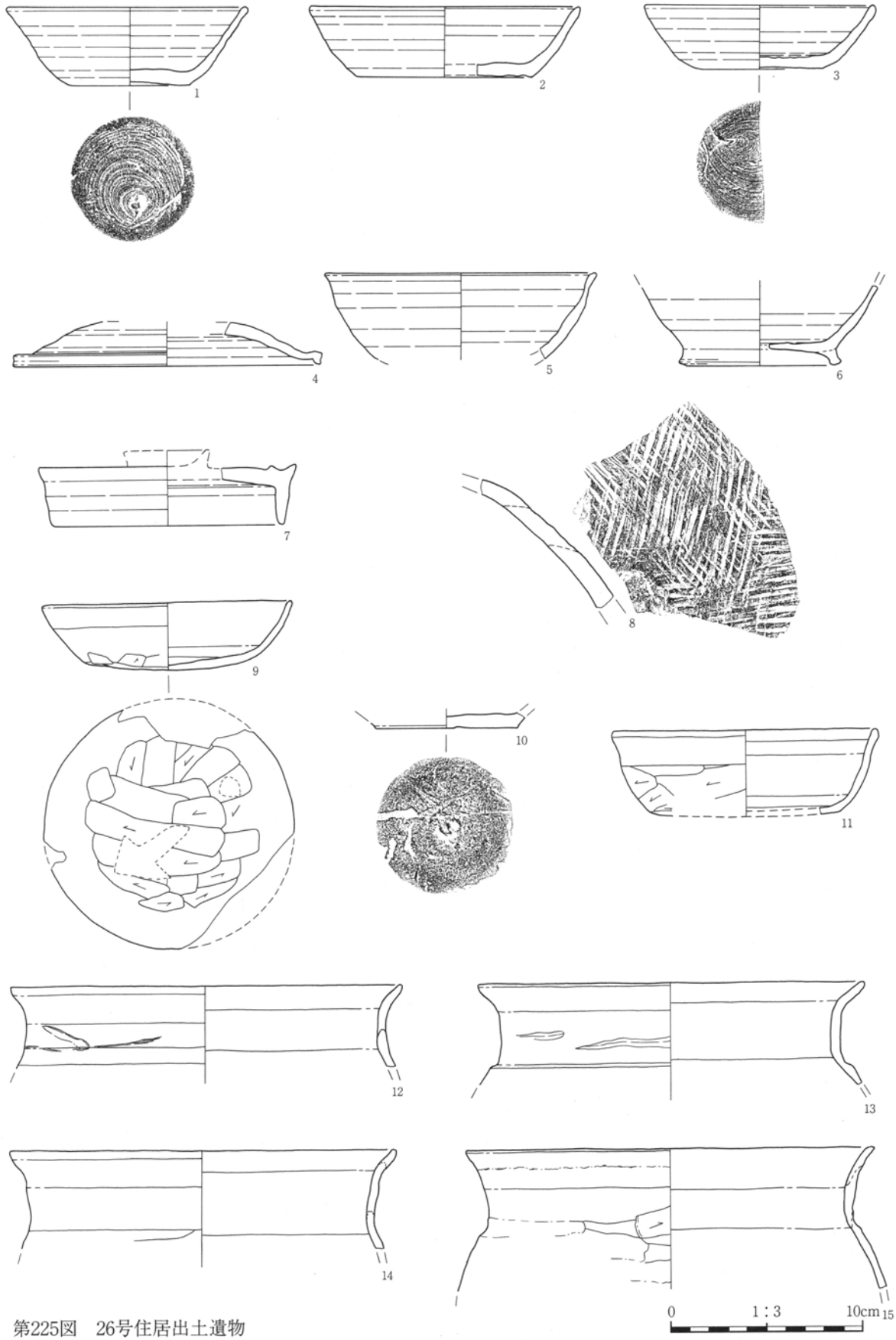
1　明黄褐色のロームと暗褐色土の混土。
2　黄褐色のロームブロックを主体とし、８層の粘質土ブロックや暗褐色土が混じる。ロームブロックは角張っていて、掘削後すぐに埋め戻されたような印象がある。
3　黒色砂質土　As-C を混ずる。
4　10YR3/3　暗褐色砂質土　やわらかい。
5　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　しっかりしている。
6　10YR4/4　褐色土　２層に似ている。
7　10YR4/4　褐色土。
8　10YR4/1　褐灰色粘質土　底面に貼られている。



第224図　26号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図

26号住居竈　土層観察所見

1　10YR3/4　暗褐色砂質土　ローム粒、焼土粒、3層土をわずかに含む。
2　10YR5/2　灰黄褐色シルト質土　3層よりやや暗い。煙道からの流入土と思われる。被熱し、わずかに赤変している。
3　10YR5/2　灰黄褐色粘土　粘性強く、緻密で硬く締まっている。　3′ 10YR6/1褐灰色土　焼土粒多く含む。　3″ 5YR6/3にぶい橙色土　焼土。
4　10YR6/2　灰黄褐色土　粘性弱い。崩落土中に径1cmから3cmの焼土小ブロックを少量含む。
5　4層と同相。焼土小ブロックやや多い。
6　青みがかった灰層とカリカリに焼けた3cm大の焼土ブロックの混土。奥壁部では上層に焼土ブロック、下層に灰層が堆積。煙道部では焼土ブロックが小粒になる。
7　焼土　11層粘土が焼けたもの。
8　にぶい黄褐色砂質土　As-Cを主とする軽石を含む。
9　7.5YR6/3　にぶい褐色土　しっかりとした砂質土が主体だがシルト質部分あり。焼土粒、炭化物粒含む。
10　7.5YR3/1　黒褐色砂質土　シルト質部分あり。焼土粒、炭化物粒含む。
11　7.5YR4/1　褐灰色粘質土　ロームと褐灰色粘土を重ねて固めている。焼土粒、炭化物粒、軽石粒含む。
12　10YR5/1　褐灰色砂質土　焼土粒、炭化物粒、ローム粒含む。
12′　ロームと黒褐色砂質土の斑状混土　緻密で硬い。
13　10YR7/8　黄橙色土　ロームに10YR4/1褐灰色シルト質土が斑点状に混入。下層ほど褐灰色土が多い。



第225図　26号住居出土遺物

27号住居

位置　71-G.H-4.5グリッド　標高11.19mから112.0mの緩傾斜部に立地する。北辺は用水路下にかかるため調査できていない。南部は１号溝に、東半は24号住居に上位を切られる。南に22号住居、西にやや離れて25・29号住居があり、北側には用水を挟んで48号、49号住居がある。

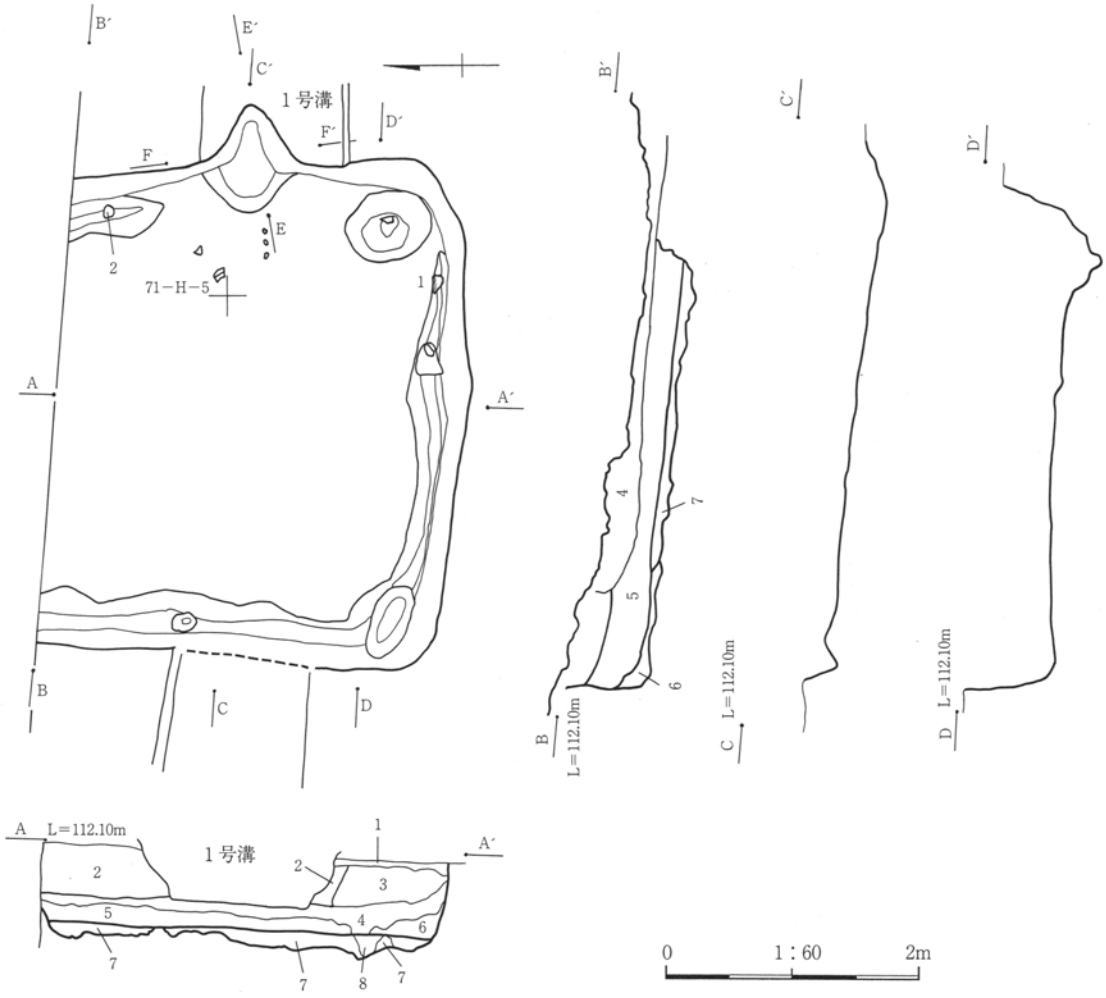
形態　北辺が確認できないため、全体の形状は把握できない。やや歪んだ方形ないし横長長方形である可能性が高いものと考える。南東隅はふくらみを持ち、南西隅はやや丸みを持ちながら屈曲する。西辺は南壁と直交するが、東壁は竈以北が西に振れている。　**規模**　南北確認長　3.2m　東西長　3.3～3.5m

床　ソフトローム下部まで掘り込まれ、ハードローム上面近くに床面を置く。24号住居床面から20cmほど下に当たる。As-C を混ずる黒褐色土、暗褐色土とロームブロックの混土がごく硬く踏み締められている。竈左手から東南隅部以外は壁周溝がめぐる。

壁　周溝を介してほぼ垂直に立ち上がる。西壁部では最大67cmの残存壁高がある。

貯蔵穴　東南隅にある。長径66cm、短径58cmほどの扁円形で、床面からの深さは20cm弱ある。底面は凹凸が多いが概ね平底状を呈する。

竈　東壁やや南寄りに当たると思われる部分を壁外に掘り込んで構築するが、上位を24号住居に壊されてお



第226図　27号住居平面図　土層断面図　高低図

り、十分な構造把握はできない。淡灰色の粘土を用いて構築されている。壁構造材や袖石、支脚の据え方は確認できない。使用面底部には黒色、青灰色の灰層が厚く残されている。主軸方向はN-93°-Eを示す。

掘方　竈前から住居中央にかけては掘削底面が床面となるが、壁際を中心にやや深く掘り込まれており、特に南壁西部から西壁南部にかけては、土工具を突き立てて掘り返したような小さなくぼみが連続する。南壁沿いのくぼみは東側に弦、西側に弧をもつ半月状の平面形を呈する。

遺物　資料化可能な出土遺物は少ないが、９世紀前葉のものと思われる須恵器と土師器の坏が出土している。

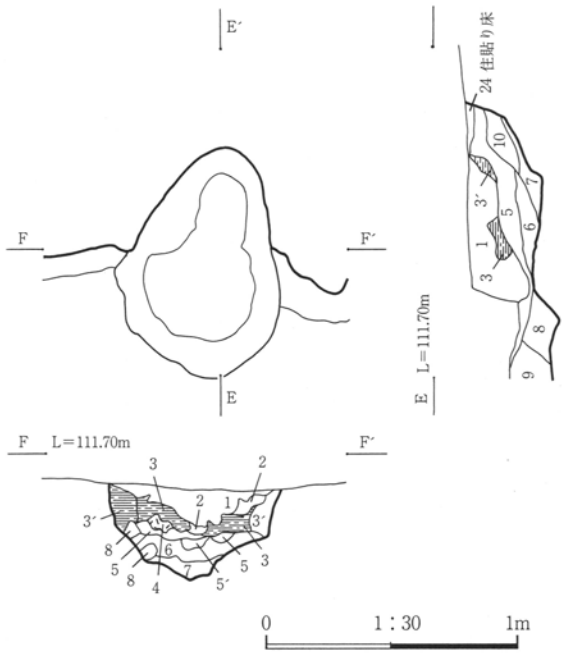
第227図　27号住居掘方平面図

27号住居　土層観察所見

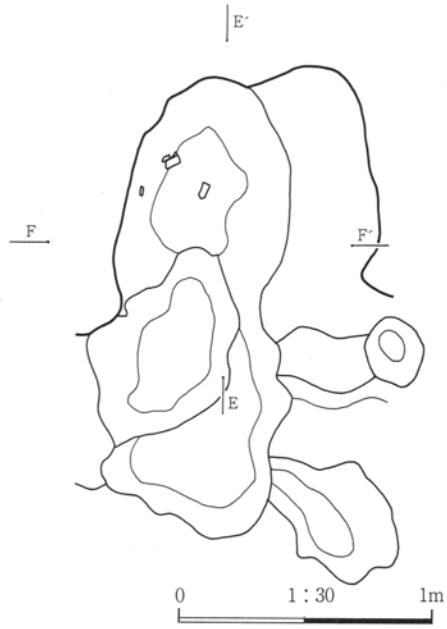
1　10YR3/2　黒褐色砂質土　10YR4/4褐色砂質土の斑を含む。
2　24号住居覆土
3　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒やや多く含む。褐色砂質土の斑は含まない。
4　10YR2/1　黒色砂質土　焼土粒、小ブロックをやや多く含む。
5　10YR2/1　黒色砂質土　焼土粒、小ブロック、ローム粒をやや多く含む。
6　10YR2/1　黒色砂質土　焼土粒、小ブロックをやや多く含む。ローム小ブロックを壁際に多く含む。
7　As-C を含む10YR2/2黒褐色土と10YR3/3暗褐色土と硬く締まったロームブロックの混土。下層に粘質土が貼られ、そのブロックが点在する。
8　10YR3/2　黒褐色砂質土　ローム粒を含む。粘質土を少量含む。

竈土層観察所見

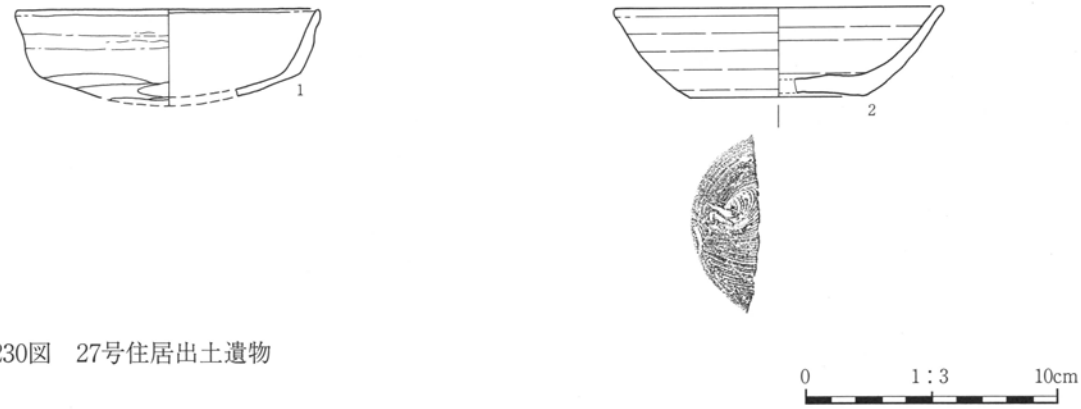
1　暗褐色砂質土　As-C 少量含む。ローム粒、焼土粒わずかに含む。24号住居床面構成土。
2　淡灰色粘土のブロック。
3　淡灰色粘土　壁の構築土が内側に崩落したものか。　3′粘質土の下面が淡く赤変する。焼土粒を少量含む。
4　焼土ブロック。
5　黒色灰層　焼土粒を少量含む。　5′焼土ブロックを多く含む。
6　5BG5/1　青灰色灰層　暗褐色土を含む。
7　黒色土　As-C 含む。
8　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒、粒状の灰を20%含む。
9　暗褐色土　ロームブロックを含む。
10　暗褐色砂質土　As-C を含む。焼土粒、炭化物粒が点在する。



第228図　27号住居竈平面図　土層断面図



第229図　27号住居竈掘方平面図



第230図　27号住居出土遺物

28・29号住居

位置　71-K.L-5グリッド　標高112.9mから113.1mの台地頂部に近い傾斜部に立地する。遺跡内では竪穴住居の集中度が高い部分である。西の７号住居を切り、南には31号、東に８号、25号の各住居がそれぞれ近接してある。北部は用水路下にあたり、これを挟んで42・43号住居がある。29号住居の大半を壊して28号住居が作られている。29号住居は42号あるいは43号住居の一部と考えられたが、覆土が異なるため別住居とした。

形態　南部のみが調査されているため、全体の形状はわからない。南東隅は中段を持ってやや張り出す。南壁はわずかに膨らむ。平面図上の西壁は29号住居のものであり、28号住居の西壁は内側にある周溝の位置に当たる。28号住居が用水路下で遺構が完結するものとすれば、比較的小型の縦長長方形ということになる。29号住居は形状を推定できる根拠に乏しい。　**規模**　28号住居：東西3.6m　南北確認長1.6m　29号住居：東西確認長0.5m　南北確認長0.94m

床　28号住居床面は褐色から暗オリーブ褐色土を踏み固めており、均平で、ごく硬く締まっている。南壁の東よりから西壁にかけて壁周溝がめぐり、土層断面Ａラインの所見とあわせて、これが本住居の床面を限るものと判断された。29号住居床面は28号住居床面とほぼ同レベルからやや高い位置にある。硬化面ははっきりしないが、掘方をAs-CやHr-FAを含む暗褐色土で埋め、その上位を床面としている。土層断面の観察から壁周溝があったものと考えられる。

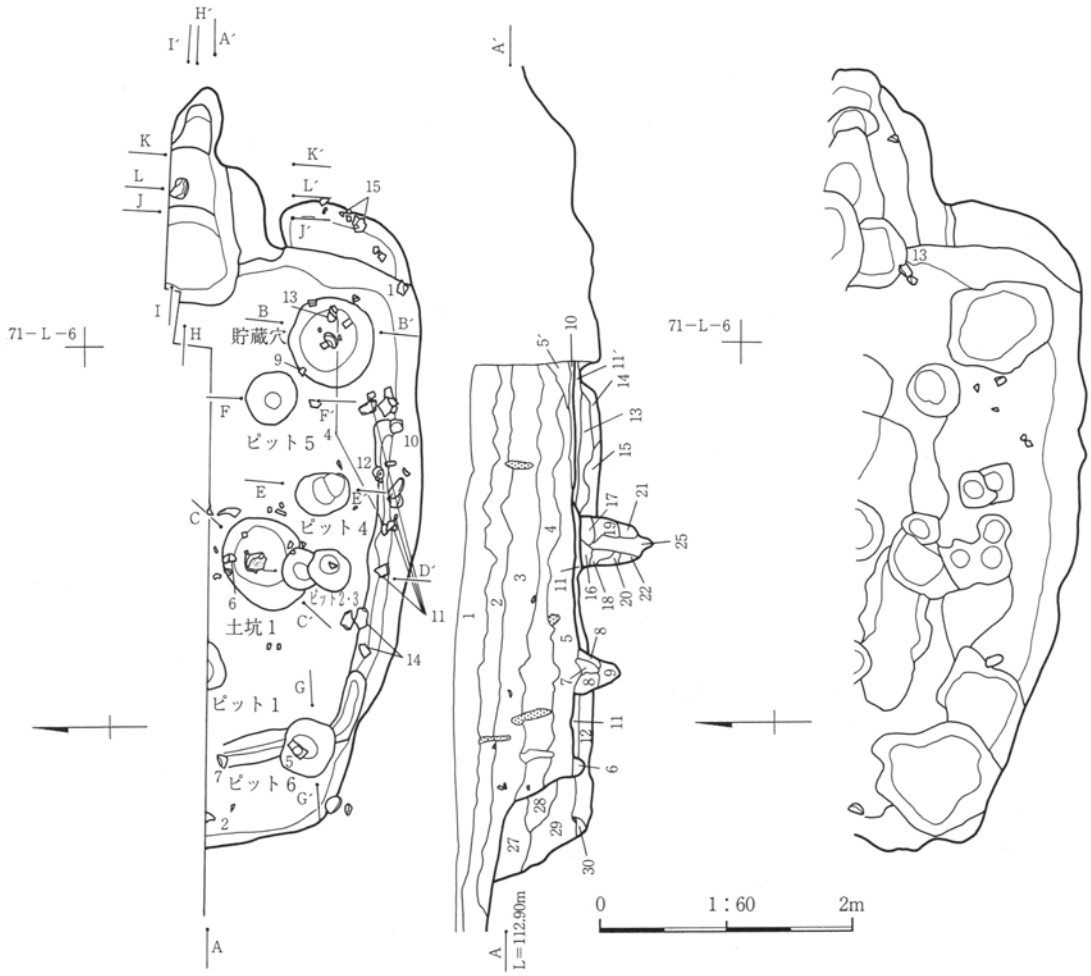
壁　28号住居はやや上方に開き気味に立ち上がる。南壁中央近くがもっとも残存壁高の高い部分で、63.5cmある。29号住居はやや上方に開き気味に立ち上がるが、これは７号住居覆土を切って作っているために崩れたものかもしれない。土層断面からみると70cm近い壁高がある。

柱穴　28号住居の床面調査時に６基のピットが確認されている。ピット１は径30cm、深さ30cmほどで、ロームの多い埋土の中央近くに黒褐色土の堆積があり、柱痕と考えられる。ピット２は径24cm、深さ10cmで、ピット３を切る。ピット３は径34cm、深さ21cmほどあり、明確な柱痕はないが、ロームの多い埋土中央部に黒褐色土の堆積が見られる。ピット４は径38cm、深さ32cmほどで、柱痕が認められる。ピット５は上端径38cm、深さ28cmで、逆三角形の断面形状である。ピット１はやや内側による嫌いがあるが、ピット５とともに主柱穴にあたり、ピット２・３および４が出入り口にかかる施設の痕跡としても良い位置である。ピット６は径44cm、深さ18cmほどで、半円形の断面形を呈する。また、28号住居床面下にもピットがある。29号住居に伴うものかもしれない。

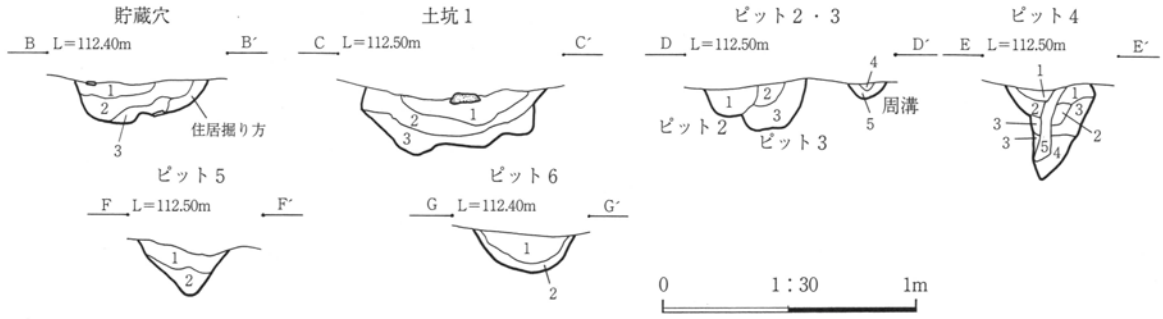
貯蔵穴　28号住居では東南隅にある。径67cmから70cmの比較的整った円形の平面形で、27cmほどの深さがある。貯蔵穴の東にあたる東壁南端部は、間口95cm、奥行き15cmほどの大きさで東側に張り出す。床面からの高さ35cmほど、確認面からの深さ20cm弱の棚状施設である。29号住居では貯蔵穴等は認められない。

竈　28号住居にある。東壁を壁外に大きく掘り込んで構築している。左袖部は用水路下に当たり調査できない。暗灰色の粘土を構築材とし、石などの構造材は認められないが、煙道先端部近くに土器が置かれている。また、燃焼部やや奥の左よりに支脚石が据えられている。主軸方向はN-87°-Eを示す。

遺物　28号住居の遺物は須恵器坏、高台付椀が主体となる。底部平底で、体部の削りを省略した土師器坏やコの字状口縁の甕も出土しており、９世紀中葉頃と考えられる。29号住居にかかる覆土中や掘り方からも須恵器坏や蓋、土師器小型台付甕が出土しているが、いずれも９世紀代のものと思われる。



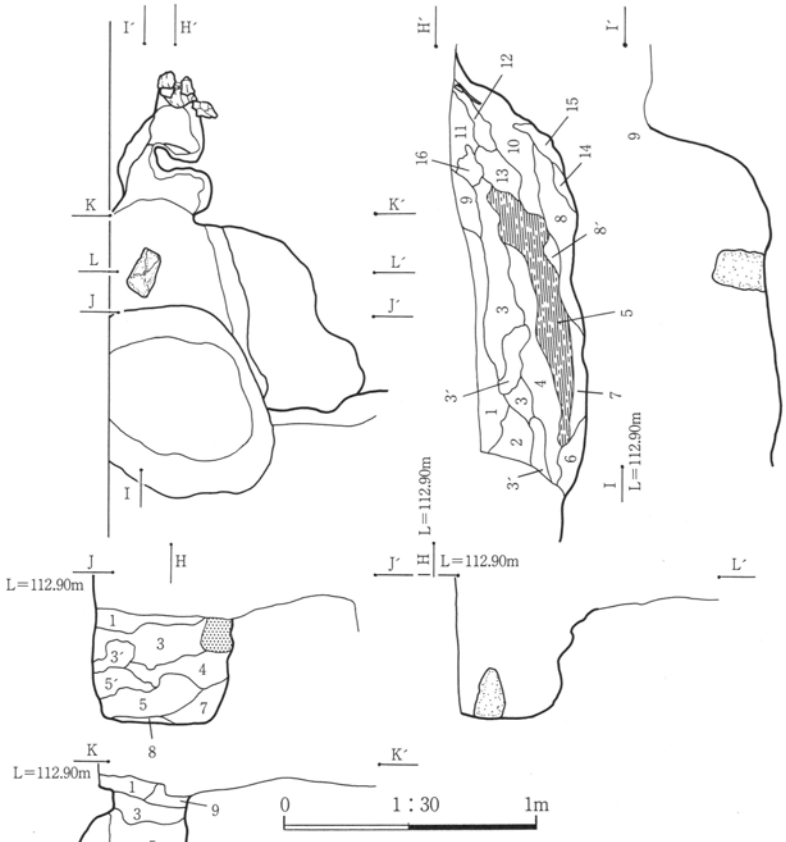
第231図　28・29号住居平面図　土層断面図　掘方平面図



第232図　28・29号住居貯蔵穴・ピット土層断面図

28号・29号住居　土層観察所見
1　10YR3/3　暗褐色土　現表土。
2　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。
3　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FAを多量に含む。ロームブロック、ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。
4　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FAを多量に含む。ロームブロック、ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。
5　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FAを多量に含む。焼土粒を含む。ロームブロック、ローム粒を少量含む。炭化物粒わずかに含む。粘性ない。締まり弱い。　5′竈起源の灰色粘土ブロックを含む。
6　10YR4/4　褐色土　ローム粒含む。As-C、Hr-FA、焼土粒少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
7　10YR4/3　にぶい黄褐色土　As-C、Hr-FA 含む。ロームブロック、ローム粒少量含む。粘性ない。締まり弱い。
8　10YR4/6　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱い。
9　10YR4/6　褐色土　ローム漸移層主体。ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
10　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色土　焼土、ローム、灰色粘土の縞状混土。貼り床構成土。竈起源の粘土や灰層も薄い縞状に挟まる。ごく硬く締まっている。
11　10YR4/6　褐色土　ロームが縞状に踏みしめられている。貼り床構成土。硬く締まっている。　11′灰色粘土を含む。
12　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
13　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
14　10YR5/8　黄褐色土　ロームブロック、ローム粒主体。粘性弱い。強く締まっている。
15　10YR5/8　黄褐色土　ロームブロック、ローム粒主体。粘性弱い。強く締まっている。14層より黄色みが強い。
16　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
17　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
18　10YR5/6　黄褐色土　ロームブロック主体。粘性弱い。締まりやや弱い。
19　10YR5/6　黄褐色土　ローム粒、ローム小ブロック主体。粘性弱い。締まりやや弱い。
20　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
21　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。粘性弱い。締まり弱い。
22　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロックを極めて多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
25　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロック少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
27　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FAを多量に含む。焼土ブロック、焼土粒をわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。
28　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FAを含む。焼土粒をわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。
29　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FAを含む。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。
30　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒含む。粘性ない。締まり弱い。
31　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA を多量に含む。炭化物粒をごくわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。　31′As-C、Hr-FAを多く含む。(31層・32層は7号住居覆土)
32　10YR4/3　にぶい黄褐色土　As-C、Hr-FA、ローム粒を少量含む。

28号住居貯蔵穴　土層観察所見
1　7.5YR3/3　暗褐色土　焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。As-C、Hr-FA、炭化物粒を少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
2　7.5YR3/3　暗褐色土　焼土粒、焼土ブロック、炭化物粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
3　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒を含む。焼土粒、焼土ブロック、炭化物粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
28号住居ピット2・3壁周溝　土層観察所見
1　10YR4/4　褐色土　ローム粒、ロームブロックを含む。粘性なし。締まり弱い。
2　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA、ローム粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
3　10YR4/4　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まり弱い。
4　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FA、ローム粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
5　10YR4/6　褐色土　ローム粒を多量に含む。
28号住居ピット4　土層観察所見
1　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
2　10YR4/6　褐色土　ローム主体。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まり弱くぼそぼそ。
3　10YR4/6　褐色土　ローム主体。ローム粒を含む。粘性なし。締まり弱い。
4　10YR5/6　黄褐色土　ローム主体。ローム粒、ロームブロックは少ない。粘性なし。締まり弱い。
5　10YR4/4　褐色土　ローム粒を少量含む。粘性なし。締まり弱くぼそぼそ。
28号住居ピット5　土層観察所見
1　7.5YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA を多く含む。焼土粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
2　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
28号住居ピット6　土層観察所見
1　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA、ローム粒、ロームブロック、焼土粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
2　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒を多く含む。
28号住居土坑1　土層観察所見
1　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA を多量に含む。ローム粒含む。粘性なし。締まりなし。
2　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性なし。締まり弱い。
3　10YR4/4　褐色土　ロームブロックを多く含む。粘性なし。締まりやや弱い。



第233図　28･29号住居竈平面図　土層断面図

28号住居竈　土層観察所見

1　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA を含む。焼土粒、炭化物粒、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。

2　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA、焼土粒、焼土ブロック、炭化物粒、ロームブロック、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。

3　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色土　暗灰色粘土ブロック、焼土粒を多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。　3′ 暗灰色粘土ブロックを密に多量に含む。

4　10YR3/4　暗褐色土　粘土ブロック、焼土ブロックを少量含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性弱い。締まりやや弱い。

5　2.5YR4/3　オリーブ褐色粘土　焼土ブロックを少量含む。密に、良く締まっている。5′ 焼土ブロックをやや多く含む。

6　7.5YR3/1　黒褐色土　炭化物を主体とする。焼土粒やや多く含む。粘性弱い。締まりない。

7　5YR3/4　にぶい赤褐色土　焼土ブロックを多く含む。灰を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。

8　灰層。　8′ 焼土粒をやや多く含む。

9　10YR3/4　暗褐色粘土　As-C、Hr-FA、焼土粒を多く含む。粘性弱い。締まり弱い。

10　7.5YR3/3　暗褐色土　焼土小ブロックを非常に多く含む。粘性ない。締まりなくボソボソ。

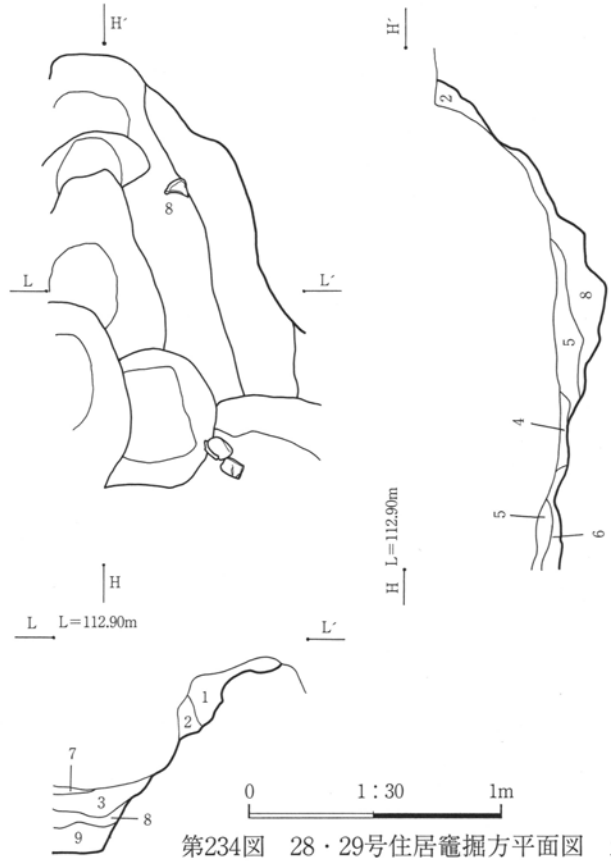
11　7.5YR4/6　褐色土　焼土小ブロックを密に、多量に含む。粘性弱い。硬く締まっている。

12　7.5YR4/6　褐色土　焼土粒を多量に含む。焼土ブロック少量含む。粘性なし。締まり弱くボソボソ。

13　7.5YR4/4　褐色粘質土　焼土粒を多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。

14　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土ブロックを含む。粘性弱い。締まりやや弱い。

15　10YR4/2　灰黄褐色土　青みがかった灰色の粘質土、焼土粒を少量含む。粘性やや強い。締まりやや弱い。



第234図　28・29号住居竈掘方平面図　土層断面図

28号住居竈掘方　土層観察所見

1　2.5Y5/1　黄灰色粘土　粘性強い。硬く締まっている。

2　10YR5/2　灰黄褐色粘土　粘性強い。締まっている。

3　2.5Y5/1　黄灰色粘土　ローム粒少量含む。粘性やや強い。締まりやや弱い。

4　7.5YR4/2　灰褐色土　粘土ブロック、焼土ブロックを多く含む。貼り床状。粘性弱い。締まっている。

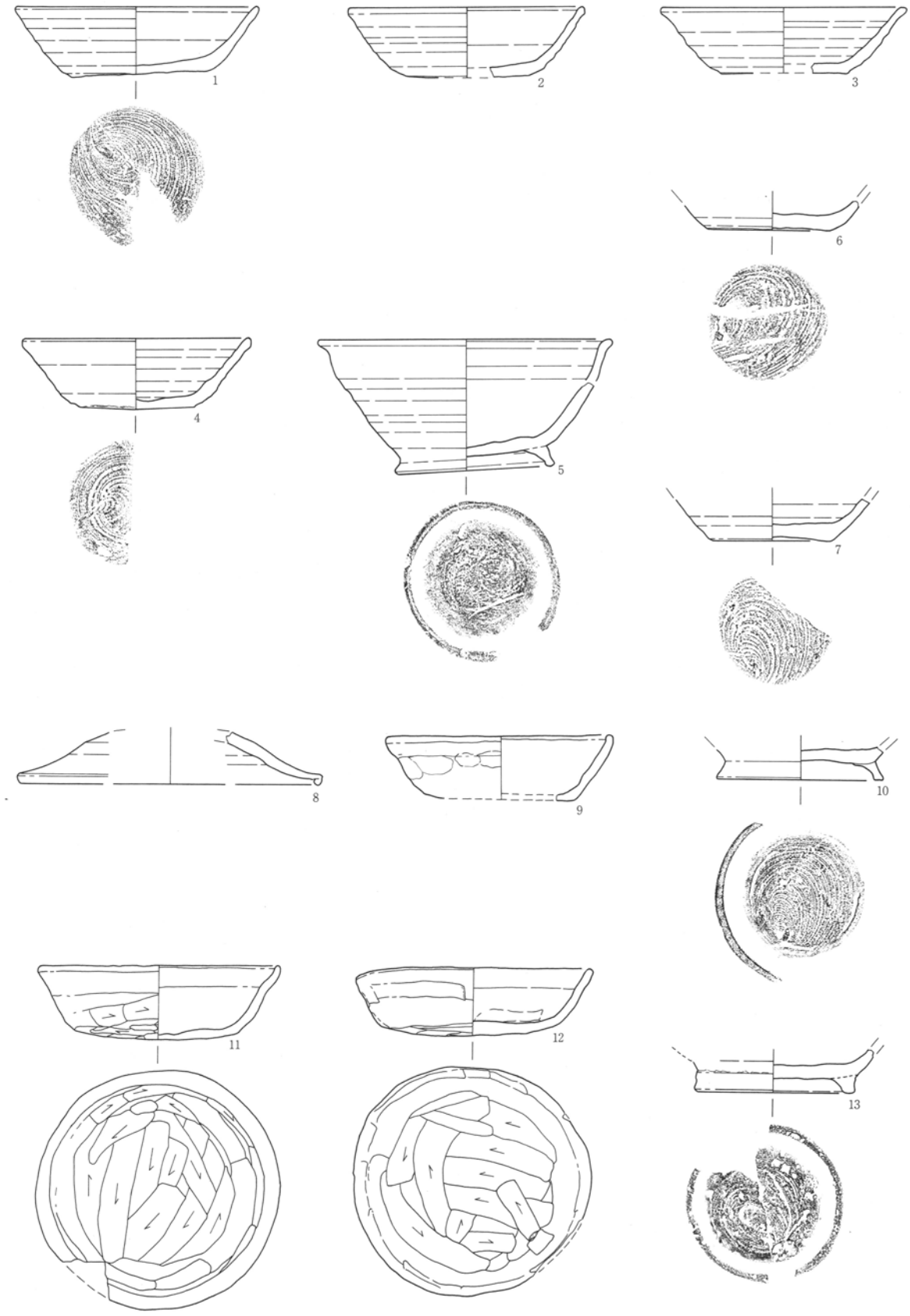
5　7.5YR4/2　灰褐色土　粘土ブロック、焼土ブロックを多く含む。貼り床状。粘性弱い。硬く締まっている。

6　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。住居の貼り床。

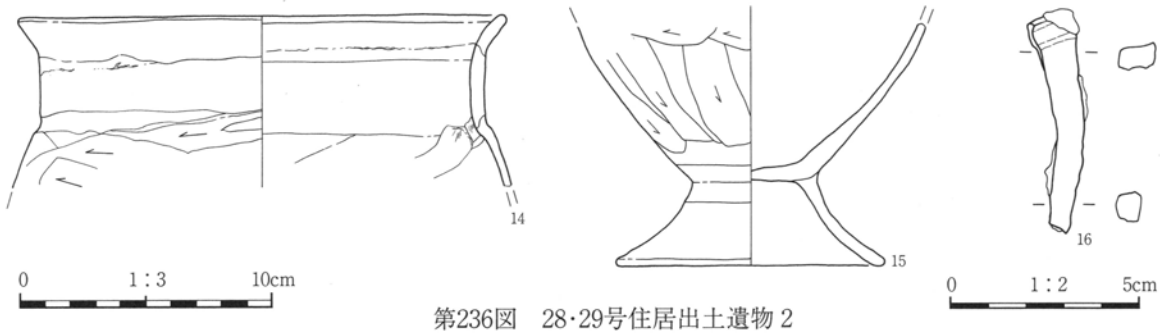
7　灰層。

8　7.5YR4/2　灰褐色土　白色粘土ブロック、焼土粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。

9　10YR4/3　にぶい黄褐色土　焼土粒少量含む。粘性ない。締まり弱い。



第235図　28･29号住居出土遺物 1



第236図　28･29号住居出土遺物２

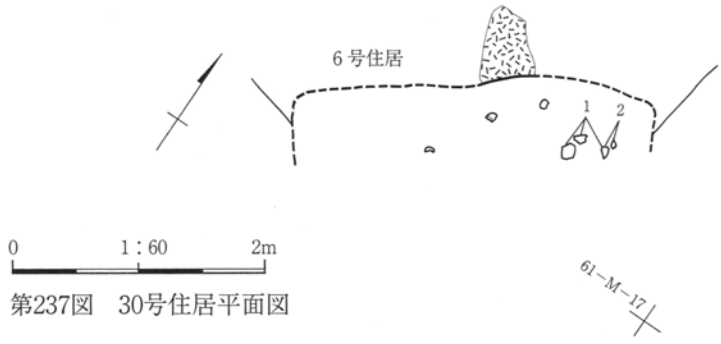
30号住居

位置　61-L.M-17グリッド　標高113.3mから113.4mの台地頂部に近い平坦面に立地する。６号住居下で確認された。

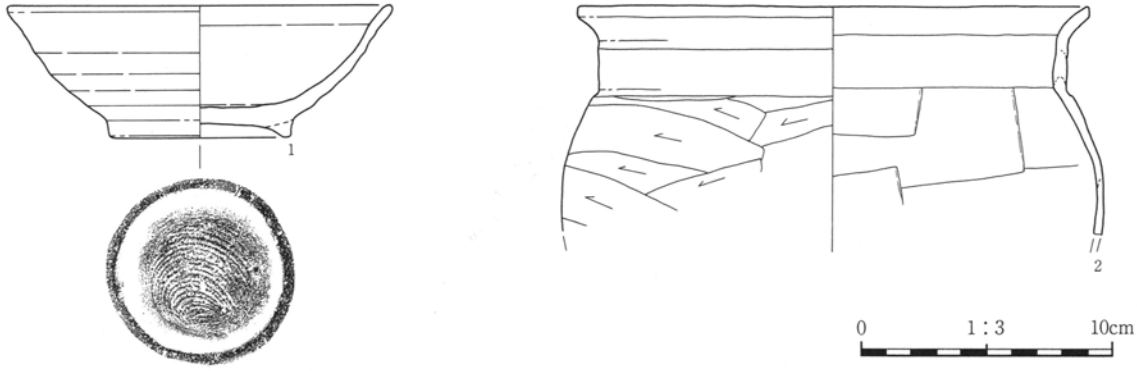
形態　調査区端にかかり、東壁部のみが６号住居の下面で確認されたものであるため、全体の形状はわからない。東壁は直線的であり、南北両壁へとほぼ直角に屈曲するため、方形あるいは長方形の平面形と推定される。　**規模**　南北2.86m　東西確認長0.58m

竈　６号住居床面に、痕跡的に残されるのみである。東壁南よりの地山を掘り込んで構築されている。主軸方向はN-55°-Eを示し、他の住居とは大きな違いを見せる。

遺物　資料化可能な出土遺物は少なく、９世紀後葉と思われる須恵器高台付椀と、９世紀中葉の、コの字状口縁の土師器甕が出土している。上位に乗る６号住居に９世紀後葉の年代が与えられるため、土師器甕の年代を採用するべきであろうか。



第237図　30号住居平面図



第238図　30号住居出土遺物

31号住居

位置　71-K.L-4.5グリッド　標高112.9mから113.1mの傾斜部に立地する。竪穴住居の密度が高い部分にあたり、西に7号、北に28・29号、東に8号の各住居がある。1号溝に切られる。

形態　南北に長軸を持つ長方形。竈のない竪穴。南辺がやや長く、西辺が中ほどからややゆがんで北辺につながる。　**規模**　長軸3.04m　短軸2.40～56m

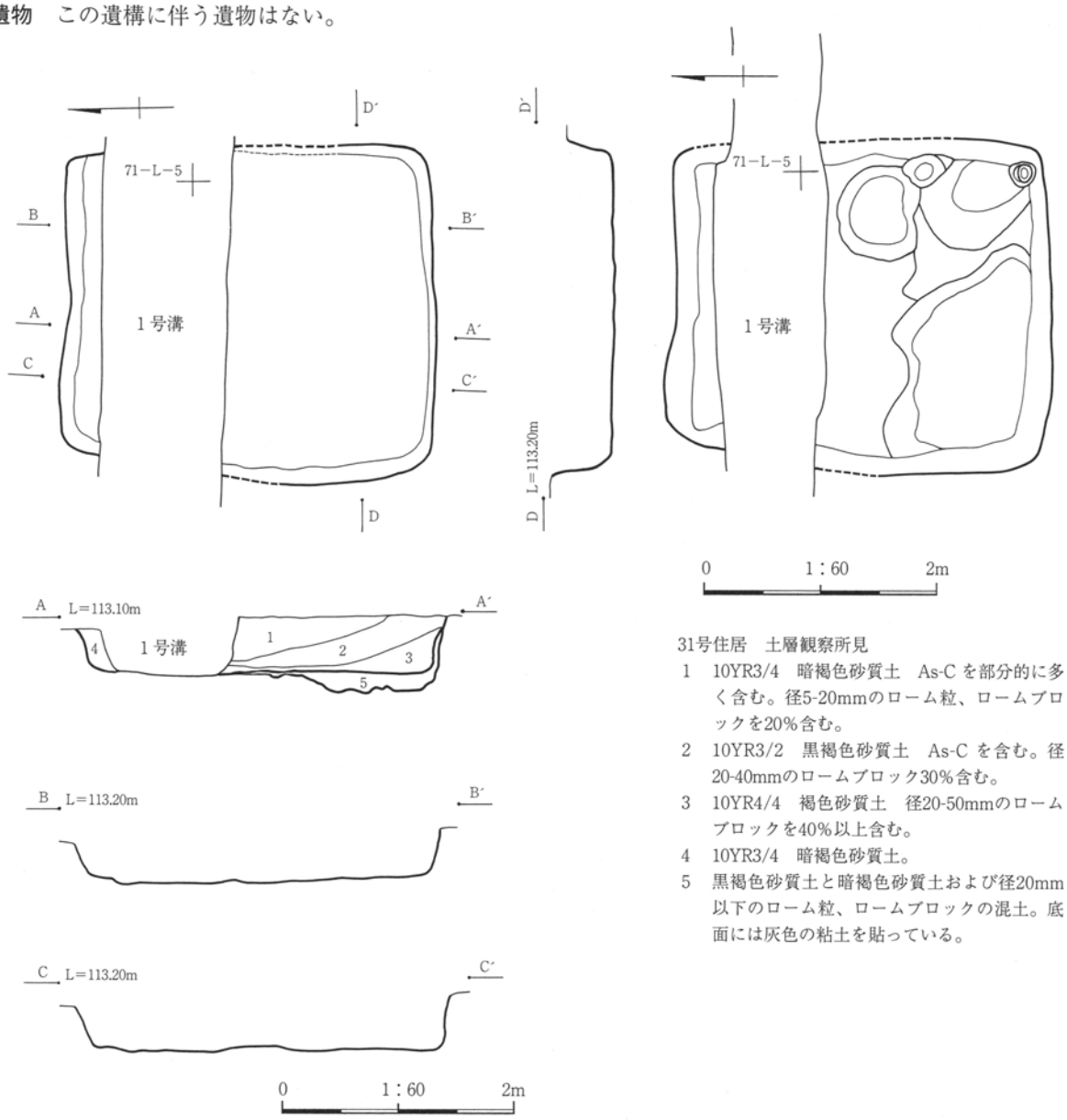
床　ソフトローム下位まで掘り込まれる。南半は大きく浅い掘り込みを黒褐色砂質土で埋めるが、全体的に軟弱で硬化面も薄い。

壁　残存最大壁高は西壁中央近くの52.5cm。四壁とも垂直に近い立ち上がりを示す。

柱穴　床面では認められない。掘方調査時に東壁南よりと東南隅部に小ピットを確認したが、住居構造にかかるものとは認められない。

貯蔵穴　竈　認められない。

遺物　この遺構に伴う遺物はない。



31号住居　土層観察所見

1　10YR3/4　暗褐色砂質土　As-C を部分的に多く含む。径5-20mmのローム粒、ロームブロックを20%含む。

2　10YR3/2　黒褐色砂質土　As-C を含む。径20-40mmのロームブロック30%含む。

3　10YR4/4　褐色砂質土　径20-50mmのロームブロックを40%以上含む。

4　10YR3/4　暗褐色砂質土。

5　黒褐色砂質土と暗褐色砂質土および径20mm以下のローム粒、ロームブロックの混土。底面には灰色の粘土を貼っている。

第239図　31号住居平面図　土層断面図　高低図　掘方平面図

35号住居

位置　71-R.S-8.9グリッド　標高114.0mから114.1mの台地頂部に近い緩傾斜部に立地する。住居集中部の北西端に当たる。東には古墳時代の36号住居があるが、古代の住居としてはやや孤立した位置にある。１号溝に切られる。18号掘立柱建物を切る。

形態　ややゆがんだ隅丸方形の平面形を呈する。東南隅がややふくらみ、南壁が東に延びるため、東壁が竈の右側でやや方向を変える。竈の主軸はこの部分の壁に直行する方向である。東壁をのぞくと、各壁とも中央部がややふくらみ、隅部は比較的整った屈曲を示す。　**規模**　東西2.7m～3.2m　南北3.0m～3.4m

床　基本的にはハードローム上面を床面とする。北西隅部には18号掘立柱建物の柱穴から南東方向にかけて、浅く広い掘り込みがあり、また住居中央近くにもゆがんだ円形土坑状の掘り込みがある。ここにはロームブロックを多く含む暗褐色土を埋めて床面を作っている。ほぼ均平で、堅く締まった床面である。住居南部中央近くには1.5m×0.75mほどの不定形の範囲で床が焼け、炭化物粒が特に多く見られる部分があった。

壁　40cmほどの残存壁高がある。ほぼ垂直に近く立ち上がる。

柱穴　北東隅に径40cm、深さ20cm弱の円形ピット（ピット１）がある。覆土は柱穴としても良いものと思われるが、主柱穴に相当する位置ではない。また、その北に径25cm、深さ18cmの円形ピット（ピット３）があるが。これも柱穴と判断できる位置にはない。貯蔵穴と想定されるピット３はピット１の掘方充填土と同相の覆土を持つ小ピットを切って作られており、ピット１とともに柱穴としての機能を果たしていた時期があったものかとも考えられる。

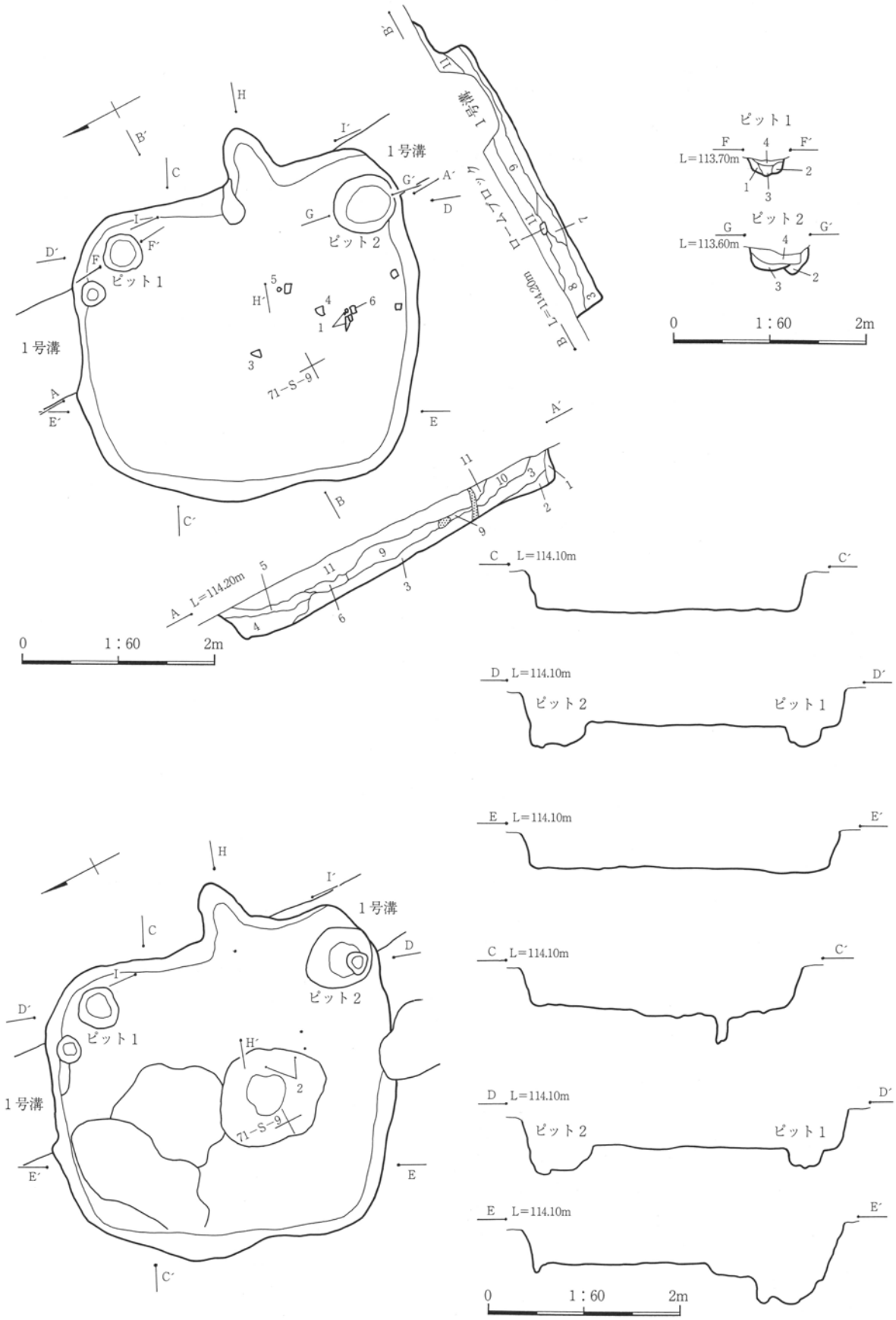
貯蔵穴　東南隅近くには南北方向の長径67cm、短径60cm、深さ25cmほどの土坑がある。特記すべき出土遺物はないが、炭化物や焼土粒を含む暗褐色土で埋没しており、住居内における位置ともあわせて、貯蔵穴と想定した。

竈　東壁中央よりやや南を掘り込んで構築している。１号溝に上部の大半を切られているため、詳細な構造はわからない。左袖部には構築材と思われる暗褐色粘土の残痕が見られる。左壁に接して川原石が出土しているが、他に石材はなく、壁石とするより、燃焼部中央に据え方が見られる支脚石が動いたものと考えたほうが妥当であろう。主軸方向はN-92°-Eを示す。

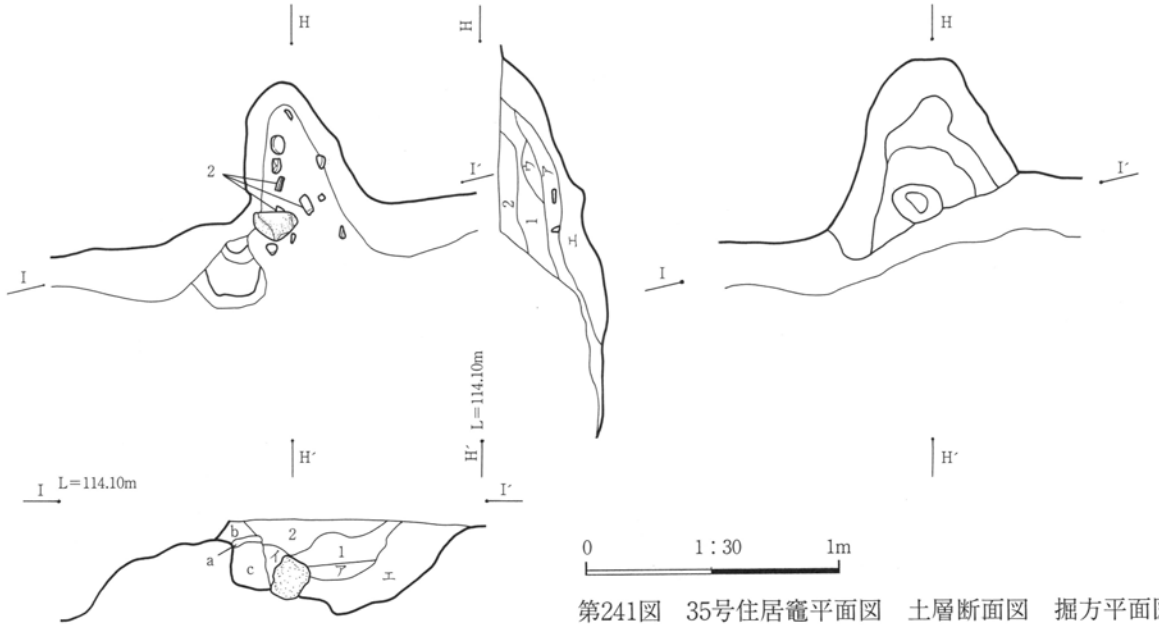
遺物　住居南半中央部に多く見られた。ほとんどが須恵器だが、灰釉陶器の高台付皿や土師器甕、墨書のある土師器坏の破片なども出土している。住居の年代は９世紀後葉と思われる。

35号住居　土層観察所見
1　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒主体。しまり弱い。
2　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒含む。焼土粒、炭化物粒含む。しまり弱い。
3　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック多く含む。炭化物、焼土粒含む。
4　10YR4/4　褐色土　ローム斑、ローム小ブロック多く含む。As-C、Hr-FA 含む。
5・10　10YR3/3　暗褐色土　ローム小ブロック含む。As-C、Hr-FA 含む。
6　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック多く含む。
7　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック、As-C含む。締まっている。
8　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック多く含む。締まっている。
9　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、ロームブロック、As-C 含む。
11　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、ローム小ブロック、As-C 含む。締まっている。

35号住居　ピット１・ピット２土層観察所見
1　10YR4/6　褐色土　ロームブロックを主体とする。空隙多く、締まりない。
2　10YR4/6　褐色土　汚れたロームを主体とし、ロームブロックを含む。やや粘質。やや締まっている。
3　10YR4/6　褐色土　汚れたロームを主体とする。やや粘質。しまり弱い。
4　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック多く含む。焼土粒、炭化物含む。As-C、Hr-FA 少量含む。やや粘質。やや締まる。



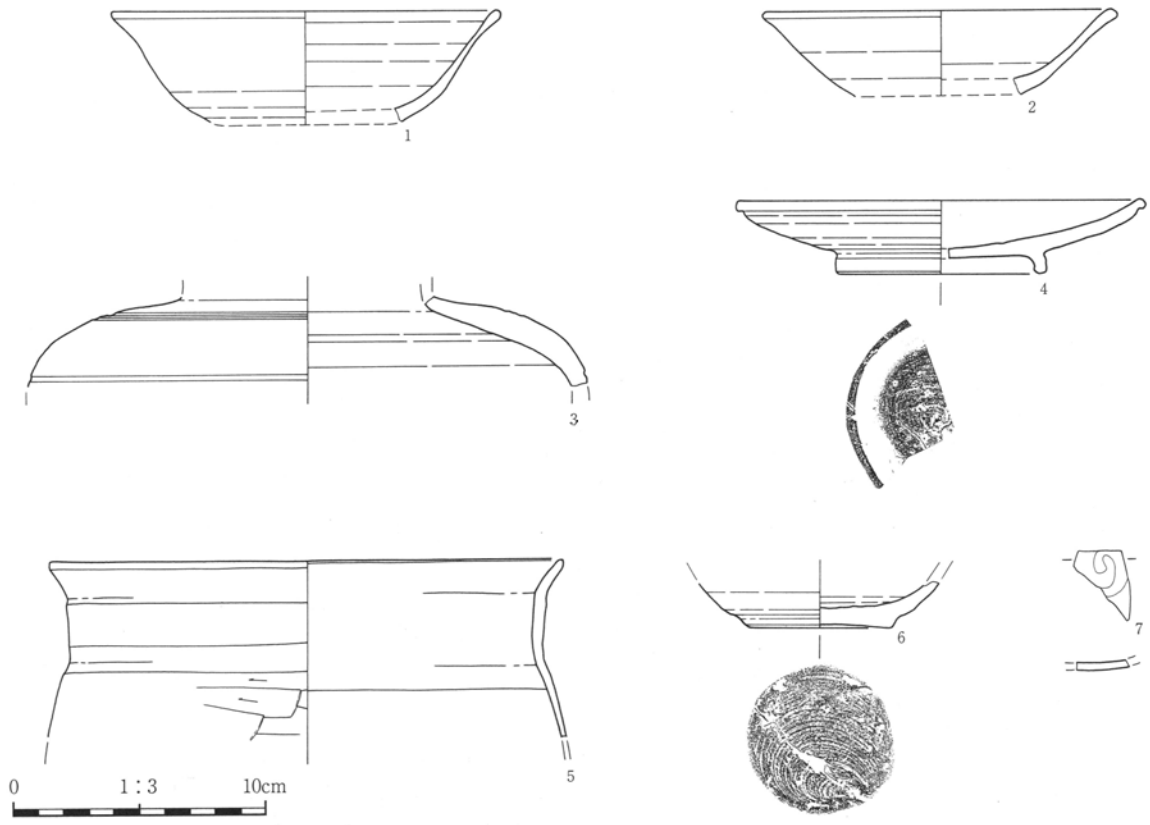
第240図　35号住居平面図　土層断面図　高低図　掘方平面図　高低図



第241図　35号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図

35号住居竈　土層観察所見

1　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA、粘土斑、焼土粒、炭化物粒含む。
2　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA、粘土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
ア　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土粒、袖構築材の粘土ブロックを多く含む。
イ　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土ブロックを多く含む。
ウ　やや崩れた焼土ブロックを主体とし、焼土粒、袖材の粘土ブロックを含む。
a　10YR3/3　暗褐色土　ローム主体。焼土粒、炭化物含む。
b　10YR2/3　黒褐色土　ローム斑を多く含む。焼土粒、炭化物粒を含む。

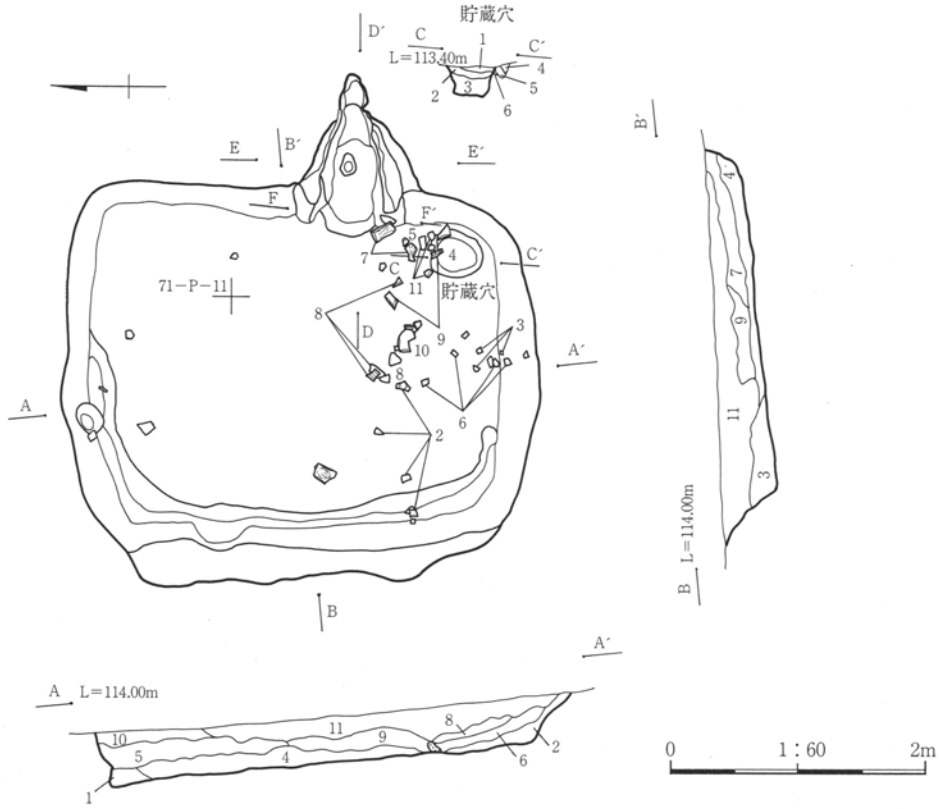


第242図　35号住居出土遺物

37号住居

位置　71-O.P-10.11グリッド　標高113.6mから113.8mの緩傾斜に立地する。東向き斜面の住居としては調査区内で最も北に当たる。南西に古墳時代の36号住居がある。比較的近い時期の住居としては、35号住居が西に15m、40・41号住居が東に10mほど離れている。39号ピットに切られる。

形態　南北にやや長い横長の隅丸長方形の平面形を呈する。南壁に比して北壁が長いため、北東隅は東側へやや張り出しながら、鋭角気味に屈曲する。他の３隅は丸みを持っている。　**規模**　長軸3.27m　短軸（北壁2.7m、南壁2.32m）



37号住居　土層観察所見

1　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック３％含む。ローム粒含む。締まり弱い。
2　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒多く含む。締まり弱い。
3　10YR2/2　黒褐色土　ローム小班少量含む。
4　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒ごく少量含む。As-C、Hr-FA 少量含む。締まっている。
5　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒含む。As-C、Hr-FA 含む。炭化物粒少量含む。
6　10YR2/1　黒色土　炭化物を主体とするが、材の形状は捉えられない。ローム粒、As-C、Hr-FA 少量含む。
7　10YR2/2　黒褐色土　10YR2/3黒褐色土の円形斑を30％含む。As-C、Hr-FA 多く含む。As-B 粒少量含む。
8　10YR2/1　黒色土　炭化物を多く含む。ローム粒、As-C、Hr-FA含む。
9　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒ごく少量含む。As-C、Hr-FA、焼土粒、炭化物粒含む。
10　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FAを多く含む。As-B 含む。
11　10YR2/3　黒褐色土　10YR2/2黒褐色土中に10YR2/3黒褐色土の円形斑が60％程度の密度で混ずる。As-C、Hr-FA 多く含む。As-B 含む。

37号住居貯蔵穴　土層観察所見

1　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒を含む。粘性なく軟らかい。
2　10YR2/3　黒褐色土　暗褐色粘土ブロック、炭化物、焼土ブロックを少量含む。粘性弱く軟らかい。
3　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック、焼土粒を含む。粘性なく軟らかい。
4　10YR4/4　褐色土　ロームを多く混じる。粘性弱い。
5　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒を少量含む。粘性ない。
6　10YR4/4　褐色土　ロームを多く混じる。粘性弱い。

第243図　37号住居平面図　土層断面図　貯蔵穴土層断面図

床　竈左手から北壁を経て西壁の南角部まで幅の広い壁周溝状の掘り込みがある。さらに北西四半は土坑状掘り込みと不定形の掘り込みが重なり合っている。これらをロームブロック、ローム粒を多く含む褐色から黄褐色土で埋めて床を作っている。このため、中央部近くがわずかに高く、壁近くが低くなる。

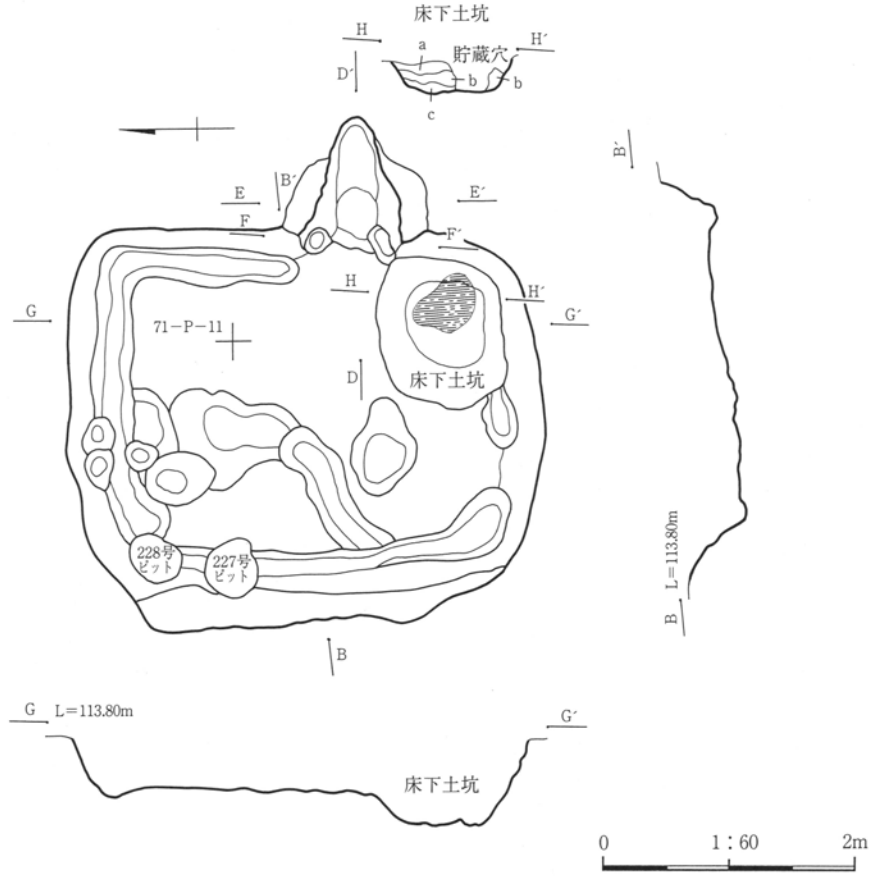
壁　40cmほどの残存壁高がある。西壁をはじめ、上部が大きく崩れているが、壁の基部の開きはさほど大きくない。周溝を介してやや上方に開くように立ち上がる。

柱穴　北西隅部で、掘方を含めいくつかのピットが見られるが、柱穴としては不適当な位置である。

貯蔵穴　東南隅部にある。径40cmほどの円形で、床面下22cmほどで平坦な底部に至る。南北１m、東西1.2mほどの大きな土坑状掘方の中に掘られており、貯蔵穴底部に当たる部分に灰白色の粘土が貼られている。

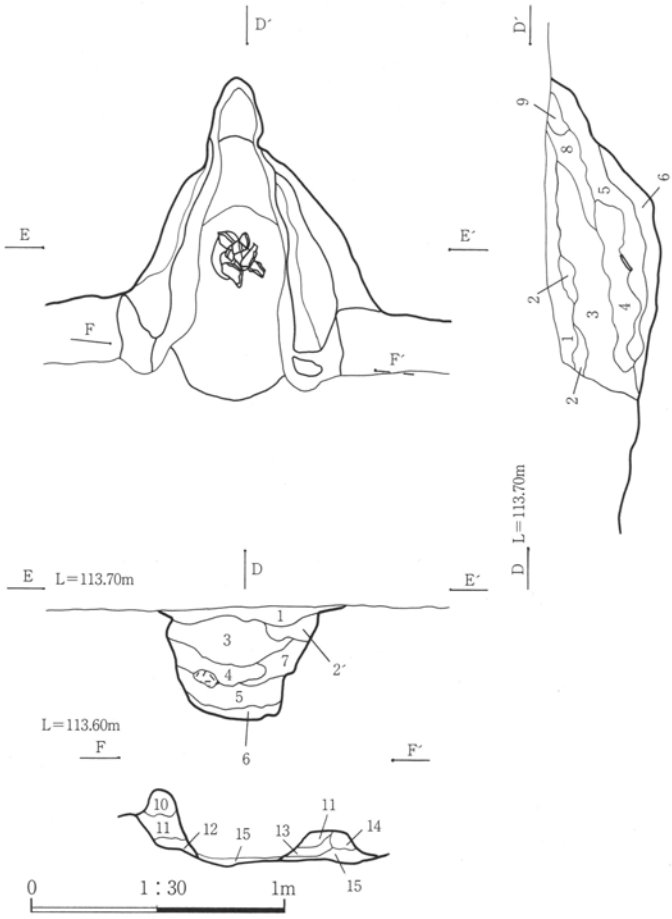
竈　東壁の南よりを壁外に大きく掘り込み、暗褐色からにぶい黄褐色の粘土および灰白色粘土を用いて構築している。燃焼部は壁外にあり、短い袖を住居内に張り出す。袖石、支脚は残っていないが、ともに据え方が確認できる。主軸方向はN-92°-Eを示す。

遺物　住居南側の覆土中から多く出土し、床面直上から出土したものはほとんど無い。土師器・須恵器の甕、須恵器坏、灰釉陶器椀など器種は多岐にわたるが、須恵器の甕はすべて破片であるなど、遺物の残存率は全体的に低い。また、竈の埋没土から砂岩製の紡錘車が１点出土している。年代は９世紀中葉頃の可能性が考えられる。



37号住居床下土坑　土層観察所見
1　10YR5/6　黄褐色土　ローム主体。上位にロームブロックを多く含む。粘性やや強く締まっている。貼り床土。
2　10YR4/4　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性やや弱く締まりやや弱い。
3　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ロームブロックを含む。掘方底面に沿って白色の粘土が貼られている。粘性弱く締まり弱い。

第244図　37号住居掘方平面図　高低図　床下土坑土層断面図



第245図　37号住居竈平面図　土層断面図

37号住居竈　土層観察所見

1　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA を含む。ローム粒、ロームブロックをわずかに含む。住居覆土。

2　10YR3/4　暗褐色土　暗褐色土と粘質土の混土。ローム粒をわずかに含む。粘性なく軟らかい。

2′　ローム土をやや多く含む。粘性弱くやや軟らかい。壁際の崩落土。

3　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒、ロームブロックを含む。焼土粒をごくわずかに含む。黒味が強い。粘性なく軟らかい。

4　10YR4/3　暗褐色粘質土　焼土粒、ローム粒をごくわずかに含む。非常に硬く締まっている。天井崩落土。

5　7.5YR4/4　褐色土　焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。灰を多く含む。白色粘土ブロックをごくわずかに含む。粘性弱く軟らかい。天井崩落土の崩れたもの。

6　10YR4/6　褐色土　ローム粒、灰を多量に含む。

7　4層土のしまりのないブロックを主体に、焼土ブロック、ロームブロックが混ずる。

8　7.5YR4/6　褐色土　白色粘土、焼土ブロックを多量に含む。粘性弱く、締まりも弱い。煙道からの流入土。

9　2.5YR5/6　明赤褐色土　構築材の暗褐色粘土が焼土化したもの。煙道天井部の崩落土。

10　10YR4/3　にぶい黄褐色土　構造材の粘土主体。As-C、Hr-FA を少量含む。ローム粒をごくわずかに含む。粘性弱く軟らかい。

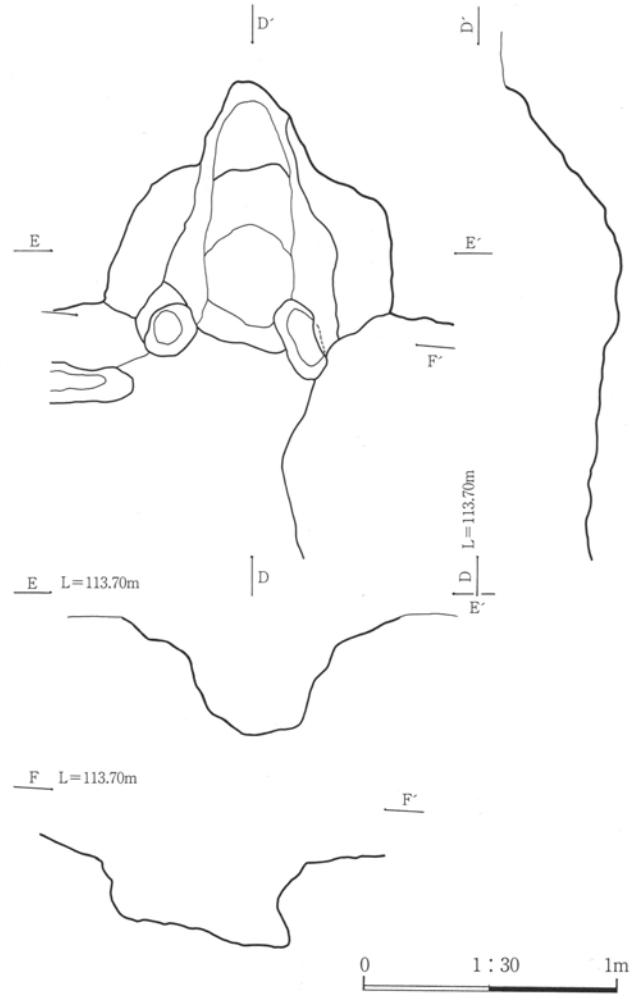
11　10YR4/3　にぶい黄褐色土　構造材の粘土主体。ローム粒を少量含む。白色粘土ブロックをわずかに含む。粘性やや強くやや締まっている。

12　10YR4/3　にぶい黄褐色土　構造材の粘土主体。白色粘土ブロックをわずかに含む。粘性やや強くやや締まっている。

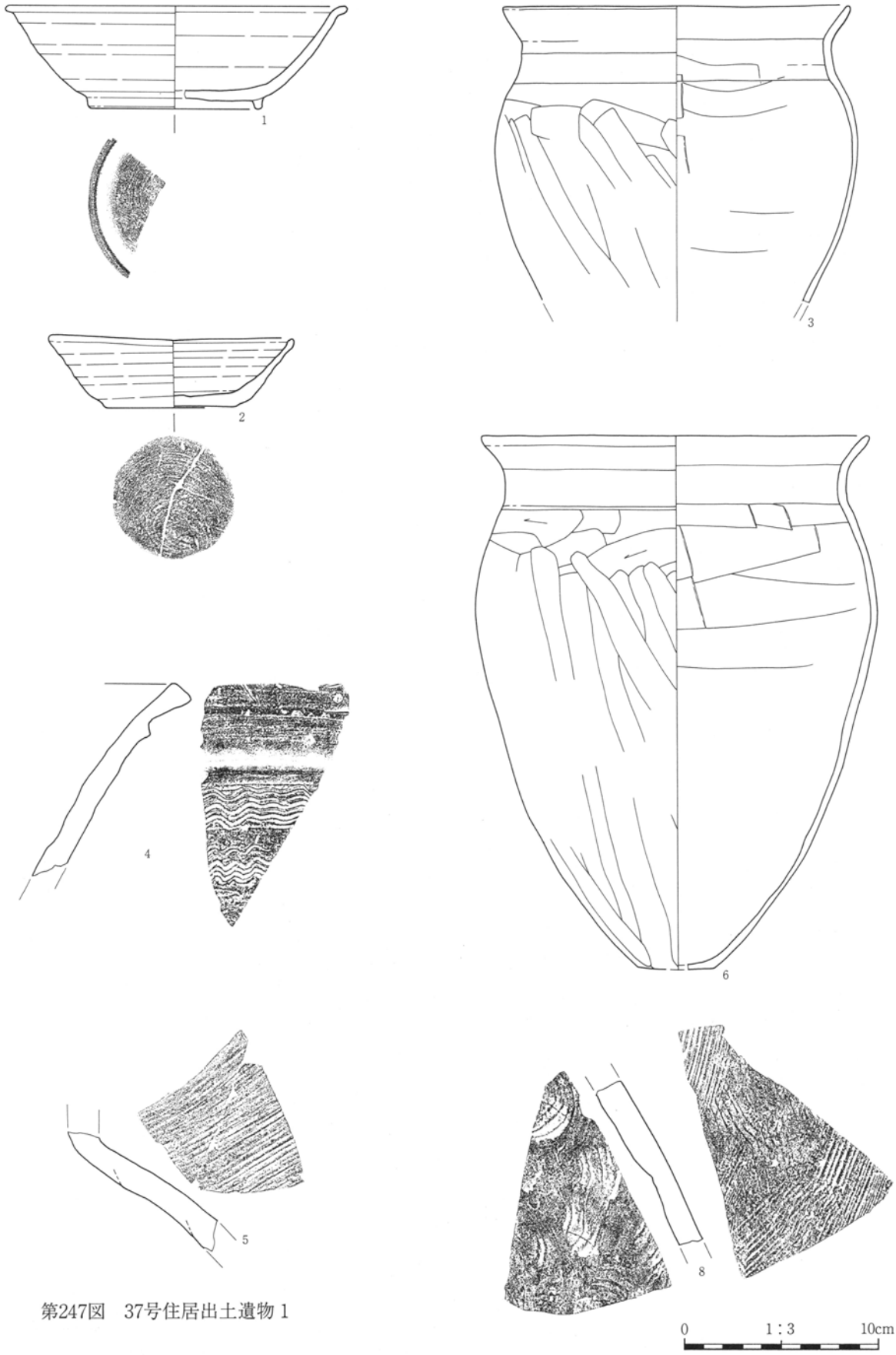
13　10YR4/3　にぶい黄褐色土　構造材の暗褐色粘土主体。ローム粒を少量含む。粘性やや強く締まりやや弱い。

14　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを含む。粘性弱く軟らかい。

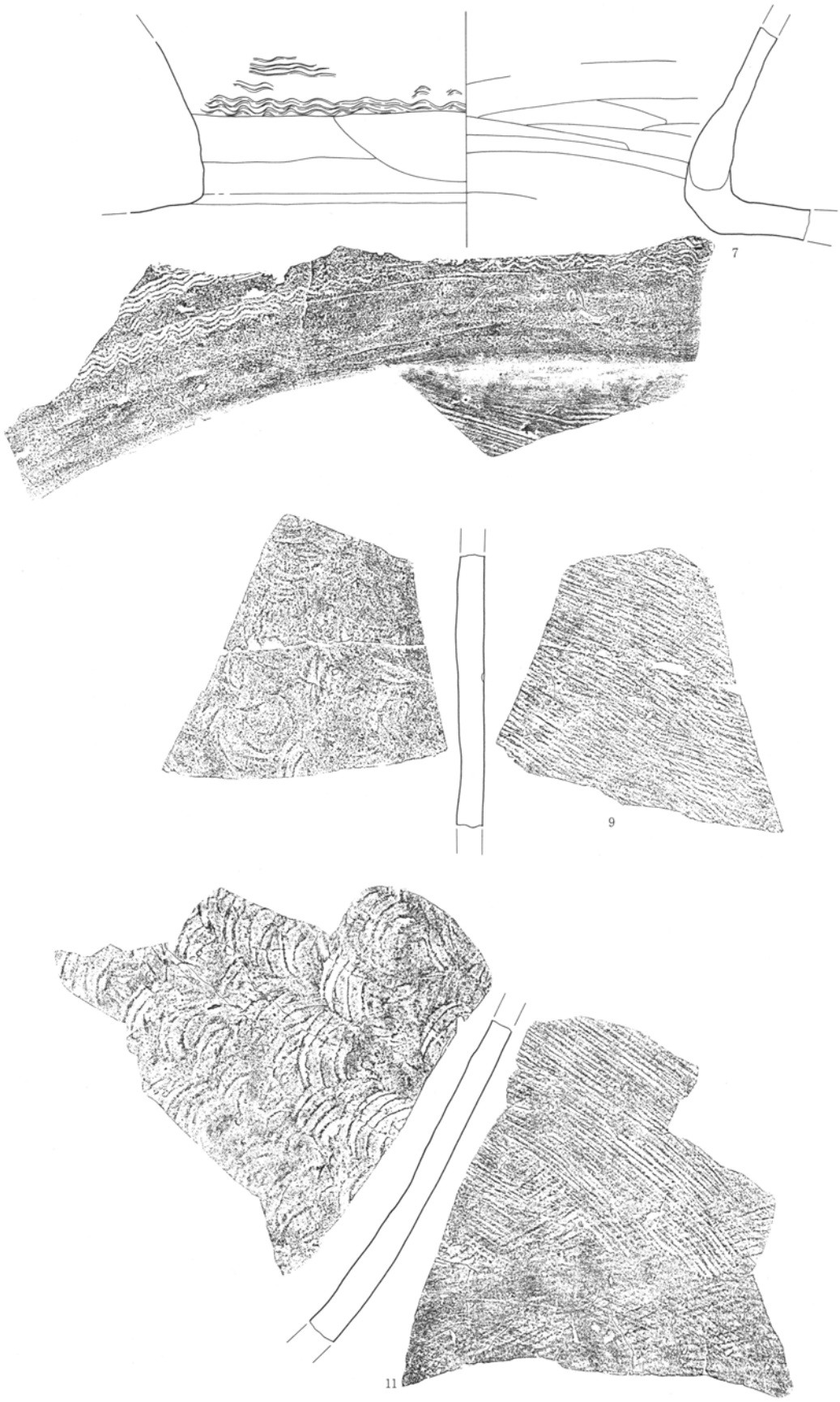
15　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを含む。粘性弱く、やや軟らかい。



第246図　37号住居竈掘方平面図　高低図

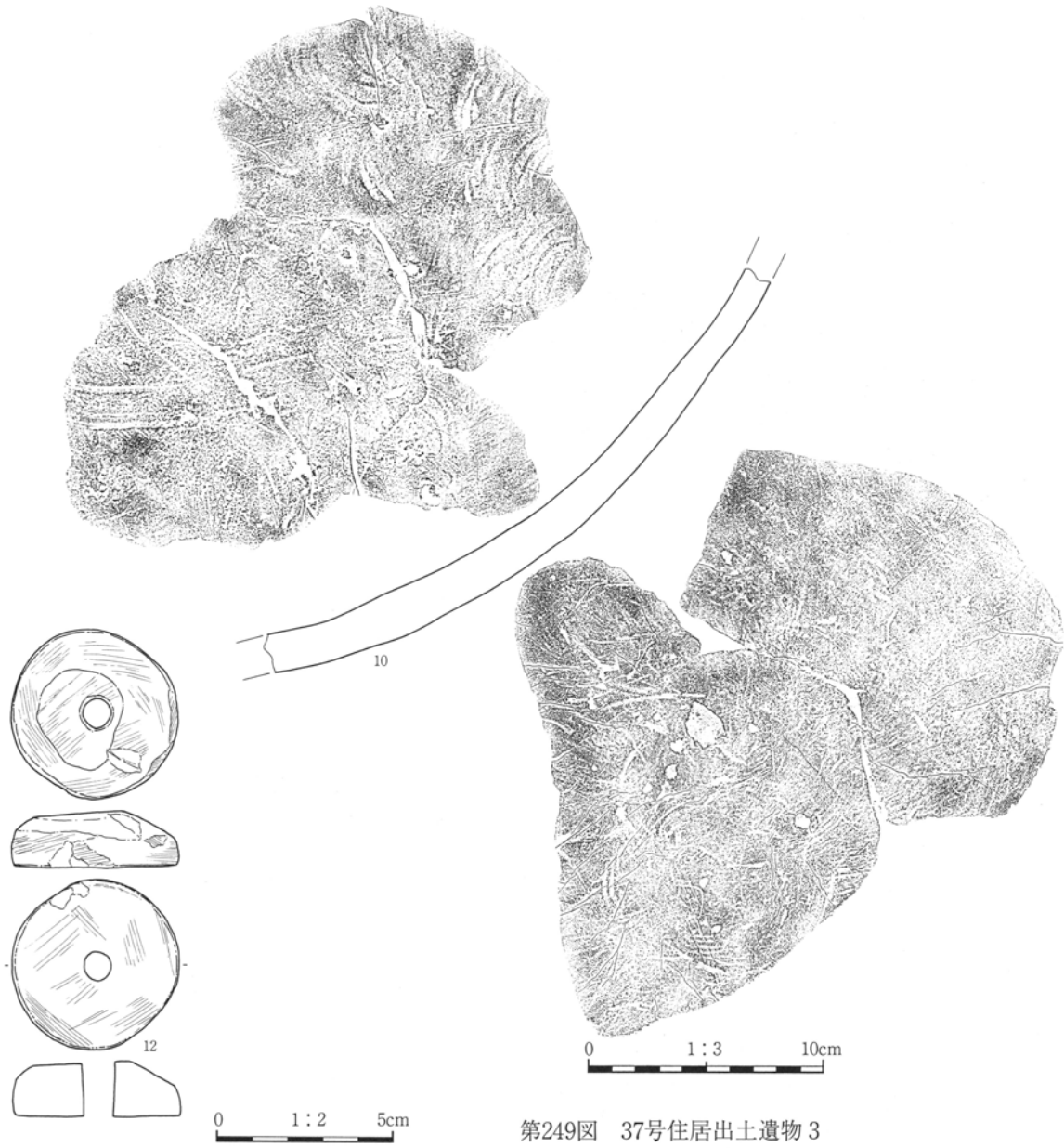


第247図　37号住居出土遺物１



第248図　37号住居出土遺物 2

0　1：3　10cm



第249図　37号住居出土遺物３

38号住居

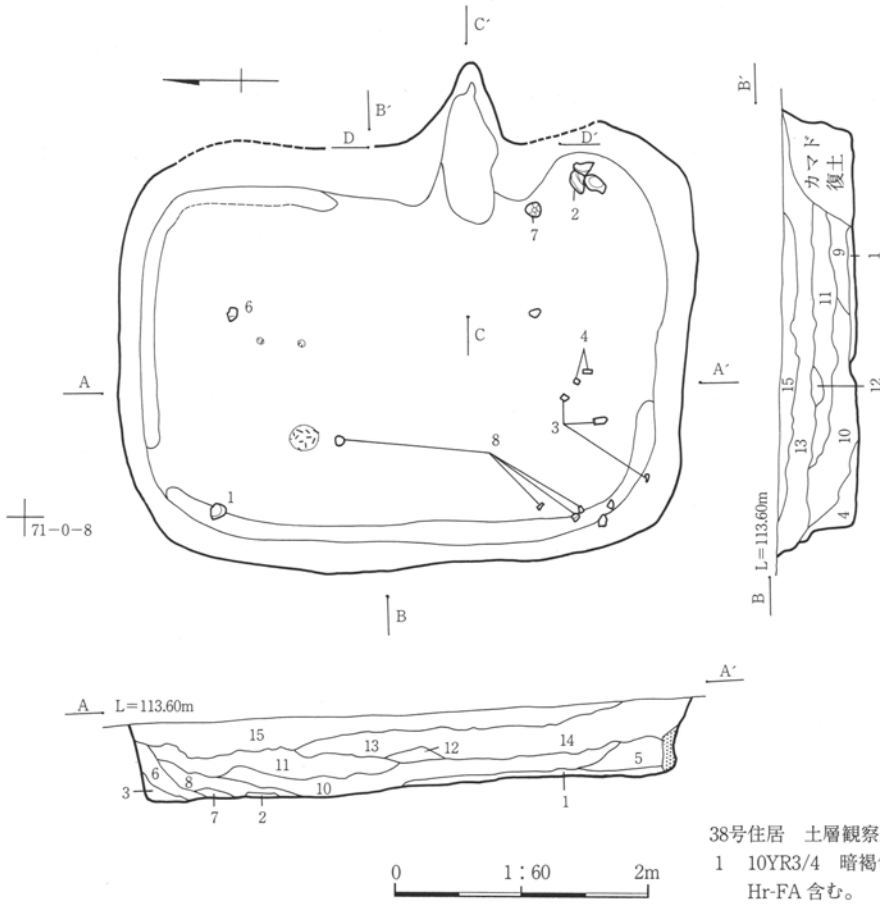
位置　71-N.O-6.7グリッド　標高113.3mから113.6mの傾斜部に立地する。東に39号、南から南東にかけて７・28・42号住居がある。北側は２号住居まで25mほどの間隔がある。19号掘立柱建物に切られる。

形態　南北に長軸を持つ横長の隅丸長方形を呈する。東南隅はやや張り出す。**規模**　長軸4.2m　短軸　北壁2.6m　南壁2.9m

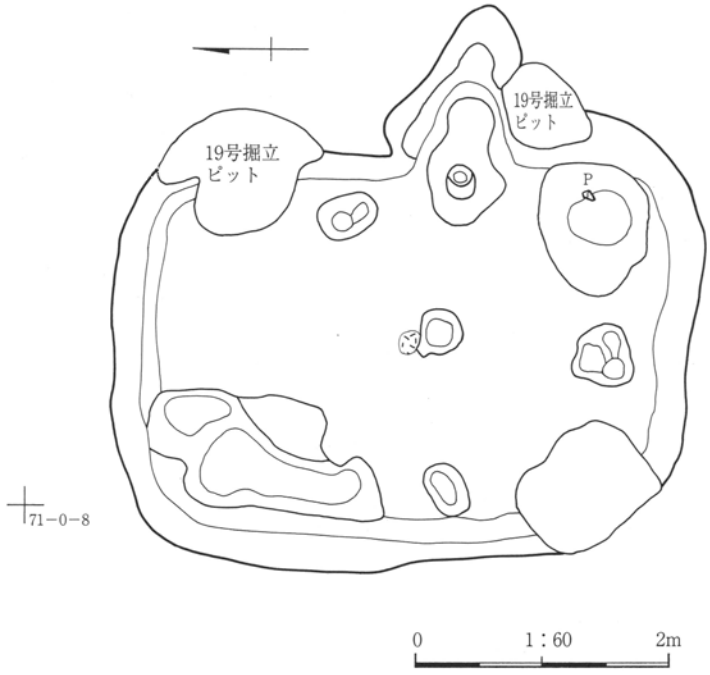
床　北西隅に不定形の掘り込みがあるが、基本的には掘削面を床面としている。東側がやや低くなるが、均平で堅く締まった床面である。東壁の北寄りから北壁、西壁を経て南壁の西端部まで壁周溝が巡る。北部中央近く及び西よりに、点々と焼土が見られる。

壁　東部で50cmから60cm弱、西部では60cmから70cm弱の残存壁高がある。壁上部が崩れているが、基部では壁周溝を介してほぼ垂直に近く立ち上がる。

柱穴　中央部、南壁、西壁の中央近く、東壁北寄りにそれぞれピットがあるが、東壁部をのぞいてごく浅い



第250図　38号住居平面図　土層断面図



第251図　38号住居掘方平面図

38号住居　土層観察所見

1　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒多く含む。As-C、Hr-FA 含む。

2　10YR2/3　黒褐色土　ローム小ブロック含む。硬く締まる。床面構成土。　2′ローム主体。

3　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒多く含む。締まり弱い。

4　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒多く含む。炭化物粒少量含む。

5　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、ローム小ブロック、As-C、Hr-FA 含む。炭化物粒少量含む。

6　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒含む。

7　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA 含む。ローム粒少量含む。

8　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、ローム小ブロック、As-C、Hr-FA 含む。炭化物粒少量含む。

9　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒、炭化物粒多く含む。As-C、Hr-FA 含む。ローム斑少量含む。

10　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA含む。ローム粒、焼土粒、炭化物粒少量含む。やや締まっている。

11　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ローム小ブロック含む。As-C、Hr-FA 少量含む。やや締まっている。

12　10YR2/3　黒褐色土　ローム斑、崩れたロームブロックを含む。

13　10YR3/2　黒褐色土　As-B、As-C、Hr-FA 少量含む。ローム粒少量含む。やや締まっている。

14　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、ローム小ブロック、ローム斑を多く含む。As-C、Hr-FA 含む。

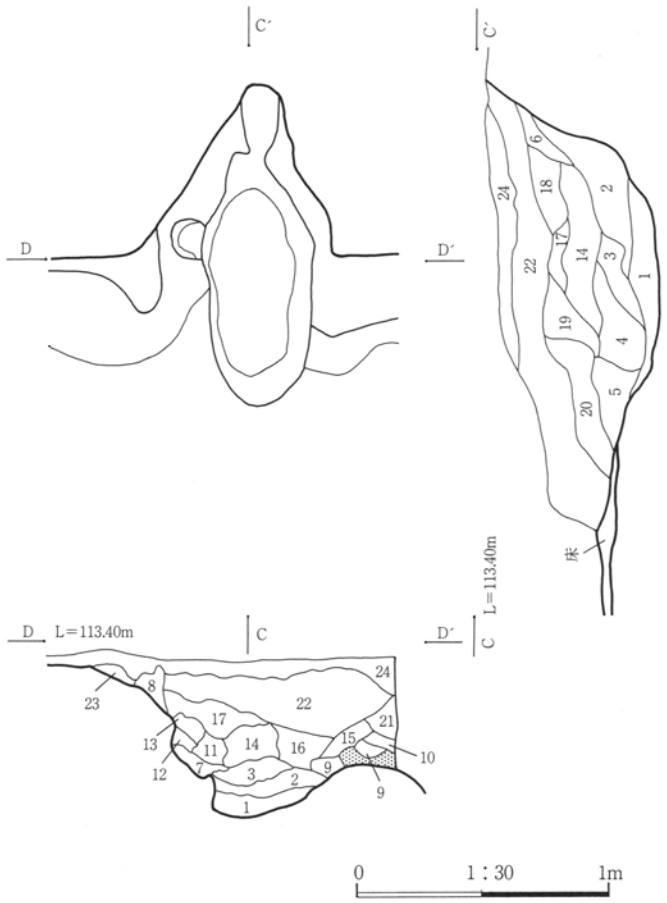
15　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA、炭化物粒、焼土粒含む。ローム粒少量含む。締まっている。

ものであり、いずれも柱穴と決するに至らない。

貯蔵穴　床面では確認できないが、南東隅の張り出し部掘方では、東西１m、南北88cm、深さ20cmほどの不正円形の掘り込みが見られ、張り出しと併せて貯蔵施設として意識されたものであろう。

竈　東壁の中央よりやや東よりを掘り込んで作っている。暗褐色粘土を構築とする。石など構造材は見られないが、支脚据え方と思われる小ピットが燃焼部中央やや手前にある。主軸方向はN-97°-Eを示す。

遺物　南西隅を中心に住居南半に多く見られた。床面直上から出土している土師器坏、甕は、いずれも８世紀前葉の特徴を示している。覆土中の遺物も土師器坏、底部ヘラ起こしの須恵器坏など８世紀前葉と思われるもので、住居の年代も８世紀前葉と思われる。



第252図　38号住居竈平面図　土層断面図

38号住居竈　土層観察所見

1　10YR2/3　黒褐色土　焼土粒多く含む。As-C、Hr-FA を混ずる。やや粘質。締まり弱い。

2　10YR2/3　黒褐色土　焼土、ロームの小ブロック、As-C、Hr-FA 含む。やや粘質。締まり弱い。

3　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土小ブロック含む。袖材と同じ粘土の斑を多く含む。やや粘質。やや締まっている。

4　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA 含む。焼土粒ごく少量含む。10YR4/6褐色ロームのブロックを含む。やや粘質。締まっている。

5　7.5YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA、炭化物粒、焼土粒含む。やや粘質。締まっている。

6　10YR3/3　暗褐色土　崩れた焼土ブロックを多く混入する。粘性やや強い。やや締まっている。

7　7.5YR3/3　暗褐色土　袖材と同じ粘土を多く含む。焼土粒を多く含む。粘性やや強い。やや締まっている。

8　10YR4/4　褐色土　袖構築材。粘土。

9　7.5YR4/6　褐色土　As-C、Hr-FA、ローム小ブロック含む。焼土、炭化物は含まない。やや粘質。硬く締まる。

10　7.5YR3/4　暗褐色土　6層に似るが、焼土小ブロック含む。

11　7.5YR2/3　黒褐色土　ローム粒、As-C、Hr-FA 含む。焼土の崩れた斑を含む。粘性弱い。締まり弱い。

12　10YR4/6　褐色土　崩れたロームブロック。YP 粒を含む硬く締まったブロック。

13　10YR4/6　褐色土　ロームブロック。YP 粒を含む硬く締まったブロック。

14　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FA 含む。ロームブロック多く含む。焼土斑含む。やや粘質。やや締まっている。

15　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FA含む。焼土粒少量含む。ロームブロックはほとんど含まない。10YR4/4褐色土の斑を含む。やや粘質。やや締まっている。

16　10YR3/4　暗褐色土　12層に近いが、10YR4/4褐色土斑が多く、焼土ブロックを含む。

17　7.5YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FA 比較的多く含む。焼土、ロームの小ブロックを含む。10YR4/4褐色土の斑を少量含む。粘性弱い。やや締まっている。

18　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FA を少量含む。炭化物、焼土小ブロックを多く含む。粘性やや強い。締まっている。

19　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA 含む。焼土粒ごく少量含む。10YR5/6黄褐色ロームブロック含む。やや粘質。締まっている。

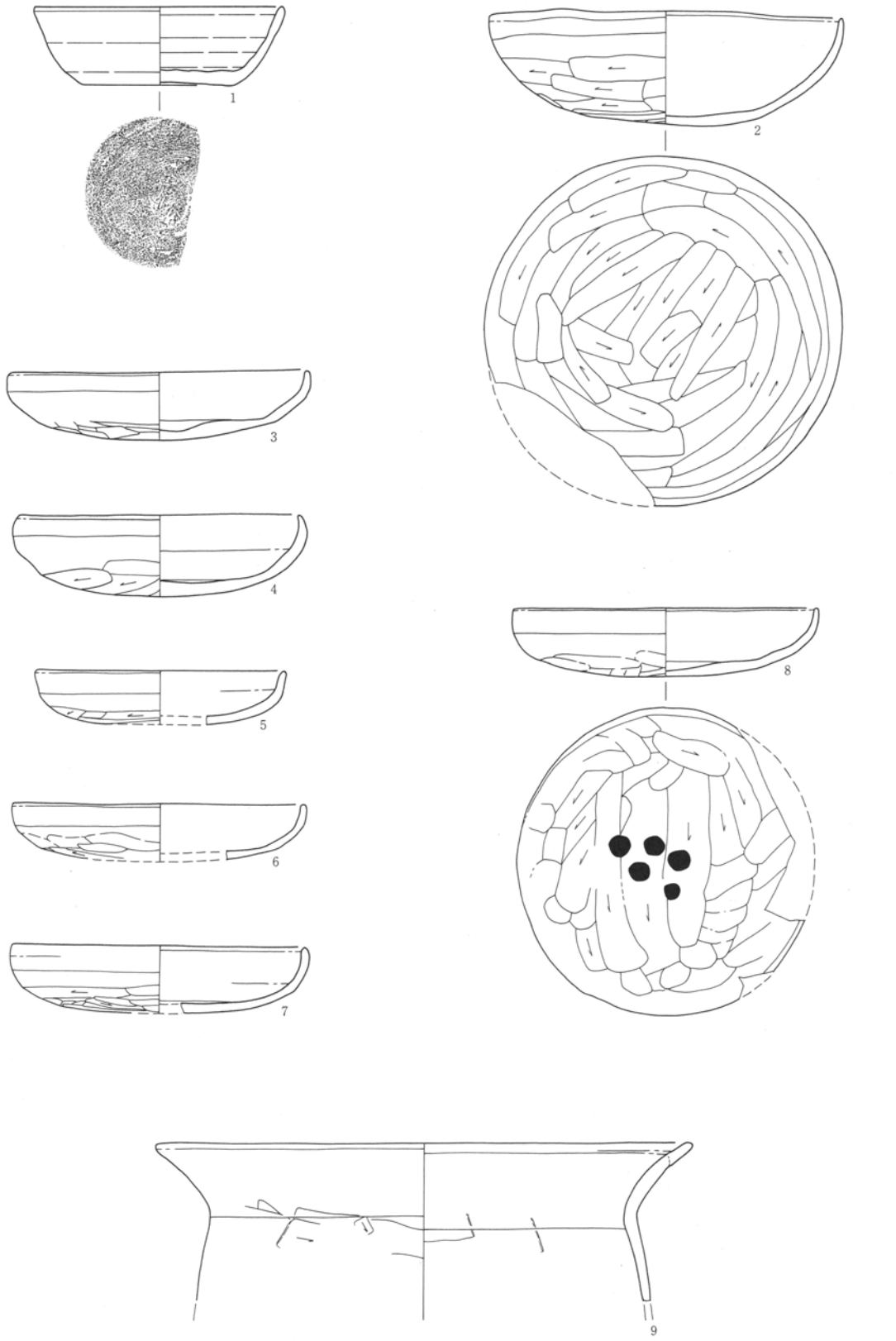
20　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FA、焼土粒、炭化物粒、ローム粒含む。7.5YR4/6褐色粘質土の円磨されたブロックを含む。焼土小ブロック含む。やや粘質。締まっている。

21　10YR3/4　暗褐色土　12層に近い。Hr-FA やや多く、焼土小ブロックを含む。

22　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FA 比較的多く含む。ローム小ブロック含む。焼土粒少量含む。粘性弱い。やや締まっている。

23　10YR3/4　暗褐色土　16層に近いが10YR4/4褐色土の斑が多い。

24　10YR4/4　褐色土　As-C、Hr-FA 多く含む。焼土粒含む。締まっている。



第253図　38号住居出土遺物

39号住居

位置　71-M-6.7.8グリッド　標高113.0mから113.3mの傾斜部に立地する。西に38号住居、北東から南東にかけて42号から45号住居がある。北側はやや間隔を置いて40・41号住居がある。いくつかの土坑を切っているが、この中には掘立柱建物を構成する大型の柱穴と思われるものもある。建物として確定することはできなかったが、西側の19号、23・24号掘立柱建物と並ぶような建物があって、本住居がこれを切っている可能性がある。

形態　南北に長軸を持つ横長長方形。東南隅部のみやや張り出して弧状をなすが、他は小さな丸みを持って屈曲する。本遺跡の中では最大規模の竪穴住居である。平面形態は25号住居、43号住居と類似するが、主柱穴と壁際の側柱穴を有するなど、他の住居とは大きく異なる構造を持つ。　**規模**　長軸6.4m　短軸4.1m

床　北東、北西、南東の各隅部はやや深く掘り窪められていて、ロームブロックを多く含む暗褐色土で埋められる。住居中央部近くは掘方底面をそのまま床としている。堅く締まった均平な床面である。北壁から西壁を経て南壁西部まで、コの字状に壁周溝が巡る。

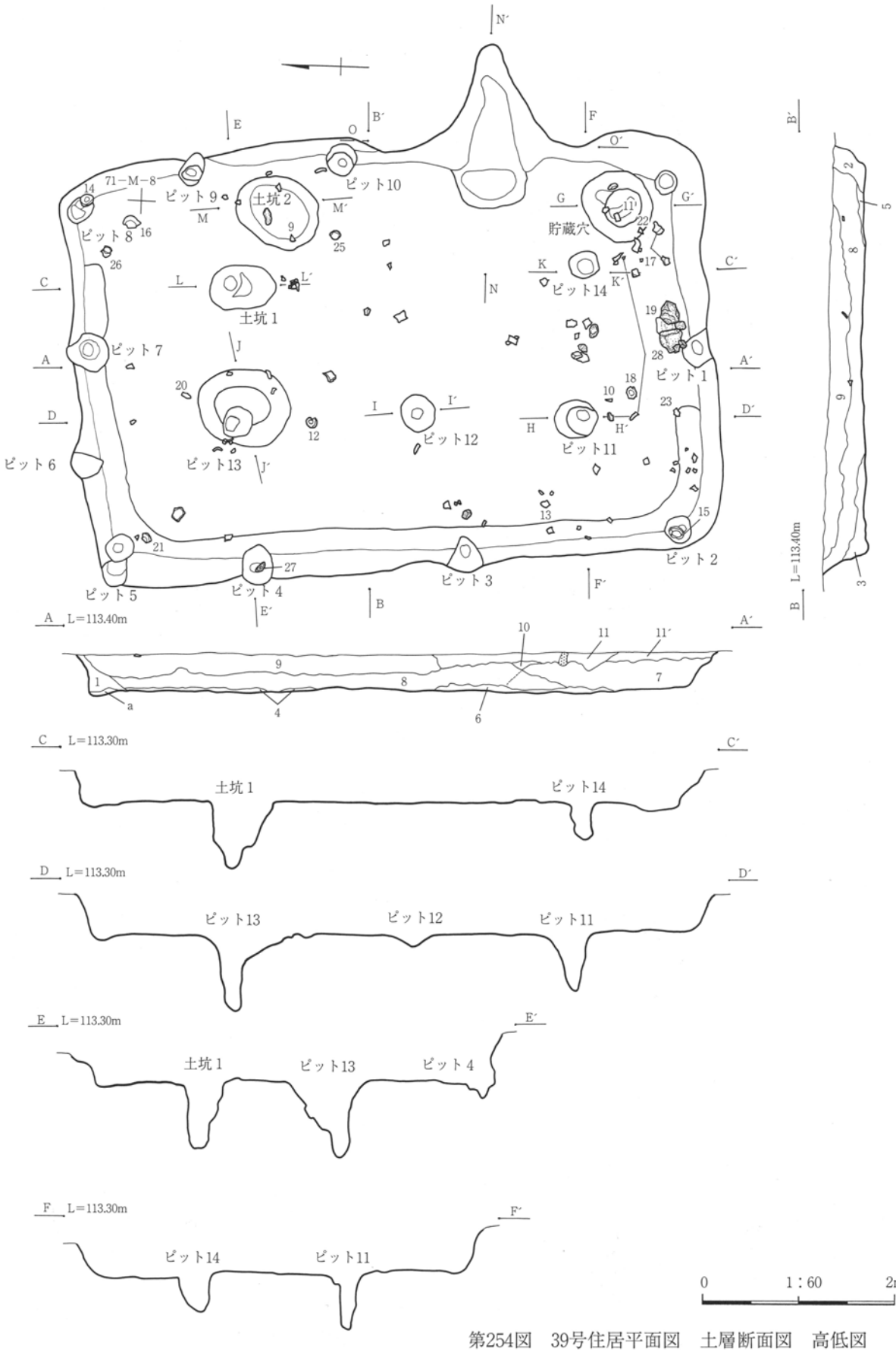
壁　東側で30cmから40cm、西側で40cmから50cm弱の残存壁高がある。上部の崩れは比較的少なく、ほぼ垂直に立ち上がる。

柱穴　主柱穴と想定されるものと、半ば壁を掘り込むような側柱穴の２種がある。主柱穴は東辺に２基、西辺に３基あり、それぞれ壁からやや距離を持っている。柱穴に囲まれた範囲の面積は5.7m²ほどで、住居床面積21.6m²の1/4強にすぎない。柱穴を結ぶ対角線は住居対角線よりやや南東にずれる。ピット16は他のピットと形状が異なり、土坑状を呈するものであるが、位置関係から柱穴と判断した。側柱穴は四隅に加えて長辺に２基、短辺に１基掘られている。確認面から壁を掘り込んでおり、深いものでは床面下50cmに達するものもある。壁体を押さえるだけのものではなく、構造を支持する機能を持つものと考えられるだろう。北辺にはもう１基、上部を掘り込んだ小ピットがあるが、床面まで達していないため柱穴からは除外した。掘方調査時にもいくつものピットが見つかっており、特に南壁中央部近くには比較的深いピットが集中する。白色粘土を底面に残すものもあるが、機能を特定するに至っていない。

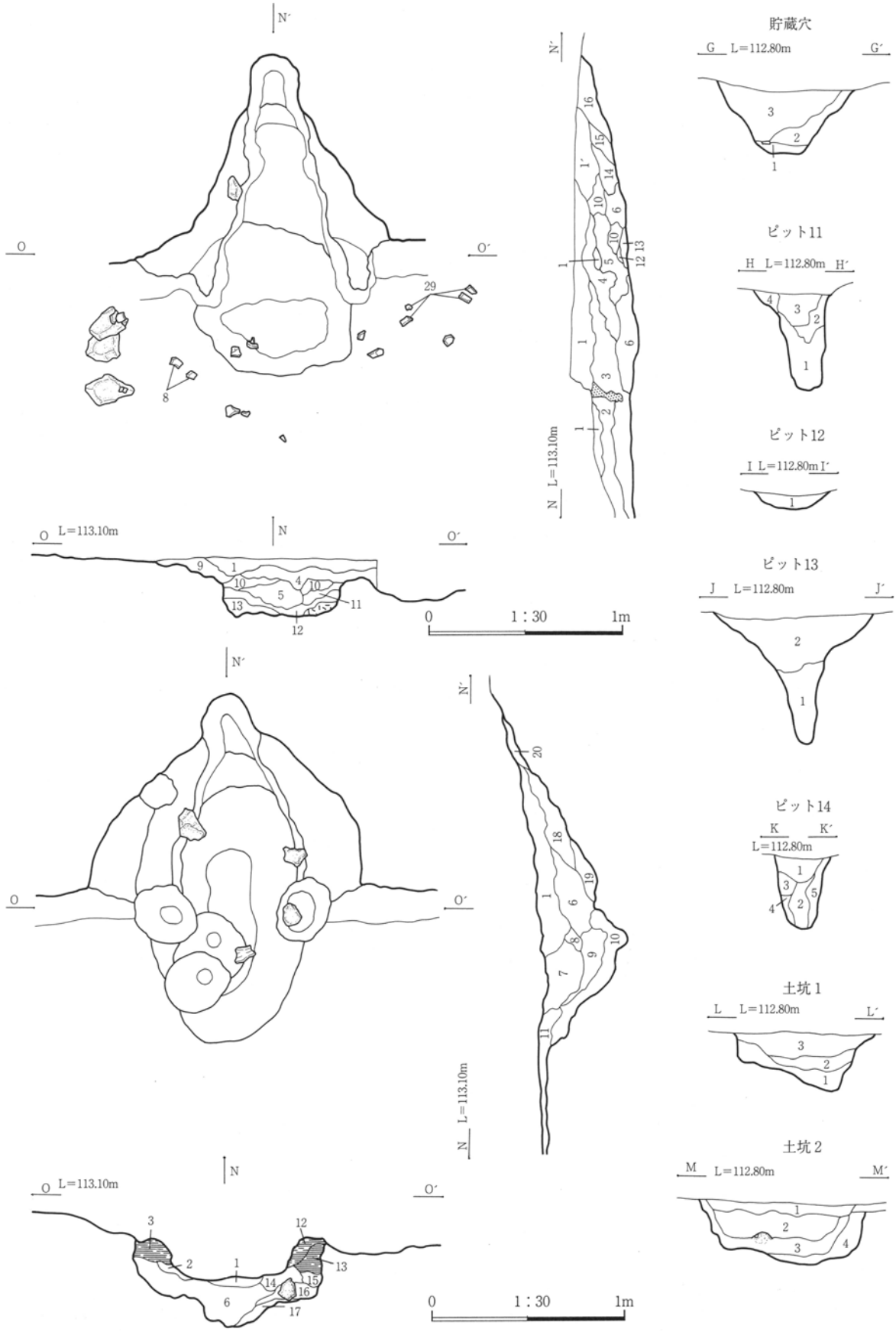
貯蔵穴　竈右手に当たる東南隅部に設けられている。長径78cm、短径67cmのややゆがんだ円形で30cmほどの深さがある。中位に小さな段を持って、皿状の底部に至る。周辺からは坏、甕の破片が比較的多く出土している。また、北壁北よりに長径95cm、短径80cm、深さ30cmほどの土坑があり、川原石や土器片が含まれるが機能を特定することができない。主柱穴であるピット13は径65cmほどの土坑を切って掘られているが、この土坑覆土は上層に炭化物や焼土を多く含み、この層に半ば埋没して鎌が出土している。住居使用時にもやや窪んだ状況で、何らかの機能を果たしていたものかもしれない。竈右手の床下にも長径85cm、短径57cmの浅いくぼみがあり、底面の一部に灰白色粘土が残っていた。

竈　東壁南よりを壁外に掘り込んで構築し、燃焼部は壁外にある。比較的緩やかな傾斜で煙道に連続する。褐色から暗褐色の粘土を主たる構築材とするが、底面には灰白色の粘土ブロックが含まれる。部分的に角礫を壁に埋め込んでいる。焚き口には袖石の据え方が残されており、竈左手で出土した礫がこれに当たるものかもしれない。側壁から天井への連続部などはよく残っているにもかかわらず、まとまった土器の出土などは見られなかった。

遺物　南壁沿いに比較的多いが、住居全体に散在する。ほとんどが須恵器の高台付埦、坏であり、墨書土器、灰釉陶器も数点出土している。北東の主柱穴近くから鉄製鎌が出土しているほか、刀子などの鉄製品が出土している。年代は、９世紀後葉から10世紀前葉と思われる。



第254図　39号住居平面図　土層断面図　高低図



第255図　39号住居竈・竈掘方平面図　土層断面図　貯蔵穴・ピット・土坑土層断面図

第256図　39号住居掘方平面図　高低図　ピット土層断面図

39号住居　土層観察所見

1　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、As-C、Hr-FA、炭化物粒含む。締まり弱い。
2　10YR2/3　黒褐色土　ローム斑、As-C、Hr-FA 含む。炭化物粒、焼土粒少量含む。
3　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、ローム小ブロック含む。焼土粒、炭化物粒含む。
4　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒多く含む。焼土粒少量含む。
5　10YR3/3　暗褐色土　粘土斑含む。焼土粒少量含む。
6　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒多く含む。
7　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、As-C、Hr-FA 含む。炭化物、焼土粒多く含む。
8　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、As-C、Hr-FA 含む。炭化物、焼土小ブロック含む。７層と漸移的に変化。
9　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、As-C、Hr-FA、焼土粒含む。
10　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、As-C、Hr-FA 含む。焼土は含まない。
11　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA含む。ローム粒、焼土粒、炭化物粒少量含む。　11′焼土小ブロック含む。

竈　土層観察所見

1　10YR2/3-2/2　黒褐色土　Hr-FA、As-C を多量に含む。焼土粒を少量含む。土器片含む。粘性なし。締まりやや強い。　1′焼土粒多く含む。
2　10YR3/4　暗褐色土　Hr-FA、As-C 少量含む。焼土粒、焼土ブロック、粘土ブロックを若干含む。粘性なし。締まりやや強い。
3　10YR3/4　暗褐色土　Hr-FA、As-C 少量含む。焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。粘土ブロックを少量含む。粘性なし。締まりやや強い。
4　10YR4/4　褐色土　Hr-FA、As-C、焼土粒、焼土ブロックを少量含む。粘土ブロックをわずかに含む。粘性なし。締まりやや強い。
5　10YR4/6　褐色土　粘土ブロック主体。焼土粒少量含む。天井崩落土。粘性弱い。締まりやや強い。
6　10YR3/4　暗褐色土　焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。炭化物少量含む。粘性ない。締まりやや強い。　6′焼土少ない。
7　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、焼土粒を含む。炭化物を含む。粘性弱い。締まりない。
8　粘土、焼土、ロームの薄層。
9　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FA を少量含む。焼土粒、焼土ブロックをわずかに含む。粘性ない。やや締まっている。
10　10YR4/4　褐色土　３層に似るが焼土少ない。粘性ない。やや締まっている。
11　7.5YR4/6　褐色土　ローム粒、焼土ブロックをわずかに含む。粘性ない。やや締まっている。
12　7.5YR4/6　褐色土　焼土粒、径10mm程度の焼土ブロック均質に含む。炭化物粒をごくわずかに含む。粘性なし。締まりやや弱い。
13　7.5YR4/6　褐色土　焼土粒、径25mm程度の焼土ブロックを多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。

竈掘方　土層観察所見

1　7.5YR4/6　褐色土　焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。灰を含む。炭化物をわずかに含む。粘性なくさらさらしている。締まりやや弱い。
2　7.5YR4/4　褐色土　焼土粒を多量に含む。袖の粘土下に入り込んでいる。粘性弱い。締まりやや強い。
3　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土粒を少量含む。袖の構築土。粘性やや強い。締まりやや強い。
4　10Y8/1　白色粘土ブロック。
5　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FAを多量に含む。ロームブロックを不均質に少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
6　7.5YR3/4　暗褐色土　白色粘土ブロック、焼土粒を多量に含む。炭化物粒、ローム粒を少量含む。混入物が不均質に偏在する。粘性ない。締まりやや弱く、ぼそぼそした触感。
7　10YR3/2　黒褐色土　灰を多く含む。炭化物粒、焼土粒を多量に含む。土器片を含む。粘性なし。締まり弱い。
8　7.5YR4/6　褐色土　７層と１層の混土。焼土粒少量含む。粘性なし。締まり弱く、ぼそぼそした触感。
9　10YR3/4　暗褐色土　炭化物粒、焼土粒を多量に含む。７層に似るが黄色みがやや強い。粘性弱い。締まり弱い。
10　10YR4/6　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱い。
11　10YR4/6　褐色土　住居貼床上に乗った竈からの流出土が踏み固められたもの。
12　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土粒、焼土ブロック、白色粘土ブロックを少量含む。粘性やや弱い。硬く締まっている。竈袖。
13　10YR4/3　にぶい黄褐色土　焼土粒少量含む。粘性やや弱い。硬く締まっている。竈袖。
14　10YR4/3　にぶい黄褐色土　焼土粒、焼土ブロックを多く含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
15　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
16　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック、焼土粒を多量に含む。粘性ない。締まり弱い。
17　10YR4/6　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
18　7.5YR4/6　褐色土　焼土粒。焼土ブロックを多量に含む。粘性弱い。締まっている。
19　10YR4/6　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。やや締まっている。
20　10YR3/3　暗褐色土ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

貯蔵穴　土層観察所見

1　2.5Y4/6　オリーブ褐色土　崩れたソフトローム主体。黒褐色土粒が混入する。やや粘質。締まり弱い。
2　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ローム斑、As-C、Hr-FA含む。焼土粒少量含む。やや粘質。締まり弱い。
3　10YR2/2　黒褐色土　木質の炭化材片を含む。焼土粒、焼土小ブロック、As-C、Hr-FA 含む。やや粘質、やや締まっている。

ピット11　土層観察所見

1　10YR4/4　褐色土　ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。やや粘質。締まり弱い。
2　7.5YR4/4　褐色土　崩れたロームブロック主体。やや粘質。締まり弱い。

3　7.5YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA、炭化物粒含む。焼土粒多く含む。粘性弱い。やや締まっている。
4　10YR2/3　黒褐色土　ローム斑、As-C、Hr-FA、焼土粒、炭化物粒含む。やや粘質。締まっている。

ピット12　土層観察所見
1　10YR2/2　黒褐色土　As-C、Hr-FA 多く含む。ローム粒、焼土粒少量含む。粘性なし。硬く締まっている。

ピット13　土層観察所見
1　7.5YR4/4　褐色土　混入物の少ないソフトローム。地山が YP を混ずる硬く締まったロームであるため埋土とした。締まり弱い。
2　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒、炭化物粒を多く含む。As-C、Hr-FA を含む。やや締まっている。鎌の基部がこの中に埋もれている。

ピット14　土層観察所見
1　10YR3/3　暗褐色土　炭化物粒、焼土粒、As-C、Hr-FA を少量含む。
2　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒を多く含む。締まり弱い。
3　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
4　10YR5/6　黄褐色土　ローム主体。締まり弱い。
5　10YR5/6　黄褐色土　ローム主体。締まり弱い。

1号土坑　土層観察所見
1　7.5YR2/3　黒褐色土　ローム粒、ロームブロック多く含む。やや粘質。締まり弱い。
2　10YR2/3　黒褐色土　ローム斑、焼土粒含む。As-C、Hr-FA 少量含む。やや粘質。やや締まっている。
3　10YR2/2　黒褐色土　As-C、Hr-FA多く含む。ローム粒、焼土粒少量含む。粘性ない。硬く締まっている。
※　3層は硬く締まっていて、床面の一部をなすものであろう。他の床面構成土はローム土を多く含むところから見て、住居に伴う床下土坑とするより、古い土坑の上面を踏み固めたものとしたほうが妥当かと思われる。

2号土坑　土層観察所見
1　10YR3/3　暗褐色土　竈付近の住居覆土最下層土に類似している。As-C、Hr-FA を多量に含む。炭化物粒、焼土粒を多く含む。粘性なし。やや硬く締まっている。
2　10YR3/3　暗褐色土　1層類似土だが、As-C、Hr-FA の量は少ない。ローム粒を多量に含む。粘性なし。締まり弱い。
3　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含み、黄色みが強い。粘性なし。締まり弱い。
4　10YR4/6　褐色土　ローム粒、ロームブロックを密に、多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
※　4層上に貼床構成土が乗り、床を作る前に掘削し、床貼り後もおそらく再掘削されて開口していた土坑であることがわかる。ただし、1層が締まっているところから見ると、住居廃絶時には埋設されていた可能性が高いだろう。

床下ピット1　土層観察所見
1　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを含む。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。粘性なし、締まりやや強い。
2　10YR4/6　褐色土　ローム粒を多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
3　10YR4/6　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
4　10YR4/6　褐色土　ローム粒を多く含む。粘性弱い。締まり弱い。

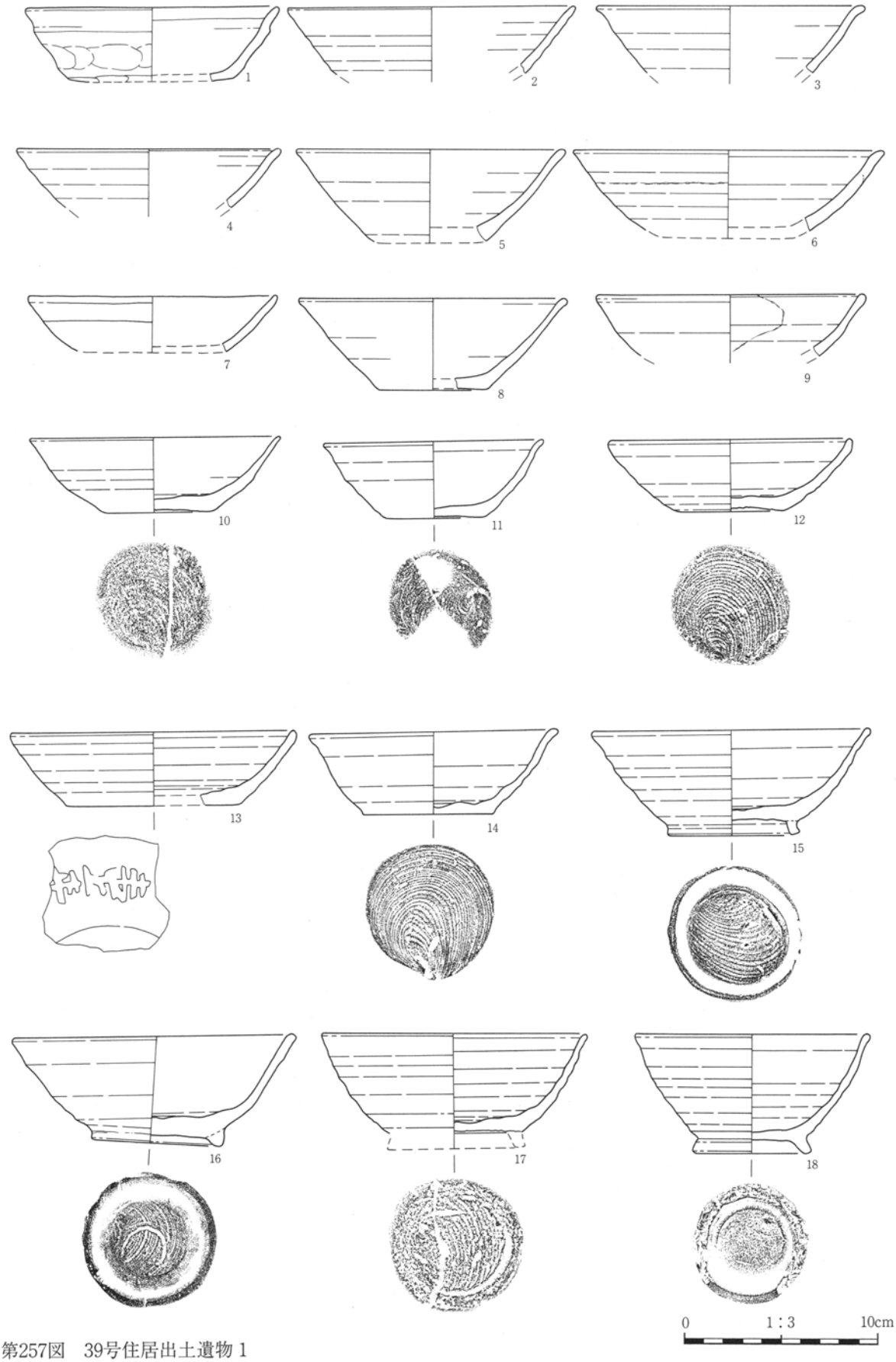
床下ピット2　土層観察所見
1　10YR3/3　暗褐色土　As-C、Hr-FA を少量含む。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。
2　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まり弱い。
3　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性弱い。締まり弱い。

床下ピット3　土層観察所見
1　10YR4/6　褐色土　ロームブロックを主体とする。粘性弱い。締まり弱い。

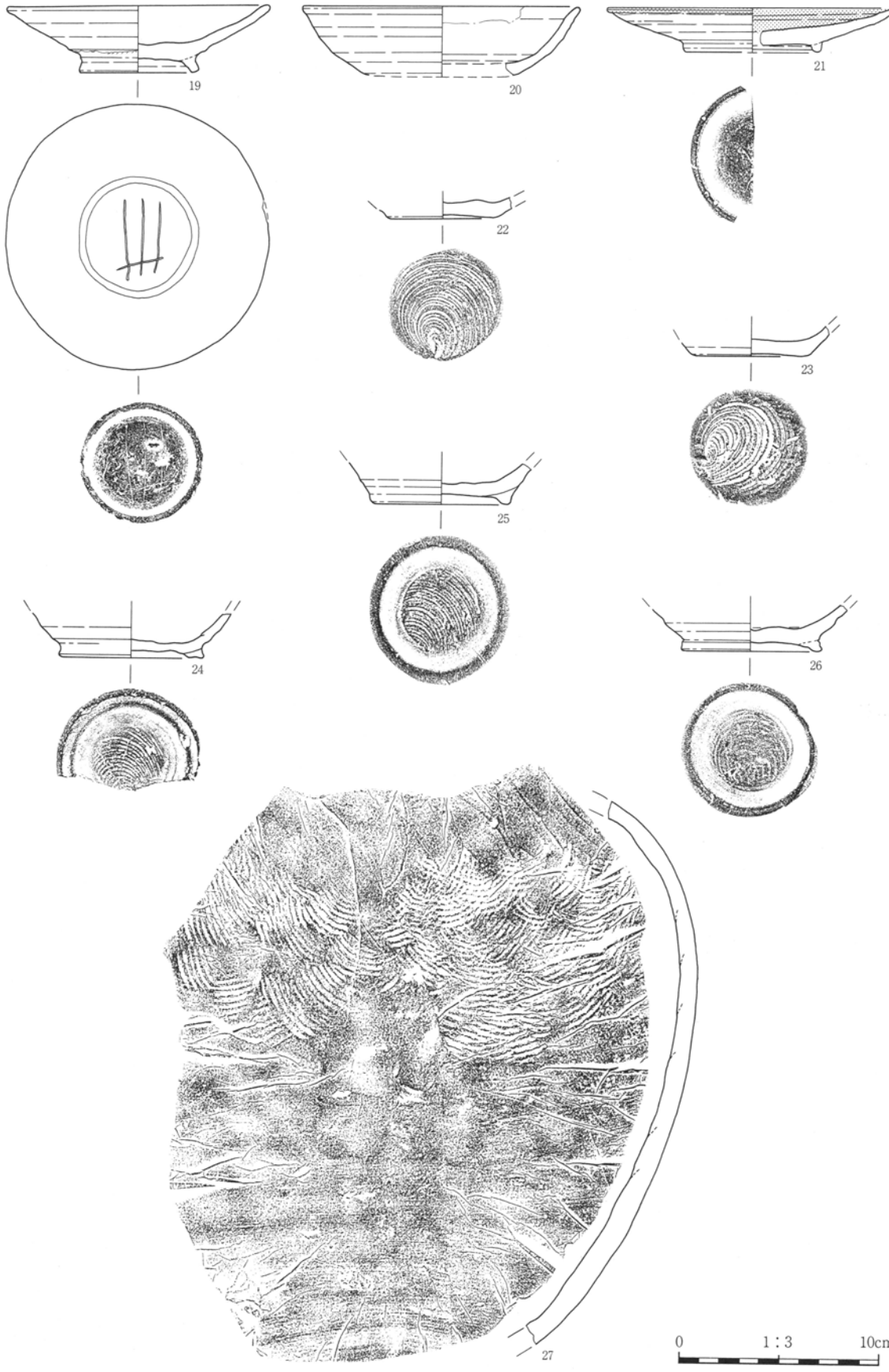
床下ピット4　土層観察所見
1　10YR4/6　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱くぼそぼそ。
2　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒少量含む。As-C、Hr-FA わずかに含む。粘性ない。締まり弱い。
3　10YR4/6　褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱くぼそぼそ。
4　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。
5　10YR5/6　黄褐色土　ローム粒主体。粘性ない。締まり弱い。

床下ピット5　土層観察所見
1　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA、ローム粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。

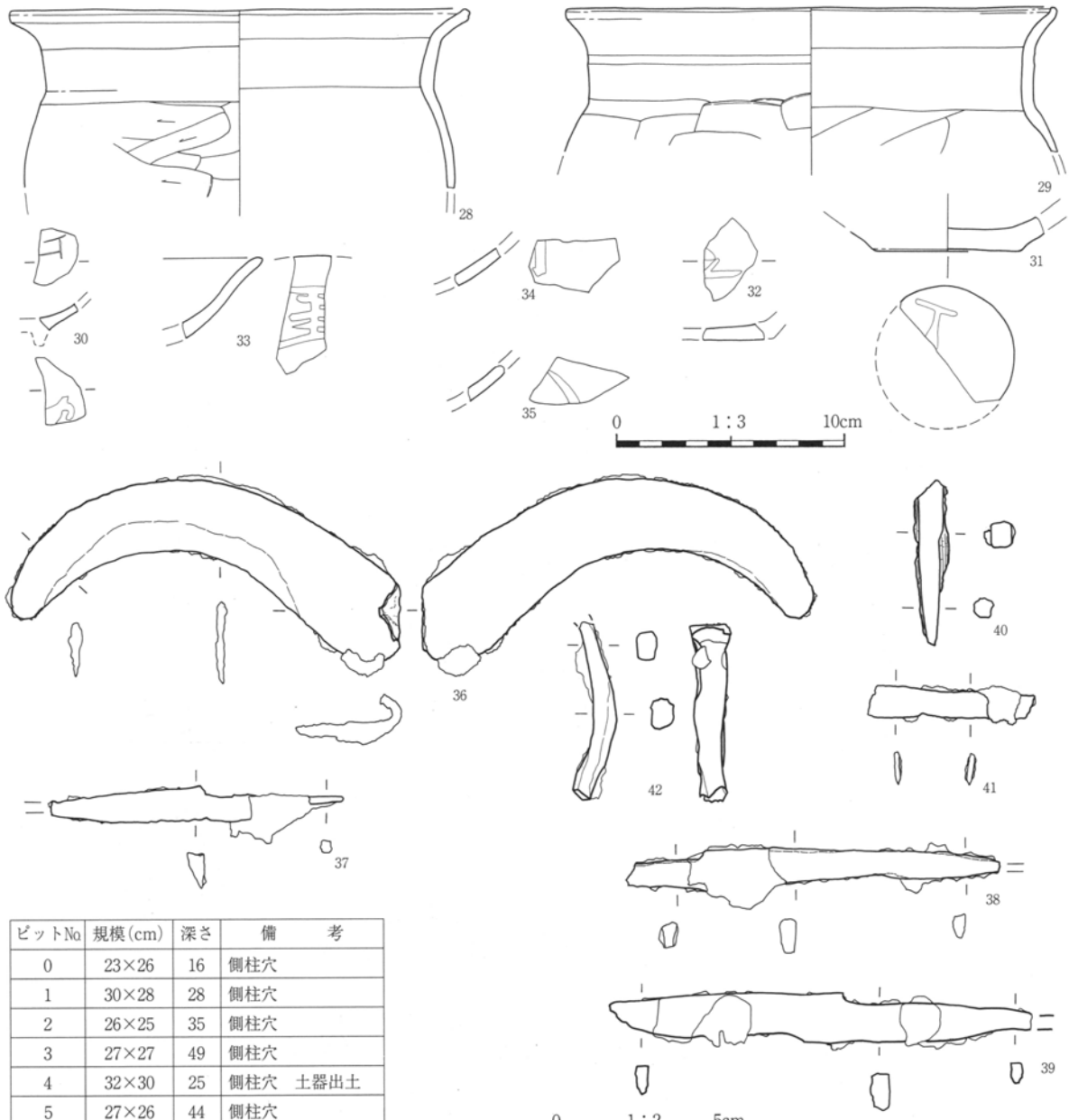
床下ピット6　土層観察所見
1　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒、焼土粒を多量に含む。粘土ブロック、炭化物粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
2　10YR5/6　黄褐色土　ローム粒、ロームブロック主体。粘性ない。締まり弱い。
3　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。
4　10YR4/6　褐色土　ローム粒、ロームブロック主体。粘性弱い。締まり弱い。



第257図　39号住居出土遺物１



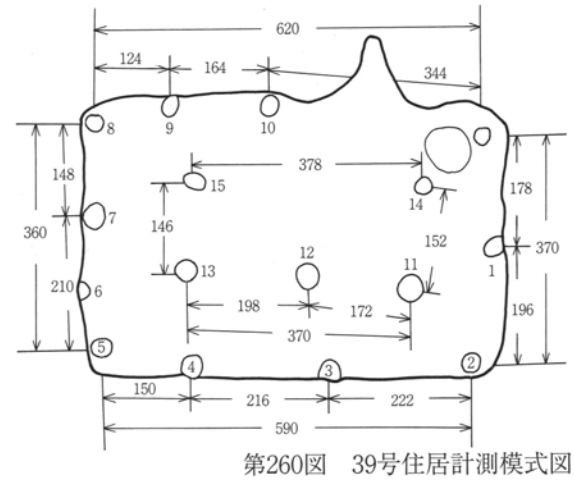
第258図　39号住居出土遺物 2



第259図　39号住居出土遺物３

ピットNo	規模(cm)	深さ	備　　考
0	23×26	16	側柱穴
1	30×28	28	側柱穴
2	26×25	35	側柱穴
3	27×27	49	側柱穴
4	32×30	25	側柱穴　土器出土
5	27×26	44	側柱穴
7	38×28	40	側柱穴
8	31×22	47	側柱穴
9	30×23	37	側柱穴
10	28×22	31	側柱穴
11	46×44	55	主柱穴
12	40×35	41	主柱穴
13	32×30	80	主柱穴
14	35×31	39	主柱穴
15	34×25	69	主柱穴　１号土坑内
床下１	58×41	31	
床下２	40×26	38	
床下３	41×38	22	
床下４	54×54	25	
床下５	48×42	10	
床下６	45×27	54	

第１表　39号住居ピット計測表



第260図　39号住居計測模式図

40号住居・41号住居

位置　40号住居71-L.M-9.10グリッド　41号住居71-L-10グリッド　標高112.9mから113.2mの傾斜部に立地する。40号住居が41号住居の西部を大きく切る。住居集中部の北端に近い位置に当たる。南東に44号住居がある、やや間隔を置いて南に39号住居、東に37号住居がある。

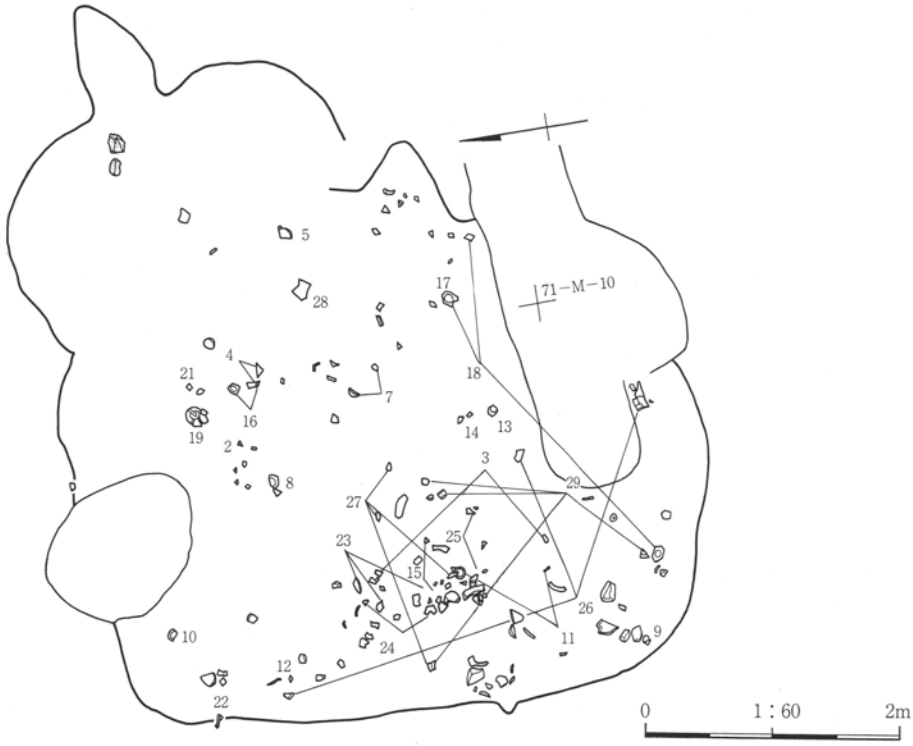
形態・規模　40号住居は南北に長軸を持つ横長長方形を呈する。東南隅および北壁中央を土坑に切られている。北東隅は41号住居との切り合いによりはっきりしない。西壁の両隅は丸みを持って屈曲する。長軸4.19m　短軸3.55m。41号住居は東壁のみが全体を確認できる状態であるが、竈位置から見て東西方向に長軸を持つ縦長の隅丸長方形を呈するものと思われる。南北2.53m、東西方向の確認長は２m程度であるが、掘方に見られる土坑状掘り込みが本住居に伴うものとすれば、3.5m以上あったものと想定される。

床　40号住居は掘方をロームブロックと暗褐色土の混土で埋め、その上位に床面を作る。床は上下２枚あり、上位は最終使用時の床面で、As-C、Hr-FA や炭化物を多く含む黒褐色土が堅く締まったものであり、西側に作られた竈がこの床面に伴う。下位床面は褐色土とロームブロックの混土が堅く締まったもので東側の竈を使用していた時期の床面である。ともに堅く締まっており、均平な床面が作られているが、41号住居と切り合う部分では、下位の41号住居覆土の締まりが弱いせいか明瞭さを欠き、この部分での床面確認ができていない。41号住居も掘方をロームブロックと暗褐色土の混土で埋め、その上位に床面を作る。竈周辺をのぞいて比較的締まりの弱い床面である。

壁　40号住居は北壁で40cmから48cm、西壁から南壁にかけては50cmから60cmの残存壁高がある。やや上方に開きながら立ち上がる。41号住居は30cmから40cmの残存壁高で、やや上方に開き気味ながら、40号住居に比すれば急角度で立ち上がる。

柱穴　両住居とも、掘方調査時に小ピットが見つかっているが、柱穴と判断できるものはない。

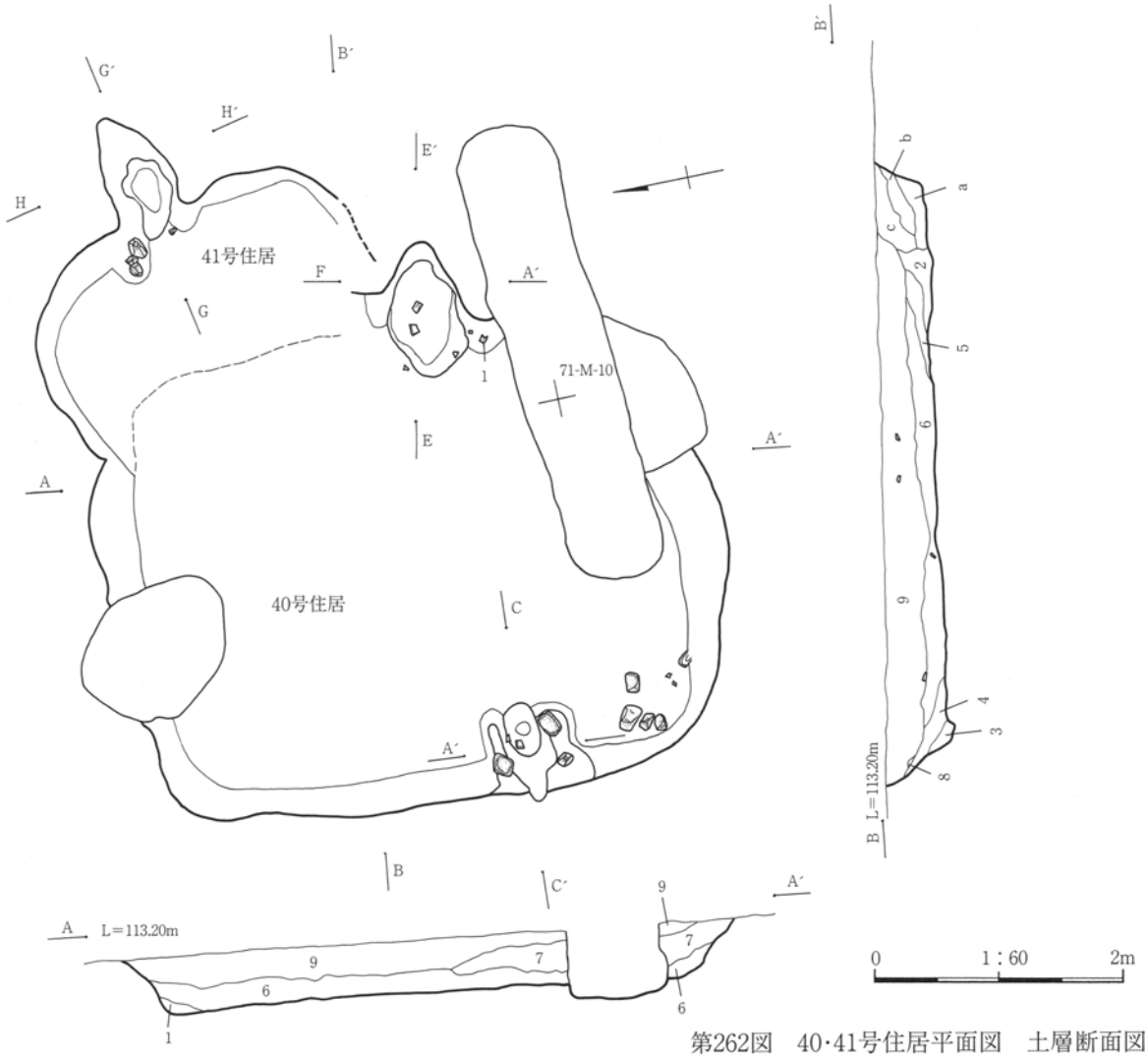
貯蔵穴　40号住居では東南隅部径１mほどのゆがんだ円形の土坑がある。上部を新しい土坑によって破壊さ



第261図　40･41号住居遺物分布図

れているため詳細はわからないが、床面下15cmから20cmほどの浅いもので、底部に小ピットが掘られている。東竈右手に当たり、位置的には貯蔵穴として良い。西竈の右手に当たる位置には床下に径１m、深さ30cmほどの土坑がある。出土遺物はないが、床面がこの部分で切れ、覆土には焼土粒、炭化物などを含む。41号住居では貯蔵穴と認められるものはない。

竈　40号住居は東壁と西壁で竈が見つかっている。床の項で述べたように、東壁の竈（東竈）が古く、西壁の竈（西竈）が新しい。東竈は東壁中央よりやや南よりを掘り込んで、黄灰色粘土を貼って構築している。



第262図　40･41号住居平面図　土層断面図

40・41号住居　土層観察所見

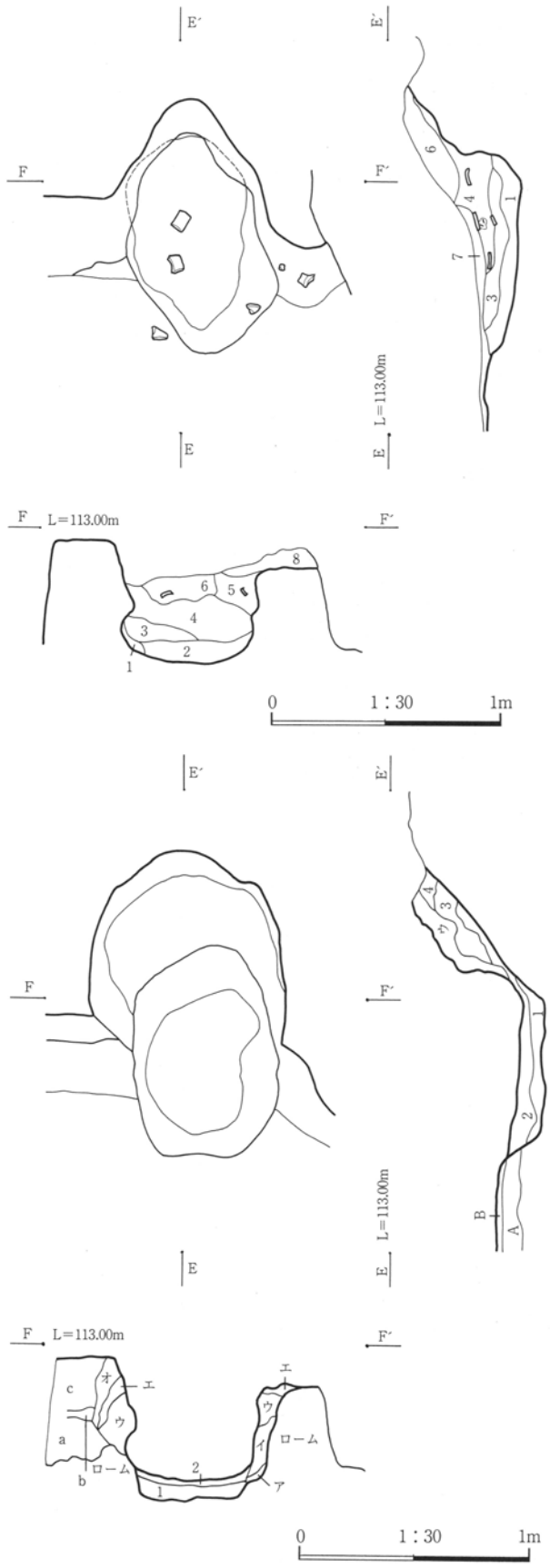
1　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒、ローム小ブロック少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
2　10YR2/3　黒褐色土　ローム斑含む。As-C、Hr-FA、焼土粒少量含む。粘性弱い。やや締まっている。
3　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒、ローム小ブロック含む。As-C、Hr-FA 少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
4　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒多く含む。焼土粒、炭化物粒、As-C、Hr-FA 含む。やや粘性あり。やや締まっている。
5　10YR4/4　褐色土　焼土粒多く含む。焼土小ブロック、炭化物粒含む。粘性なし。やや締まっている。
6　10YR3/2　黒褐色土　As-C、Hr-FA含む。ローム粒、ローム小ブロック少量含む。やや粘質。やや締まっている。
7　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、焼土粒、炭化物粒多く含む。As-C、Hr-FA 含む。やや粘質。やや締まっている。
8　10YR2/2　黒褐色土　ロームブロックと混合したブロック。やや粘質。硬く締まっている。
9　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA多く含む。焼土粒、炭化物粒含む。やや砂質。やや締まっている。
※　以上40号住居覆土
a　10YR4/4褐色ロームと10YR2/3-3/3黒褐色土の斑状混土。やや粘質。締まり弱い。
b　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒、As-C、Hr-FA、焼土粒含む。粘性弱い。やや締まっている。
c　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒、焼土小ブロック、As-C、Hr-FA 含む。やや砂質。締まっている。
※　以上41号住居覆土

燃焼部奥は急角度で立ち上がり、煙道に連続する。側壁は焼土化した粘土が残っているが、燃焼部の覆土には焼土小ブロックや粘土斑はあるものの天井の崩落土塊などは見られず、底面にも灰層や焼土面が残されていない。袖石や支脚の据え方も認められない。西竈は西壁の中央よりやや南よりの壁面をわずかに掘り込んで作られている。褐色の粘土で構築され、燃焼部は住居内にある。崩れが激しく、住居覆土とともに掘削してしまった部分もあるため、詳細な構造はわからないが、本来は石組みを伴うものであったらしく、袖部には方柱状の川原石が残る。また、同質の石が竈左手に当たる南西隅でまとまって見つかっている。ここには灰や炭化物、焼土小ブロックなどもあり、竈を壊した廃材をまとめておいたものかもしれない。覆土からは比較的大きな甕の破片が出土している。西壁に作られる竈は本遺跡ではこれだけであり、同一住居で方向を違えて作り直される点、壁外への張り出しが弱い点なども特異である。41号住居の竈は東壁中央を壁外に細長く掘り込んで作られる。地山を掘り残して小さく袖を張り出し、灰白色粘土を貼っている。左袖部に角礫があり、袖石に用いられたものと考えられる。燃焼部は方形に掘り込まれ、奥壁は急角度で立ち上がって煙道に連続する。燃焼部手前には径50cm、深さ4cmほどの幅広で浅い掘り込みに続いて径30cm、深さ10cmほどのピットが掘られている。

遺物　40号住居からは多くの遺物が出土した。須恵器の高台付埦が大半を占め、墨書土器、灰釉陶器が出土している点では39号住居と共通するが、39号住居では見られなかった土師器も多く出土する。坏やコの字口縁が崩れてきている甕が出土している。鉄製品として刀子がある。遺物の年代から、9世紀後葉と思われる。41号住居出土遺物は掘方中の須恵器坏底部1点のみである。9世紀中葉と思われ、遺構の切り合いとも整合的な年代である。

40号住居西竈　土層観察所見
1　7.5YR4/6　褐色土　全体が焼けている。焼土ブロック7-10%。炭化物少量含む。粘性ない。締まり弱い。
2　10YR2/3　黒褐色土　焼土粒、炭化物粒多く含む。As-C、Hr-FA、粘土ブロック含む。やや粘質。締まっている。
3　10YR3/4　暗褐色土　焼土ブロック、炭化物含、As-C、Hr-FA含む。やや粘質。締まっている。
4　10YR2/3　黒褐色土　焼土粒、As-C、Hr-FA含む。やや砂質。締まっている。

第263図　40号住居西竈平面図　土層断面図



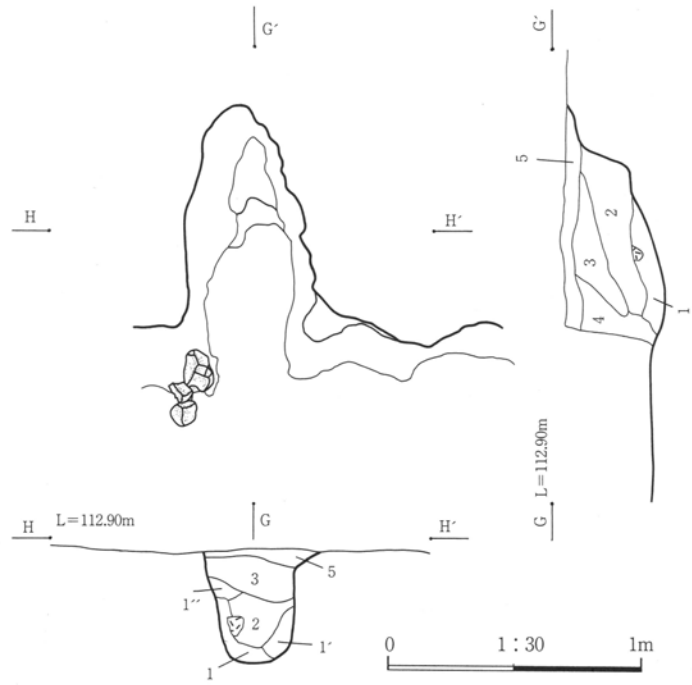
40号住居東竈　土層観察所見

1　10YR3/2　黒褐色土　焼土粒含む。As-C、Hr-FA 少量含む。粘性強い。締まっている。
2　10YR2/3　黒褐色土　焼土粒、焼土小ブロック、炭化物粒、As-C、Hr-FA 含む。やや粘質。やや締まっている。
3　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土粒、焼土小ブロック多く含む。As-C、Hr-FA 含む。やや粘質。やや締まっている。
4　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土小ブロック多く含む。全体に焼けて赤っぽい。粘性強い。締まっている。
5　10YR4/4　褐色土　焼土小ブロック多く含む。黄灰色の粘土斑を含む。粘性強い。締まっている。
6　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土小ブロック多く含む。As-C、Hr-FA 含む。粘性弱い。締まり弱い。やや攪乱を受けている。
7　10YR2/3　黒褐色土　焼土粒、炭化物粒を多く含む。締まっていて、層状に炭化物を挟む。
8　10YR3/4　暗褐色土　焼土粒、As-C、Hr-FA 含む。やや砂質だが、As-Bを含むことによるものか。締まっている。

40号住居東竈掘方　土層観察所見

1　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土小ブロック少量含む。やや粘質。締まり弱い。
2　10YR2/3　黒褐色土　焼土小ブロック、炭化物粒含む。やや粘質。締まりやや強い。
3　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土粒多く含む。焼土小ブロック含む。粘性弱い。締まっている。
4　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土粒、As-C、Hr-FA 含む。粘性弱い。締まっている。
A　40号住居床下埋土
B　40号住居下層床面　炭化物、ロームブロックを多く含む。硬く締まる。
ア　黄灰色粘土　この部分は焼けていない。
イ　10YR2/3　黒褐色土　ア層の粘土ブロックを多く含む。焼土ブロック、As-C、Hr-FA を含む。
ウ　焼土ブロック主体。焼けていない粘土ブロックを含む。
エ　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FA　含む。一部焼土化する。やや砂質。硬く締まっている。
オ　10YR4/4　褐色土　焼土粒、As-C、Hr-FA 含む。やや砂質。締まっている。
a　10YR2/3　黒褐色土　ローム斑５％。As-C、Hr-FA 少量含む。やや粘質。やや締まっている。41号住居覆土。
b　10YR2/2　黒褐色土　As-C、Hr-FA 含む。ブロックの集合。41号住居覆土。
c　10YR3/4　暗褐色土　As-C、Hr-FA 含む。やや砂質。締まっている。

第264図　40号住居東竈平面図　土層断面図　掘方平面図　土層断面図



41号住居竈　土層観察所見

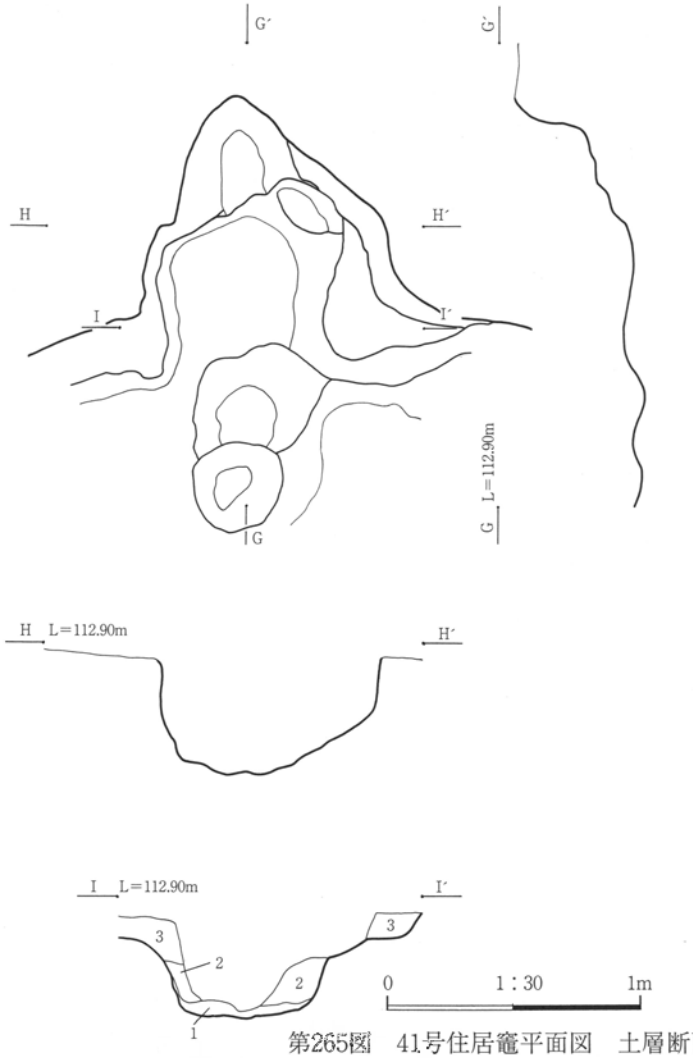
1　10YR3/4　暗褐色土　灰白色粘土、焼土ブロック多く含む。やや粘質。締まり弱い。　1′粘土を多く含む。粘性やや強く締まっている。1″粘土分少なく、焼土小ブロックが多い。やや締まっている。

2　10YR3/4　暗褐色土　焼土粒、焼土小ブロック多く含む。As-C、Hr-FA 含む。粘性弱い。やや締まっている。

3　10YR3/3　暗褐色土　灰白色粘土斑30%。As-C、Hr-FA、ロームブロック含む。やや粘質。やや締まっている。

4　10YR2/3　黒褐色土　汚れた灰白色粘土斑含む。As-C、Hr-FA 含む。焼土粒少量含む。粘性弱い。やや締まっている。

5　10YR3/2　黒褐色土　As-C、Hr-FA 含む。やや砂質。やや締まっている。



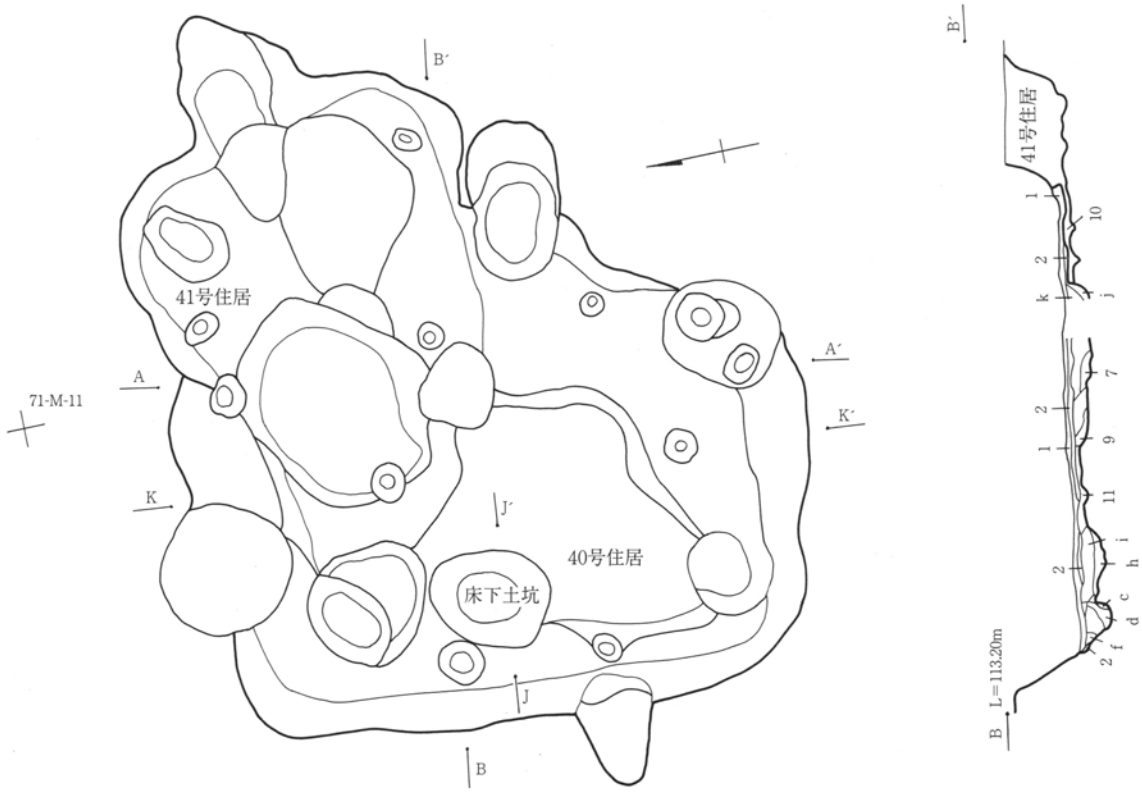
41号住居竈掘方　土層観察所見

1　10YR2/3　黒褐色土　炭化物、焼土粒多く含む。10YR5/3にぶい黄褐色粘土粒含む。やや粘質。締まり弱く乱れている。

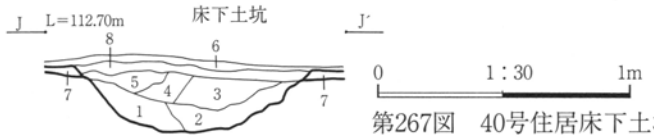
2　7.5YR3/4　暗褐色土　炭化物、焼土粒、10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック多く含む。やや粘質。やや締まっているが乱れている。

3　10YR2/3　黒褐色土　As-C、Hr-FA 多く含む。焼土粒含む。硬く締まっている。

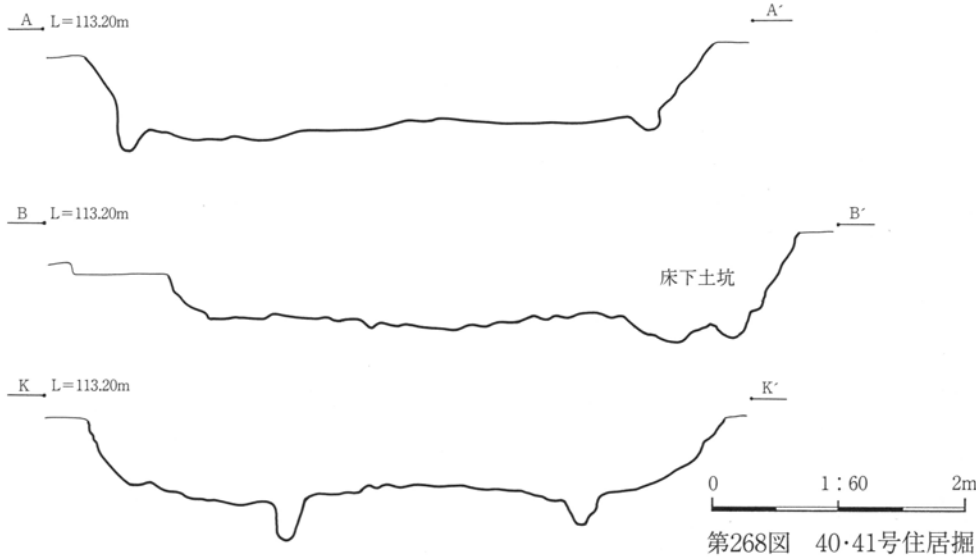
第265図　41号住居竈平面図　土層断面図　掘方平面図　土層断面図



第266図　40･41号住居掘方平面図　土層断面図



第267図　40号住居床下土坑土層断面図



第268図　40･41号住居掘方高低図